

茨城県教育財団文化財調査報告第283集

# 島名八幡前遺跡

都市計画道路島名上河原崎線道路整備  
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 19 年 3 月

茨城県土浦土木事務所  
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第283集

しま な はち まん まえ  
島名八幡前遺跡

都市計画道路島名上河原崎線道路整備  
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 19 年 3 月

茨城県土浦土木事務所  
財団法人 茨城県教育財団

## 序

茨城県は、世界的な科学研究の中心であるつくば市において、国際都市にふさわしい街づくりを推進しております。新しい街づくりの一環である「つくばエクスプレス」の新線開通は、つくば市と東京圏を直結させることによって人・物・情報の交流を盛んにし、地域活性化の大きな力になるものです。そこで、平成6年7月に茨城県、つくば市、地権者が三者協議で合意に達したのを受け、新線整備と沿線開発を一体的に行う土地区画整理事業が進められております。

その事業地内には多くの埋蔵文化財包蔵地が所在し、島名八幡前遺跡もその一つです。財団法人茨城県教育財団は茨城県から埋蔵文化財の発掘調査について委託を受け、平成13年4月から発掘調査を実施しました。その成果の一部は、既に当財団の文化財調査報告第201集として刊行しています。

本書は、平成15年度から平成18年度に調査を行った島名八幡前遺跡の調査成果を収録したもので、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県土浦土木事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、感謝申し上げます。

平成19年3月

財団法人 茨城県教育財団  
理事長 人 見 實 徳

# 例 言

1 本書は、茨城県土浦土木事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成15年度から18年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市島名字中西2762番ほかに所在する島名八幡前遺跡しまなほちまんまえの発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調 査 平成15年10月1日～平成15年11月30日，平成16年9月1日～平成16年10月31日  
平成16年12月1日～平成17年1月31日，平成17年9月1日～平成17年9月30日  
平成18年6月1日～平成18年6月30日

整 理 平成18年4月1日～平成19年3月31日

3 発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。

平成15年度

首席調査員兼班長 萩野谷 悟  
主任調査員 黒澤 秀雄  
副主任調査員 松本 直人

平成16年度

首席調査員兼班長 吉原 作平  
主任調査員 皆川 修  
主任調査員 奥沢 哲也 平成16年9月1日～平成16年9月30日  
主任調査員 寺内 久永 平成16年10月1日～平成16年10月31日  
主任調査員 大塚 雅昭 平成16年12月1日～平成17年1月31日

平成17年度

首席調査員兼班長 吉原 作平  
主任調査員 松本 直人  
調査員 菊池 直哉

平成18年度

首席調査員兼班長 川村 満博  
主任調査員 飯泉 達司  
主任調査員 齋藤 真弥

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理第二課長大森雅之のもと、調査員菊池直哉が担当した。

# 凡 例

1 地区設定は、日本平面直角座標系座標に準拠し、X軸 = +6,320m、Y = +20,240mの交点を基準点 (A 1 a1) とした。なお、抄録の北緯及び東経の欄には、世界測地系に基づく緯度・経度を ( ) を付して併記した。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用いた。北から南へはA、B、C……、A以北はZ、Y、X……とし、西から東へは1、2、3……、1以西は-1、-2、-3……として、「A 1区」、「Z・2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c……j、西から東へ1、2、3……0とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1」、「Z・2b2」のように呼称した。

2 遺構・遺物番号は、平成13年度調査からの継続である。

3 実測図・一覧表・遺物観察表で使用した記号は、次のとおりである。

遺構 S I - 住居跡 S B - 掘立柱建物跡 S K - 土坑 S D - 溝跡 S N - 粘土貼土坑

P G - ピット群 P - ピット K - 攪乱

遺物 P - 土器・陶磁器 TP - 拓本記録土器 DP - 土製品 Q - 石器・石製品 M - 金属製品 T - 瓦

N - 自然遺物


土層 K - 攪乱

4 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。


(1) 遺構全体図は300分の1、遺構は60分の1の縮尺での掲載を基本とした。


(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合があり、それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構及び遺物実測図中の表示は次のとおりである。

 焼土・施釉・赤彩

 炉・火床面

 竈部材・粘土・炭化材・黒色処理

 煤・柱あたり痕・ガラス質滓・油煙

土器

土製品

石器・石製品

金属製品

瓦

自然遺物

----- 硬化面

5 土層観察表と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

6 遺構一覧表・遺物観察表の記載方法は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は、法量をm、cm、重量をgで示した。なお、現存値は ( ) で、推定値は [ ] を付して示した。

(2) 備考の欄は、残存率や写真図版番号等、その他必要と思われる事項を記した。

7 「主軸」は、竪穴住居跡については炉または竈を通る軸線とし、他の遺構については長軸（径）を主軸とみなした。「主軸・長軸（径）方向」は、軸線が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した（例 N - 10° - E）。

# 抄 録

ふりがな	しまなはちまんまえいせき							
書名	島名八幡前遺跡							
副書名	都市計画道路島名上河原崎線道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第283集							
著者名	菊池 直哉							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310 - 0911 茨城県水戸市見和 1 丁目356番地の2 TEL 029 - 225 - 6587							
発行日	2007 (平成19) 年3月23日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地							
しまなはちまんまえいせき 島名八幡前遺跡	いばらきけん 茨城県つくば市島名 あぎなかにし 字中西2762番地ほか	08220 - 388	36度 03分 24秒 〔 36度 03分 35秒〕	140度 03分 27秒 〔 140度 03分 15秒〕	22m ~ 24m	20031001 ~ 20031130 20040901 ~ 20041031 20041201 ~ 20050131 20050901 ~ 20050930 20060601 ~ 20060630	2,716㎡  2,843㎡  1,789㎡  572㎡  1,373㎡	都市計画 道路島名 上河原崎 線道路整 備事業に 伴う事前 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
島名八幡前遺跡	集落跡	古墳	竪穴住居跡	15軒	土師器 須恵器			
		奈良・平安	竪穴住居跡	37軒	土師器 須恵器 陶器 鉄製品 (刀子・鎌・釘) 銅製品 (丸鞆・鏡) 椀状滓 粒状滓 鍛造剥片			
			掘立柱建物跡	14棟				
			鍛冶工房跡	2基				
	中世・近世	大形竪穴状遺構	1基	陶磁器 鉄製品 (刀子・釘) 銅製品 (煙管)				
溝跡		1条						
土坑		6基						
墓域	近世	掘立柱建物跡	13棟	陶磁器 鉄製品 (刀子・釘) 銅製品 (煙管)				
その他	縄文	溝跡	5条					
		井戸跡	2基					
時期不明	縄文	土坑	2基	陶磁器 鉄製品 銅製品(煙管)				
		ビット群	1か所					
要約	古墳時代中期から平安時代にかけての複合遺跡である。中央部から東部を中心に、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶工房跡などの集落跡が確認された。近世には掘立柱建物跡とともに、墓坑と考えられる粘土貼土坑が多く確認された。							

# 目 次

序	
例言	
凡例	
抄録	
目次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	7
第1節 遺跡の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	9
1 縄文時代の遺構と遺物	9
陥し穴	9
2 古墳時代の遺構と遺物	10
竪穴住居跡	10
3 奈良・平安時代の遺構と遺物	49
(1) 竪穴住居跡	49
(2) 掘立柱建物跡	142
(3) 鍛冶工房跡	160
(4) 大形竪穴状遺構	170
(5) 溝跡	174
(6) 土坑	176
4 中世・近世の遺構と遺物	180
(1) 掘立柱建物跡	180
(2) 溝跡	199
(3) 井戸跡	204
(4) 土坑	206
(5) 粘土貼土坑	207
(6) ピット群	216
5 その他の遺構と遺物	219
(1) 掘立柱建物跡	220
(2) 溝跡	221
(3) 井戸跡	222
(4) その他の土坑	224
(5) ピット群	235
(6) 遺構外出土遺物	251
第4節 まとめ	255
写真図版	

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

平成14年12月16日，平成15年4月14日，茨城県土浦土木事務所長は，茨城県教育委員会教育長に対して都市計画道路島名上河原崎線道路整備事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及び取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は，平成15年6月16日，11月17日，平成16年7月20日に現地踏査及び試掘調査を実施し，遺跡の所在を確認した。平成15年6月25日，11月26日，平成18年3月20日，茨城県教育委員会教育長は，茨城県土浦土木事務所長あてに，事業地内に島名八幡前遺跡が所在する旨を回答した。

平成15年7月9日，茨城県土浦土木事務所長は，茨城県教育委員会教育長に対して，文化財保護法第57条の3第1項（現94条）の規定に基づき，土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘調査について通知した。茨城県教育委員会教育長は，現状保存が困難であることから，記録保存のための発掘調査が必要であると判断し，平成15年7月11日，茨城県土浦土木事務所長あてに，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成15年7月17日，平成16年1月4日，平成17年1月14日，平成18年4月13日，茨城県土浦土木事務所長は，茨城県教育委員会教育長に対して，都市計画道路島名上河原崎線道路整備事業に係わる埋蔵文化財の調査について協議した。平成15年7月22日，平成16年1月23日，平成17年1月24日，平成18年4月26日，茨城県教育委員会教育長は，茨城県土浦土木事務所長あてに，島名八幡前遺跡について，発掘調査の範囲及び面積等について回答し，併せて埋蔵文化財の調査機関として，財団法人茨城県教育財団を紹介した。

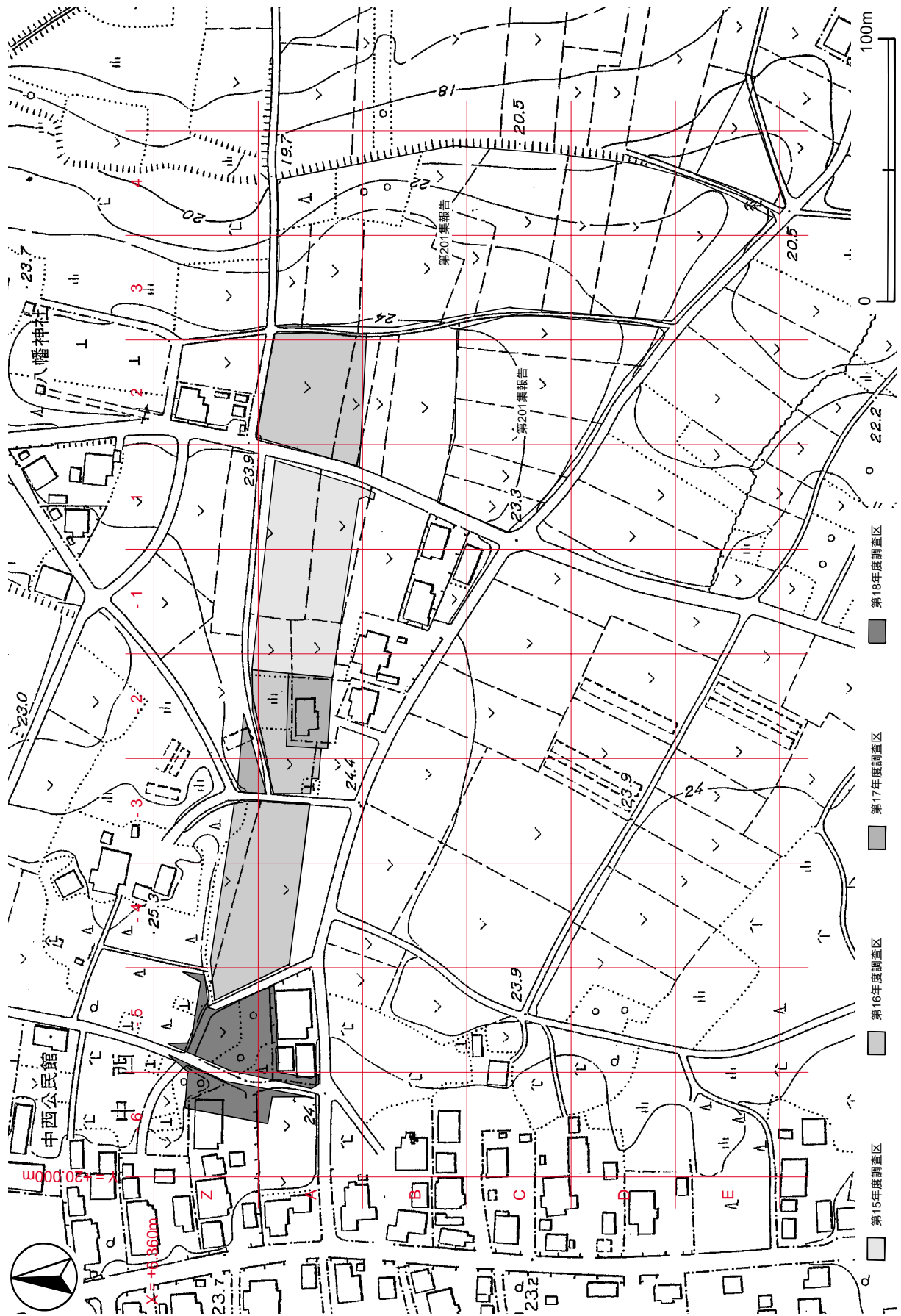
財団法人茨城県教育財団は，茨城県土浦土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成15年10月1日から11月30日まで，平成16年9月1日から10月31日まで，平成16年12月1日から平成17年1月31日まで，平成17年9月1日から9月30日まで，平成18年6月1日から6月30日まで島名八幡前遺跡の発掘調査を実施することとなった。

## 第2節 調査経過

島名八幡前遺跡の調査経過については，その概要を表で記載する。

期間 工程	平成15年		平成16年			平成17年		平成18年
	10月	11月	9月	10月	12月	1月	9月	6月
調査準備 表土除去 遺構確認	■		■	■	■	■	■	■
遺構調査	■		■		■		■	■
遺物洗浄 注記作業 写真整理	■		■		■		■	■
補足調査		■		■		■	■	■
撤収								





第1図 島名八幡前遺跡調査区設定図

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

島名八幡前遺跡は、茨城県つくば市島名字中西2762番地ほかに所在している。

つくば市は、筑波山を北端に、南西側に広がる標高約20～25mの平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ、東を霞ヶ浦に流入する桜川、西を利根川に合流する小貝川の二つの河川によって区切られている。それぞれの河川によって大きく開析された流域には、標高約5mの沖積地が発達している。両河川の間には、東から花室川、蓮沼川、小野川、東谷田川、西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れ、台地は浅く開析され、谷津や低地が細長く入り組んでいる。

筑波・稲敷台地は、貝化石を産する海成の砂層である成田層を基盤として、その上に竜ヶ崎層と呼ばれる斜交層理の顕著な砂層・砂礫層、さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層(0.3～5.0m)、褐色の関東ローム層(0.5～2.0m)が連続して堆積し、最上部は腐食土層になっている<sup>1)</sup>。

島名地区は、つくば市南西部(旧谷田部町域)の東谷田川と西谷田川に挟まれて南北に延びる標高22～25mの台地上に立地している。当遺跡は島名地区のほぼ中央部にあたり、遺跡の周辺は、主要地方道つくば真岡線付近を最高地点として東側に東西幅約30mのほぼ平坦な台地が広がり、東端で東谷田川沿いの沖積低地へと続いている。この平坦な台地から縁辺部にかけて当遺跡は立地しており、北東部に立地する島名熊の山遺跡とは東谷田川支流の小谷津を境にして区切られている。現在、この台地上は主に畑地として、東谷田川と西谷田川に沿った沖積低地は豊かな水田地帯として利用されている。

### 第2節 歴史的環境

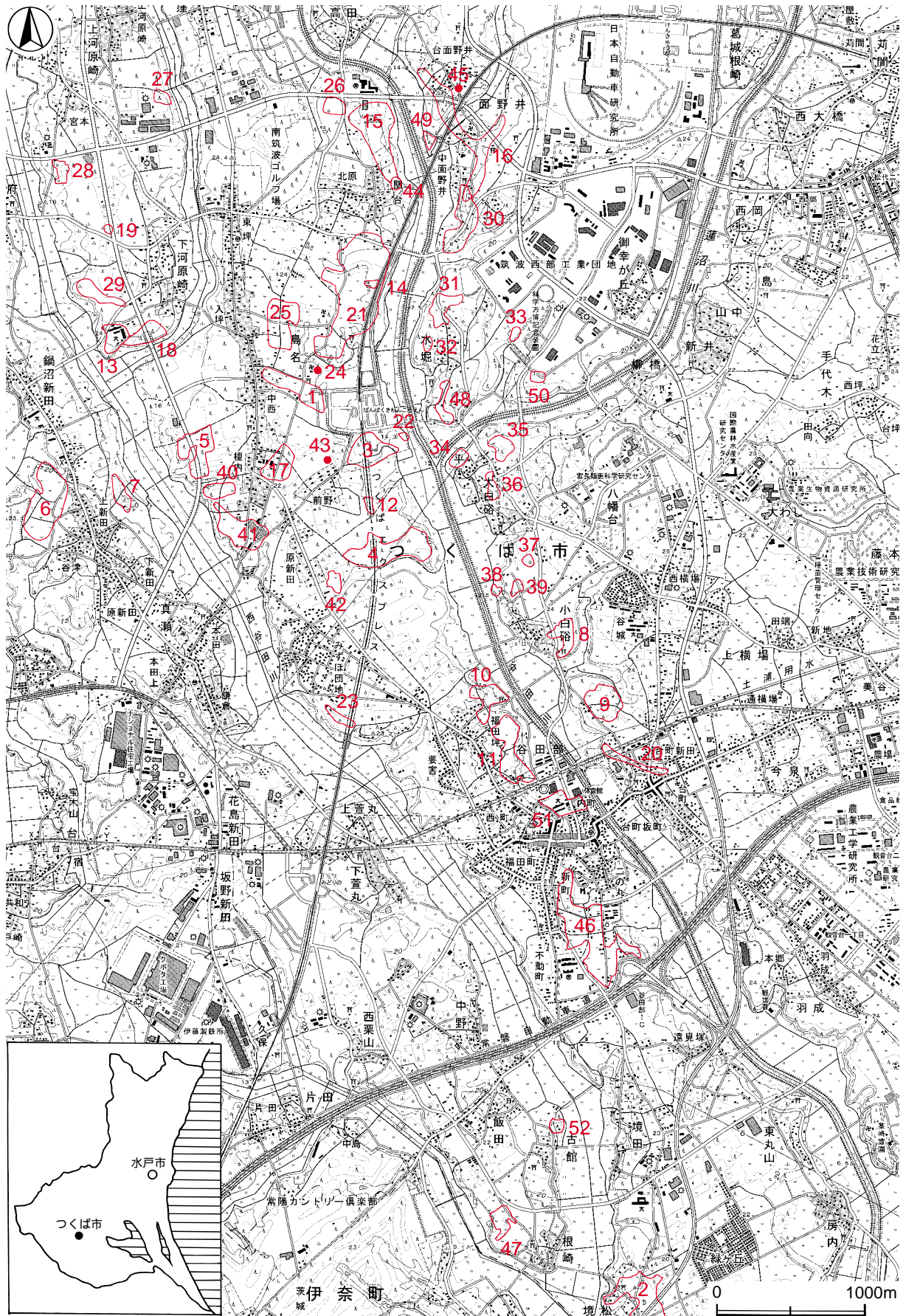
当遺跡周辺の台地上には、旧石器時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。ここでは、東谷田川流域に関連する遺跡を中心に分布の概要を述べる。

旧石器時代の遺構は、<sup>もとみやもとまえやま</sup>元宮本前山遺跡<sup>2)</sup> 28、<sup>しまなまへのひがし</sup>島名前野東遺跡<sup>3)</sup> 3、<sup>しまなさかいまつ</sup>島名境松遺跡<sup>4)</sup> 4、<sup>しまな</sup>島名ツバタ遺跡<sup>5)</sup> 5、<sup>しまなまくまやま</sup>島名熊の山遺跡<sup>6)</sup> 21、などから、ナイフ形石器や尖頭器などが出土している。

縄文時代には、小貝川や東谷田川、西谷田川に面した台地の縁辺部に集落が形成されるようになる。西谷田川左岸の台地上に立地している<sup>さかまつかいづか</sup>境松貝塚<sup>7)</sup> 2は、谷田部地区の代表的な貝塚であり、中期から後期の土器や石器が出土している。島名八幡前遺跡の周辺では、島名前野東遺跡、島名境松遺跡、島名ツバタ遺跡において中期の遺構が確認されている。

弥生時代の遺跡は少なく、谷田部地区では、<sup>しまないちちようだ</sup>境松貝塚や島名一町田遺跡<sup>8)</sup> 12、北側に隣接する島名熊の山遺跡で後期の遺物が出土したにすぎない。島名熊の山遺跡から出土した土器片には靱痕が認められ、稲作を考える上で興味深い。

古墳時代になると、島名地区を中心に遺跡数の増加が顕著になる。昭和34年当時の谷田部地区には、島名熊の山古墳群<sup>しまなせきのだい</sup> 14、島名関ノ台古墳群<sup>おものい</sup> 15、面野井古墳群<sup>しまなえのきうち</sup> 16、島名榎内古墳群<sup>しもかわらざき</sup> 17、下河原崎古墳群



第2図 鳥名八幡前遺跡周辺遺跡位置図(国土地理院25万分の1「谷田部」)

表1 島名八幡前遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世
1	島名八幡前遺跡							27	元中北東藤四郎遺跡							
2	境松貝塚							28	元宮本前山遺跡							
3	島名前野東遺跡							29	下河原崎谷中台遺跡							
4	島名境松遺跡							30	面野井南遺跡							
5	島名ツバタ遺跡							31	水堀下道遺跡							
6	真瀬山田遺跡							32	水堀屋敷添遺跡							
7	真瀬堀附南遺跡							33	水堀遺跡							
8	小白碓海道端遺跡							34	平後遺跡							
9	谷田部台成井遺跡							35	平北田遺跡							
10	谷田部福田遺跡							36	大白碓西ノ裏遺跡							
11	谷田部福田前遺跡							37	大白碓民部山遺跡							
12	島名一町田遺跡							38	小白碓水表遺跡							
13	下河原崎高山遺跡							39	小白碓民部山遺跡							
14	島名熊の山古墳群							40	島名榎内遺跡							
15	島名関ノ台古墳群							41	島名榎内南遺跡							
16	面野井古墳群							42	島名タカド口遺跡							
17	島名榎内古墳群							43	島名前野古墳							
18	下河原崎高山古墳群							44	島名関ノ台南B遺跡							
19	下河原崎古墳群							45	面野井北ノ前遺跡							
20	谷田部台町古墳群							46	谷田部櫓下遺跡							
21	島名熊の山遺跡							47	根崎遺跡							
22	島名前野遺跡							48	水堀道後前遺跡							
23	谷田部漆遺跡							49	面野井城跡							
24	島名薬師遺跡							50	大和田氏屋敷跡							
25	島名本田遺跡							51	谷田部城跡							
26	島名関の台遺跡							52	古館跡							

19 など古墳群11か所、古墳約300基が確認されている<sup>9)</sup>。それらのほとんどは径10mほどの小さな円墳で、地域的な群集墳のあり方を示している。

当遺跡周辺の集落跡には、当財団の調査により、古墳時代を通して生活が営まれた島名熊の山遺跡、島名前の野遺跡<sup>10)</sup> 22、島名前野東遺跡が確認されている。また谷田部漆遺跡<sup>11)</sup> 23からは中期、島名境松遺跡からは後期の集落跡が確認されている。島名八幡前遺跡も、平成13年度の調査で、後期には集落が形成されていたことが確認されている<sup>12)</sup>。遺跡の分布を見ると、年代の経過とともに集落が徐々に台地の縁辺部から内陸部へと移動していく様子がうかがえる。島名地区には、古墳時代を中心とする集落が多いのも特徴である。

奈良時代になると、島名地区は急速に集落の再編が進むことが近年の発掘調査によって明らかにされている。その背景には、律令国家の成立と地方の国郡制の整備があったことがあげられ、当地区は河内郡嶋名郷に編入されることとなる。島名八幡前遺跡では、大形の竪穴住居跡と掘立柱建物跡が近接して確認されており、集落の中心として注目されている。この様相は、谷津を隔てた島名熊の山遺跡と類似しており、二つの集落の強い結びつきをうかがわせる。また、当地区でこの2遺跡以外に該期の集落が認められるのは、島名前野遺跡と島名前野東遺跡のみであり、島名熊の山遺跡とその周辺に集落が集中するという特徴が見られる。

平安時代には遺跡数がさらに減少する。集落として明確に捉えられているのは島名八幡前遺跡と島名熊の山遺跡だけである。この2遺跡は鍛冶生産や紡績などの手工業と積極的に関わっており、このことは10世紀への集落の継続性を考えたとき、極めて示唆的である。島名八幡前遺跡では10世紀代の遺構は確認されておらず、集落として終焉を迎えたと考えられる。一方で、島名熊の山遺跡はそれ以降も存続し、11世紀まで集落が営まれていた。また、島名熊の山遺跡では、墓坑や井戸から平安時代末期と考えられる和鏡や小銅仏が出土し、有力者層の存在をうかがわせる。

中世に入ると、島名八幡前遺跡の東部では13世紀末から14世紀頃の墓坑が多く確認されている。島名前野東遺跡では、ほぼ同じ時期の1町四方の堀に囲まれた方形居館が確認されており、この居館内に居住する在地の有力者が島名地区一帯を治めていたものと思われる。島名熊の山遺跡では、同じく13世紀末頃に遺跡の西側に妙徳寺が開山され、寺域周辺が墓域として利用されていった。

#### 註

- 1) 日本の地質「関東地方」編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年1月
- 2) 高野裕豊「元宮本前山遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第265集 2006年3月
- 3) 飯泉達司「島名前野東遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書9」『茨城県教育財団文化財調査報告』第215集 2004年3月
- 4) 寺門千勝・田原康司・梅澤貴司「島名前野東遺跡 島名境松遺跡 谷田部漆遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
- 5) 皆川修「島名ツバタ遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第203集 2003年3月
- 6) 田中幸夫・酒井雄一・田月淳一・松本直人・桑村裕「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第264集 2005年3月
- 7) 註4) 文献に同じ
- 8) 鹿島直樹「島名一町田遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業及び常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第230集 2004年3月
- 9) 谷田部町文化財保存会「古墳総覧」『谷田部町文化財報告』谷田部町教育委員会 1960年
- 10) 稲田義弘「島名前野遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集 2001年3月
- 11) 註4) 文献に同じ
- 12) 吹野富美夫・青木仁昌「島名八幡前遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第201集 2003年3月

## 第3章 調査の成果

### 第1節 遺跡の概要

島名八幡前遺跡は、つくば市西部を南流する東谷田川右岸の標高22～24mの台地上に立地している。

今回の調査では、奈良・平安時代を中心とした、古墳時代から近世にかけての複合遺跡であることが確認できた。

平成15年度の調査では、調査区の中央部2,716㎡を調査し、古墳時代の竪穴住居跡4軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡20軒、掘立柱建物跡9棟、鍛冶工房跡2基、中世・近世の掘立柱建物跡4棟などを確認した。平成16年度の調査では、調査区の西部と東部の4,632㎡を調査し、古墳時代の竪穴住居跡6軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡5棟、溝跡1条、中世・近世の掘立柱建物跡9棟、溝跡5条、井戸跡2基、土坑2基、粘土貼土坑12基などを確認した。平成17年度の調査では調査区の中央部やや南寄りの572㎡を調査し、奈良・平安時代の竪穴住居跡4軒などを確認した。平成18年度の調査では、調査区の西部1,373㎡を調査し、古墳時代の竪穴住居跡5軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡1軒などを確認した。

古墳時代中期の集落跡は遺跡の西部で確認されている。古墳時代後期から奈良・平安時代の集落跡は、中央部から東部にかけて竪穴住居跡と掘立柱建物跡が集中している。平成13年度の調査で確認された集落の範囲に近接しており、一連の集落であったと考えられる。近世の粘土貼土坑は西側に集中しており、大部分が墓坑であるとされる。

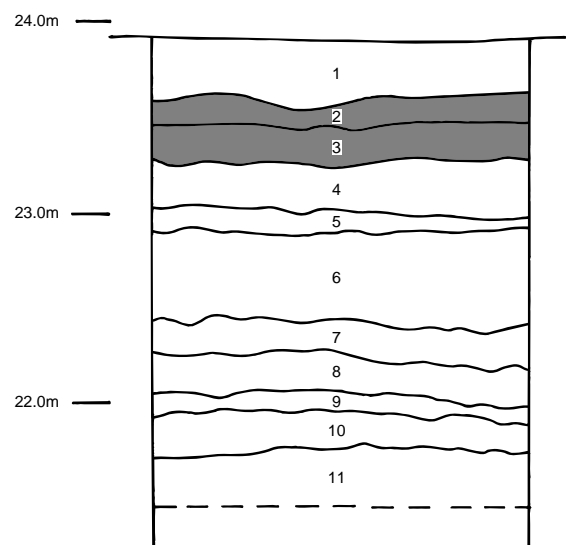
遺物は、遺物コンテナ(60×40×20cm)に35箱出土している。主な遺物は、土師器(坏・高台付坏・高坏・甕・甑)、須恵器(坏・高台付坏・蓋・長頸瓶・鉢・甕・甑)、土師質土器(小皿・鍋類)、陶器、磁器、土製品(支脚・羽口)、石製品(勾玉・砥石)、鉄製品(刀子・鎌・釘)、銅製品(鏡・煙管)、鉄滓などである。

### 第2節 基本層序

テストピットは調査区中央部のA・1b0区に設定した。地表面の標高は23.9mで、地表面から深さ2.4mまで掘削した。基本土層図を第3図に示した。

土層は、色調・構成粒子・含有物・粘性などから11層に細分される。これらは、大きく表土・関東ローム層・常総粘土層に分類され、第1層が表土(耕作土)、第2～4層が立川ローム層、第5～9層が武蔵野ローム層、第10・11層が常総粘土層に相当する。

第1層は、極暗褐色を呈する腐食土層で、ロームブロックを少量含んでいる。粘性・締まりは弱



第3図 基本土層図

く、層厚は30～38cmである。AT層より上部は、この第1層と考えられる。

第2層は、褐色を呈するローム層で、層厚は10～15cmである。第2黒色帯の上部に相当する。

第3層は、暗褐色を呈するローム層で、層厚は20～35cmである。第2黒色帯の下部に相当する。

第4層は、にぶい褐色を呈するローム層で、粘性・締まりが強い。層厚は23～34cmである。

第5層は、黄褐色を呈するローム層で、粘性・締まりが強い。層厚は4～12cmである。

第6層は、黄褐色を呈するローム層で、粘性・締まりが極めて強い。層厚は45～52cmである。

第7層は、明褐色を呈するローム層で、粘性・締まりが強い。層厚は15～24cmである。

第8層は、明褐色を呈するローム層で、粘性・締まりが極めて強い。層厚は15～22cmである。

第9層は、明褐色を呈するローム層から粘土層への漸移層で、粘性・締まりが極めて強い。層厚は5～12cmである。

第10層は、にぶい黄褐色を呈する粘土層で、粘性・締まりが極めて強い。層厚は12～20cmである。

第11層は、明黄褐色を呈する粘土層で、黄橙色の砂粒を微量に含んでいる。粘性・締まりが極めて強い。下層は未掘のため、本来の層厚は不明である。

遺構の多くは第4層上面で確認された。

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の陥し穴2基を確認した。これらの陥し穴は、離れて位置し、主軸方向にも規則性がないことから、互いの関連性は低いと考えられる。以下、遺構と遺物について記述する。

#### 第1号陥し穴 (第4図)

**位置** 調査区中央部のA・1g8区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

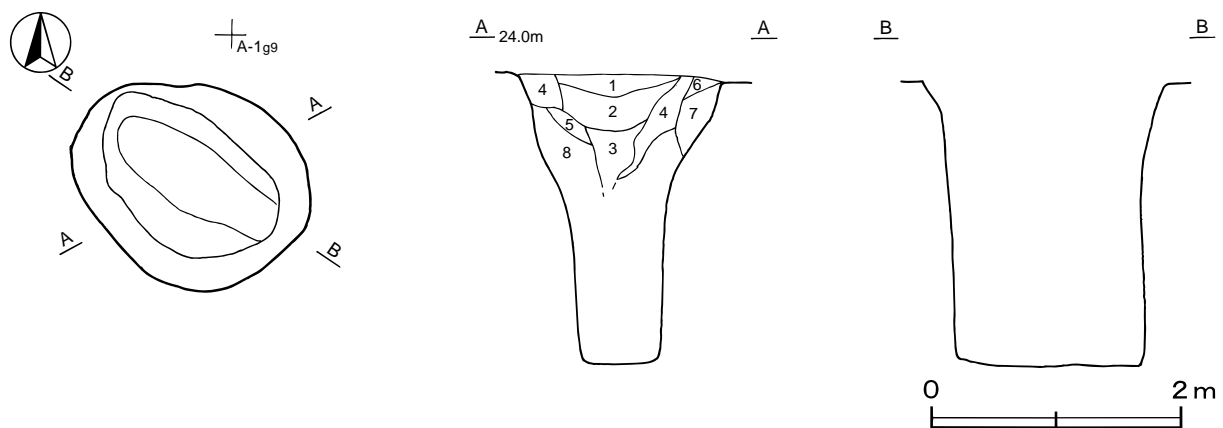
**規模と形状** 長径0.96m、短径0.78mの不整楕円形で、長径方向はN - 57° - Wである。深さは113cmで、壁は直立しており、短径方向の上部は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 8層に分層される。各層にロームブロックが含まれているが、周囲から土砂の流れ込んだレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

**土層解説**

1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	5 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック中量,炭化粒子少量	6 褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	7 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック中量	8 褐色	ロームブロック多量

**所見** 時期は、出土土器がないため不明であるが、遺構の形状から縄文時代と考えられる。



第4図 第1号陥し穴実測図

#### 第2号陥し穴 (第5図)

**位置** 調査区中央部のA・2a9区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長径1.23m、短径0.97mの楕円形で、長径方向はN - 23° - Wである。深さは118cmで、壁は直立しており、上部は外傾して立ち上がっている。

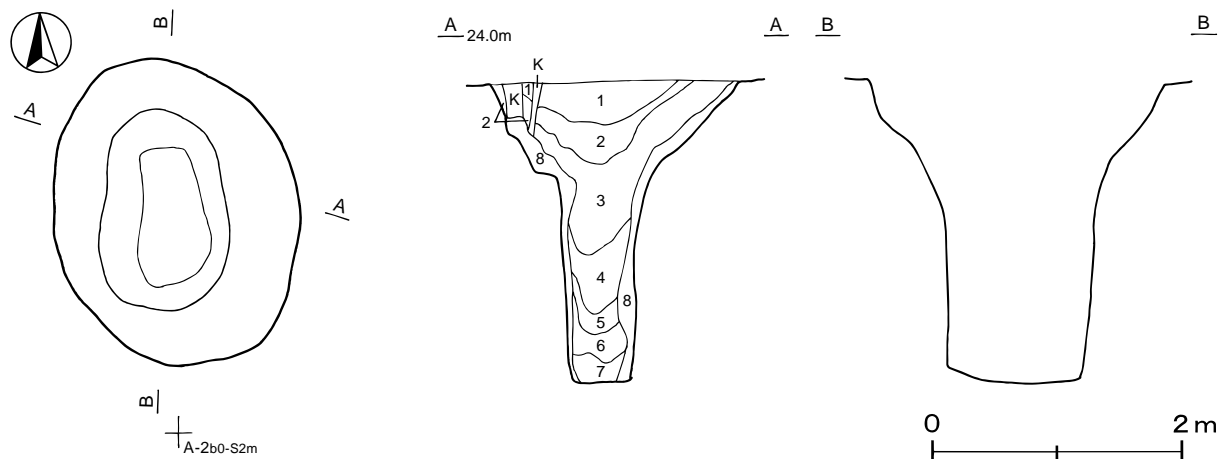
**覆土** 8層に分層される。各層にロームブロックが含まれているが、周囲から土砂の流れ込んだレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

**土層解説**

1 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	5 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック中量,炭化粒子少量	6 褐色	ロームブロック中量
3 褐色	ロームブロック中量,炭化粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック少量,炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック中量,炭化粒子微量	8 褐色	ローム粒子多量

**所見** 時期は、出土土器がないため不明であるが、遺構の形状から縄文時代と考えられる。





第5図 第2号陥し穴実測図

表2 縄文時代陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸) × 短径(軸)(m)	深さ (cm)					
1	A・1g8	N・57°・W	不整楕円形	0.96 × 0.78	113	垂直	平坦	自然		縄文時代
2	A・2a9	N・23°・W	楕円形	1.23 × 0.97	118	外傾 垂直	平坦	自然		縄文時代

## 2 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の竪穴住居跡15軒を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

### 第107A号住居跡 (第6・7図)

**位置** 調査区中央部のA・1g5区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第107B号住居跡を掘り込み、第32号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸5.55m、短軸5.28mの方形で、主軸方向はN・16°・Wである。壁高は2～10cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で、中央部付近の一部が硬化している。壁溝が全周している。

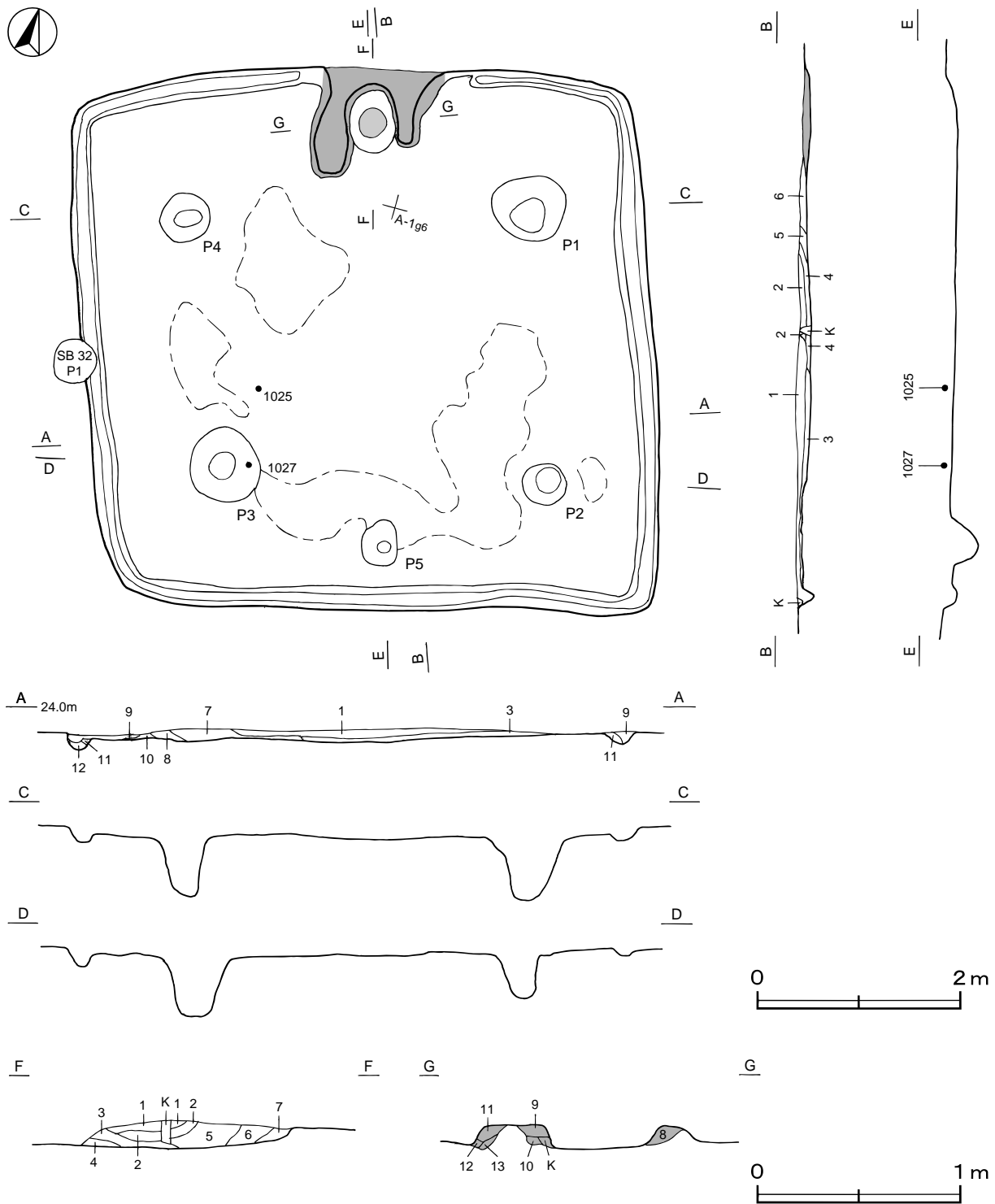
**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで82cm、袖部幅115cmである。袖部は、掘り残した地山を基部として、その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。

#### 竈土層解説

- |                                  |                                      |
|----------------------------------|--------------------------------------|
| 1 褐灰色 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化物少量   | 9 暗赤褐色 砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子少量            |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 10 暗赤褐色 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量             |
| 3 極暗赤褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量  | 11 灰褐色 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子中量            |
| 4 暗赤褐色 焼土粒子多量                    | 12 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量, 砂質粘土ブロック少量   |
| 5 暗赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量          | 13 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 6 暗赤褐色 焼土ブロック中量                  |                                      |
| 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量               |                                      |
| 8 灰褐色 砂質粘土ブロック多量, ローム粒子・焼土粒子少量   |                                      |

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ49～61cmで、規模と形状から支柱穴と考えられる。P5は深さ31cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 12層に分層される。堆積状況は、層厚が薄いため不明である。



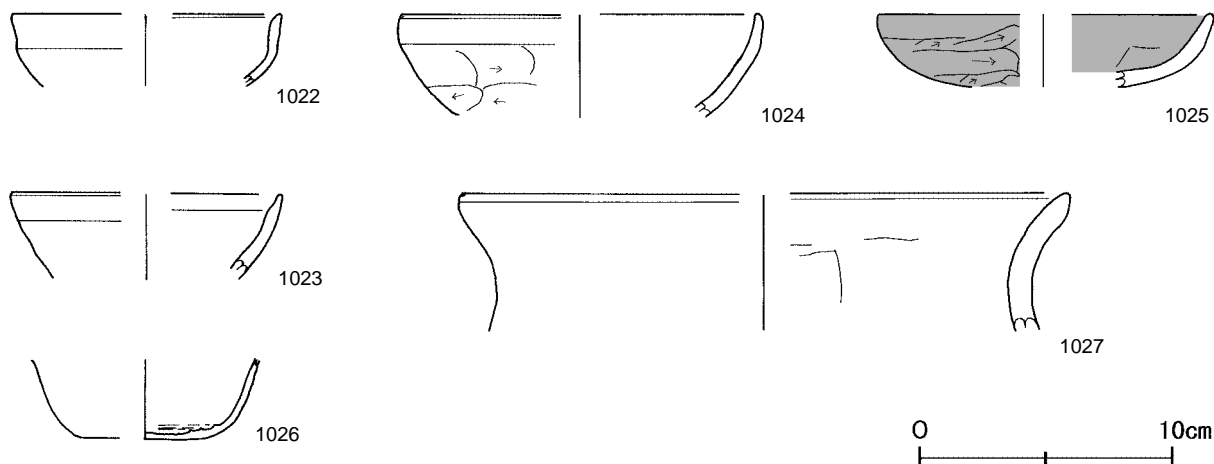
第6図 第107A号住居跡実測図

土層解説

- |       |                                 |           |                               |
|-------|---------------------------------|-----------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量    | 7 褐灰色     | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色     | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量        |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量           | 9 黒褐色     | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  |
| 4 黒褐色 | 炭化粘土少量, ロームブロック・砂質粘土ブロック微量      | 10 にぶい黄褐色 | ローム粒子多量                       |
| 5 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 11 黒褐色    | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量          |
| 6 褐灰色 | 砂質粘土粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 暗褐色    | ロームブロック少量                     |

**遺物出土状況** 土師器片62点 (坏12, 甕50), 須恵器片7点 (坏4, 壺類3), 鉄滓1点が出土している。口縁部や体部等から推測される土器の個体数は土師器坏6点, 甕2点, 須恵器坏1点である。細片が全域から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第7図 第107A号住居跡出土遺物実測図

第107A号住居跡出土遺物観察表 (第7図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1022	土師器	坏	[10.6]	(2.8)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	覆土中	5%
1023	土師器	坏	[10.6]	(3.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ナデ	覆土中	5%
1024	土師器	坏	[14.2]	(4.1)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り内面ナデ	覆土中	5%
1025	土師器	坏	[13.2]	(2.8)	-	雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り内面ナデ	覆土中層	5%
1026	須恵器	坏	-	(3.2)	[5.1]	長石・石英・黒色粒子	暗黄灰	普通	内部内・外面クロコナデ 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土中	10%
1027	土師器	甕	[24.0]	(5.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 頸部内・外面ヘラナデ	覆土中層	5%

### 第107B号住居跡 (第8図)

**位置** 調査区中央部のA・1g5区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第107A号住居に掘り込まれている。

**確認状況** 第107A号住居跡の床下から確認されており, 壁溝と竈の配置から規模と形状を推定した。

**規模と形状** 長軸4.31m, 短軸3.87mの長方形と推測され, 主軸方向はN - 17° - Wである。

**床** 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝が北壁を除いて周回している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。火床部の規模は奥行き81cm, 幅71cmで, 袖部・煙道部は残存していない。

火床部は床面を5cmほど掘り込んで使用しており, 火床面は赤変硬化している。

#### 竈土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子多量, 砂質粘土ブロック少量
- 2 極暗赤褐色 焼土粒子中量, 砂質粘土ブロック少量

- 3 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量

**ピット** 5か所。P1 ~ P4は深さ28~51cmで, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ14cmで, 南壁際に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 2層に分層される。堆積状況は、層厚が薄いため不明である。

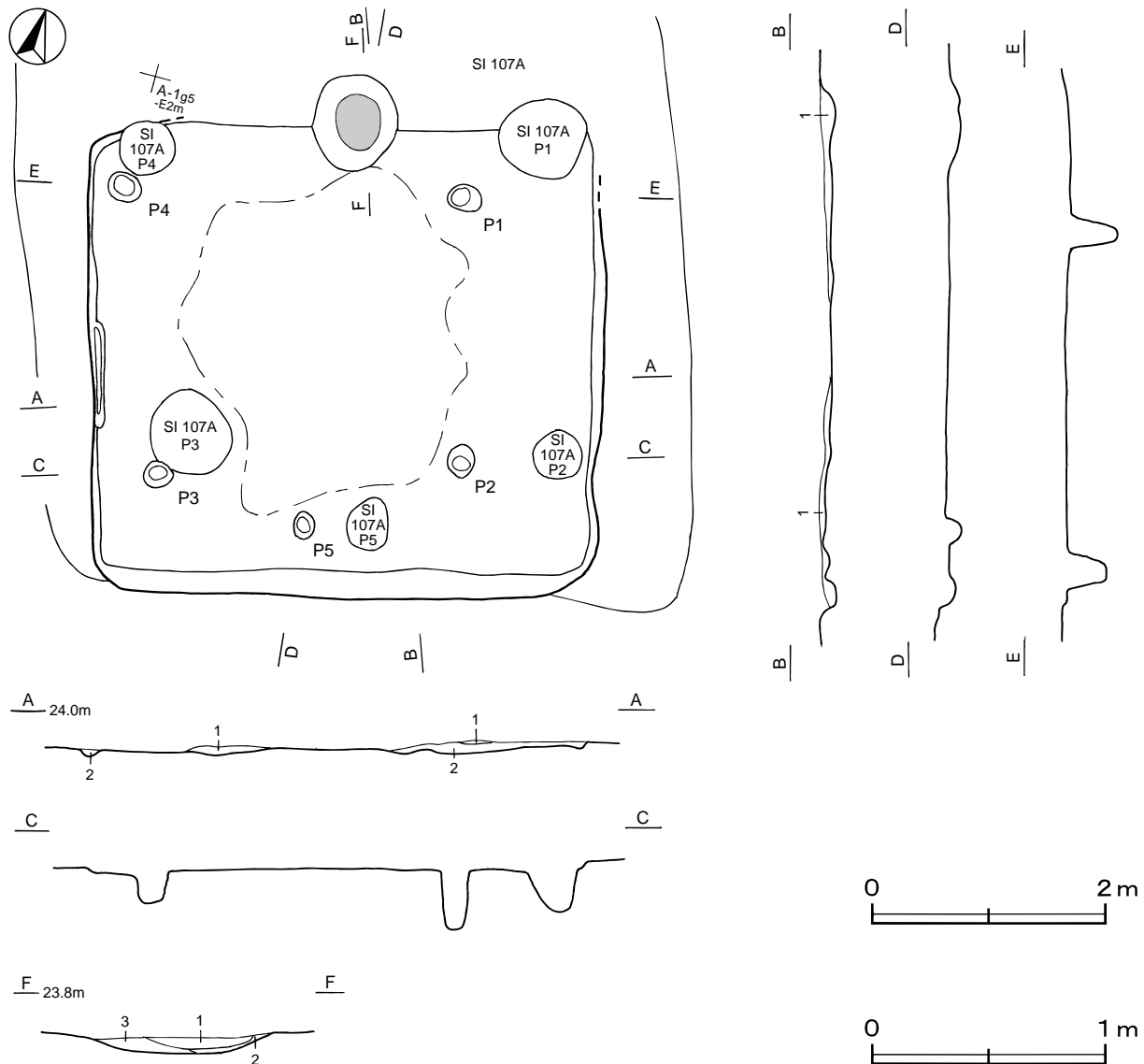
土層解説

1 褐色 ロームブロック多量

2 褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片4点(甕), 須恵器片1点(坏)が出土している。いずれも細片で図示できない。

**所見** 第117A号住居跡の床下から確認されており, 主軸方向がほぼ一致することから, 本住居を拡張して第117A号住居に建て替えたと考えられる。時期は, 重複関係から7世紀中葉以前と考えられる。



第8図 第107B号住居跡実測図

### 第114A号住居跡 (第9~11図)

**位置** 調査区中央部のA・1g9区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第114B号住居跡を掘り込み, 第118号住居に掘り込まれている。

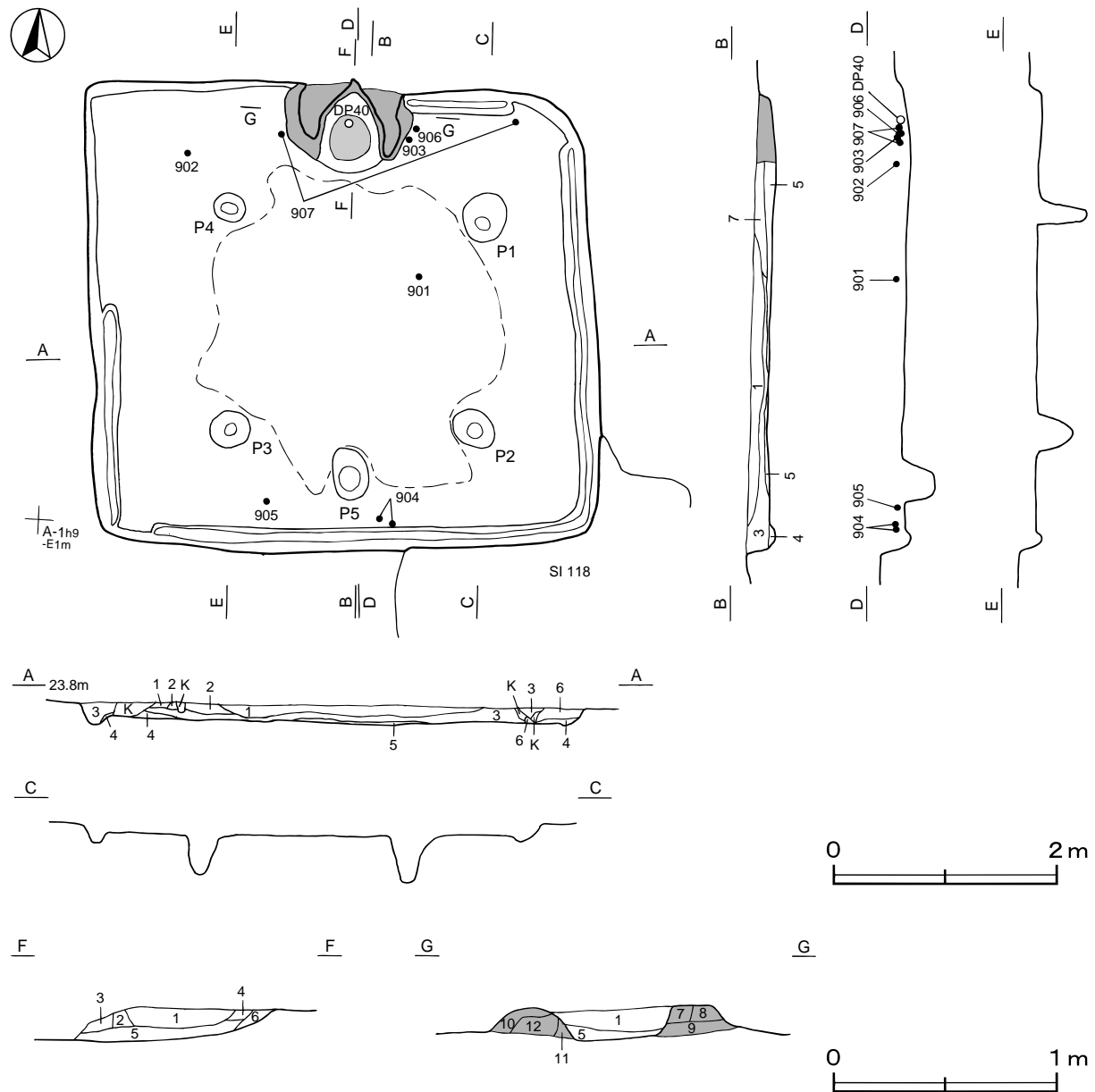
**規模と形状** 長軸4.50m, 短軸4.10mの方形で, 主軸方向はN - 3° - Wである。壁高は13~22cmで, 直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。中央部は、第114B号住居跡の床面上にローム土を主体とする褐色土で構築した貼床である。壁溝は、北西コーナー部付近を除き、周回している。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cm、袖部幅116cmである。袖部は、床面とほぼ同じ高さの地山の上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は、床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を12cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- |                                 |                              |
|---------------------------------|------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量        | 8 灰褐色 炭化材・砂質粘土ブロック中量         |
| 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量               | 9 褐灰色 砂質粘土ブロック多量             |
| 3 黒褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量           | 10 灰褐色 砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量     |
| 4 暗赤褐色 炭化材中量、焼土ブロック少量           | 11 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量    |
| 5 黒赤褐色 焼土ブロック中量                 | 12 黒褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 6 灰褐色 砂質粘土ブロック多量、焼土粒子少量         |                              |
| 7 暗赤色 砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子少量 |                              |



第9図 第114A号住居跡実測図

**ピット** 5か所。P 1 ~ P 4は深さ32~45cmで、規模や配置から支柱穴と考えられる。P 5は深さ28cmで、南壁際の中央に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

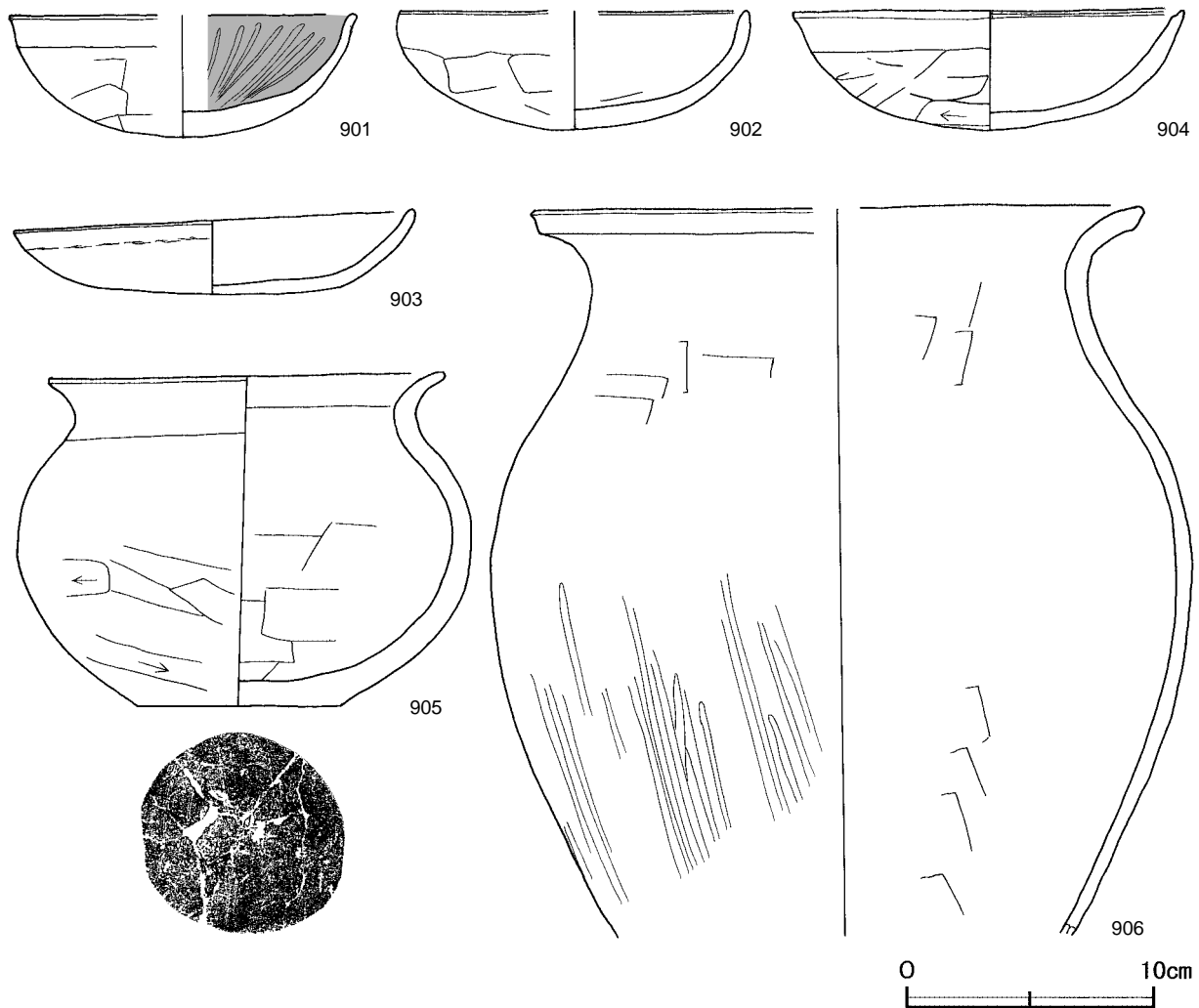
**覆土** 7層に分層される。周囲から土砂の流入したレンズ状の堆積状況を示しており、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

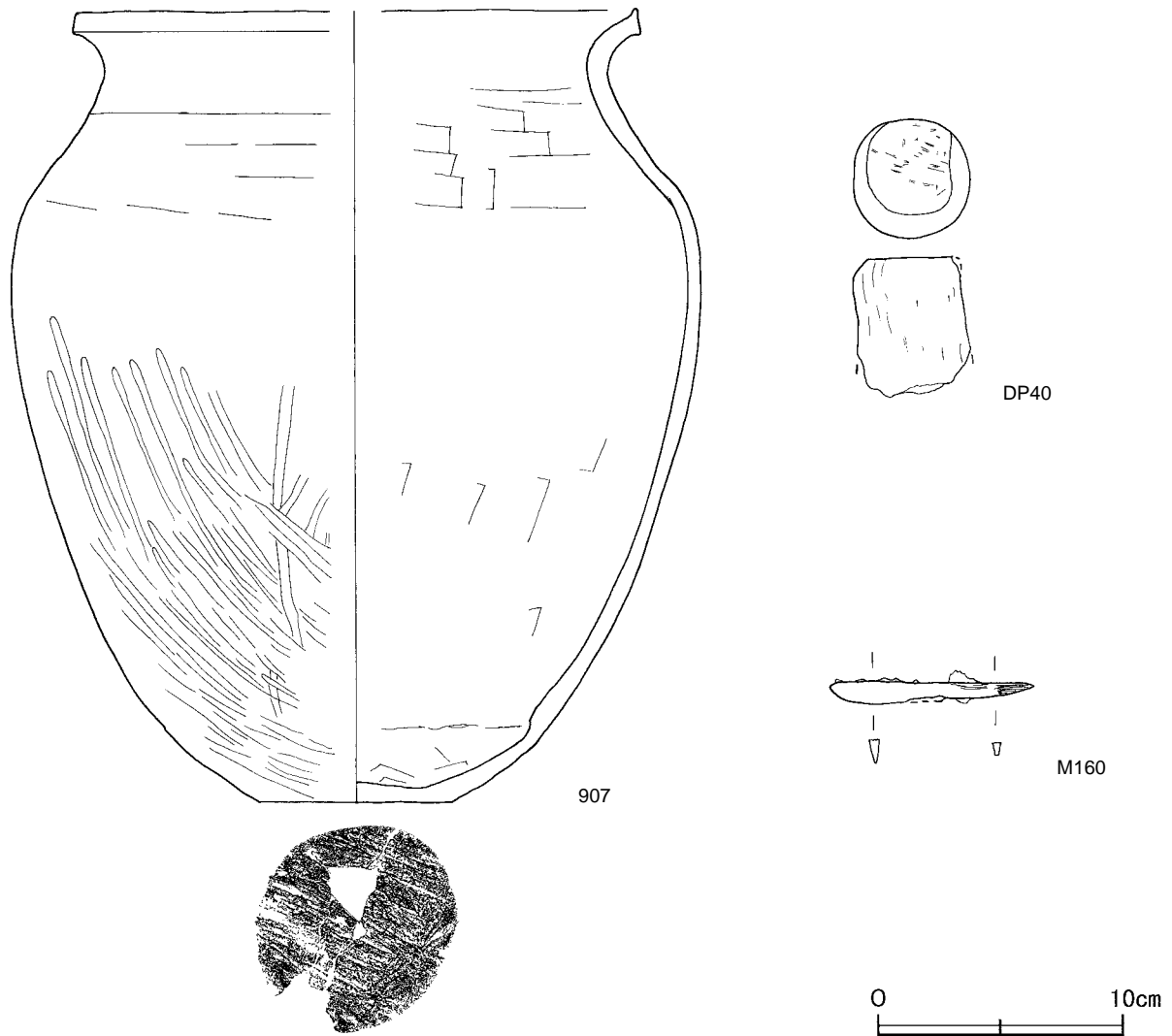
- |       |                           |        |                                  |
|-------|---------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量，砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色  | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量            |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量           | 6 黒褐色  | ロームブロック微量，炭化粒子極微量                |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量            | 7 暗灰黄色 | 砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色  | ロームブロック中量                 |        |                                  |

**遺物出土状況** 土師器片220点（坏41，甕179），須恵器片1点（坏），鉄製品3点（刀子），土製品1点（支脚）が出土している。口縁部や底部等から推測される土器の個体数は土師器坏が13点，甕が5点である。床面及び覆土下層からは，完形に近い土器が多く出土している。905は南壁際の床面から一括して出土している。903・906は竈の右袖部付近の床面から出土している。907は竈の左袖部付近の床面から出土した体部から底部と覆土下層から散在して出土した口縁部が接合したものである。D P 40は火床面から出土している。これらの遺物は，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第10図 第114A号住居跡出土遺物実測図（1）



第11図 第114A号住居跡出土遺物実測図(2)

第114A号住居跡出土遺物観察表(第10・11図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
901	土師器	坏	[14.0]	5.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面放射状の磨き 体部外面ヘラ削り	覆土中層	40% PL27
902	土師器	坏	[14.0]	4.8	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中層	50% PL27
903	土師器	坏	16.0	3.5	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	85% PL27
904	土師器	坏	16.0	4.8	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土下層	80% PL27
905	土師器	甗	15.7	13.5	8.2	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ後黒色処理カ 体部外面下半ヘラ削り	床面	90% PL29
906	土師器	甗	[24.6]	(29.6)	-	長石・石英・礫	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ 体部外面ナデ 下半ヘラ磨き	床面	30%
907	土師器	甗	[22.8]	32.4	8.0	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ 体部外面ナデ 下半ヘラ磨き	覆土下層	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M160	刀子	8.3	1.0	0.3	(6.6)	鉄	刃部一部欠損	覆土下層	PL48

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	材質	手法の特徴ほか	出土位置	備考
DP40	支脚	(5.7)	5.0	4.3	(94.7)	粘土	ナデ	床面	

### 第114B号住居跡 (第12図)

**位置** 調査区中央部のA・1g9区で、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第114A・118号住居に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸3.50m、短軸3.45mの方形で、主軸方向はN - 2° - Wである。壁高は5～10cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部までが96cmである。袖部は、右袖部がわずかに残存するのみである。火床部は、床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。

**竈土層解説**

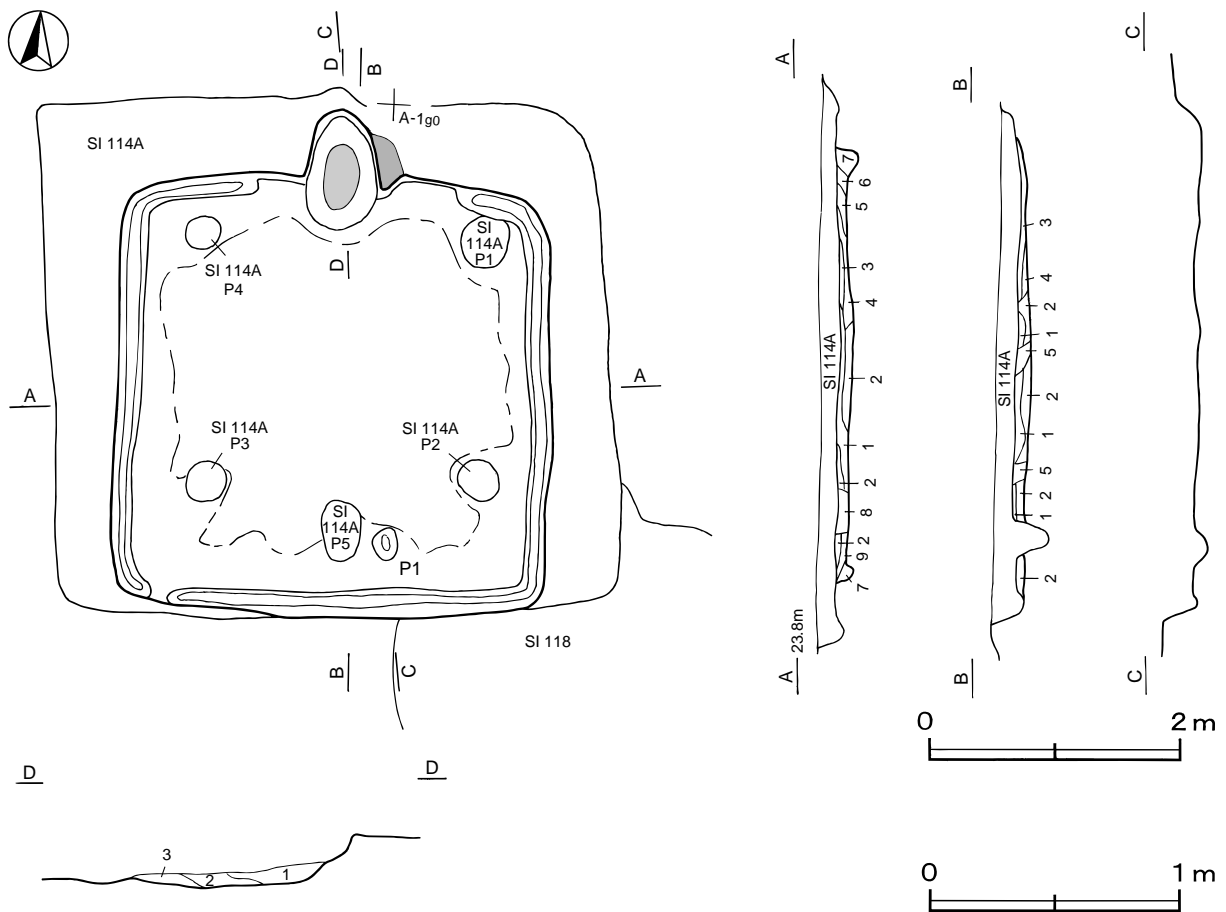
- |                            |                         |
|----------------------------|-------------------------|
| 1 極暗赤褐色 焼土ブロック少量           | 3 灰褐色 砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック少量 |                         |

**覆土** 9層に分層される。不規則な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。なお、第3層は、第114号住居跡の貼床構築土である。

**土層解説**

- |                                  |                              |
|----------------------------------|------------------------------|
| 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量              | 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量         |
| 2 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量           | 6 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量          | 7 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量        |
| 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 8 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量         |
|                                  | 9 黒褐色 焼土粒子中量、ロームブロック少量       |

**ピット** 深さ10cmで、南壁際中央に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。床の硬



第12図 第114B号住居跡実測図



化面の範囲から推測される支柱穴の位置には、第114A号住居跡のP1～P4が掘り込まれており、本跡の支柱穴が同位置にあったと考えられる。

**所見** 本跡は、覆土の堆積状況や支柱穴の配置などから、埋土して第114A号住居に建て替えられたと考えられる。時期は、重複関係から、7世紀前葉以前と考えられる。

### 第123号住居跡 (第13～15図)

**位置** 調査区西部のA・5a0区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長軸7.40m、短軸7.30mの方形で、主軸方向はN-42°-Eである。壁高は15～25cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が、南西の壁際を除いて周回している。間仕切り溝が、北西壁際と北東壁際に各1条、南東壁際に2条確認されている。

**炉** 中央部から北東寄りに位置している。長径78cm、短径52cmの楕円形で、床面を15cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。

#### 炉土層解説

1 褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量	4 褐色	ローム粒子中量,炭化物・焼土粒子少量
2 褐色	ローム粒子・炭化粒子中量,焼土粒子少量	5 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量,焼土ブロック微量
3 褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子中量	6 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量

**ピット** 5か所。P1～P3は深さ25～38cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P4・P5は深さ30cm・38cmで、配置から間仕切り溝に伴うピットと考えられる。

**貯蔵穴** 2か所。貯蔵穴1は北コーナー部に位置している。長径72cm、短径70cmの円形で、深さは40cmである。底面は皿状で、壁は直立している。貯蔵穴2は南コーナー部に位置している。長径88cm、短径71cmの楕円形で、深さは15cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

#### 貯蔵穴1土層解説

1 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量	3 暗褐色	ロームブロック中量,焼土ブロック・炭化粒子少量
2 褐色	ロームブロック中量,炭化粒子少量	4 暗褐色	ローム粒子中量,炭化粒子少量

#### 貯蔵穴2土層解説

1 灰褐色	ロームブロック・炭化粒子中量	2 褐色	ロームブロック多量,炭化粒子微量
-------	----------------	------	------------------

**覆土** 13層に分層される。ブロック状の不規則な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。第1～6層には、多量のロームブロックとともに焼土・炭化物が中量含まれている。

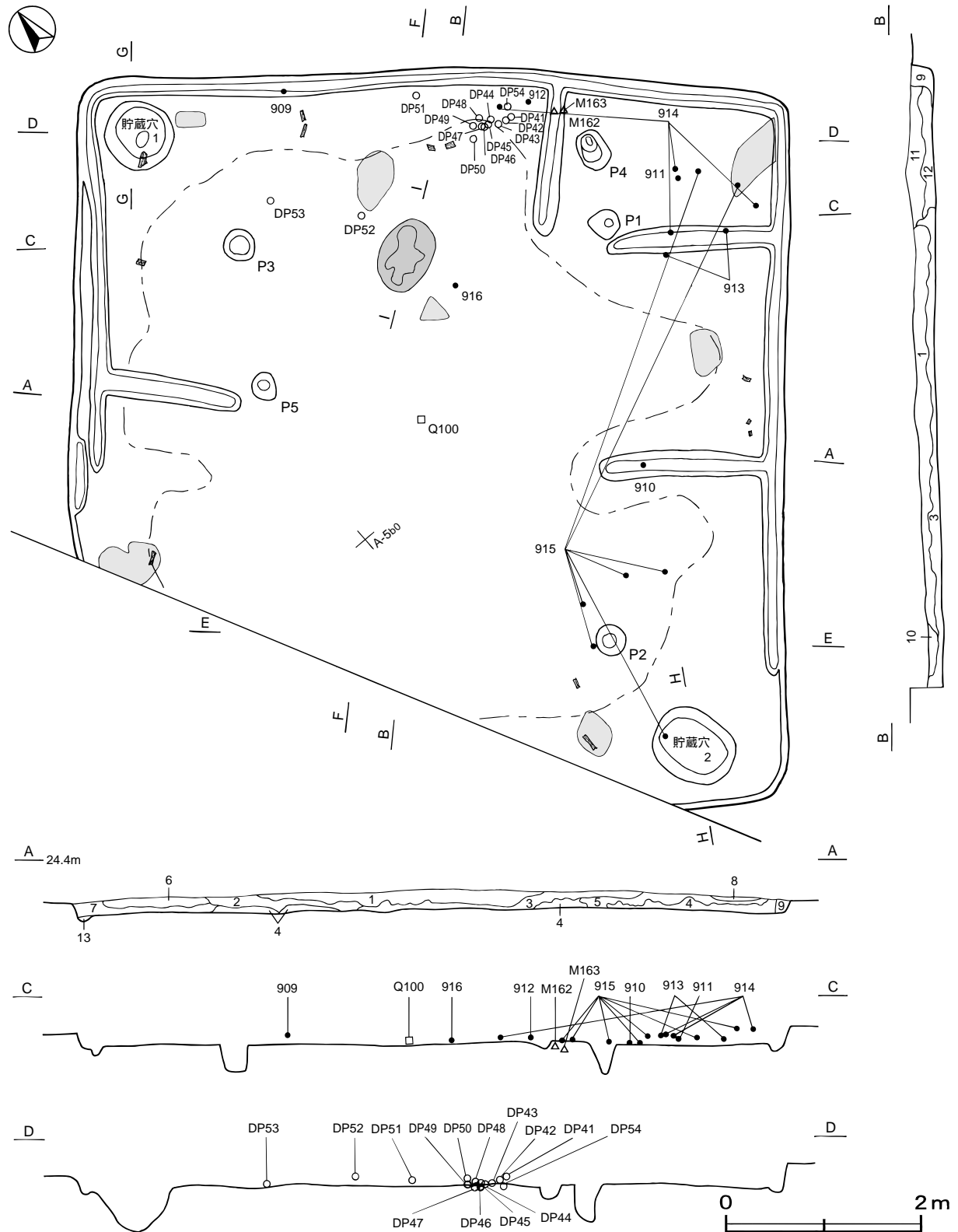
#### 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック多量,焼土粒子・炭化粒子中量	8 灰褐色	ロームブロック多量,焼土ブロック・炭化粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	9 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量,焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子少量	10 黒褐色	炭化物中量,ロームブロック・焼土粒子少量
4 褐色	ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子少量	11 黒褐色	ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子少量
5 黒褐色	ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量,焼土粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック多量,焼土ブロック・炭化物中量	13 褐色	ロームブロック中量,炭化物微量
7 灰褐色	焼土粒子・炭化粒子少量,ロームブロック微量		

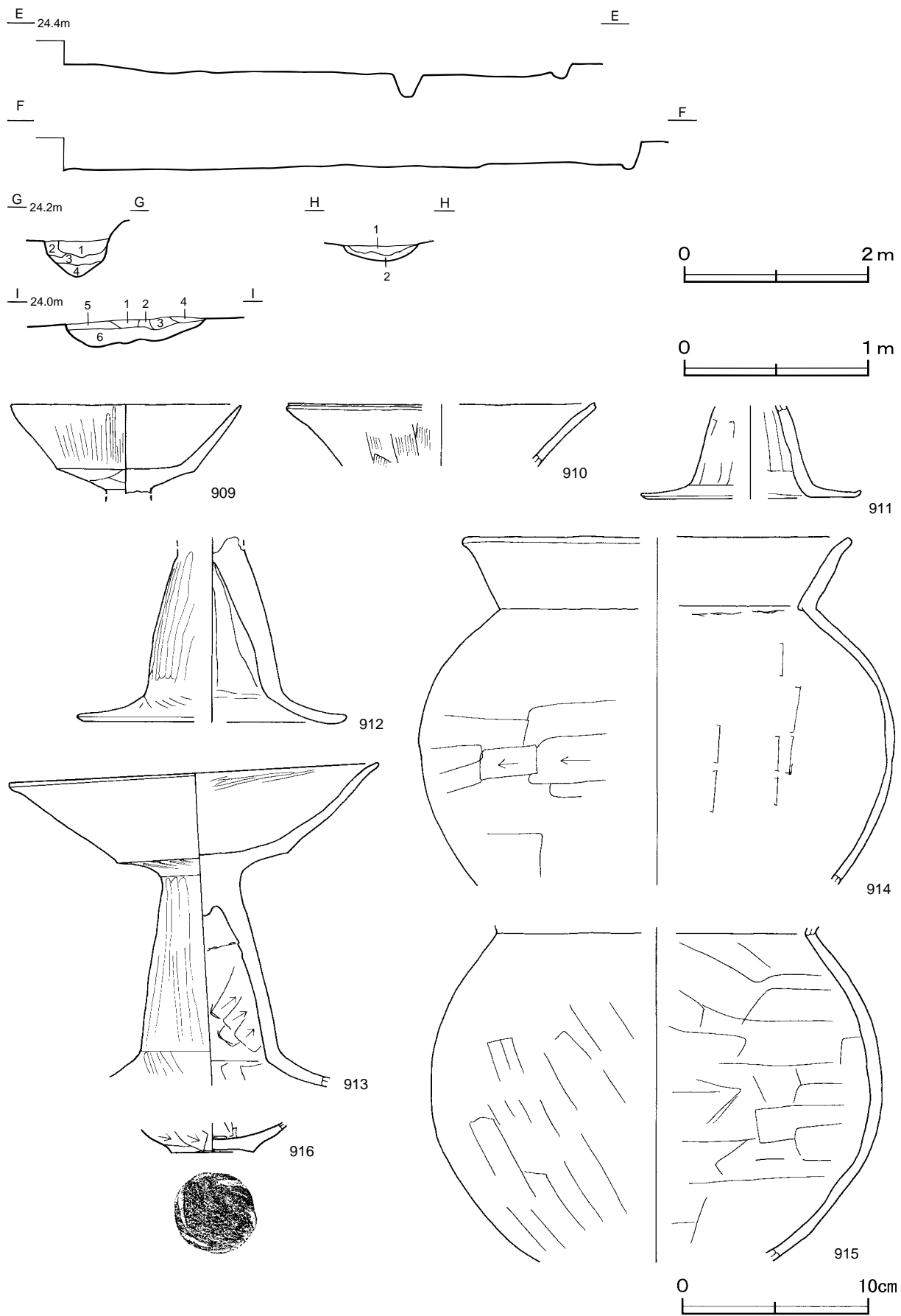
**遺物出土状況** 土師器片263点(坏3,高坏72,埴20,甕168),土製品14点(球状土錘),鉄製品3点(釘カ2,刀子1),石製品1点(管玉)のほか、混入した陶器片も出土している。口縁部・底部から推測される土器の個体数は、土師器の坏1点,高坏7点,埴1点,甕3点である。東コーナー部を中心に覆土上層から床面にかけて出土しており、東コーナー部に近いものほど浅い位置から出土する傾向を示している。914・915は北東壁際および南東壁際の覆土上層から床面にかけて出土した破片が接合したものである。DP41～DP54が、北東壁

際の中央付近の覆土中層から床面にかけて、まとまって出土している。M162・M163は北東壁際の間仕切り溝の覆土中から出土している。

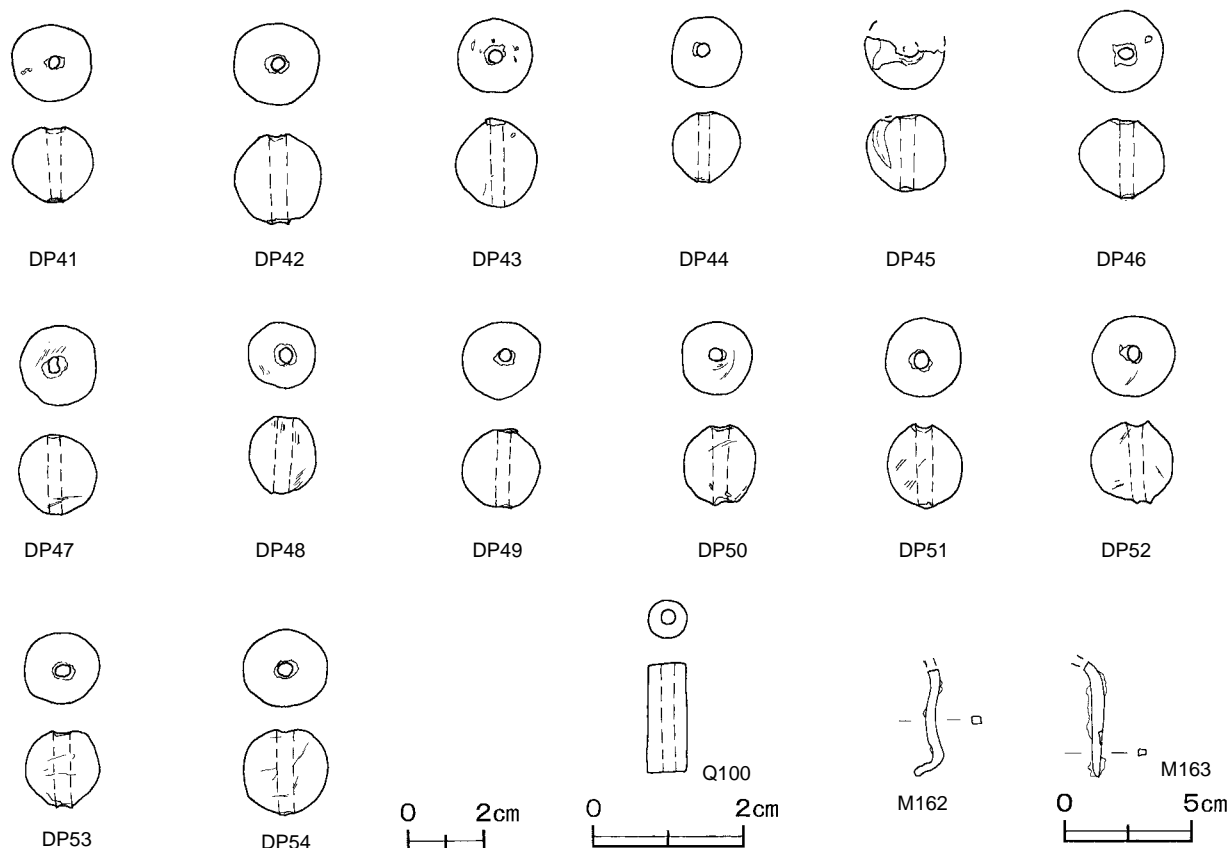
**所見** 土器片は覆土上層から床面にかけて散在して出土しており、時期差がみられないことから、住居廃絶時の一括投棄と考えられる。時期は、出土土器から5世紀前葉と考えられる。



第13図 第123号住居跡実測図



第14图 第123号住居跡・出土遺物実測図



第15図 第123号住居跡出土遺物実測図

第123号住居跡出土遺物観察表 (第14・15図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
909	土師器	高坏	12.4	(4.6)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 坏部外面中位ヘラ磨き 下位ヘラナデ 内面ナデ	覆土上層	40%
910	土師器	高坏	[16.4]	(3.3)	-	雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 坏部外面ハゲ目	覆土上層	5%
911	土師器	高坏	-	(5.0)	[11.8]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き	覆土下層	10%
912	土師器	高坏	-	(10.0)	[14.5]	長石・雲母・赤色粒子	赤	普通	脚部外面ヘラ磨き	覆土下層	30%
913	土師器	高坏	19.7	(17.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面下半ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	80% PL28
914	土師器	甗	[20.6]	(18.7)	-	長石・石英・チャート	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土上層～床面	20%
915	土師器	甗	-	(18.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土上層～床面	30%
916	土師器	甗	-	(1.5)	4.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP41	球状土鍾	2.1	1.9	0.35	7.65	粘土	ナデ 片面穿孔	覆土下層	PL46
DP42	球状土鍾	2.3	2.3	0.4	10.7	粘土	ナデ 片面穿孔	覆土下層	PL46
DP43	球状土鍾	2.3	2.0	0.4	9.2	粘土	ナデ 片面穿孔	床面	PL46
DP44	球状土鍾	1.9	1.8	0.4	6.55	粘土	ナデ 片面穿孔	床面	PL46
DP45	球状土鍾	2.0	2.1	[0.4]	(4.54)	粘土	ナデ 片面穿孔	床面	PL46
DP46	球状土鍾	2.1	2.3	0.4	9.75	粘土	ナデ 片面穿孔	床面	PL46
DP47	球状土鍾	2.1	2.0	0.4	8.9	粘土	ナデ 片面穿孔	床面	PL46
DP48	球状土鍾	2.1	1.8	0.4	6.35	粘土	ナデ 片面穿孔	覆土下層	PL46
DP49	球状土鍾	2.0	2.1	0.4	7.4	粘土	ナデ 片面穿孔	床面	PL46
DP50	球状土鍾	1.9	2.0	0.4	6.65	粘土	ナデ 片面穿孔	覆土下層	PL46
DP51	球状土鍾	2.3	2.0	0.4	8.95	粘土	ナデ 片面穿孔	覆土下層	PL46
DP52	球状土鍾	2.1	2.2	0.4	9.45	粘土	ナデ 片面穿孔	覆土下層	PL46

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
DP53	球状土錘	2.0	2.0	0.4	7.45	粘土	ナデ 片面穿孔	覆土下層	PL46
DP54	球状土錘	2.3	2.3	0.4	10.3	粘土	ナデ 片面穿孔	床面	PL46

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q100	管玉	1.4	0.5	0.15	0.57	滑石	両面穿孔	覆土下層	PL47

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M162	釘	(4.1)	0.4	0.3	(1.34)	鉄	端部欠損	間仕切り溝覆土	
M163	釘	(4.6)	0.3	0.3	(2.16)	鉄	端部欠損	間仕切り溝覆土	

### 第124号住居跡 (第16・17図)

**位置** 調査区西部のA・4c3区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 北部を第125号住居，南部を第10号溝に掘り込まれている。

**確認状況** 耕作による削平を受けているため，壁は北東部でわずかな立ち上がりを確認したのみであり，炉・貯蔵穴の配置と周辺の同時期の住居跡から規模と形状を推定した。

**規模と形状** 確認された範囲は，長軸6.35m，短軸5.70mである。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はN - 55° - Eである。

**床** 平坦で，炉2・炉3の周辺がわずかに踏み固められている。

**炉** 4か所。炉1は，中央部付近に位置し，長径60cm，短径50cmの楕円形で，床面を12cmほど掘り込んだ地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。炉2は，北東部に位置し，長径64cm，短径41cmの楕円形で，床面を19cmほど掘り込んだ地床炉である。炉床は火熱で赤変硬化している。炉3は，北東壁際に位置し，長径60cm，短径37cmの不整楕円形で，床面を10cmほど掘り込んだ地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。炉4は，南西部に位置し，長径54cm，短径39cmの楕円形で，床面を29cmほど掘り込んだ地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。各炉には，時期差を示す要素がないことから，同時期に使用されていたと考えられる。

#### 炉1土層解説

- |                         |                   |
|-------------------------|-------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量，炭化粒子微量  | 3 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量 |
| 2 極暗赤褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子微量 |                   |

#### 炉2土層解説

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量 | 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量 |
|-----------------|-------------------|

#### 炉3土層解説

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量 | 3 暗赤褐色 焼土ブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量 |                 |

#### 炉4土層解説

- |                                |                           |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子少量   | 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量           | 6 褐色 ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量  |
| 3 赤褐色 焼土ブロック多量，ローム粒子中量         | 7 褐色 ロームブロック中量，焼土粒子少量     |
| 4 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子少量 |                           |

**ピット** 2か所。深さ31～38cmで，性格は不明である。

**貯蔵穴** 北コーナー部に位置し，長径72cm，短径60cmの楕円形で，深さは49cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

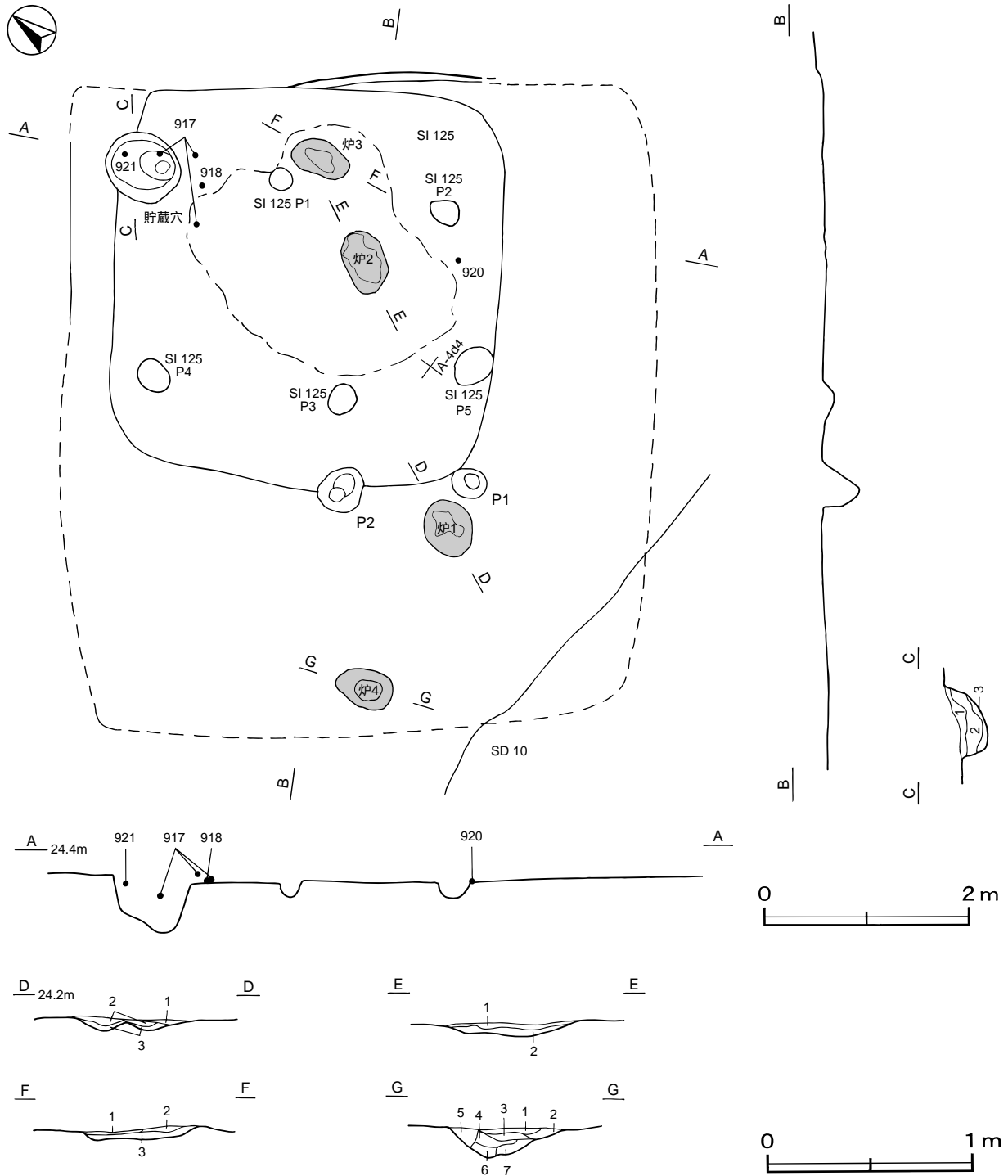
貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

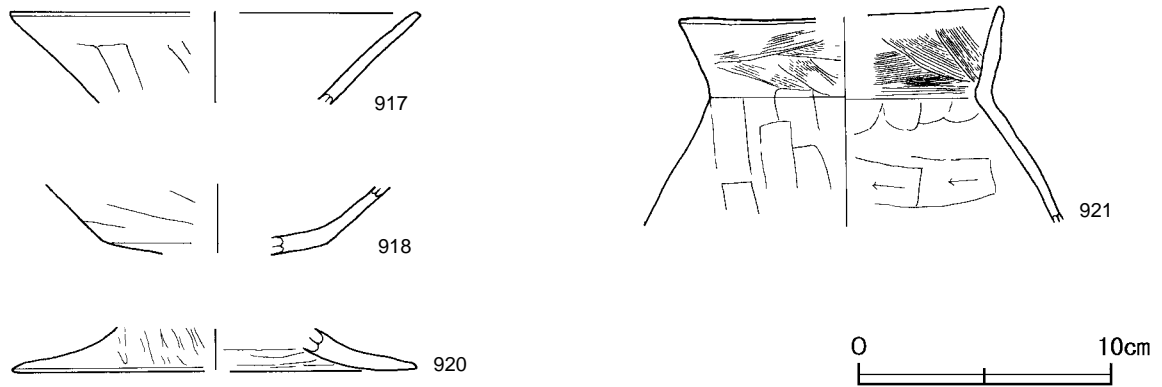
- 3 褐色 ローム粒子中量,炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片52点(坏3,高坏18,甕31)が出土している。口縁部や底部等から推測される土器の個体数は,土師器高坏5点,甕1点である。床が露出した状態で検出されており,出土土器は少ない。921は,貯蔵穴の覆土中から細片で出土している。

**所見** 時期は,出土土器から5世紀前葉から中葉と考えられる。



第16図 第124号住居跡実測図



第17図 第124号住居跡出土遺物実測図

第124号住居跡出土遺物観察表 (第17図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
917	土師器	高坏	[16.2]	(3.6)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ナデ 坏部外面ヘラナデ	床面・貯蔵穴覆土中	10%
918	土師器	高坏	-	(2.7)	-	長石・石英	橙	普通	坏部外面ヘラナデ 内面剥離が著しい	床面	10%
920	土師器	高坏	-	(1.7)	[16.0]	長石・雲母	明赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	10%
921	土師器	甕	[12.7]	(8.5)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面ハケ目 頸部内面指頭圧痕 体部外面ヘラナデ 体部内・外面ヘラ削り	貯蔵穴覆土中	10% PL29

### 第127号住居跡 (第18図)

**位置** 調査区西部のZ・4h1区，標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 北部が調査区域外に延びているため，北西軸7.60m，北東軸5.45mのみが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推定され，北西軸方向はN - 44° - Wである。壁高は最大5cmである。

**床** ほぼ平坦で，軟弱である。

**炉** 中央部付近に位置している。径38cmの円形で，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用した地床炉である。炉床は，火熱を受け赤変硬化している。

#### 炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量      2 暗赤褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子微量

**ピット** 2か所。深さ31～53cmで，いずれも性格は不明である。

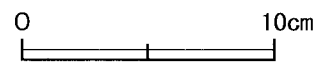
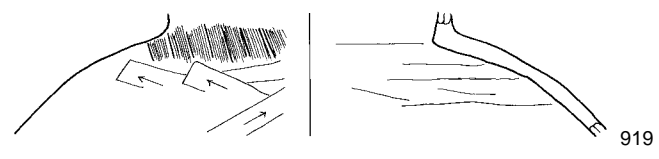
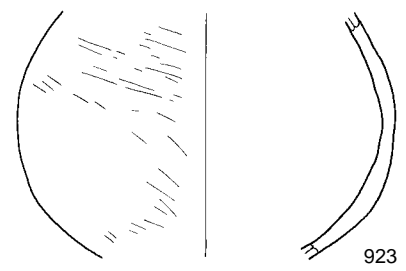
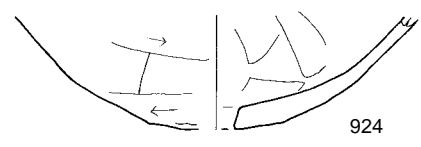
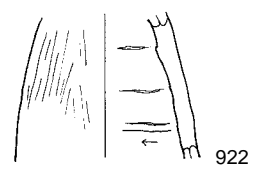
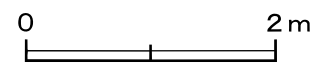
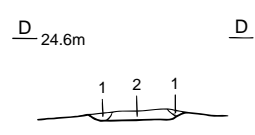
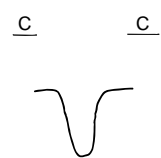
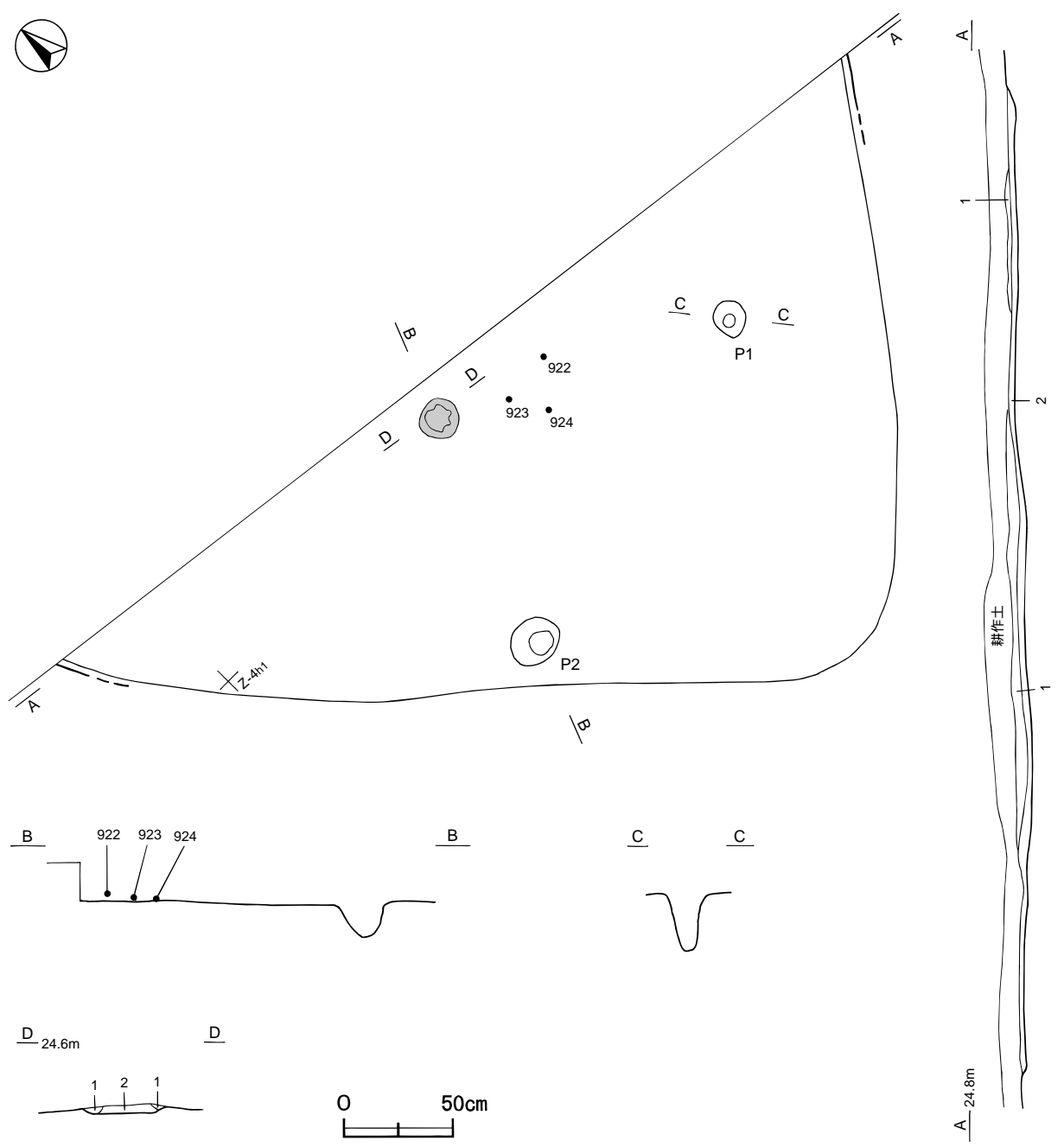
**覆土** 2層に分層される。大部分が耕作による攪乱を受けており，堆積状況は不明である。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量      2 褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片161点（高坏49，埴7，甕7，甕類98），須恵器片1点（甕），鉄製品1点（不明）のほか，混入した須恵器片，陶磁器片，瓦質土器片も出土している。口縁部や底部等から推測される土器の個体数は，土師器高坏3点，埴1点，甕1点，甕1点である。遺物は，層厚の薄い覆土中の全域に散在して出土している。

**所見** 時期は，出土土器から5世紀前葉から中葉と考えられる。



第18图 第127号住居跡・出土遺物実測図



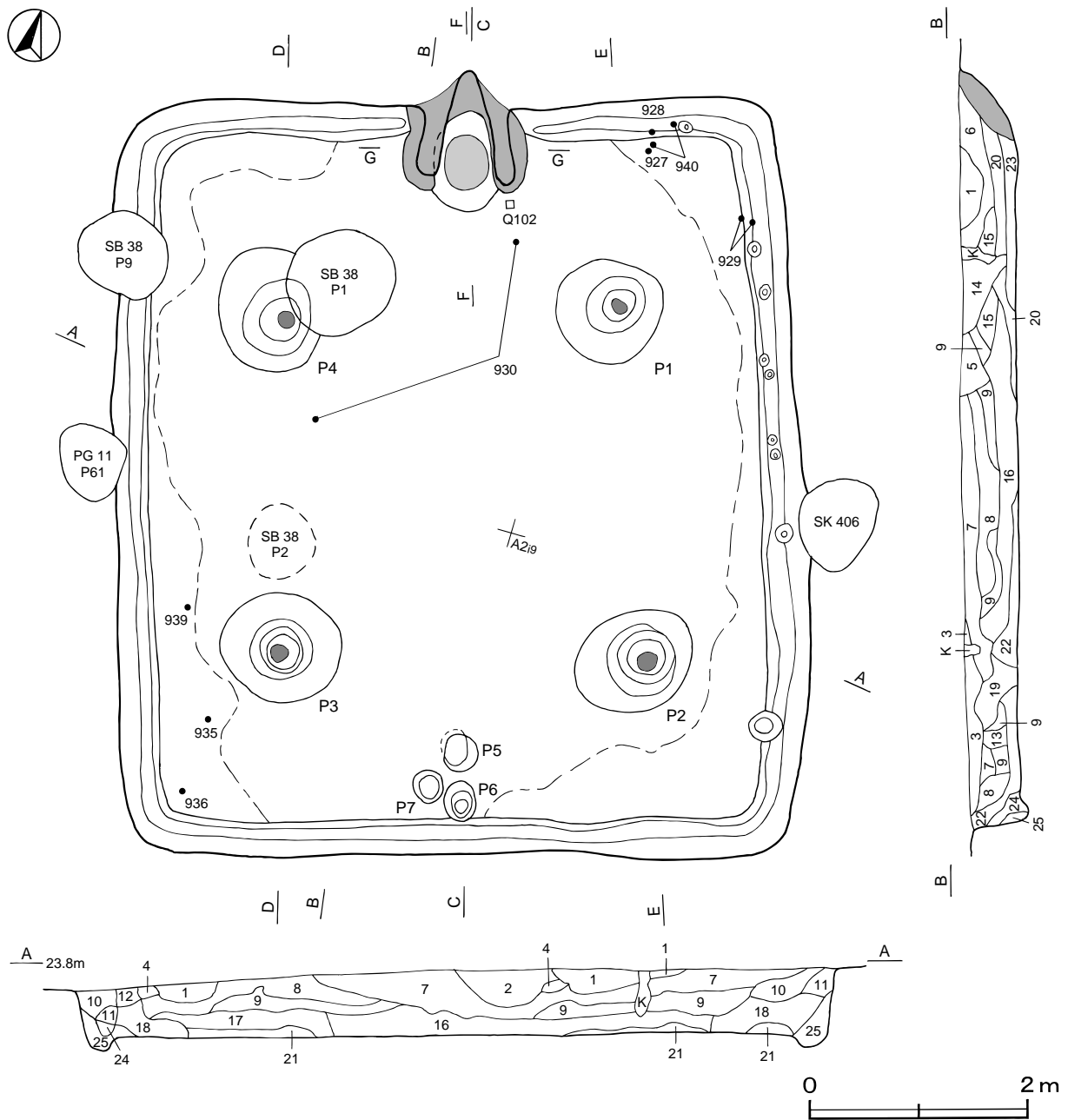
第127号住居跡出土遺物観察表 (第18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
919	土師器	甗	-	(4.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面頸部ハゲ目 体部ヘラ削り 内面ナデ	床面	5%
922	土師器	高坏	-	(5.7)	-	長石・雲母	赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き	床面	10%
923	土師器	埴	-	(9.6)	-	長石・雲母	明赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き	床面	15%
924	土師器	甌	-	(4.5)	[5.3]	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部単孔	床面	10%

第132号住居跡 (第19~22図)

位置 調査区東部のA 2 h8区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第38号掘立柱建物, 第11号ピット群, 第406号土坑に掘り込まれている。

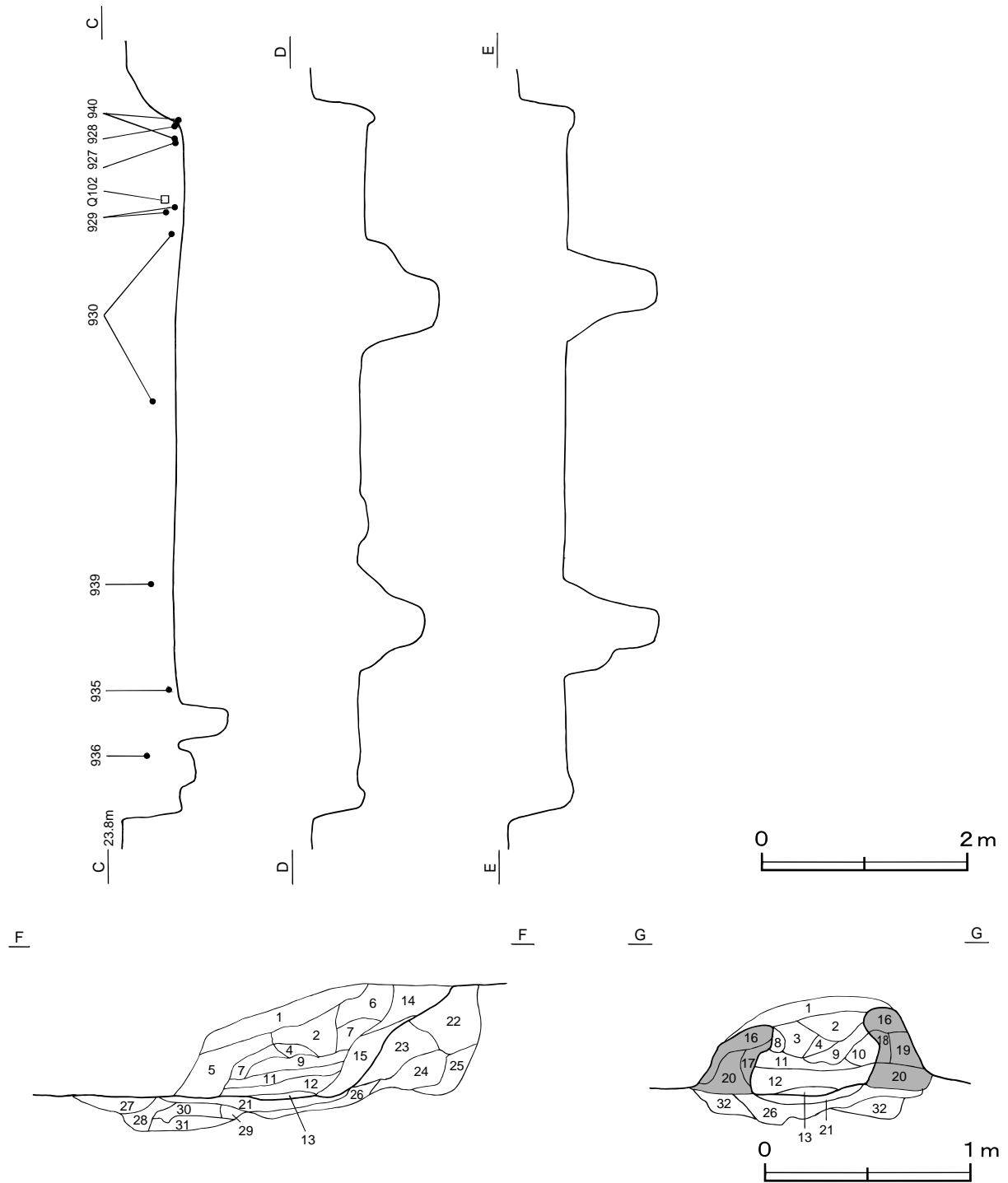


第19図 第132号住居跡実測図(1)

**規模と形状** 長軸7.00m，短軸6.32mの長方形で，主軸方向はN - 16° - Wである。壁高は45～54cmで，直立している。

**床** 平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで132cm，袖部幅113cmである。袖部は，地山を15cm掘り込み暗褐色土を埋め戻して基部とし，その上に粘土を積み上げて構築している。火床部は，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用している。火床面は火熱を受けて著しく赤変硬化している。煙道部は，壁を40cmほど掘り込み，外傾して立ち上がっている。第1～15層は竈内の覆土，第16～20層は袖部，第21～32層は



第20図 第132号住居跡実測図(2)

竈構築時に掘り込んだ後に、客土した土層である。竈は赤変硬化した面よりも下層に粘土や焼土が混じる層が厚く堆積しており、同一箇所での竈の造り替えが考えられる。

竈土層解説

1 黒褐色	粘土粒子・炭化粒子中量	19 暗褐色	粘土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2 黒褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量	20 暗褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	粘土粒子中量，焼土ブロック微量	21 灰黄褐色	焼土粒子・粘土粒子少量
4 黒褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	22 暗赤褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量	23 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
6 にぶい黄褐色	粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量	24 暗赤褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
7 暗赤褐色	焼土ブロック中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量	25 暗褐色	粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗赤褐色	炭化粒子少量，焼土ブロック・粘土粒子微量	26 暗褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
9 黒褐色	炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量	27 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
10 極暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量	28 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
11 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	29 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量
12 暗赤褐色	焼土ブロック中量，粘土粒子少量	30 暗赤褐色	焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
13 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量	31 暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
14 黒褐色	粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量	32 暗褐色	ロームブロック少量
15 暗赤褐色	炭化物・粘土粒子少量，焼土粒子微量		
16 にぶい黄褐色	粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量		
17 灰黄褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量		
18 黒褐色	焼土ブロック・炭化物中量，粘土粒子少量		

**ピット** 7か所。P1～P4は深さ63～90cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5～P7は深さ14～49cmで、南部壁際に並んで位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

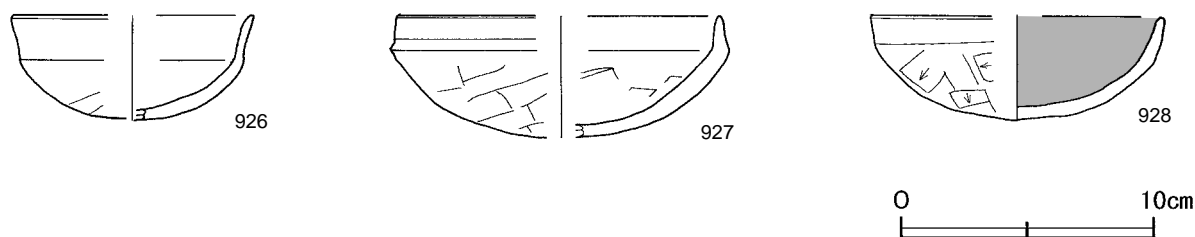
**覆土** 25層に分層される。ロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

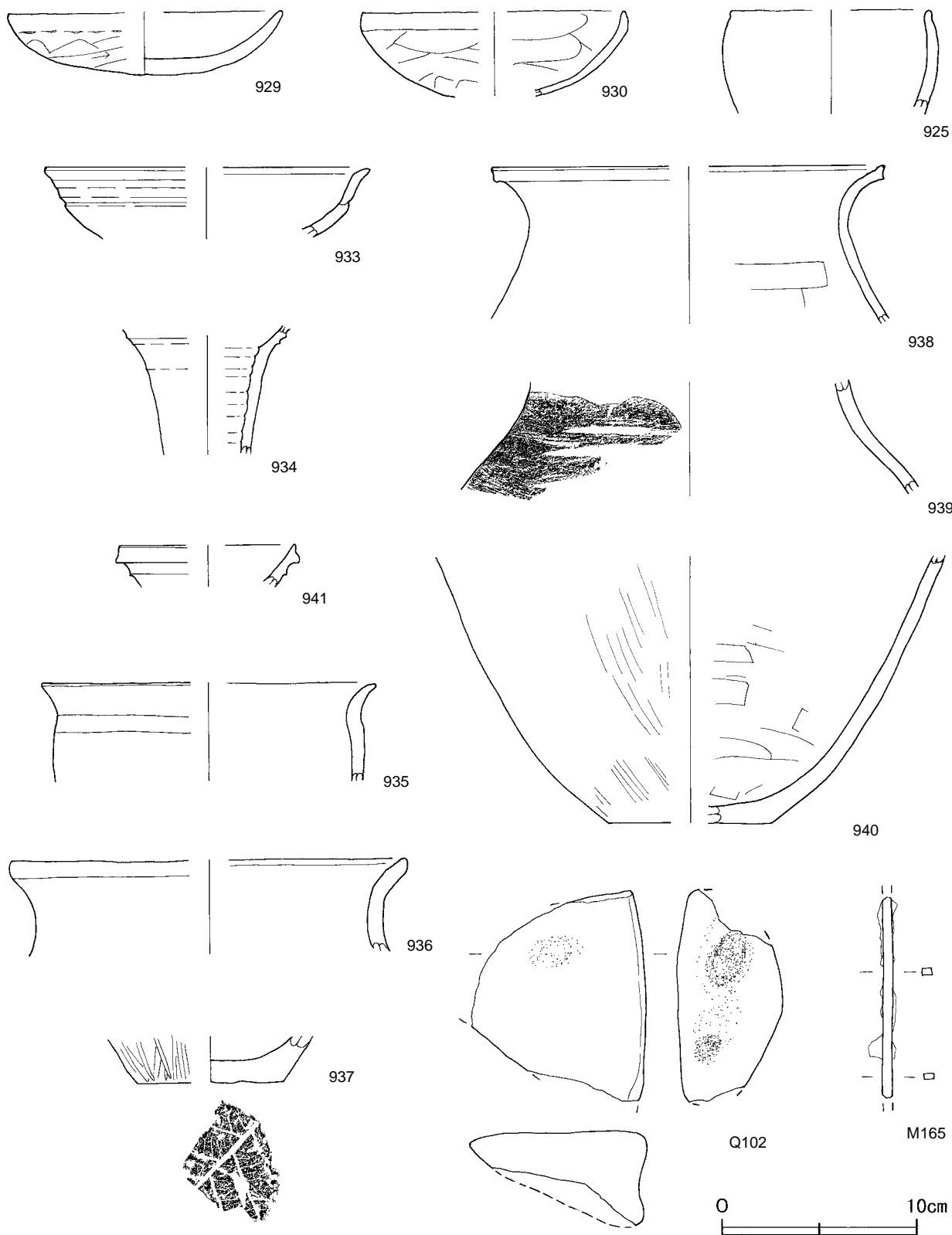
1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	14 黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量	15 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	16 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量
4 黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック微量	17 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	18 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
6 黒褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量	19 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	20 極暗褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
8 極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	21 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
9 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	22 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
10 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	23 暗褐色	炭化粒子・粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
11 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量	24 黒褐色	炭化物少量，ロームブロック微量
12 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	25 黒褐色	ロームブロック微量
13 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 土師器片506点（坏・椀類98，甗407），須恵器片39点（坏4，高坏1，蓋2，甗28，長頸瓶4），石器・石製品3点（凹石1，不明2），鉄製品4点（鏃1，紡錘車1，不明2），鉄滓1点のほかに、流れ込んだ縄文土器片も出土している。口縁部や底部等から推測される土器の個体数は、土師器坏12点，椀1点，甗10点，須恵器高坏1点，長頸瓶1点である。遺物は、覆土上層から下層にかけて多量に出土しているが、接合できた個体は少ない。927～930，940は、北部の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。

**所見** 出土した遺物のほとんどが住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。覆土中層から下層にかけて出土している土器は残存率が高く，時期差もみられないことから住居廃絶時の一括投棄と考えられる。時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第21図 第132号住居跡出土遺物実測図（1）



第22図 第132号住居跡出土遺物実測図(2)

第132号住居跡出土遺物観察表(第21・22図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
925	土師器	椀	[10.0]	(5.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	覆土中	10%
926	土師器	坏	[9.4]	4.1	-	長石	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
927	土師器	坏	[12.8]	4.8	-	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	30%
928	土師器	坏	[11.6]	4.1	-	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	50%
929	土師器	坏	[14.0]	3.2	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面下半ヘラ削り 内面ヘラナデ後黒色処理カ	覆土下層	60%
930	土師器	坏	[13.4]	(4.3)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土中層～下層	50% PL27
933	須恵器	高坏	[16.6]	(3.5)	-	長石・黒色粒子	黄灰	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土中	5% PL41
934	須恵器	長頸瓶	-	(6.5)	-	石英・黒色粒子	黄灰	普通	内・外面口クロナデ	覆土中	5%
935	土師器	甗	[17.2]	(5.0)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	5%
936	土師器	甗	[20.4]	(4.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中層	10%
937	土師器	甗	-	(2.4)	[7.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き	覆土中	5%
938	土師器	甗	[20.0]	(8.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	覆土中	5%
939	土師器	転用砥	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ナデ 筋状に擦り痕	覆土中層	5% 甗
940	土師器	甗	-	(13.7)	[8.4]	長石・石英・礫	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土下層	10%
941	須恵器	長頸瓶	[9.0]	(2.1)	-	長石・黒色粒子	黄灰	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q102	凹石	(10.9)	(9.1)	5.4	(491.0)	砂岩	使用面2面	覆土中層	PL47
M165	鎌カ	(10.3)	0.5	0.3	(5.6)	鉄	鎌身欠損	覆土中	

### 第138号住居跡 (第23～25図)

**位置** 調査区東部のA 2e9区で、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第136・137号住居，第429号土坑に掘り込まれている。

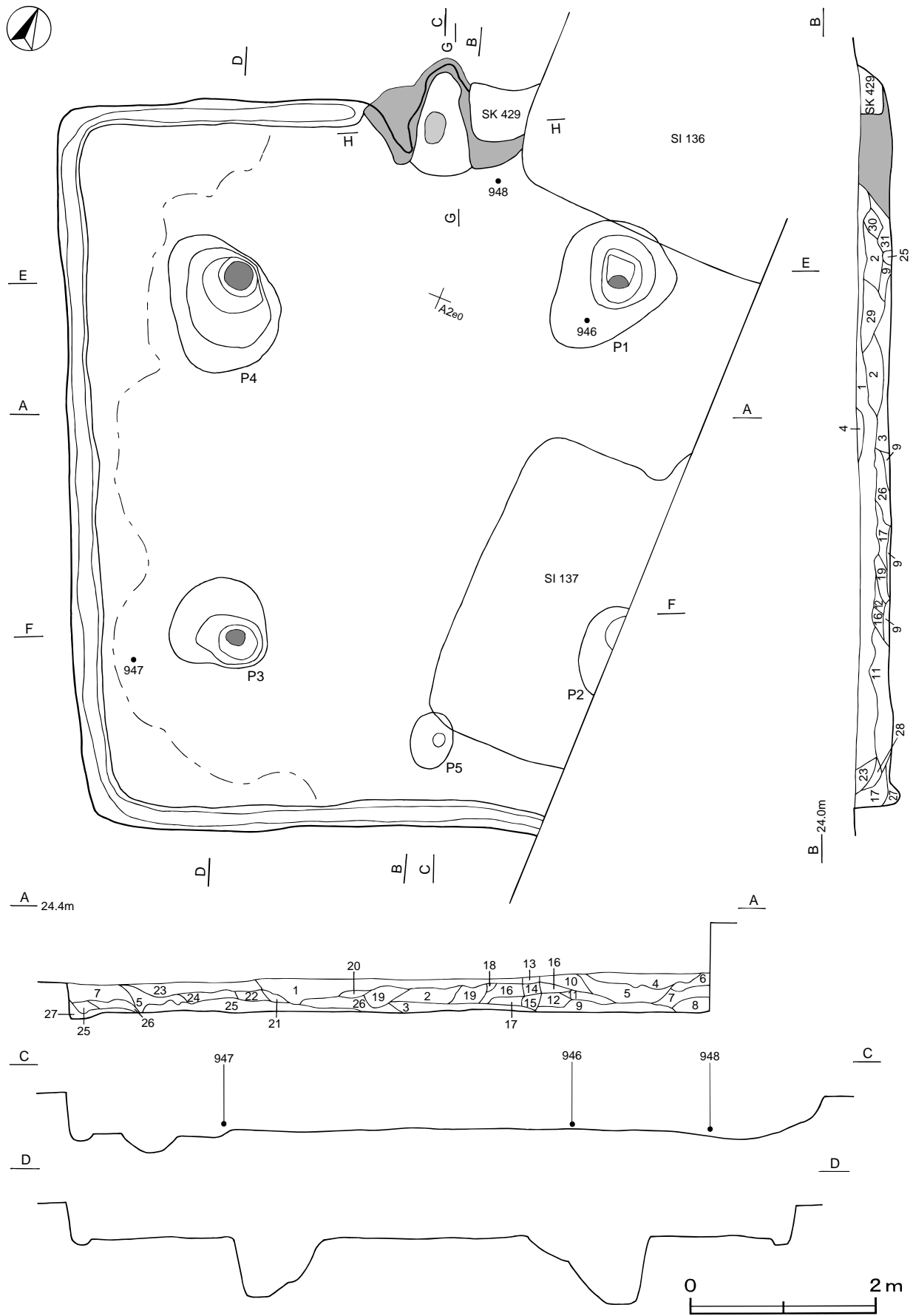
**規模と形状** 東部が調査区域外に延びているため，南北軸は7.80mで，東西軸は5.80mだけが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はN - 20° - Wである。壁高は16～28cmで，直立している。

**床** 平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。

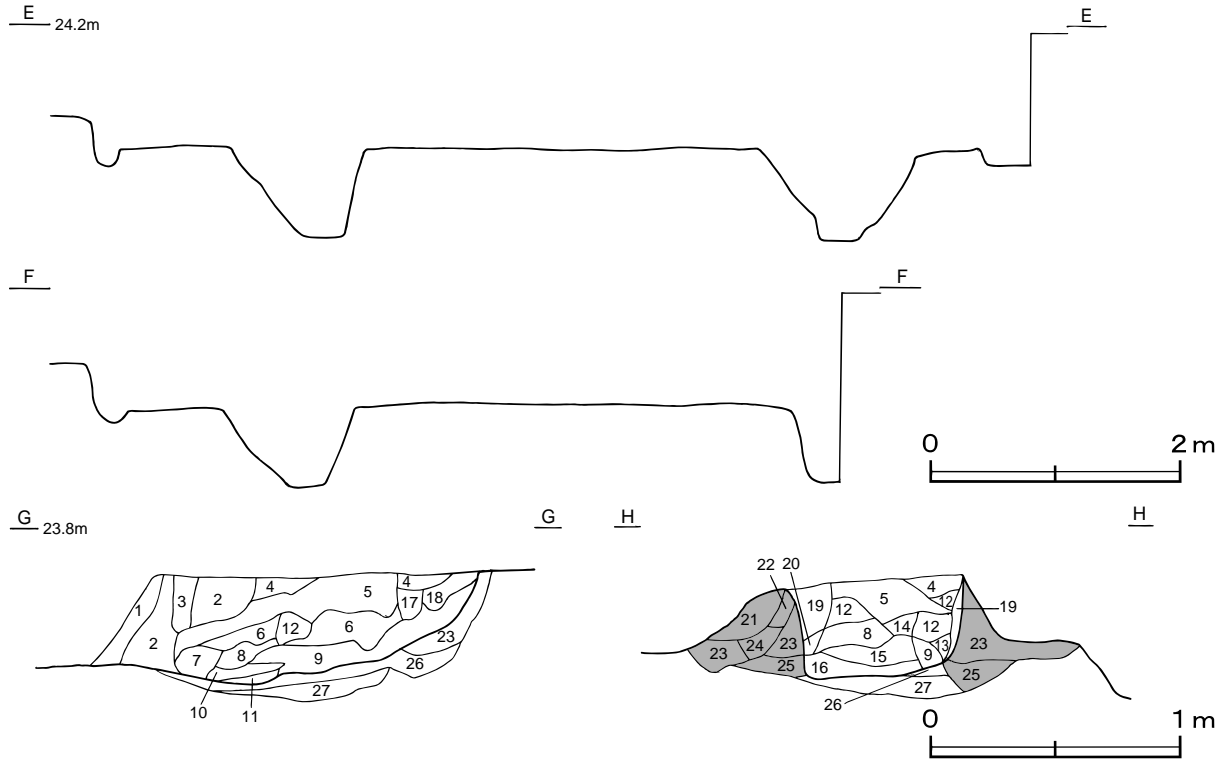
**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで126cmで，袖部幅は181cmだけが確認されている。袖部は粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用している。火床面は火熱を受けて著しく赤変硬化している。煙道部は壁を25cmほど掘り込み，外傾して立ち上がっている。第1～20層が竈内の覆土である。

#### 竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量	15 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	16 暗赤褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	17 暗赤褐色	焼土ブロック多量，炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量	18 暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量	19 暗赤褐色	焼土粒子多量，砂質粘土粒子微量
6 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	20 暗褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
7 暗赤褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量	21 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
8 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量	22 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
9 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量	23 暗褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
10 暗赤褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	24 黒褐色	ローム粒子微量
11 暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量	25 褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
12 暗赤褐色	焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子微量	26 暗赤褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
13 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量	27 暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量
14 暗赤褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子微量		



第23图 第138号住居跡実測图(1)



第24図 第138号住居跡実測図(2)

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ56～73cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P1・P3・P4は、形状及び覆土の不自然な堆積状況から、柱の抜き取りが行われたと考えられる。P5は深さ19cmで、南壁際に位置していることから、出入口口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 31層に分層される。不規則な堆積状況であり、人為堆積と考えられる。

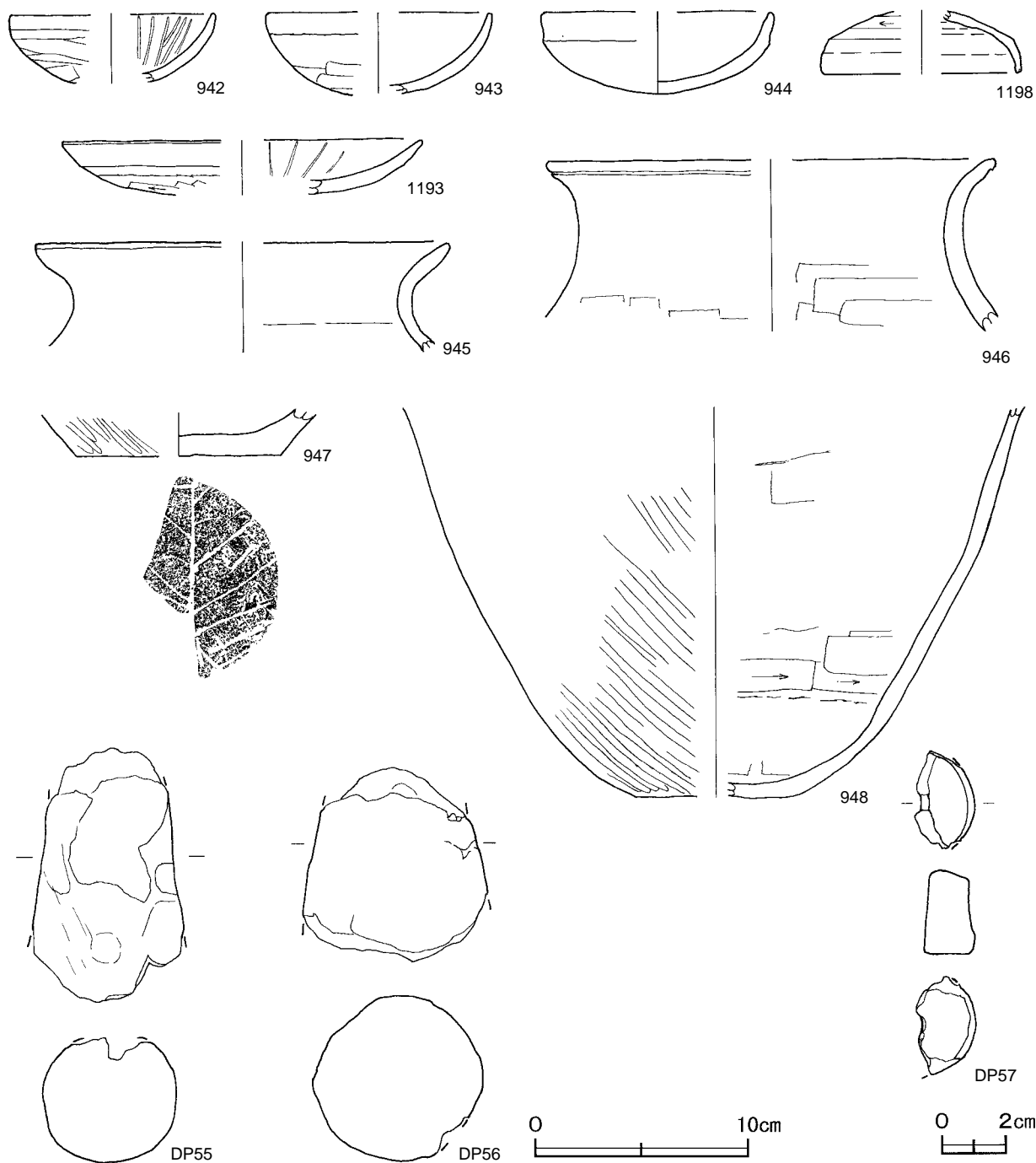
土層解説

- |        |                               |        |                               |
|--------|-------------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量           | 18 褐色  | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量           |
| 2 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量        | 19 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量          |
| 3 黒褐色  | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量      | 20 黒褐色 | 炭化物少量, ロームブロック・焼土粒子微量         |
| 4 暗褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量                | 21 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量             |
| 5 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量          | 22 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量       |
| 6 暗褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量                | 23 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量                 |
| 7 暗褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量         | 24 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量       |
| 8 暗褐色  | ロームブロック微量                     | 25 褐色  | ロームブロック中量, 炭化粒子微量             |
| 9 褐色   | ロームブロック微量                     | 26 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量          |
| 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量      | 27 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量                 |
| 11 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量       | 28 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量            |
| 12 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量          | 29 黒褐色 | 粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 13 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量                | 30 黒褐色 | 粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量  |
| 14 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量         | 31 黒褐色 | 粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 15 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量    |        |                               |
| 16 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量          |        |                               |
| 17 黒褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量 |        |                               |

**遺物出土状況** 土師器片278点(坏83, 甕195), 須恵器片5点(蓋2, 甕3), 土製品3点(紡錘車1, 支脚2), 鉄製品2点(不明), 鉄滓5点のほかに、混入とみられる縄文土器片, 灰釉陶器片(平瓶)も出土している。

口縁部や体部等から推測される土器の個体数は、土師器坏8点, 甕4点, 須恵器蓋1点である。土器片は、全域の覆土上層から下層にかけて多量に出土しているが、接合できた個体は少ない。

**所見** 出土土器の大部分が細片であり、住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器及び、住居の規模と主軸方向から7世紀前葉以前と考えられる。



第25図 第138号住居跡出土遺物実測図

第138号住居跡出土遺物観察表 (第25図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
942	土師器	坏	[9.6]	(3.2)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へら削り 内面放射状のへら磨き	覆土下層	15%
943	土師器	坏	[10.5]	(3.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土上層	15%
944	土師器	坏	[10.8]	3.8	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土上層から	40% PL27
945	土師器	甗	[19.8]	(5.1)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	P2 覆土中	5%
946	土師器	甗	[21.0]	(8.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面下半へら削り 内面へらナデ後黒色処理カ	覆土下層	5%
947	土師器	甗	-	(2.1)	[9.6]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 下半 へら磨き 内面へらナデ	覆土下層	5%
948	土師器	甗	-	(18.3)	[7.4]	長石・石英・雲母・礫	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 下半 へら磨き 内面へらナデ	覆土下層・竈 覆土中	20%



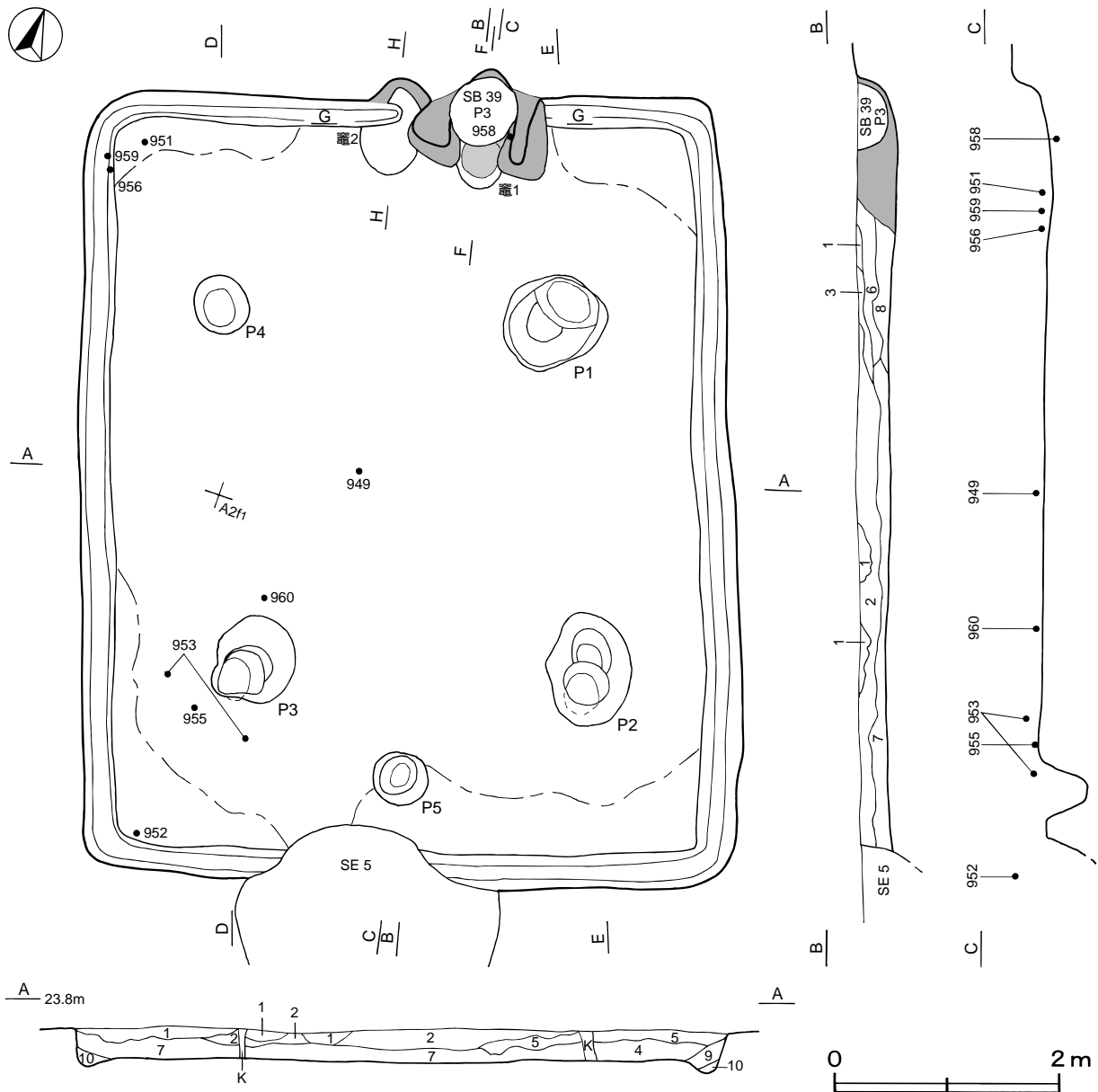
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1193	土師器	坏	[16.9]	2.5	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面ヘラ削り 内面ナデ後放射状のヘラ磨き	覆土上層	10%
1198	須恵器	蓋	[9.4]	(2.9)	-	長石・石英	黄灰色	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土上層	20% PL27

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	材質	手法の特徴ほか	出土位置	備考
DP55	支脚	(12.0)	(6.6)	(7.3)	(289.0)	粘土	ナデ 指頭圧痕	覆土中	
DP56	支脚	(9.0)	(8.5)	(6.8)	(365.0)	粘土	ナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
DP57	紡錘車	[3.2]	2.6	(0.6)	(15.1)	粘土	ナデ	覆土中	

### 第140号住居跡 (第26～28図)

位置 調査区東部のA 2 e1区，標高24mの平坦な台地の東端部に位置している。



第26図 第140号住居跡実測図(1)

**重複関係** 北部を第39号掘立柱建物に，南部を第5号井戸に掘り込まれている。

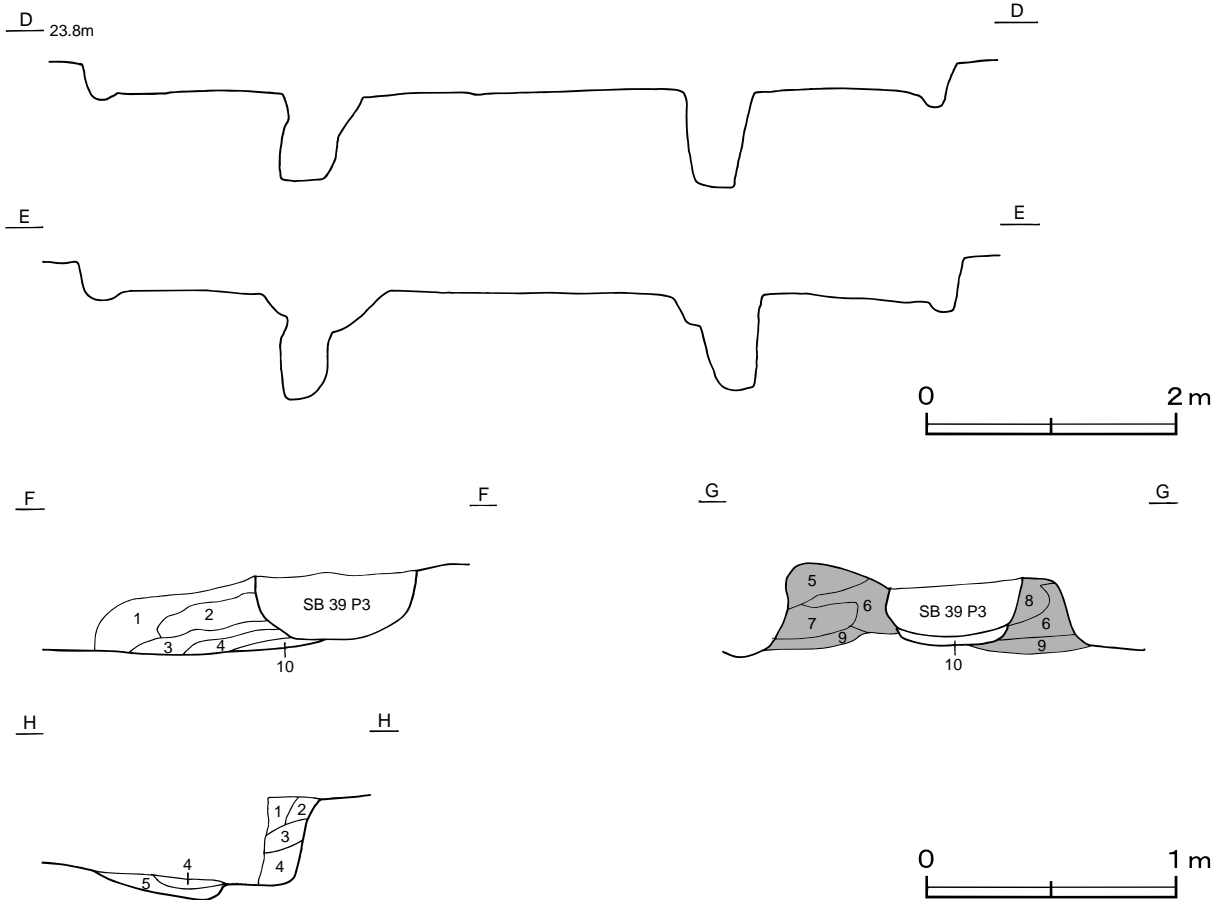
**規模と形状** 長軸7.00m，短軸5.78mの長方形で，主軸方向はN - 20° - Wである。壁高は22～25cmで，直立している。

**床** 平坦で，中央部から東・西壁際まで踏み固められている。壁溝が全周している。

**竈** 2か所。竈1は北壁中央部やや東寄りに付設されており，煙道部を第39号掘立柱建物に掘り込まれている。規模は，焚口部から煙道部まで107cm，両袖部幅125cmである。袖部は，床面とほぼ同じ高さの平坦面に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめた後に，床面とほぼ同じ高さまで埋め戻して使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を30cmほど掘り込み，火床面から外傾して立ち上がっている。竈1は10層からなり，第1～4層が竈内の覆土，第5～9層が袖部の土層である。竈2は，北壁中央部に付設されている。袖部は遺存していない。火床面は床面から7cmほど掘りくぼめられており，火床部は確認できなかった。煙道部は壁を20cmほど掘り込み，火床面から直立している。竈2は煙道部と火床部だけが残存していることから，竈2から竈1へ作り替えたと考えられる。

竈1土層解説

- |        |                              |         |                              |
|--------|------------------------------|---------|------------------------------|
| 1 暗褐色  | 砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色    | 砂質粘土粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量     | 7 暗褐色   | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量   |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，粘土粒子微量              | 8 暗赤褐色  | 砂質粘土粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量         |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量，灰粒子少量               | 9 暗褐色   | 焼土粒子中量，砂質粘土粒子・炭化粒子少量         |
| 5 暗赤褐色 | 炭化粒子少量，焼土粒子・ローム粒子微量          | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，砂質粘土粒子・炭化粒子少量         |



第27図 第140号住居跡実測図(2)

竈2土層解説

- |                             |                                    |
|-----------------------------|------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 赤褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子微量        | 5 暗赤褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子微量              |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量        |                                    |

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ69～86cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ40cmで、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

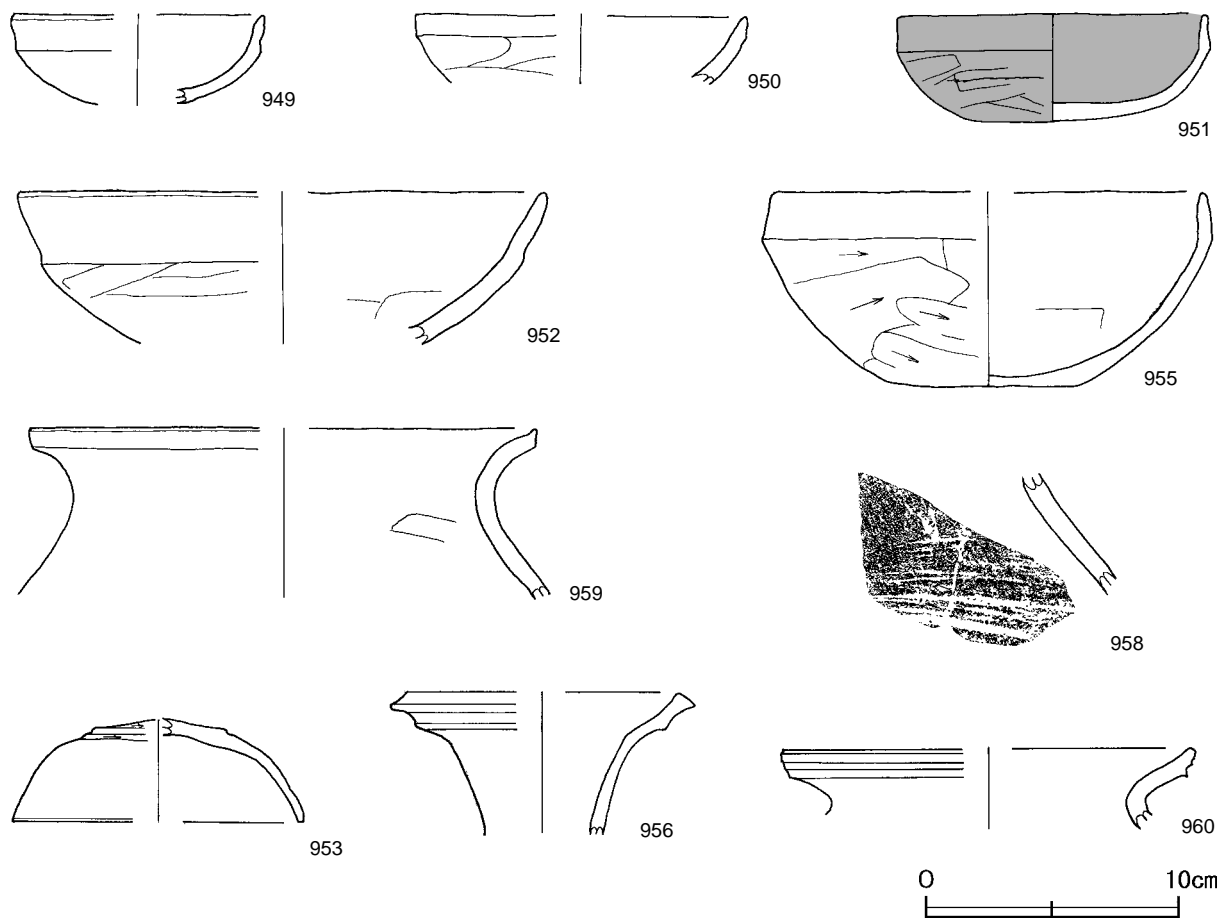
**覆土** 10層に分層される。ロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量           | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量    |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量         | 7 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子中量, ロームブロック微量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量         |
| 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量   | 9 暗褐色 ローム粒子少量           |
| 5 暗褐色 ロームブロック中量         | 10 暗褐色 ロームブロック微量        |

**遺物出土状況** 土師器片204点（坏47，椀9，甕類148），須恵器片14点（坏4，蓋7，甕1，長頸瓶2），土製品1点（支脚），鉄滓1点のほかに、流れ込みとみられる石器（鏃）が出土している。口縁・底部などから推定される土器の個体数は土師器坏10点，椀1点，甕4点，甌1点，須恵器蓋1点，長頸瓶1点，甕1点である。951と955は北西・南西コーナー部の床面から正位で出土しており，出土状況から住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。953と956は覆土下層から床直上にかけて出土した破片が接合したもので，住居廃絶時に投棄されたと考えられる。958は竈の掘り方から出土している。

**所見** 時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第28図 第140号住居跡出土遺物実測図

第140号住居跡出土遺物観察表 (第28図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
949	土師器	坏	[10.0]	(3.5)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 後ナデ 内面ナデ 外面下半ヘラケズリ	覆土上層	10%
950	土師器	坏	[13.0]	(2.7)	-	石英・長石	暗褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 後ナデ 内面ナデ 外面下半ヘラケズリ	覆土中	30%
951	土師器	坏	12.4	4.2	-	石英・長石	暗褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 後ナデ 内面ナデ 外面下半ヘラケズリ	床面	80% PL27
952	土師器	坏	[20.8]	(6.0)	-	石英・長石・赤色粒子	暗褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 後ナデ 内面ナデ 外面下半ヘラケズリ	覆土上層	30% PL27
953	須恵器	蓋	[11.5]	(4.1)	-	黒色粒子	灰白	普通	口縁部内・外面横ナデ 後ナデ 内面ヘラナデ 体部外面ナデ・下半ヘラ磨き	覆土下層	50% PL28
955	土師器	坏	[17.2]	7.7	7.2	石英・白色粒子	褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 後ナデ 内面ナデ 外面下半ヘラケズリ	床面	40% PL27
956	須恵器	長頸瓶	[10.8]	(5.6)	-	白色粒子・黒色粒子	灰	普通	口縁部内・外面横ナデ 頸部ロクロナデ	覆土下層	10%
958	土師器	転用砥	-	(4.9)	-	石英・長石・雲母・白色粒子	褐	普通	体部内・外面ナデ 筋状に擦り痕	覆土中	5% 稜
959	土師器	甕	[20.0]	(6.6)	-	石英・長石・雲母	暗褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	床面	10%
960	須恵器	甕	[16.2]	(3.2)	-	白色粒子・黒色粒子	暗灰	普通	口縁部内・外面横ナデ 内・外面ロクロナデ	覆土中	5%

第145号住居跡 (第29・30図)

**位置** 調査区西部のZ-6g7区で、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長軸5.05m、短軸4.92mの方形で、主軸方向はN-45°-Eである。壁高は12~21cmで、直立している。

**床** 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。南コーナー部の貯蔵穴をL字状に囲む幅17~38cm、高さ4cm・6cmの高まりが確認されている。壁溝が全周している。また、焼土がほぼ全域で確認されている。

**炉** 中央部の北東寄りに位置している。径20cmの円形で、床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用した地床炉である。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量

**ピット** 6か所。P1~P4は深さ15~23cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5・P6は深さ20~33cmで、南西壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**貯蔵穴** 南コーナー部に位置している。長軸92cm、短軸64cmの隅丸長方形で、深さは35cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量  
 2 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量  
 3 暗褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量  
 4 暗褐色 ロームブロック少量  
 5 褐色 ローム粒子中量

**覆土** 16層に分層される。ブロック状の不自然な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量  
 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量  
 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量  
 4 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量  
 5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量  
 6 赤褐色 焼土粒子多量  
 7 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量  
 8 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
 9 暗褐色 ロームブロック微量  
 10 褐色 ロームブロック中量  
 11 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
 12 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
 13 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量  
 14 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
 15 暗褐色 ロームブロック少量  
 16 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

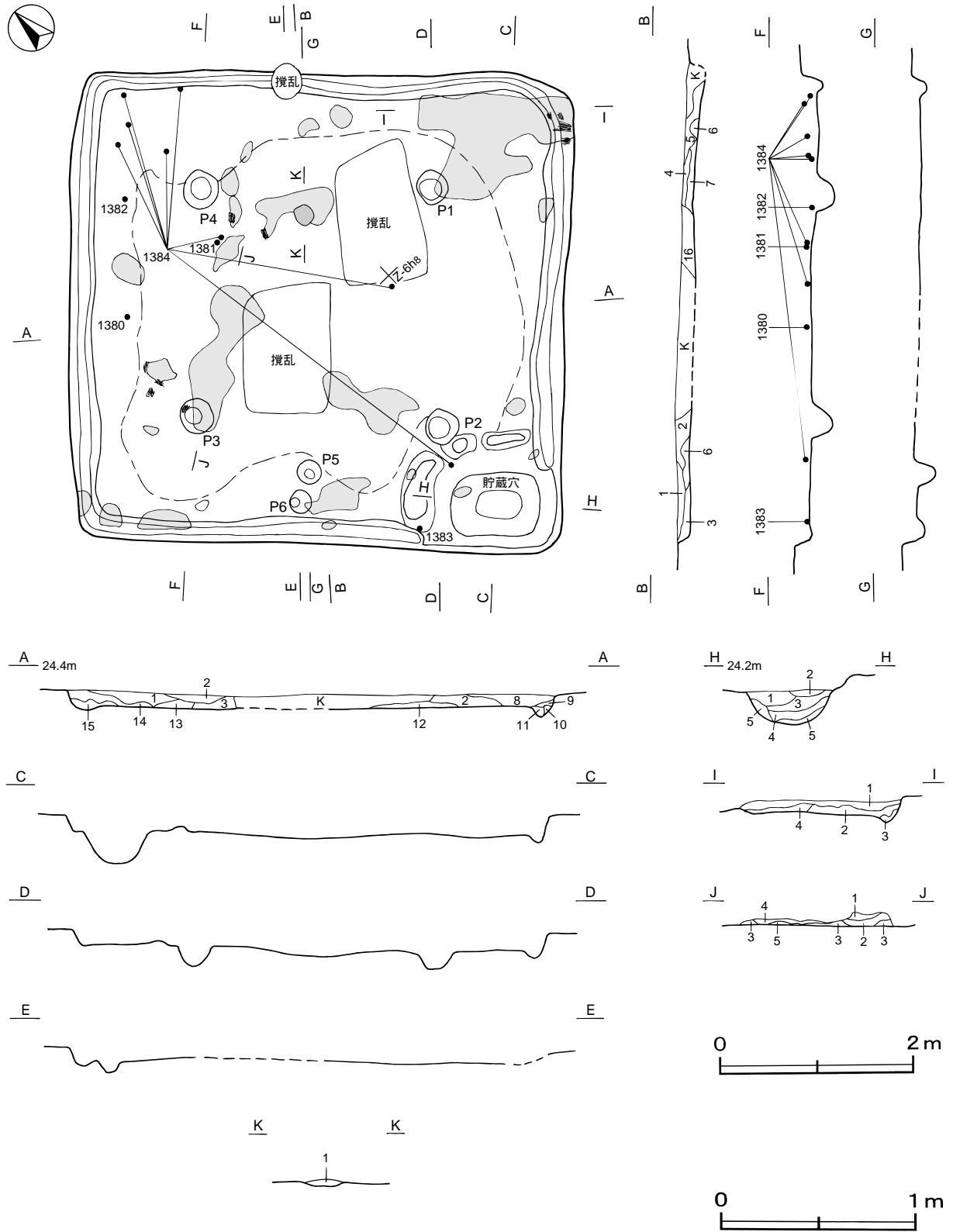
焼土土層解説 (I-I')

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量  
 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量  
 3 褐色 ローム粒子中量  
 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

焼土土層解説 (J-J')

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量  
 2 暗赤褐色 焼土粒子中量  
 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量  
 4 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量  
 5 暗赤褐色 焼土粒子多量

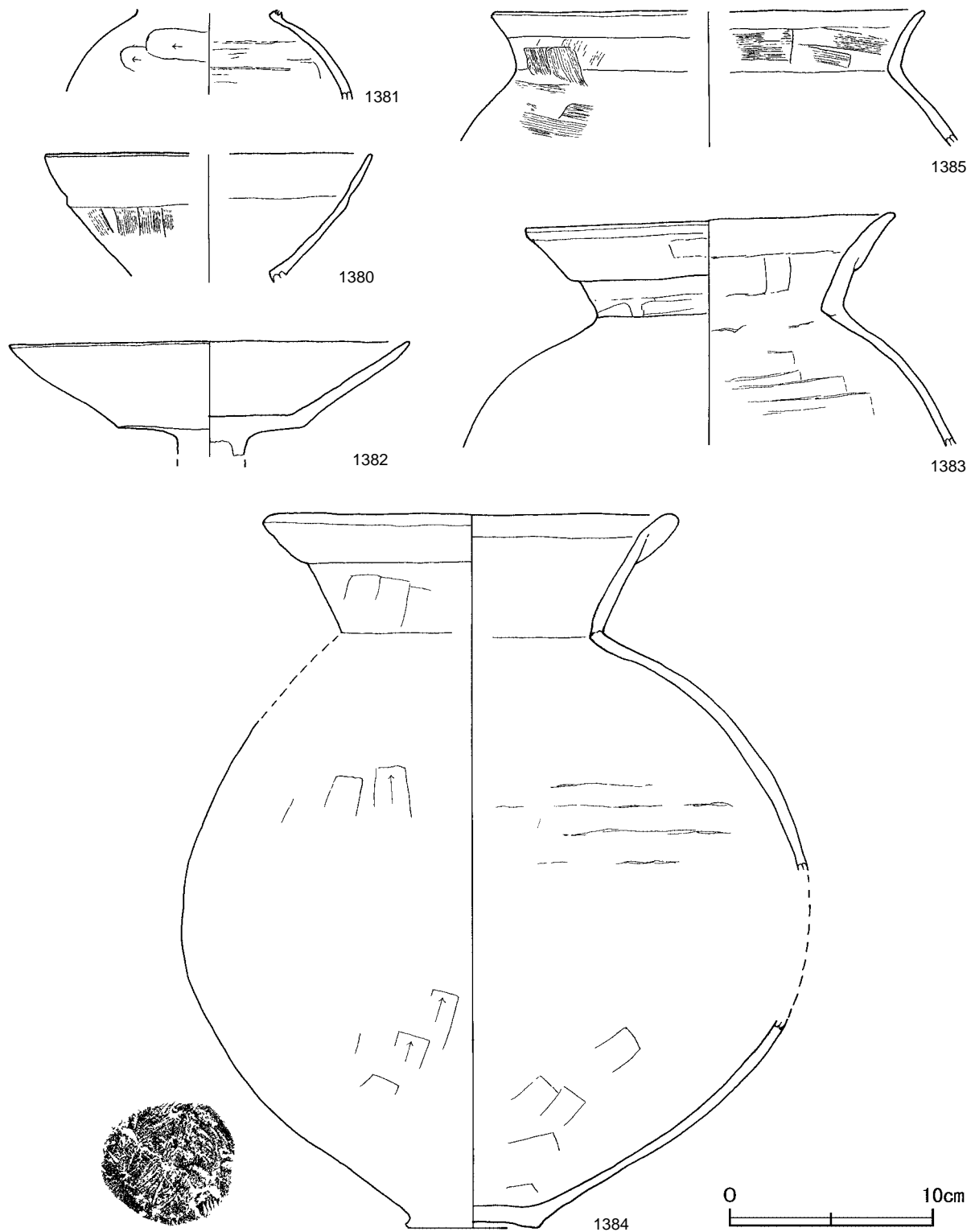
**遺物出土状況** 土師器片359点（高坏27，埴130，壺76，甕126）のほか，混入とみられる土師質土器片3点（不明）も出土している。口縁部や底部等から推測される土器の個体数は高坏2点，埴1点，壺3点，甕1点である。遺物は，北部にやや偏って，覆土上層から床面にかけて破片で出土しており，住居廃絶後に投棄され



第29図 第145号住居跡実測図

たものと考えられる。1384は、北コーナー部の覆土中層から南コーナー部の床面にかけて出土した破片が接合したものである。1383は、貯蔵穴付近の床面から、逆位で出土している。

**所見** 覆土上層から床面にかけて多くの焼土が確認されており、廃絶に伴い焼失した住居と考えられる。土器は焼土直上や床面から多く出土しており、おおむね時期差がみられないことから、住居廃絶時の一括投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から5世紀前葉と考えられる。



第30図 第145号住居跡出土遺物実測図

第145号住居跡出土遺物観察表 (第30図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1380	土師器	埴	[16.0]	(6.3)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 後ナデ 内面ナデ	頸部外面ハケ目調整	床面	10% 内面剥離
1381	土師器	埴	-	(4.2)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ	内面ヘラナデ	床面	30%
1382	土師器	高坏	19.7	(5.6)	-	長石・石英	暗赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ カ後ナデ 内面ナデ	坏部外面ハケ目調整	床面	50% PL28 内面剥離
1383	土師器	壺	18.0	(11.5)	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ テ 体部内・外面ナデ	頸部内・外面ヘラナ デ	床直上	30%
1384	土師器	壺	19.6	35.2	6.4	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ ヘラ削り 体部内面下半ヘラ削り	頸部から体部外面ヘ ラ削り 底部ヘラ削り	覆土上層~ 床面	70% PL29
1385	土師器	甗	[21.0]	(6.7)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 調整 体部外面ハケ目調整	頸部内・外面ハケ目 調整 内面ナデ	覆土上層	10%

第146号住居跡 (第31~33図)

**位置** 調査区西部のZ-f6f5区で、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長軸5.19m、短軸4.35mの長方形で、主軸方向はN-33°-Wである。壁高は21~27cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で、北西・南東壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。間仕切り溝が、北西壁際に2条、北東壁際に1条確認されている。焼土が壁際に散在して確認されている。

**炉** ほぼ中央部に位置している。長径57cm、短径46cmの楕円形で、床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用した地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量      2 褐色 ローム粒子中量

**ピット** 3か所。P1は深さ6cmで、配置から貯蔵穴に係るピットと考えられる。P2・P3は、深さ20cm・32cmで、硬化面より下層から確認されており、性格は不明である。

**貯蔵穴** 南東壁際に位置している。長軸84cm、短軸60cmの不整形長方形である。深さ30cmで、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 にぶい赤褐色 ロームブロック・木片少量      2 黒褐色 ロームブロック中量

**覆土** 19層に分層される。含有物は、第2層に焼土ブロック中量、第6・7層に炭化粒子中量、中層から下層にかけてはロームブロックが中量及び多量混入している。ブロック状の不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

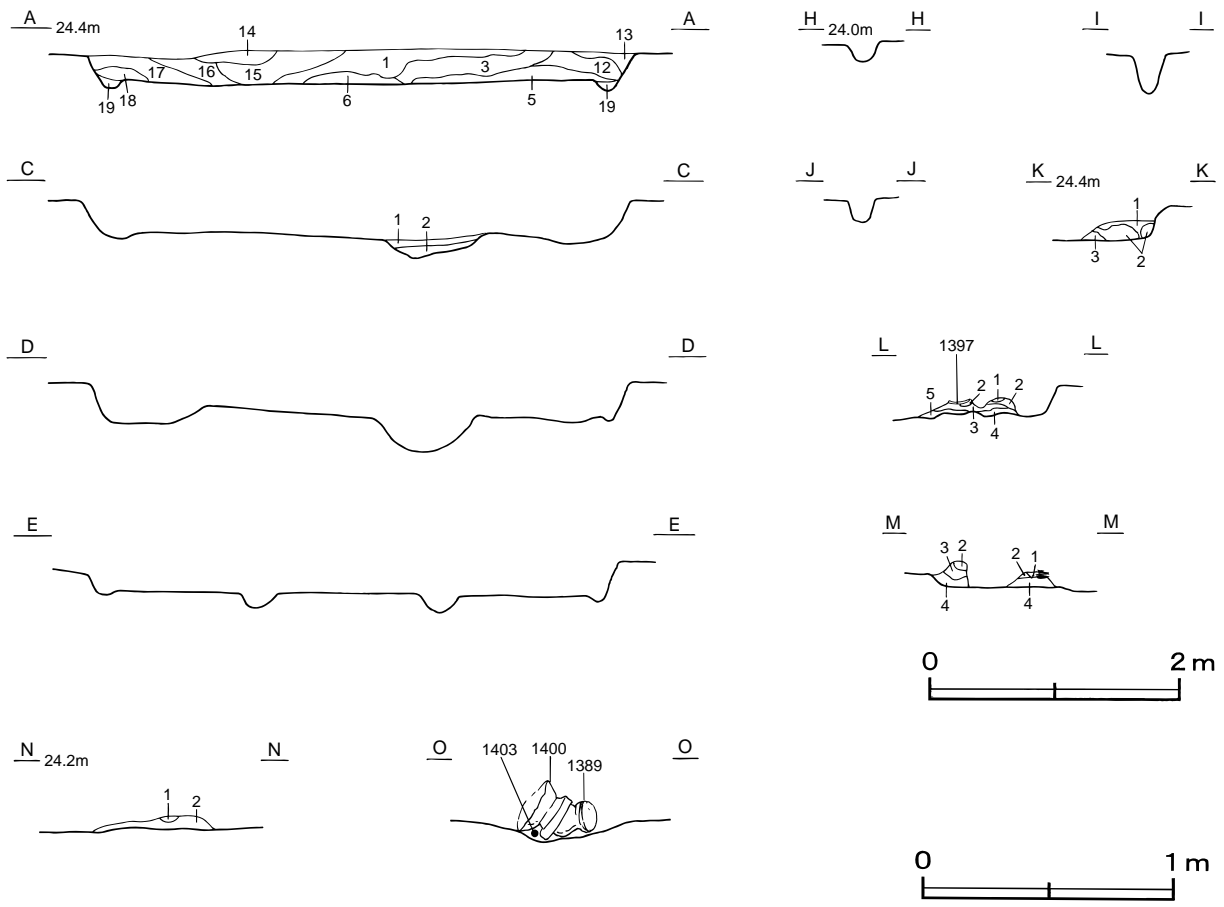
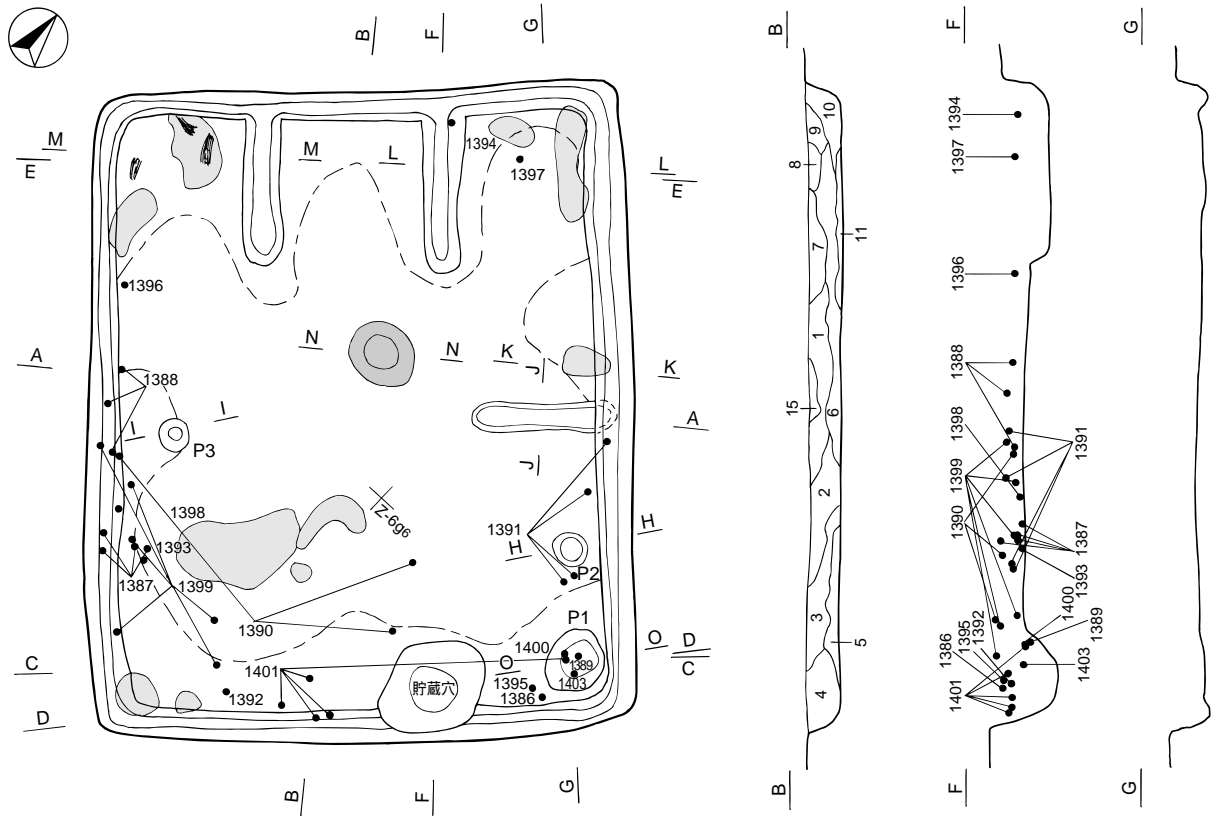
- |        |                             |         |                           |
|--------|-----------------------------|---------|---------------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量              | 10 暗褐色  | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量     |
| 2 暗赤色  | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 11 褐色   | ローム粒子中量                   |
| 3 黒色   | 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 12 暗褐色  | ロームブロック少量, 炭化粒子微量         |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量    | 13 暗褐色  | ロームブロック中量                 |
| 5 暗褐色  | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量   | 14 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量    |
| 6 黒褐色  | ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土ブロック微量    | 15 暗褐色  | ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量  |
| 7 黒褐色  | 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量   | 16 黒褐色  | ロームブロック多量, 炭化粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 8 黒色   | 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量   | 17 黒褐色  | ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量     |
| 9 暗褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量      | 18 暗褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量            |
|        |                             | 19 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量         |

焼土土層解説 (K-K')

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量      3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量  
2 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量

焼土土層解説 (L-L')

- 1 赤褐色 焼土粒子中量      4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量  
2 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量      5 褐色 ローム粒子中量  
3 暗褐色 ロームブロック少量



第31图 第146号住居跡実測图

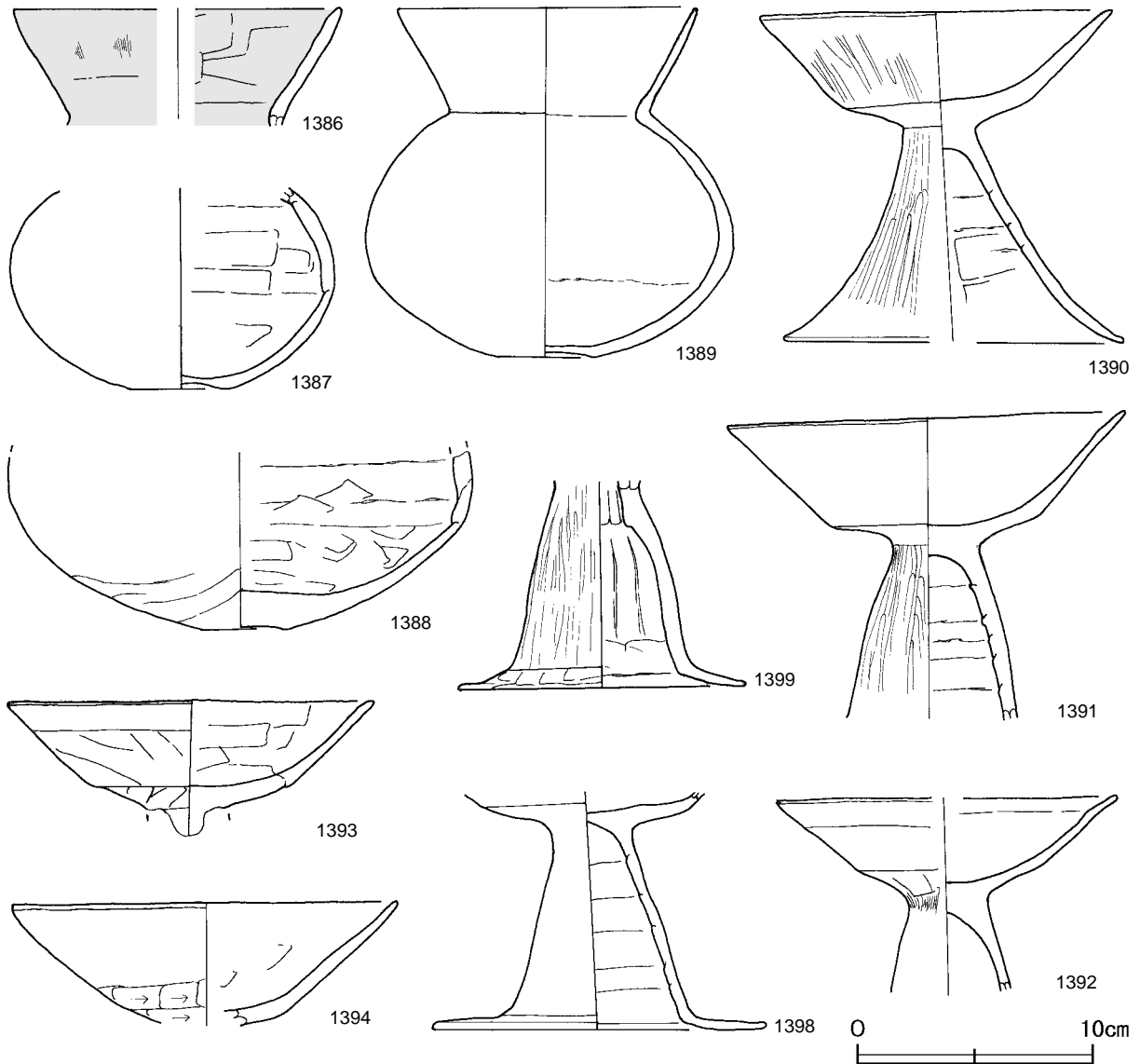


焼土土層解説 (M - M')

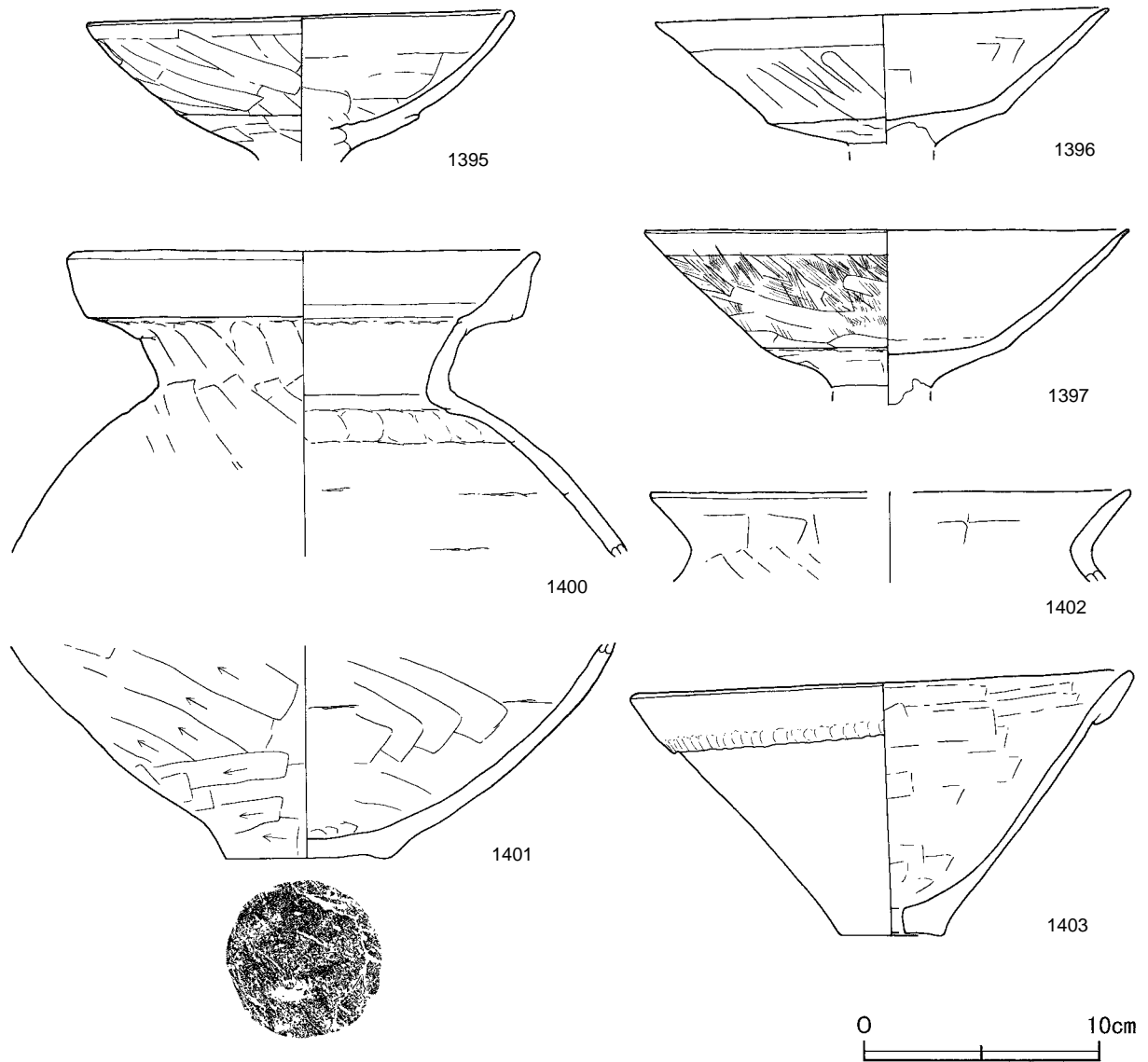
1 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量  
 2 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量

3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量  
 4 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片345点 (高坏180, 埴36, 壺49, 甕76, 甑4) のほかに, 混入した須恵器片1点 (坏), 陶器片2点, 土師質土器片2点 (鍋類) も出土している。口縁部・底部などから推測される土器の個体数は, 高坏12点, 埴4点, 壺1点, 甕1点, 甑1点である。遺物は, 南東部や南西壁際に集中して, 覆土中層から床面にかけて多量に出土している。1393~1397は, 覆土下層や床面から, 坏部が正位又は逆位で出土している。1389・1400・1403は, P1の底面からほぼ完形で出土しており, 住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。  
**所見** 覆土下層から床面にかけて多くの焼土が確認されており, 廃絶に伴い焼失した住居と考えられる。出土土器は, 焼土範囲の直上から床面にかけて出土した破片が接合したものがみられ, 貯蔵穴底面から出土した土器とおおむね時期差がみられないことから, 住居廃絶時の一括投棄と考えられる。時期は, 出土土器から5世紀前葉と考えられる。



第32図 第146号住居跡出土遺物実測図(1)



第33図 第146号住居跡出土遺物実測図(2)

第146号住居跡出土遺物観察表(第32・33図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1386	土師器	埴	[13.8]	(5.0)	-	長石・石英	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 頸部外面ハケ目調整後ナデ 内面ヘラナデ	覆土中層	10%
1387	土師器	埴	-	(8.5)	4.2	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ナデ 内面ヘラナデ 底部ヘラナデ	覆土上層~床面	40%
1388	土師器	埴	-	(7.5)	3.6	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	覆土中層	30%
1389	土師器	埴	12.8	15.0	4.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 底部ヘラ削り	P1底部	95% PL28
1390	土師器	高坏	14.7	14.2	[14.3]	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 坏部外面ヘラ磨き 内面ナデ 脚部外面ヘラ磨き 内面下半ヘラナデ	覆土上層~下層	50% PL28
1391	土師器	高坏	17.0	(13.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 坏部内・外面横ナデ 脚部外面ヘラ磨き	覆土中層	40% PL28
1392	土師器	高坏	[14.4]	(8.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 坏部内・外面ナデ	床面	20%
1393	土師器	高坏	15.6	(5.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 坏部内・外面ヘラナデ	床面	50%
1394	土師器	高坏	16.4	(5.4)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 坏部外面上半ナデ 下半ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	40%
1395	土師器	高坏	18.0	(6.4)	-	雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 坏部内・外面ヘラナデ	覆土下層	45%
1396	土師器	高坏	19.3	(5.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 坏部内・外面ヘラナデ	覆土下層	50%
1397	土師器	高坏	20.5	(7.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 坏部外面ハケ目調整後ナデ 内面ナデ	覆土下層	45%
1398	土師器	高坏	-	(10.1)	14.2	長石・石英	橙	普通	坏部内・外面ナデ 脚部外面ナデ	床面	40%

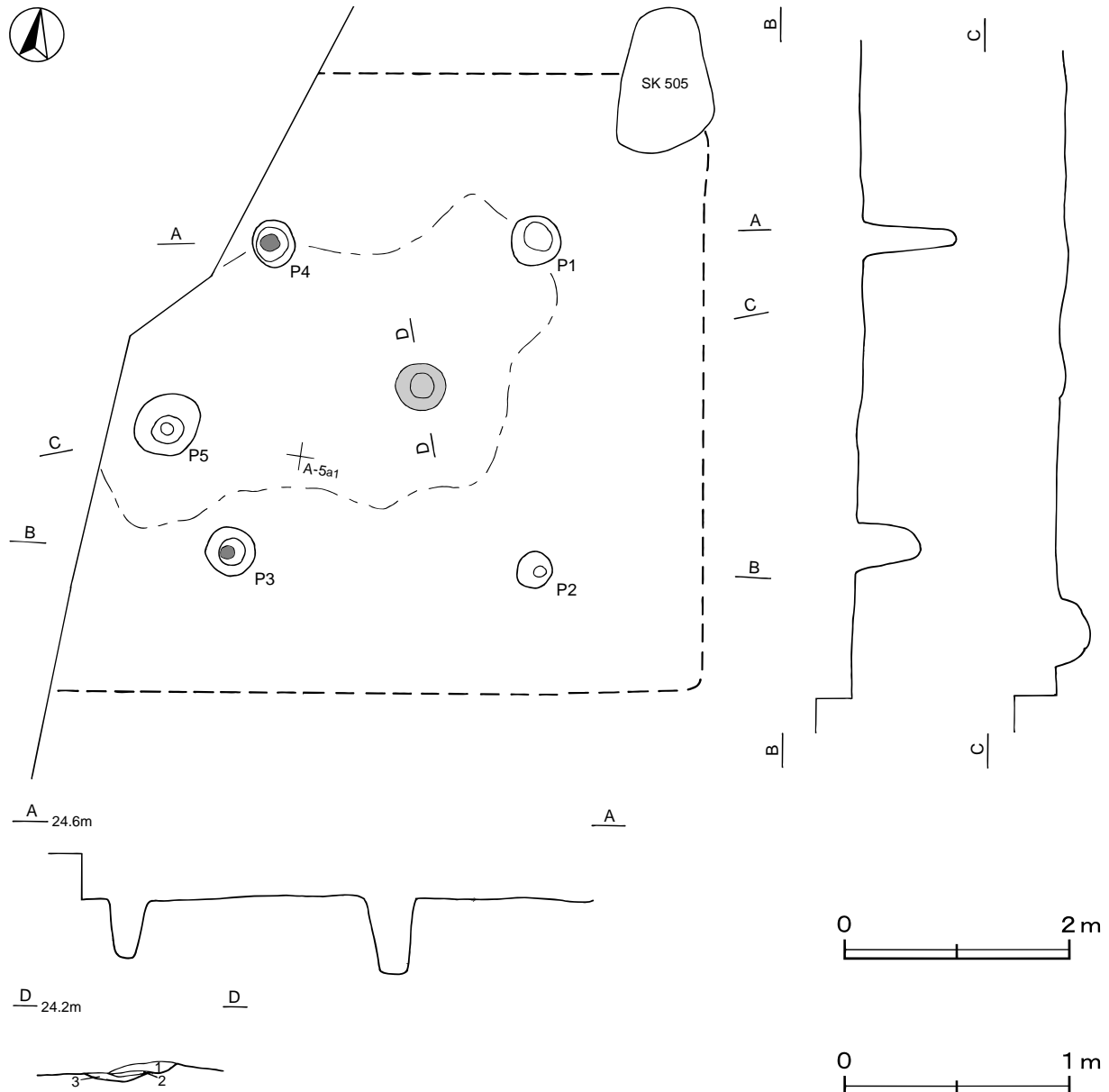
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1399	土師器	高坏	-	(8.8)	12.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	脚部外面磨き 下端ヘラナデ 内面下半ヘラナデ	覆土上層～下層	40%
1400	土師器	壺	19.7	(13.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面指頭圧痕 頸部～体部外面ヘラナデ	P 1 底部	40% PL29
1401	土師器	壺	-	(9.1)	7.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラ削り 底部ヘラ削り	覆土中層～下層	30%
1402	土師器	甗	[20.4]	(3.8)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 頸部内・外面ヘラナデ	覆土下層	5%
1403	土師器	甗	20.8	11.4	4.4	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 口縁部外面下端押圧 体部外面ヘラナデ 内面指頭圧痕 底部単孔	P 1 底部	95% PL29

### 第147号住居跡 (第34図)

**位置** 調査区西部のZ・5j1区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第505号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

**確認状況** 耕作による削平を受け，床面が露出した状況で確認された。炉やピットの配置から規模と形状を推定した。



第34図 第147号住居跡実測図

**規模と形状** 西部が調査区域外に延びているため、南北軸は5.58mで、東西軸は5.50mだけが確認されている。平面形は方形または長方形と推測され、南北軸方向はN - 7° - Wである。

**床** 平坦で、炉周辺が踏み固められている。

**炉** ほぼ中央部に位置している。径42cmの円形で、床面を5cmほど掘り込んだ地床炉である。炉床は火熱により赤変硬化している。

炉土層解説

- |                                  |                            |
|----------------------------------|----------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子微量          |                            |

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ52～82cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ31cmで、性格は不明である。

**遺物出土状況** 土師器片21点（高坏13, 甕8）が出土している。いずれも細片で図示できない。

**所見** 時期は、積極的に決定できる出土土器はないが、遺構の様相から5世紀代と考えられる。

**第148号住居跡**（第35～37図）

**位置** 調査区西部のZ-5e1区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 北部と東部の大部分は調査区域外に延びているため、確認できた範囲は、北西軸3.40m、北東軸2.90mである。平面形は方形もしくは長方形と推測され、北西軸方向はN - 50° - Wである。壁高は10～15cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が周回している。

**ピット** 深さ36cmで、性格は不明である。

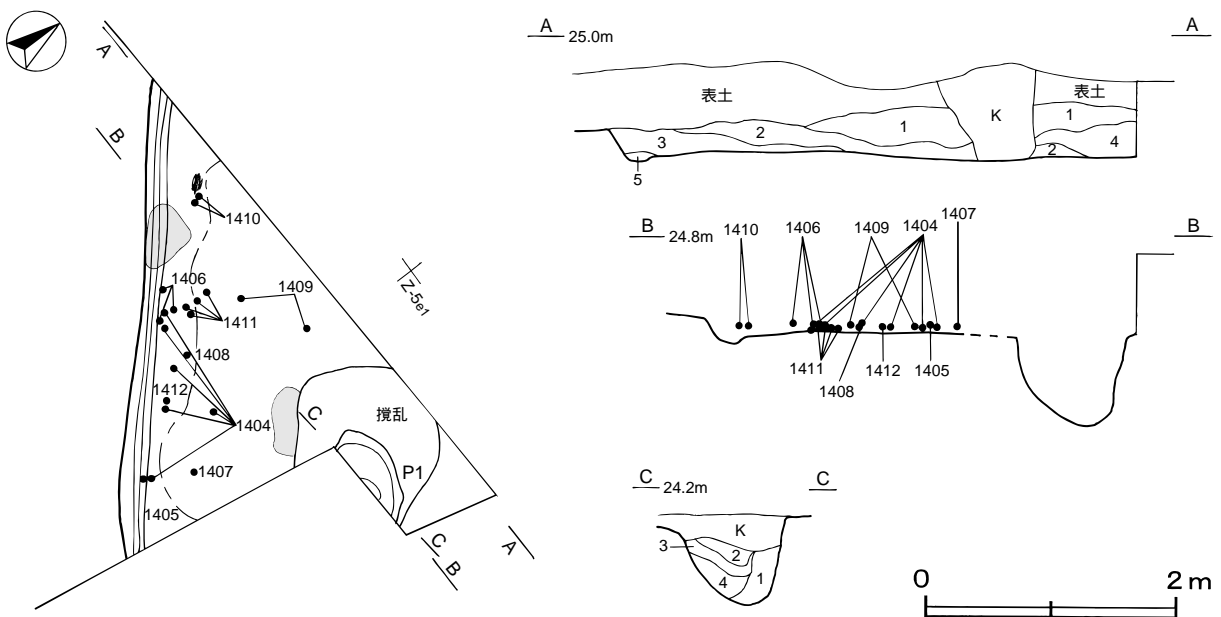
ピット土層解説

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量    | 3 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック少量 | 4 黒褐色 ロームブロック微量 |

**覆土** 5層に分層される。ロームブロックを含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

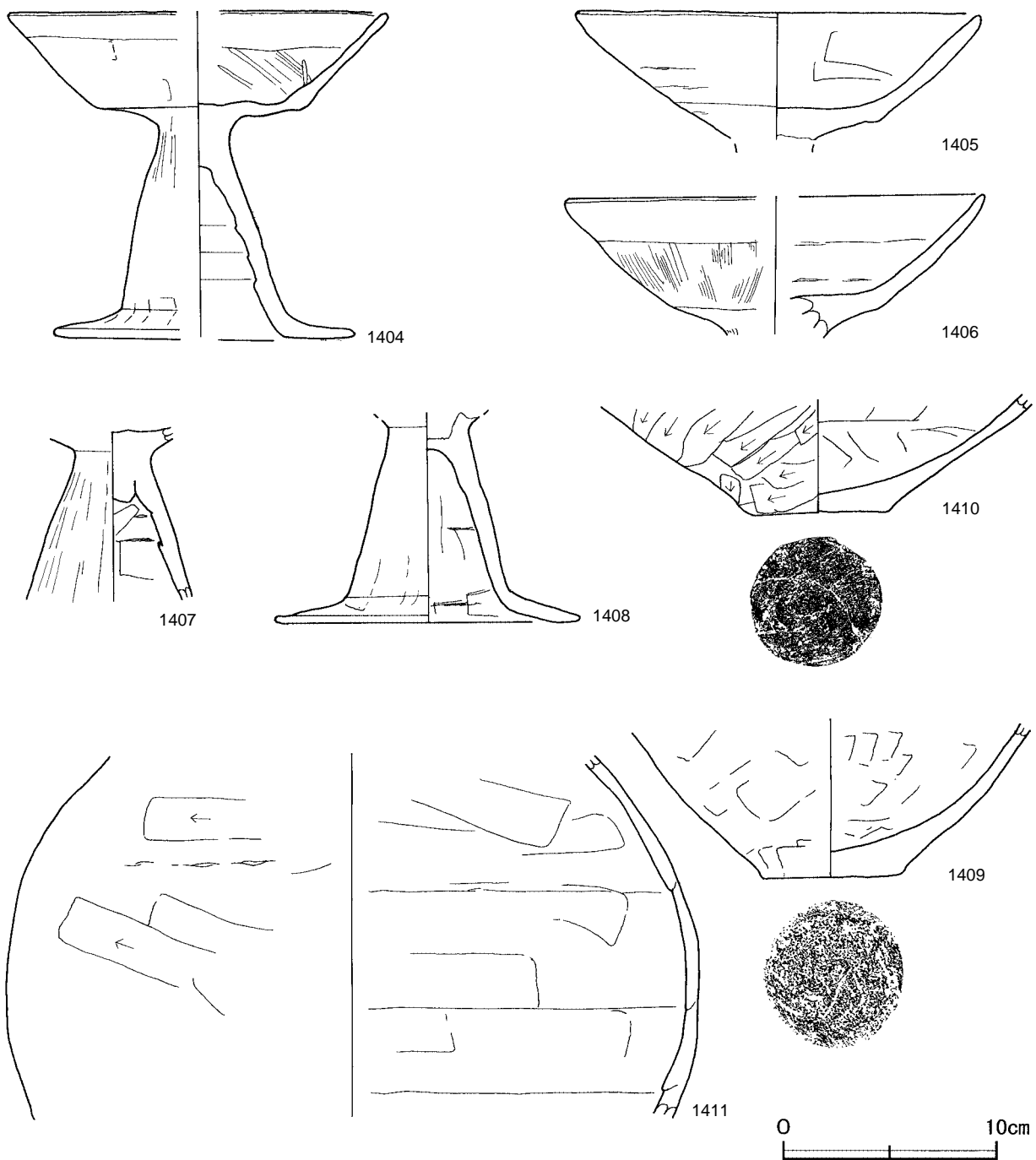
- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒色 ロームブロック中量         | 4 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量        | 5 褐色 ローム粒子中量    |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |                 |



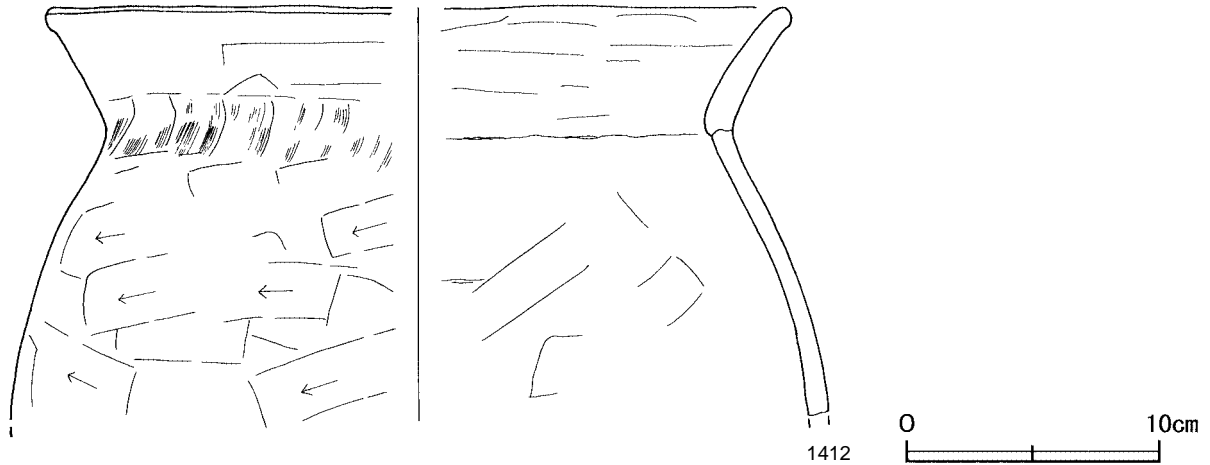
第35図 第148号住居跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片115点（高坏53，埴3，壺46，甕13）のほか、混入した須恵器片1点（坏）も出土している。口縁部や底部等から推測される土器の個体数は、高坏7点，埴1点，壺3点，甕2点である。遺物は層厚の薄い覆土上層から床面にかけて、壁際に集中して出土している。1404は、覆土下層から床面にかけて出土しており、北西壁際に大きな破片が散在している。1408は、床面から一括して出土している。

**所見** 床面から焼土が確認されており、近隣の同時期の住居と同様に廃絶に伴い焼失した住居と考えられる。遺物は、覆土下層から床面にかけて出土しており、概ね時期差がみられないことから、住居廃絶時に一括投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から5世紀前葉と考えられる。



第36図 第148号住居跡出土遺物実測図（1）



第37図 第148号住居跡出土遺物実測図(2)

第148号住居跡出土遺物観察表(第36・37図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1404	土師器	高坏	[17.6]	15.3	[13.9]	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラ磨き 脚部外面・内面下半ヘラナデ	覆土下層～床面	60% PL28
1405	土師器	高坏	18.8	(5.9)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 坏部内・外面ヘラナデ	覆土下層	35%
1406	土師器	高坏	[19.6]	(6.6)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 坏部外面ハケ目調整 後ナデ 内面ナデ	覆土下層	30%
1407	土師器	高坏	-	(8.0)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	脚部外面・内面下半ヘラナデ	覆土下層	30%
1408	土師器	高坏	-	(10.0)	14.2	長石・石英	橙	普通	脚部外面ヘラナデ後ナデ 内面下半ヘラナデ	床直上	50%
1409	土師器	壺	-	(7.1)	6.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラナデ	覆土下層～床面	10% 内面剥離
1410	土師器	壺	-	(5.5)	6.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底面ヘラ削り	覆土下層	10% 内面炭化物付着
1411	土師器	壺	-	(16.9)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	20%
1412	土師器	甕	[29.0]	(16.2)	-	長石・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 頸部内・外面ヘラナデ 内面ヘラナデ	覆土下層	20%

### 第150号住居跡(第38図)

**位置** 調査区西部のZ-5j5区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**確認状況** 耕作による削平を受け, 北東部の床面が露出した状態で確認された。南東・南西壁やピット及び貯蔵穴の配置から規模と形状を推定した。

**規模と形状** 長軸3.70m, 短軸3.65mで, 平面形は方形と推測され, 主軸方向はN-17°-Wである。壁高は0~15cmで, 外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で, 中央部から南西壁際にかけて踏み固められている。

**ピット** 6か所。P1~P4は深さ23~34cmで, 配置と形状から主柱穴と考えられる。P5・P6は深さ11cm・29cmで, 性格は不明である。

**貯蔵穴** 東コーナー部に位置している。長径106cm, 短径86cmの楕円形で, 深さは41cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がっている。

#### 貯蔵穴土層解説

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量  | 3 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |

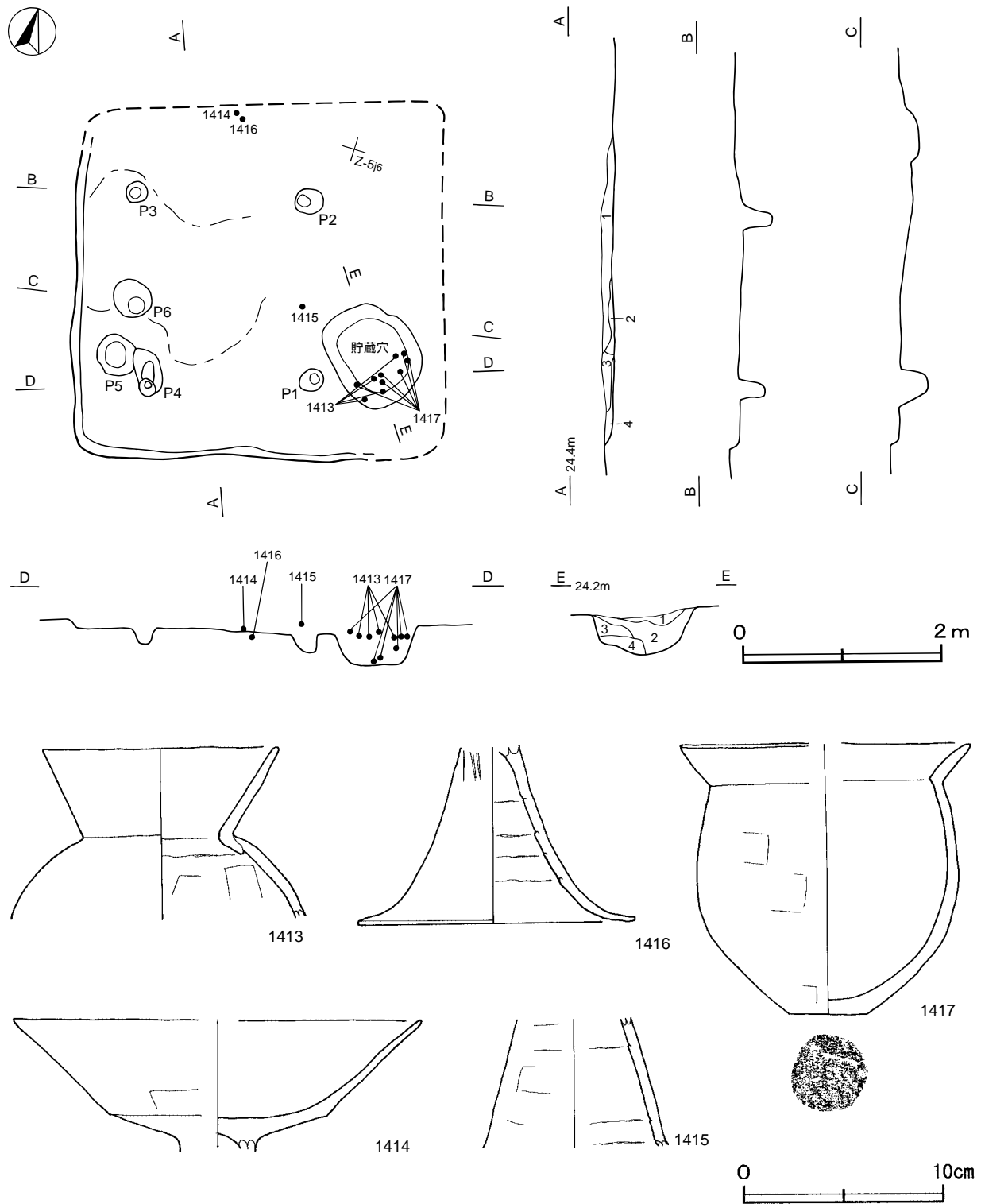
**覆土** 4層に分層される。耕作による削平及び層厚が薄いため, 堆積状況は不明である。

#### 土層解説

- |                             |                                |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 | 3 極暗褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量   |
| 2 褐色 ローム粒子中量                | 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師器片163点（高坏81，埴14，甕68）が出土している。口縁部や底部等から推測される土器の個体数は、高坏3点，埴1点，甕1点である。1413・1417は、貯蔵穴の覆土中から出土した破片が接合したものである。

**所見** 時期は，出土土器から5世紀前葉と考えられる。



第38図 第150号住居跡・出土遺物実測図

第150号住居跡出土遺物観察表 (第38図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1413	土師器	埴	11.5	(8.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ	頸部～体部外面ナデ	貯蔵穴覆土中	30%
1414	土師器	高坏	[20.2]	(6.4)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	坏部内・外面ナデ	床面	20%
1415	土師器	高坏	-	(6.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	脚部外面ヘラナデ		覆土下層	20%
1416	土師器	高坏	-	(8.8)	13.8	長石・石英	明赤褐	普通	脚部外面ナデ	内面下端ヘラナデ	覆土下層	40%
1417	土師器	甕	[14.6]	13.5	3.9	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 底部ヘラナデ	体部内・外面ヘラナデ	貯蔵穴覆土中	40% PL29

表3 古墳時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考 (旧 新)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴					
107A	A・1g5	N・16°・W	方形	5.55 × 5.28	2～10	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	不明	土師器・須恵器・鉄滓	7世紀前葉	SI107B 本跡 SB32	
107B	A・1g5	N・17°・W	[長方形]	[4.31] × 3.87	0～7	平坦	ほぼ全周	4	1	-	竈1	-	不明	土師器・須恵器	7世紀中葉以前	本跡 SI107A	
114A	A・1g9	N・3°・W	方形	4.50 × 4.10	13～22	平坦	ほぼ全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器・須恵器・土製品・鉄製品	7世紀前葉	SI114B 本跡 SI118	
114B	A・1g9	N・2°・W	方形	3.50 × 3.45	5～10	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	人為		7世紀前葉以前	本跡 SI114A・118	
123	A・5a0	N・42°・E	方形	7.40 × 7.30	15～25	平坦	ほぼ全周	3	-	2	炉1	2	人為	土師器・土製品・鉄製品・石製品	5世紀前葉		
124	A・4c3	N・55°・E	[方形・長方形]	[6.35] × [5.70]	0	平坦	-	-	-	2	炉4	1	不明	土師器	5世紀前葉から中葉	本跡 SI125, SD10	
127	Z・4h1	N・44°・W	[方形・長方形]	[7.60] × [5.45]	0～5	平坦	-	-	-	2	炉1	-	不明	土師器・須恵器・鉄製品	5世紀前葉から中葉		
132	A・2h8	N・16°・W	長方形	7.00 × 6.32	45～54	平坦	全周	4	3	-	竈1	-	人為	土師器・須恵器・石器・鉄製品・鉄滓	7世紀前葉	本跡 SB38, PG11, SK406	
138	A・2e9	N・20°・W	[方形・長方形]	7.80 × (5.80)	16～28	平坦	[全周]	4	1	-	竈1	-	人為	土師器・須恵器・土製品・鉄製品・鉄滓	7世紀前葉以前	本跡 SI136 ・137, SK429	
140	A・2e1	N・20°・W	長方形	7.00 × 5.78	22～25	平坦	全周	4	1	-	竈2	-	人為	土師器・須恵器・土製品・鉄滓	7世紀前葉	本跡 SB39, SE5	
145	Z・6g7	N・45°・E	方形	5.05 × 4.92	12～21	平坦	全周	4	2	-	炉1	1	人為	土師器	5世紀前葉		
146	Z・6f5	N・33°・W	長方形	5.19 × 4.35	21～27	平坦	全周	-	-	3	炉1	1	人為	土師器	5世紀前葉		
147	Z・5j1	N・7°・W	[方形・長方形]	[5.58] × [5.50]	0	平坦	-	4	-	1	炉1	-	不明	土師器	5世紀代		
148	Z・5e1	N・50°・W	[方形・長方形]	(3.40) × (2.90)	10～15	平坦	[全周]	-	-	1	-	-	人為	土師器	5世紀前葉		
150	Z・5j5	N・17°・W	[方形]	[3.70] × [3.65]	0～15	平坦	-	4	-	2	-	1	不明	土師器	5世紀前葉		

3 奈良・平安時代の遺構と遺物

奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居跡37軒、掘立柱建物跡14棟、鍛冶工房跡2基、大形竪穴状遺構1基、溝跡1条、土坑6基が確認された。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第100A号住居跡 (第39・40図)

**位置** 調査区中央部のA・2e9区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第100B号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸3.50m、短軸3.30mの方形で、主軸方向はN・5°・Wである。壁高は44cmで、直立している。

**床** 平坦で、中央部が硬化している。壁溝が全周している。

**竈** 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで89cm、袖部幅100cmである。袖部は、床面とほぼ同じ高さの地山の上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面をわずかに掘りくぼめて使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に11cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。第3層は天井部の崩落土と考えられる。



竈土層解説

- |          |                              |        |                            |
|----------|------------------------------|--------|----------------------------|
| 1 褐色     | ローム粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量       | 8 暗褐色  | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量      |
| 2 灰褐色    | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量   | 9 灰色   | 砂質粘土粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 褐灰色    | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量        | 10 赤灰色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色   | 焼土粒子中量                       | 11 灰赤色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量   |
| 5 暗赤褐色   | 焼土粒子中量, ロームブロック・砂質粘土粒子少量     | 12 黒褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子少量     |
| 6 黒褐色    | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 13 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・砂質粘土粒子少量   |
| 7 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量             |        |                            |

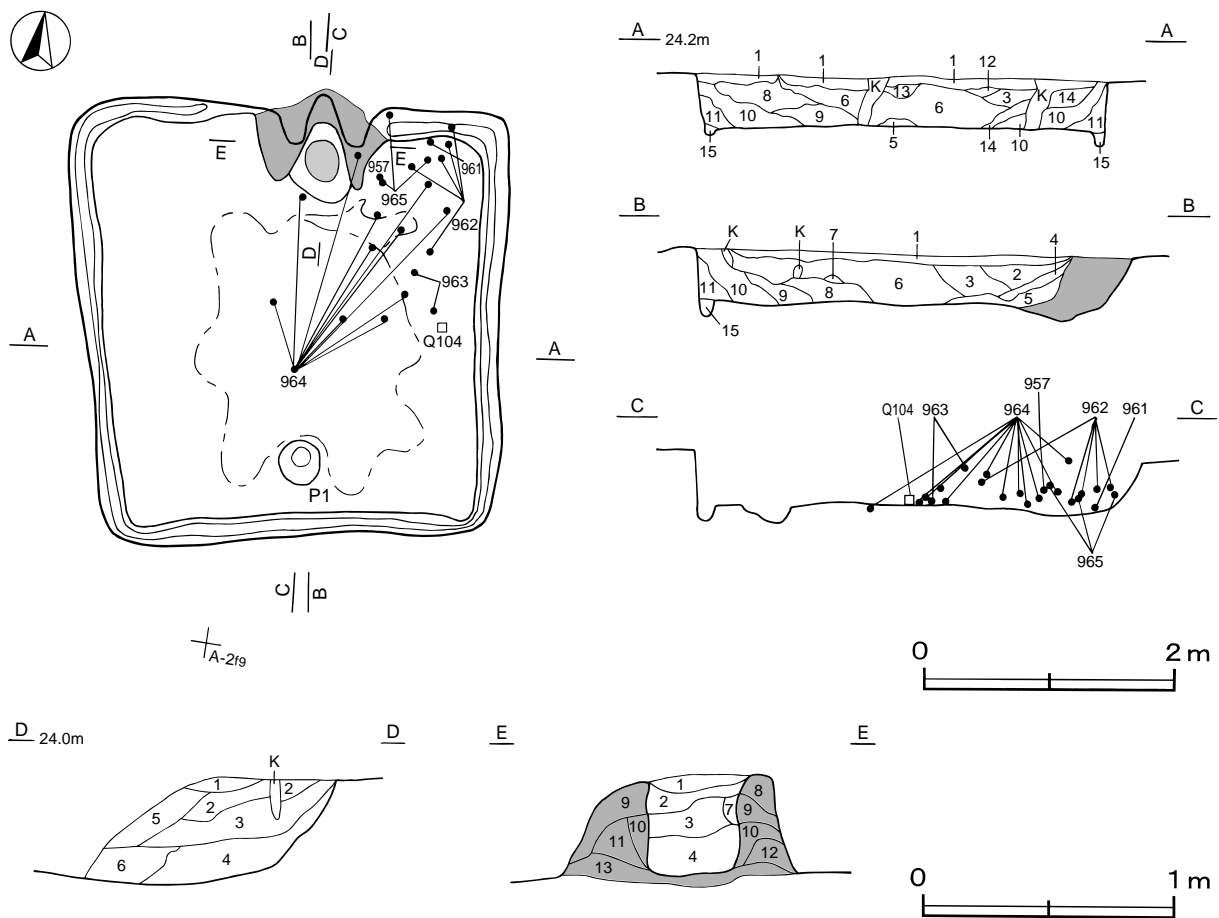
**ピット** 深さ12cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 15層に分層される。不規則な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |        |                                   |           |                                   |
|--------|-----------------------------------|-----------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量    | 9 にぶい黄褐色  | ロームブロック少量, 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量    | 10 暗褐色    | ローム粒子少量, 砂質粘土ブロック・炭化粒子微量          |
| 3 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量             | 11 黒褐色    | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量      |
| 4 黒褐色  | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量   | 12 褐灰色    | 砂質粘土ブロック多量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 5 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 13 灰黄褐色   | ローム粒子少量                           |
| 6 暗褐色  | ロームブロック少量, 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | 14 暗褐色    | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量      |
| 7 赤褐色  | 焼土ブロック多量                          | 15 にぶい黄褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量              |
| 8 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量    |           |                                   |

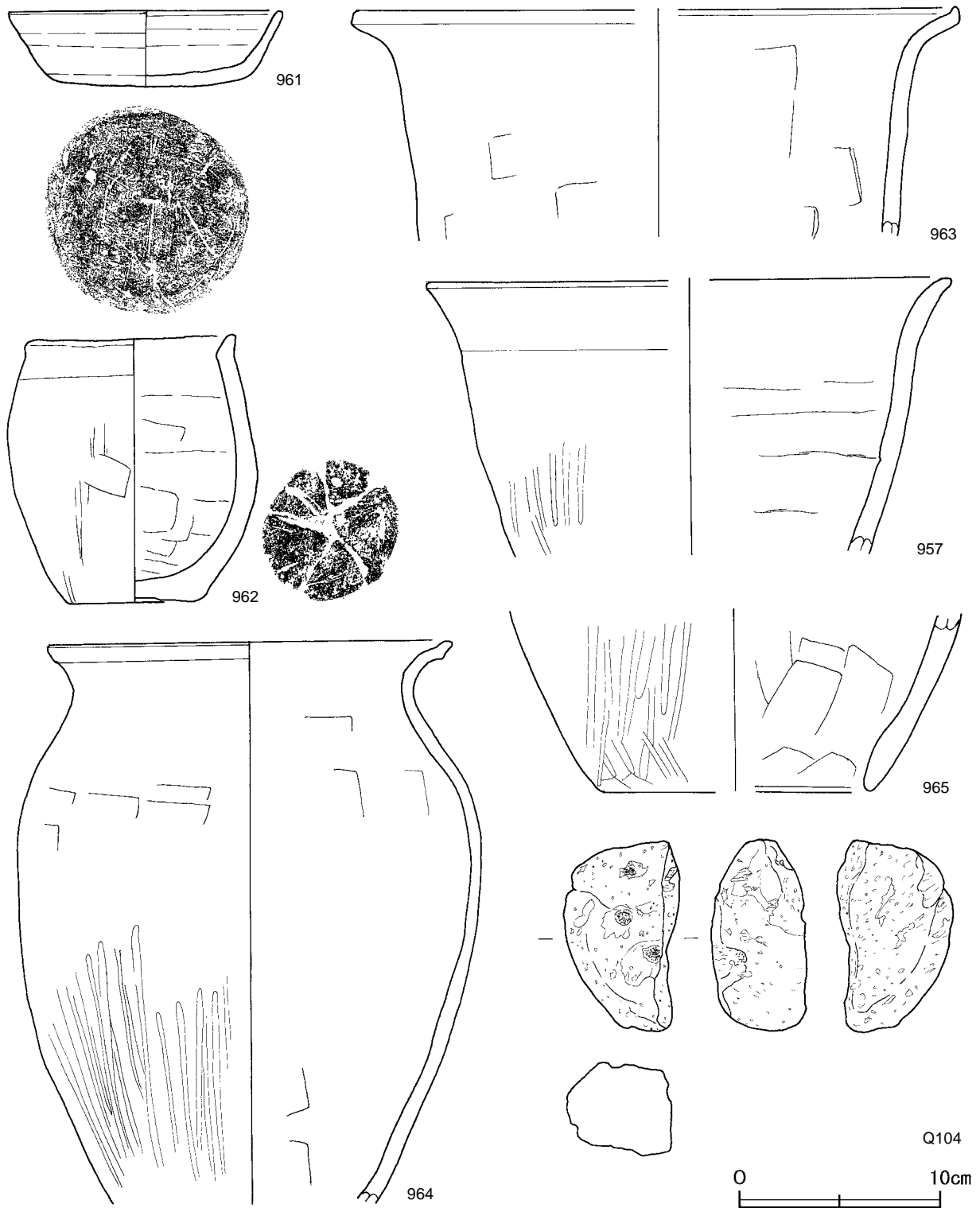
**遺物出土状況** 土師器片231点 (坏11, 甕213, 甗7), 須恵器片11点 (坏9, 壺類2), 鉄製品1点 (不明),



第39図 第100A号住居跡実測図

石製品 1 点 (不明) が出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は土師器杯 2 点, 甕 6 点, 甌 2 点, 須恵器杯 2 点である。土器片は, 北東部の覆土上層から床面にかけて集中して出土している。961は, 北壁際の床面から逆位で出土している。964は北東部の覆土上層から床面にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀前葉と考えられる。



第40図 第100A号住居跡出土遺物実測図

第100A号住居跡出土遺物観察表 (第40図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
961	須恵器	坏	13.5	3.8	10.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部内・外面口ロナデ 底部一方向の手持ちヘラ削り	床面	80% PL31
962	土師器	甕	10.4	13.4	6.7	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部ヘラナデ	覆土中層～下層	70% PL37
963	土師器	甕	[29.8]	(11.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	覆土上層～下層	10%
964	土師器	甕	20.0	(28.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面上半ヘラナデ 下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土上層～床面	60% PL39
965	土師器	甕	-	(8.9)	[13.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 体部下端内・外面ヘラ削り	覆土中層～下層	5%
967	土師器	甕	[26.0]	(13.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面上半ナデ 下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q104	不明	9.5	5.9	4.8	84.2	軽石	自然面を残す	覆土下層	

第100B号住居跡 (第41図)

**位置** 調査区中央部のA・2e9区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第100A号住居に掘り込まれている。

**確認状況** 第100A号住居跡の床下から確認されており, 壁溝と竈の配置から規模と形状を推定した。

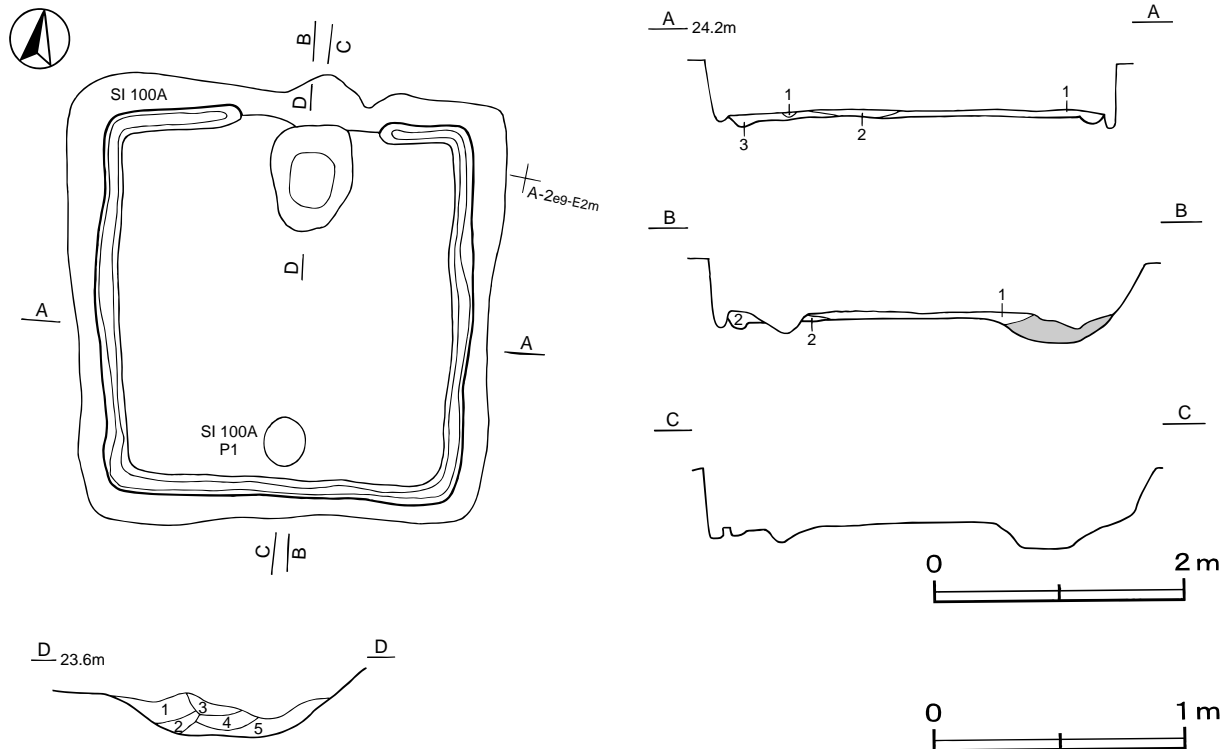
**規模と形状** 長軸3.08m, 短軸3.01mの方形と推定され, 主軸方向はN - 5° - Wである。

**床** 平坦で, 軟弱である。壁溝が全周している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。火床部の規模は奥行85cm, 幅54cmである。煙道部・袖部は残存していない。火床部は10cmほど掘りくぼめられており, 火床面は残存していない。

竈土層解説

- |                                      |                                  |
|--------------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック中量, 炭化材・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量 | 3 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック少量                       | 4 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
|                                      | 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 |



第41図 第100B号住居跡実測図

**覆土** 3層に分層される。堆積状況は、層厚が薄いため不明である。

土層解説

- |       |                |      |         |
|-------|----------------|------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 3 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量        |      |         |

**遺物出土状況** 土師器片1点(甕), 須恵器片1点(甕)が出土している。いずれも細片で図示できない。

**所見** 第100A号住居跡の床下から確認されており, 主軸方向がほぼ一致することから, 拡張して第100A号住居に建て替えたと考えられる。時期は, 重複関係から8世紀前葉以前と考えられる。

**第101号住居跡** (第42・43図)

**位置** 調査区中央部のA・2g0区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第20号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸3.45m, 短軸3.30mの方形で, 主軸方向はN-85°-Eである。竈北側から北東コーナー部にかけて奥行き50cmほど張り出している。壁高は14~18cmで, 外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。張り出し部は棚状施設の可能性が考えられる。

**竈** 2か所。竈1は東壁の南寄りに付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで85cm, 袖部幅125cmである。袖部は, 床面とほぼ同じ高さの地山の上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を20cmほど掘り込み, 火床部から外傾して立ち上がっている。竈2の袖部・煙道部は残存していない。火床部の規模は, 奥行き85cm, 幅65cmで, 25cmほど掘りくぼめられている。火床面は残存していない。竈2が残存していないことと, 竈1の袖部下から壁溝が確認されていることから, 竈2から竈1に作り替えたと考えられる。

竈1土層解説

- |        |                                   |           |                          |
|--------|-----------------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量      | 9 にぶい赤褐色  | 砂質粘土ブロック多量, ロームブロック微量    |
| 2 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量     | 10 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子多量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 褐灰色  | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック微量              | 11 暗赤色    | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量   |
| 4 黒褐色  | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量   | 12 赤褐色    | 砂質粘土ブロック多量, ローム粒子微量      |
| 5 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子・焼土粒子中量, ロームブロック少量          | 13 褐灰色    | 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子少量       |
| 6 赤褐色  | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量              | 14 暗褐色    | ローム粒子中量, 焼土粒子少量          |
| 7 暗褐色  | 砂質粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 15 灰褐色    | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量     |
| 8 黒褐色  | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量   | 16 暗赤褐色   | 焼土粒子・炭化粒子中量              |
|        |                                   | 17 灰褐色    | 砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量  |
|        |                                   | 18 褐灰色    | 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子微量       |
|        |                                   | 19 暗褐色    | 砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子微量       |

**ピット** 3か所。P1は深さ26cmで, 南壁下に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P2・P3はそれぞれ深さ17cmで, 性格は不明である。

**貯蔵穴** 北西コーナー部に位置している。長径86cm, 短径46cmの楕円形で, 深さは19cmである。底面は平坦で, 壁は直立している。

貯蔵穴土層解説

- |       |                                |       |           |
|-------|--------------------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | 炭化材中量, ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 2 暗褐色 | ロームブロック少量 |
|-------|--------------------------------|-------|-----------|

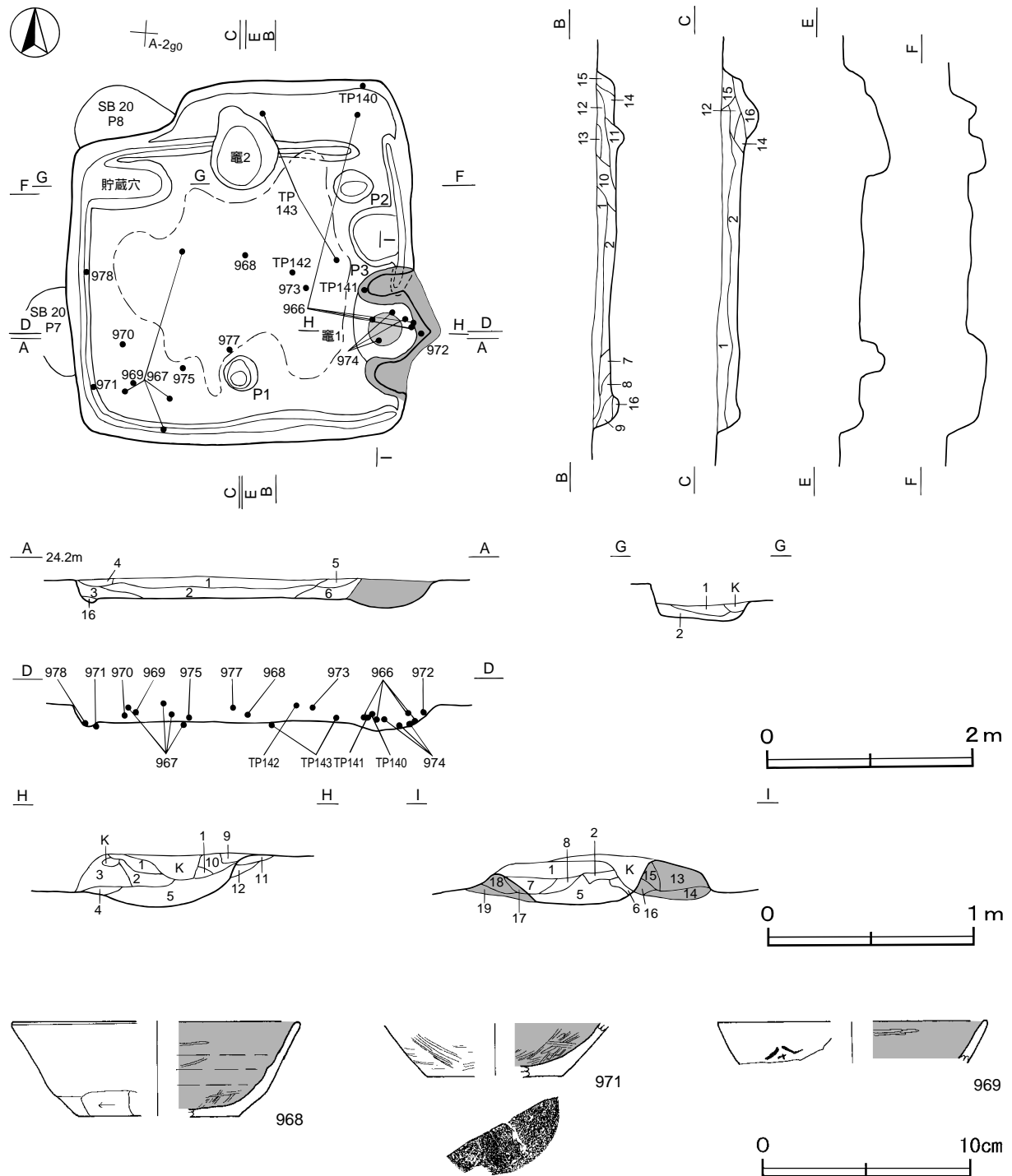
**覆土** 16層に分層される。ロームブロックを含む不自然な堆積状況を示しており, 人為堆積と考えられる。

土層解説

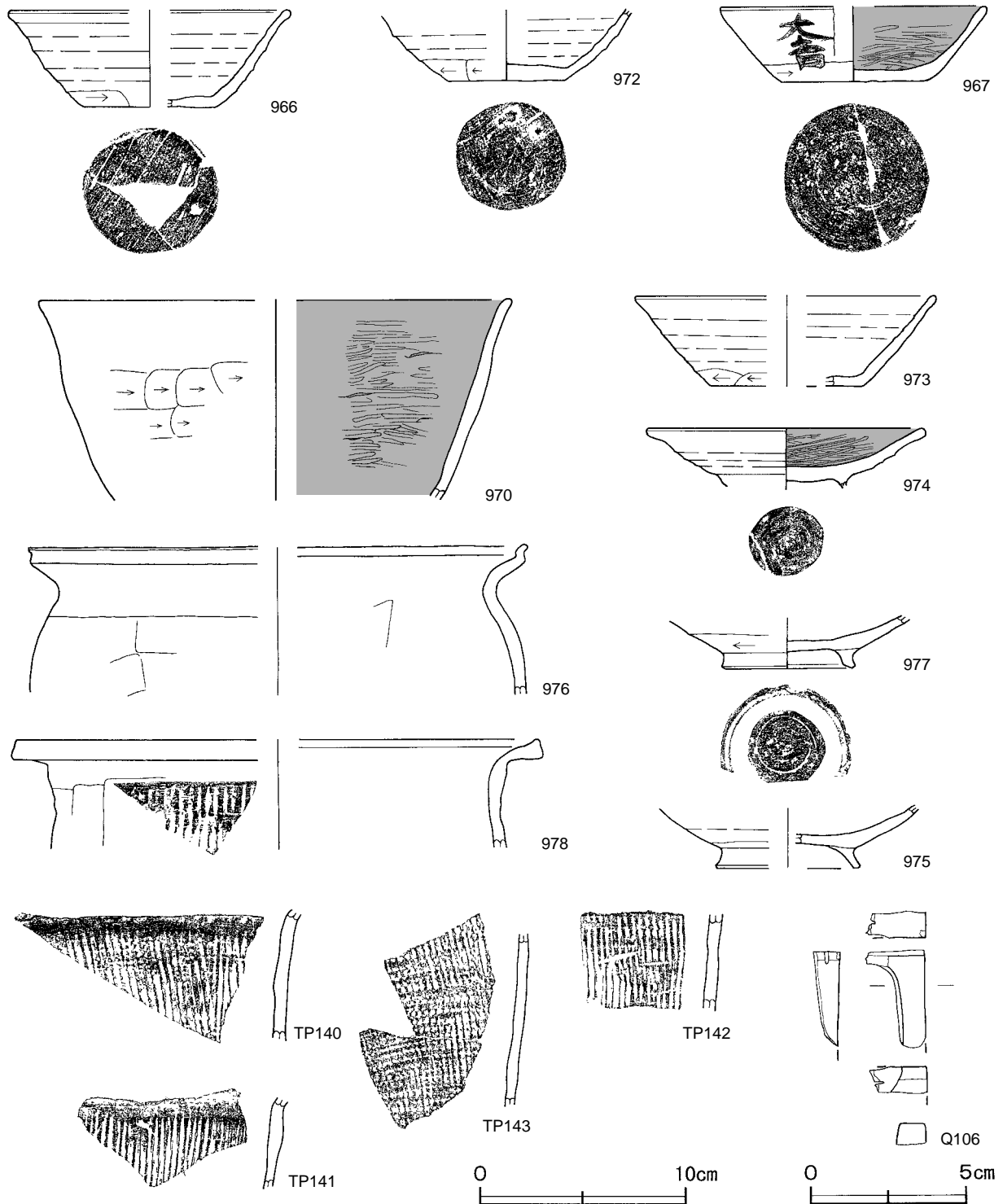
- |       |                           |        |                            |
|-------|---------------------------|--------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化材少量            | 9 暗褐色  | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量     |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量    | 10 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量      |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量                 | 11 褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量        |
| 4 褐色  | ローム粒子多量                   | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土ブロック少量    |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量   | 13 暗褐色 | ロームブロック少量                  |
| 6 灰褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 14 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量       | 15 褐色  | ロームブロック中量                  |
| 8 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量              | 16 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量            |

**遺物出土状況** 土師器片233点 (坏55, 高台付坏 2, 高台付皿 4, 鉢 1, 甕171), 須恵器片52点 (坏15, 高台付坏 1, 高台付皿 1, 蓋 1, 盤 2, 甕30, 甑 2), 鉄滓 6点, 石製品 1点 (硯カ) のほかに, 混入した陶磁器片 2点, 石器 (石核) も出土している。口縁部・底部から推測される土器の個体数は土師器坏 9点, 高台付皿 1点, 鉢 1点, 甕 3点, 須恵器坏 5点, 高台付坏 1点, 高台付皿 1点, 盤 1点, 甑 2点である。細片が全域から出土している。966・972・974は竈 1内の覆土中から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から 9世紀後葉と考えられる。



第42図 第101号住居跡・出土遺物実測図



第43図 第101号住居跡出土遺物実測図

第101号住居跡出土遺物観察表 (第42・43図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
966	須恵器	坏	[13.4]	4.7	6.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐色	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下半手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	竈1覆土中	60% PL31
967	土師器	坏	[12.8]	3.6	7.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面下半回転ヘラ削り 内面横方向のヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土上層～下層	70% PL41 墨書「大吉」
968	土師器	坏	[13.6]	4.5	[7.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面下半手持ちヘラ削り 内面横方向のヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	覆土下層	15%
969	土師器	坏	[13.0]	(2.0)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面横方向のヘラ磨き	覆土中層	5% PL41 墨書「八」
970	土師器	鉢	[22.8]	(9.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下半手持ちヘラ削り 内面横方向のヘラ磨き	覆土下層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
971	土師器	坏	-	(2.6)	[6.4]	石英	灰白	普通	体部内・外面横方向後斜方向のヘラ磨き 底部ヘラ削り後ヘラ磨き	壁溝覆土中	20%
972	須恵器	坏	-	(3.4)	5.6	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下半手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	甕1覆土中	30%
973	須恵器	坏	[14.6]	4.4	[7.4]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下半手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土中層	10%
974	土師器	高台付皿	13.2	(2.8)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内面横方向のヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	甕1覆土中	90% PL43
975	須恵器	高台付皿	-	(3.0)	[7.0]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土下層	10%
976	土師器	甗	[24.0]	(7.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	覆土上層	5%
977	須恵器	高台付坏	-	(2.5)	6.2	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中層	20%
978	須恵器	甗	[25.4]	(5.4)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面縦位の叩き 内面ナデ	壁溝覆土中	5%
TP140	須恵器	鉢	-	(6.1)	-	石英・雲母	褐灰	普通	体部外面擬格子状の叩き	壁溝覆土中	5%
TP141	須恵器	鉢	-	(4.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部外面縦位の叩き	覆土中層	5%
TP142	須恵器	鉢カ	-	(4.8)	-	石英・雲母・黒色粒子	黄灰	普通	体部外面縦位の叩き	覆土上層	5%
TP143	須恵器	鉢カ	-	(8.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面擬格子状の叩き	覆土下層	5% PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q106	硯カ	(3.1)	(1.9)	(0.9)	(4.98)	粘板岩	研磨	覆土中	PL47

### 第102号住居跡 (第44・45図)

**位置** 調査区中央部のA・1b1区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長軸4.30m、短軸4.21mの方形で、主軸方向はN - 3° - Eである。壁高は35～42cmで、直立している。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

**竈** 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで100cm、袖部幅130cmである。袖部は、床面とほぼ同じ高さの地山の上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を18cmほど掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっている。

#### 竈土層解説

- |                             |                                   |
|-----------------------------|-----------------------------------|
| 1 灰 褐 色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量  | 11 灰 褐 色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量         |
| 2 褐 灰 色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量    | 12 褐 灰 色 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量         |
| 3 暗 赤 褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子少量     | 13 暗 赤 褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗 赤 褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量   | 14 暗 赤 褐色 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量        |
| 5 褐 灰 色 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量    | 15 褐 灰 色 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量       |
| 6 極暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量      | 16 灰 褐 色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量         |
| 7 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量   | 17 灰 褐 色 砂質粘土粒子多量                 |
| 8 にぶい赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量      | 18 黒 褐 色 焼土粒子・砂質粘土粒子微量            |
| 9 黒 褐 色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量       | 19 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量     |
| 10 灰 褐 色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック微量 |                                   |

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ34～57cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ35cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**貯蔵穴** 北東コーナー部に位置している。長径100cm、短径72cmの楕円形で、深さは31cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

#### 貯蔵穴土層解説

- |                            |                          |
|----------------------------|--------------------------|
| 1 灰 褐 色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量 | 2 褐 灰 色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量 |
|----------------------------|--------------------------|

**覆土** 8層に分層される。レンズ状の堆積状況を示しており、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

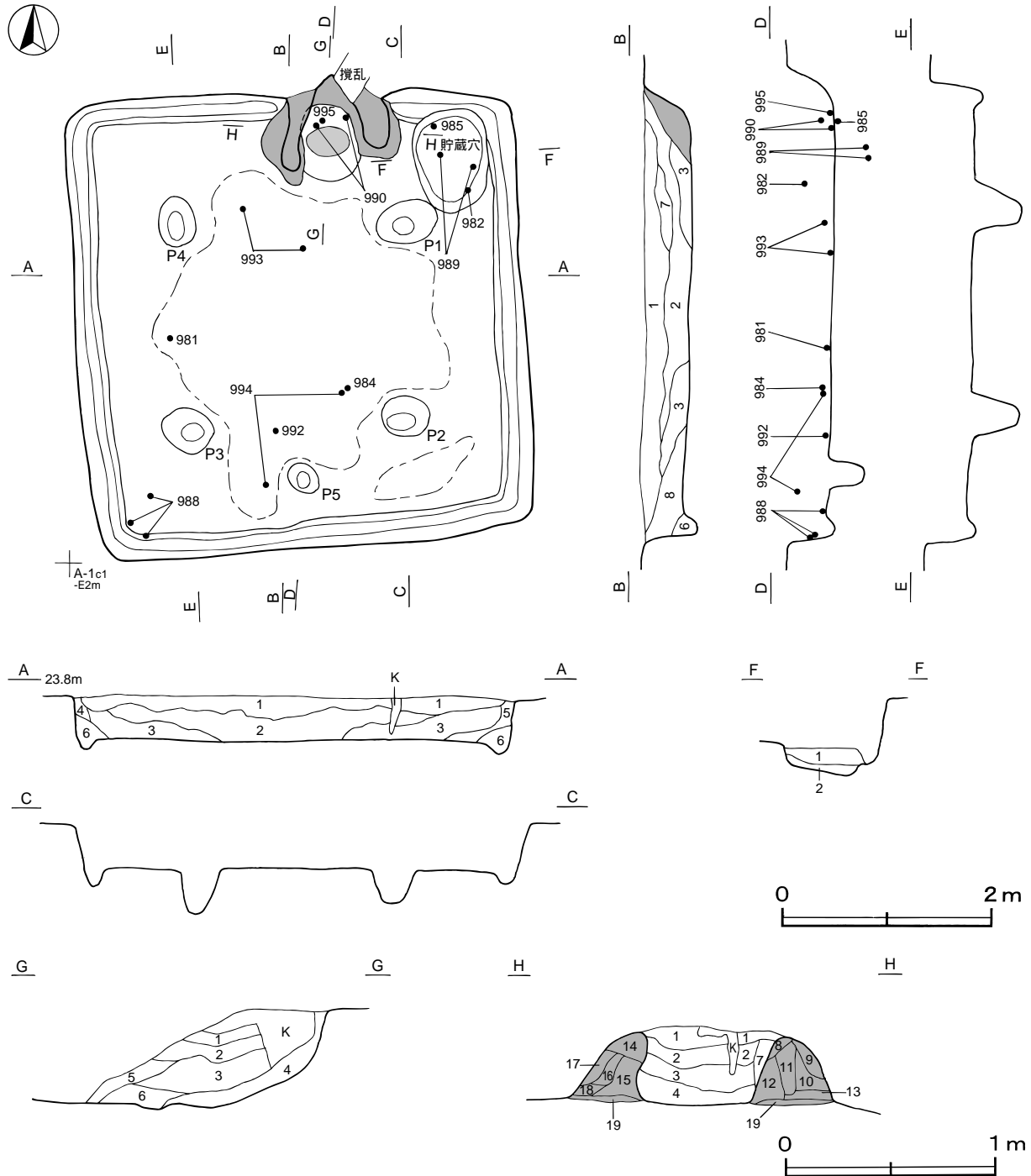
- |                                |                            |
|--------------------------------|----------------------------|
| 1 黒 褐 色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 |
| 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量  | 4 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量    |

5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量  
 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

7 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量  
 8 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

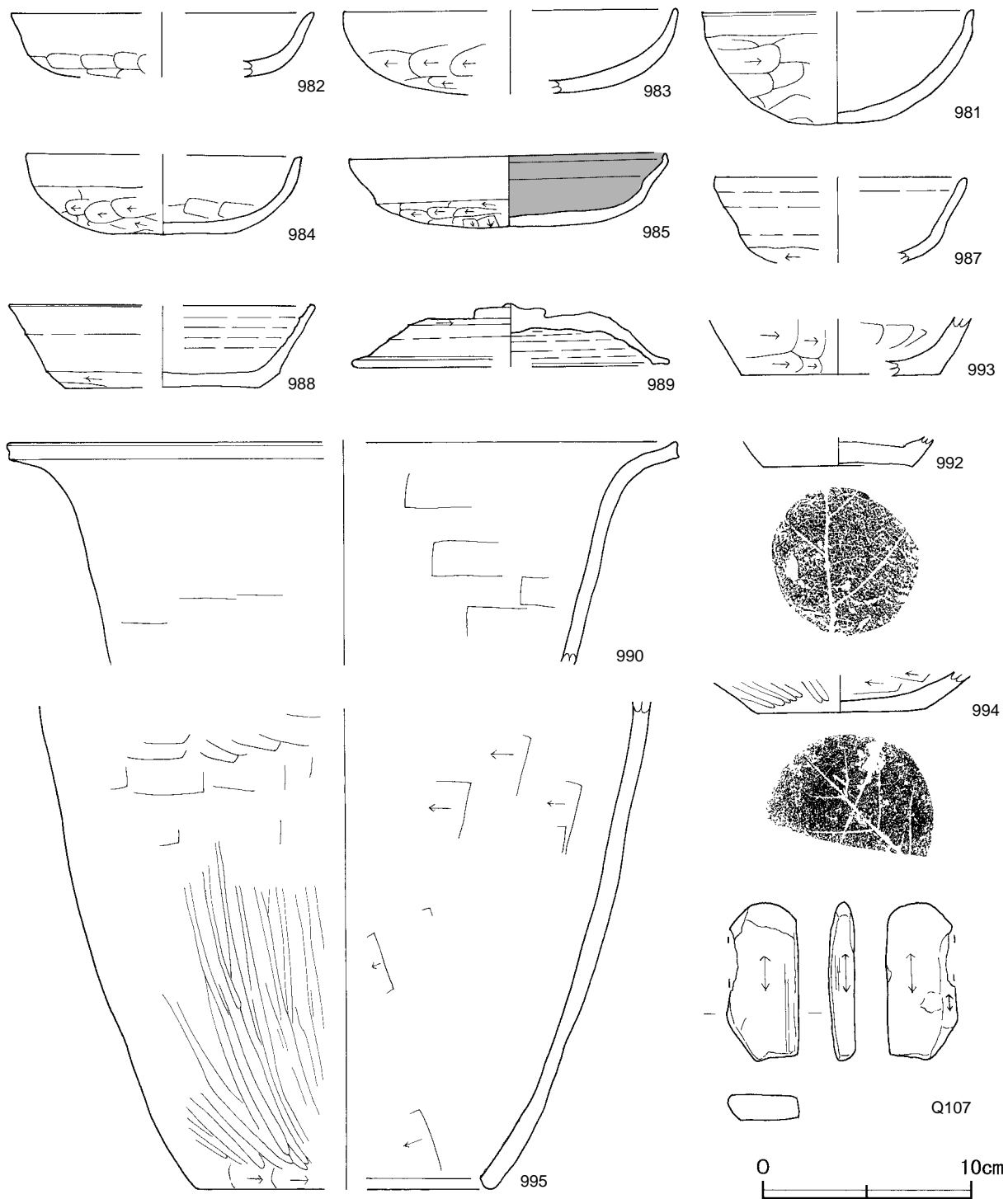
**遺物出土状況** 土師器片203点（坏37，甕161，甑5），須恵器片34点（坏16，蓋9，甕9），鉄製品3点（不明），鉄滓1点，石器1点（砥石）のほかに，混入した陶磁器片8点，土師質土器片5点（鍋類）も出土している。口縁部や底部等から推測される土器の個体数は土師器坏9点，甕3点，甑2点，須恵器坏5点，蓋3点である。遺物は，全域の覆土上層から床面にかけて細片で出土している。985・989は貯蔵穴の覆土中から底面にかけて出土した破片が接合したものである。

**所見** 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第44図 第102号住居跡実測図





第45図 第102号住居跡出土遺物実測図

第102号住居跡出土遺物観察表 (第45図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
981	土師器	坏	[12.8]	5.4	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	20%
982	土師器	坏	[14.4]	(3.0)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中層	20%
983	土師器	坏	[16.0]	4.0	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土上層	10%
984	土師器	坏	[13.0]	3.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	30%
985	土師器	坏	15.0	3.7	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	貯蔵穴覆土中層	80% PL30
987	須恵器	坏	[12.0]	(4.1)	-	長石・石英	橙	普通	体部内・外面クロナデ 回転ヘラ削り	覆土上層～下層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
988	須恵器	坏	[14.6]	4.0	[9.1]	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端回転ヘラ削り 底部多方向の手持ちヘラ削り	覆土下層～床面	50%
989	須恵器	蓋	[15.2]	3.0	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け 体部内・外面ロクロナデ	貯蔵穴覆土中～底面	80% PL36
990	土師器	甌	[32.0]	(10.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	覆土中	5%
992	土師器	甌	-	(1.4)	7.0	長石・石英・雲母	灰褐	普通	底部木葉痕	床面	5%
993	土師器	甌	-	(2.8)	9.3	長石・石英・雲母・礫	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	覆土下層	10%
994	土師器	甌	-	(1.9)	8.0	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラ削り 底部木葉痕	覆土中層～下層	10%
995	土師器	甌	-	(23.2)	[13.9]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面上半ヘラナデ 下半ヘラ磨き 下端ヘラ削り 内面ヘラ削り	覆土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q107	砥石	7.7	3.5	1.2	(49.7)	砂岩	砥面4面	覆土中	

### 第103号住居跡 (第46・47図)

**位置** 調査区中央部のA・1e2, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第345号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸3.95m, 短軸3.67mの方形で, 主軸方向はN - 3° - Wである。壁高は32～38cmで, 直立している。

**床** 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで115cm, 袖部幅148cmである。袖部は, 地山とほぼ同じ高さの平坦面に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を38cmほど掘り込み, 火床部から外傾して立ち上がっている。

#### 竈土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	11	灰褐色	砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量
2	灰褐色	ロームブロック多量, 焼土ブロック微量	12	灰褐色	砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土粒子少量
3	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化材少量	13	褐灰色	砂質粘土ブロック極多量, ロームブロック少量
4	暗赤褐色	焼土ブロック少量, 砂質粘土ブロック微量	14	暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
5	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量	15	灰褐色	砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化材少量
6	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量	16	灰褐色	砂質粘土ブロック多量, ロームブロック少量
7	灰褐色	砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子少量	17	灰褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子少量
8	褐灰色	砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量	18	にぶい赤褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
9	暗赤褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子中量, ロームブロック少量	19	褐灰色	砂質粘土ブロック多量, ローム粒子少量
10	暗赤褐色	炭化粒子中量, 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量	20	暗褐色	砂質粘土粒子多量, ローム粒子中量

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ23～48cmで, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ28cmで, 南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**貯蔵穴** 北東コーナー部に位置している。長軸118cm, 短軸68cmの不整長方形で, 深さは22cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がっている。

#### 貯蔵穴土層解説

1	褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	3	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	4	褐色	ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量

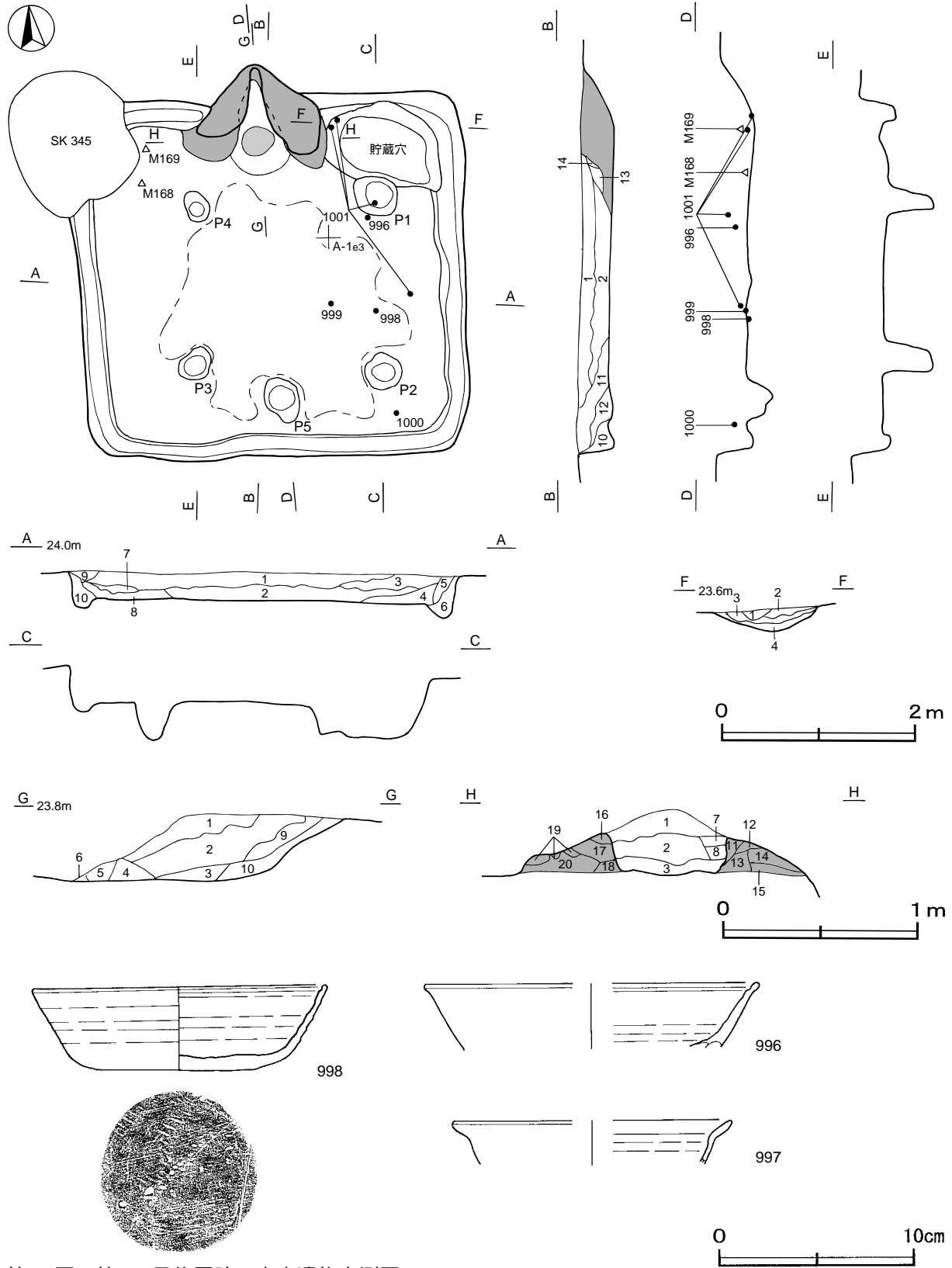
**覆土** 14層に分層される。レンズ状の堆積状況を示しており, 自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

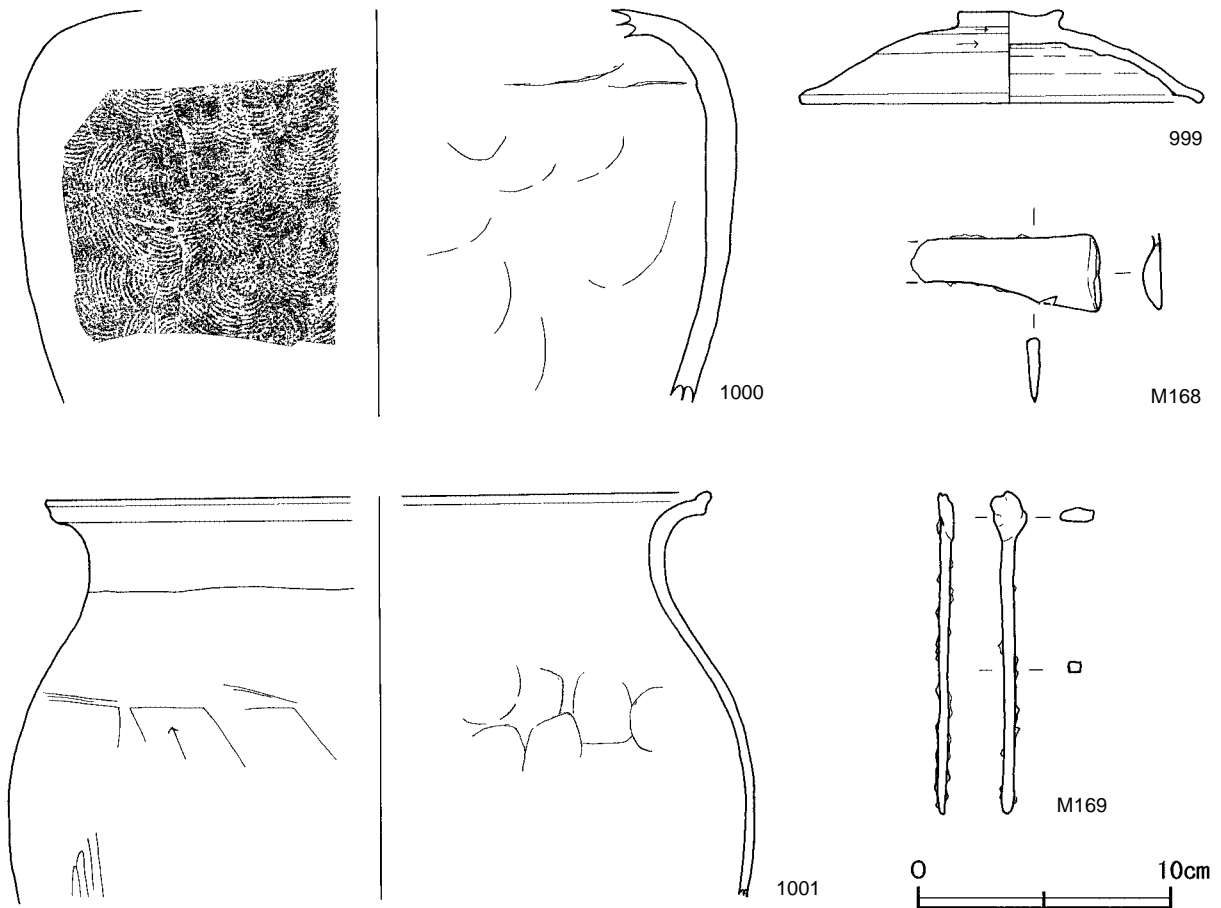
1	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	8	黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	9	褐色	ローム粒子多量
3	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	10	褐色	ローム粒子中量
4	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	11	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
5	褐色	ロームブロック中量	12	黒褐色	ローム粒子少量
6	褐色	ロームブロック多量	13	褐色	ロームブロック中量, 砂質粘土ブロック少量
7	黒褐色	ロームブロック少量	14	灰褐色	砂質粘土ブロック中量, ローム粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片159点(坏13, 甕146), 須恵器片27点(坏13, 蓋9, 壺類1, 甕4), 鉄製品3点(鎌, 鎌, 不明)が出土している。口縁部や底部などから推測される土器の個体数は, 土師器坏1点, 甕5点, 須恵器坏5点, 蓋2点, 壺類1点である。998・999は床面からほぼ完形の状態で出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第46図 第103号住居跡・出土遺物実測図



第47図 第103号住居跡出土遺物実測図

第103号住居跡出土遺物観察表 (第46・47図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
996	須恵器	坏	[17.0]	(3.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内面沈線 体部内・外面ロクロナデ	覆土下層	10%
997	須恵器	坏	[14.2]	(2.2)	-	長石・石英・黒色粒子・海綿骨針	暗灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中層	5%
998	須恵器	坏	14.9	4.3	8.0	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰	普通	口縁部内面沈線 体部内・外面ロクロナデ 底部一方向の手持ちへら削り	床面	95% PL31
999	須恵器	蓋	15.8	3.7	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部回転へら削り後つまみ貼り付け 体部内・外面ロクロナデ	床面	90% PL36
1000	須恵器	壺類	-	(15.5)	-	長石・石英・黒色粒子	褐灰	普通	体部外面同心円状の叩き 内面当て具痕	覆土中層	5%
1001	土師器	甕	[26.2]	(16.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部～頸部内・外面横ナデ 体部外面上半へら削り 下半へら磨き 内面指頭圧痕	覆土下層～床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M168	鎌	(7.5)	3.2	0.4	(18.3)	鉄	基部全面折り曲げ 直刃カ	覆土下層	PL48
M169	針	12.9	1.5	0.5	(8.9)	鉄	関不明 鍔身欠損	覆土中層	PL48

### 第104号住居跡 (第48・49図)

**位置** 調査区中央部のA・1b4区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第22号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 北部は調査区域外に延びているため，東西軸は4.04mで，南北軸は3.52mだけが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推測され，南北方向はN - 15° - Eである。壁高は16～20cmで，直立している。

**床** 平坦で，中央部から南壁際にかけて踏み固められている。確認できた範囲では，壁溝が全周している。

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ32～34cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ28cmで南壁下に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

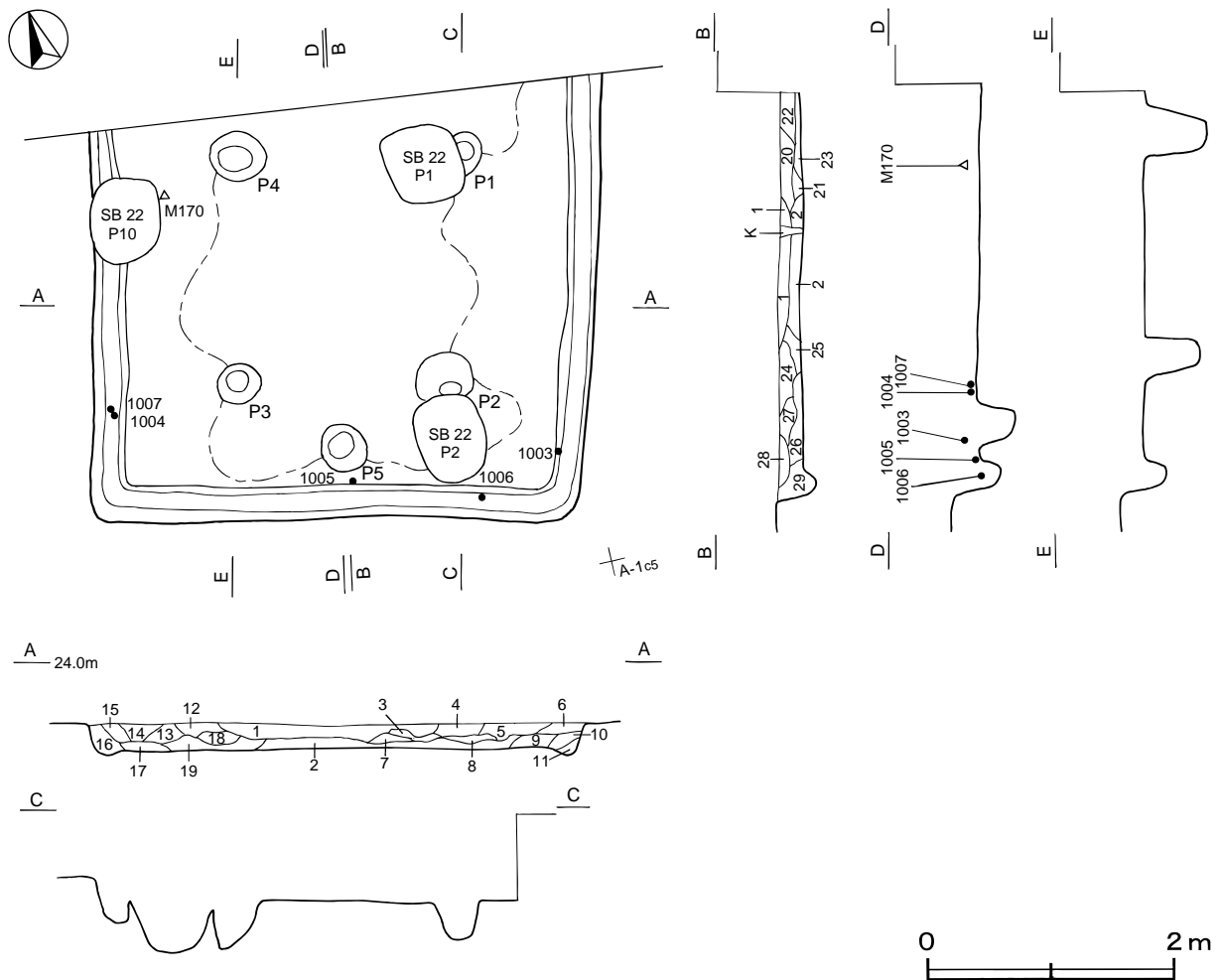
**覆土** 29層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説					
1	褐色	ロームブロック多量	15	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子中量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子中量	16	暗褐色	ロームブロック多量，焼土粒子中量
3	暗褐色	ロームブロック中量	17	黒褐色	ローム粒子少量
4	暗褐色	ロームブロック多量，炭化粒子少量	18	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5	暗褐色	ロームブロック中量，炭化材・焼土粒子少量	19	暗褐色	ロームブロック・炭化材・焼土粒子少量
6	黒褐色	ロームブロック少量	20	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量
7	黒褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量	21	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
8	黒褐色	ロームブロック多量，炭化粒子少量	22	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
9	褐色	ロームブロック中量	23	灰褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
10	黒褐色	ロームブロック中量	24	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量
11	暗褐色	ロームブロック多量	25	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子少量
12	暗褐色	ロームブロック多量，焼土粒子微量	26	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
13	黒褐色	ロームブロック中量，焼土粒子少量	27	黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
14	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量	28	黒褐色	ローム粒子中量
			29	暗褐色	ローム粒子少量

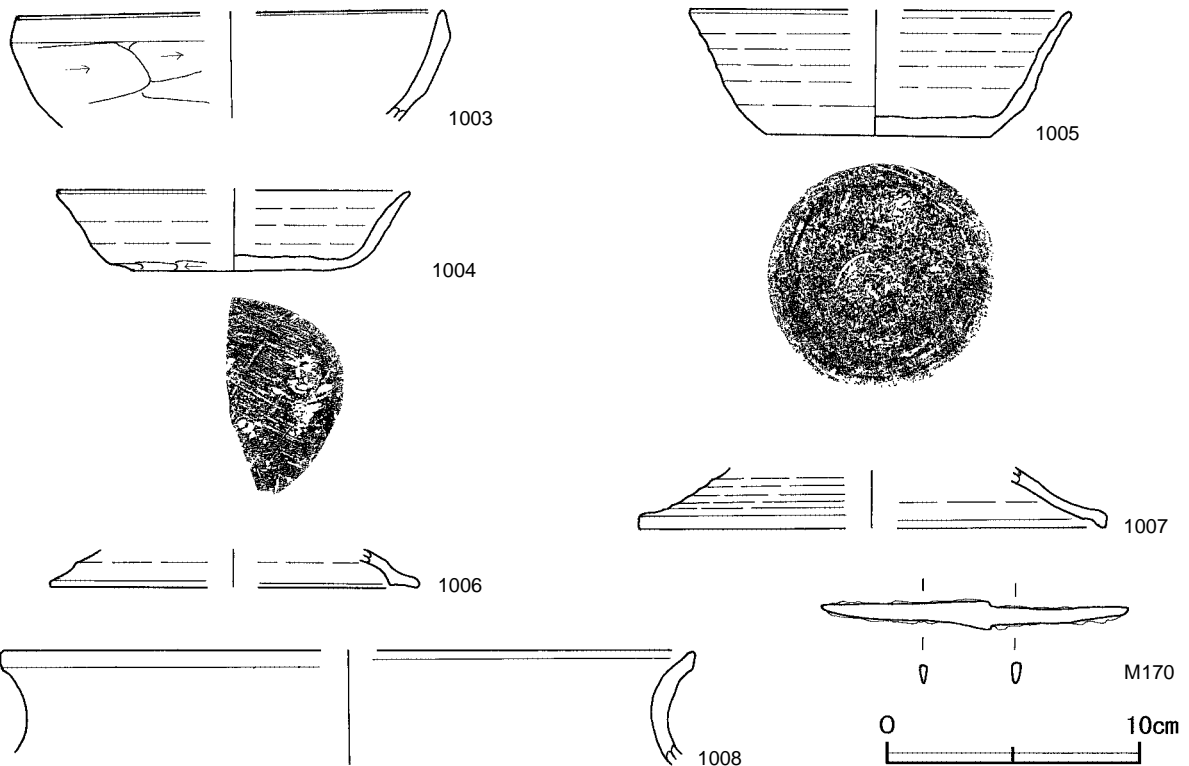
**遺物出土状況** 土師器片49点（坏7，甕41，甌1），須恵器片6点（坏2，蓋3，甕1），鉄製品1点（刀子），石器1点（不明）が出土している。口縁部や底部などから推測される土器の個体数は，土師器坏2点，甕2点，甌1点，須恵器坏2点，蓋3点である。土器片は，南部を中心に覆土上層から床面にかけて出土している。

1004・1007は西壁溝の覆土中から出土している。

**所見** 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第48図 第104号住居跡実測図



第49図 第104号住居跡出土遺物実測図

第104号住居跡出土遺物観察表 (第49図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1003	土師器	坏	[16.8]	(4.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へら削り内面ナデ	覆土下層	10%
1004	須恵器	坏	[13.8]	3.2	[8.0]	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰白	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端手持ちへら削り 底部一方向の手持ちへら削り	溝覆土中	35%
1005	須恵器	坏	[14.9]	5.0	8.9	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	にぶい褐	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転へら削り 後一方向の手持ちへら削り	床面	70% PL31
1006	須恵器	蓋	[14.4]	(1.5)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外面口クロナデ	覆土下層	5%
1007	須恵器	蓋	[18.4]	(2.4)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ	溝覆土中	5%
1008	土師器	甕	[27.4]	(4.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M170	刀子	12.2	1.1	0.3	8.3	鉄	両関	覆土下層	PL48

### 第105号住居跡 (第50・51図)

**位置** 調査区中央部のA・1d5区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第24号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸2.73m, 短軸2.67mの方形で, 主軸方向はN - 4° - Eである。壁高は9~16cmで, 外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝が南東コーナー部を除いて周回している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで50cm, 袖部幅87cmである。袖部は, 掘り残した地山を基部にして, その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は, 床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用している。火床面は残存していない。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- |        |                                   |        |                                |
|--------|-----------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 暗褐色  | ロームブロック・焼土ブロック少量, 砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色  | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量          |
| 2 褐色   | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量          | 6 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子極多量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量             | 7 灰褐色  | 砂質粘土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子少量       |
| 4 灰褐色  | 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量     | 8 褐灰色  | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化材少量       |

**ピット** 2か所。P 1は深さ23cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P 2は深さ16cmで、性格は不明である。

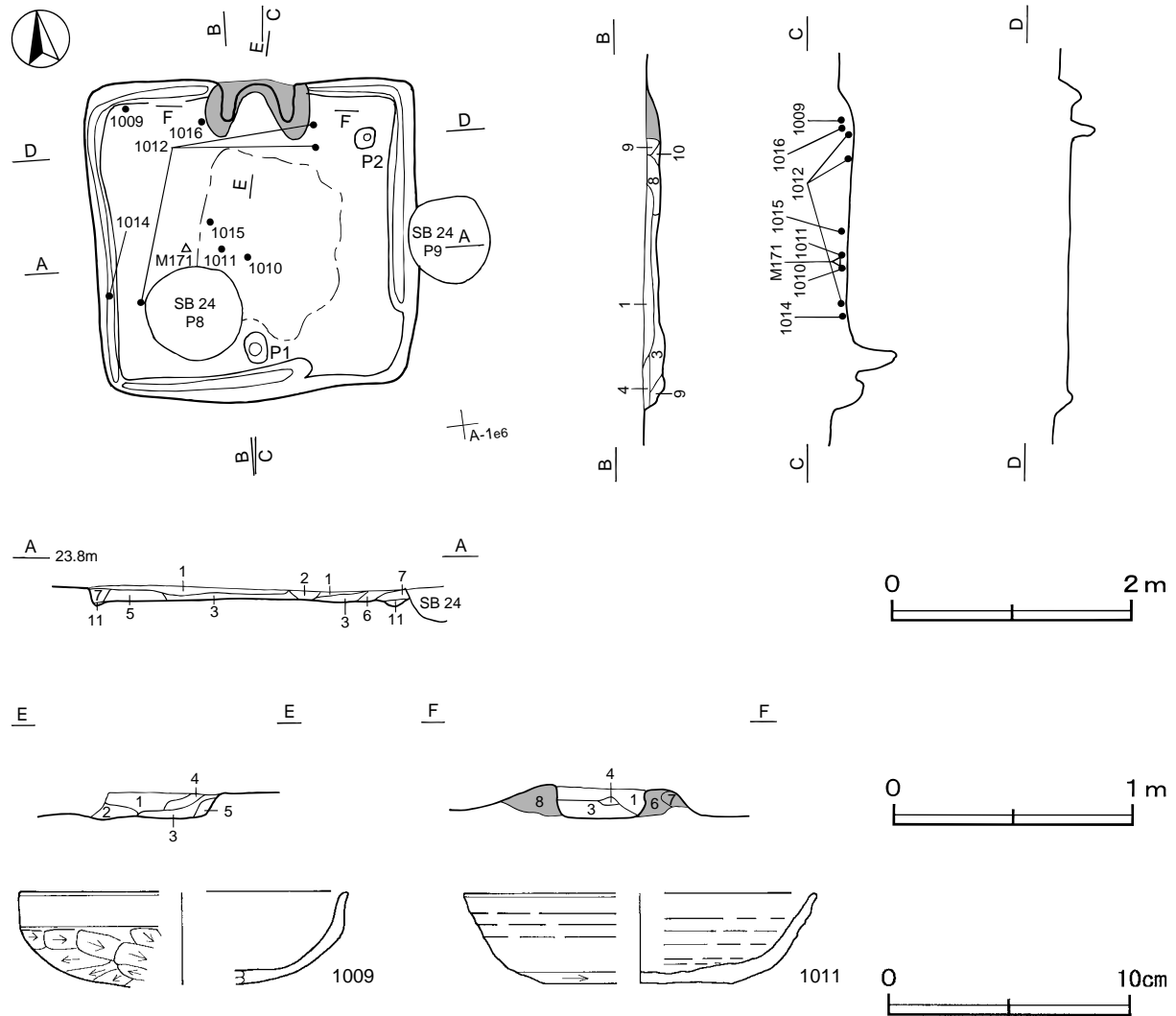
**覆土** 11層に分層される。不自然な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

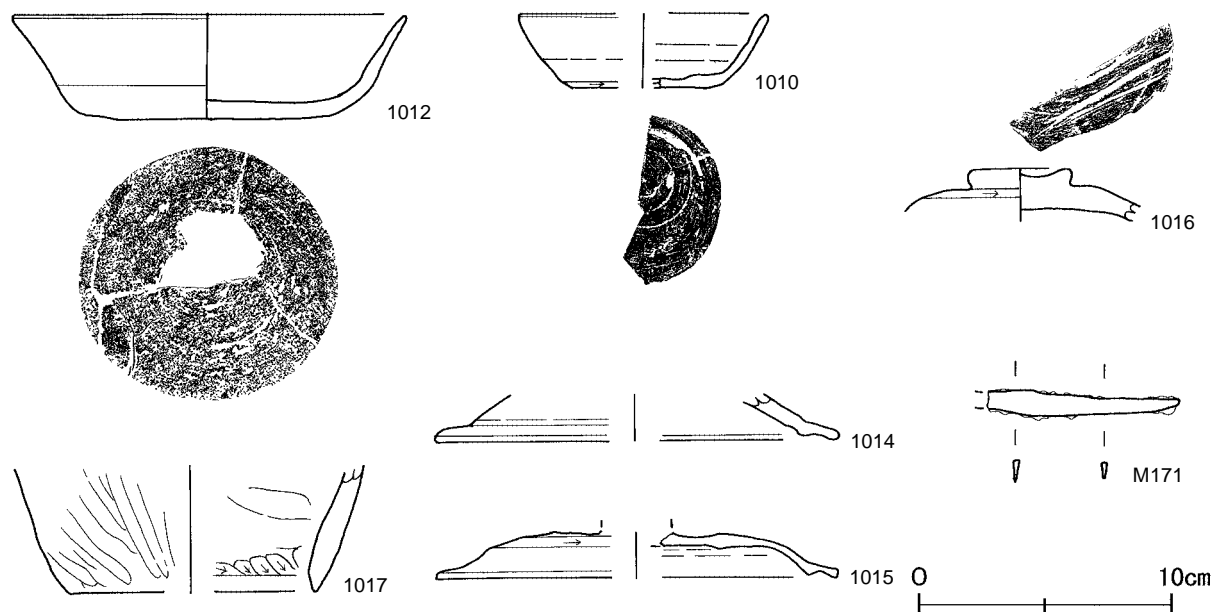
- |       |                        |       |                      |
|-------|------------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量   | 7 黒褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック少量    |
| 2 褐色  | ロームブロック・焼土粒子少量         | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量       |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量    | 9 褐色  | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量       | 10 褐色 | ローム粒子多量              |
| 5 褐色  | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 11 褐色 | ローム粒子中量              |
| 6 褐色  | ローム粒子多量, 焼土粒子少量        |       |                      |

**遺物出土状況** 土師器片25点(坏8, 甕16, 甌1), 須恵器片14点(坏9, 蓋5), 鉄製品1点(刀子)が出土している。口縁部や体部等から推測される土器の個体数は, 土師器坏2点, 甌1点, 須恵器坏5点, 蓋3点である。1010は中央部の床面から出土している。1012は全域の覆土下層から床面にかけて散在して出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第50図 第105号住居跡・出土遺物実測図



第51図 第105号住居跡出土遺物実測図

第105号住居跡出土遺物観察表 (第50・51図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1009	土師器	坏	[13.4]	(3.8)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土下層	20%
1010	須恵器	坏	[9.8]	2.9	[5.4]	長石・石英・雲母・黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端～底部回転ヘラ削り	床面	40% PL31
1011	須恵器	坏	[14.6]	3.7	[7.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端～底部回転ヘラ削り	覆土下層	20%
1012	須恵器	坏	15.0	4.2	10.0	長石・雲母・黒色粒子	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土下層～床面	80% PL31
1014	須恵器	蓋	[16.0]	(1.8)	-	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ	床面	5% 1016と同一個体カ
1015	須恵器	蓋	[15.8]	(1.8)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け 体部内・外面ロクロナデ	覆土下層	20%
1016	須恵器	蓋	-	(2.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け 体部内面ロクロナデ	覆土下層	20% 転用砥カ
1017	土師器	甗	-	(5.0)	[9.8]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 下端ヘラ削り	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M171	刀子	(7.6)	1.1	0.3	(4.0)	鉄	刃部欠損 関不明	覆土下層	

### 第106A号住居跡 (第52・53図)

**位置** 調査区中央部のA・1e6区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第106B号住居跡を掘り込み、第24号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.41m、短軸3.85mの長方形で、主軸方向はN - 5° - Eである。壁高は7cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

**竈** 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで79cm、袖部幅115cmである。袖部は砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。



竈土層解説

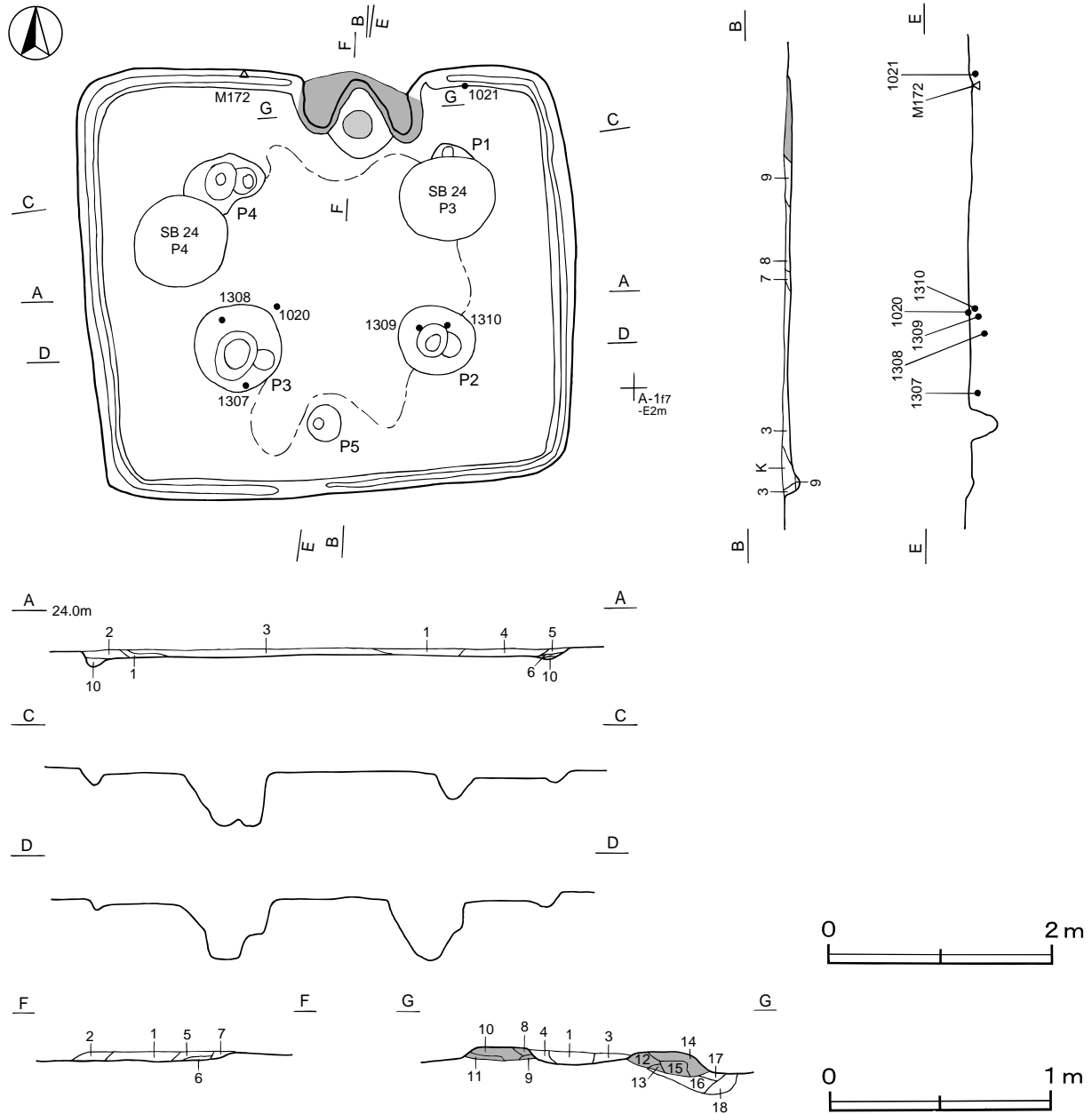
- |         |                    |           |                      |
|---------|--------------------|-----------|----------------------|
| 1 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子少量     | 10 褐灰色    | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量 |
| 2 暗赤褐色  | 焼土ブロック少量           | 11 褐色     | ローム粒子中量, 砂質粘土ブロック少量  |
| 3 暗赤褐色  | 焼土粒子・炭化粒子中量        | 12 にぶい赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 4 赤褐色   | 焼土粒子中量             | 13 褐灰色    | 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子少量   |
| 5 暗赤褐色  | 焼土ブロック中量           | 14 灰褐色    | 砂質粘土ブロック多量           |
| 6 暗赤褐色  | 焼土粒子中量, 炭化粒子少量     | 15 暗赤褐色   | 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 7 暗褐色   | ローム粒子・焼土粒子少量       | 16 黒褐色    | 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量      |
| 8 灰褐色   | 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子少量 | 17 灰褐色    | 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子少量   |
| 9 褐色    | ローム粒子多量, 焼土粒子微量    | 18 暗赤褐色   | ロームブロック・焼土粒子少量       |

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ22～52cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ27cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 10層に分層される。堆積状況は、層厚が薄いため不明である。

土層解説

- |          |                      |       |                        |
|----------|----------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量    |
| 2 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色  | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒色     | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量              |

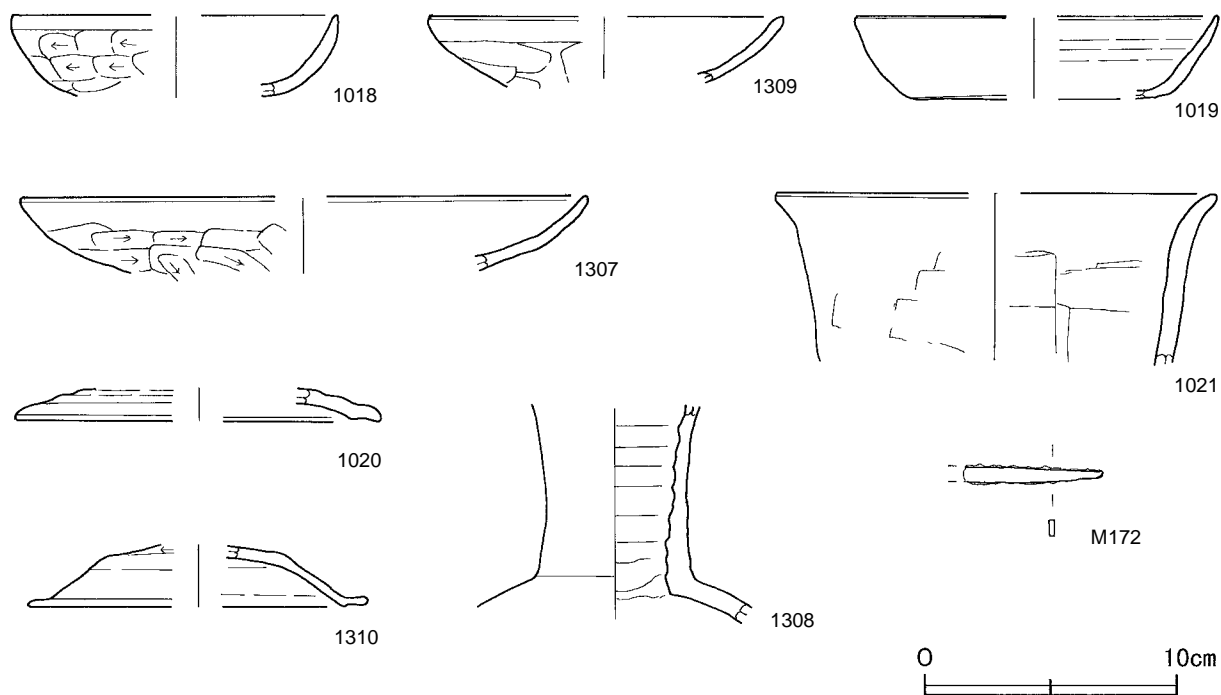


第52図 第106A号住居跡実測図

- 7 灰 褐 色 砂質粘土ブロック多量，ロームブロック微量  
 8 黒 褐 色 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量  
 9 灰 褐 色 砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量  
 10 暗 褐 色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片131点（坏14，甕115，甑2），須恵器片17点（坏6，蓋5，甕4，甑1，横瓶1），土製品1点（支脚），鉄製品1点（刀子）のほかに，混入した土師質土器片3点（鍋類）も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は，土師器坏4点，甕2点，甑1点，須恵器坏1点，蓋3点，横瓶1点である。土器片は，細片が全域から出土している。1307・1308はP3，1309・1310はP2の覆土中からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第53図 第106A号住居跡出土遺物実測図

第106A号住居跡出土遺物観察表（第53図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1018	土師器	坏	[12.8]	(3.1)	-	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り内面ナデ	覆土中	5%
1019	須恵器	坏	[14.4]	3.2	[9.6]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ削り	P1覆土中	5%
1020	須恵器	蓋	[14.6]	(1.3)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内・外面口クロナデ	床面	5%
1021	土師器	甑	[17.4]	(6.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	床面	5%
1307	土師器	坏	[22.4]	(2.9)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り内面ナデ	P3覆土中	10%
1308	須恵器	横瓶	-	(8.7)	-	長石・石英・黒色粒子	灰白	普通	頸部内・外面口クロナデ後下端貼り付け 体部内・外面口クロナデ	P3覆土中	20%
1309	土師器	坏	[13.8]	(2.6)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り内面ナデ	P2覆土中	10%
1310	須恵器	蓋	[13.4]	(2.4)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り 体部内・外面口クロナデ	P2覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M172	刀子	(5.6)	0.7	0.2	(3.9)	鉄	刃部欠損 関不明	壁溝覆土中	

**第106B号住居跡 (第54・55図)**

**位置** 調査区中央部のA・1e6区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第106A号住居，第24号掘立柱建物に掘り込まれている。

**確認状況** 第106A号住居跡の床下から確認されており，壁溝と竈の配置から規模と形状を推定した。

**規模と形状** 長軸4.25m，短軸3.70mの長方形と推定され，主軸方向はN - 87° - Wである。壁高は6～15cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が北壁を除いて周回している。

**竈** 西壁のやや北寄りに付設されている。火床部の規模は，奥行き85cm，幅123cmである。煙道部・袖部は残存していない。火床部は床面を30cmほど掘りくぼめられており，火床面は残存していない。

**竈土層解説**

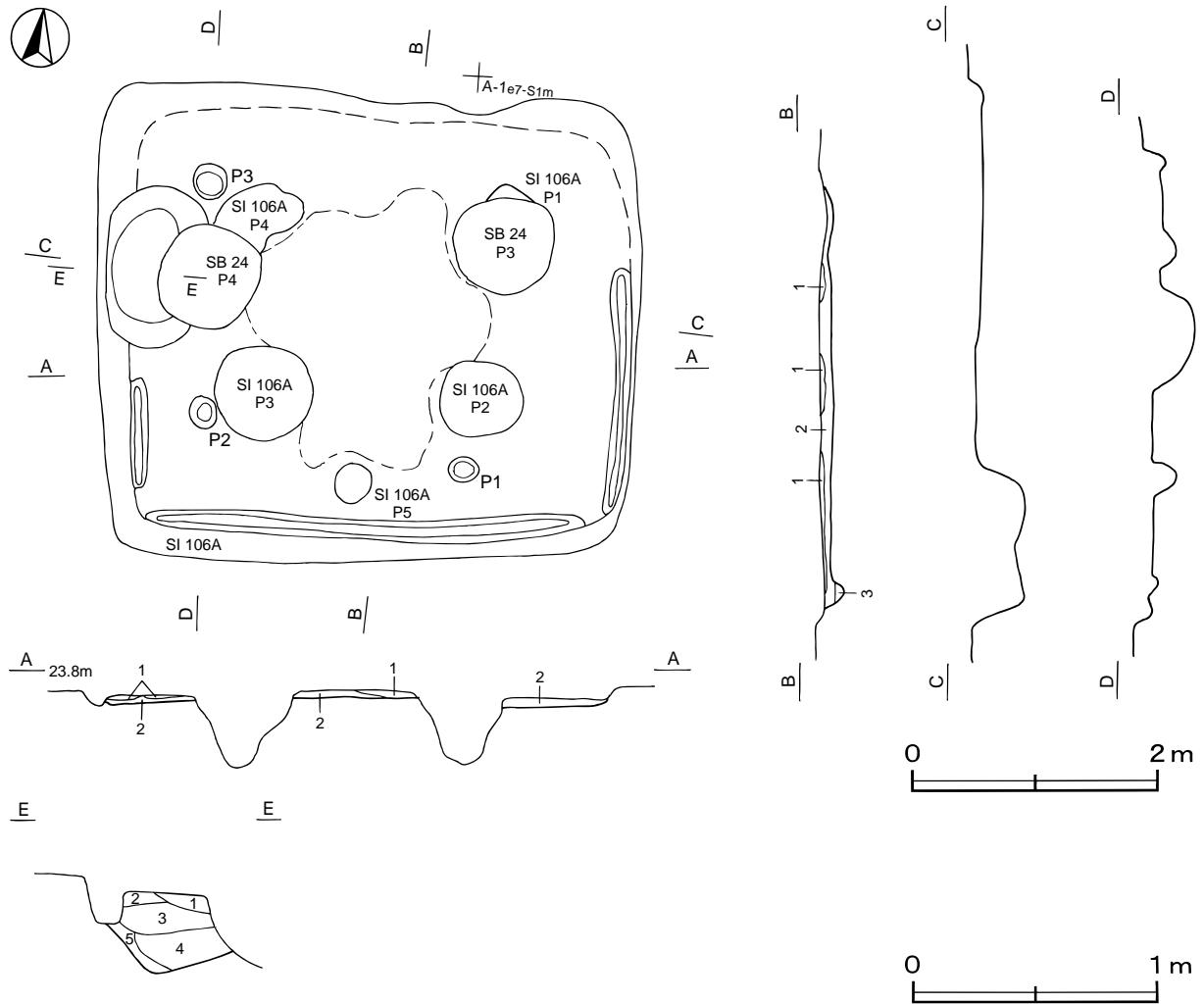
- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| 1 赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量 | 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 赤褐色 焼土粒子中量，砂質粘土ブロック少量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量      |
| 3 褐色 ロームブロック中量          |                      |

**ピット** 3か所。P1～P3は，深さ12～23cmで，規模と配置から支柱穴と考えられる。

**覆土** 3層に分層される。堆積状況は，層厚が薄いため不明である。

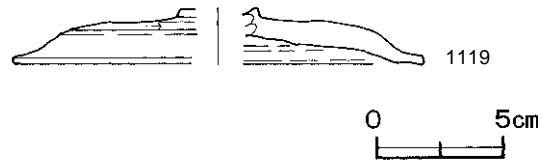
**土層解説**

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 3 褐色 ローム粒子多量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量    |              |



第54図 第106B号住居跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片26点（坏6，甕20），須恵器片5点（坏2，蓋1，甕2）が出土している。口縁部や底部などから推測される土器の個体数は、蓋1点である。1119は竈の覆土中から出土している。



第55図 第106B号住居跡出土遺物実測図

**所見** 第106A号住居跡の床下から確認されており，規模と形状がほぼ一致することから，本住居から第106A号住居に建て替えたと考えられる。時期は，出土土器及び重複関係から8世紀前葉以前と考えられる。

第106B号住居跡出土遺物観察表（第55図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1119	須恵器	蓋	[16.2]	2.2	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面口クロナデ，天井部回転ヘラ削りつまみ部貼り付け	覆土中	10%

第109号住居跡（第56図）

**位置** 調査区中央部のA・1i3区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第257・258号土坑を掘り込み，第21号掘立柱建物，第251号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 南部が調査区域外に延びているため，東西軸は4.00mで，南北軸は2.48mだけが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推測され，南北軸方向はN - 0°である。壁高は20～30cmで，直立している。

**床** 平坦で，壁際を除いて踏み固められている。確認された範囲では，壁溝が全周している。竈周辺と東壁際に焼土と炭化材が確認されている。

**竈** 北壁のやや東寄りに付設されている。北部を第21号掘立柱建物に掘り込まれているため，残存する範囲は焚口部から煙道部まで67cm，袖部幅67cmである。袖部は掘り残した地山を基部にして，その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は不明である。煙道部は壁外に10cmだけが確認されている。

竈土層解説

- |          |                                |        |                                |
|----------|--------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量               | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，砂質粘土ブロック少量              |
| 2 暗赤褐色   | 焼土粒子中量，ロームブロック少量               | 6 黒褐色  | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量   |
| 3 暗赤褐色   | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 | 7 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗赤褐色   | 焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量        |        |                                |

**ピット** 2か所。深さ30・48cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。

**覆土** 20層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

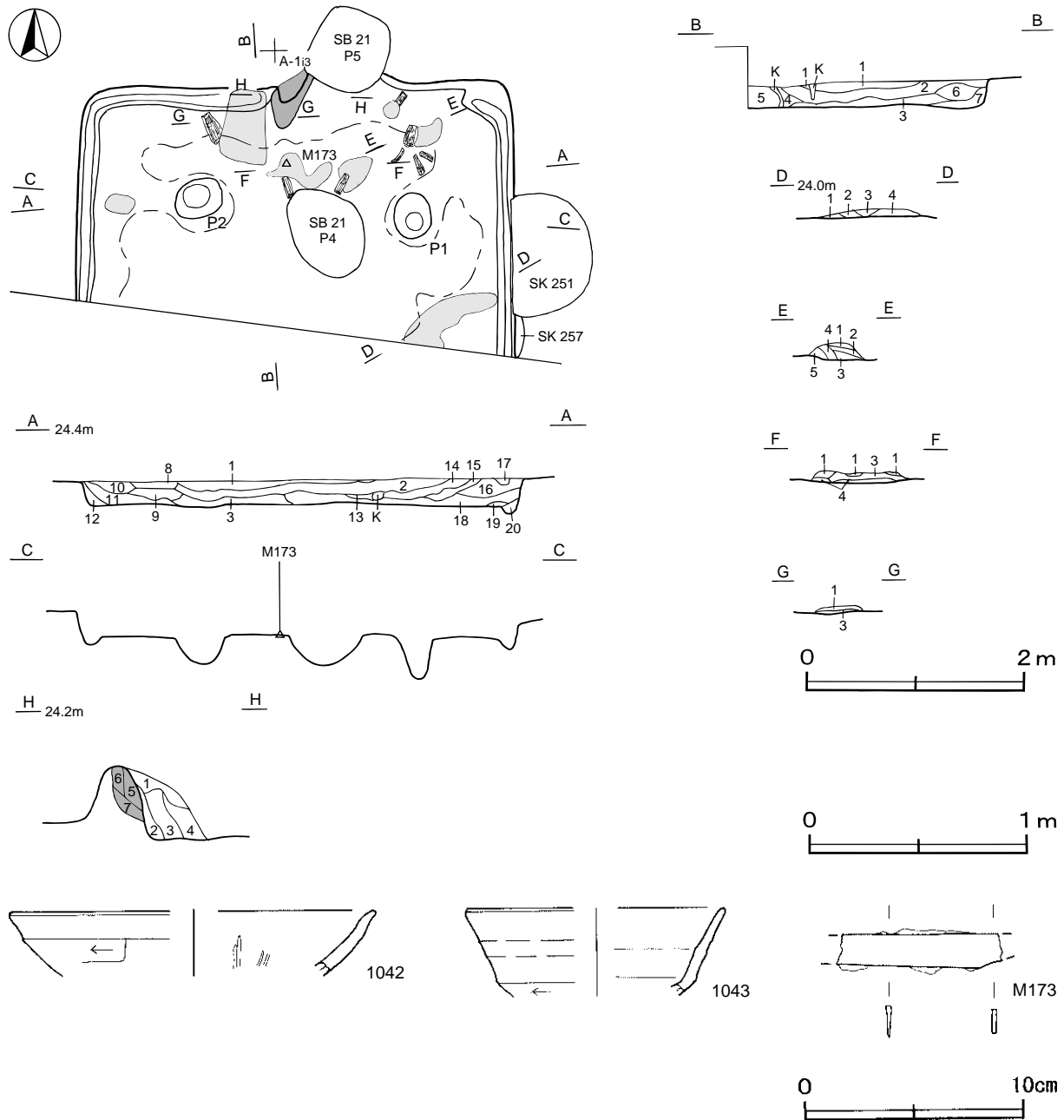
- |        |                              |         |                         |
|--------|------------------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック中量，焼土粒子少量             | 11 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化材少量  |
| 2 暗褐色  | ロームブロック多量                    | 12 褐色   | ローム粒子中量                 |
| 3 黒褐色  | 炭化材・焼土粒子中量，ロームブロック少量         | 13 灰褐色  | 砂質粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量            | 14 黒褐色  | ロームブロック少量               |
| 5 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量          | 15 褐色   | ロームブロック中量，炭化粒子少量        |
| 6 暗褐色  | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 16 暗褐色  | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量     |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，炭化粒子少量     | 17 黒褐色  | ローム粒子少量                 |
| 8 黒褐色  | ロームブロック中量，炭化粒子少量             | 18 暗褐色  | ロームブロック中量，炭化粒子少量        |
| 9 暗褐色  | ロームブロック中量，焼土粒子少量             | 19 暗褐色  | 焼土粒子多量，ロームブロック少量        |
| 10 黒褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子少量               | 20 暗褐色  | 焼土ブロック・ローム粒子少量          |

焼土土層解説（共通）

- |       |                      |      |                       |
|-------|----------------------|------|-----------------------|
| 1 赤褐色 | 焼土ブロック多量             | 4 褐色 | ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子中量，焼土ブロック少量 | 5 黒色 | 炭化材多量                 |
| 3 褐色  | ロームブロック中量            |      |                       |

**遺物出土状況** 土師器片26点（坏13，甕13），須恵器片6点（坏3，甕3），鉄製品1点（刀子）が出土している。口縁部や体部などから推定される土器の個体数は土師器坏1点，須恵器坏1点である。土器片は覆土中から散在して出土している。

**所見** 床面から焼土と炭化材が確認されており，焼失住居であると考えられる。出土土器はいずれも埋め戻しに伴う混入と考えられる。時期は，出土土器から8世紀以前と考えられる。



第56図 第109号住居跡・出土遺物実測図

第109号住居跡出土遺物観察表（第56図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1042	土師器	坏	[16.6]	(2.9)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へら削り 内面放射状のへら磨き	覆土中	5%
1043	須恵器	坏	[11.8]	(4.1)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端回転へら削り	覆土中	5%

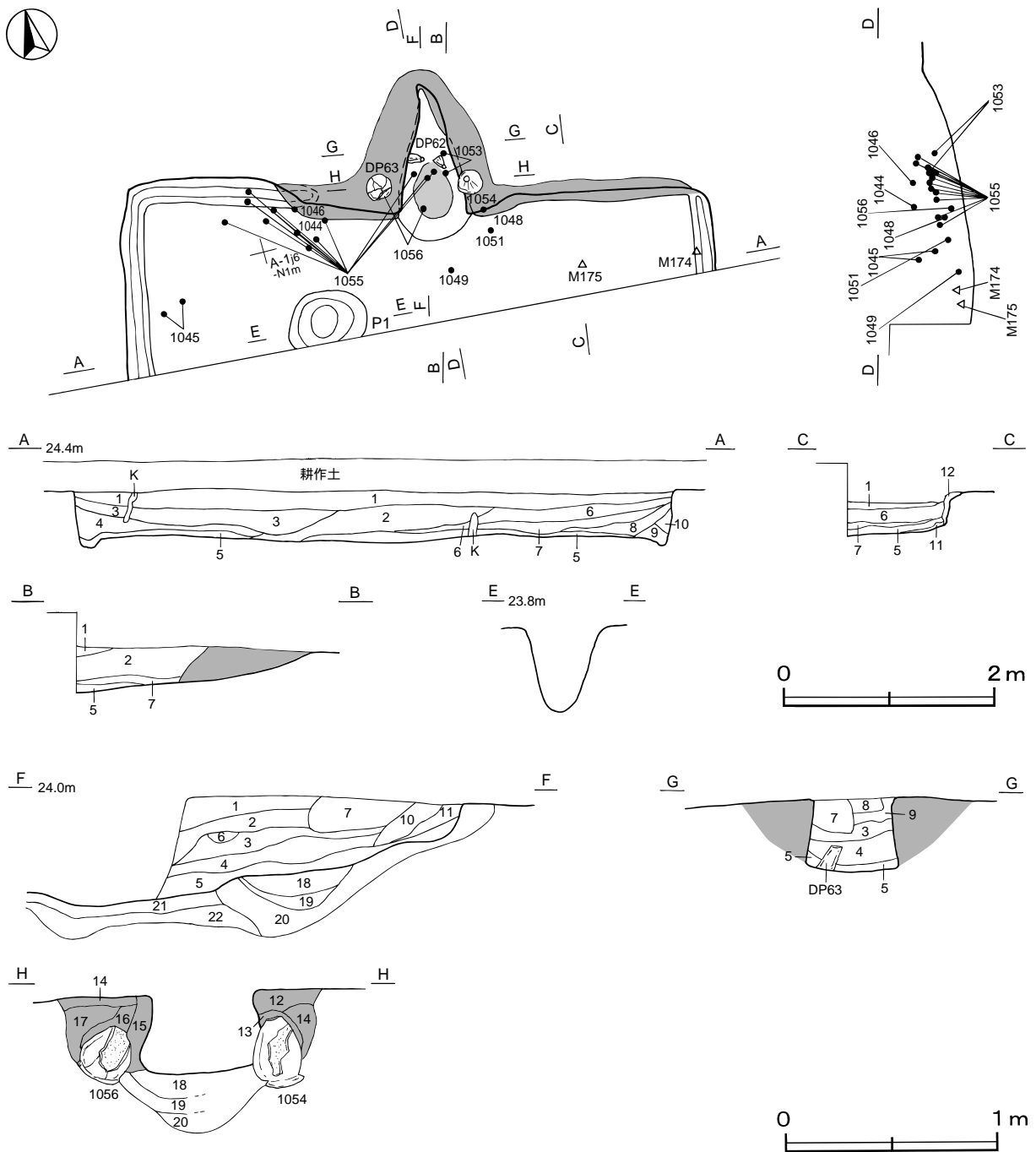
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M173	刀子	(7.6)	1.5	0.3	(11.4)	鉄	刃部・基部欠損 刃開カ	床面	

### 第110A号住居跡 (第57～60図)

**位置** 調査区中央部のA・1i6区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第110B号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 南部が調査区域外に延びているため, 東西軸は5.55mで, 南北軸は1.70mだけが確認されている。



第57図 第110A号住居跡実測図

平面形は方形もしくは長方形と推測され、南北軸方向はN - 13° - Eである。壁高は45cmほどで、直立している。

**床** 平坦で、明瞭な硬化面は確認できない。壁溝が周回している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部までが163cm、袖部幅130cmである。袖部はほぼ完形の土師器甕各1点を心材にして、その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面を20cmほど掘り下げた後に、灰褐色土で埋めて使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を110cmほど掘り込み、火床部から緩やかに立ち上がり端部で直立している。

竈土層解説

1 灰褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量	11 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量
2 褐灰色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	12 灰褐色	焼土ブロック・炭化材少量
3 暗褐色	砂質粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	13 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
4 暗褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	14 褐灰色	砂質粘土極多量
5 黒褐色	砂質粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	15 にぶい赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土ブロック・炭化物少量
6 暗赤褐色	焼土粒子中量、ロームブロック少量	16 灰褐色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
7 灰褐色	砂質粘土ブロック多量、ローム粒子少量	17 褐灰色	砂質粘土粒子極多量、焼土ブロック少量
8 にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子中量	18 赤褐色	焼土ブロック多量
9 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量	19 灰褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
10 赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量	20 灰褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量
		21 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化物・砂質粘土粒子少量
		22 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量

**棚状施設** 竈の両側に設けられている。上面が削平されており、壁に貼られた粘土の範囲から棚状施設と推定した。粘土範囲の規模は、竈の東側で幅185cm、西側で幅80cm、厚さ8～12cmである。

**ピット** 深さ86cmで、規模や配置から主柱穴の可能性も考えられるが性格は不明である。

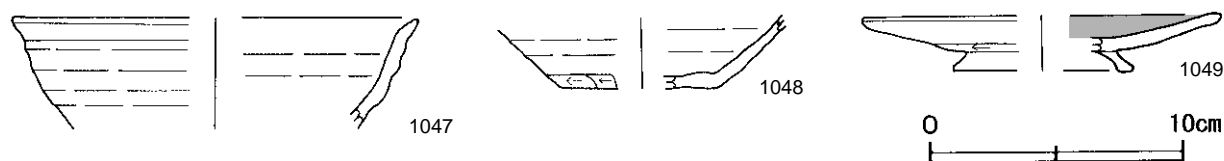
**覆土** 12層に分層される。各層にロームブロック・焼土ブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

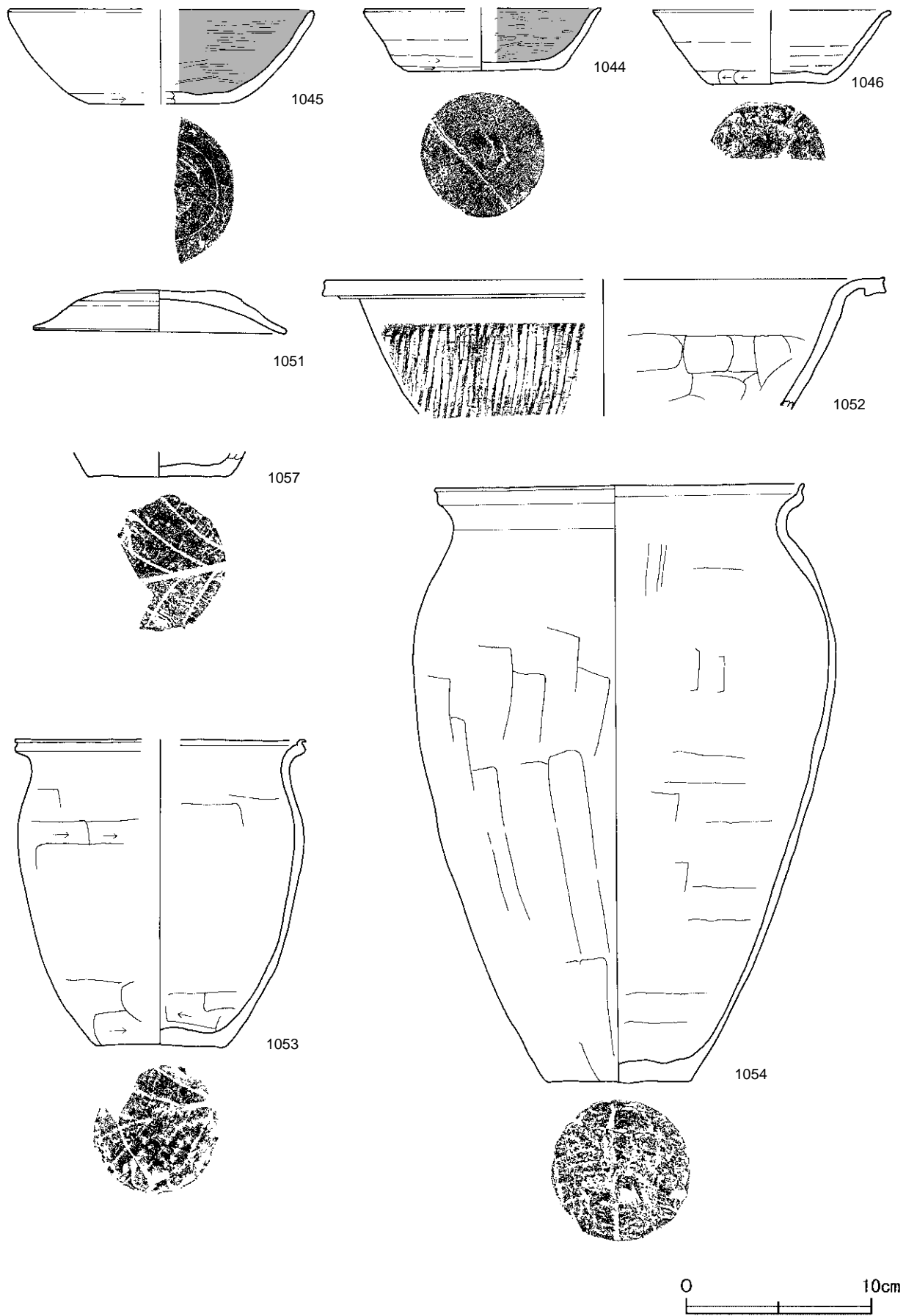
1 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	8 黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	9 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	10 黒褐色	ローム粒子多量
5 黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量	11 黒褐色	焼土ブロック少量
6 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化材少量	12 灰褐色	粘土多量

**遺物出土状況** 土師器片561点（坏47，高台付皿5，甕509），須恵器片162点（坏54，高台付坏2，蓋5，壺類1，甕99，甌1），土製品3点（支脚），鉄製品1点（不明），鉄滓3点のほかに、混入とみられる土師質土器片2点（皿），陶器片1点（不明）も出土している。口縁部や底部などから推測される土器の個体数は、土師器坏9点，椀3点，高台付皿1点，甕11点，須恵器坏9点，高台付坏1点，皿2点，蓋2点，鉢2点，甕3点である。土器片は、竈付近の覆土上層から床面にかけて多量に出土している。1054と1056は竈の袖部内から出土しており、心材に用いられたと考えられる。1055は北壁際の覆土中層と竈内の覆土中から出土した破片が接合したものである。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

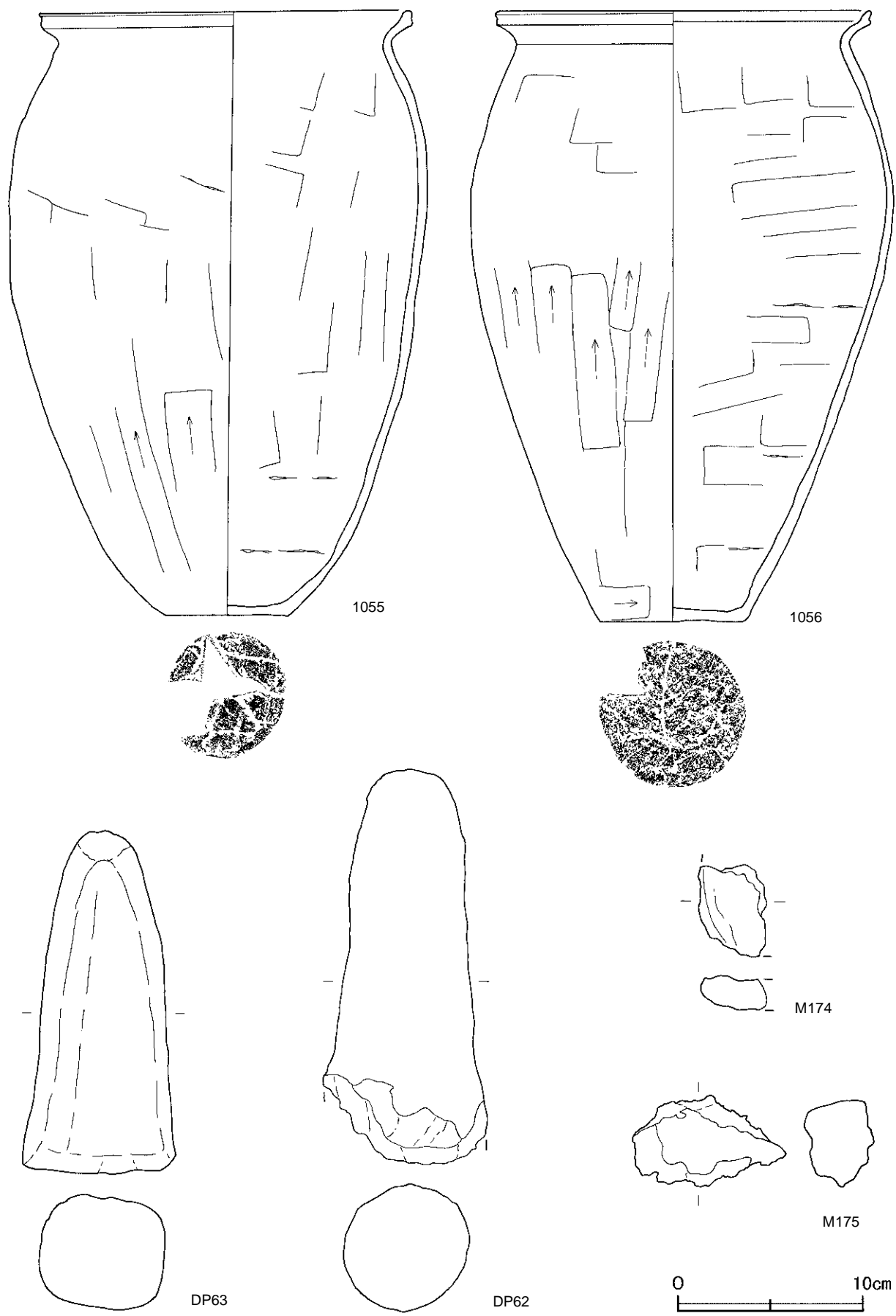


第58図 第110A号住居跡出土遺物実測図(1)



第59图 第110A号住居跡出土遺物実測図(2)





第60図 第110A号住居跡出土遺物実測図(3)

## 第110A号住居跡出土遺物観察表 (第58～60図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1044	土師器	坏	[12.6]	3.3	7.8	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端～底部回転ヘラ削り 内面横方向のヘラ磨き	覆土上層	70% PL30
1045	土師器	坏	[16.4]	5.2	[7.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端～底部回転ヘラ削り 内面横方向のヘラ磨き	覆土上層	30%
1046	須恵器	坏	[12.8]	4.0	6.0	長石・石英・雲母・黒色粒子・礫	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土上層	40%
1047	須恵器	坏	[16.0]	(4.4)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ	竈覆土中	10%
1048	須恵器	坏	-	(2.8)	[6.2]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土中層	10%
1049	土師器	高台付皿	[14.2]	2.2	[7.2]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り 後高台貼り付け 内面ヘラ磨き	覆土上層～床面	10%
1051	須恵器	蓋	13.5	2.3	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土下層	60% PL36
1052	須恵器	鉢	[30.7]	(7.1)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面縦位の叩き内面当て具痕	竈覆土中	10%
1053	土師器	甗	[15.6]	16.5	7.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	竈覆土中	30%
1054	土師器	甗	19.9	32.3	7.7	長石・石英・礫	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	竈袖部内	90% PL39
1055	土師器	甗	20.0	32.9	6.6	長石・石英・雲母・礫	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土上層～床面	75% PL39
1056	土師器	甗	20.2	33.1	7.9	長石・石英・雲母・礫	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部摩滅	竈袖部内	75% PL39
1057	土師器	甗	-	(1.3)	7.6	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	底部木葉痕	竈覆土中	5%

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
D P 62	支脚	(21.3)	9.0	4.6	(988.0)	粘土	下端欠損	竈火床面	PL46
D P 63	支脚	18.5	8.3	3.5	990.0	粘土	断面隅丸長方形	竈火床面	PL46

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M174	鉄滓	(5.0)	(3.7)	1.9	(70.2)	鉄	着磁 暗青灰	覆土下層	
M175	鉄滓	5.0	8.3	3.8	150.1	鉄	着磁 暗褐	覆土下層	

## 第110B号住居跡 (第61図)

**位置** 調査区中央部のA・1i6区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第110A号住居に掘り込まれている。

**確認状況** 第110A号住居跡の床面下から確認されている。全域を掘り込まれているため、壁溝と竈の配置から形状を推定した。

**規模と形状** 南部が調査区域外に延びているため、東西軸は5.33m、南北軸は0.93mだけが確認されている。

平面形は方形もしくは長方形と推測され、主軸方向はN - 9° - Eである。

**床** ほぼ平坦で、軟弱である。確認された範囲では、壁溝が全周している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。袖部・煙道部は残存していない。規模は奥行き107cm、幅85cm、深さ21cmで、形状から火床部と考えられる。火床面は残存していない。

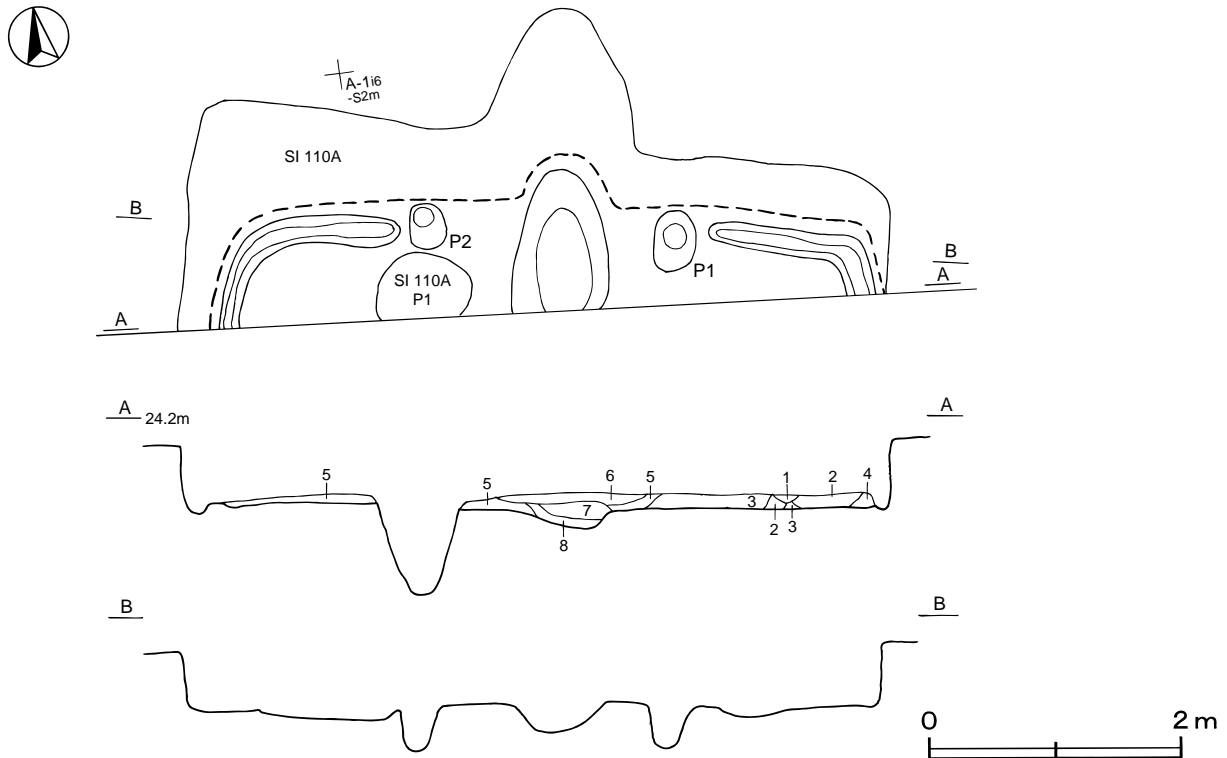
**ピット** 2か所。深さはともに38cmで、竈の左右に位置しているが、性格は不明である。

**覆土** 8層に分層される。焼土や炭化物を含むブロック状の堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

### 土層解説

1	暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量	6	黒褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量
2	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	7	灰褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
3	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量	8	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
4	褐色	ロームブロック中量			
5	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量			

**所見** 第110A号住居跡の床下から確認されており、主軸方向がほぼ一致することから、本住居を拡張して第110A号住居に建て替えたと考えられる。時期は、重複関係から9世紀後葉以前と考えられる。



第61図 第110B号住居跡実測図

### 第111号住居跡 (第62・63図)

**位置** 調査区中央部A・1b7区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 北部が調査区域外に延びているため, 東西軸は4.72mで, 南北軸は3.57mだけが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推測され, 南北軸方向はN - 5° - Eである。壁高は43~55cmで, 直立している。

**床** 平坦で, 壁際を除いて硬化している。確認された範囲では, 壁溝が全周している。

**ピット** 5か所。P1~P3は深さ55~63cmで, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P4は深さ30cmで, 南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さ20cmで, 性格は不明である。

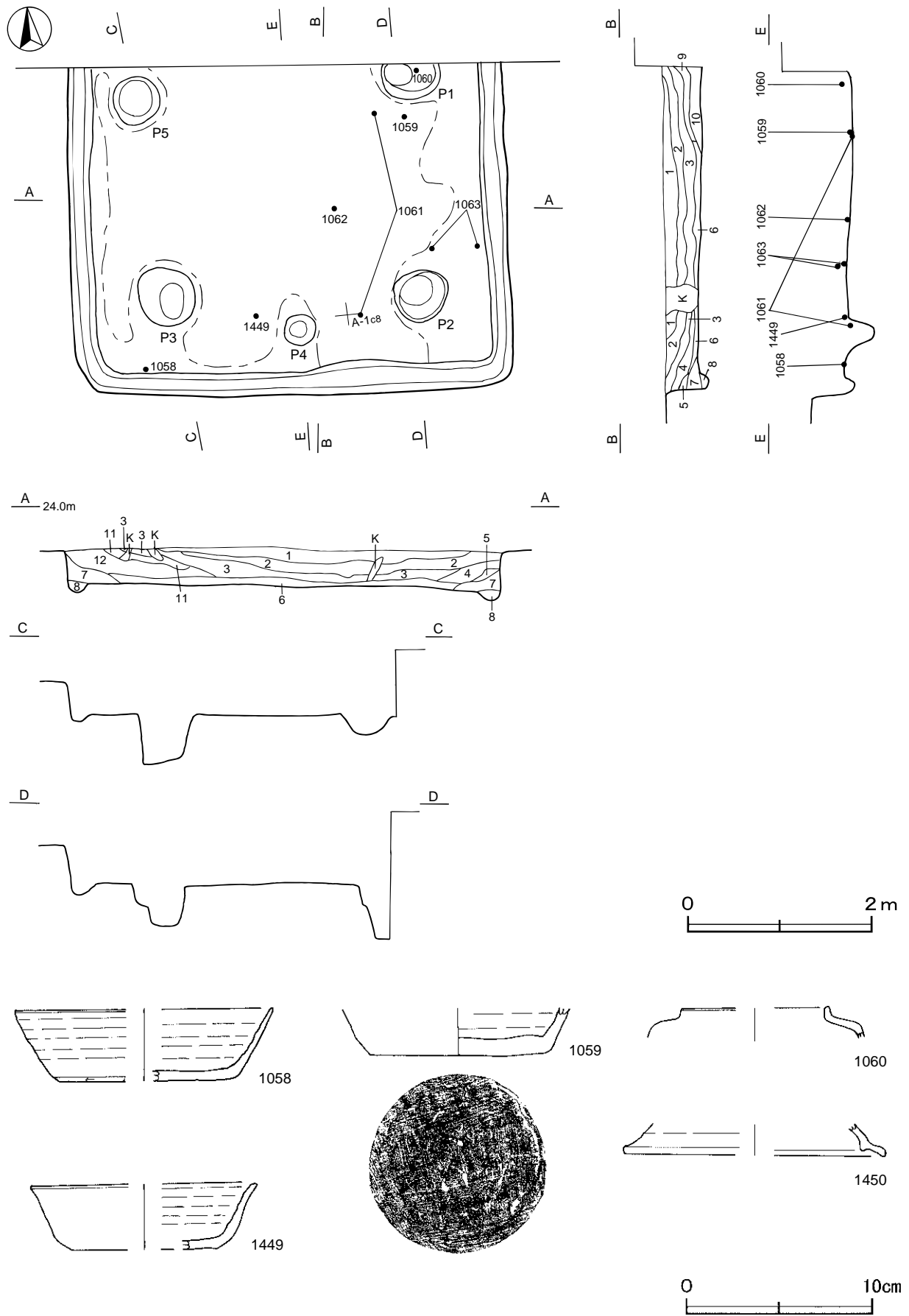
**覆土** 12層に分層される。レンズ状の堆積状況を示しており, 自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

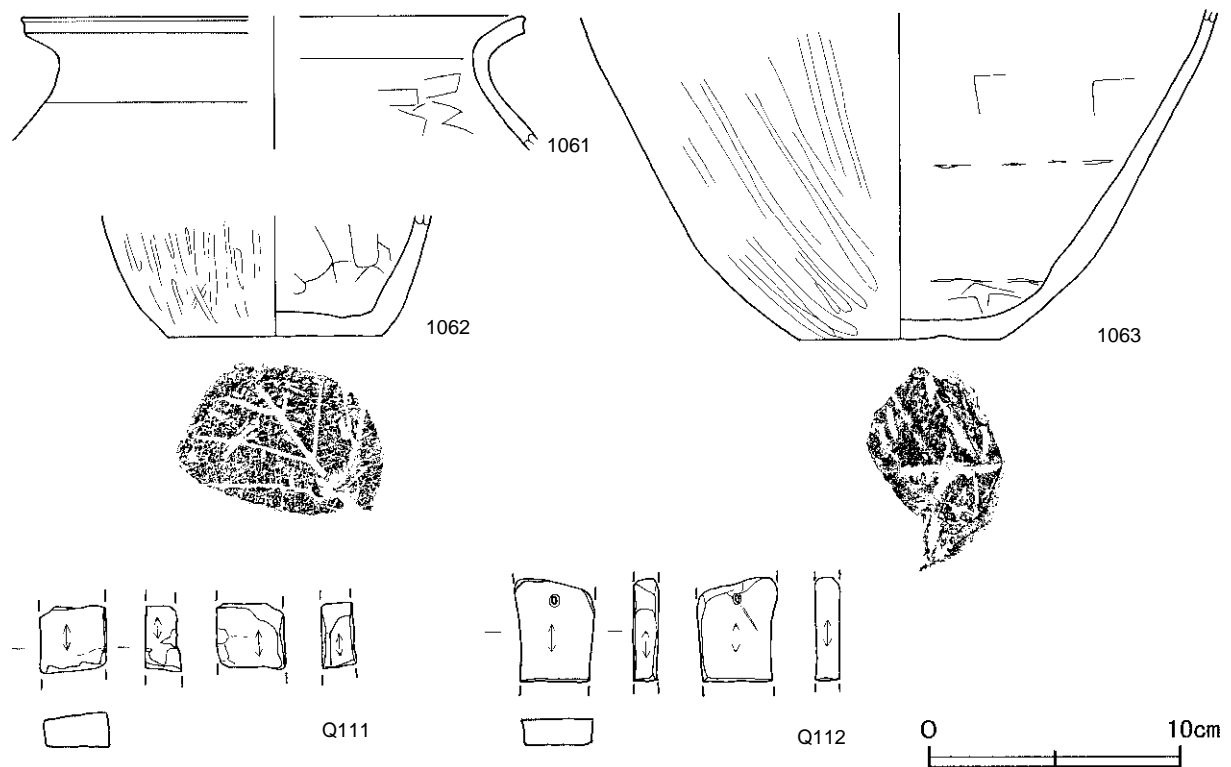
1 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	9 灰黄褐色	砂質粘土粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2 にぶい黄褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	10 にぶい黄褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	11 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量	12 黒褐色	ローム粒子少量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック微量		
6 褐色	炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量		
7 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量		
8 褐色	ロームブロック少量		

**遺物出土状況** 土師器片281点 (坏60, 甕221), 須恵器片51点 (坏19, 蓋2, 短頸壺1, 甕29), 石器2点 (砥石), 鉄製品1点 (不明), 鉄滓のほかに混入とみられる石器2点 (剥片) も出土している。口縁部や底部などから推測される土器の個体数は土師器坏4点, 甕5点, 須恵器坏6点, 蓋1点, 甕1点である。土器片は, 全域の覆土下層から床面にかけて出土している。1058は南コーナー部付近の床面から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第62图 第111号住居跡・出土遺物実測図



第63図 第111号住居跡出土遺物実測図

第111号住居跡出土遺物観察表 (第62・63図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1058	須恵器	坏	[14.0]	3.9	[10.0]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端～底部回転ヘラ削り	床面	30%
1059	須恵器	坏	-	(2.5)	9.8	長石・雲母・赤色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後2方向の手持ちヘラ削り	床面	30%
1060	須恵器	短頸壺	[8.0]	(1.6)	-	長石・雲母	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土下層	5%
1061	土師器	甕	[19.8]	(5.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	床面	5%
1062	土師器	甕	-	(4.8)	8.4	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土下層～床面	5%
1063	土師器	甕	-	(12.9)	[8.0]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土下層～床面	20%
1449	須恵器	坏	[12.0]	3.5	[7.8]	長石・石英・雲母	暗灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	床面	20%
1450	須恵器	蓋	[14.0]	(1.7)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q111	砥石	(2.6)	2.6	1.2	(15.4)	砂岩	砥面4面	覆土中	
Q112	砥石	(4.1)	3.2	1.0	(23.0)	砂岩	砥面4面 穿孔	覆土中	PL47

### 第112号住居跡 (第64図)

**位置** 調査区中央部A・1b9区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 北部の大部分が調査区域外に延びているため, 東西軸は3.80mで, 南北軸は0.88mだけが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推測され, 東西軸方向はN - 87° - Eである。壁高は23cmほどで, 外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で, 軟弱である。確認された範囲では, 壁溝が全周している。

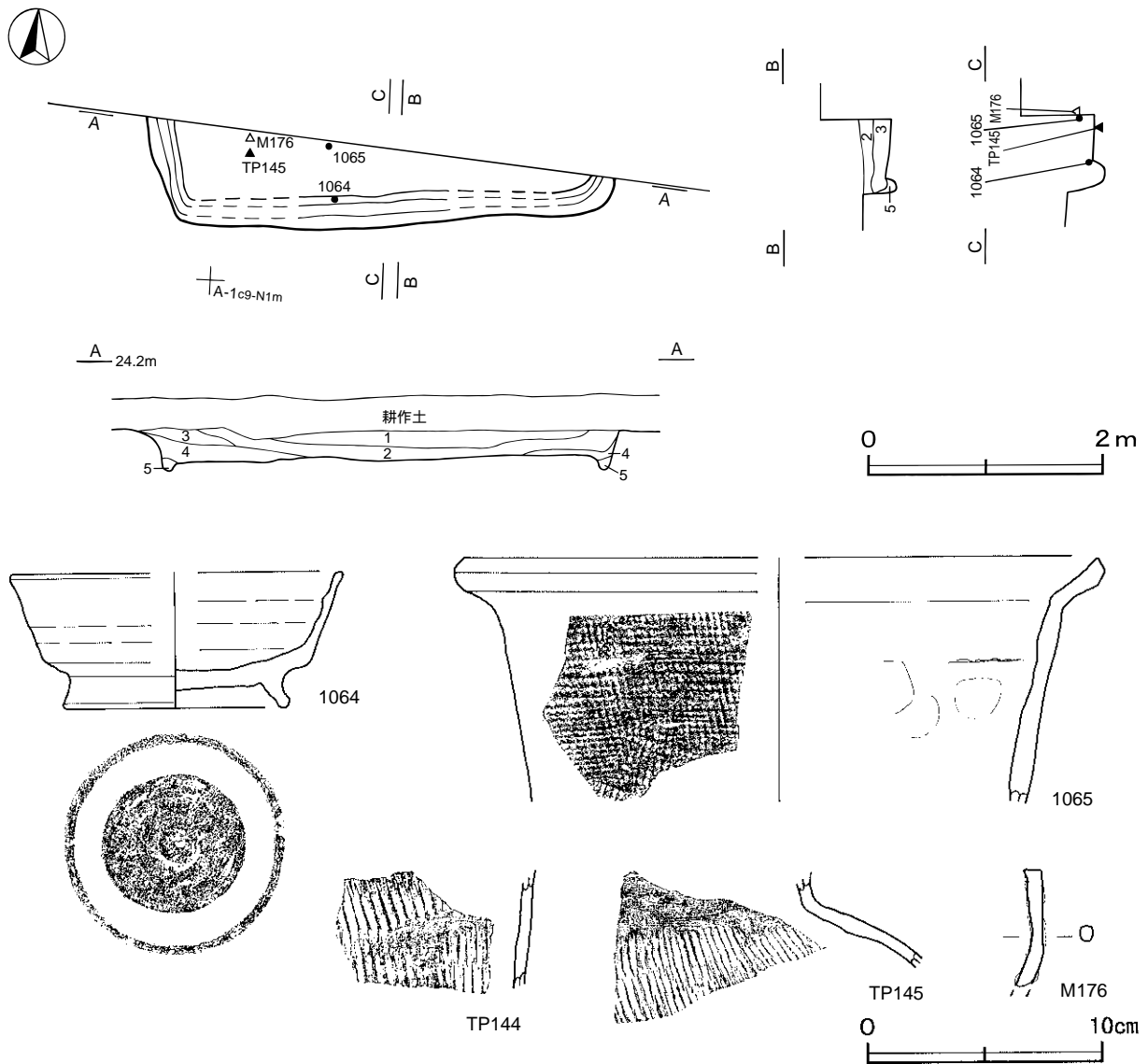
**覆土** 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示しており、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                                |          |                     |
|-------|--------------------------------|----------|---------------------|
| 1 褐色  | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量   | 3 にぶい黄褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色    | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量  |
|       |                                | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量           |

**遺物出土状況** 土師器片30点（坏4，甕26），須恵器片14点（坏8，高台付坏1，蓋1，鉢3，甕1），鉄製品1点（釘）が出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は須恵器坏1点，鉢2点，甕1点である。1064と1065は，西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は，出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。



第64図 第112号住居跡・出土遺物実測図

第112号住居跡出土遺物観察表（第64図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1064	須恵器	高台付坏	[14.0]	5.8	9.4	長石・石英・礫	灰	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	床面	70% PL35
1065	須恵器	鉢カ	[27.0]	(10.4)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面擬格子状の叩き 内面当て具痕後ヘラナデ	床面	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP144	須恵器	鉢カ	-	(5.0)	-	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	体部外面縦位の叩き 内面ナデ	床面	5%
TP145	須恵器	甕	-	(4.1)	-	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	体部外面縦位の叩き 内面ナデ	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M176	釘カ	(4.9)	0.7	0.6	(7.6)	鉄	下端部欠損	床面	PL48

### 第113号住居跡 (第65・66図)

**位置** 調査区中央部のA・1e8区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 西壁際と南壁際を第25号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.10m，短軸3.82mの方形で，主軸方向はN - 0°である。壁高は23～33cmで，直立している。

**床** 平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が壁際を断続しながら周回している。

**竈** 北壁中央部やや東寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部94cm，袖部幅108cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山を基部にして，その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を10cmほど掘り込み，火床部から外傾して立ち上がっている。

#### 竈土層解説

1 暗 褐 色	砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	8 極赤褐色	焼土ブロック多量
2 灰 褐 色	砂質粘土ブロック多量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	9 暗赤褐色	焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック・ローム粒子微量
3 暗 褐 色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化物微量	10 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
4 黒 色	炭化粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量	11 灰 褐 色	砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
5 灰黄褐色	砂質粘土ブロック多量，ローム粒子微量	12 灰 褐 色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック少量
6 暗 褐 色	砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	13 暗赤褐色	焼土ブロック多量，砂質粘土粒子少量
7 黒赤褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子中量，ロームブロック微量	14 灰 褐 色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子少量
		15 褐 色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
		16 暗 褐 色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ42～56cmで，規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ42cmで，南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

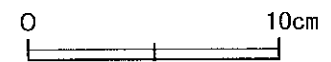
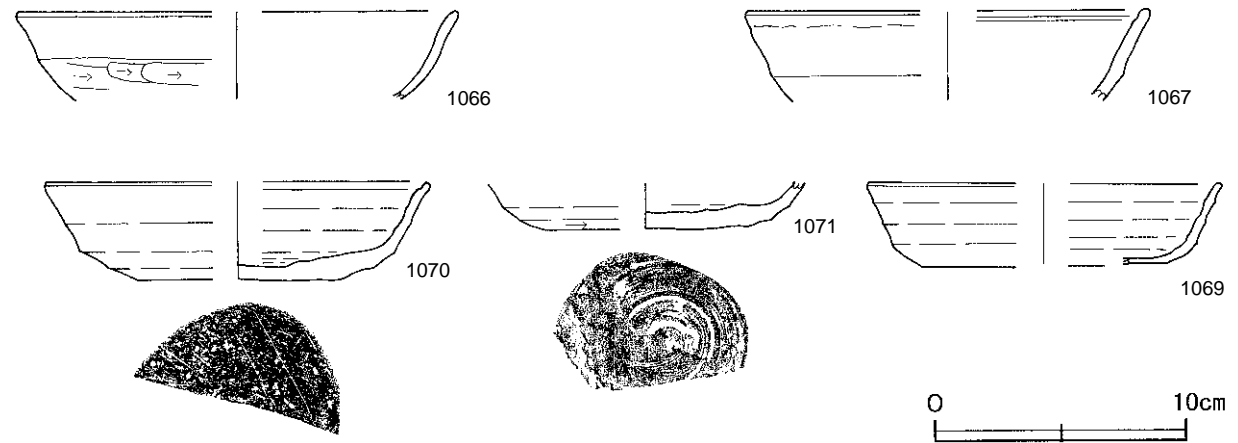
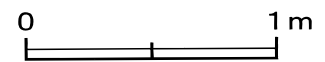
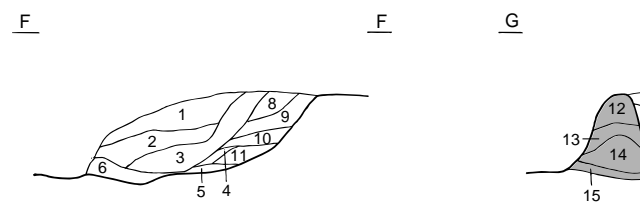
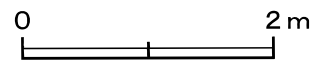
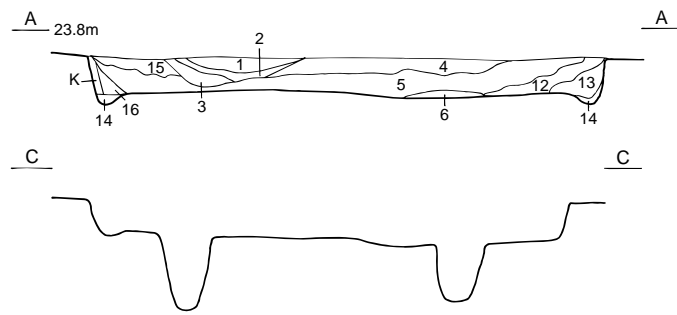
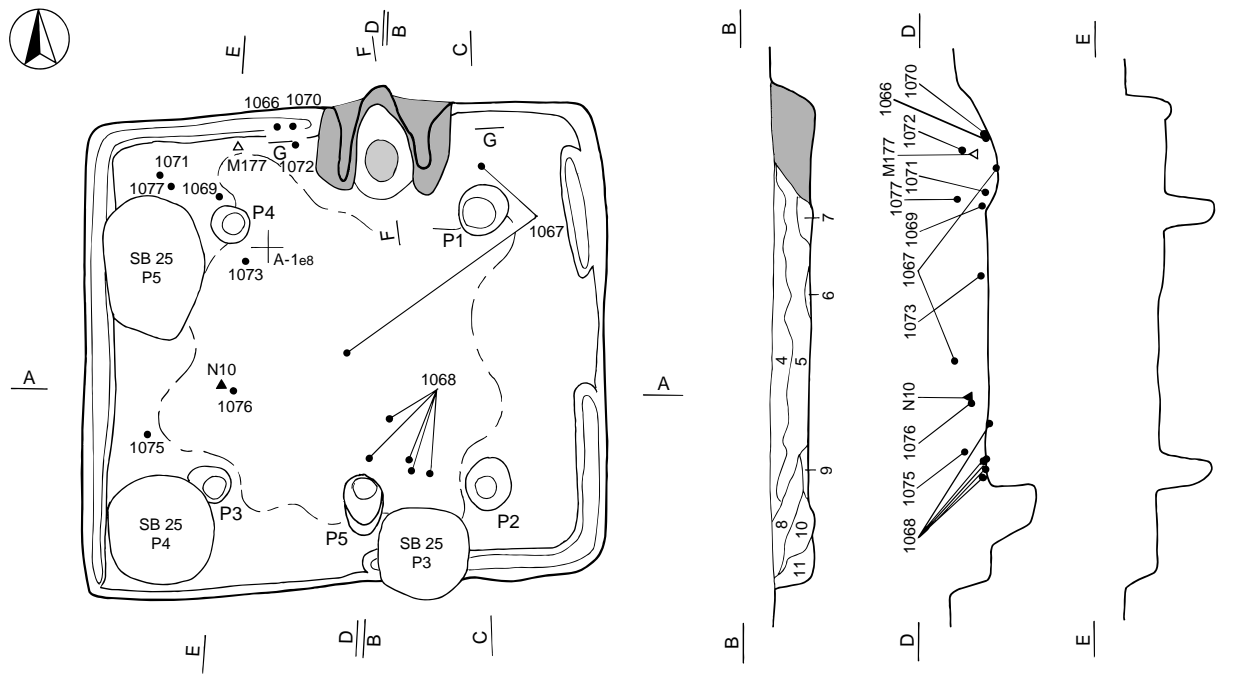
**覆土** 16層に分層される。レンズ状の堆積状況を示しており，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量	9 黒 褐 色	炭化材中量，ローム粒子・焼土粒子少量
2 暗赤褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化材少量	10 褐 色	ロームブロック中量
3 褐 色	ローム粒子中量，焼土ブロック少量	11 褐 色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4 黒 褐 色	砂質粘土ブロック中量	12 暗 褐 色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗 褐 色	ロームブロック中量	13 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子少量
6 黒 褐 色	焼土ブロック・炭化材・ローム粒子少量	14 褐 色	ローム粒子多量
7 暗 褐 色	焼土粒子中量，ロームブロック少量	15 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化材微量
8 褐 色	ロームブロック多量	16 黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

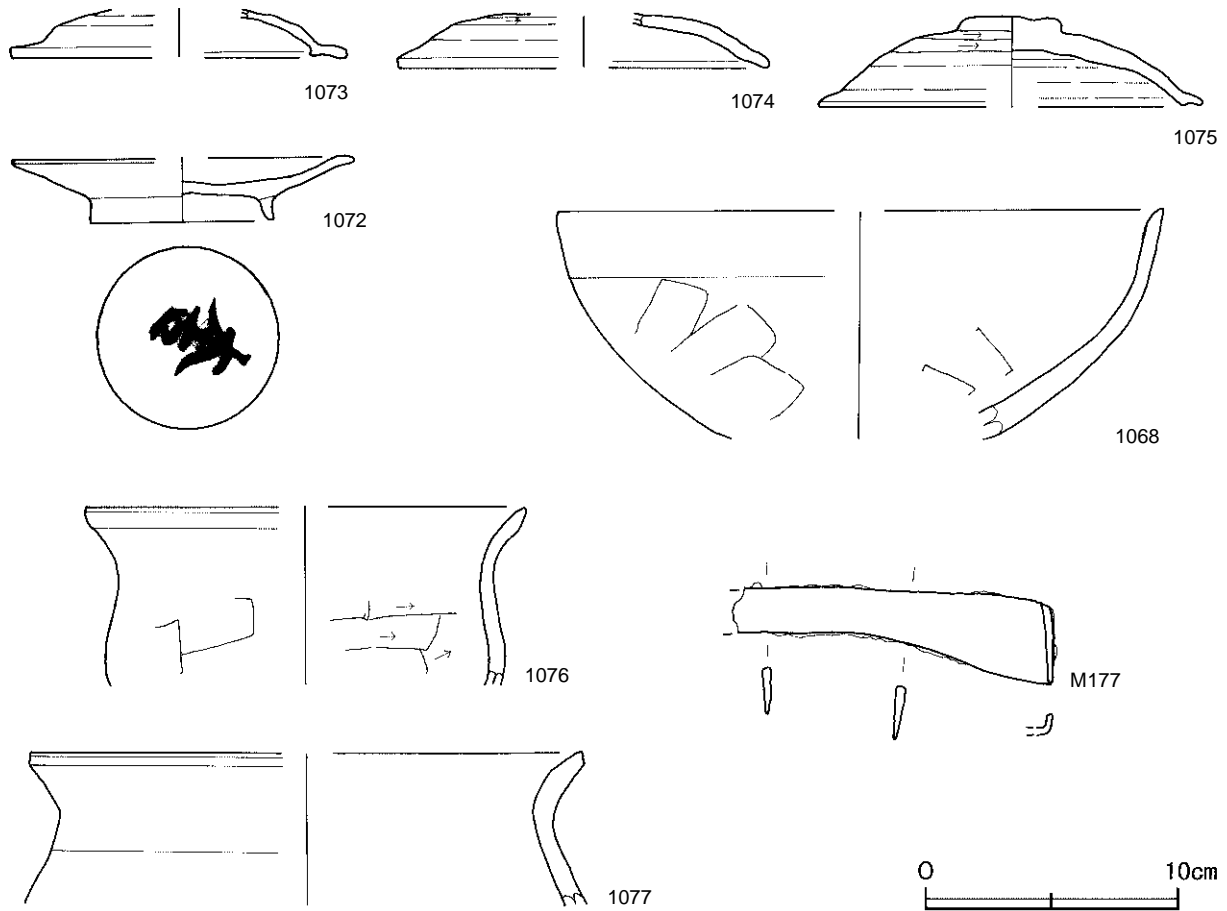
**遺物出土状況** 土師器片178点 (坏46，鉢11，甕121)，須恵器片26点 (坏17，高台付皿1，蓋1，甕7)，鉄製品1点 (鎌)，自然遺物1点 (種子) が出土している。口縁部や底部などから推測される土器の個体数は，土師器坏6点，鉢1点，甕2点，須恵器坏3点，蓋3点，高台付皿2点である。土器片は，全域の覆土上層から床面にかけて出土している。1068は覆土下層から床面にかけて出土した破片が接合したものである。1070は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第65图 第113号住居跡・出土遺物実測図





第66図 第113号住居跡出土遺物実測図

第113号住居跡出土遺物観察表 (第65・66図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1066	土師器	坏	[17.3]	(3.5)	-	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	10%
1067	土師器	坏	[15.8]	(3.6)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土上層～下層	10%
1068	土師器	鉢	[23.9]	(9.0)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層～床面	40%
1069	須恵器	坏	[14.0]	3.2	[9.6]	長石・石英・黒色粒子	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	10%
1070	須恵器	坏	[15.0]	3.9	[8.0]	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄	普通	口縁部内面沈線 体部内・外面ロクロナデ 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	30%
1071	須恵器	坏	-	(1.8)	[8.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端～底部回転ヘラ削り	覆土下層	10%
1072	須恵器	高台付皿	[13.5]	2.5	7.2	長石・石英・雲母・黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り 後高台貼り付け	覆土上層	60% PL42 朱墨「大吉カ」
1073	須恵器	蓋	[13.2]	(1.9)	-	長石・石英・礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土下層	5%
1074	須恵器	蓋	[14.6]	(2.1)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土上層	5%
1075	須恵器	蓋	[15.3]	3.5	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り 後つまみ貼り付け	覆土上層	60%
1076	土師器	甗	[17.4]	(7.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ヘラ削り	覆土中層	5%
1077	土師器	甗	[21.8]	(6.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	覆土上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M177	鎌	(12.8)	3.4	0.3	(44.7)	鉄	基部全面折り曲げ 直刃カ	覆土中層	PL48

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	樹種	特徴	出土位置	備考
N10	種子	2.0	1.5	1.3	1.16	桃カ	表面炭化	覆土中層	

**第115号住居跡 (第67・68図)**

**位置** 調査区中央部のA 1 d4区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長軸3.27m，短軸3.21mの方形で，主軸方向はN - 4° - Eである。壁高は10～14cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

**竈** 北壁中央部のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで86cm，袖部幅101cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山を基部にして，その上に暗褐色土と砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁を35cmほど掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

**竈土層解説**

- |       |                            |        |                       |
|-------|----------------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量                  | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック微量   |
| 2 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量      | 5 黄褐色  | 砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 6 暗褐色  | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量   |

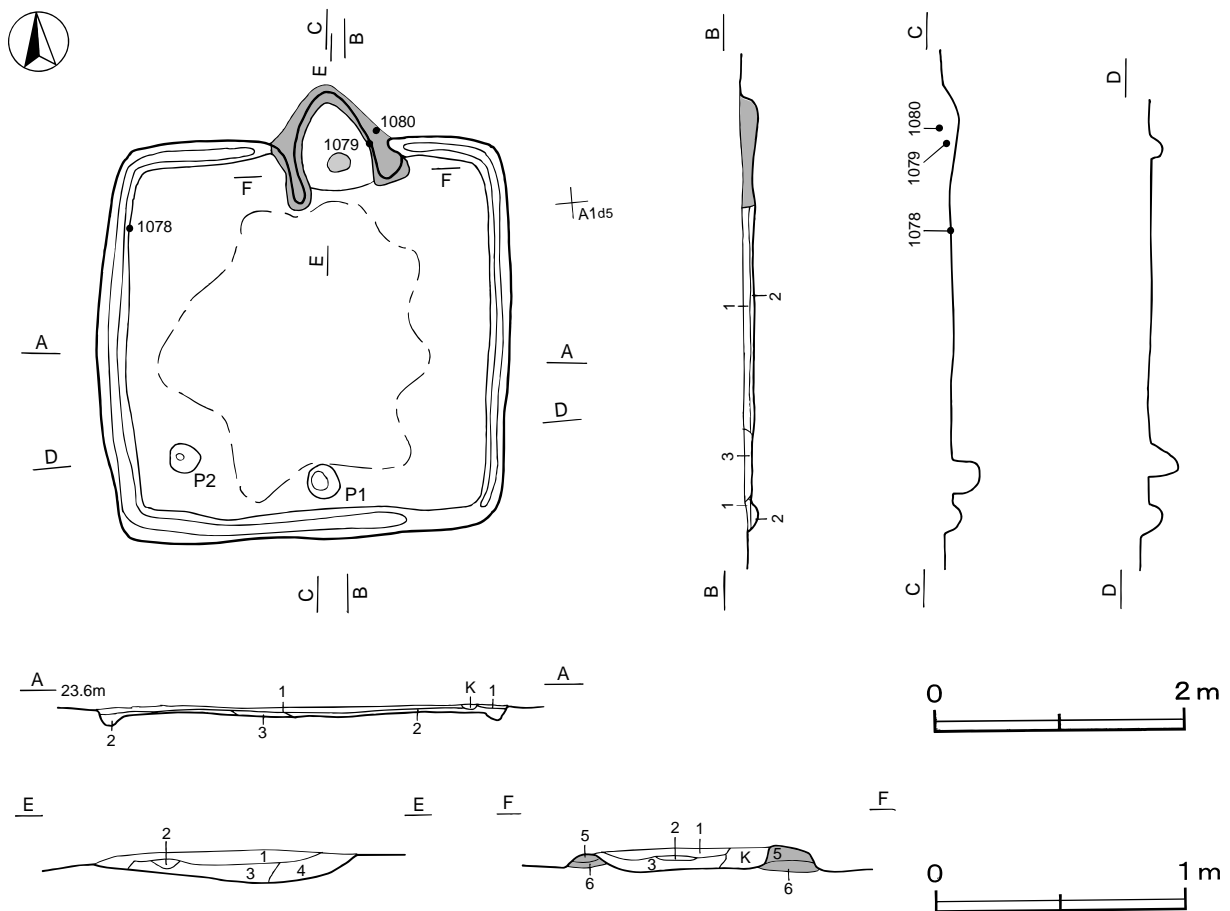
**ピット** 2か所。P 1は深さ23cmで，南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P 2は深さ22cmで，性格は不明である。

**覆土** 3層に分層されるが，層厚が薄いために堆積状況は不明である。

**土層解説**

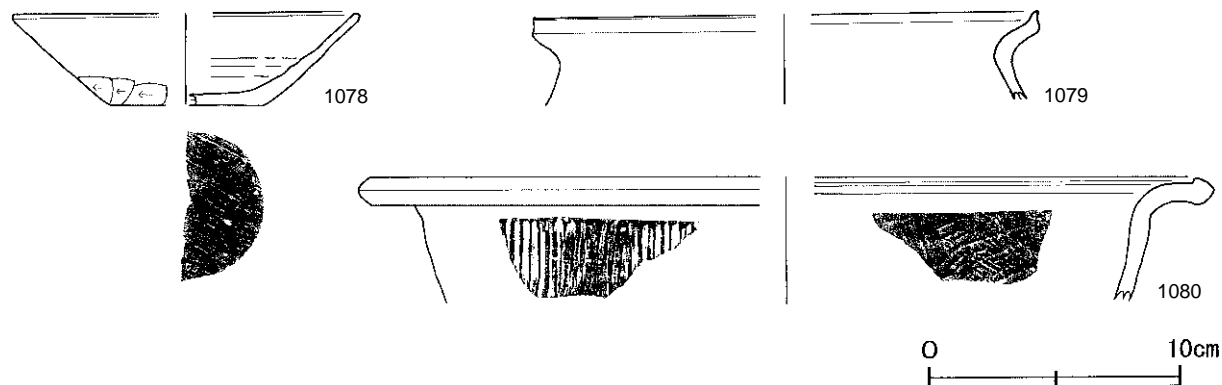
- |       |                     |       |                       |
|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 黒褐色 | 炭化粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化物・焼土粒子少量  |       |                       |



第67図 第115号住居跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片30点（坏11，甕19），須恵器片16点（坏9，甕6，甌1）が出土している。口縁部や底部等から推測される土器の個体数は土師器甕1点，須恵器坏6点，鉢1点である。1078は床面から出土したものである。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第68図 第115号住居跡出土遺物実測図

第115号住居跡出土遺物観察表（第68図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1078	須恵器	坏	[13.6]	3.6	[6.0]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちへラ削り 底部一方向の手持ちへラ削り	床面	30%
1079	土師器	甕	[20.0]	(3.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面横ナデ	竈覆土中	5%
1080	須恵器	鉢	[32.8]	(5.0)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の叩き目 内面斜位の平行当て具痕	覆土上層	5%

### 第116A号住居跡（第69・70図）

**位置** 調査区中央部A 1 d5区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第116B号住居跡を掘り込み，第30号掘立柱建物に掘り込まれている。

**確認状況** 床面がほぼ露出した状態で確認されており，壁溝や竈の配置などから規模と形状を推定した。

**規模と形状** 確認された範囲は，長軸4.33m，短軸3.75mの長方形で，主軸方向はN - 2° - Eである。

**床** 平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が，南壁際を除いて周回している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで112cm，袖部幅150cmである。袖部は床面から5cmほど掘り下げた地山を基部にして，その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は，床面から20cmほど掘りくぼめた後に埋め戻して使用していたと考えられる。火床面は残存していない。煙道部は壁を40cmほど掘り込まれており，火床部から外傾して立ち上がっている。

#### 竈土層解説

1 暗褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量	7 黒褐色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子少量
2 灰褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量	8 暗褐色	砂質粘土粒子・焼土粒子少量
3 暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量，ローム粒子少量	9 灰褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4 褐色	砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量	10 灰褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量
5 赤褐色	焼土ブロック多量，ローム粒子少量	11 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子中量，砂質粘土粒子少量
6 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量		

**ピット** 8か所。P 1 ~ P 4は深さ10~35cmで，規模と配置から支柱穴と考えられる。P 5は深さ21cmで，南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 ~ P 8は深さ18~34cmで，性格は不明である。

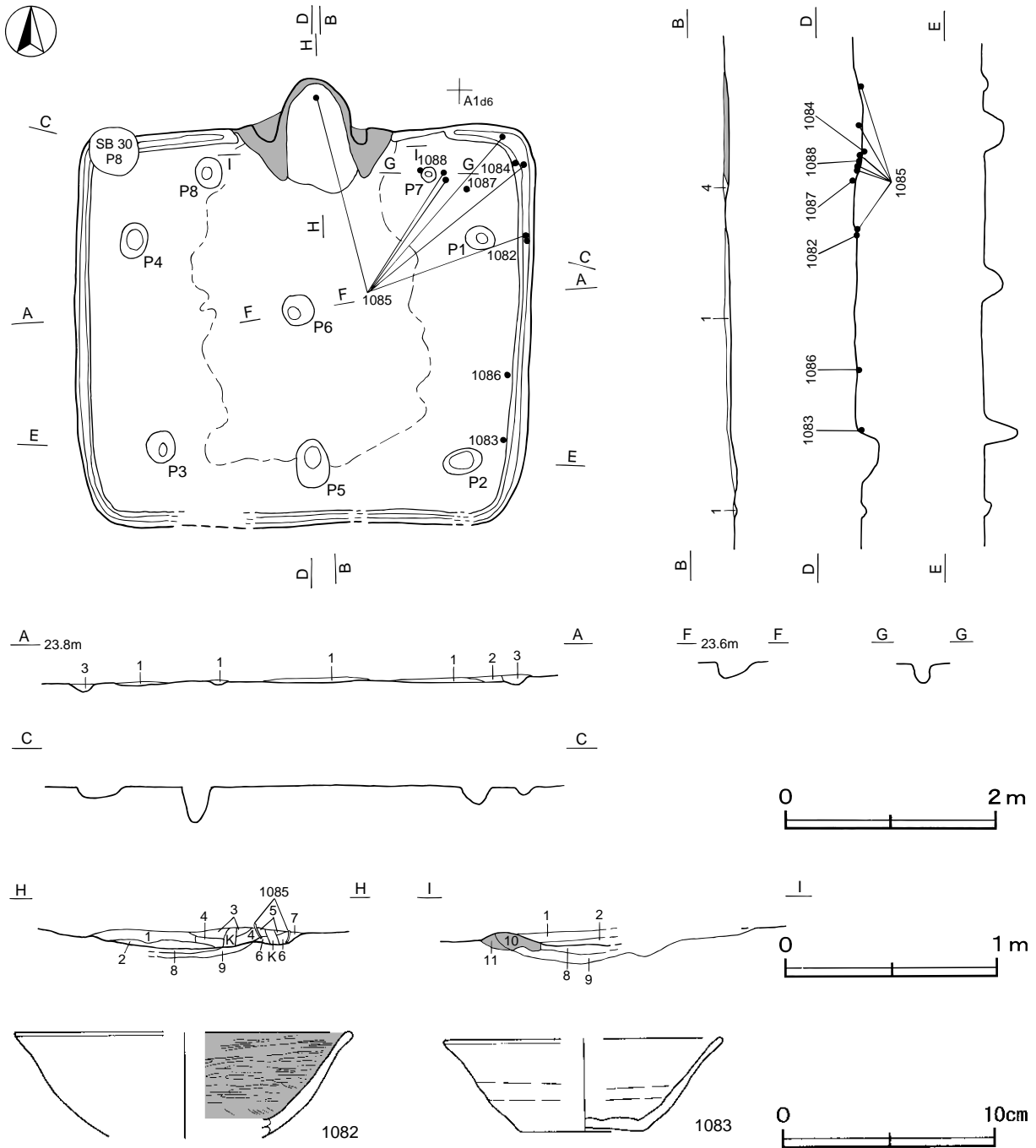
**覆土** 4層に分層されるが、層厚が薄いために堆積状況は不明である。

土層解説

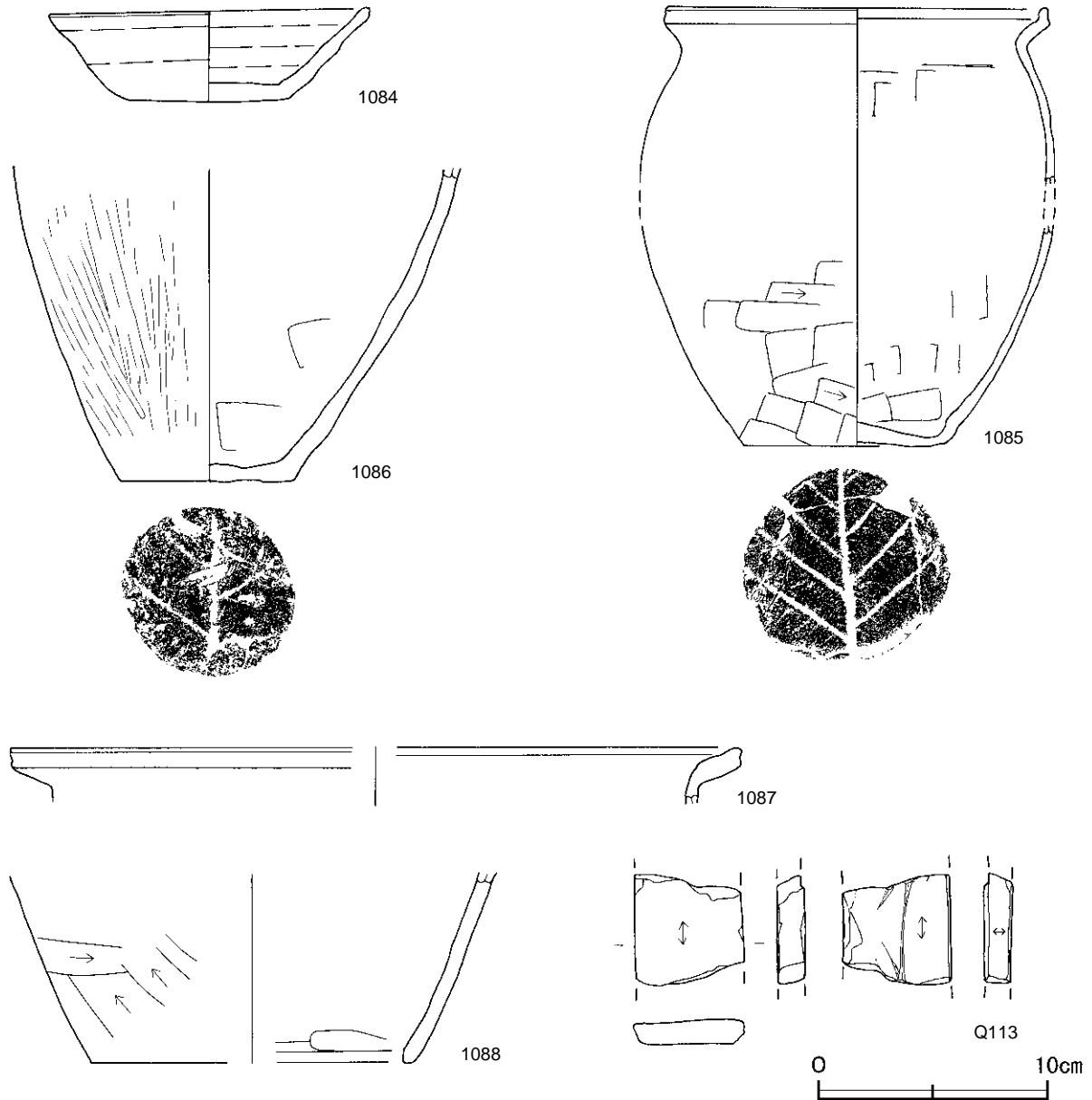
- |       |                       |       |                           |
|-------|-----------------------|-------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 褐色  | ローム粒子多量               |       |                           |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |       |                           |

**遺物出土状況** 土師器片91点（坏18，甕73），須恵器片63点（坏21，甕23，甌19），石器1点（砥石）が出土している。口縁部や体部等から推測される土器の個体数は，土師器坏1点，甕2点，須恵器坏4点，甌1点である。1084は壁溝の覆土中から出土している。1085は，北東コーナー部付近の床面と竈の覆土中から出土した破片が接合したものである。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第69図 第116A号住居跡・出土遺物実測図



第70図 第116A号住居跡出土遺物実測図

第116A号住居跡出土遺物観察表 (第69・70図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1082	土師器	坏	[15.7]	(4.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 内面横方向のヘラ磨き	壁溝覆土中	15%
1083	須恵器	坏	[13.0]	4.3	5.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り 後一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層～床面	60% PL31
1084	須恵器	坏	14.0	4.0	7.0	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部一方向の手持ちヘラ削り	壁溝覆土中	80% PL31
1085	土師器	甕	16.4	[19.2]	9.0	長石・石英・雲母・礫	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	竈覆土中・壁溝覆土中	60%
1086	土師器	甕	-	(13.8)	7.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土下層～床面	20%
1087	須恵器	甕カ	[32.0]	(2.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面	5% 1088と同一個体カ
1088	須恵器	甕	-	(8.3)	[14.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面削り	床面	5% 1087と同一個体カ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q113	砥石	(4.8)	4.8	1.2	(46.1)	砂岩	砥面3面	覆土中	

**第116B号住居跡 (第71図)**

**位置** 調査区中央部のA 1 d5区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第116A号住居に掘り込まれている。

**確認状況** 第116A号住居跡の床面下から確認されており，壁溝と竈の配置から規模と形状を推定した。

**規模と形状** 確認できた範囲は，長軸3.65m，短軸3.11mの長方形で，主軸方向はN - 2° - Eである。

**床** 平坦で，軟弱である。壁溝が断続して周回している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで55cm，袖部幅74cmである。袖部は砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面を20cmほど掘りくぼめており，火床面は残存していない。

**竈土層解説**

- |                               |                             |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 1 灰赤色 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量，ローム粒子微量 | 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子微量 |                             |

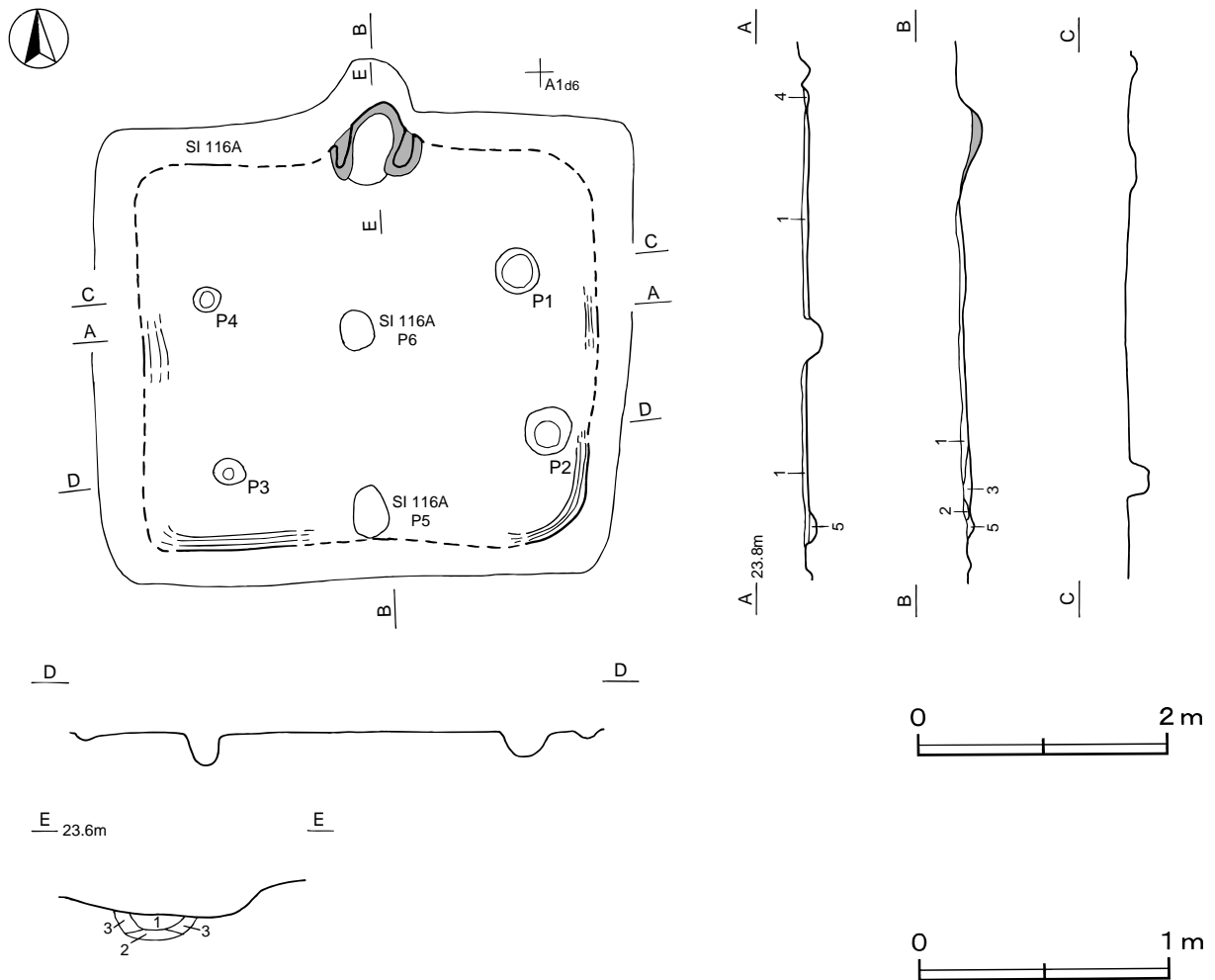
**ピット** 4か所 P1～P4は深さ5～24cmで，規模と配置から支柱穴と考えられる。

**覆土** 5層に分層される。ロームブロックを多量に含んでおり，人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |                                    |                 |
|------------------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量                    | 4 暗褐色 ローム粒子中量   |
|                                    | 5 暗褐色 ロームブロック中量 |

**所見** 第116A号住居跡の床下で確認されており，主軸方向がほぼ一致することから，本住居を拡張して第116A号住居に建て替えたと考えられる。時期は，重複関係から9世紀中葉以前と考えられる。



第71図 第116B号住居跡実測図

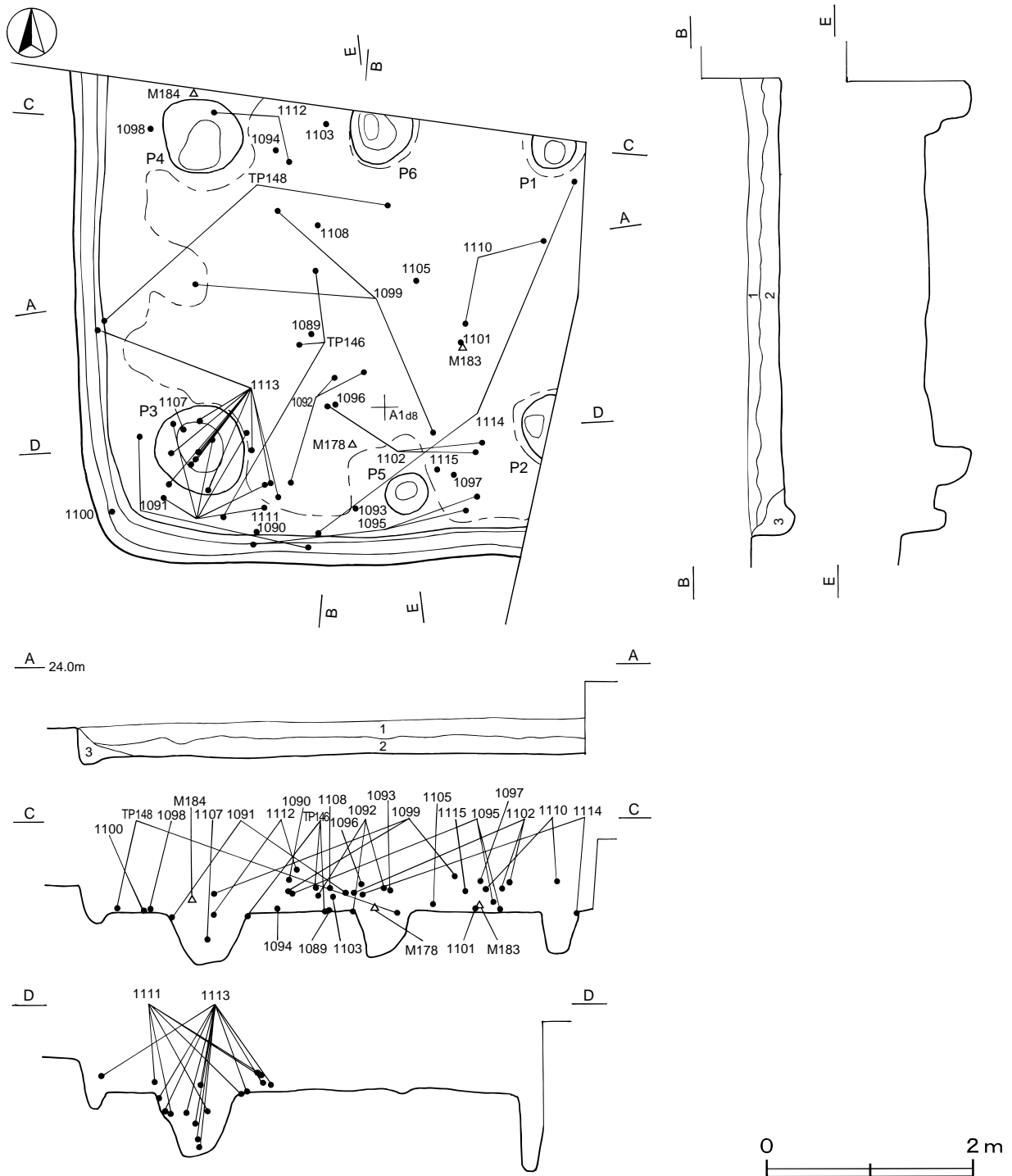
第117号住居跡 (第72~75図)

**位置** 調査区中央部のA 1 c7区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 北部と東部が調査区域外に延びているため, 確認できた範囲は, 東西軸4.96m, 南北軸4.60mだけである。平面形は方形もしくは長方形と推測され, 南北軸方向はN - 0°である。壁高は23~33cmで, 直立している。

**床** 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。確認された範囲では, 壁溝が全周している。

**ピット** 6か所。P 1 ~ P 4は深さ38~74cmで, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P 5は深さ38cmで, 南



第72図 第117号住居跡実測図

壁際に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ46cmで、性格は不明である。

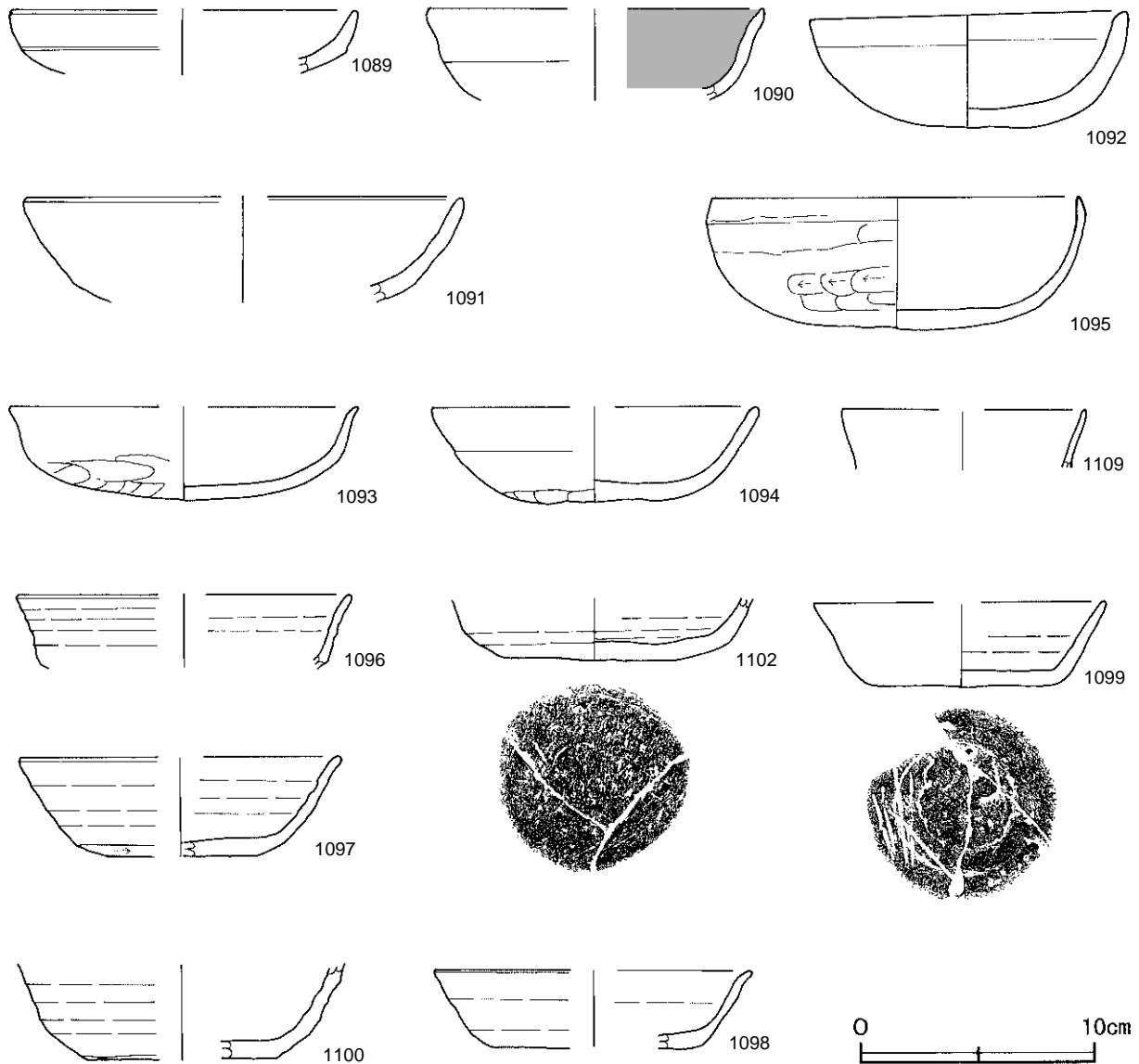
**覆土** 3層に分層される。各層に炭化物が含まれており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量

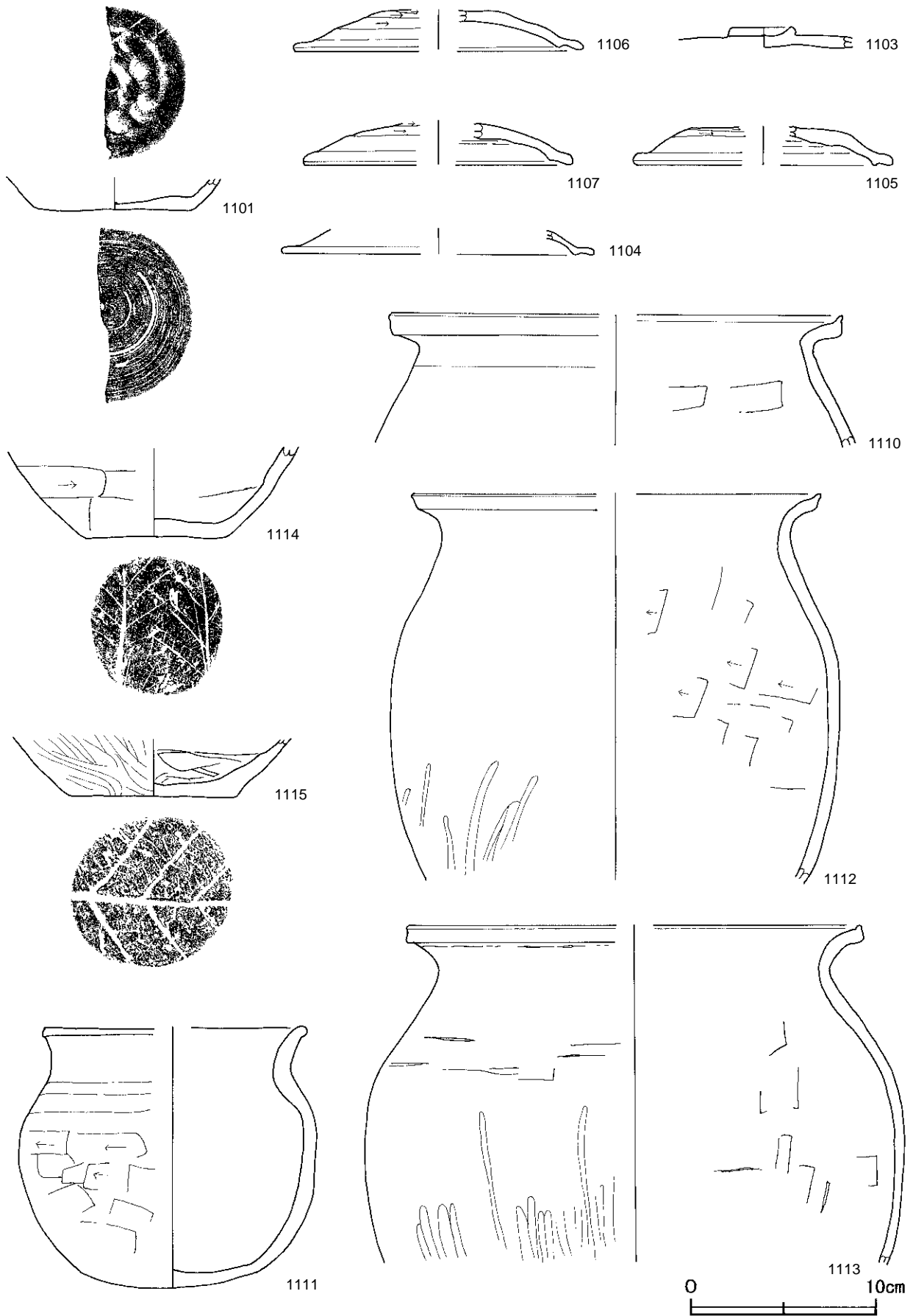
**遺物出土状況** 土師器片665点(坏112, 甕553), 須恵器片149点(坏85, 蓋24, 鉢3, 瓶類4, 甕33), 土製品1点(支脚), 鉄製品7点(刀子2, 鋏1, 不明4)のほかに, 混入した土師質土器片1点(鍋類)も出土している。口縁部や底部などから推定される土器の個体数は土師器坏17点, 甕8点, 須恵器坏9点, 蓋15点, 瓶類1点, 鉢2点, 甕2点である。土器片は, 全域の覆土上層から床面にかけて多量に出土している。1092は, 南部の覆土中層から床面にかけて出土した破片が接合したものである。1095は, 南壁際の覆土中層から床面にかけて出土した破片が接合したものである。1111と1113は南西コーナー部付近の覆土中層から床面及び, P 3の覆土中から出土した破片が接合したものである。1110は覆土上層から出土しており混入とみられる。

**所見** 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。

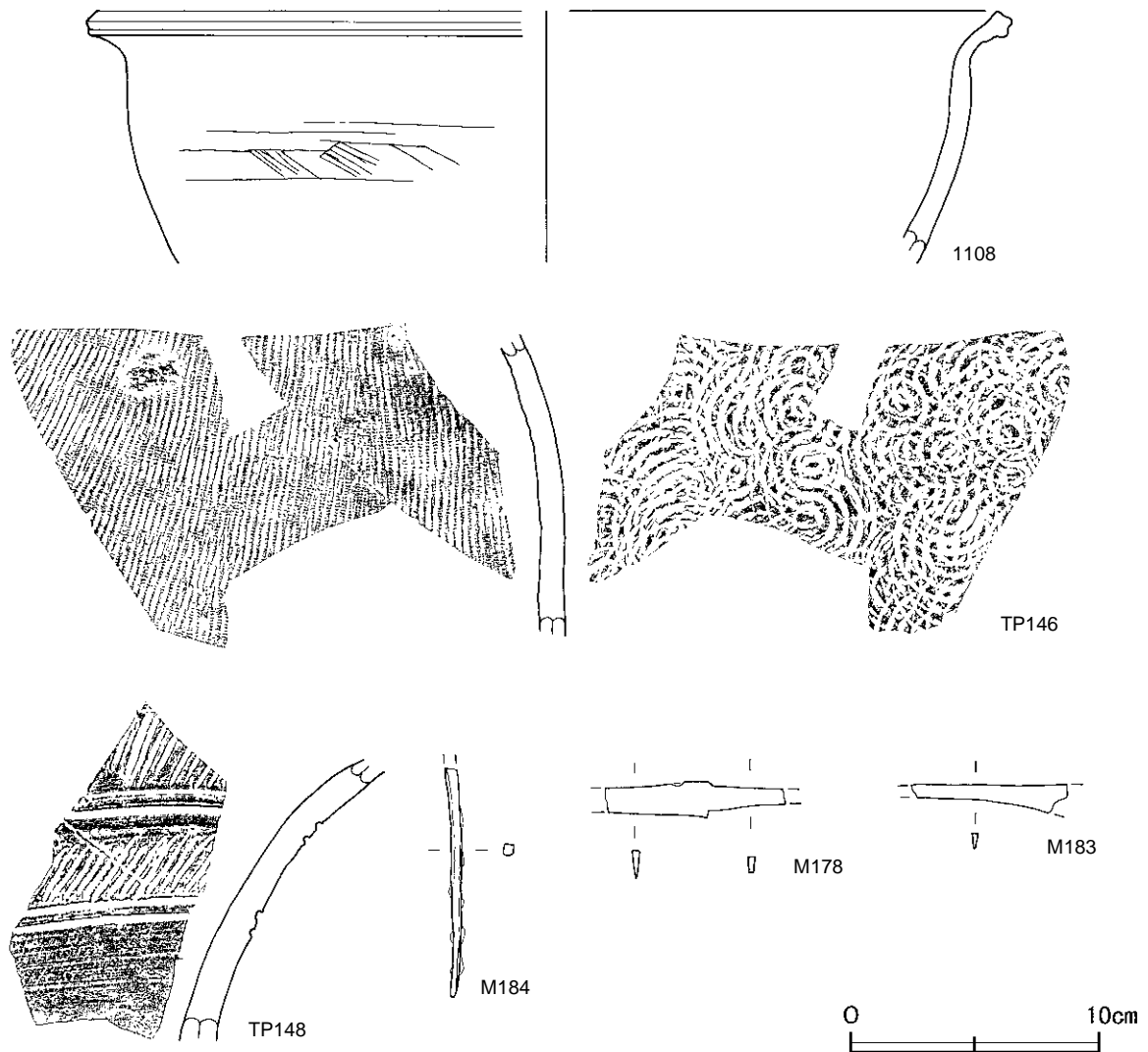


第73図 第117号住居跡出土遺物実測図(1)





第74图 第117号住居跡出土遺物実測図(2)



第75図 第117号住居跡出土遺物実測図(3)

第117号住居跡出土遺物観察表(第73~75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1089	土師器	坏	[14.8]	(2.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り内面ナデ	床面	5%
1090	土師器	坏	[14.2]	(3.9)	-	長石	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り内面ナデ	覆土上層	10%
1091	土師器	坏	[18.6]	(4.4)	-	雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り内面ナデ	覆土上層~下層	10%
1092	土師器	坏	13.5	5.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り内面ナデ	覆土下層~床面	90% PL30
1093	土師器	坏	[14.9]	3.9	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り内面ナデ	覆土中層	30%
1094	土師器	坏	[14.0]	4.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り内面ナデ	床面	50% PL30
1095	土師器	坏	15.6	5.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り内面ナデ	中層~床面	70% PL30
1096	須恵器	坏	[14.2]	(3.1)	-	黒色粒子	灰	普通	体部内・外面口クロナデ	覆土上層	5%
1097	須恵器	坏	[13.6]	4.2	[6.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端~底部回転ヘラ削り	覆土上層	20%
1098	須恵器	坏	[13.4]	3.3	[9.0]	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外面口クロナデ 底部多方向の手持ちヘラ削り	床面	10%
1099	須恵器	坏	[12.4]	3.6	8.0	長石・石英・雲母	灰	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ削り後多方向の手持ちヘラ削り	覆土上層~中層	40%
1100	須恵器	坏	-	(4.0)	[8.0]	長石・雲母・礫	灰	普通	体部内・外面口クロナデ 底部一方の手持ちヘラ削り	床面	15%
1101	須恵器	坏	-	(1.6)	8.2	長石・石英・黒色粒子	灰白	普通	体部内・外面口クロナデ 見込み指頭圧痕 底部回転ヘラ削り	床面	15%
1102	須恵器	坏	-	(2.6)	7.8	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰白	普通	体部内・外面口クロナデ 底部多方向の手持ちヘラ削り	覆土上層~中層	35%
1103	須恵器	蓋	-	(1.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面口クロナデ 天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	覆土中層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1104	須恵器	蓋	[16.8]	(1.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土上層	5%
1105	須恵器	蓋	[14.0]	(2.0)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	床面	10%
1106	須恵器	蓋	[15.6]	(2.1)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土上層	10%
1107	須恵器	蓋	[14.6]	(2.2)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	P3 覆土中	20%
1108	須恵器	鉢	[36.4]	(10.2)	-	長石・石英・礫	褐灰	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面斜位の叩き目後ナデ 内面ナデ	覆土中層	10%
1109	須恵器	坏	[10.4]	(2.5)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土下層	5%
1110	土師器	甗	[24.2]	(7.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土上層	10%
1111	土師器	甗	[14.1]	14.0	-	長石・石英	明褐灰	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中層～床面 P3覆土中	50% 内面タール状物質付着 PL38
1112	土師器	甗	[21.8]	(20.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 外面下端ヘラ磨き 内面ヘラ削り	覆土上層～下層	10%
1113	土師器	甗	[24.2]	(18.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ 外面下端ヘラ磨き	覆土中層～床面 P3覆土中	20%
1114	土師器	甗	-	(4.8)	7.4	長石・石英・礫	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土下層～床面	10%
1115	土師器	甗	-	(3.2)	9.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土中層	5%
TP146	須恵器	甗	-	(12.2)	-	長石・黒色粒子	灰	普通	体部外面縦位の叩き目 内面同心円状の当て具痕	覆土中層～床面	5% PL45
TP148	須恵器	甗	-	(11.2)	-	長石	暗灰	普通	頸部外面二重の平行沈線で区画後区画内に斜位の沈線	床面	5% 1372と同一カ PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M178	刀子	(7.3)	1.4	0.3	(8.0)	鉄	刃部・茎部欠損 両開	床面	PL48
M183	刀子	(6.3)	1.2	0.2	(4.3)	鉄	刃部・茎部欠損 刃開	床面	
M184	鏃	(9.2)	0.5	0.4	(4.9)	鉄	鏃身欠損 開不明	覆土下層	

### 第118号住居跡 (第76図)

**位置** 調査区中央部のA・1g0区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第114A・114B号住居跡，第27号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸2.48m，短軸2.36mの方形で，主軸方向はN - 9° - Eである。壁高は最大8cmで，直立している。

**床** 平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで69cm，袖部幅73cmである。袖部は土師器甗片・須恵器甗片を心材として，砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており，火床面は確認できなかった。煙道部は壁を30cmほど掘り込み，火床部から外傾して立ち上がっている。

#### 竈土層解説

- |        |                          |        |                      |
|--------|--------------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色  | 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量          | 6 灰褐色  | 砂質粘土粒子多量，焼土ブロック少量    |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 | 7 黒褐色  | 炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子少量    |
| 3 黒褐色  | 焼土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量    | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，炭化粒子少量            | 9 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子少量         |
| 5 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック少量         |        |                      |

**ピット** 深さ16cmで，南壁際に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

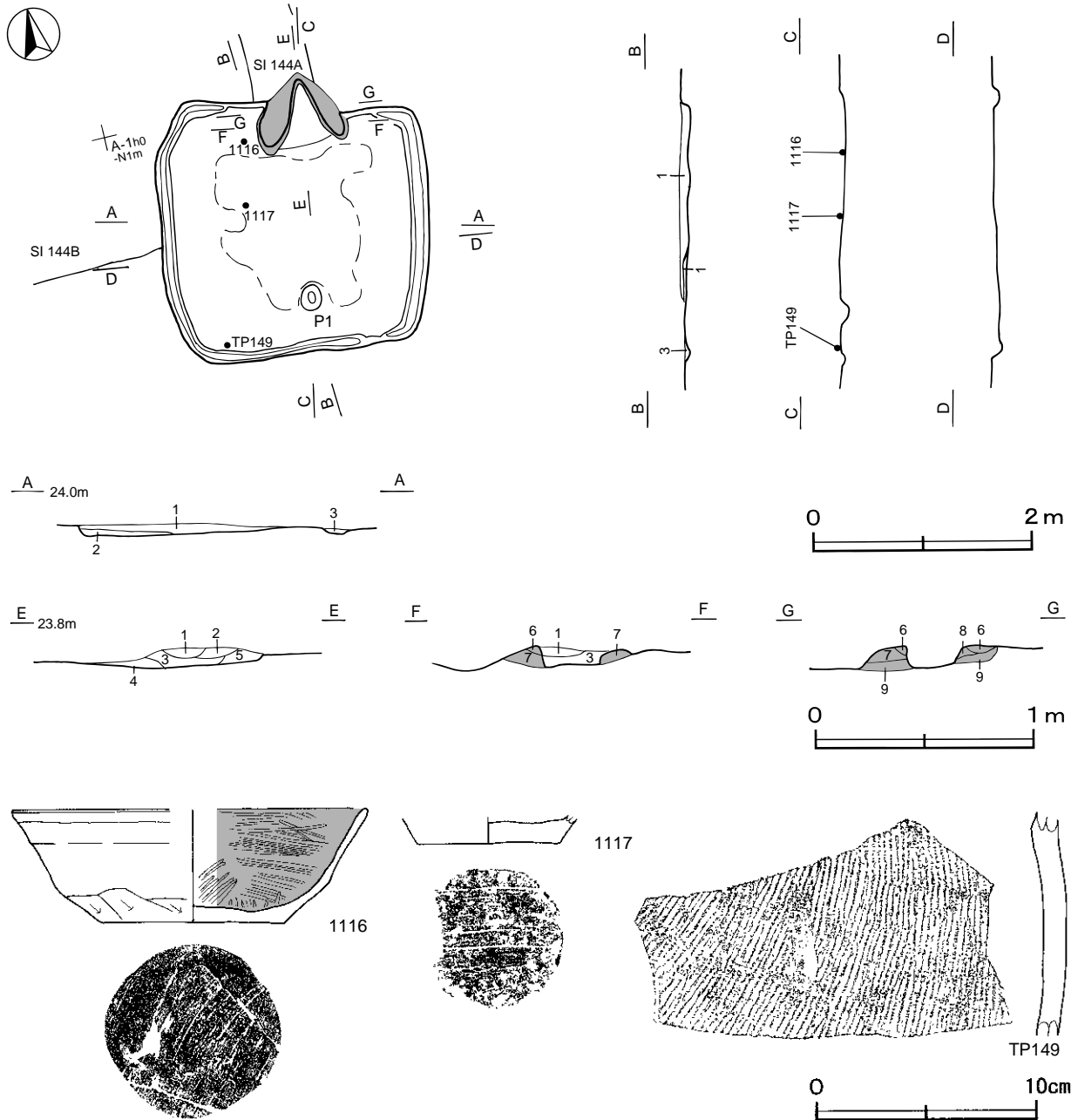
**覆土** 3層に分層されるが，層厚が薄いために堆積状況は不明である。

#### 土層解説

- |       |                |      |         |
|-------|----------------|------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 3 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量      |      |         |

**遺物出土状況** 土師器片53点（坏20，甕33），須恵器片11点（坏2，甕9）が出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は，土師器坏2点，甕3点，須恵器甕1点である。1116は竈西側の床面から一括して出土している。

**所見** 時期は，出土土器及び，遺構の配置から9世紀後葉と考えられる。



第76図 第118号住居跡・出土遺物実測図

第118号住居跡出土遺物観察表（第76図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1116	土師器	坏	[16.0]	5.2	8.0	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 内面横方向のヘラ磨き	床面	70% PL30
1117	土師器	甕	-	(12)	6.5	長石・石英・雲母	灰褐	普通	内面ヘラナデ 底部一方向のヘラ削り	床面	5%
TP149	須恵器	甕	-	(10.0)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	外面縦位の叩き目 内面ヘラナデ	床面	5%

**第125号住居跡 (第77図)**

**位置** 調査区西部のA・4c3区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第124号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸3.90m，短軸3.72mの方形と推定され，主軸方向はN - 34° - Wである。壁高は3～5cmで，外傾して立ち上がっている。

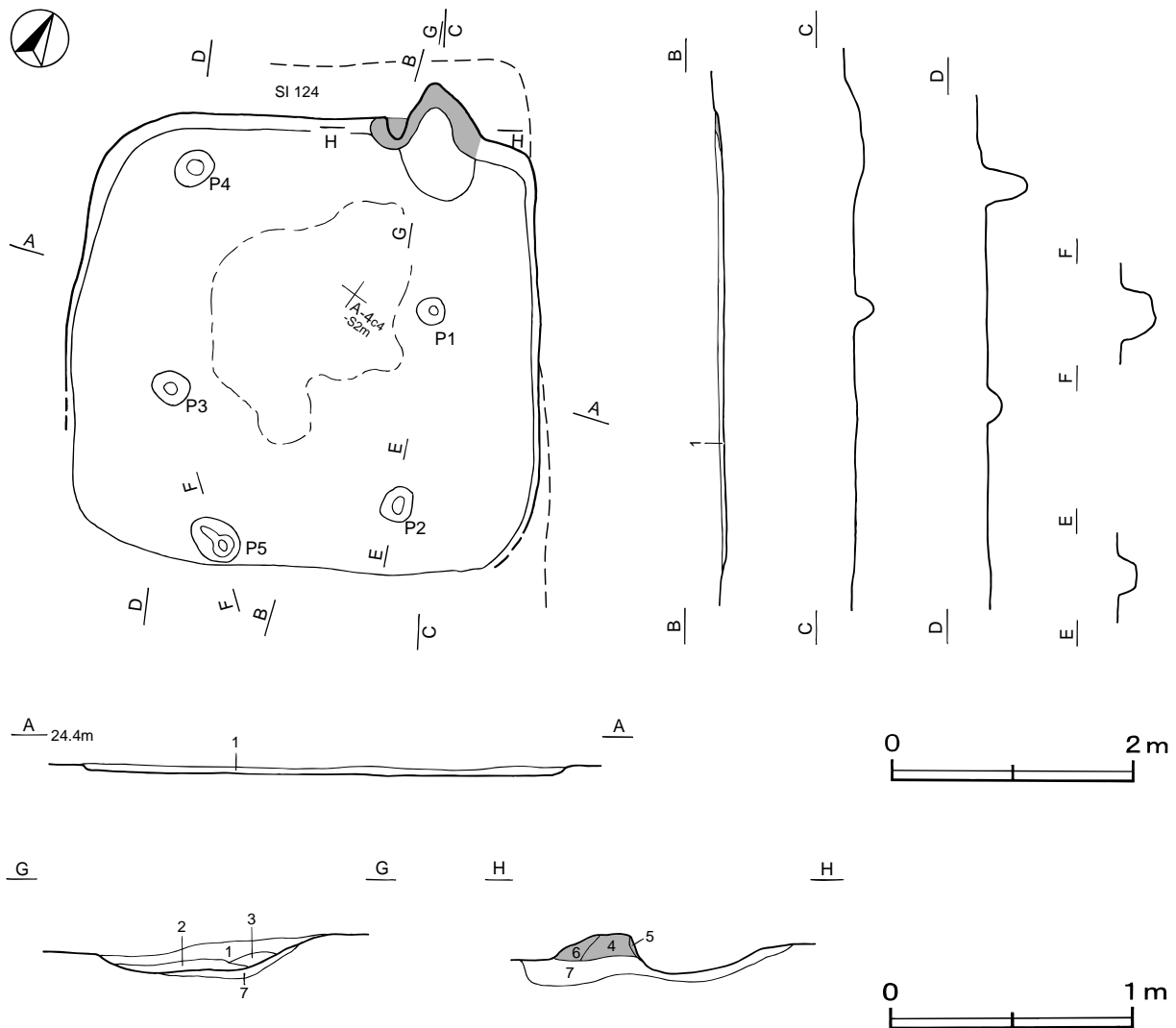
**床** 平坦で，中央部が踏み固められている。

**竈** 北壁の東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで100cm，袖部幅90cmである。袖部は，地山を10cmほど掘り込み褐色土を埋め戻して基部として，その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面を7cmほど掘りくぼめて使用しているが，火床面は確認できなかった。煙道部は壁を40cmほど掘り込み，火床面から緩やかに立ち上がっている。

**竈土層解説**

- |                            |                               |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量  | 5 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子多量        |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子中量，炭化粒子少量       | 6 暗褐色 砂質粘土粒子多量，ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量         | 7 褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量    |
| 4 暗オリーブ色 砂質粘土粒子多量，焼土ブロック少量 |                               |

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ13～38cmで，配置から柱穴に関わるピットと推測される。P5は深さ32cmで，南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第77図 第125号住居跡実測図

**覆土** 単一層で，層厚が薄いために堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片19点（坏1，甕15，高坏3）のほかに，混入した陶器片1点（蓋）も出土している。いずれも細片で図示できない。

**所見** 近接する竪穴住居跡の中では比較的小形の住居である。時期は，遺構の様相及び出土土器から8世紀以降と推測される。

### 第126号住居跡（第78・79図）

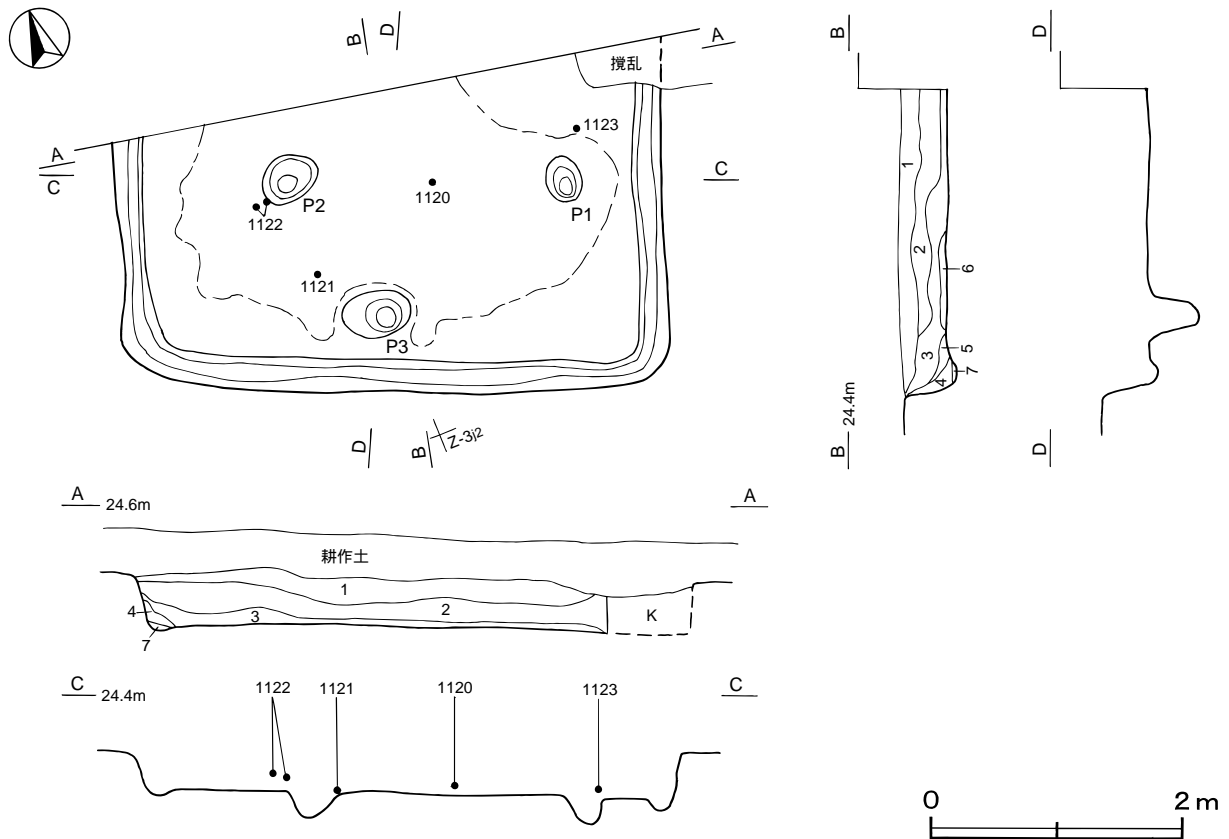
**位置** 調査区西部のZ-3i2区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 北部が調査区域外に延びているため，東西軸は4.35mで，南北軸は2.70mだけが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はN-23°-Eである。壁高は33cmで，直立している。

**床** 平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

**ピット** 3か所。P1・P2は深さ20cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は深さ39cmで，南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 7層に分層される。各層ともにロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。



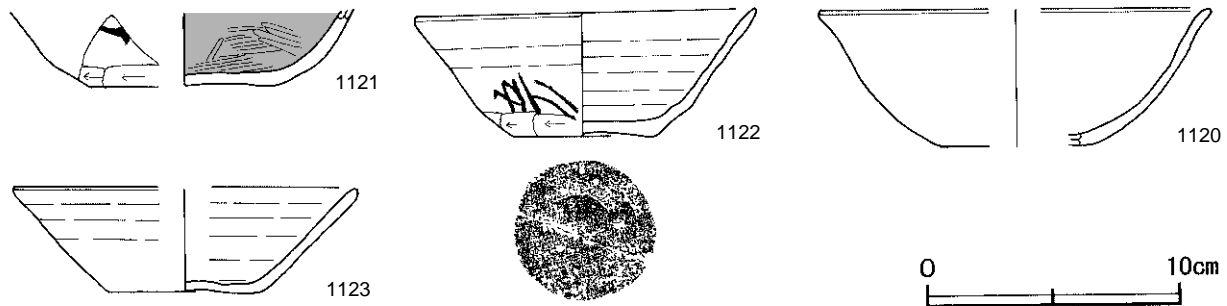
第78図 第126号住居跡実測図

土層解説

- |        |                        |       |                        |
|--------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土ブロック少量 | 5 褐色  | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色  | ロームブロック中量, 焼土粒子少量      | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量         |
| 3 灰褐色  | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量         |
| 4 褐色   | ロームブロック中量, 炭化粒子少量      |       |                        |

**遺物出土状況** 土師器片75点 (坏20, 高台付椀3, 甕52), 須恵器片46点 (坏33, 蓋1, 鉢1, 甕11), 鉄製品2点 (不明) が出土している。口縁部や底部などから推測される土器の個体数は, 土師器坏3点, 須恵器坏5点, 鉢1点, 甕1点である。土器片は, 全域の覆土上層から床面に掛けて散在して出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。1120・1121は内・外面に斑状の剥離がみられ, 火熱を受けていると考えられる。



第79図 第126号住居跡出土遺物実測図

第126号住居跡出土遺物観察表 (第79図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1120	土師器	坏	[15.4]	5.3	[6.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 内面へラ磨き (摩滅)	覆土下層	15% 内・外面剥離
1121	土師器	坏	-	(2.9)	[7.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちへラ削り 内面横方向のへラ磨き 底部一方向の手持ちへラ削り	床面	10% 外面剥離 墨書「J」
1122	須恵器	坏	13.3	5.0	5.6	長石・石英・雲母・礫	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちへラ削り 底部一方向の手持ちへラ削り	覆土下層	75% PL41 墨書「五万」
1123	須恵器	坏	[13.6]	(4.1)	[6.0]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転へラ切り	覆土下層	20%

第128号住居跡 (第80・81図)

**位置** 調査区西部のA・3f7区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**確認状況** 南部が攪乱を受けた状態で確認された。

**規模と形状** 東西軸は3.18mで, 南北軸は1.93mだけが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推測され, 南北軸方向はN - 4° - Eである。壁高は34~36cmほどで, 直立している。

**床** 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝が西壁際を周回している。

**竈** 北壁中央部のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115cm, 袖部幅105cmである。袖部は暗褐色土を基部にして, その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を55cmほど掘り込み, 火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- |          |                          |        |                          |
|----------|--------------------------|--------|--------------------------|
| 1 暗褐色    | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化物微量    |
| 2 暗褐色    | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量    | 6 黒褐色  | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 暗赤褐色   | 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量  | 7 黒褐色  | ロームブロック少量, 焼土粒子微量        |
| 4 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量    |        |                          |

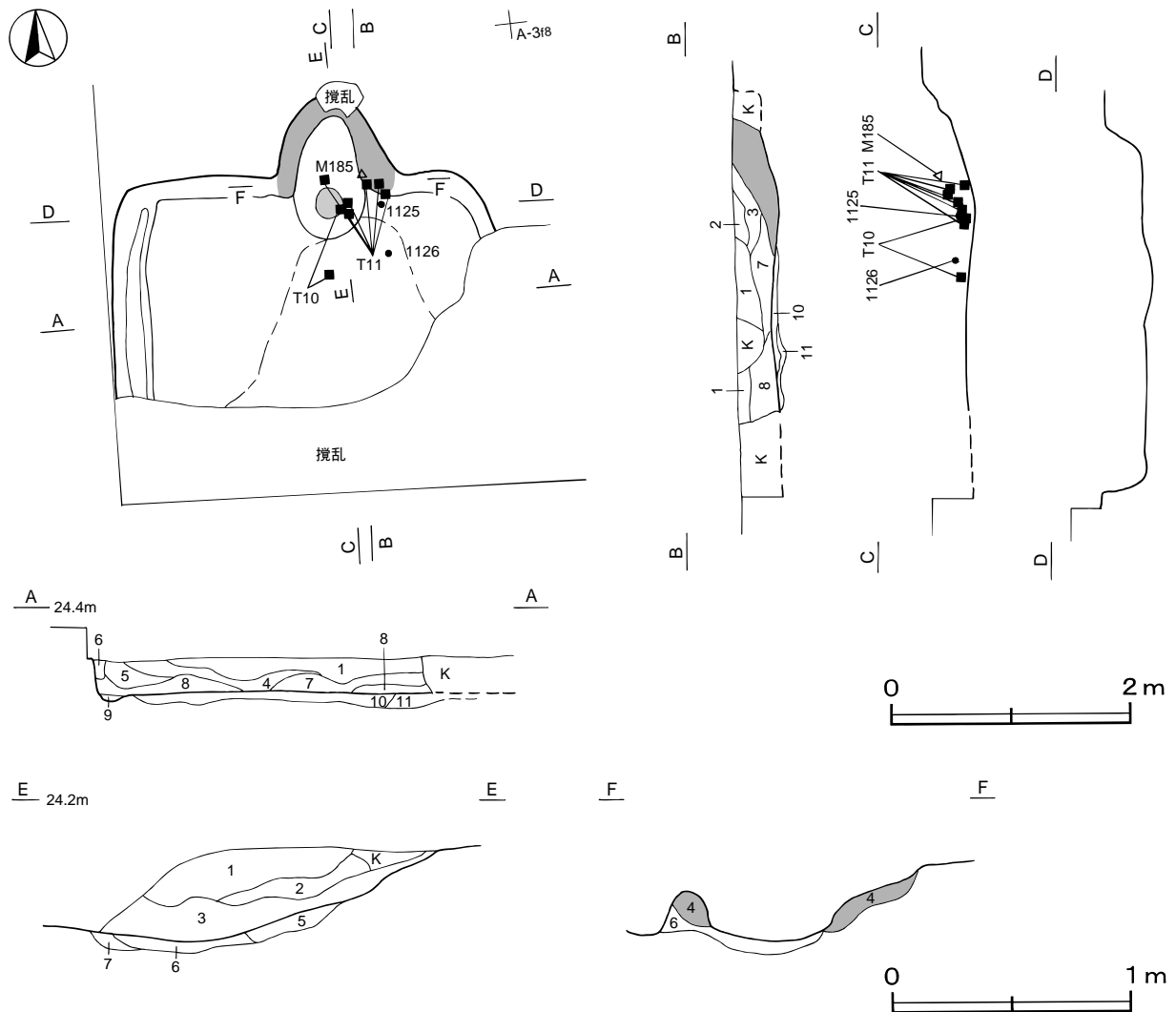
**覆土** 11層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |        |                       |        |                |
|--------|-----------------------|--------|----------------|
| 1 暗褐色  | ロームブロック多量             | 7 黒褐色  | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色  | ロームブロック・粘土粒子少量        | 8 暗褐色  | ロームブロック中量      |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・粘土粒子微量 | 9 暗褐色  | ローム粒子中量        |
| 4 暗褐色  | ロームブロック中量，炭化粒子微量      | 10 暗褐色 | ロームブロック多量      |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック少量             | 11 暗褐色 | ローム粒子多量        |
| 6 黒褐色  | ローム粒子微量               |        |                |

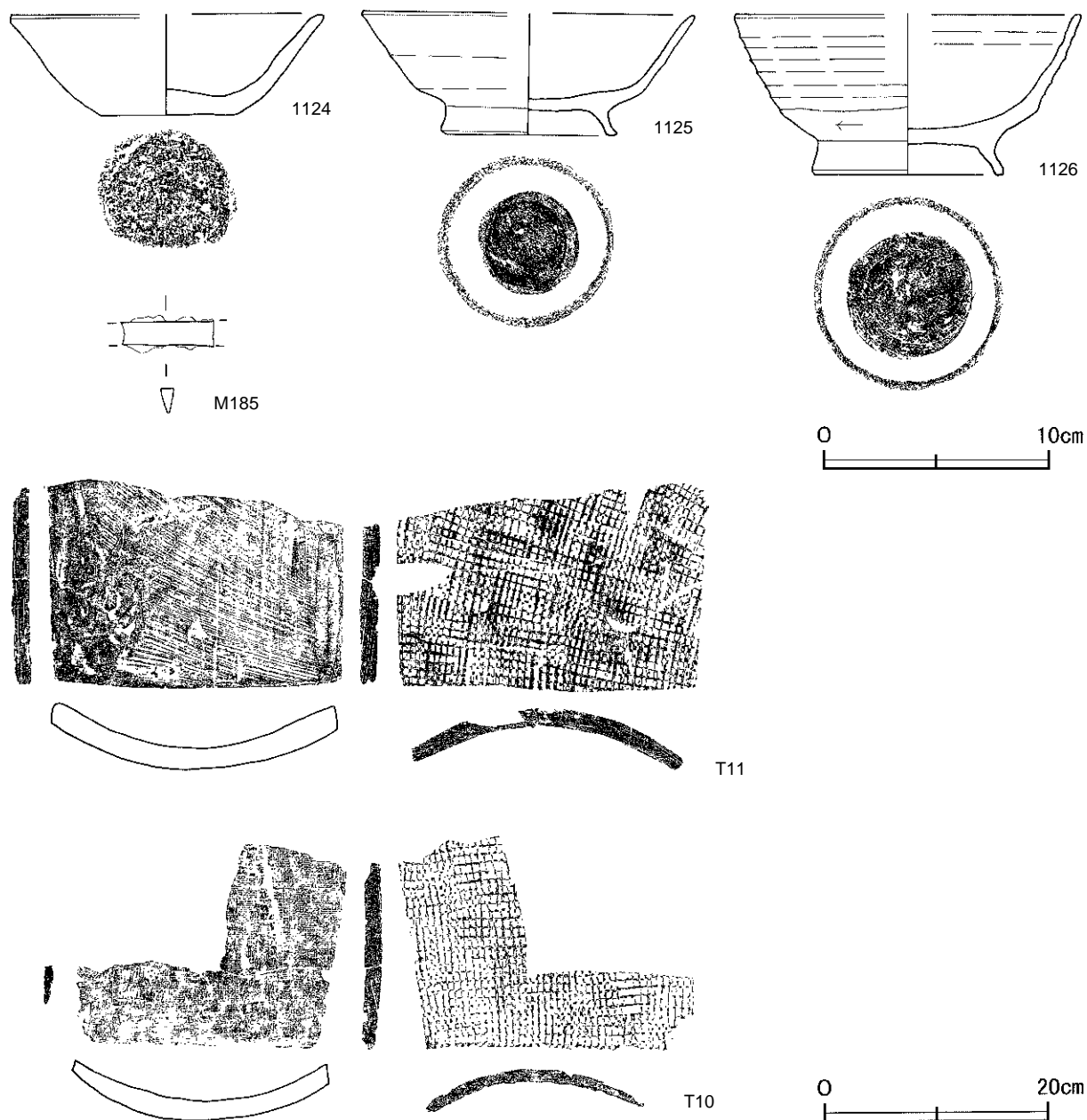
**遺物出土状況** 土師器片49点（坏2，甕47），須恵器片30点（坏26，高台付坏3，鉢1），土製品1点（支脚），瓦片8点（平瓦），鉄製品1点（刀子）のほか、陶磁器片5点も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は、土師器甕2点，須恵器坏6点，高台付坏3点，鉢1点である。土器片は、竈の周辺の覆土上層から下層にかけて散在して出土している。T10・T11は、竈の火床面から出土した破片が接合したものである。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。1124～1126は内・外面に斑状の剥離が見られ、火熱を受けていると考えられる。竈の火床面から出土した平瓦（T10・T11）は、竈の補強材に用いられたと考えられ、島名熊の山遺跡の第1674号住居跡からの出土例に類似している。さらに、胎土には多くの雲母を含んでおり、河内郡寺である九重東岡廃寺で使用された瓦が再利用された可能性が推測される。



第80図 第128号住居跡実測図





第81図 第128号住居跡出土遺物実測図

第128号住居跡出土遺物観察表 (第81図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1124	須恵器	坏	[13.8]	4.5	6.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面クロナデ 底部摩滅により不明	覆土中	30% 内・外面摩滅
1125	須恵器	高台付坏	[14.7]	5.4	7.2	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内・外面クロナデ 底部高台貼り付け	竈覆土中	40% 内面剥離
1126	須恵器	高台付坏	[15.4]	7.2	8.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面クロナデ 外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土下層	60% PL35 内面剥離

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M185	刀子	(4.1)	(1.1)	0.6	(5.2)	鉄	刃部・茎部欠損 関不明	竈覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
T10	平瓦	(19.4)	23.0	1.8	(861.0)	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	凹面布目痕 凸面格子状の叩き目 側面ヘラ削り	竈火床部	30% PL44
T11	平瓦	(19.1)	25.7	2.1	(1650.0)	長石・石英・雲母・黒色粒子	黄灰	凹面布目痕 凸面格子状の叩き目 側面ヘラ削り	竈火床部	40% PL44

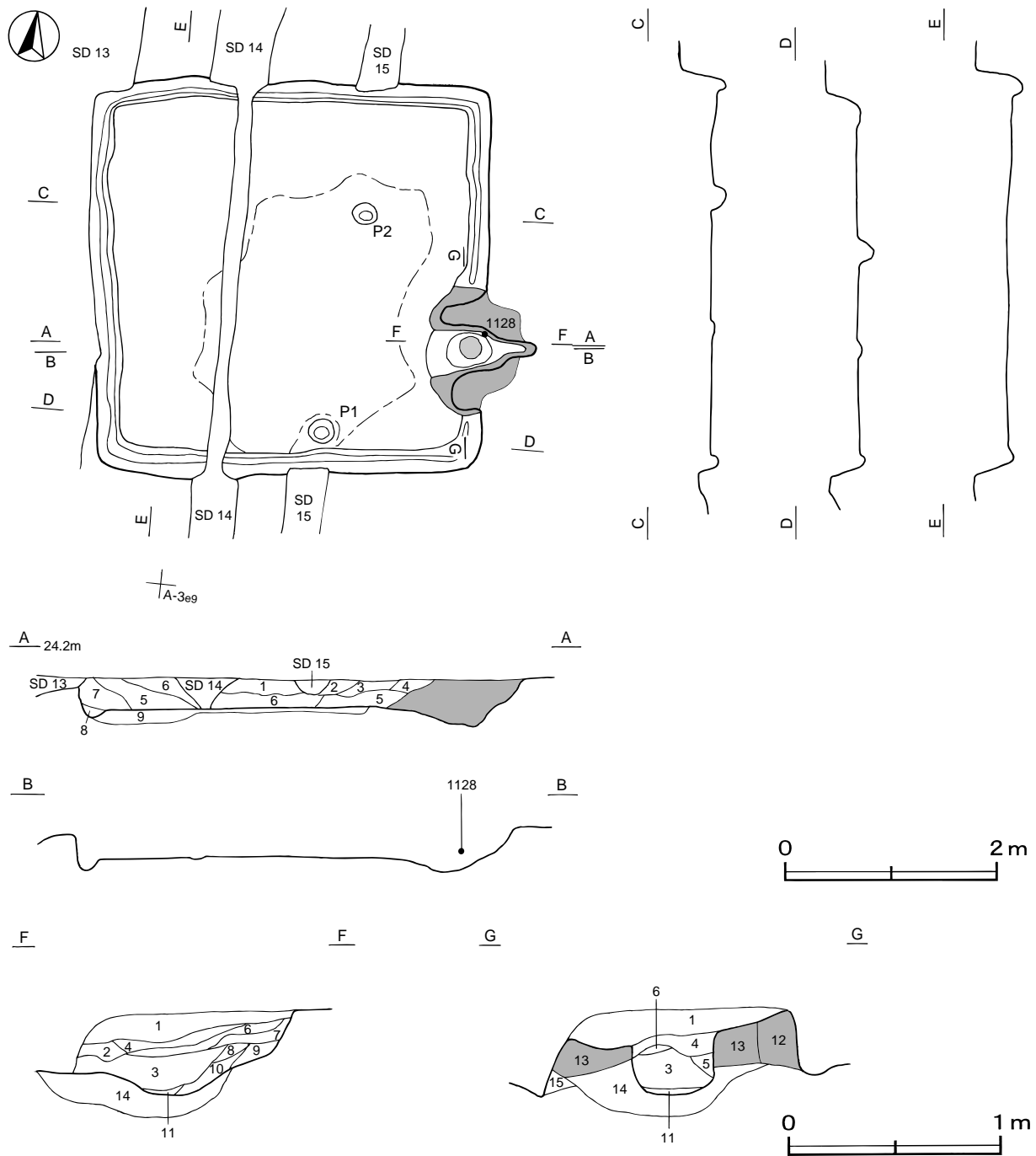
第129号住居跡 (第82～84図)

位置 調査区西部のA・3d9区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第13・14・15号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.66m，短軸3.62mの方形で，主軸方向はN - 83° - Eである。壁高は30～34cmで，直立している。

床 平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。全面が貼床で，中央部を島状に掘り残すように竈の前面と壁近くを特に深く掘り込み，ロームブロックを多く含む褐色土で埋土している。掘り方の底面は掘削による凹凸が著しい。壁溝が全周している。



第82図 第129号住居跡実測図(1)

竈 東壁中央部の南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで105cm，袖部幅120cmである。袖部は，掘り残した地山を基部として，その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面から18cmほど掘りくぼめられており，火床面は確認できなかった。煙道部は壁を50cmほど掘り込み，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- |        |                                |         |                                |
|--------|--------------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量        | 8 暗褐色   | 焼土ブロック中量，炭化物少量                 |
| 2 黒褐色  | 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色   | 砂質粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子少量         |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量        | 10 暗褐色  | 焼土粒子中量，炭化粒子少量，ロームブロック微量        |
| 4 暗褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量      | 11 黒褐色  | 焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子少量          |
| 5 暗褐色  | 焼土ブロック少量，ローム粒子微量               | 12 黒褐色  | 粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量       |
| 6 黒褐色  | 焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 13 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色  | 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 14 暗褐色  | ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量          |
|        |                                | 15 暗褐色  | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量          |

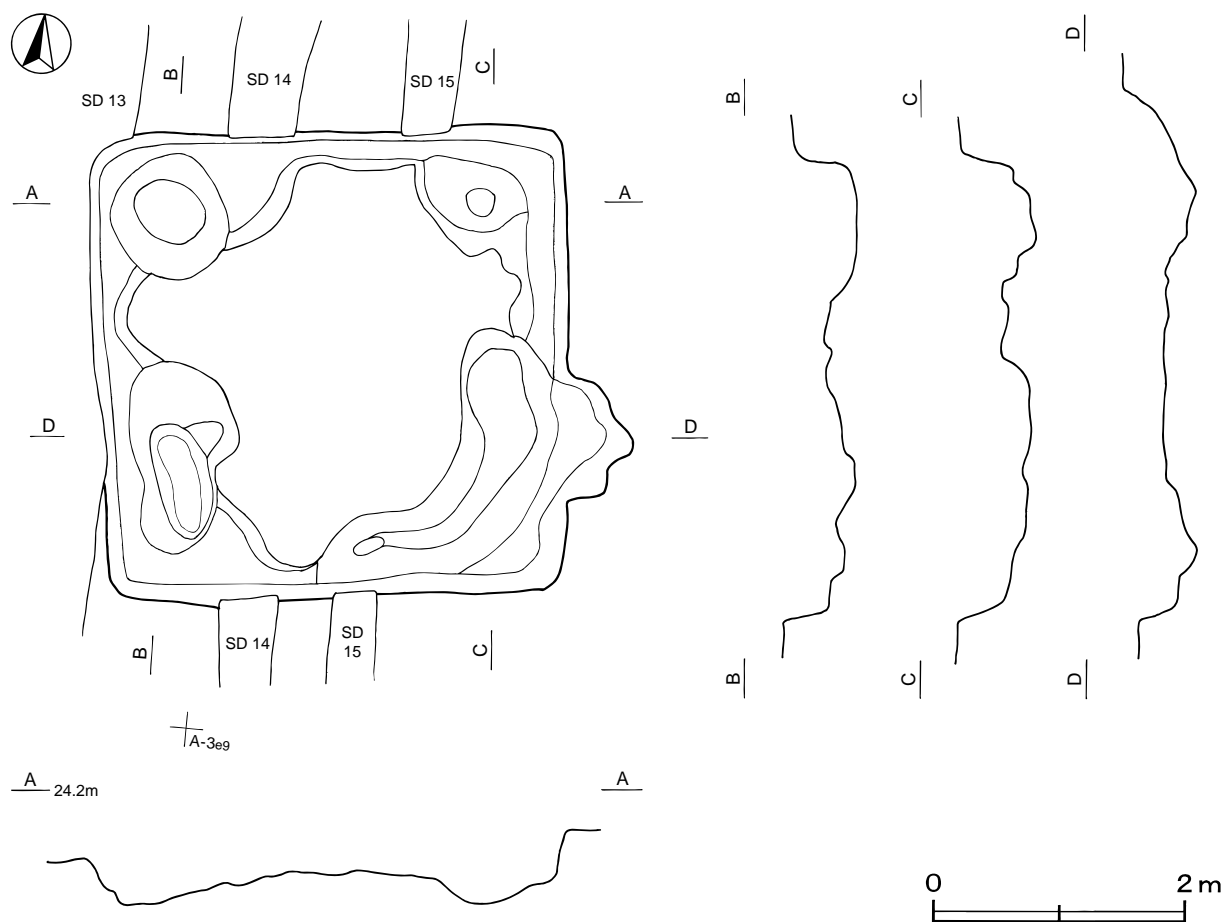
ピット 2か所。P 1は深さ16cmで，南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P 2は深さ19cmで，性格は不明である。

覆土 9層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

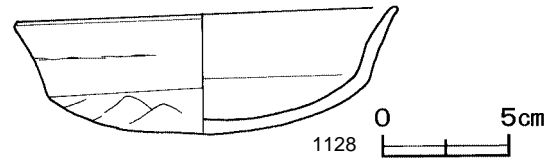
土層解説

- |       |                         |       |                  |
|-------|-------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量     | 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量   |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量   | 7 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量   |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量 | 9 褐色  | ロームブロック多量        |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量   |       |                  |



第83図 第129号住居跡実測図(2)

**遺物出土状況** 土師器片27点（坏17，甕10），須恵器片4点（坏1，蓋1，甕2），石器1点（砥石）のほかに，混入した陶器片1点（播鉢），磁器3点（碗）も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は土師器坏1点である。1128は竈の覆土中層から出土している。



第84図 第129号住居跡出土遺物実測図

**所見** 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第129号住居跡出土遺物観察表（第84図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1128	土師器	坏	15.0	4.9	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	竈覆土中層	80% PL30

第130号住居跡（第85・86図）

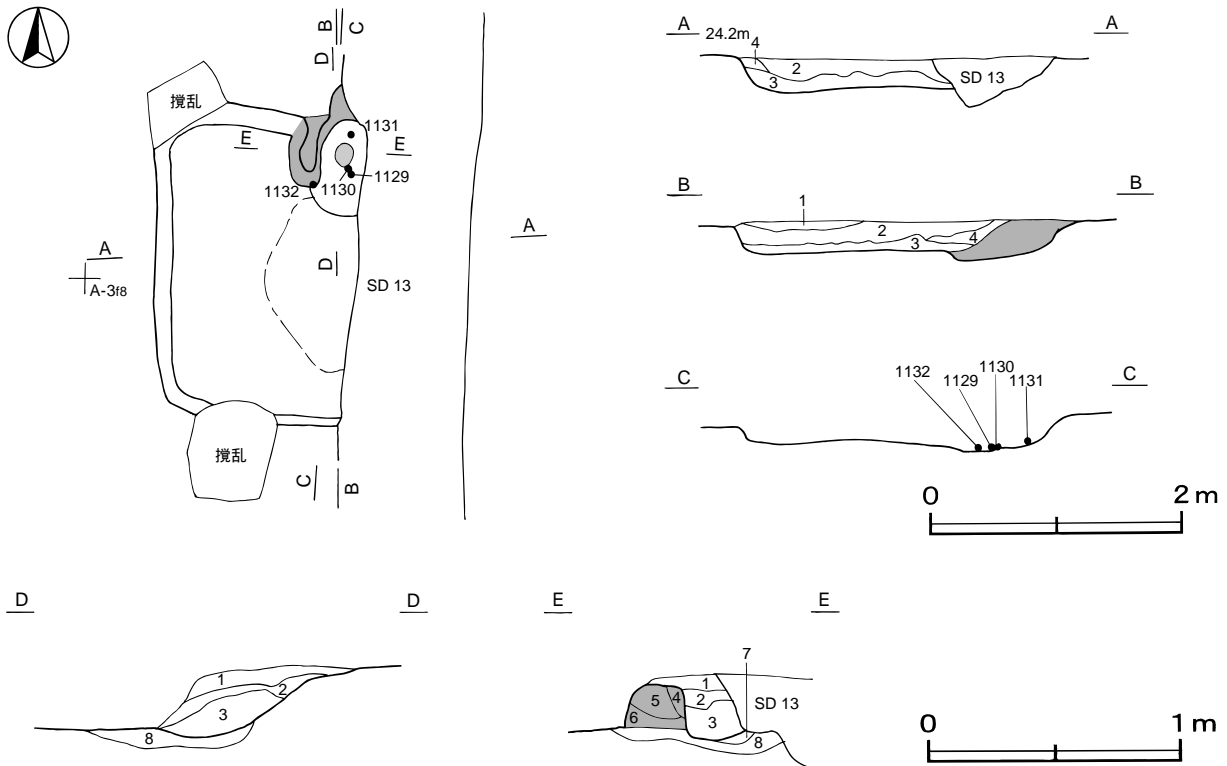
**位置** 調査区西部のA・3e8区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第13号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 南北軸は2.50mで，東西軸は1.53mだけが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推測され，主軸方向はN - 0°である。壁高は20cmほどで，外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で，中央部が踏み固められている。

**竈** 北壁中央部に付設されていたと推定される。規模は，焚口部から煙道部までが105cmで，袖部幅は62cmだけが確認されている。袖部は，地山を10cmほど掘りくぼめた後に暗赤褐色土を埋め戻して基部とし，その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており，火床面は火熱を



第85図 第130号住居跡実測図

受けて赤変硬化している。煙道部は壁を25cmほど掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- |         |                        |       |                             |
|---------|------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 暗褐色   | ロームブロック少量, 炭化物微量       | 6 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量      |
| 2 赤褐色   | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗赤色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量       |
| 3 暗赤褐色  | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色  | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 4 極暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量  |       |                             |
| 5 暗褐色   | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量       |       |                             |

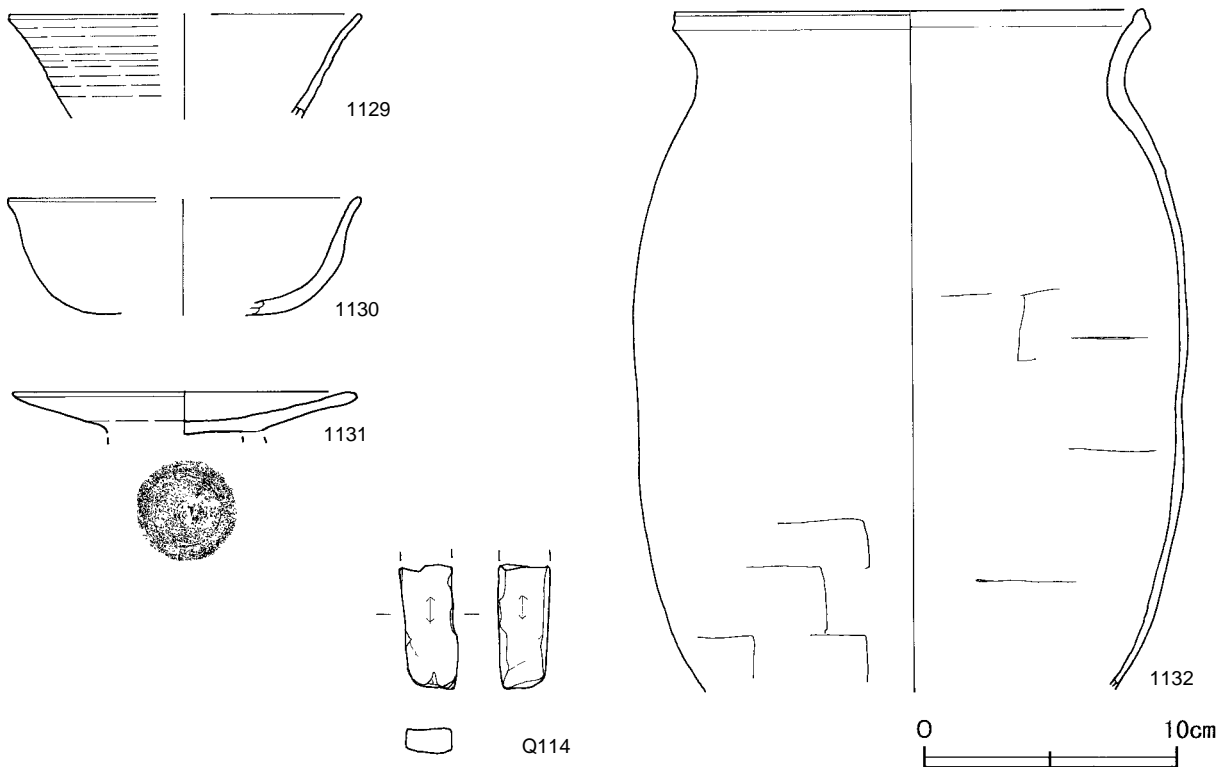
**覆土** 4層に分層される。ローム粒子主体の均質なレンズ状の堆積状況を示しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                         |       |                        |
|-------|-------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 3 褐色  | ローム粒子中量, 炭化粒子微量        |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量    | 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師器片228点（坏2，椀1，鉢7，甕218），須恵器片13点（坏2，高台付皿4，甕7），石器1点（砥石），鉄製品2点（不明）のほかに、混入とみられる土師質土器4点（鍋類），瓦質土器（不明），磁器2点（碗，皿）も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は，土師器椀1点，甕2点，須恵器坏1点，高台付皿1点である。土器片は，竈の覆土中から集中して出土している。1132は竈の袖部から逆位で出土している。

**所見** 時期は，出土土器及び，遺構の配置から9世紀後葉と考えられる。



第86図 第130号住居跡出土遺物実測図

第130号住居跡出土遺物観察表 (第86図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1129	須恵器	坏	[13.8]	(4.1)	-	長石・石英・礫	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ	竈火床部	10%
1130	土師器	椀カ	[13.8]	4.6	[6.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部手持ちヘラ削り	竈火床部	5% 内・外面剥離
1131	須恵器	高台付皿	13.3	(1.7)	-	長石	暗灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り 後高台貼り付け	竈火床部	40%
1132	土師器	甕	18.5	(27.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	竈火床部	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q114	砥石	(4.9)	2.2	0.9	(17.6)	砂岩	砥面 2 面	覆土下層	

### 第131号住居跡 (第87～89図)

**位置** 調査区中央部の A・2b3区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長軸4.90m，短軸4.73mの方形で，主軸方向はN - 23° - Eである。壁高は53～58cmで，直立している。

**床** 平坦で，コーナー部付近を除いて踏み固められている。全面が貼床で，中央部を島状に掘り残すように竈の前面とコーナー部付近を特に深く掘り込み，ロームブロックを含む暗褐色土と褐色土（第14・15層）で埋土している。掘り方の底面は掘削による小規模な凹凸がみられる。壁溝が全周している。

**竈** 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで121cm，袖部幅126cmである。袖部は，掘り残した地山を基部として，その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面から20cmほど掘りくぼめて使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を25cmほど掘り込み，外傾して立ち上がっている。

#### 竈土層解説

1 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量	7 極暗赤褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗赤褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量	8 暗赤褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3 暗赤褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子微量	9 暗赤褐色	焼土ブロック多量，炭化物・砂質粘土粒子微量
4 暗赤褐色	砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量	10 灰オリーブ色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗赤褐色	砂質粘土ブロック多量，炭化粒子微量	11 オリーブ黒色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量，炭化物・ローム粒子微量	12 オリーブ黒色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

**ピット** 5か所。P 1～P 4は深さ41～65cmで，規模と配置から支柱穴と考えられる。P 5は深さ15cmで，南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

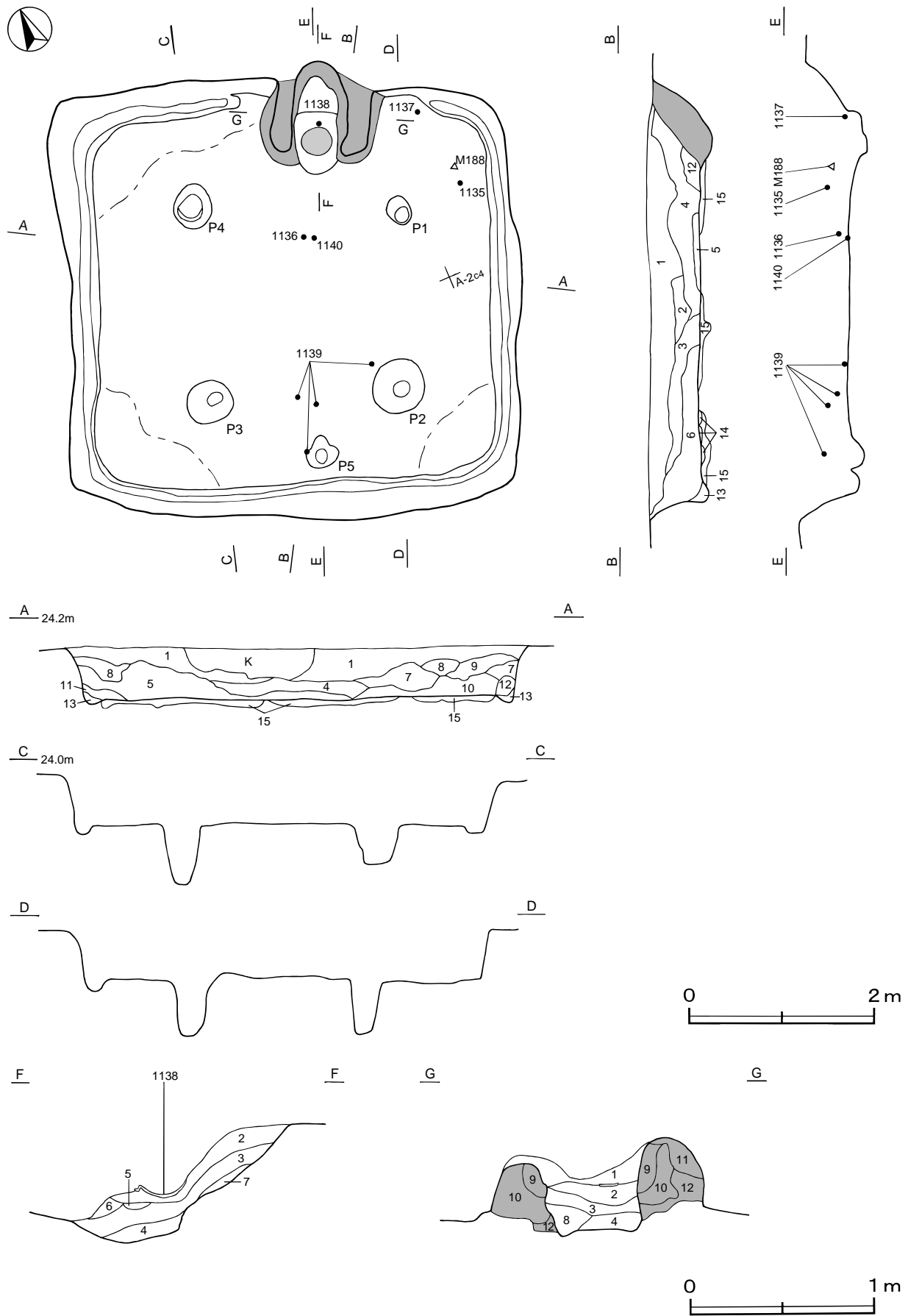
**覆土** 15層に分層される。ブロック状の不自然な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

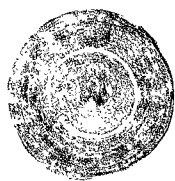
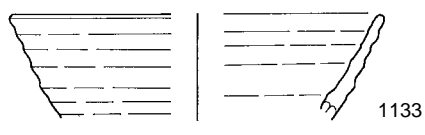
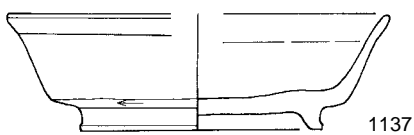
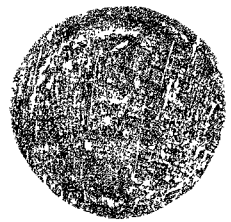
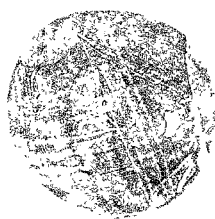
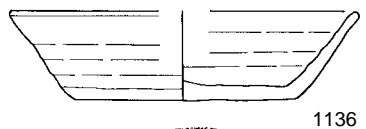
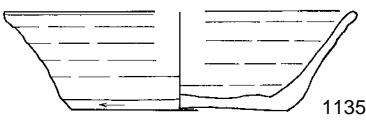
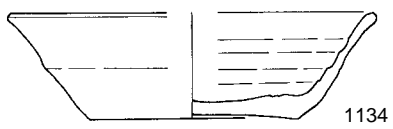
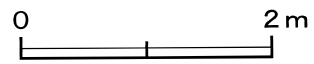
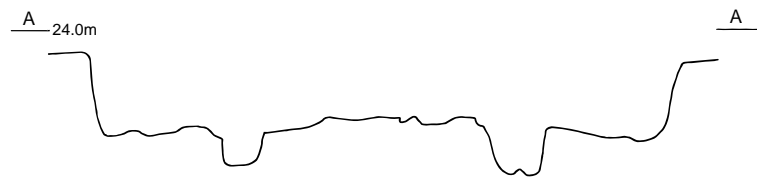
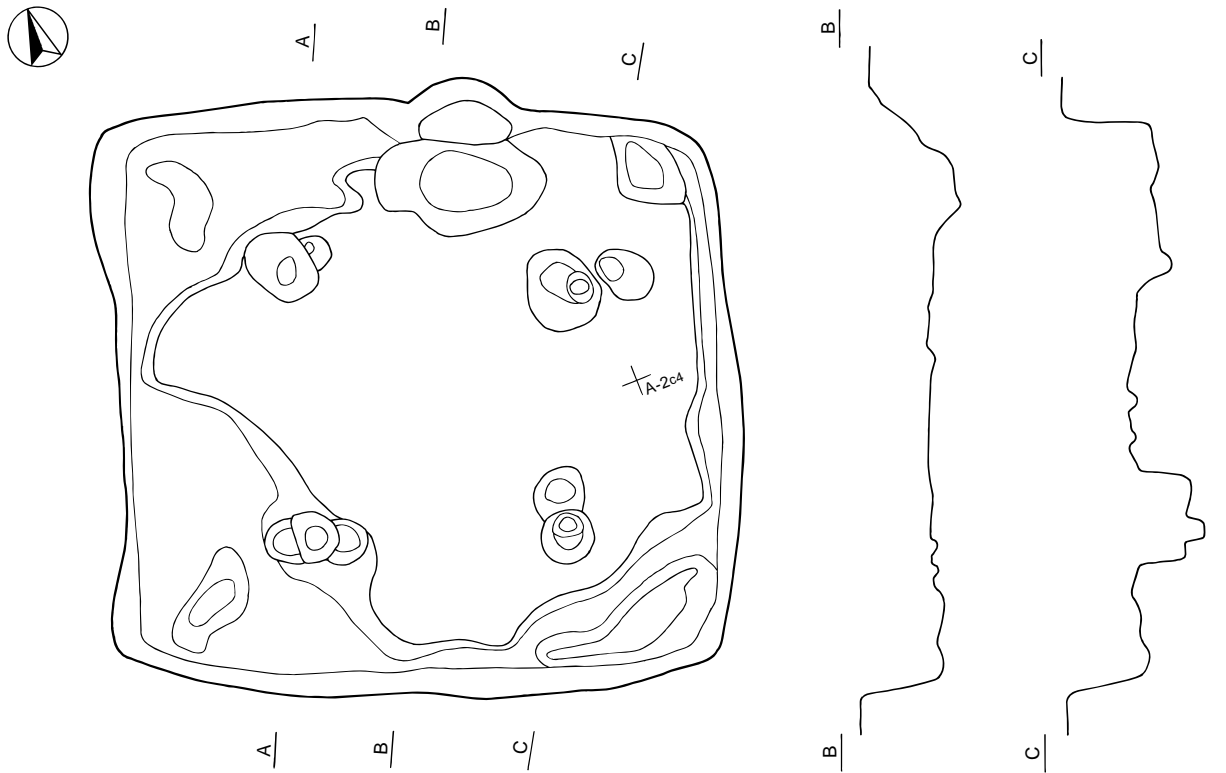
1 黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	9 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック少量，焼土物・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	12 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子・炭化物少量
5 暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量	14 暗褐色	ロームブロック多量，締まり強
7 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量	15 褐色	ロームブロック多量，締まり強
8 暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 土師器片180点（坏3，甕177），須恵器片53点（坏17，高台付坏1，甕34，長頸瓶1），石器2点（砥石），鉄製品5点（鎌1，不明4），鉄滓2点のほかに，混入した陶器片10点（鉢1，播鉢1，不明8）も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は，土師器甕3点，須恵器坏6点，高台付坏1点，甕1点である。1135は北東部の覆土中層から，1137は北壁際の覆土下層から，1136は竈前面の覆土下層からそれぞれ一括して出土している。1139は，南部の覆土上層から床面にかけて出土した破片が接合したものである。

**所見** 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。

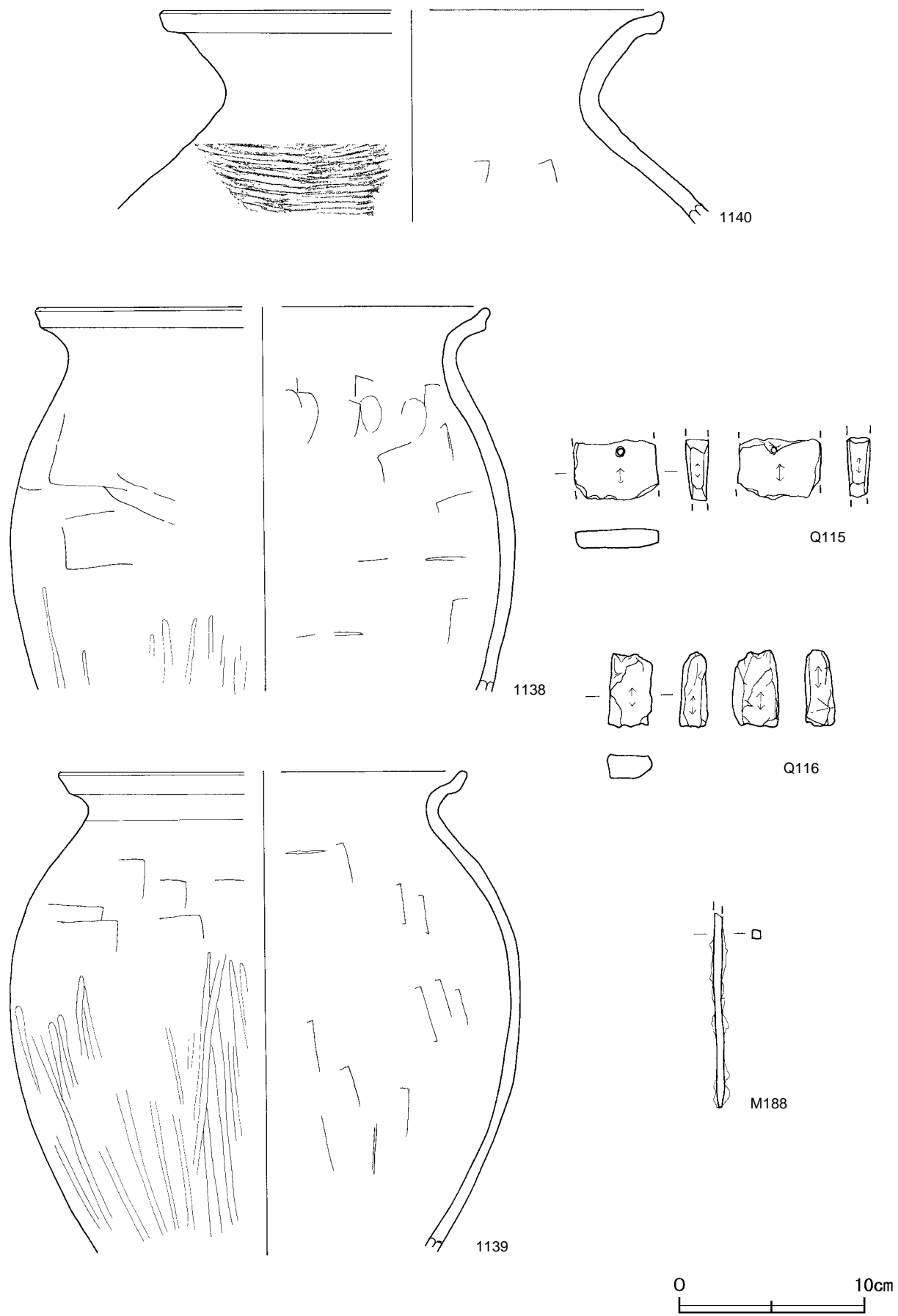


第87图 第131号住居跡実測図



第88图 第131号住居跡・出土遺物実測図





第89図 第131号住居跡出土遺物実測図

第131号住居跡出土遺物観察表 (第88・89図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1133	須恵器	坏	[14.6]	(4.2)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部内・外面口ロナデ	覆土下層	10%
1134	須恵器	坏	[14.4]	4.2	8.2	長石・雲母	褐灰	普通	体部内・外面口ロナデ 底部二方向の手持ちヘラ削り	覆土中層	40%
1135	須恵器	坏	[13.8]	3.9	8.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面口ロナデ 外面下端～底部回転ヘラ削り	覆土中層	60% PL32
1136	須恵器	坏	[13.8]	3.6	8.6	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内・外面口ロナデ 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	70% PL32
1137	須恵器	高台付坏	[15.6]	4.5	9.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面口ロナデ 外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土下層	70% PL35
1138	土師器	甗	[24.3]	(20.2)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ 外面下半ヘラ磨き	甗覆土中	20%
1139	土師器	甗	[21.8]	(25.9)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ 外面中～下位ヘラ磨き	覆土上層～床面	50%
1140	須恵器	甗	[27.0]	(11.4)	-	長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	体部外面横方向の平行叩き目 内面ヘラナデ	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q115	砥石	(3.3)	4.7	1.2	(26.0)	砂岩	砥面4面 穿孔	覆土上層	
Q116	砥石	4.0	2.3	1.5	20.5	砂岩	砥面4面	覆土中層	
M188	鐵	(10.5)	0.4	0.5	(8.9)	鐵	閔不明 鐵身欠損	覆土下層	

第133号住居跡 (第90～92図)

**位置** 調査区東部のB 2 b6区，標高24mの平坦な台地の縁辺部に位置している。

**重複関係** 第401号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 南部が調査区域外に延びているため，東西軸は4.98mで，南北軸は1.49mだけが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推測され，主軸方向はN - 4° - Eである。壁高は92～100cmで，直立している。

**床** 平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで145cm，袖部幅203cmである。袖部は掘り残した地山を基部にして，その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁を60cmほど掘り込み，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗 褐 色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量	12 黒 褐 色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
2 暗 赤 褐 色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量	13 にぶい黄褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3 黒 褐 色	焼土ブロック中量，砂質粘土・炭化粒子微量	14 赤 褐 色	焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量
4 黒 褐 色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	15 暗 赤 褐 色	焼土ブロック少量，炭化粒子微量
5 暗 褐 色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量	16 灰 黄 褐 色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・礫微量
6 暗 赤 褐 色	焼土ブロック・炭化粒子微量	17 暗 灰 黄 色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック微量
7 暗 赤 褐 色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	18 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量
8 暗 赤 褐 色	焼土粒子中量，炭化粒子微量	19 黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
9 暗 赤 褐 色	焼土ブロック・炭化粒子少量		
10 極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量		
11 極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量		

**ピット** 6か所。P 1・P 2は深さ50cm・56cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P 3・P 4は深さ29cm・37cmで，配置から竈に伴うピットと考えられるが，性格は不明である。P 5・P 6は深さ20cm・30cmで，配置から，主柱穴の立て替えと考えられる。

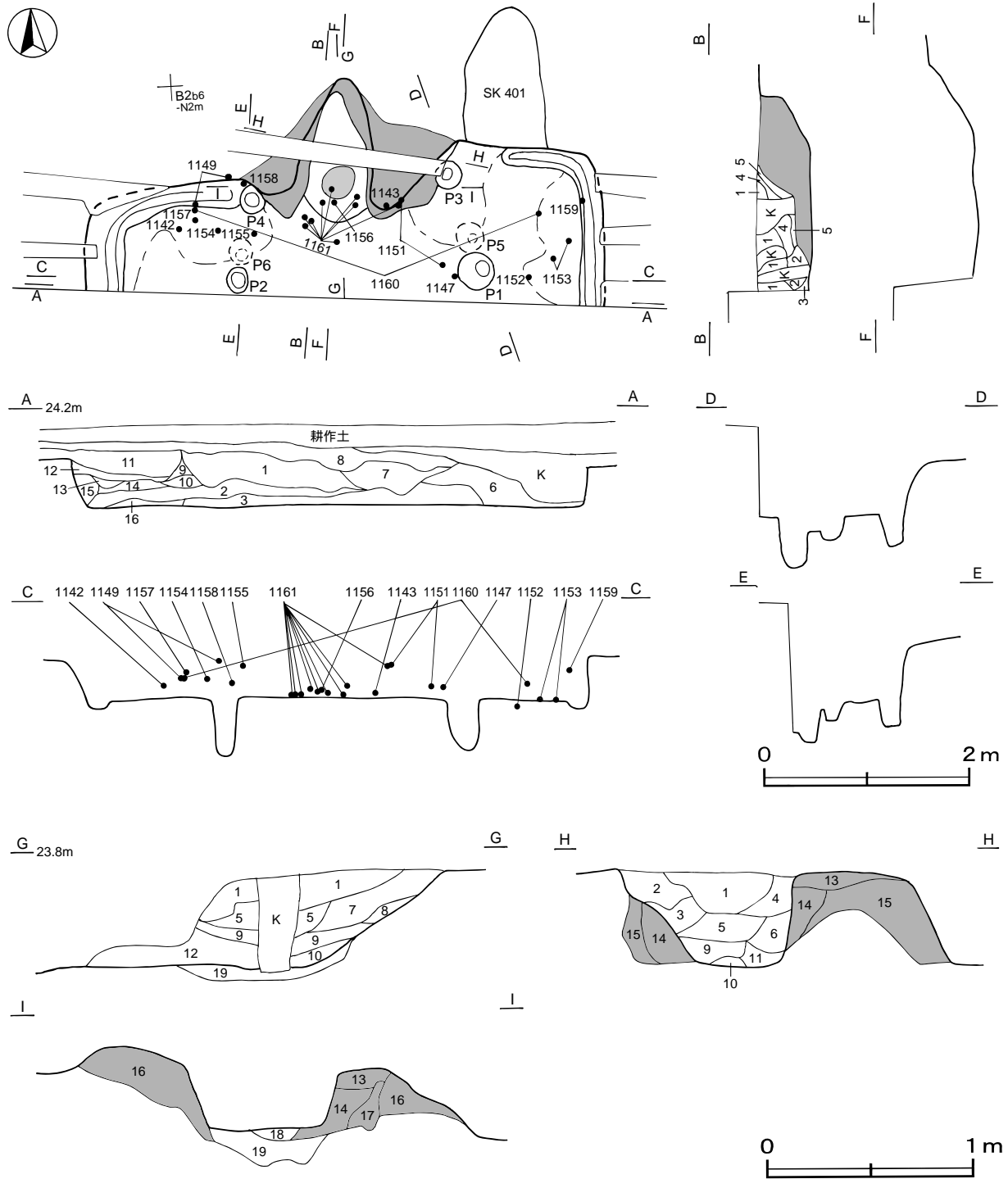
**覆土** 16層に分層される。ブロック状の不自然な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

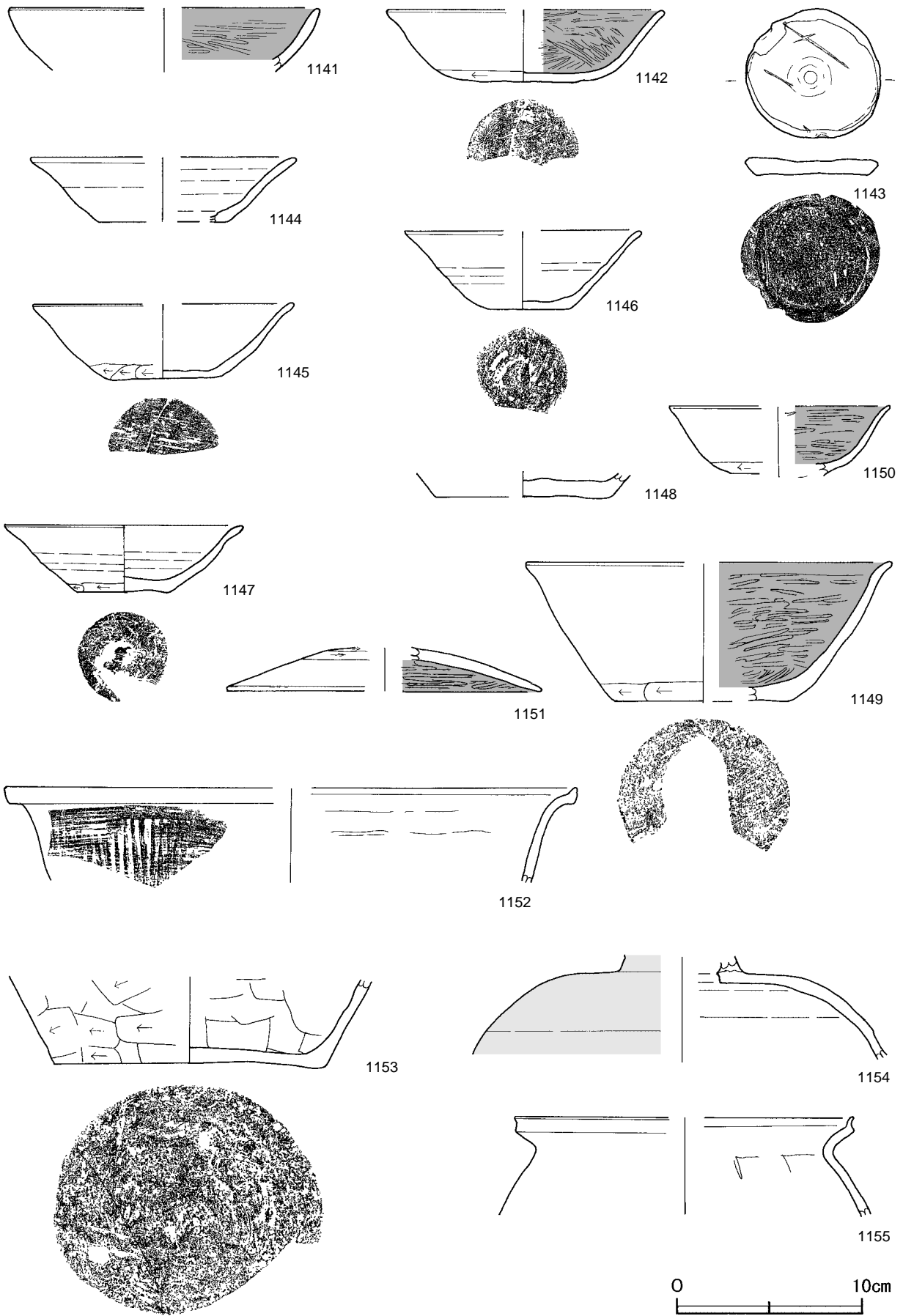
1 黒 褐 色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	9 黒 褐 色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2 黒 褐 色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量	10 黒 褐 色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
3 黒 褐 色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	11 黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量
4 褐 灰 色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量	12 黒 褐 色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
5 褐 色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	13 黒 褐 色	ロームブロック少量
6 黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	14 黒 褐 色	ローム粒子少量，焼土ブロック微量
7 黒 褐 色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量	15 褐 色	ロームブロック少量
8 黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック微量	16 暗 褐 色	ロームブロック少量，炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片334点(坏19, 高台付椀1, 蓋3, 鉢1, 甕310), 須恵器片123点(坏50, 高台付坏2, 蓋2, 盤3, 皿2, 鉢5, 甕59), 灰釉陶器片1点(長頸瓶), 鉄製品2点(鎌)のほか、混入とみられる陶磁器片4点も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は、土師器坏3点, 蓋1点, 鉢1点, 甕10点, 須恵器坏11点, 高台付坏1点, 盤1点, 鉢4点, 灰釉陶器長頸瓶1点である。土器片は、覆土上層から床面にかけて多量に出土している。1161は竈の覆土下層から集中して出土している。

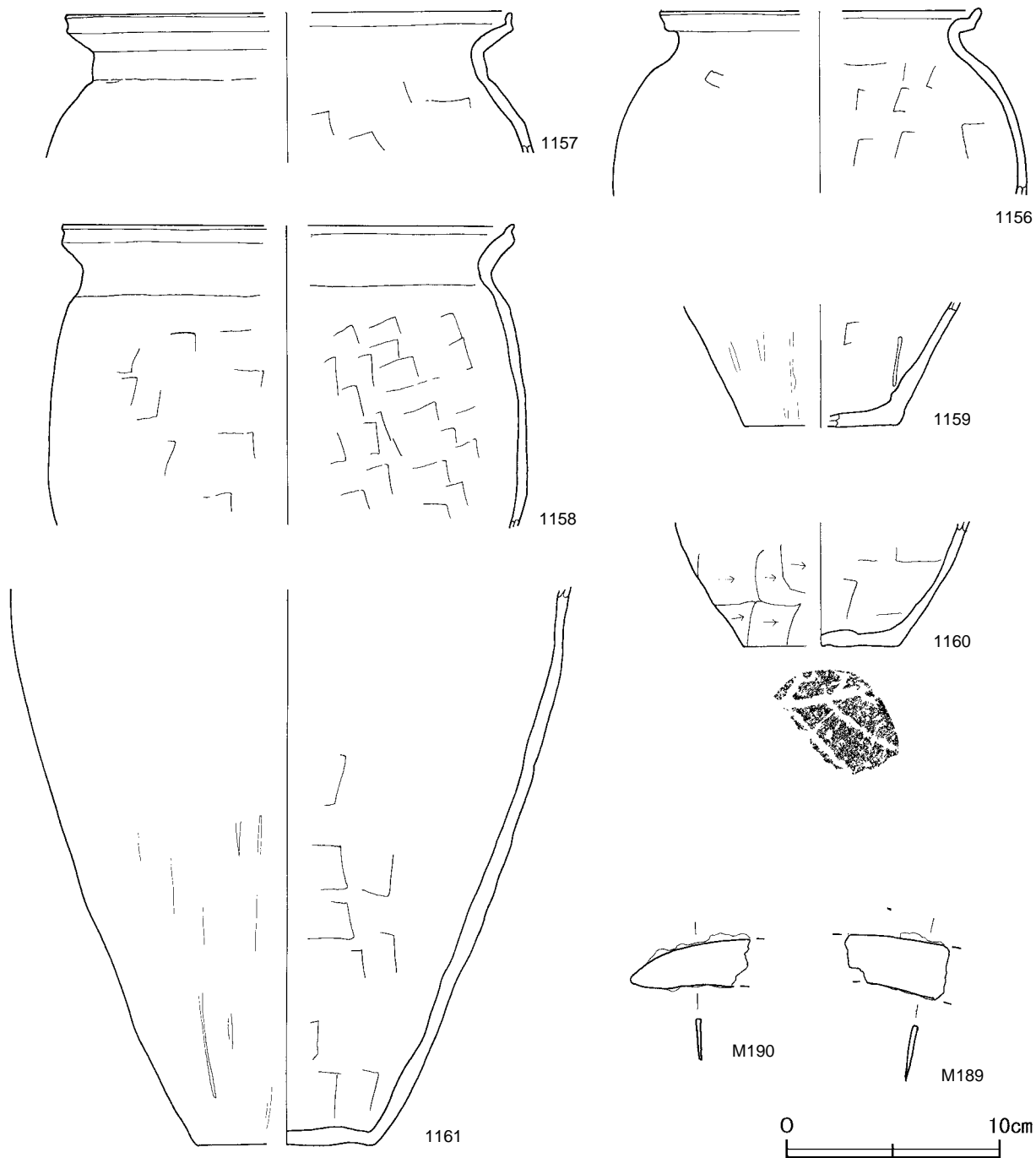
**所見** 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第90図 第133号住居跡実測図



第91图 第133号住居跡出土遺物実測图(1)



第92図 第133号住居跡出土遺物実測図(2)

第133号住居跡出土遺物観察表(第91・92図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1141	土師器	坏	[16.8]	(3.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 内面横方向のヘラ磨き	覆土上層	5%
1142	土師器	坏	[15.0]	3.9	6.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端～底部回転ヘラ削り 内面横方向のヘラ磨き	覆土下層	50% PL30
1143	土師器	坏	-	(1.0)	5.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	10% 土鏝転用カ
1144	須恵器	坏	[14.4]	3.5	[7.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土下層	5%
1145	須恵器	坏	[14.0]	4.0	6.0	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土上層～下層	10%
1146	須恵器	坏	[12.6]	4.2	4.6	長石・石英・雲母・黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り	覆土上層～中層	40%
1147	須恵器	坏	12.9	3.7	4.9	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	90% PL32

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1148	須恵器	坏	-	(12)	[9.6]	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰白	普通	底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土中	5%
1149	土師器	鉢	[19.7]	7.5	9.5	長石・石英・雲母	橙	普通	体内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 内面横方向のヘラ磨き 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土上層～中層	40% PL36
1150	土師器	高台付碗	[12.0]	(3.8)	[5.0]	長石・石英・雲母	橙	普通	体内・外面ロクロナデ 外面下端～底部回転ヘラ削り 内面横方向のヘラ磨き	覆土中層	10%
1151	土師器	蓋	[17.0]	(2.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り 内面横方向のヘラ磨き	覆土上層～下層	40% PL36
1152	須恵器	鉢	[31.0]	(5.2)	-	長石・雲母	黒	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面縦位の平行叩き目 内面ナデ	床面	5%
1153	須恵器	鉢	-	(4.8)	14.7	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部外面～底部ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	10%
1154	灰釉陶器	長頸瓶	-	(5.6)	-	長石・赤色粒子	暗灰黄	緻密	ロクロナデ 頸部貼り付け 釉調：オリーブ灰色	覆土中層	10% PL37
1155	土師器	甗	[18.4]	(5.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面摩滅 内面ヘラナデ	覆土上層	5%
1156	土師器	甗	[15.2]	(8.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	5%
1157	土師器	甗	[20.8]	(6.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	覆土上層～中層	5%
1158	土師器	甗	[21.2]	(14.1)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	10%
1159	土師器	甗	-	(5.7)	[7.2]	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土上層	10%
1160	土師器	甗	-	(5.8)	[7.3]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土中層	10%
1161	土師器	甗	-	(26.1)	[8.4]	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部摩滅	覆土上層～下層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M189	鎌	(5.0)	2.7	0.3	(15.0)	鉄	先端部・基部欠損 直刃カ M190と同一個体カ	覆土中	
M190	鎌	(5.7)	2.2	0.2	(9.7)	鉄	基部欠損 直刃カ M189と同一個体カ	覆土中	

### 第134号住居跡 (第93・94図)

**位置** 調査区東部のA118区の、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 北西部が調査区域外に延びており、確認できた範囲は、長軸3.25m、短軸3.20mである。平面形は方形と推測され、主軸方向はN-14°-Wである。壁高は40～42cmで、直立している。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

**竈** 北壁のやや西寄りに付設されている。確認できた範囲の規模は、焚口部から煙道部まで95cm、袖部幅105cmである。袖部は、掘り残した地山を基部として、その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を20cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっていると推測される。

#### 竈土層解説

1	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量	8	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化ブロック微量
2	暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量	9	にぶい赤褐色	焼土粒子多量, 砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量
3	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	10	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック微量
4	褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	11	褐色	砂質粘土粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量
5	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量	12	暗褐色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗赤褐色	ロームブロック中量, 炭化物・砂質粘土粒子微量	13	極暗赤褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量
7	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化物微量	14	暗褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量

**ピット** 3か所。P1・P2は深さ25cm・27cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は深さ24cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

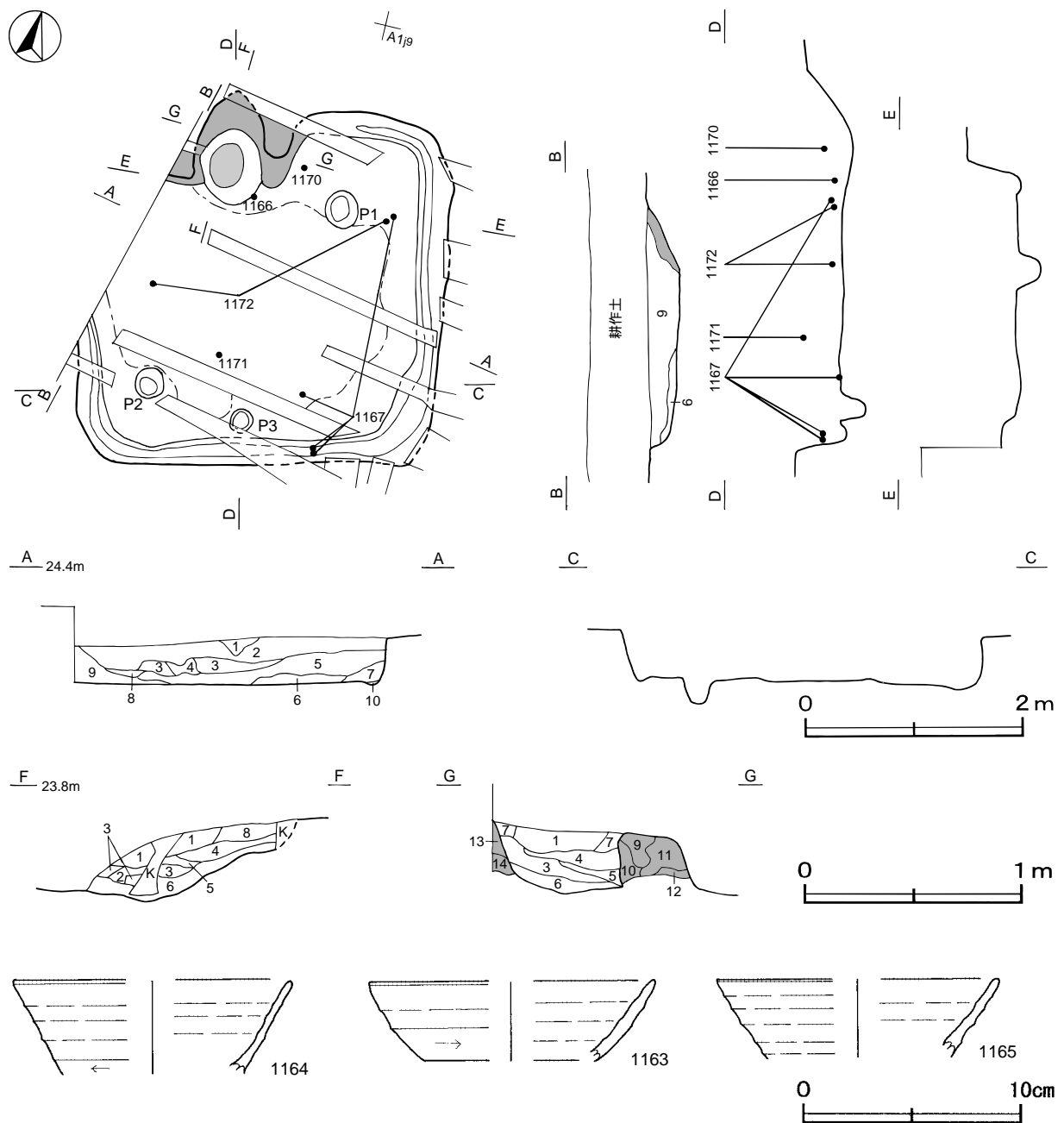
**覆土** 10層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

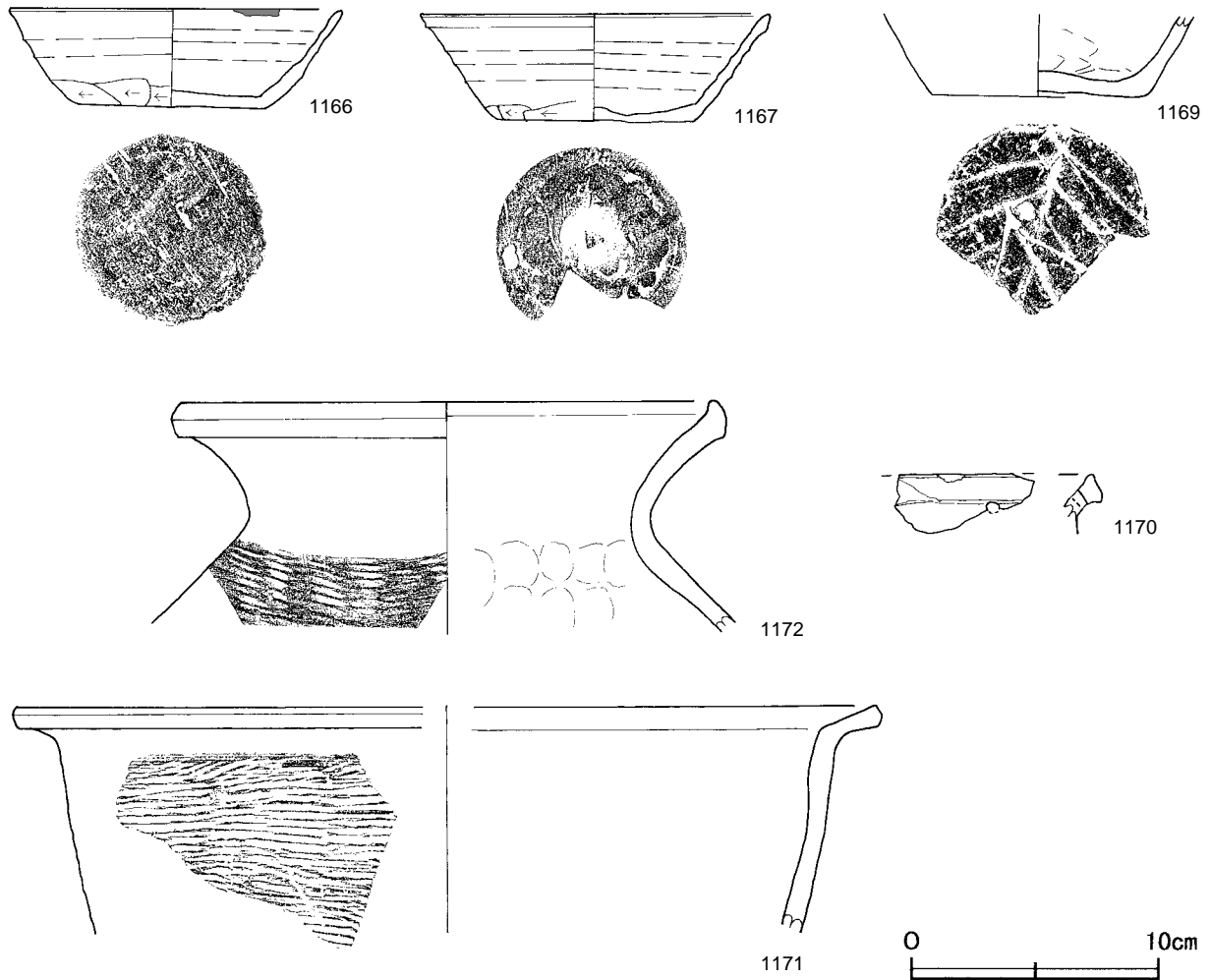
- |       |                           |       |                              |
|-------|---------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量      | 7 褐色  | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量       |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量    | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量   |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量          | 10 褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量            |
| 5 暗褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量    |       |                              |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量         |       |                              |

**遺物出土状況** 土師器片108点 (坏7, 甕101), 須恵器片60点 (坏33, 盤1, 鉢6, 甕20), 石器1点 (砥石)のほかに, 混入とみられる陶磁器片7点も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は, 土師器甕3点, 須恵器坏7点, 鉢4点, 甕1点である。1166は竈前方の床面から正位で出土している。1167は西部の覆土中層から床面にかけて散在して出土した破片が接合したものである。1170は北部の覆土中層から出土しており, 口縁部に焼成後の穿孔がみられる。

**所見** 時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第93図 第134号住居跡・出土遺物実測図



第94図 第134号住居跡出土遺物実測図

第134号住居跡出土遺物観察表 (第93・94図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1163	須恵器	坏	[13.2]	3.6	[8.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下半回転ヘラ削り	覆土下層	10%
1164	須恵器	坏	[12.8]	(4.3)	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り	覆土下層	10%
1165	須恵器	坏	[13.0]	(3.7)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土下層	25%
1166	須恵器	坏	13.3	4.0	7.6	長石・石英・雲母・黒色粒子	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	床面	80% PL32 口縁部油煙付着
1167	須恵器	坏	14.0	4.3	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後一方向の手持ちヘラ削り	覆土中層～床面	80% PL32
1169	土師器	甕	-	(3.3)	8.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土下層	5%
1170	須恵器	鉢	-	(2.4)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部内・外面横ナデ 口縁部下に補修孔	覆土中層	5%
1171	須恵器	鉢	[34.8]	(9.1)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面横位の平行叩き目 内面ナデ	覆土上層	5%
1172	須恵器	甕	21.5	(9.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面横方向の平行叩き目 内面ナデ・指頭圧痕	覆土下層	10%

第135号住居跡 (第95～98図)

位置 調査区東部のA 1h9区の、標高24mの平坦な台地上の縁辺部に位置している。

重複関係 第11号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外に延びており、南東部は攪乱を受けているため、南北軸は4.00m、東西軸は



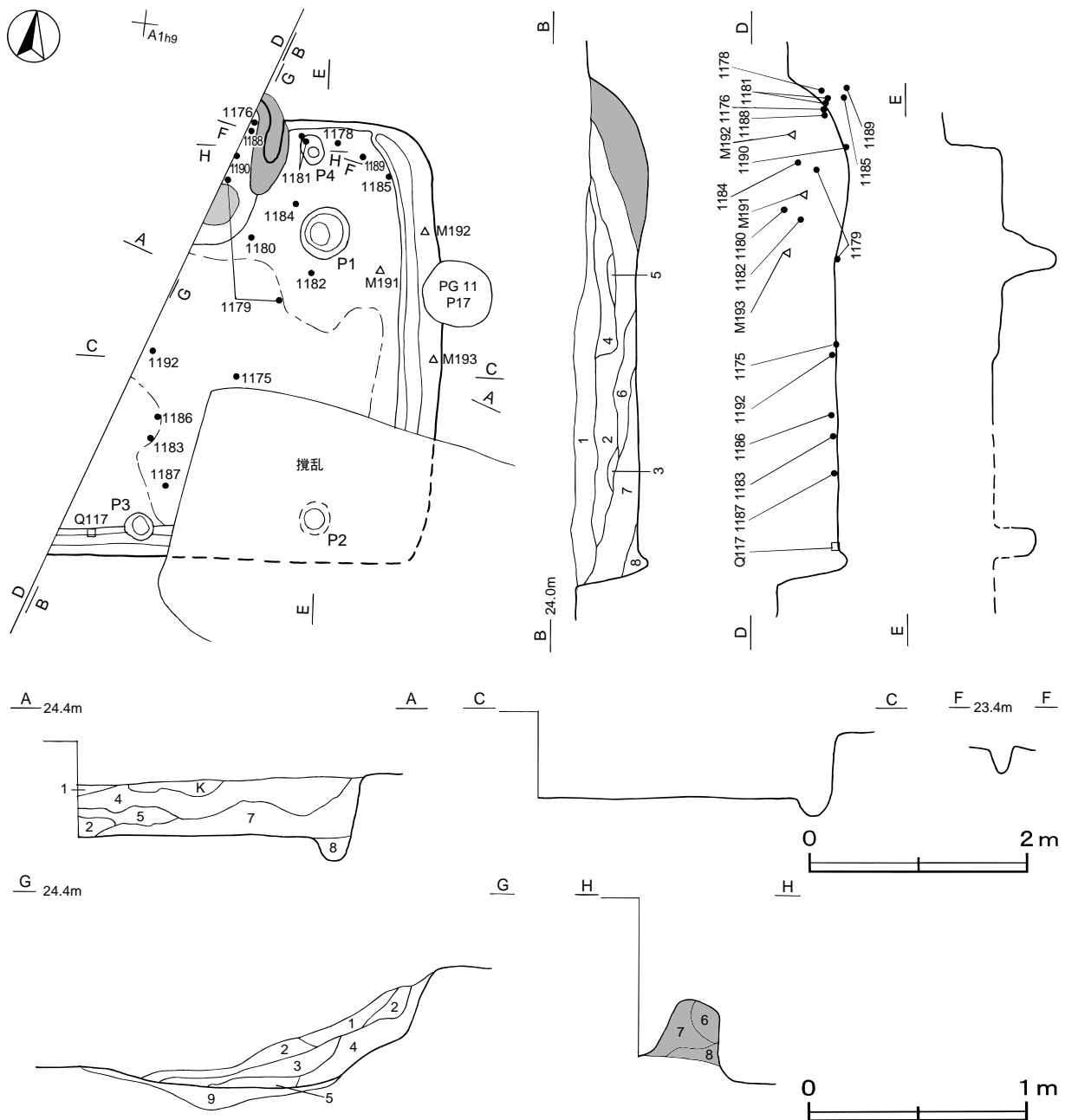
2.84mだけが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推測され、主軸方向はN - 4° - Wである。壁高は60cmほどで、直立している。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。

**竈** 北壁中央部付近に付設されている。確認できた規模は、焚口部から煙道部まで145cm、袖部幅74cmである。袖部は地山を基部として、その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を30cmほど掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- |       |                                  |          |                       |
|-------|----------------------------------|----------|-----------------------|
| 1 褐色  | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色    | 焼土ブロック多量, 炭化粒子微量      |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子中量, 炭化物少量, ローム粒子微量           | 6 暗褐色    | 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子微量   |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量                 | 7 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量            |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量                 | 8 褐色     | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |
|       |                                  | 9 褐色     | 砂質粘土ブロック中量            |



第95図 第135号住居跡実測図

**ピット** 4か所。P 1・P 2は深さ57cm・44cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P 3は深さ41cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 4は深さ25cmで、竈袖部の東側に位置しているが、性格は不明である。

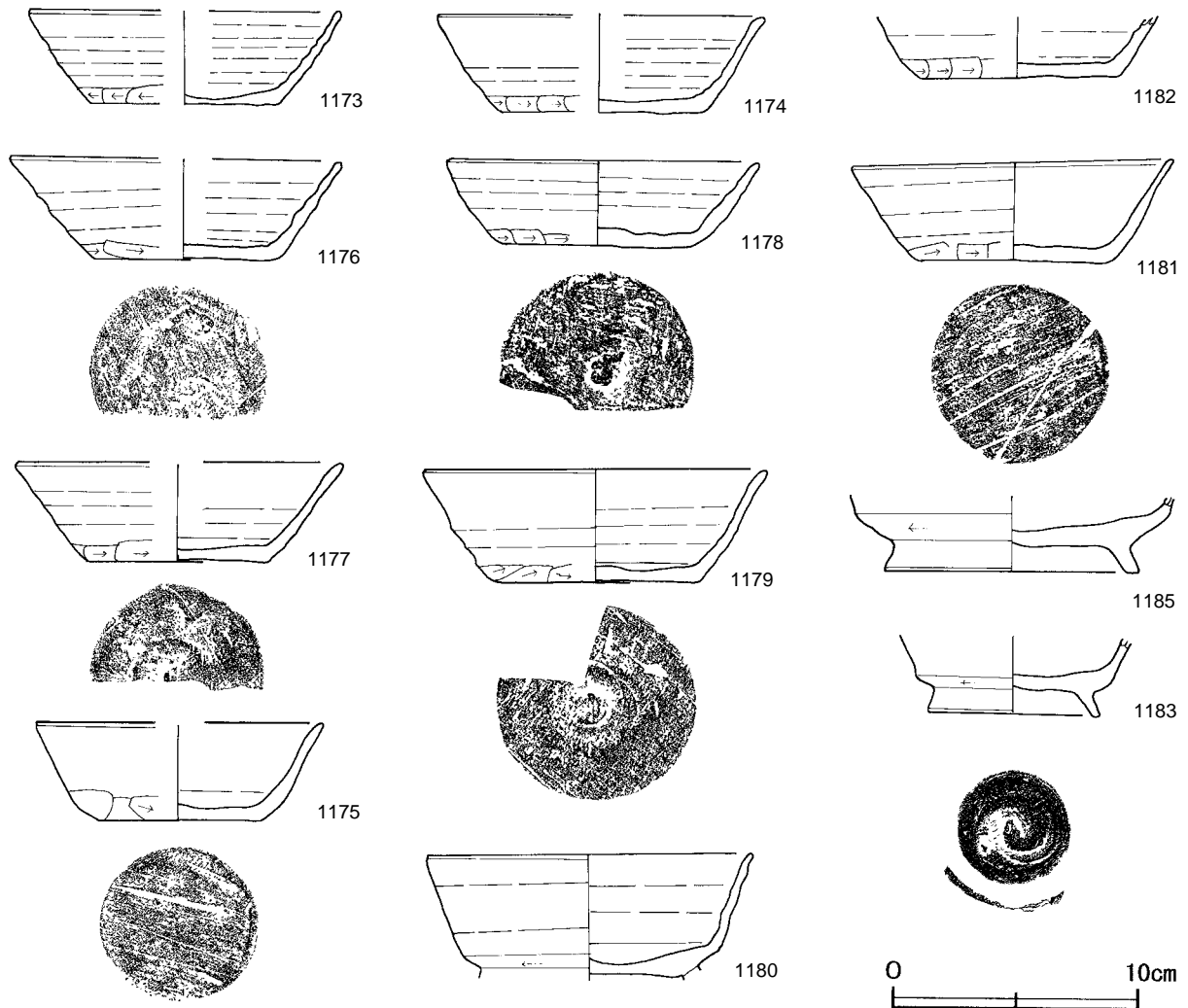
**覆土** 8層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

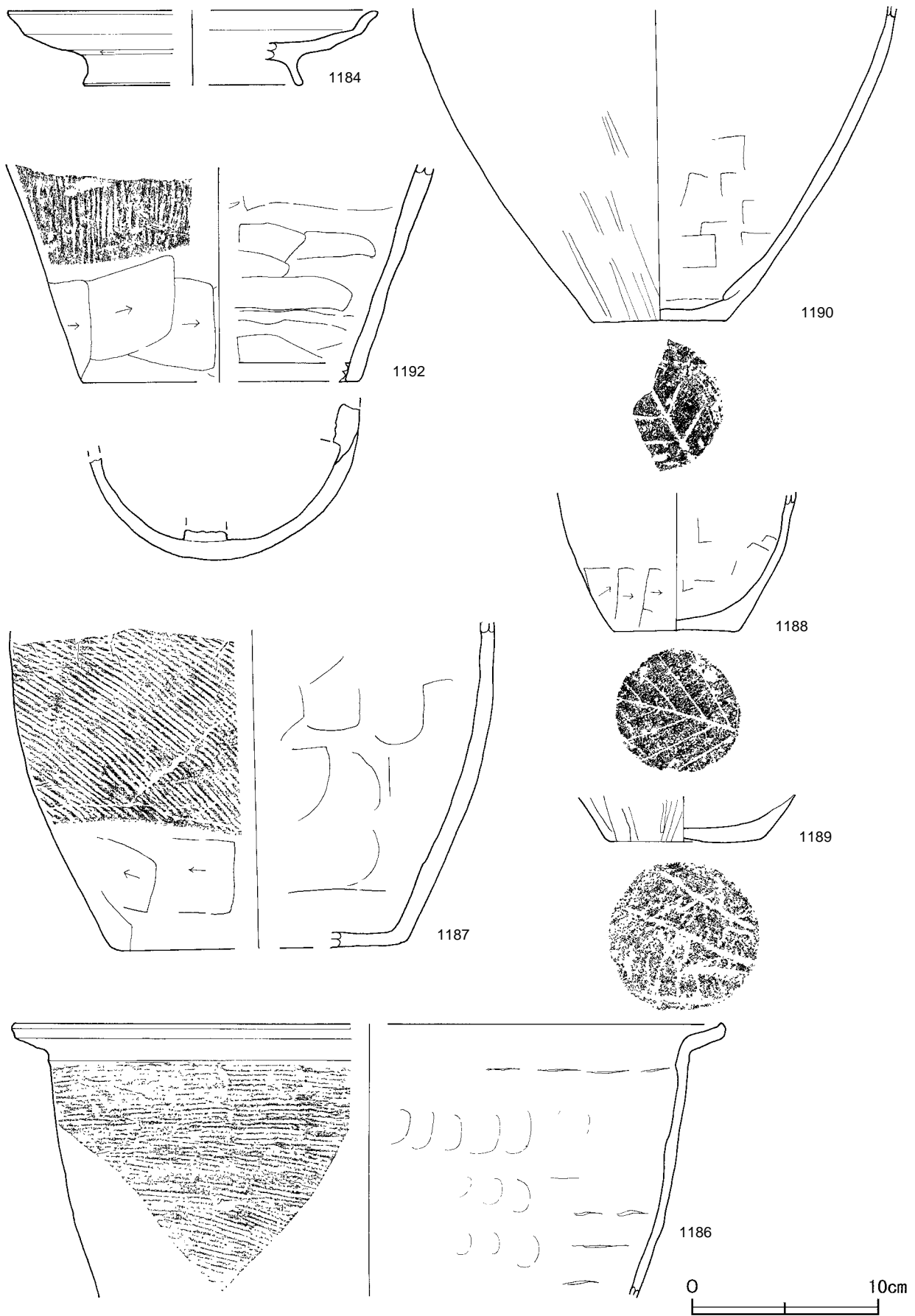
- |       |                              |       |                         |
|-------|------------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量       | 6 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量               | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量          | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量         |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量        |       |                         |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |       |                         |

**遺物出土状況** 土師器片261点 (坏38, 甕223), 須恵器片177点 (坏123, 高台付坏4, 盤3, 鉢5, 甕35, 甑7), 石器1点 (砥石), 鉄製品4点 (刀子2, 鎌2) のほかに、混入した縄文土器片1点 (深鉢), 土師質土器片1点 (鍋類), 陶器片3点も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は土師器甕14点, 須恵器坏27点, 高台付坏3点, 盤1点, 鉢2点, 甕1点, 甑1点である。土器片は、覆土上層から床面にかけて散在して出土している。

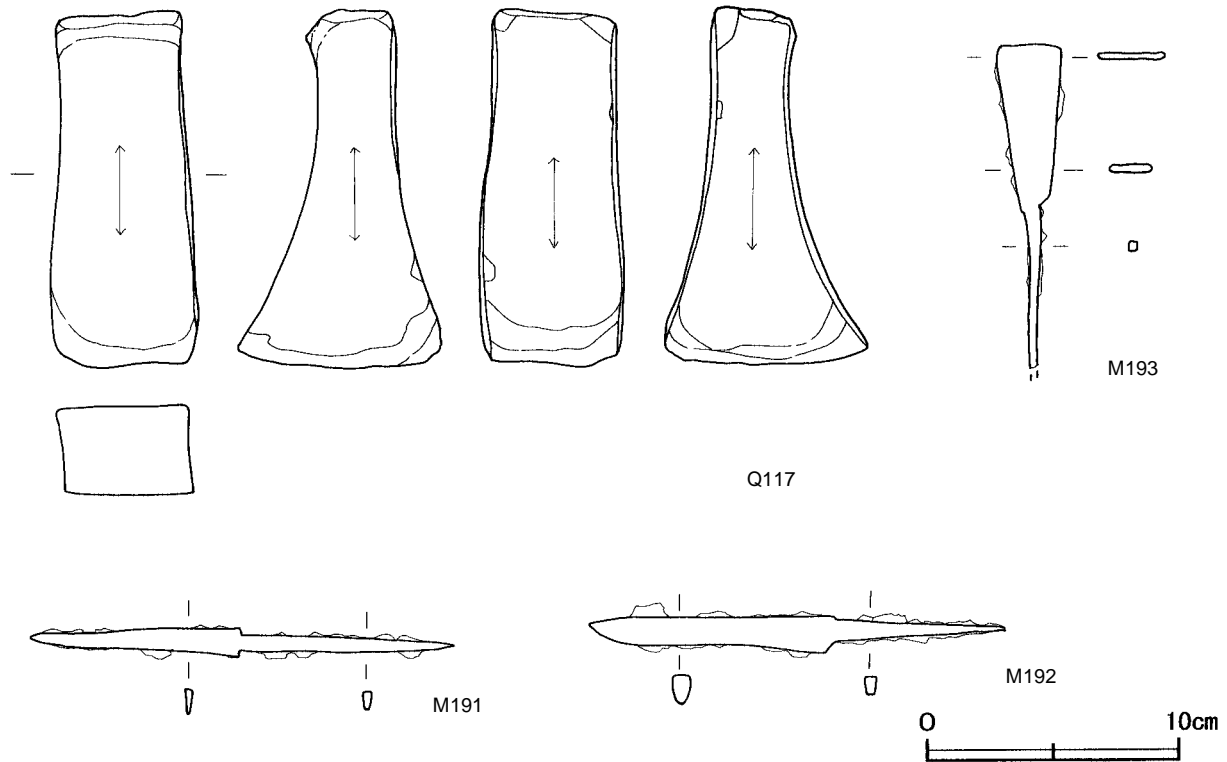
**所見** 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第96図 第135号住居跡出土遺物実測図(1)



第97图 第135号住居跡出土遺物実測図(2)



第98図 第135号住居跡出土遺物実測図(3)

第135号住居跡出土遺物観察表(第96~98図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1173	須恵器	坏	[12.6]	3.8	[7.6]	長石・石英・ 黒色粒子	灰	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端手持ちヘラ 削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	20%
1174	須恵器	坏	[13.4]	4.0	[8.0]	長石・石英・ 雲母・黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端手持ちヘラ 削り 底部二方向の手持ちヘラ削り	覆土上層	25%
1175	須恵器	坏	[11.6]	4.0	6.6	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	褐灰	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端手持ちヘラ 削り 底部二方向の手持ちヘラ削り	床面	70% PL32
1176	須恵器	坏	[13.3]	4.1	7.4	長石・石英・ 雲母・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端手持ちヘラ 削り 底部多方向の手持ちヘラ削り	竈火床部	50% PL32
1177	須恵器	坏	[13.2]	4.1	7.2	長石・石英・ 黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り	覆土上層	40%
1178	須恵器	坏	12.6	3.6	7.6	長石・石英・ 黒色粒子・礫	灰	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	60% PL32
1179	須恵器	坏	13.9	4.7	8.2	長石・石英	灰	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向の手持ちヘラ削り	覆土中層~ 床面	55% PL32
1180	須恵器	高台付坏	13.2	(5.0)	-	長石・石英・ 雲母・黒色粒子	褐灰	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ削り 後高台貼り付け	覆土上層	40% PL35
1181	須恵器	坏	13.1	4.2	7.4	長石・石英・ 雲母	灰	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端手持ちヘラ 削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	70% PL32
1182	須恵器	坏	-	(2.5)	8.0	長石・石英・ 雲母・黒色粒子	灰白	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端手持ちヘラ 削り 底部多方向の手持ちヘラ削り	覆土上層	20%
1183	須恵器	高台付坏	-	(3.2)	7.0	長石・石英・ 黒色粒子	灰	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ切り 後回転ヘラ削り 高台貼り付け	床面	10%
1184	須恵器	盤	[19.7]	4.0	[11.6]	長石・石英・ 雲母・黒色粒子	灰白	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ削り 後高台貼り付け	覆土上層	10%
1185	須恵器	高台付坏	-	(3.1)	10.2	長石・石英	灰	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ削り 後高台貼り付け	覆土下層	10%
1186	須恵器	鉢	[38.0]	(14.7)	-	長石・石英・雲母・ 黒色粒子・礫	灰	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面横位の平行 叩き目 内面ヘラナデ後指頭圧痕	床面	15%
1187	須恵器	甗	-	(17.4)	[14.7]	長石・石英・ 雲母	灰褐	普通	体部外面斜位の平行叩き目 下端ヘラ削り 内面当て具痕 底部ナデ	床面	10%
1188	土師器	甗	-	(7.4)	6.8	長石・石英・ 雲母	暗赤褐	普通	体部外面ナデ 下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	竈覆土下層	10%
1189	土師器	甗	-	(2.5)	8.0	長石・石英・ 雲母	橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉 痕	床面	5%
1190	土師器	甗	-	(16.8)	7.0	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉 痕	竈覆土中	5%
1192	須恵器	甗	-	(11.7)	[14.8]	長石・雲母・礫	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き目 下端ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q117	砥石	14.1	5.7	8.1	701.0	砂岩	砥面 4 面	覆土下層	PL47
M191	刀子	16.7	1.2	0.4	11.7	鉄	両関	覆土上層	PL48
M192	刀子	16.6	1.4	0.6	20.8	鉄	両関	覆土上層	PL48
M193	鎌	(12.8)	2.7	0.4	(24.2)	鉄	鎌身方頭斧箭 両関 茎部欠損	覆土上層	PL48

### 第136号住居跡 (第99~101図)

**位置** 調査区東部の A 2 d0区, 標高24mの平坦な台地の縁辺部に位置している。

**重複関係** 第138号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 北部及び東部が調査区域外に延びているため, 南北軸は2.93m, 東西軸は2.74mだけが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推測され, 南北軸方向はN - 0°である。壁高は49~52cmで, 直立している。

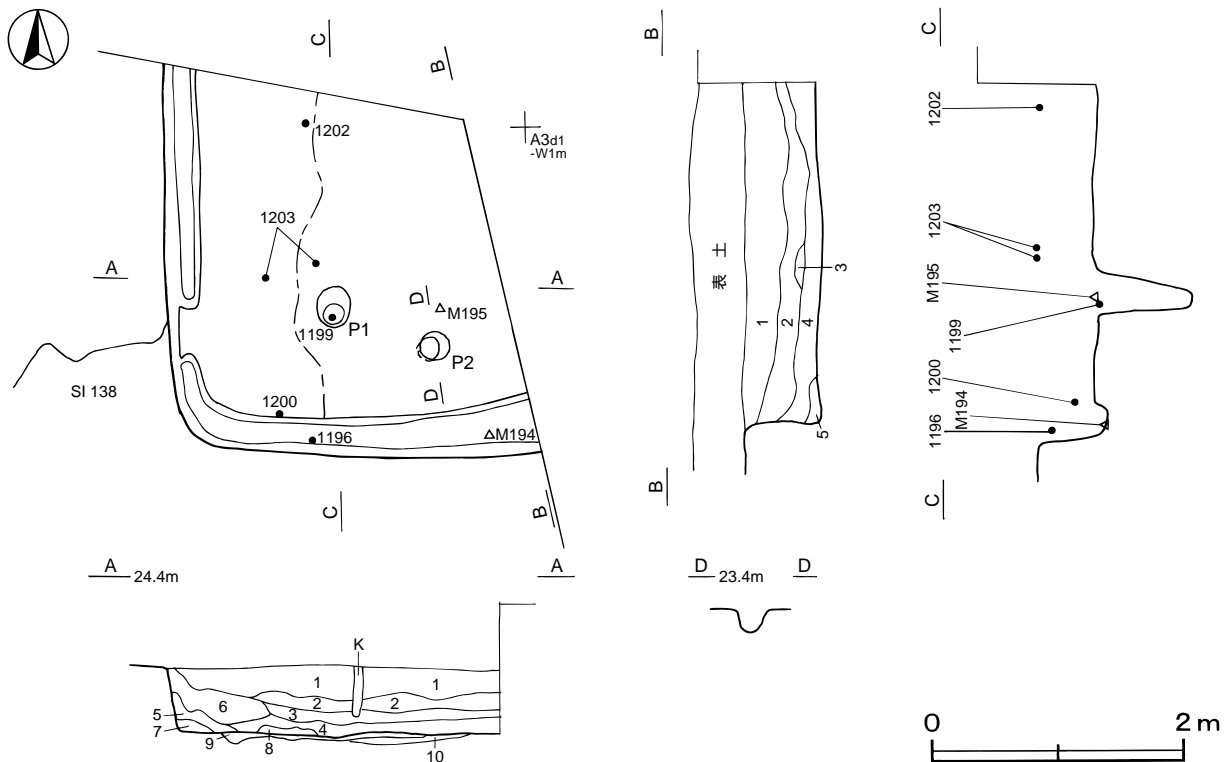
**床** 平坦で, 東部が踏み固められている。確認された範囲では, 壁溝がほぼ全周している。

**ピット** 2か所。P1は深さ79cmで, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P2は深さ25cmで, 南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 10層に分層される。各層にロームブロック・焼土ブロックを含む不均質な堆積状況を示しており, 人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

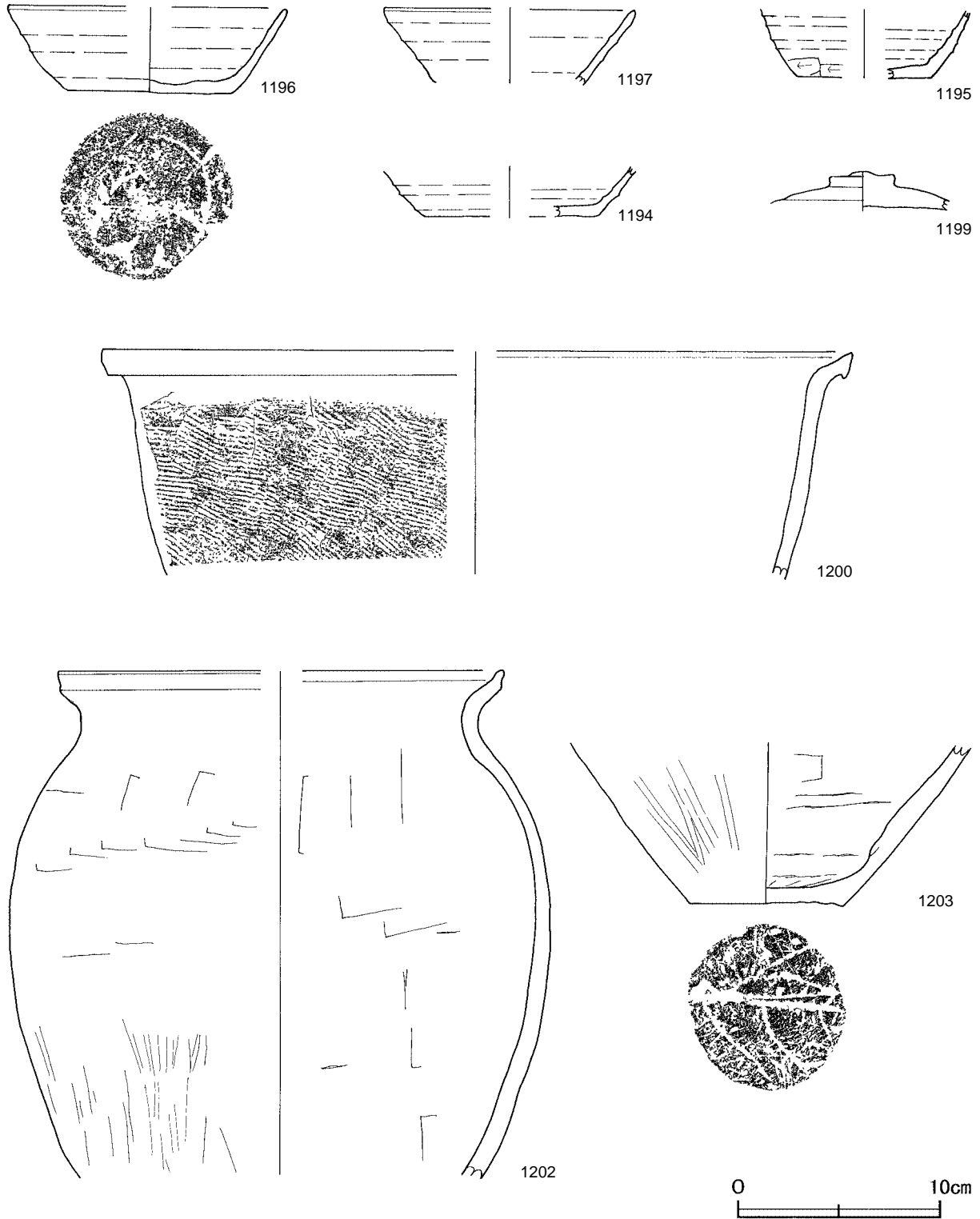
- |       |                           |        |                           |
|-------|---------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子少量     | 7 暗褐色  | ローム粒子中量, 炭化粒子微量           |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量      | 8 暗褐色  | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量    |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量      | 9 暗褐色  | ロームブロック少量, 焼土粒子・粘土粒子微量    |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量  | 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量     |        |                           |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |        |                           |



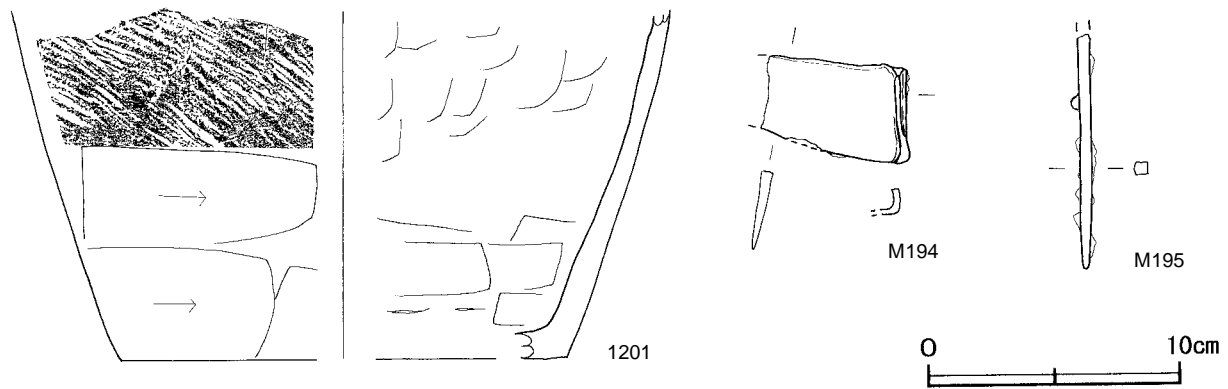
第99図 第136号住居跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片148点（坏8，甕140），須恵器片52点（坏45，蓋3，鉢4），鉄製品4点（鎌1，鋸1，不明2）が出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は土師器甕3点，須恵器坏10点，蓋2点，鉢2点である。土器片は，覆土上層から下層にかけて散在している。1196は，南部の覆土下層から壁溝の覆土にかけて出土した破片が接合したものである。

**所見** 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第100図 第136号住居跡出土遺物実測図（1）



第101図 第136号住居跡出土遺物実測図(2)

第136号住居跡出土遺物観察表(第100・101図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1194	須恵器	坏	-	(2.5)	[8.4]	石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	覆土下層	5%
1195	須恵器	坏	-	(3.6)	[6.6]	長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	10% 火禱
1196	須恵器	坏	[13.7]	4.2	8.3	長石・石英・雲母	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	覆土下層～壁溝覆土	50%
1197	須恵器	坏	[12.4]	(3.7)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土上層～下層	60%
1199	須恵器	蓋	-	(1.9)	-	長石・石英	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り つまみ部貼り付け	P1覆土中	10%
1200	須恵器	鉢	[37.0]	(11.1)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面斜位の平行叩き目 内面ヘラナデ	覆土下層	10%
1201	須恵器	鉢	-	(13.8)	[17.6]	長石・石英・礫	暗灰黄	普通	体部外面斜位の平行叩き目 下端ヘラ削り 内面当て具痕 下端ヘラナデ	覆土上層	10%
1202	土師器	甕	[21.8]	(25.1)	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土上層	20%
1203	土師器	甕	-	(8.0)	7.7	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土上層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M194	鎌	(4.9)	3.1	0.3	(31.3)	鉄	基部全面折り曲げ 直刃カ	覆土下層	PL48
M195	鎌	(9.3)	0.5	0.4	(8.0)	鉄	鎌身欠損	床面	

### 第137号住居跡(第102・103図)

**位置** 調査区東部のA 2 e0区, 平坦な台地の縁辺部に位置している。

**重複関係** 第138号住居跡を掘り込んでいます。

**規模と形状** 東部が調査区域外に延びているため, 南北軸は3.40mで, 東西軸は1.68mだけが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推測され, 主軸方向はN - 2° - Eである。壁高は34~40cmで, 直立している。

**床** 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。

**竈** 北壁中央部付近に付設されていると推測される。規模は, 焚口部から煙道部までが111cmで, 袖部幅は48cmだけが確認されている。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を45cmほど掘り込み, 火床部から緩やかに立ち上がり, 端部で直立している。

#### 竈土層解説

- |       |                               |        |                              |
|-------|-------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量          | 5 黒褐色  | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量  |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量       | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量      |
| 4 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 黒褐色  | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量       |

- 9 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量
- 10 黒褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量
- 11 黒褐色 焼土ブロック少量, 炭化物微量
- 12 暗赤褐色 焼土ブロック少量, 炭化物微量
- 13 極暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量
- 14 黒褐色 砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量

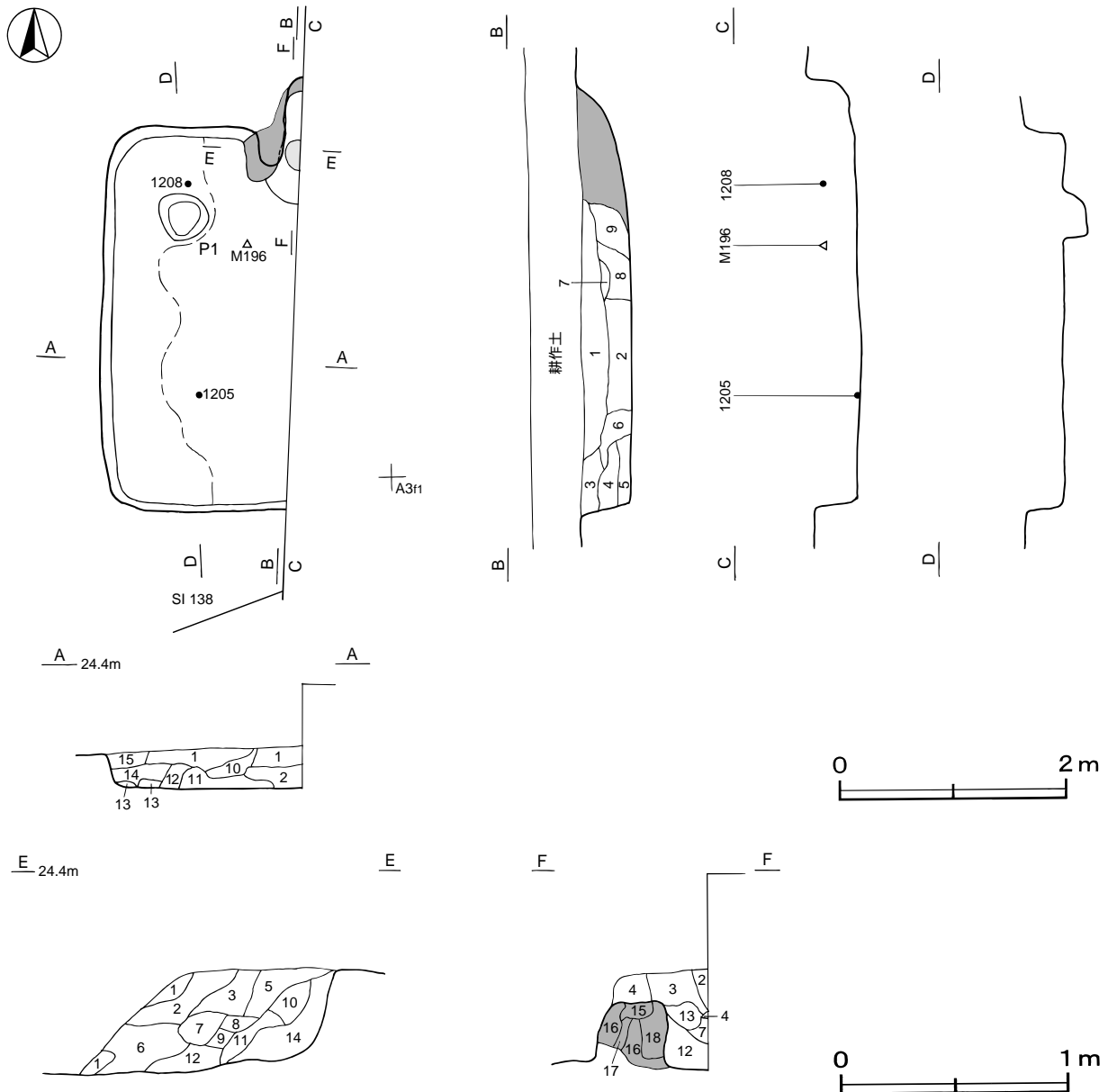
- 15 黒褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量
- 16 暗褐色 砂質粘土粒子多量, ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 17 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量
- 18 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量

**ピット** 深さ21cmで, 規模と配置から支柱穴と考えられる。

**覆土** 15層に分層される。ブロック状の不自然な堆積状況を示しており, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- |        |                             |         |                              |
|--------|-----------------------------|---------|------------------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量        | 9 黒褐色   | 焼土ブロック少量, 炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量       | 10 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量      |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量       | 11 黒褐色  | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量     |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量    | 12 黒褐色  | 炭化物少量, ロームブロック・焼土ブロック微量      |
| 5 黒褐色  | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量    | 13 黒褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量               |
| 6 黒褐色  | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量    | 14 黒褐色  | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量            |
| 7 暗褐色  | 炭化粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量      | 15 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量          |
| 8 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 |         |                              |

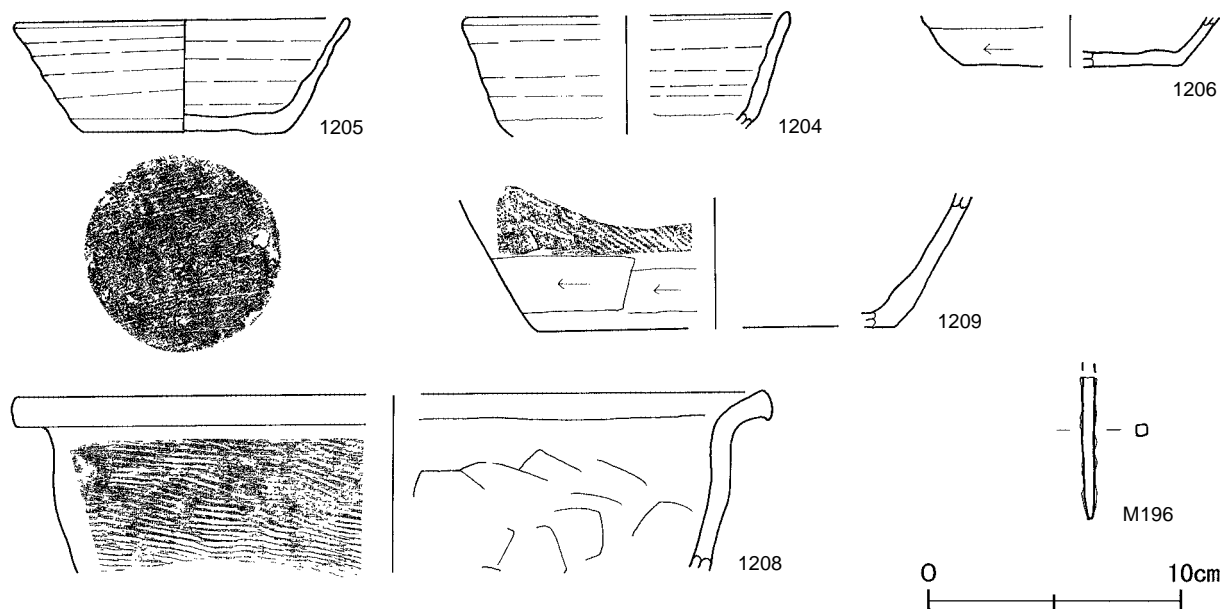


第102図 第137号住居跡実測図



**遺物出土状況** 土師器片92点（坏5，甕87），須恵器片42点（坏21，高台付坏1，蓋2，鉢2，甕16），鉄製品1点（釘）のほかに，流れ込んだ縄文土器片1点（深鉢）も出土している。底部や口縁部などから推測される土器の個体数は，土師器甕2点，須恵器坏6点，高台付坏1点，蓋2点，鉢2点である。土器片は覆土上層から床面にかけて散在して出土している。1205は床面から逆位で出土している。

**所見** 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第103図 第137号住居跡出土遺物実測図

第137号住居跡出土遺物観察表（第103図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1204	須恵器	坏	[12.8]	(4.6)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土上層	5%
1205	須恵器	坏	13.2	4.6	8.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部一方向の手持ちへら削り	床面	70% PL33
1206	須恵器	坏	-	(2.0)	[8.6]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちへら削り 底部二方向の手持ちへら削り	覆土上層	5%
1208	須恵器	鉢	[29.6]	(7.0)	-	長石・石英	灰	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面横位の平行叩き目 内面当て具痕	覆土上層	10%
1209	須恵器	鉢	-	(5.2)	[14.2]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面斜位の平行叩き目 内面ナデ	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M196	釘	(5.7)	0.5	0.4	(3.8)	鉄	頭部欠損 角釘	覆土中層	

### 第139号住居跡（第104～109図）

**位置** 調査区東部のA 2 b2区，標高24mの平坦な台地の縁辺部に位置している。

**重複関係** 第47号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 北部が調査区域外に延びている。東西軸が5.30mで，南北軸は4.05mが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推測され，南北軸方向はN - 5° - Wである。壁高は45～48cmで，直立している。

**床** 平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。

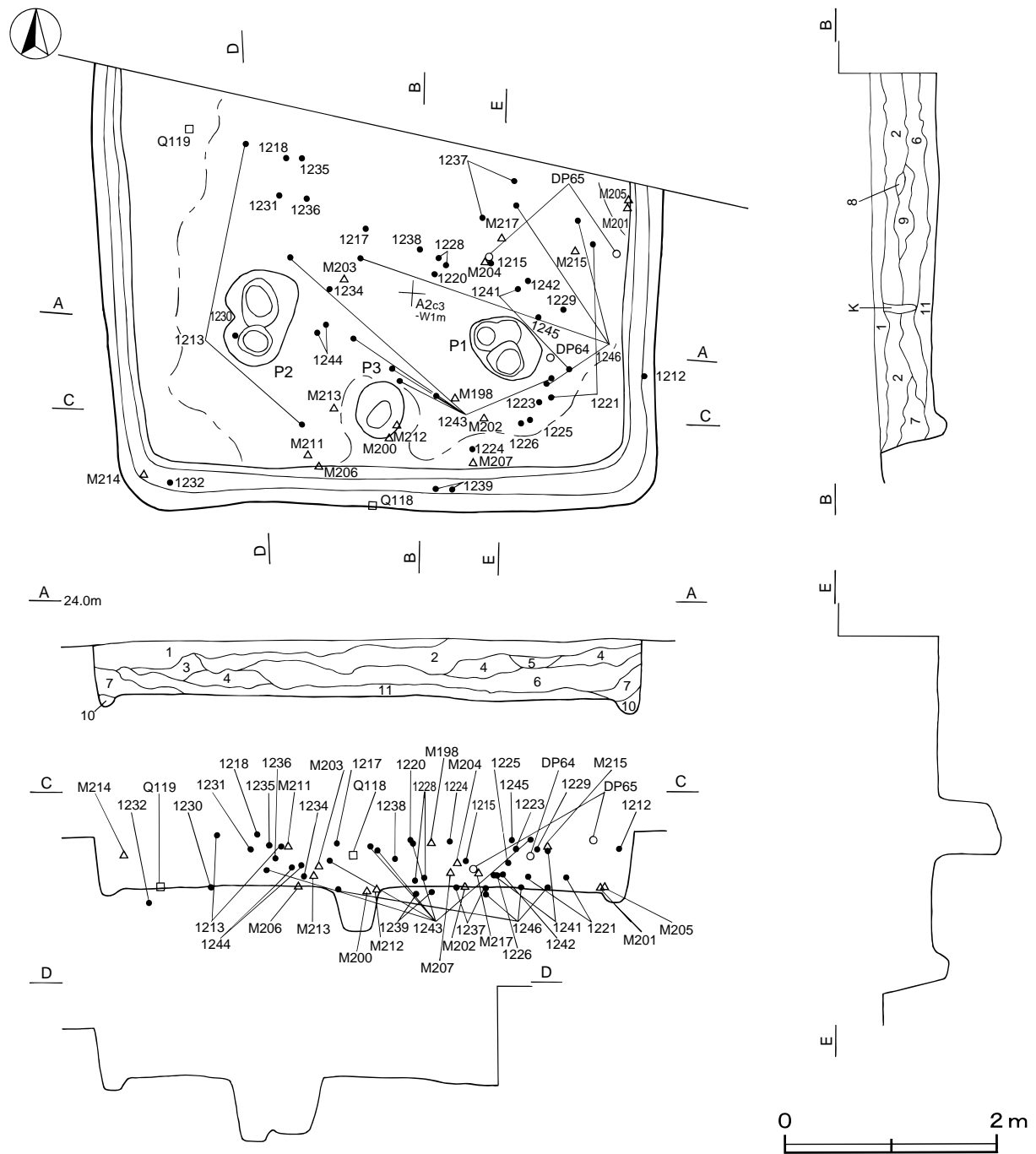
**ピット** 3か所。P 1・P 2は深さ54cm・65cmで，規模と配置から支柱穴と考えられる。それぞれに2つの底

面が確認されており、柱を立て替えたと考えられる。P3は深さ46cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 11層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

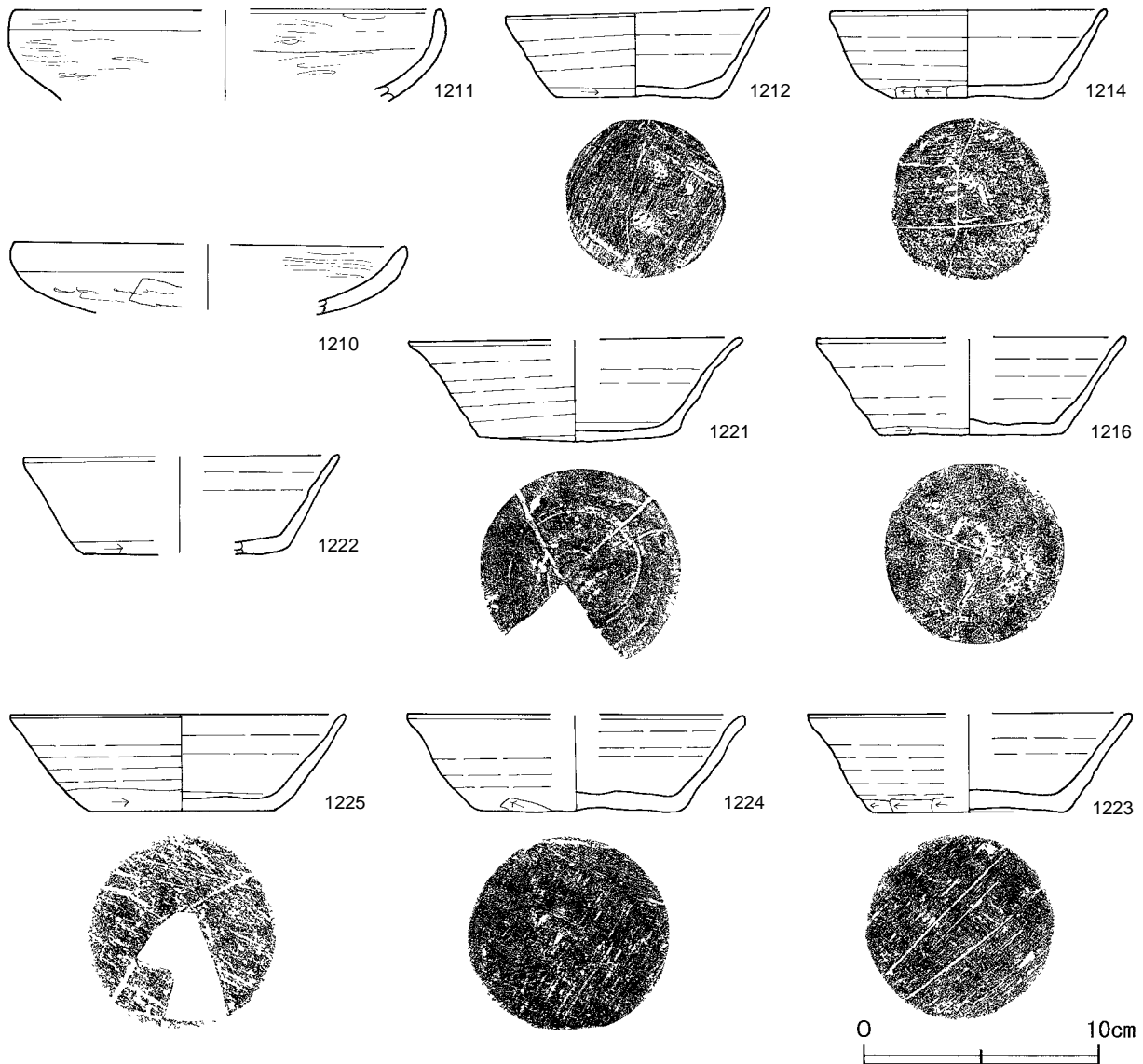
- |       |                            |        |                                  |
|-------|----------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量    | 8 暗褐色  | 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量    | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, ロームブロック・炭化物微量          |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量      | 10 褐色  | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量           |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量    | 11 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量      |
| 5 暗褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量     |        |                                  |
| 6 褐色  | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化物微量 |        |                                  |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量   |        |                                  |



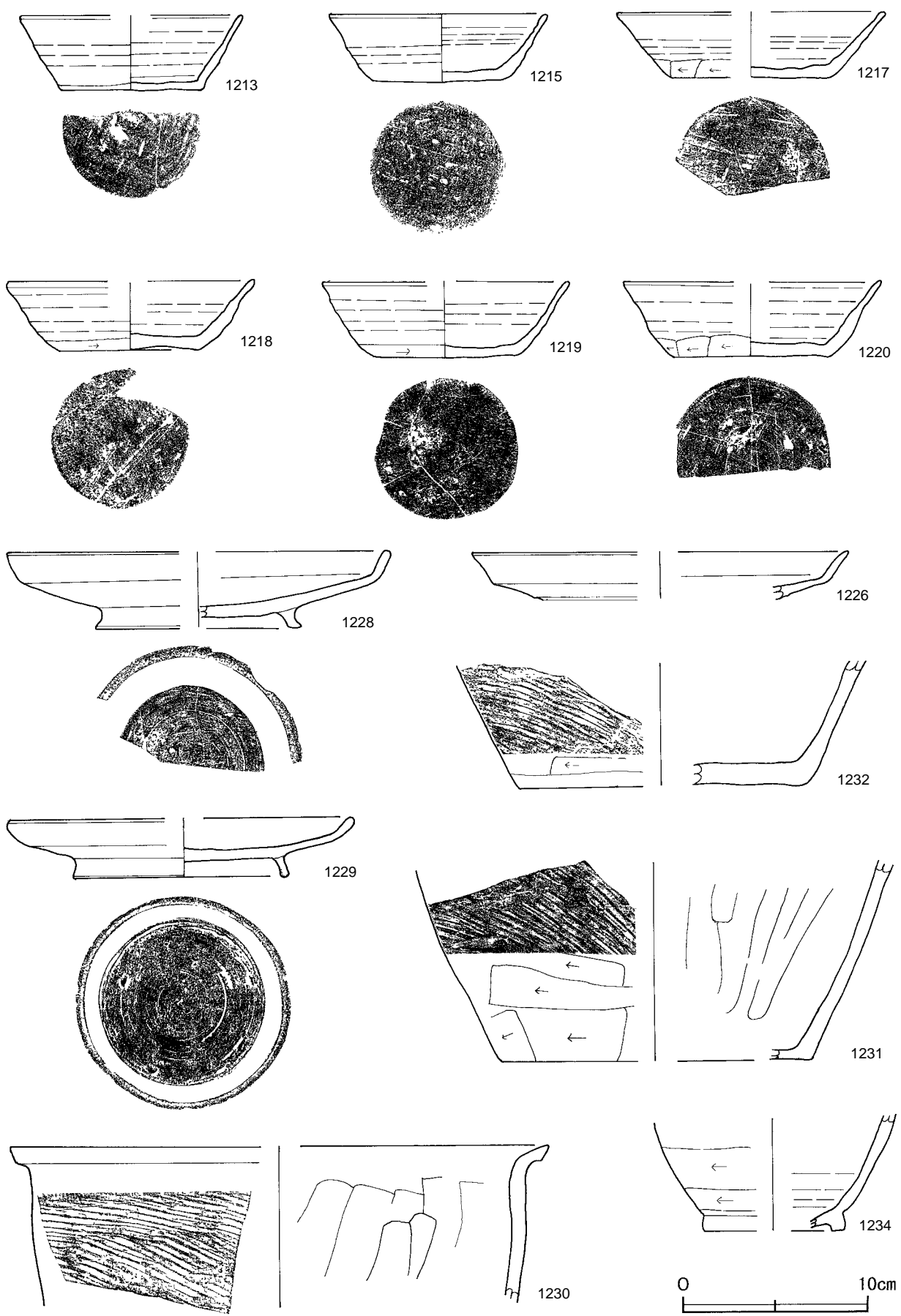
第104図 第139号住居跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片1134点（坏76，蓋10，甕類1048），須恵器片565点（坏379，高台付坏2，蓋14，盤15，鉢14，瓶類7，甕131，甑3），土製品2点（支脚），石器1点（砥石），石製品1点（勾玉），鉄製品27点（鏃6，刀子7，小札2，釘3，不明9），鉄滓5点，銅製品1点（鏡）のほかに，流れ込んだ縄文土器片1点（深鉢）も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は，土師器坏3点，鉢2点，甕27点，甑2点，須恵器坏71点，高台付坏1点，盤5点，蓋3点，瓶類2点，鉢9点，甑1点である。土器片は，東部にやや偏在した覆土上層から下層にかけて多量に出土している。須恵器坏のうち，1212・1213・1215・1217～1220・1222～1225は覆土上層から中層にかけて出土している。1214・1216は覆土上層から下層にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものであり，1221は覆土下層から出土している。須恵器瓶類は，1234が中央部の覆土上層から下層，1235と1236が北部の覆土上層から下層にかけて出土している。M217は東部の覆土下層から出土している。

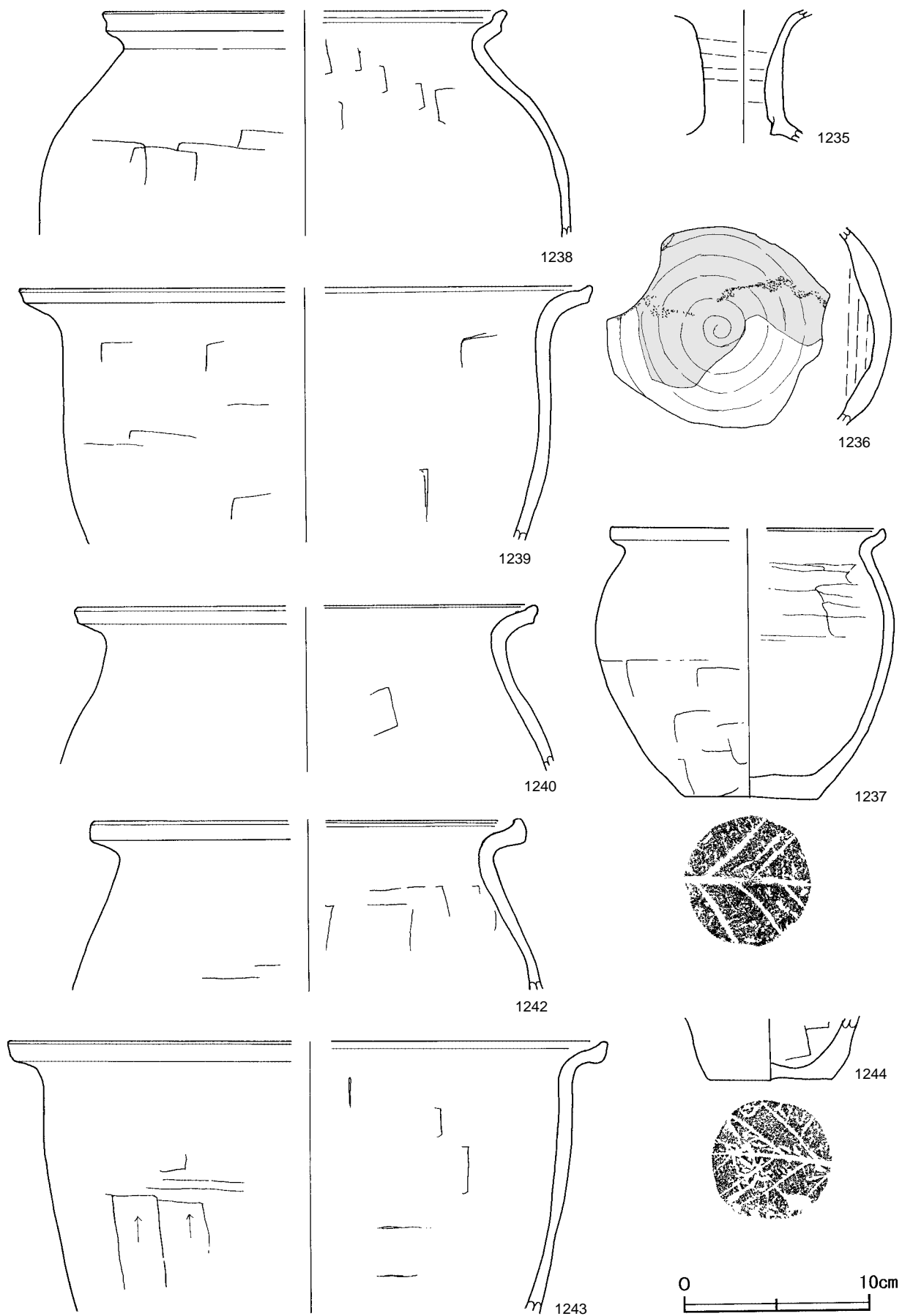
**所見** 土器片は覆土上層から中層にかけて特に多く出土しており，住居の廃絶後に投棄されたとみられる。時期は，床面付近から時期を判断できる土器が出土していないため，覆土中の土器から9世紀前葉から中葉と考えられる。



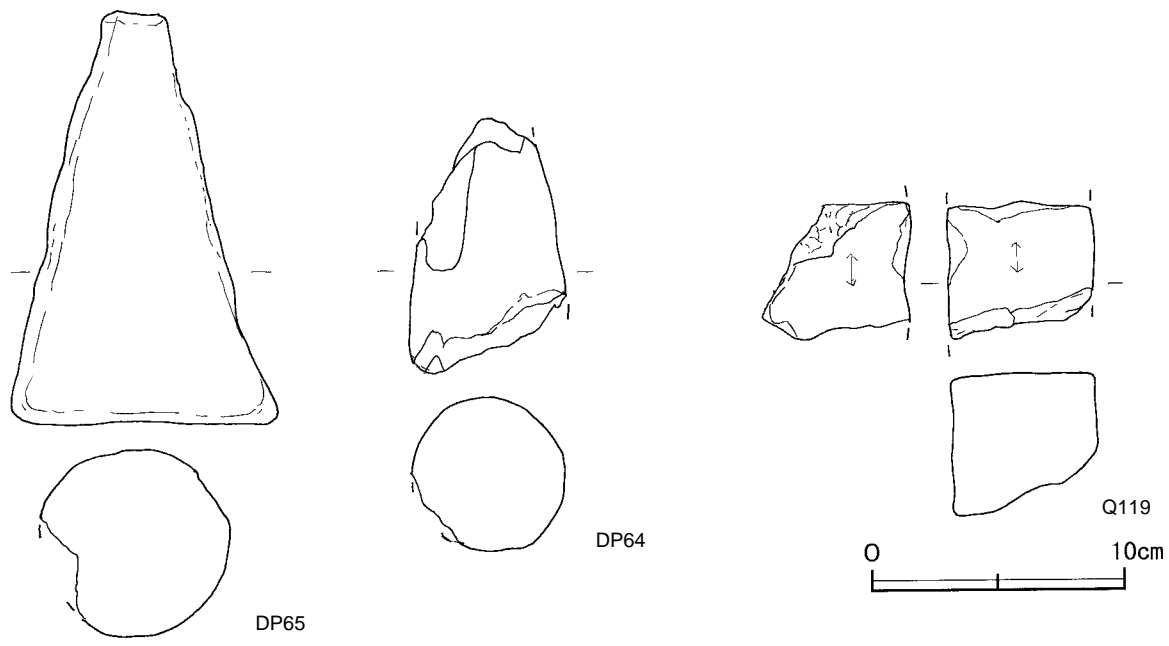
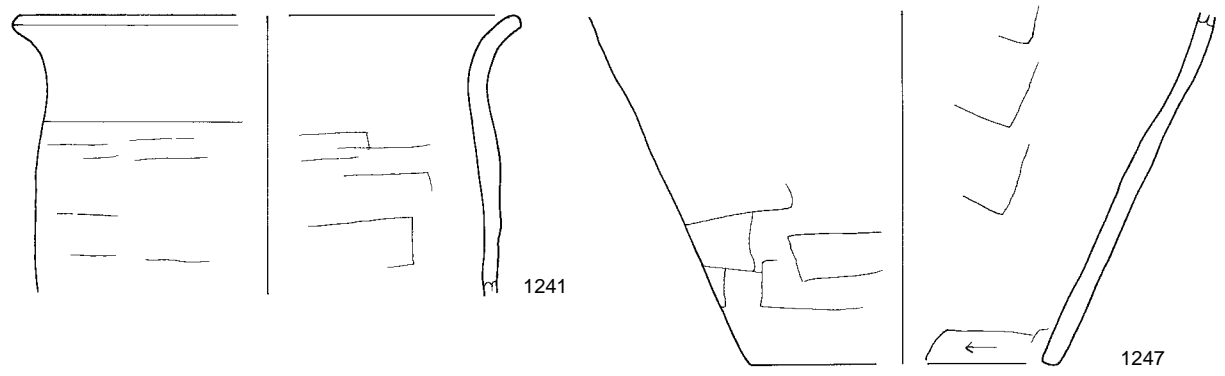
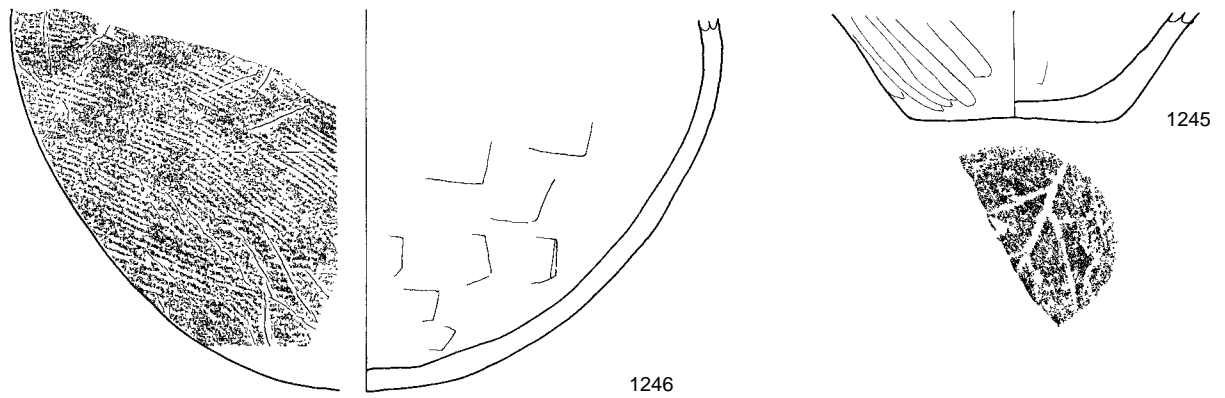
第105図 第139号住居跡出土遺物実測図（1）



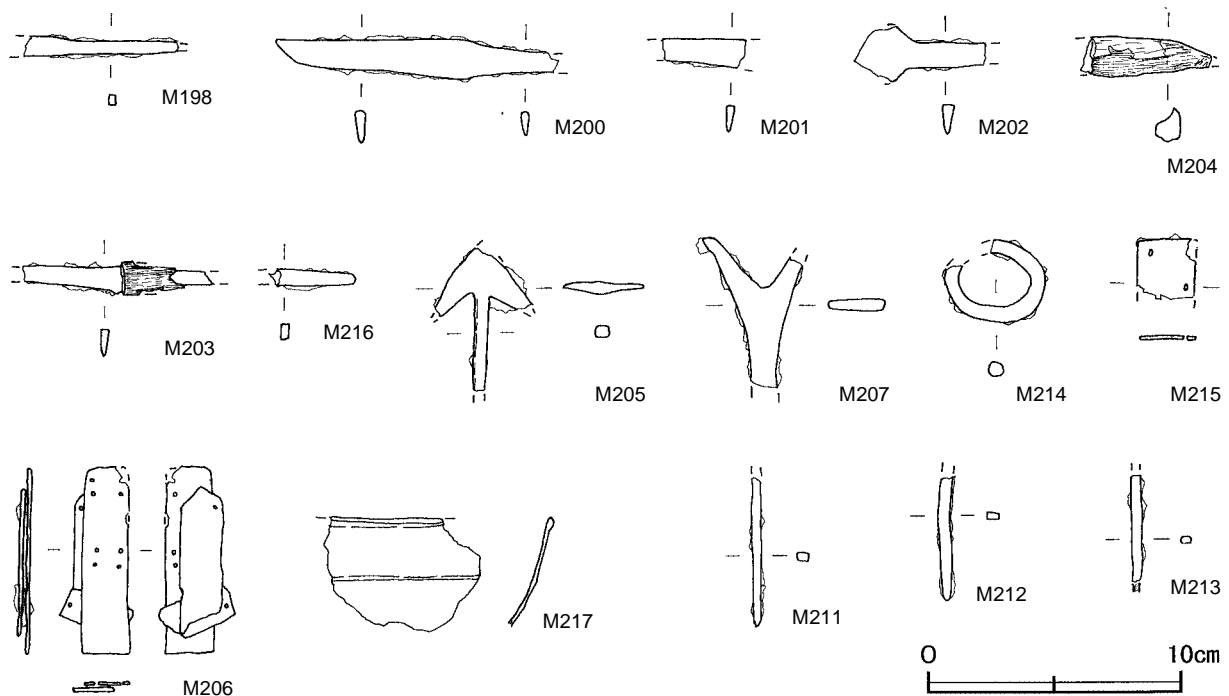
第106图 第139号住居跡出土遺物実測図(2)



第107图 第139号住居跡出土遺物実測図(3)



第108图 第139号住居跡出土遺物実測図(4)



第109図 第139号住居跡出土遺物実測図(5)

第139号住居跡出土遺物観察表(第105~109図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1210	土師器	坏	[16.6]	(2.9)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り内面ヘラ磨き	覆土中層	10%
1211	土師器	坏	[18.0]	(3.9)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラ磨き	覆土上層	5%
1212	須恵器	坏	11.2	3.8	6.9	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土上層	70% PL33
1213	須恵器	坏	[12.0]	4.0	7.8	長石・石英・雲母	灰オリーブ	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土上層	50% PL33
1214	須恵器	坏	11.7	3.8	6.6	長石・石英	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土上層~下層	70% PL33
1215	須恵器	坏	11.6	3.8	7.2	長石・石英・雲母・黒色粒子	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土中層	90% PL33
1216	須恵器	坏	[13.0]	4.1	7.8	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端~底部回転ヘラ削り	覆土上層~下層	40%
1217	須恵器	坏	[14.4]	3.6	[8.6]	長石・石英・雲母・黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土上層	40%
1218	須恵器	坏	[13.4]	3.7	7.6	長石・石英	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土上層~中層	50% PL33
1219	須恵器	坏	[13.3]	4.2	7.8	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端回転ヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土上層~中層	50%
1220	須恵器	坏	[13.8]	4.0	8.6	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土上層	30%
1221	須恵器	坏	[14.2]	4.4	8.5	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土下層	50% PL33
1222	須恵器	坏	[13.4]	4.2	[8.2]	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端回転ヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土中層	20%
1223	須恵器	坏	[13.8]	4.2	8.0	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ちヘラ削り	覆土上層	30%
1224	須恵器	坏	[14.4]	4.1	8.8	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後二方向の手持ちヘラ削り	覆土上層	60% PL33
1225	須恵器	坏	14.3	4.1	8.0	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土上層~中層	70% PL33
1226	須恵器	盤	[20.4]	(2.6)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土下層	5%
1228	須恵器	盤	[20.4]	4.1	[11.0]	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土下層	15%
1229	須恵器	盤	[18.9]	3.1	11.6	長石・雲母	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土上層	70% PL36
1230	須恵器	鉢	[29.1]	(8.5)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面横位の平行叩き目 内面ヘラナデ	P 2 覆土	5%
1231	須恵器	鉢	-	(10.7)	[16.8]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面斜位の平行叩き目 下端ヘラ削り内面ヘラナデ 底部ヘラナデ	覆土上層	10%
1232	須恵器	鉢	-	(6.7)	[15.4]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き目 下端ヘラ削り内面ナデ 底部ナデ	壁溝覆土中	10%
1234	須恵器	瓶類	-	(6.3)	[7.6]	長石・石英	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下半回転ヘラ削り 高台貼り付け	覆土上層~下層	20%
1235	須恵器	フラスコ瓶	-	(7.1)	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄	普通	頸部内・外面ロクロナデ	覆土上層	10% PL37 1236と同一体カ

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1236	須恵器	プラスチック瓶	-	(10.7)	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄	普通	体部外面回転ヘラ削り 自然釉	覆土中層	20% PL37 1235と同一個体カ
1237	土師器	甗	[14.9]	14.8	7.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土下層～ 床面	60% PL39
1238	土師器	甗	[21.8]	(12.1)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	覆土上層	10%
1239	土師器	鉢	[30.9]	(13.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	壁溝覆土中	5%
1240	土師器	甗	[24.8]	(9.0)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	5%
1241	土師器	甗	[19.6]	(11.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	覆土上層～ 中層	20%
1242	土師器	甗	[23.0]	(9.2)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	覆土上層～ 下層	10%
1243	土師器	鉢	[32.2]	(14.6)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土上層～ 中層	10%
1244	土師器	甗	-	(3.4)	6.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ナデ 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土中層	10%
1245	土師器	甗	-	(4.3)	8.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土上層	5%
1246	須恵器	甗	-	(15.0)	-	長石・石英・礫	黄灰	普通	体部外面横位の平行叩き目 底部ヘラ削り 内面当て具痕	覆土下層～ 床面	10%
1247	土師器	甗	-	(14.0)	[12.0]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ 内面下端ヘラ削り	覆土上層～ 下層	10%
1451	須恵器	瓶類	-	-	-	緻密・黒色粒子	暗灰	良好	体部外面沈線2条	覆土中	5% PL41 (写真図版のみ)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP64	支脚	(10.0)	6.3	6.2	(204.0)	粘土	下半欠損	覆土上層	
DP65	支脚	16.2	10.8	7.4	(750.0)	粘土	指ナデ	覆土上層	PL46
Q118	勾玉	3.1	1.8	0.8	5.1	瑪瑙	孔径0.1cm	覆土上層	PL47
Q119	砥石	(5.3)	(5.8)	(5.6)	(217.0)	砂岩	砥面2面	床面	
M198	刀子	(6.1)	0.8	0.2	(5.1)	鉄	刃部・茎部欠損 関不明	覆土上層	
M200	刀子	(11.3)	1.6	0.4	(16.9)	鉄	茎部欠損 両関カ	床面	PL48
M201	刀子	(3.5)	1.1	0.3	(2.5)	鉄	刃部・茎部欠損 関不明	覆土下層	
M202	刀子	(5.3)	2.2	0.4	(7.2)	鉄	刃部・茎部欠損 両関	覆土下層	
M203	刀子	(7.5)	1.1	0.4	(8.0)	鉄	刃部・茎部欠損 両関 木質付着	覆土中層	
M204	刀子	(5.2)	1.1	0.9	(8.2)	鉄	刃部欠損 関不明 木質付着	覆土中層	
M205	鎌	(5.7)	(3.9)	0.4	(9.0)	鉄	鎌身三角形 関不明 茎部欠損	覆土下層	
M206	小札	7.4	2.9	0.15	(10.3)	鉄	孔径0.1cm 3枚固着	床面	PL49
M207	鎌	(5.0)	(4.0)	0.4	(13.5)	鉄	鎌身雁又 関不明 茎部欠損	覆土下層	PL48
M211	釘	(6.0)	0.4	0.3	(3.4)	鉄	断面長方形 頭部欠損	覆土上層	PL48
M212	釘	(4.8)	0.5	0.3	(2.8)	鉄	断面長方形 頭部欠損	床面	PL48
M213	釘	(4.2)	0.4	0.3	(2.1)	鉄	頭部欠損	覆土下層	
M214	不明環状金具	3.6	4.1	0.6	(8.9)	鉄	断面円形	覆土上層	PL49
M215	小札	(2.4)	2.3	0.2	(3.7)	鉄	孔径0.1cm	覆土上層	PL49
M216	刀子	(2.4)	0.6	0.3	(2.0)	鉄	刃部欠損 関不明	覆土中	
M217	鏡	(4.3)	(6.2)	0.3	(24.9)	銅	破片 口縁部の歪みのため口径不詳	覆土下層	PL49

### 第141号住居跡 (第110～112図)

**位置** 調査区中央部のA・2h7区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長軸5.42m，短軸4.83mの長方形で，主軸方向はN - 0°である。壁高は34～37cmで，直立している。

**床** 平坦で，中央部が踏み固められている。

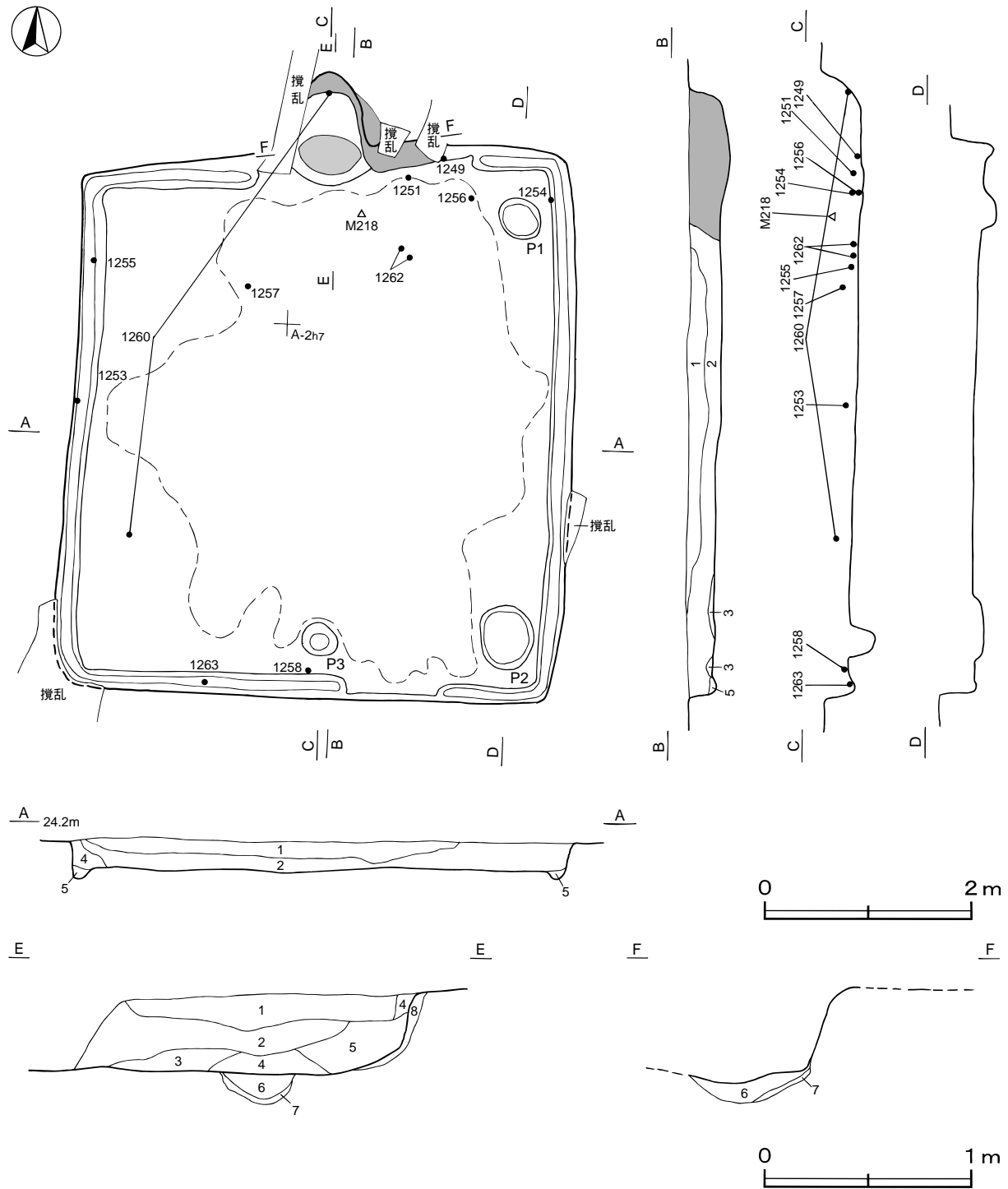
**竈** 北壁中央部に位置している。左袖部が攪乱を受けている。規模は，焚口部から煙道部までが110cmで，袖部幅は75cmが確認されている。袖部材は残存しておらず，床面と同じ高さの地山の上に構築していたと推定される。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道



部は壁を60cmほど掘り込み、火床部から緩やかに立ち上がり、端部で直立している。

竈土層解説

- |   |       |                               |   |      |                  |
|---|-------|-------------------------------|---|------|------------------|
| 1 | にぶい褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量    | 4 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子少量   |
| 2 | 暗褐色   | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量         | 5 | 黒褐色  | 焼土ブロック・ローム粒子少量   |
| 3 | 黒褐色   | 焼土ブロック中量，炭化物少量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 | 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
|   |       |                               | 7 | 暗褐色  | ローム粒子微量          |
|   |       |                               | 8 | 灰褐色  | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量  |



第110図 第141号住居跡実測図

**ピット** 3か所。P1・P2は深さ12cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P3は、深さ27cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

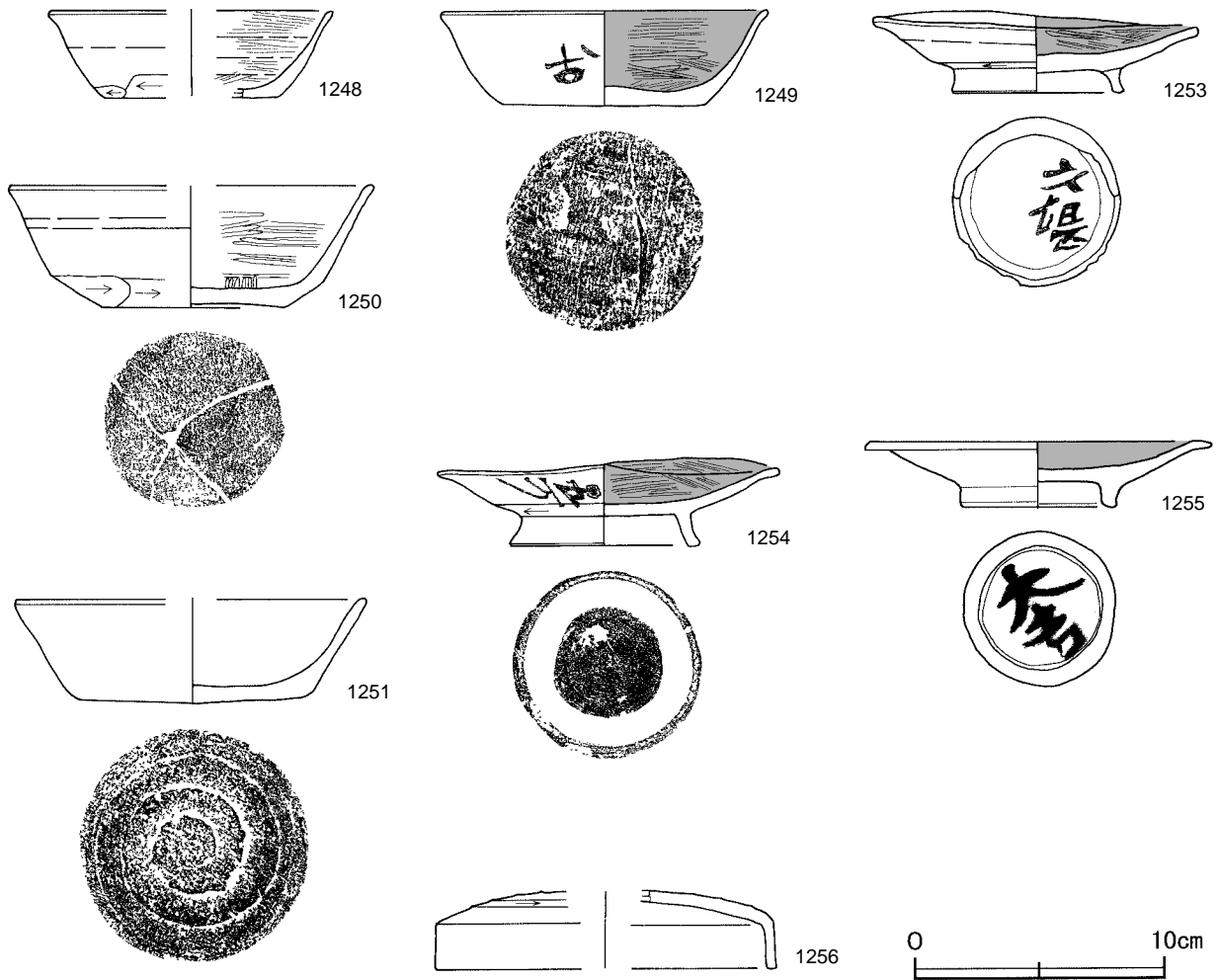
**覆土** 5層に分層される。第1・2層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

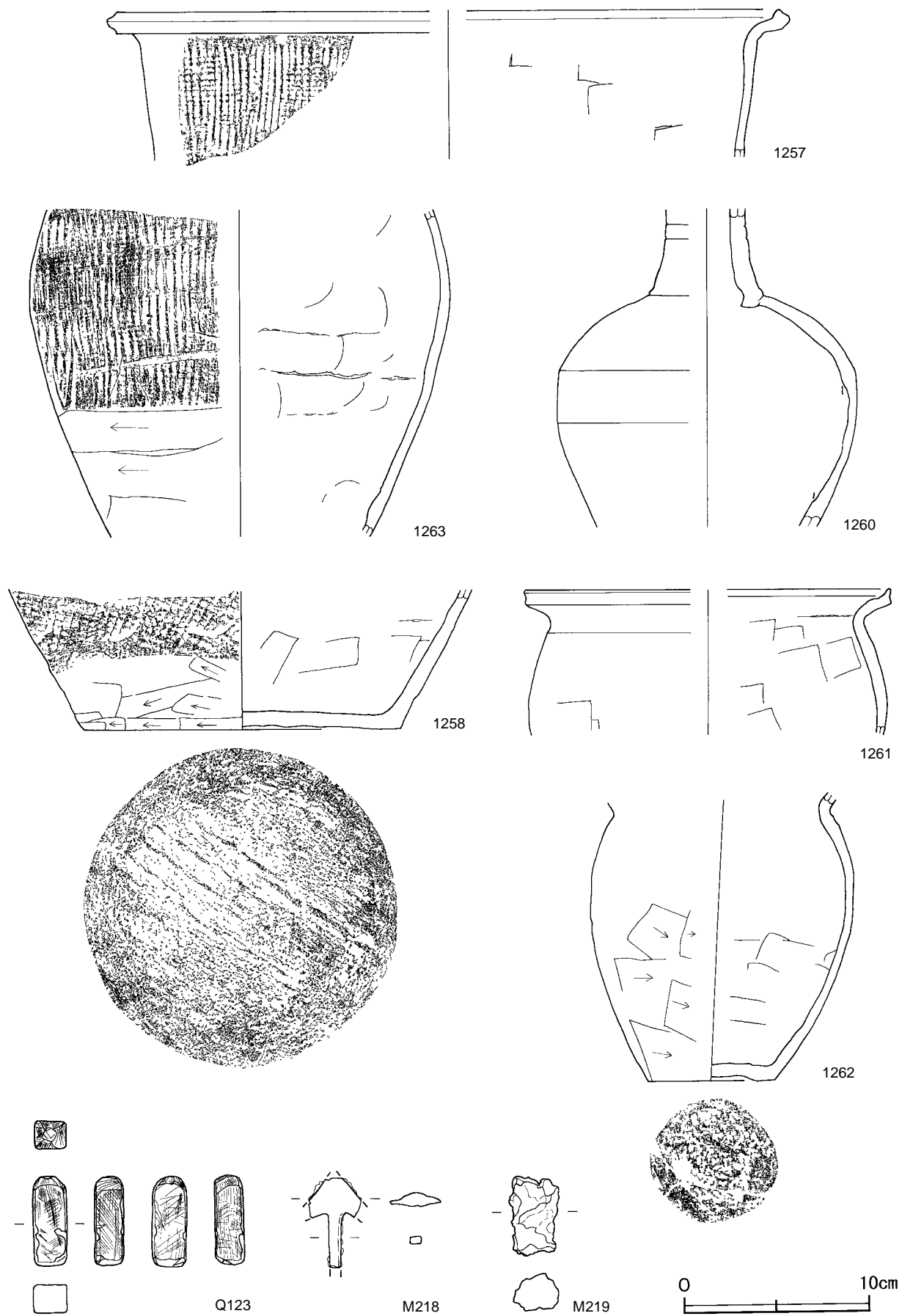
- |       |                                 |       |                   |
|-------|---------------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 3 灰白色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量               | 4 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量      |
|       |                                 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量           |

**遺物出土状況** 土師器片240点（坏40，高台付皿7，甕193），須恵器片70点（坏22，高台付坏1，蓋1，盤1，鉢14，瓶類6，甕22，甌3），石器1点（砥石），鉄製品1点（鏃），鉄滓1点のほかに，混入した陶磁器片3点（不明）も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は，土師器坏10点，高台付皿4点，甕2点，須恵器坏8点，盤1点，蓋2点，鉢3点，長頸瓶1点，甌2点，甕3点である。土器片は各壁際の覆土下層から床面に集中して出土している。1249は北壁際の床面と竈覆土中から出土した破片が接合したものである。1253・1255は西壁際の覆土下層から，1254は北東コーナー部付近の床面からそれぞれ出土している。1260は，南西部の覆土中層から出土した頸部片と竈の覆土中から出土した体部片が接合したものである。

**所見** 1249・1253～1255は墨書土器で，それぞれ「古カ」，「少堤」，「五万」，「大吉」と記されている。時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第111図 第141号住居跡出土遺物実測図(1)



第112图 第141号住居跡出土遺物実測图(2)

第141号住居跡出土遺物観察表 (第111・112図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1248	土師器	坏	[11.3]	3.5	[7.0]	長石・石英	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端～底部手持ちヘラ削り 内面横方向の磨き	竈覆土中	10%
1249	土師器	坏	13.0	3.9	8.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤	普通	体部内・外面ロクロナデ 内面横方向のヘラ磨き 底部一方向の手持ちヘラ削り	床面・竈覆土中	80% PL41 墨書 「古カ」
1250	土師器	坏	[14.5]	4.9	7.3	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下半手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部一方向の手持ちヘラ削り	竈覆土中	50% PL30
1251	須恵器	坏	[13.9]	4.2	9.0	長石・石英・礫	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土下層	60% PL33
1253	土師器	高台付皿	13.0	3.3	6.7	長石・石英	明赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端～底部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 高台貼り付け	覆土下層	95% PL42 墨書 「少堤」
1254	土師器	高台付皿	13.6	3.1	7.5	長石・石英・礫	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端～底部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 高台貼り付け	床面	95% PL42 墨書 「五万」
1255	土師器	高台付皿	14.0	2.6	6.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土下層	60% PL41 墨書 「大吉」
1256	須恵器	蓋	[13.6]	(3.1)	-	長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	20% PL36
1257	須恵器	鉢	[35.4]	(8.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面格子状叩き目 内面ヘラナデ	覆土下層	5%
1258	須恵器	鉢	-	(7.5)	17.0	長石・石英・礫	褐	普通	体部外面格子状叩き目 下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラナデ	床面	15%
1260	須恵器	長頸瓶	-	(17.2)	-	長石・石英・黒色粒子	褐	普通	頸部外面水平方向の沈線2条 体部内・外面ロクロナデ 外面下半回転ヘラ削り	覆土中層・竈覆土中	20% PL37
1261	土師器	甕	[19.8]	(7.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中	5%
1262	土師器	甕	-	(15.5)	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラナデ	床面	60% PL39
1263	須恵器	甕	-	(17.6)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面縦位の平行叩き目 下半ヘラ削り 内面当て具痕	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q123	砥石カ	4.8	1.8	1.5	31.5	滑石	四面擦痕	覆土中	PL47
M218	鐵	(4.8)	(2.8)	0.8	(7.6)	鐵	鐵身三角形カ 関不明 茎部欠損	覆土中層	PL48
M219	鉄滓	4.2	3.7	3.0	13.1	鐵	着磁 褐灰色	覆土中	

第142号住居跡 (第113図)

位置 調査区中央部のA・2h5区、標高24mの台地上の平坦面に位置している。

規模と形状 長軸2.93m、短軸2.70mの方形で、主軸方向はN - 10° - Wである。壁高は23～30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで95cm、袖部幅118cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山に砂質粘土を積み上げて構築している。火床面は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を60cmほど掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- |        |                           |        |                         |
|--------|---------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量   | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量        |
| 2 灰褐色  | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロック微量 | 6 灰褐色  | ローム粒子・砂質粘土粒子少量          |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量                  | 7 灰褐色  | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 褐色   | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量     | 8 灰褐色  | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量   |

ピット 7か所。P 1～P 4は深さ20～27cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P 5は深さ20cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ20cmで、P 2に近接していることから補助柱穴の可能性が考えられる。P 7は深さ11cmで、性格は不明である。

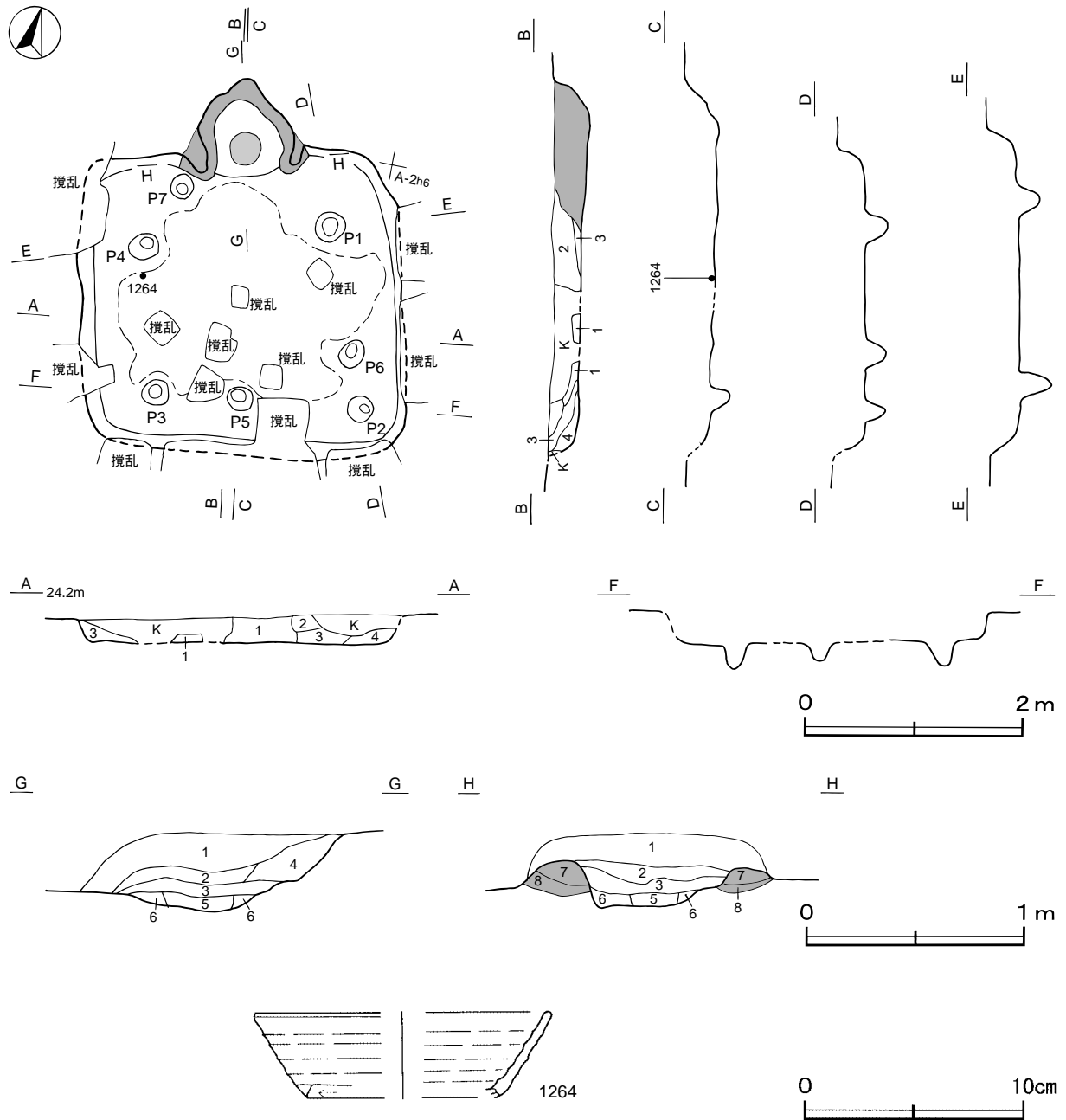
覆土 4層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                    |       |                         |
|-------|--------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量   | 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 | 4 褐色  | ロームブロック中量               |

**遺物出土状況** 土師器片23点（坏9，甕14），須恵器片14点（坏12，盤2）のほかに，混入と見られる陶器片6点も出土している。底部や口縁部などから推測される土器の個体数は，土師器坏1点，甕1点，須恵器坏3点，盤1点である。1264は西部の床面から出土している。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第113図 第142号住居跡・出土遺物実測図

第142号住居跡出土遺物観察表（第113図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1264	須恵器	坏	[13.4]	3.9	[8.6]	長石・石英・ 黒色粒子	黄灰色	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端手持ちへ ラ削り	床面	10%

**第143号住居跡 (第114・115図)**

**位置** 調査区中央部のA・2f5区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長軸2.27m、短軸2.18mの方形で、主軸方向はN - 18° - Wである。壁高は25~28cmで、直立している。

**床** 平坦で、北東部を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。

**竈** 北壁のほぼ中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで93cm、袖部幅88cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を40cmほど掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっている。

**竈土層解説**

- |                                   |                        |
|-----------------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 4 暗赤褐色 砂質粘土粒子・焼土粒子少量   |
| 2 灰褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量          | 5 灰褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量                   | 6 灰褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子中量   |
|                                   | 7 灰褐色 砂質粘土粒子・焼土ブロック少量  |

**ピット** 深さ22cmで、南壁際に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

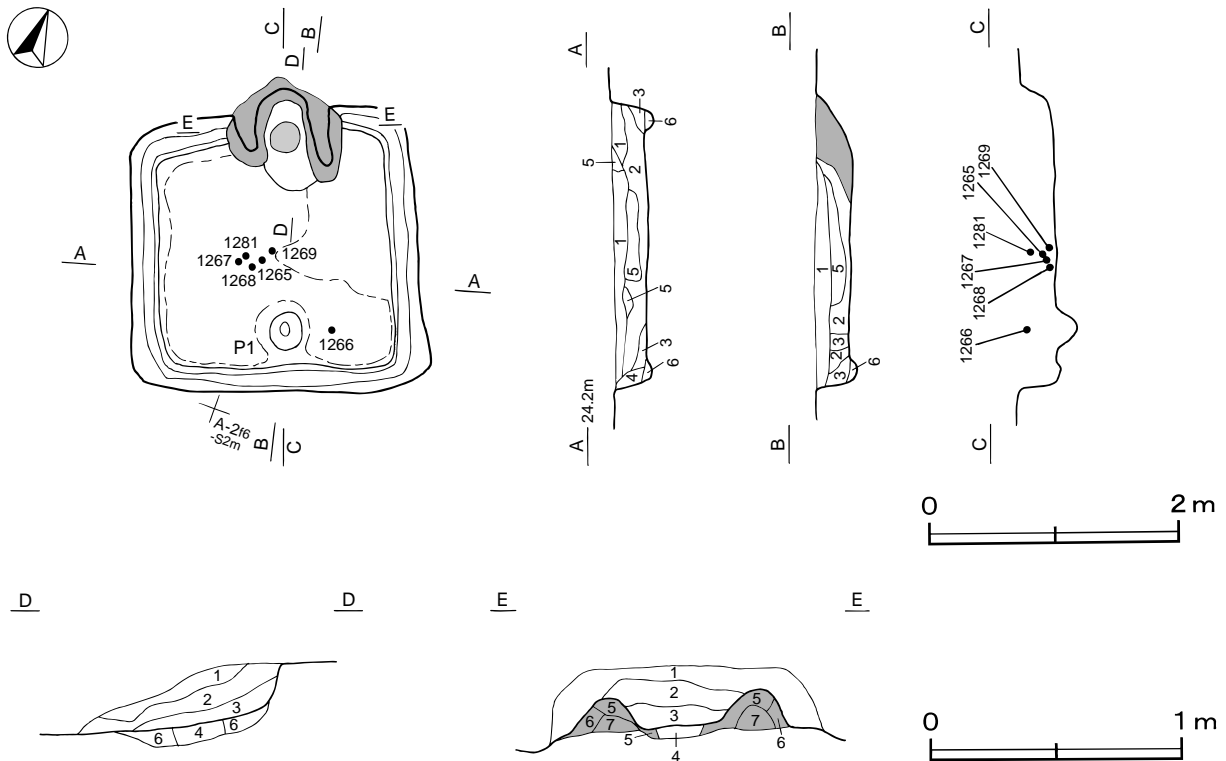
**覆土** 6層に分層される。各層にロームブロックの混じる不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

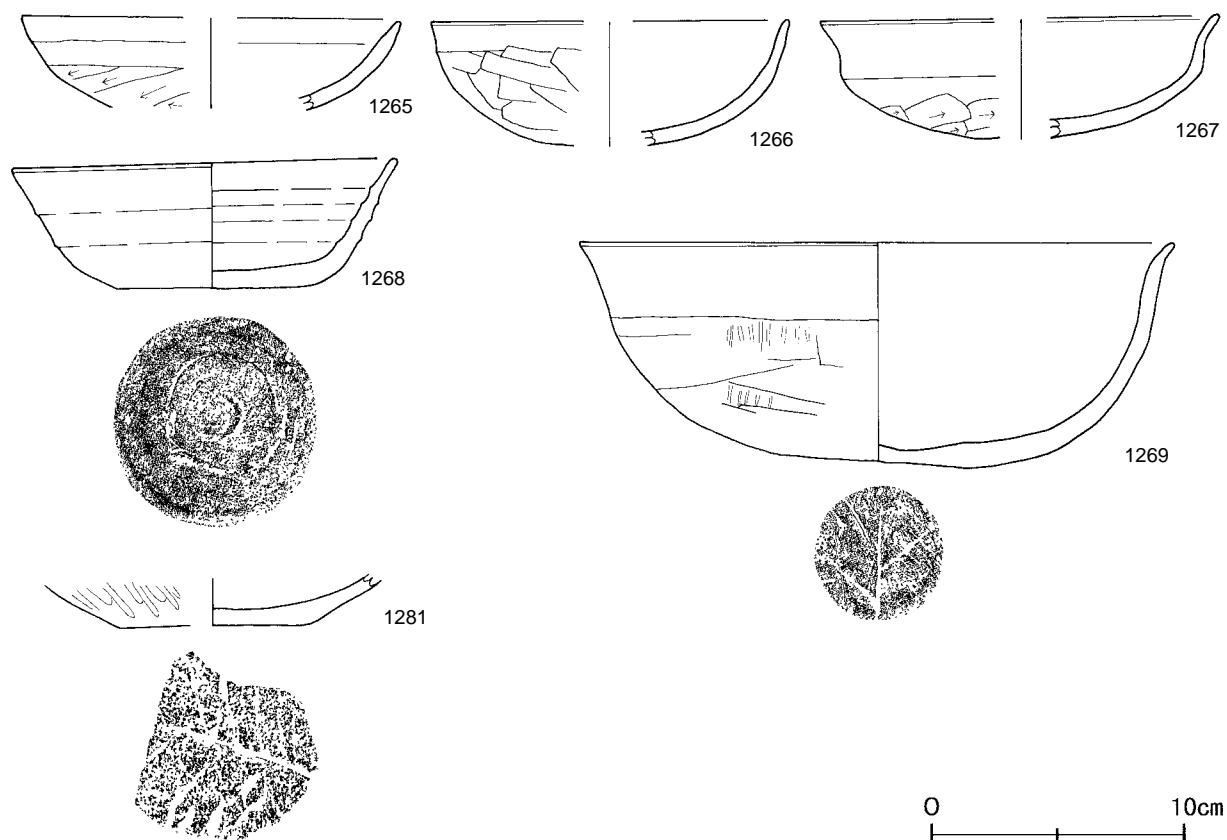
- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック少量       |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量    | 5 暗赤褐色 焼土粒子多量, 炭化物微量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量     | 6 褐色 ローム粒子中量         |

**遺物出土状況** 土師器片31点 (坏18, 鉢1, 甕12), 須恵器片1点 (坏) が出土している。底部や口縁部などから推測される土器の個体数は、土師器坏5点, 鉢1点, 甕1点, 須恵器坏1点である。1268・1269は中央部の床面から正位と逆位で出土している。

**所見** 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第114図 第143号住居跡実測図



第115図 第143号住居跡出土遺物実測図

第143号住居跡出土遺物観察表 (第115図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1265	土師器	坏	[14.8]	(3.5)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	5%
1266	土師器	坏	[14.0]	4.9	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土上層	10%
1267	土師器	坏	[15.6]	4.7	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	30%
1268	須恵器	坏	15.0	5.2	7.8	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ切り 後手持ちヘラ削り	床面	90% PL34
1269	土師器	鉢	23.4	9.3	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ハケ目調整 後ヘラナデ 内面ナデ	床面	70% PL36
1281	土師器	甗	-	(1.9)	[7.4]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き 底部木葉痕	覆土上層	5%

### 第144号住居跡 (第116・117図)

**位置** 調査区中央部のA・2e5区，標高24mの台地上に位置している。

**規模と形状** 長軸2.84m，短軸2.63mの方形で，主軸方向はN - 0°である。壁高は37～45cmで，直立している。

**床** 平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が北壁を除いて周回している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで94cm，袖部幅100cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は壁外に位置しており，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用している。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を60cmほど掘り込み，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- |   |       |                             |    |      |                       |
|---|-------|-----------------------------|----|------|-----------------------|
| 1 | にぶい褐色 | 砂質粘土粒子多量, 炭化物・ローム粒子微量       | 6  | 灰白色  | 砂質粘土粒子多量, 炭化物・ローム粒子微量 |
| 2 | 褐色    | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 7  | 灰褐色  | 砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量      |
| 3 | 暗褐色   | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量    | 8  | 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量          |
| 4 | 暗褐色   | 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 9  | 灰褐色  | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量     |
| 5 | 暗赤褐色  | 焼土粒子多量, 炭化粒子中量, ローム粒子微量     | 10 | 暗赤褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量        |
|   |       |                             | 11 | 暗褐色  | ロームブロック・焼土粒子少量        |

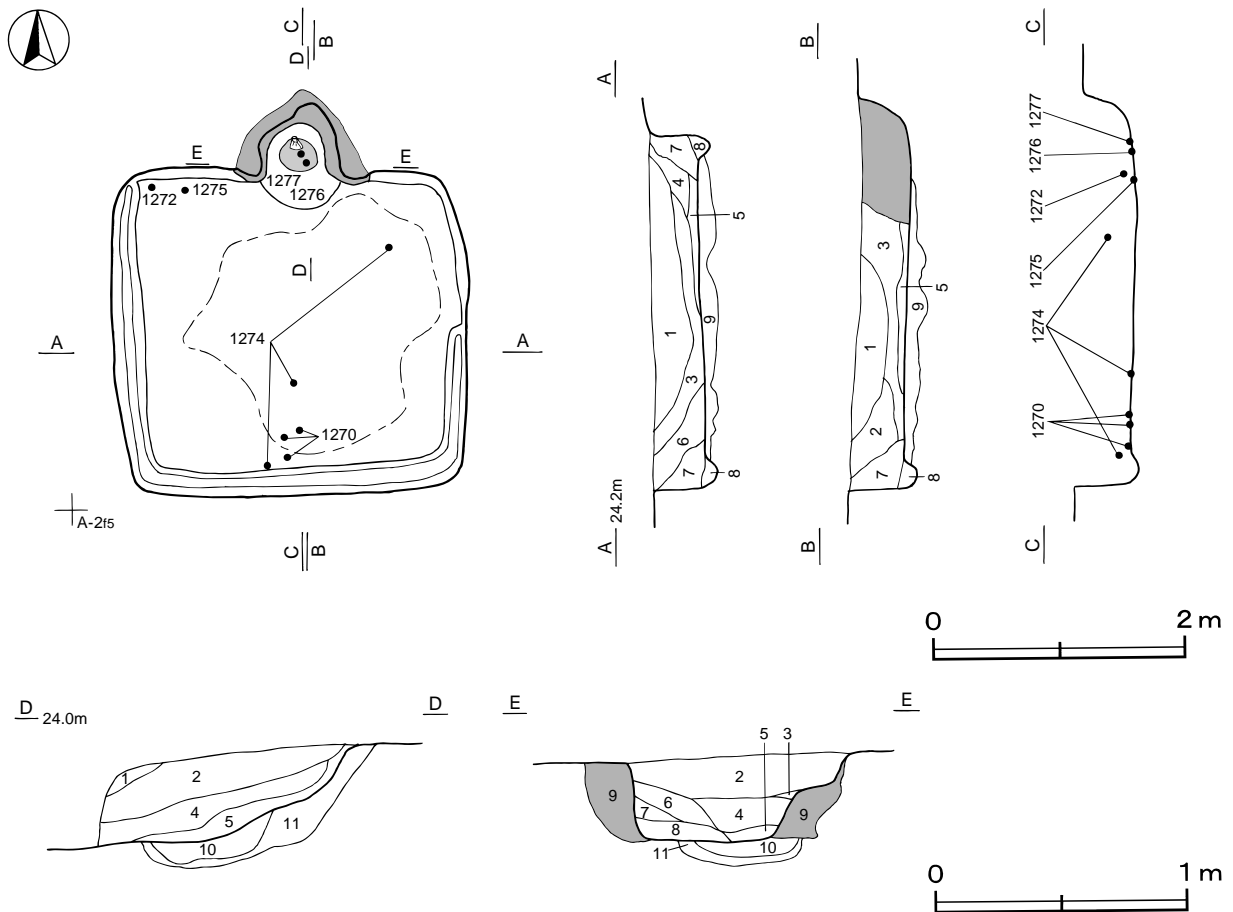
**覆土** 9層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |   |     |                   |   |     |               |
|---|-----|-------------------|---|-----|---------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック少量         | 6 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 | 褐色  | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 7 | 暗褐色 | ロームブロック微量     |
| 3 | 褐色  | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 | 8 | 褐色  | ローム粒子中量       |
| 4 | 褐色  | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 9 | 褐色  | ロームブロック中量     |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子少量           |   |     |               |

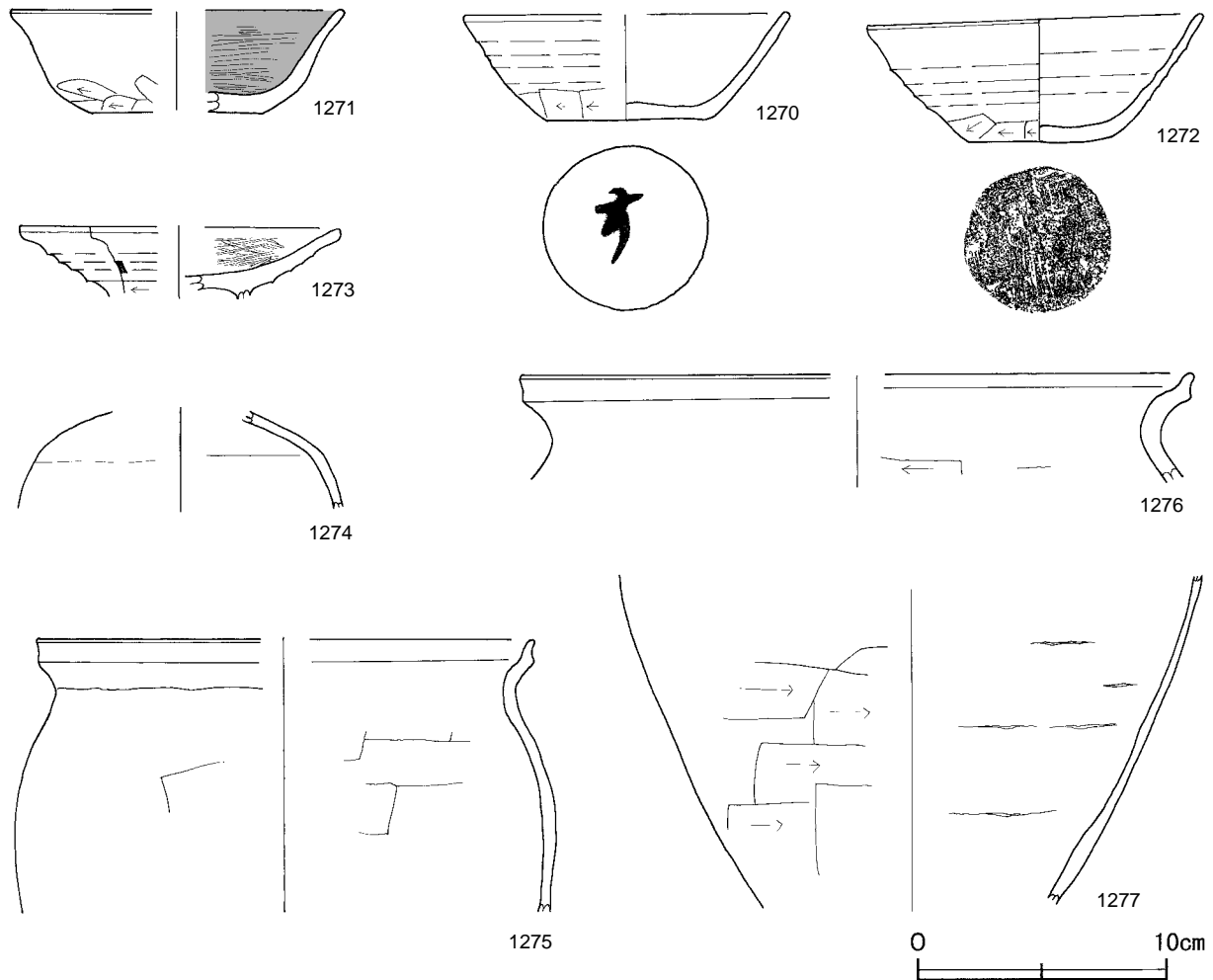
**遺物出土状況** 土師器片143点(坏27, 甕116), 須恵器片8点(坏3, 鉢2, 瓶類3), 土製品1点(支脚)が出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は土師器坏3点, 甕10点, 須恵器坏3点, 瓶類1点, 鉢1点である。1270は南壁際の床面から集中して出土した破片を接合したものである。1272は北西コーナー部の覆土下層から横位で出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第116図 第144号住居跡実測図





第117図 第144号住居跡出土遺物実測図

第144号住居跡出土遺物観察表 (第117図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1270	須恵器	坏	[13.0]	4.2	6.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	床面	50% PL42 墨書「方」
1271	土師器	坏	[13.0]	4.1	[6.6]	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り	覆土中	20%
1272	須恵器	坏	13.4	5.2	5.7	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	80% PL34
1273	土師器	高台付皿	[12.8]	(2.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端・底部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 高台貼り付け	覆土中	30% 墨書「」
1274	須恵器	瓶類	-	(3.9)	-	長石・石英・黒色粒子	黄灰色	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面自然釉	覆土下層～床面	5%
1275	土師器	甗	[19.8]	(11.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	5%
1276	土師器	甗	[26.8]	(4.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラ削り	火床面	5%
1277	土師器	甗	-	(13.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	火床面	20%

第149号住居跡 (第118・119図)

位置 調査区西部のZ・5i7区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.18m，短軸3.08mの方形で，主軸方向はN - 18° - Eである。壁高は13～17cmで，直立している。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで99cm，袖部幅105cmである。袖部は，床面とほぼ同じ高さの地山を基部にして，その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床面は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており，火床部は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を45cmほど掘り込み，外傾して立ち上がっている。

**竈土層解説**

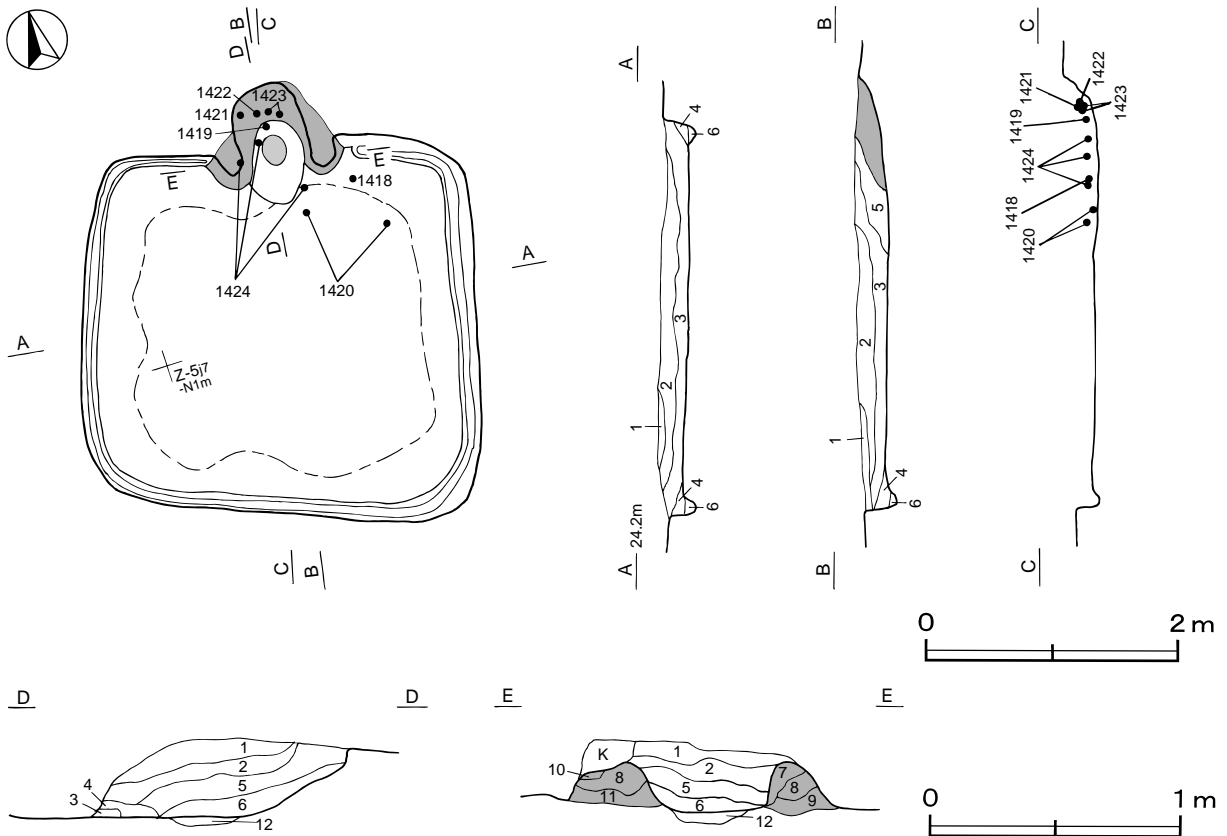
- |         |                                |          |                              |
|---------|--------------------------------|----------|------------------------------|
| 1 暗褐色   | ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量            | 8 オリーブ褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量        |
| 2 暗褐色   | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量              | 9 暗褐色    | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色  | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量     | 10 黒褐色   | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量   |
| 4 黒褐色   | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量     | 11 褐色    | ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 5 暗褐色   | 焼土ブロック・炭化粒子中量                  | 12 暗赤褐色  | 焼土ブロック・炭化粒子少量                |
| 6 極暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量      |          |                              |
| 7 暗褐色   | 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |          |                              |

**覆土** 6層に分層される。ロームブロックをわずかに含んでいるが，レンズ状の堆積状況を示しており，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

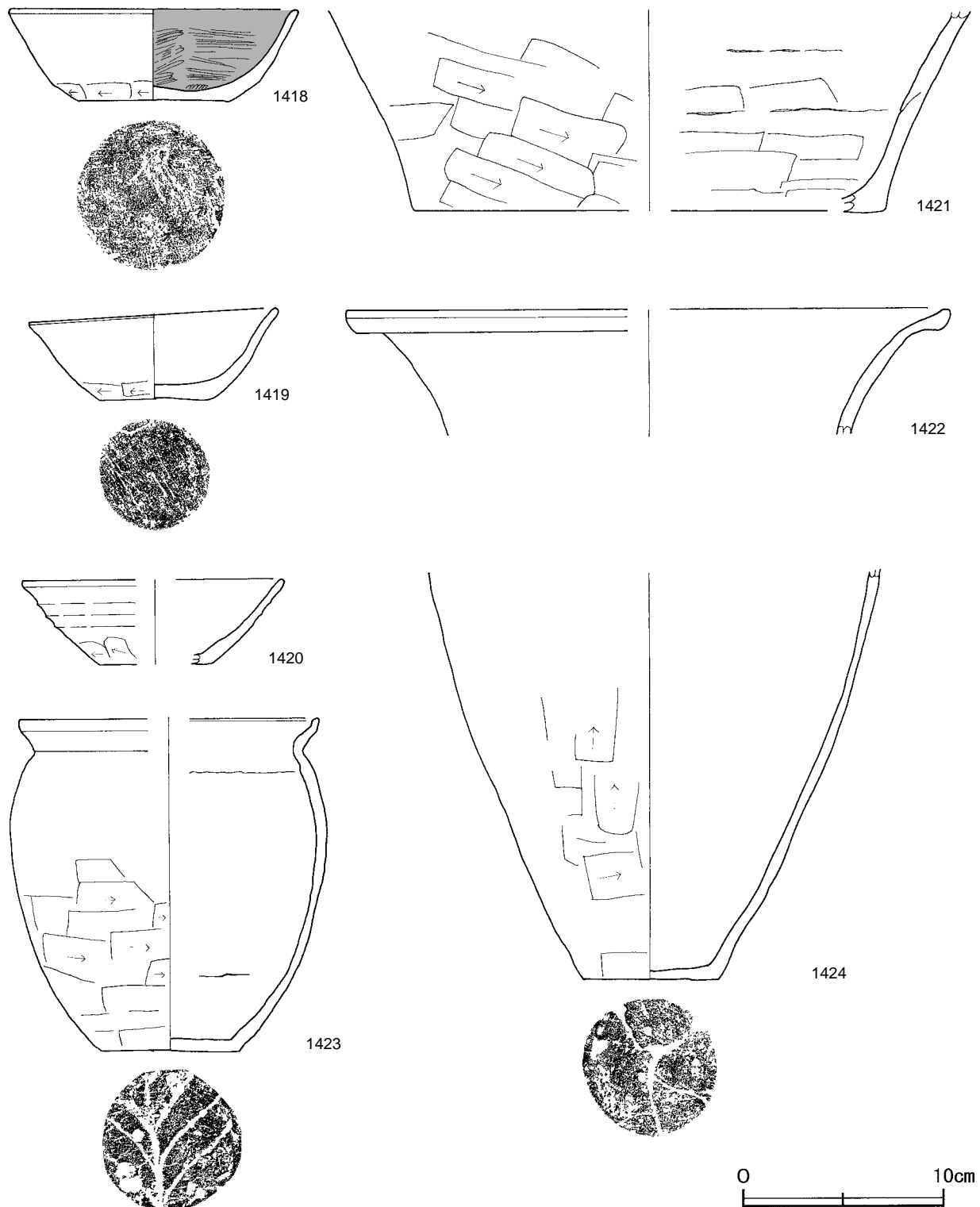
- |        |                       |       |                                |
|--------|-----------------------|-------|--------------------------------|
| 1 暗褐色  | 炭化物・ローム粒子少量，焼土粒子微量    | 5 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量                      |
| 3 暗褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   |       |                                |
| 4 黒褐色  | ロームブロック少量             |       |                                |

**遺物出土状況** 土師器片116点（坏5，甕111），須恵器片38点（坏20，鉢16，甕2），灰釉陶器片3点（瓶類）が出土している。口縁部や体部等から推測される土器の個体数は，土師器坏2点，甕3点，須恵器坏3点，鉢1点，甕1点，灰釉陶器瓶類1点である。1418は北東壁際の床面から逆位で出土している。1419・1423は，竈の火床面から逆位で重なって出土している。



第118図 第149号住居跡実測図

所見 1452は猿投産黒笹14号窯式もしくは90号窯式と考えられるが，細片のため写真図版のみ掲載した。時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第119図 第149号住居跡出土遺物実測図

第149号住居跡出土遺物観察表 (第119図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1418	土師器	坏	14.3	4.5	7.4	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端～底部手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	90% PL30
1419	須恵器	坏	12.3	4.6	5.4	石英・雲母・赤色粒子	灰黄	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	竈火床面	90% PL34
1420	須恵器	坏	[13.0]	4.2	[5.6]	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端～底部手持ちヘラ削り	床面	30% PL34
1421	須恵器	鉢	-	(10.0)	[23.6]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラナデ	竈覆土中	5%
1422	須恵器	甗	[30.0]	(6.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	竈覆土下層	5%
1423	土師器	甗	[14.8]	16.6	6.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ 底部木葉痕	竈火床面	50% PL40
1424	土師器	甗	-	(20.3)	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラナデ	竈覆土中	40%
1452	灰釉陶器	瓶類	-	0.4 (器厚)	-	緻密 黒色粒子	灰黄 灰オリーフ	良好	体部内・外面口クロナデ 刷毛がけ施釉	竈覆土中	5% PL41 写真図版のみ

表4 奈良・平安時代竪穴住居跡一覧表

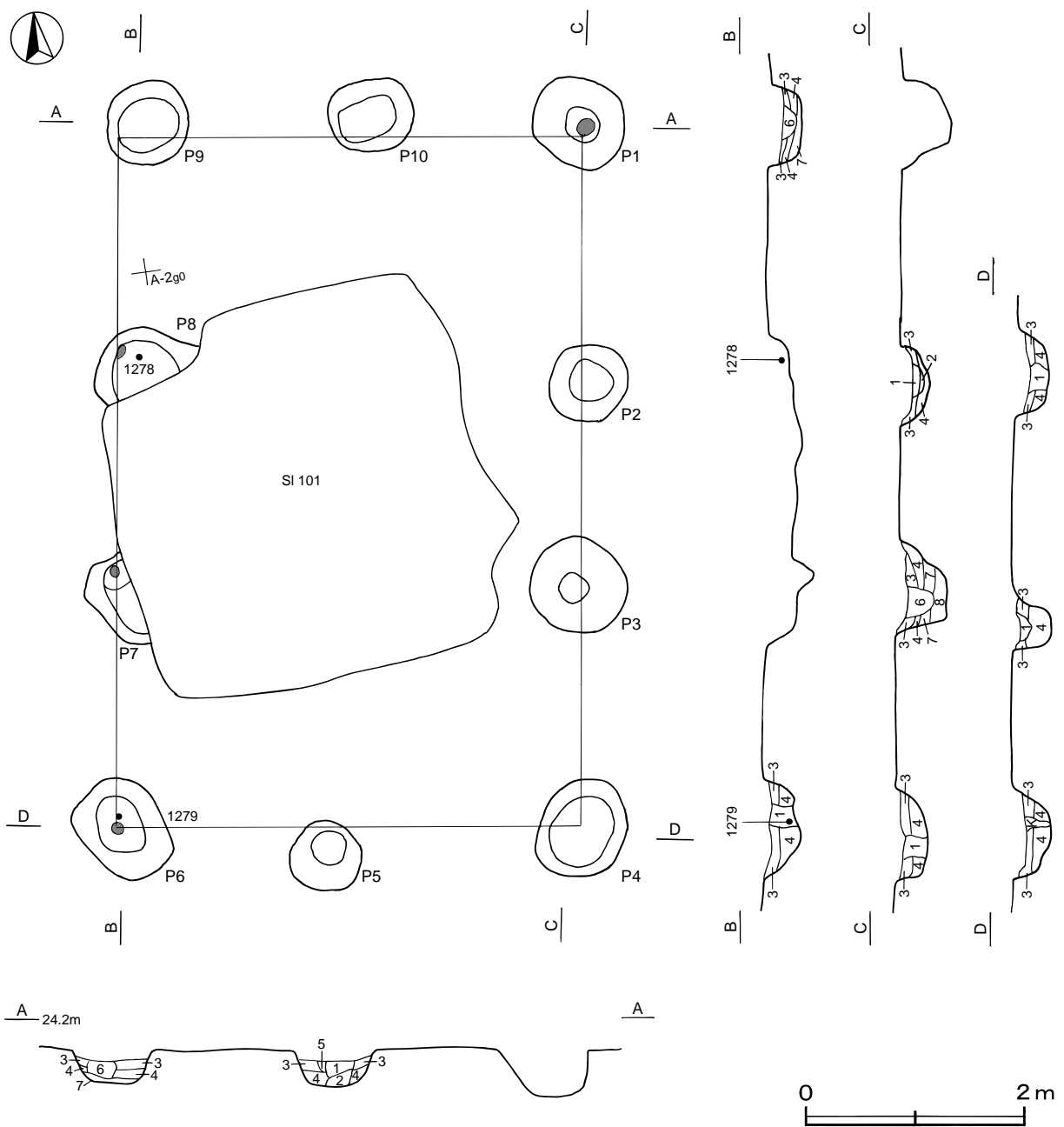
番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 (旧 新)
								主柱穴	出入口ピット	ピット	竈	貯蔵穴				
100A	A-2e9	N・5°・W	方形	3.50 × 3.30	44	平坦	全周	-	1	-	1	-	人為	土師器・須恵器・石製品・鉄製品	8世紀前葉	SI100B 本跡
100B	A-2e9	N・5°・W	方形	3.08 × 3.01	2～5	平坦	全周	-	-	-	1	-	不明	土師器・須恵器	8世紀前葉以前	本跡 SI100A
101	A-2g0	N・85°・E	方形	3.45 × 3.30	14～18	平坦	全周	-	1	2	2	1	人為	土師器・須恵器・鉄滓	9世紀後葉	SB20 本跡
102	A-1b1	N・3°・E	方形	4.30 × 4.21	35～42	平坦	全周	4	1	-	1	1	自然	土師器・須恵器・石器・鉄製品・鉄滓	8世紀前葉	
103	A-1e2	N・3°・W	方形	3.95 × 3.67	32～38	平坦	全周	4	1	-	1	1	自然	土師器・須恵器・鉄製品	8世紀前葉	本跡 SK345
104	A-1b4	N・15°・E	[方形・長方形]	4.04 × (3.52)	16～20	平坦	[全周]	4	1	-	-	-	人為	土師器・須恵器・石器・鉄製品	8世紀中葉	本跡 SB22
105	A-1d5	N・4°・E	方形	2.73 × 2.67	9～16	平坦	ほぼ全周	-	1	1	1	-	人為	土師器・須恵器・鉄製品	8世紀前葉	本跡 SB24
106A	A-1e6	N・5°・E	長方形	4.41 × 3.85	7	平坦	全周	4	1	-	1	-	不明	土師器・須恵器・土製品・鉄製品	8世紀前葉	SI106B 本跡 SB24
106B	A-1e6	N・87°・W	[長方形]	[4.25] × [3.70]	6～15	平坦	一部	3	-	-	1	-	不明	土師器・須恵器	8世紀前葉以前	本跡 SI106A, SB24
109	A-1i3	N・0°	[方形・長方形]	4.00 × (2.48)	20～30	平坦	[全周]	2	-	-	1	-	人為	土師器・須恵器・鉄製品	8世紀以前	SK257・258 本跡 SB21,SK251
110A	A-1i6	N・13°・E	[方形・長方形]	5.55 × (1.70)	45	平坦	[全周]	-	-	1	1	-	人為	土師器・須恵器・土製品・鉄製品・鉄滓	9世紀後葉	SI110B 本跡
110B	A-1i6	N・9°・E	[方形・長方形]	[5.33] × [0.93]	0	平坦	[全周]	-	-	2	1	-	人為		9世紀後葉以前	本跡 SI110A
111	A-1b7	N・5°・E	[方形・長方形]	4.72 × (3.57)	43～55	平坦	[全周]	3	1	1	-	-	自然	土師器・須恵器・石器・鉄製品	8世紀前葉	
112	A-1b9	N・87°・E	[方形・長方形]	3.80 × (0.88)	23	平坦	[全周]	-	-	-	-	-	自然	土師器・須恵器・鉄製品	8世紀中～後葉	
113	A-1e8	N・0°	方形	4.10 × 3.82	22～33	平坦	一部	4	1	-	1	-	自然	土師器・須恵器・鉄製品・自然遺物	8世紀前葉	本跡 SB25
115	A-1d4	N・4°・E	方形	3.27 × 3.21	10～14	平坦	全周	-	1	1	1	-	不明	土師器・須恵器	9世紀後葉	
116A	A-1d5	N・2°・E	長方形	4.33 × 3.75	0	平坦	ほぼ全周	4	1	3	1	-	不明	土師器・須恵器・石器	9世紀中葉	SI116B 本跡 SB30
116B	A-1d5	N・2°・E	長方形	[3.65] × [3.11]	1～3	平坦	一部	4	-	-	1	-	人為		9世紀中葉以前	本跡 SI116A
117	A-1c7	N・0°	[方形・長方形]	(4.96) × (4.60)	23～33	平坦	全周	4	1	1	-	-	人為	土師器・須恵器・土製品・鉄製品	8世紀前葉	
118	A-1h0	N・9°・E	方形	2.48 × 2.36	0～8	平坦	ほぼ全周	-	1	-	1	-	不明	土師器・須恵器	9世紀後葉	SI114A・B,SB27 本跡
125	A-4c3	N・34°・W	[方形]	3.90 × [3.72]	3～5	平坦	-	4	1	-	1	-	不明	土師器	8世紀以降	SI124 本跡
126	Z-3i2	N・23°・E	[方形・長方形]	4.35 × (2.70)	33	平坦	[全周]	2	1	-	-	-	人為	土師器・須恵器・鉄製品	9世紀後葉	
128	A-3f7	N・4°・E	[方形・長方形]	3.18 × (1.93)	34～36	平坦	一部	-	-	-	1	-	人為	土師器・須恵器・土製品・鉄製品・瓦	9世紀中葉	
129	A-3d9	N・83°・E	方形	3.66 × 3.62	30～34	平坦	全周	-	1	1	1	-	人為	土師器・須恵器・石器	8世紀前葉	本跡 SD13-14-15
130	A-3e8	N・0°	[方形・長方形]	2.50 × (1.53)	20	平坦	-	-	-	-	1	-	自然	土師器・須恵器・石器・鉄製品	9世紀後葉	本跡 SD13
131	A-2b3	N・23°・E	方形	4.90 × 4.73	53～58	平坦	全周	4	1	-	1	-	人為	土師器・須恵器・石器・鉄製品・鉄滓	8世紀中葉	
133	B-2b6	N・4°・E	[方形・長方形]	4.98 × (1.49)	92～100	平坦	[全周]	4	2	-	1	-	人為	土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄製品	9世紀後葉	SK401 本跡
134	A-1i8	N・14°・W	[方形]	3.25 × (3.20)	40～42	平坦	[全周]	2	1	-	1	-	人為	土師器・須恵器・石器	8世紀後葉	
135	A-1h9	N・4°・W	[方形・長方形]	[4.00] × (2.84)	60	平坦	[全周]	2	1	1	1	-	人為	土師器・須恵器・石器・鉄製品	8世紀後葉	本跡 PG11
136	A-2d0	N・0°	[方形・長方形]	(2.93) × (2.74)	49～52	平坦	ほぼ全周	1	1	-	-	-	人為	土師器・須恵器・鉄製品	8世紀中葉	SI138 本跡
137	A-2e0	N・2°・E	[方形・長方形]	3.40 × (1.68)	34～40	平坦	-	1	-	-	1	-	人為	土師器・須恵器・鉄製品	8世紀後葉	SI138 本跡
139	A-2b2	N・5°・W	[方形・長方形]	5.30 × (4.05)	45～58	平坦	[全周]	2	1	-	-	-	人為	土師器・須恵器・土製品・石器・石製品・鉄製品	9世紀前葉から中葉	SB47 本跡
141	A-2h7	N・0°	長方形	5.42 × 4.83	34～37	平坦	ほぼ全周	2	1	-	1	-	人為	土師器・須恵器・石器・鉄製品	9世紀後葉	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 (旧 新)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	竈	貯蔵穴				
142	A-2h5	N・10°・W	方形	2.93 × 2.70	23~30	平坦	-	4	1	2	1	-	人為	土師器・須恵器	9世紀中葉	
143	A-2f5	N・18°・W	方形	2.27 × 2.18	25~28	平坦	全周	-	1	-	1	-	人為	土師器・須恵器	8世紀前葉	
144	A-2e5	N・0°	方形	2.84 × 2.63	37~45	平坦	一部	-	-	-	1	-	人為	土師器・須恵器・ 灰釉陶器・土製品	9世紀後葉	
149	Z-5i7	N・18°・E	方形	3.18 × 3.08	13~17	平坦	全周	-	-	-	1	-	自然	土師器・須恵器・ 灰釉陶器	9世紀後葉	

(2) 掘立柱建物跡

第20号掘立柱建物跡 (第120・121図)

位置 調査区中央部のA・2g0区，標高24mの平坦な台地上に位置している。



第120図 第20号掘立柱建物跡実測図

**重複関係** 第101号住居に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向はN - 9° - Eの南北棟である。規模は桁行6.3m、梁行4.2mで、面積は26.46㎡である。柱間寸法は2.1m（7尺）を基調とし、ほぼ均等に配置されている。

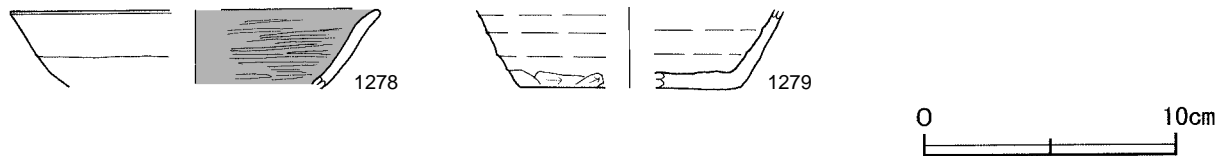
**柱穴** 10か所。平面形は円形又は楕円形で、規模は長径65～96cm、短径65～76cmである。深さは25～44cmで、断面形は逆台形である。第1・2・6層は柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い暗褐色土と黒褐色土である。第3～5・7～9層は掘り方の埋土で、ローム土を含む暗褐色土を主体として互層をなしている。P1・P6～P8の底面からは、柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子中量，ロームブロック少量 | 5 褐色 ローム粒子多量         |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量   | 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量        | 7 黒褐色 ロームブロック少量      |
| 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量     | 8 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |

**遺物出土状況** 土師器片31点（坏5，甕26），須恵器片20点（坏18，蓋1，甕1）が各柱穴から出土している。1279はP6の抜き取り痕の下層から出土している。

**所見** 時期は、重複関係及び、第3号鍛冶工房跡と主軸方向が一致することから8世紀後葉と考えられる。



第121図 第20号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第20号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第121図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1278	土師器	坏	[14.6]	(3.1)	-	長石	にぶい褐	普通	体部内・外面口クロナデ 内面ヘラ磨き	P8覆土下層	5%
1279	須恵器	坏	-	(3.0)	[8.6]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部多方向の手持ちヘラ削り	P6柱抜き取り痕下層	10%

### 第21号掘立柱建物跡（第122図）

**位置** 調査区中央部のA・1h3区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**確認状況** 調査区の南端で確認されており、南部が調査区域外に延びていると推測される。

**重複関係** 第109号住居跡，第3号鍛冶工房跡，第259号土坑を掘り込んでおり，第9号溝に掘り込まれている。第251・257・258号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と構造** 確認された範囲では、桁行2間、梁行2間の側柱建物跡である。規模は桁行4.8m、梁行4.8mで、面積は23.04㎡である。柱間寸法は2.4m（8尺）を基調としており、ほぼ均等に配置されている。

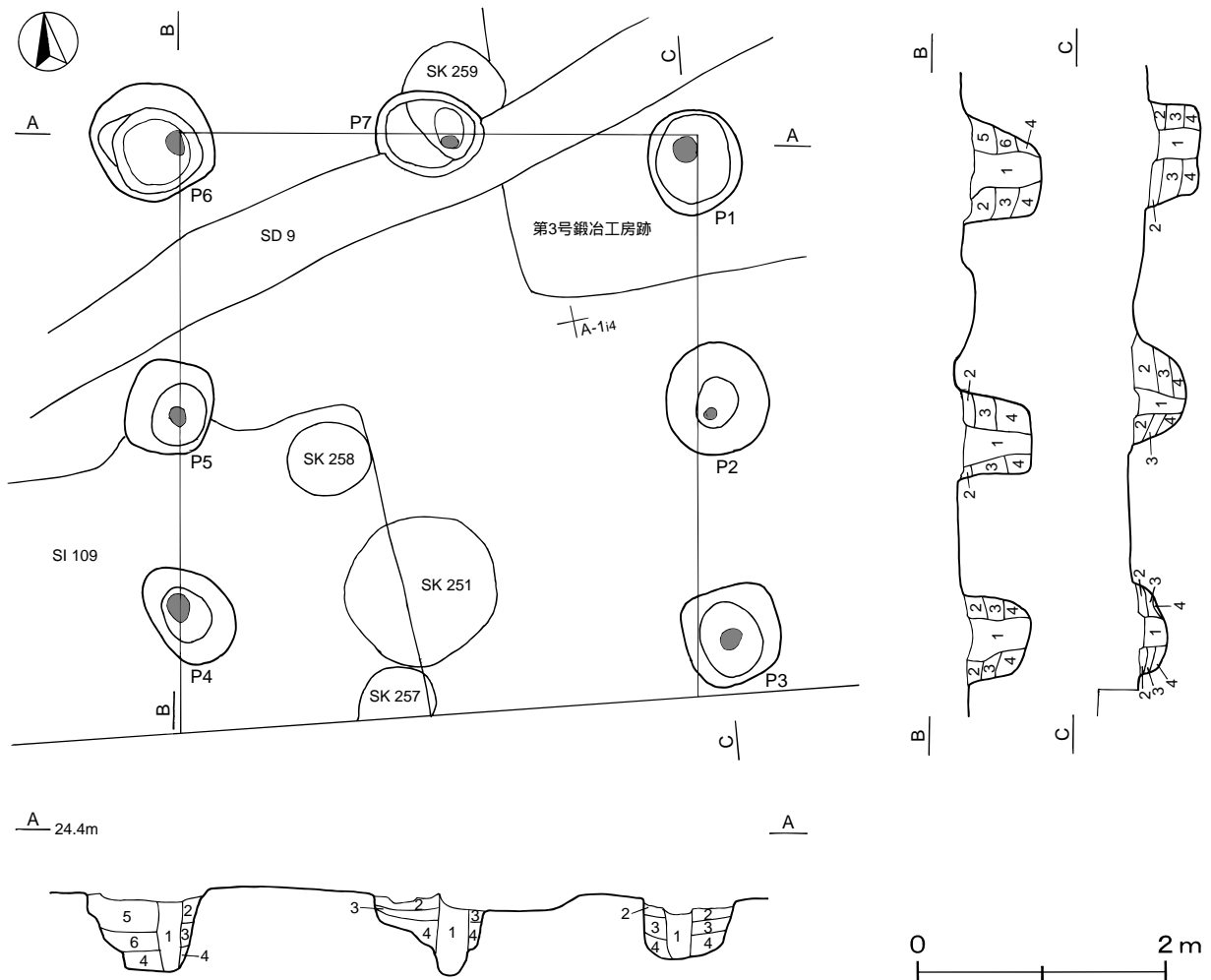
**柱穴** 7か所。平面形は楕円形または隅丸方形で、規模は長径（軸）75～100cm、短径（軸）68～96cmである。深さは29～61cmで、断面形はU字状または逆台形である。第1層は柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い暗褐色土である。第2～6層は掘り方の埋土で、ローム土主体の暗褐色土と褐色土が互層をなしている。各柱穴の底面からは、柱のあたりが確認されている。

土層解説 (各柱穴共通)

- |       |                      |       |                 |
|-------|----------------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量 | 4 褐色  | ロームブロック中量       |
| 2 褐色  | ローム粒子中量              | 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量            | 6 褐色  | ロームブロック多量       |

**遺物出土状況** 土師器片12点 (坏2, 甕10), 須恵器片8点 (坏7, 甕1) が各柱穴から出土しているが, いずれも細片で図示できない。

**所見** 本跡の北部に位置し, 規模と軸方向が一致する第23号掘立柱建物跡との比較から, 桁行3間, 梁行2間で, 南北棟の掘立柱建物跡の可能性が想定される。時期は, 出土土器及び第110A号住居跡と主軸方向が一致することから9世紀後葉と考えられる。



第122図 第21号掘立柱建物跡実測図

**第22号掘立柱建物跡 (第123図)**

**位置** 調査区中央部のA・1b3区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第104号住居跡を掘り込んでいる。

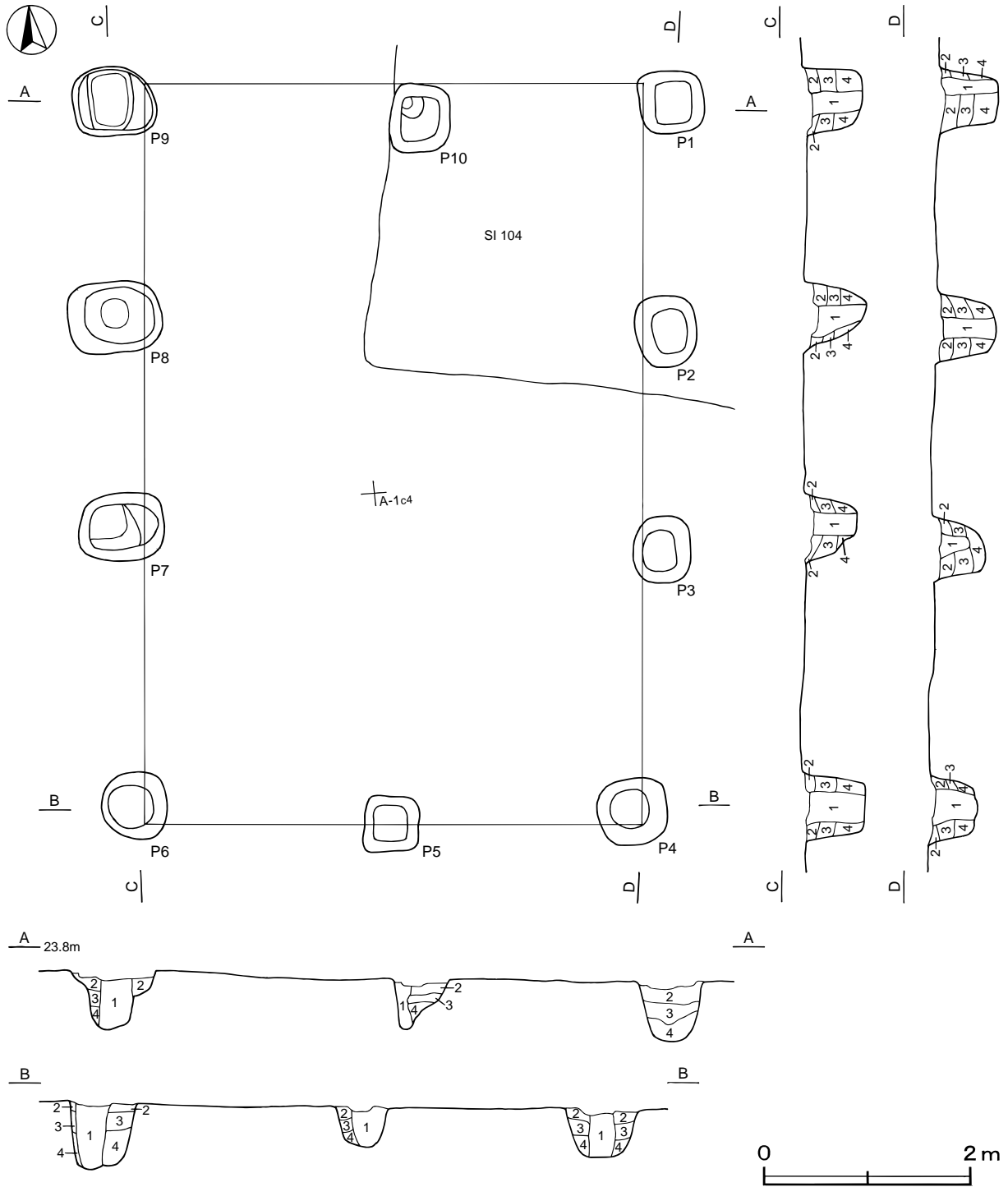
**規模と構造** 桁行3間, 梁行2間の側柱建物跡で, 桁行方向はN - 7° - Eの南北棟である。規模は桁行7.2m, 梁行4.8mで, 面積は34.56㎡である。柱間寸法は2.4m (8尺) を基調としており, 均等に配置されている。

**柱穴** 10か所。平面形は円形・隅丸方形・隅丸長方形で, 規模は長径 (長軸) 68~92cm, 短径 (短軸) 50~52

cmである。深さは37~55cmで、断面形は逆台形である。第1層は柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い黒褐色土である。第2~4層は掘り方の埋土で、ローム土を含む暗褐色土と褐色土が互層をなしている。

土層解説 (各柱穴共通)

- |                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量      | 3 褐色 ロームブロック中量  |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |



第123図 第22号掘立柱建物跡実測図

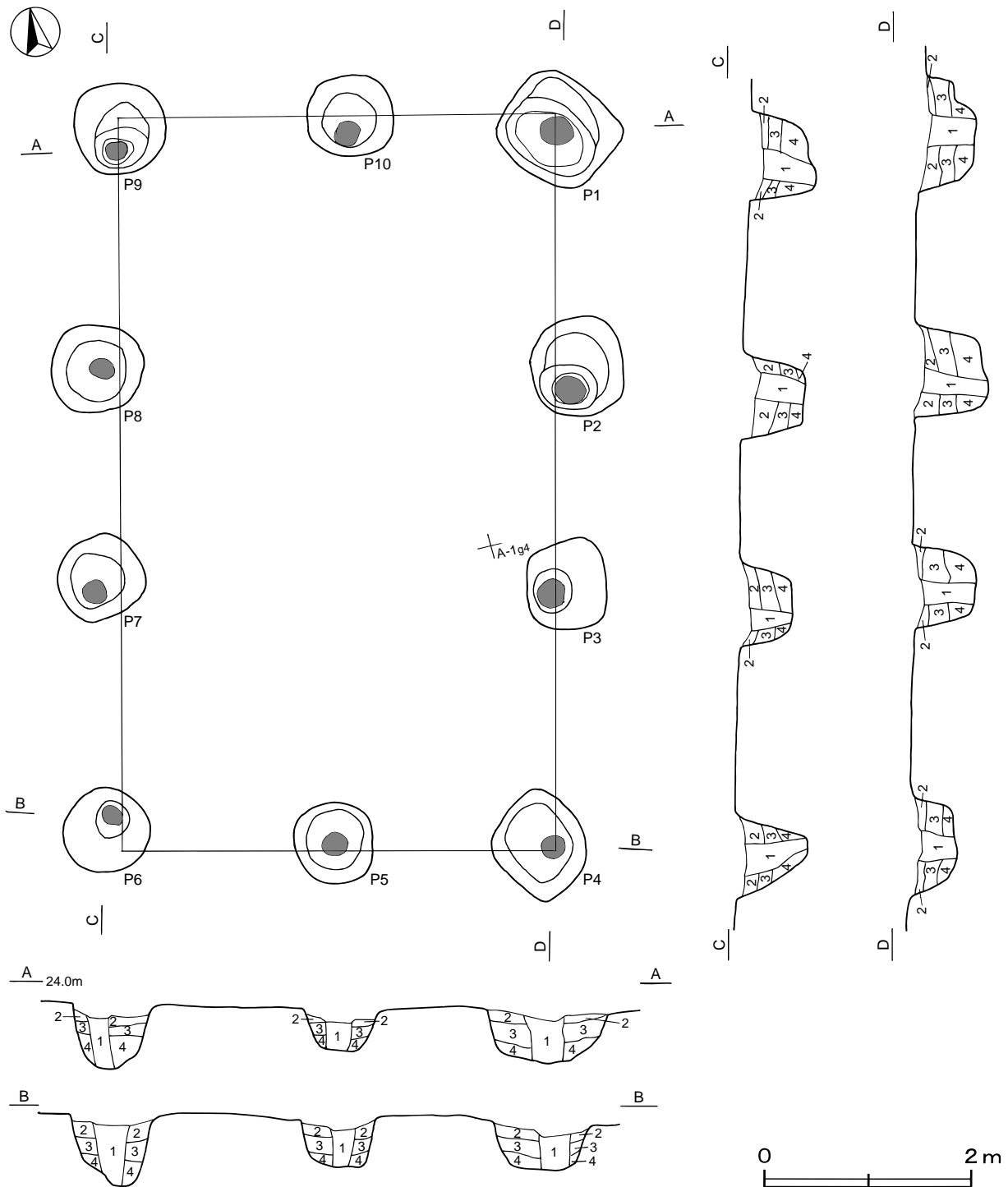


**遺物出土状況** 土師器片10点 (坏2, 甕8), 須恵器片2点 (坏, 甕) が各柱穴から出土しているが, いずれも細片で図示できない。

**所見** 時期は, 重複関係及び, 第3号鍛冶工房跡と主軸方向がほぼ一致していることから8世紀後葉と推定される。

**第23号掘立柱建物跡 (第124・125図)**

**位置** 調査区中央部のA・1f3区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。



第124図 第23号掘立柱建物跡実測図

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向はN - 14° - Eの南北棟である。規模は桁行7.2m，梁行4.2mで，面積は30.24㎡である。柱間寸法は，桁行が2.4m（8尺），梁行が2.1m（7尺）を基調としており，均等に配置されている。

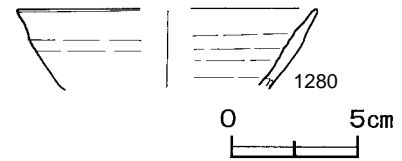
**柱穴** 10か所。平面形は円形または隅丸方形で，規模は長径（長軸）100～108cm，短径（短軸）75～80cmである。深さは43～71cmで，断面形はU字状または逆台形である。第1層は柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い黒褐色土である。第2～4層は掘り方の埋土で，炭化粒子を含む暗褐色土と褐色土が互層をなしている。各柱穴の底面からは，柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子中量，ロームブロック少量 | 3 褐色 ロームブロック中量       |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量     | 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量 |

**遺物出土状況** 土師器片31点（坏9，甕22），須恵器片31点（坏17，蓋2，甕9，甌3），鉄製品1点（不明）が各柱穴から出土している。

**所見** 時期は，本跡の南部に位置する第110A号住居跡と主軸方向が一致していること及び出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第125図 第23号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第23号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第125図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1280	須恵器	坏	[11.8]	(3.1)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	5%

第24号掘立柱建物跡（第126図）

**位置** 調査区中央部のA・1e6区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第105・106A・106B号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向はN - 86° - Eの東西棟である。規模は桁行6.3m，梁行4.2mで，面積は26.46㎡である。柱間寸法は2.1m（7尺）を基調としており，ほぼ均等に配置されている。

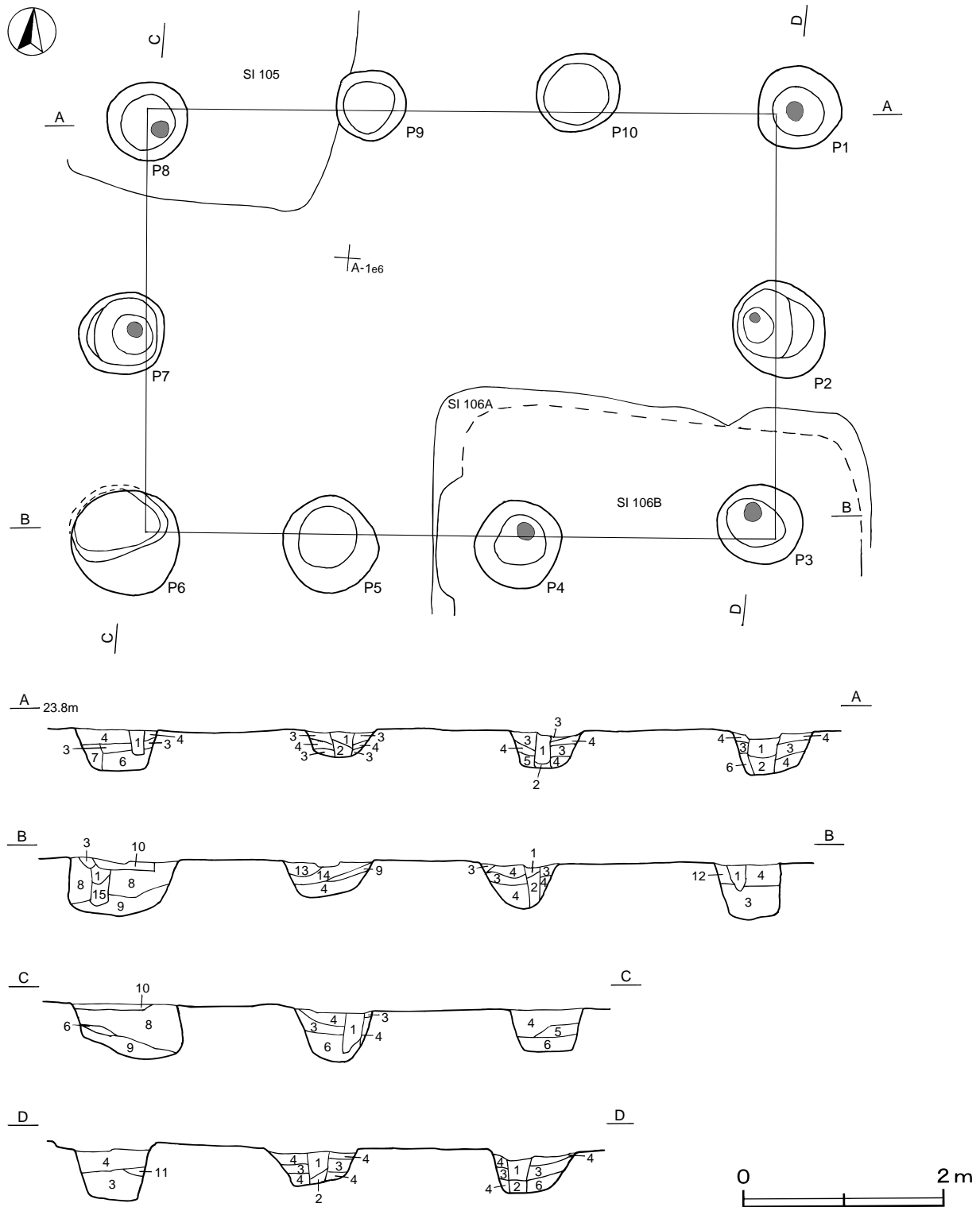
**柱穴** 10か所。平面形は円形または楕円形で，規模は長径70～110cm，短径70～107cmである。深さは26～57cmで，断面形はU字状または逆台形である。第1・2・15層は柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い褐色土と暗褐色土である。第3～12層は掘り方の埋土で，ローム土主体の褐色土・暗褐色土・黒褐色土が叩きしめられて互層をなしている。第13・14層は柱抜き取り後の覆土とみられる。P1～P4・P7・P8の底面からは，柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

- |                      |                            |
|----------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 9 褐色 ロームブロック中量             |
| 2 褐色 ロームブロック中量，締まり弱  | 10 黒褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量    |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量      | 11 暗褐色 ローム粒子中量             |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量      | 12 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量      | 13 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量        |
| 6 暗褐色 ローム粒子少量        | 14 褐色 ローム粒子中量              |
| 7 暗褐色 ロームブロック多量      | 15 黒褐色 焼土粒子少量，ロームブロック少量    |
| 8 褐色 ローム粒子多量         |                            |

**遺物出土状況** 土師器片111点，（坏13，甕98），須恵器片17点（坏13，蓋1，甕3）が出土している。

**所見** 時期は，重複関係及び，第112号住居跡と主軸方向が一致することから8世紀中葉と考えられる。



第126図 第24号掘立柱建物跡実測図

**第25号掘立柱建物跡** (第127・128図)

**位置** 調査区中央部のA・1d8区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第113号住居跡を掘り込み，第26号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

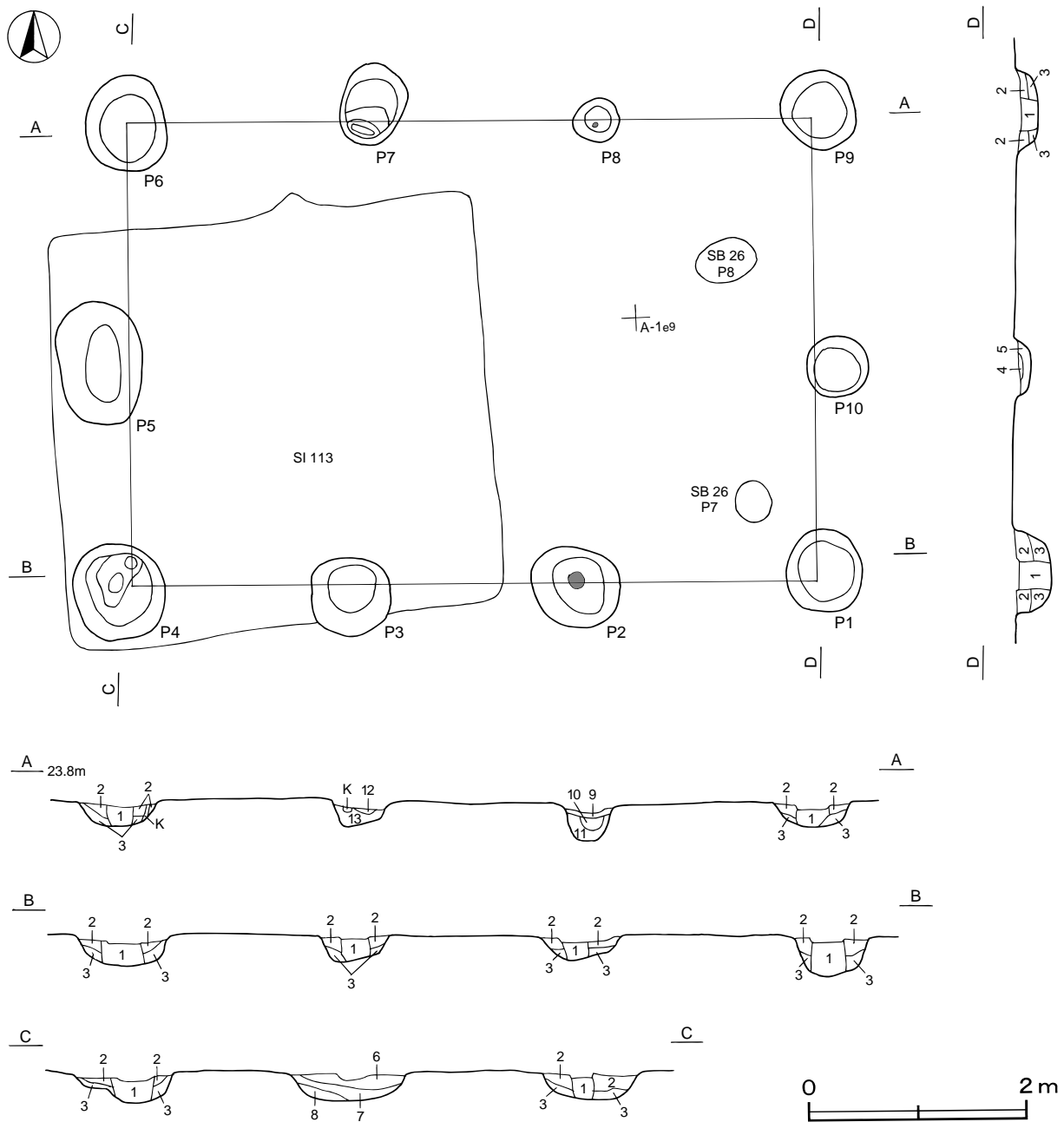
**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向はN - 87° - Wの東西棟である。規模は桁行6.3m，

梁行4.2mで、面積は26.46㎡である。柱間寸法は2.1m（7尺）を基調としており、均等に配置されている。

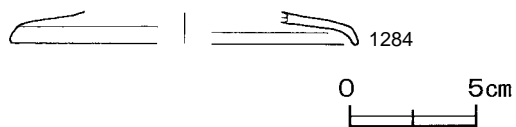
**柱穴** 10か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径76～110cm，短径42～43cmである。深さは16～35cmで、断面形は逆台形である。第1層は柱の抜き取り痕に相当し、締まりの弱い黒褐色土である。第2～13層は掘り方の埋土で、暗褐色土・黒褐色土を主体として互層をなしている。P2・P8の底面からは、柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

- |                          |                      |
|--------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量        | 8 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量          | 9 黒褐色 ロームブロック・炭化材少量  |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量          | 10 黒褐色 ロームブロック中量     |
| 4 褐色 ローム粒子中量             | 11 褐色 ロームブロック中量      |
| 5 褐色 ローム粒子多量             | 12 黒褐色 ロームブロック少量     |
| 6 黒褐色 ロームブロック・炭化材・焼土粒子少量 | 13 褐色 ロームブロック少量      |
| 7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量     |                      |



第127図 第25号掘立柱建物跡実測図



**遺物出土状況** 土師器片48点（坏4，甕44），須恵器片3点（坏1，蓋2）が各柱穴から出土している。

**所見** 時期は，重複関係及び第116A号住居跡と主軸方向が一致することから9世紀中葉と考えられる。

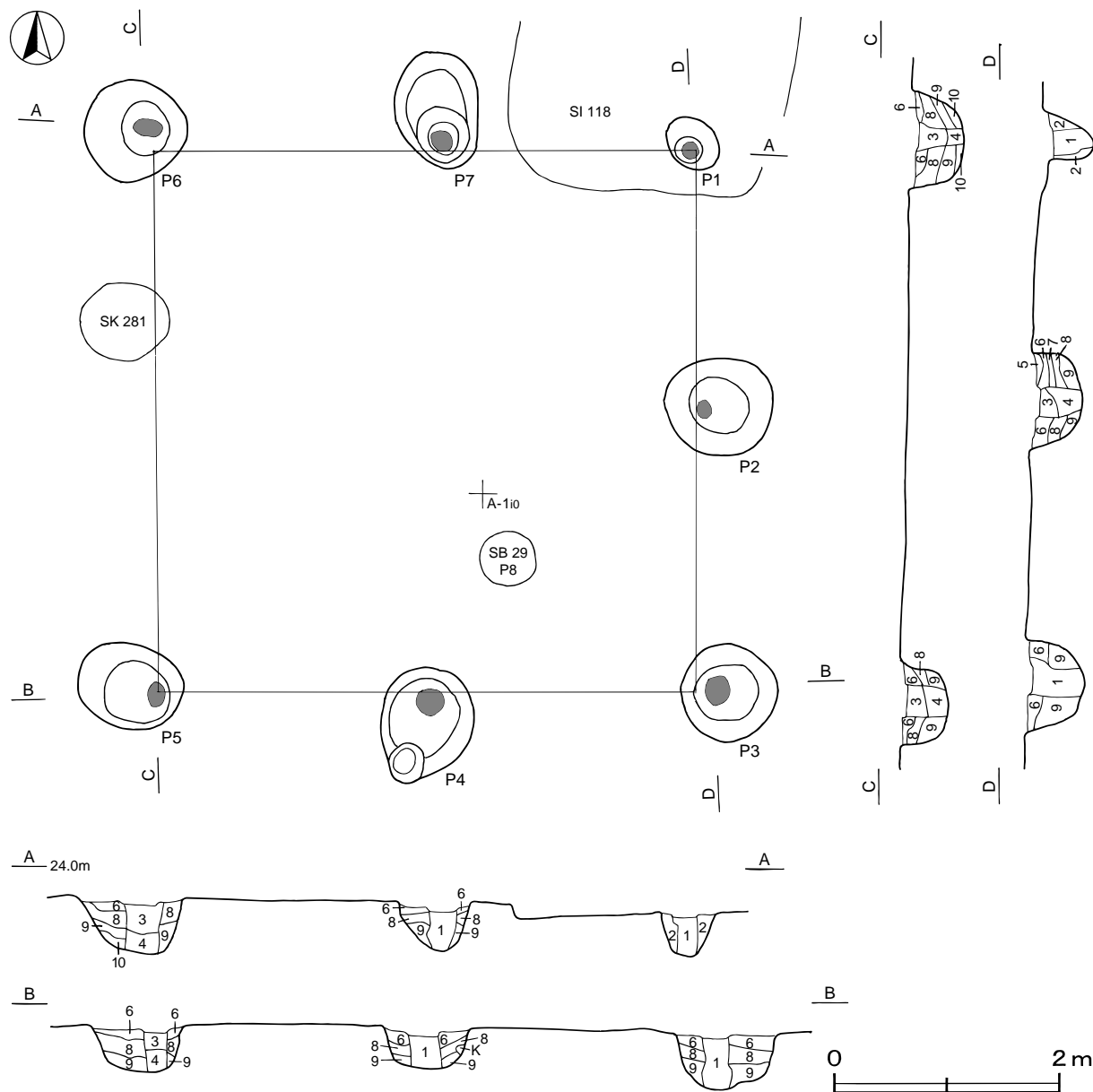
第128図 第25号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第25号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第128図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1284	須恵器	蓋	[13.6]	(12)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	5%

第27号掘立柱建物跡（第129図）

**位置** 調査区中央部のA・1h9区，標高24mの平坦な台地上に位置している。



第129図 第27号掘立柱建物跡実測図

**重複関係** 第118号住居に掘り込まれており、第29号掘立柱建物跡・第281号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡である。規模は、桁行・梁行ともに4.2mで、面積は17.64㎡である。柱間寸法は2.4m（8尺）を基調としおり、均等に配置されている。柱筋は通っている。

**柱穴** 7か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径82～105cm、短径42～52cmである。深さは35～51cmで、断面形は逆台形である。第1・3・4層は柱抜き取り痕に相当し、砂質粘土を含む締まりの弱い暗褐色土・黒褐色土である。第2・5～7層は掘り方の埋土であり、褐色土と暗褐色土が叩き締められて互層をなしている。各柱穴の底面からは、柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	6 暗褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	7 褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック少量	9 褐色	ロームブロック多量
5 褐色	ローム粒子中量	10 褐色	ローム粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片13点（坏3，甕10）、須恵器片14点（坏8，蓋1，甕5）が出土しているが、いずれも細片で図示できない。

**所見** 時期は、重複関係及び、第112号住居跡と主軸方向が一致することから8世紀中葉と考えられる。

### 第28号掘立柱建物跡（第130図）

**位置** 調査区中央部のA1h1区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第29号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行3間、梁行2間の側柱建物で、桁行方向はN-2°-Eの南北棟である。規模は、桁行7.2m、梁行4.8mで、面積は34.56㎡である。柱間寸法は2.4m（8尺）を基調としており、ほぼ均等に配置されている。

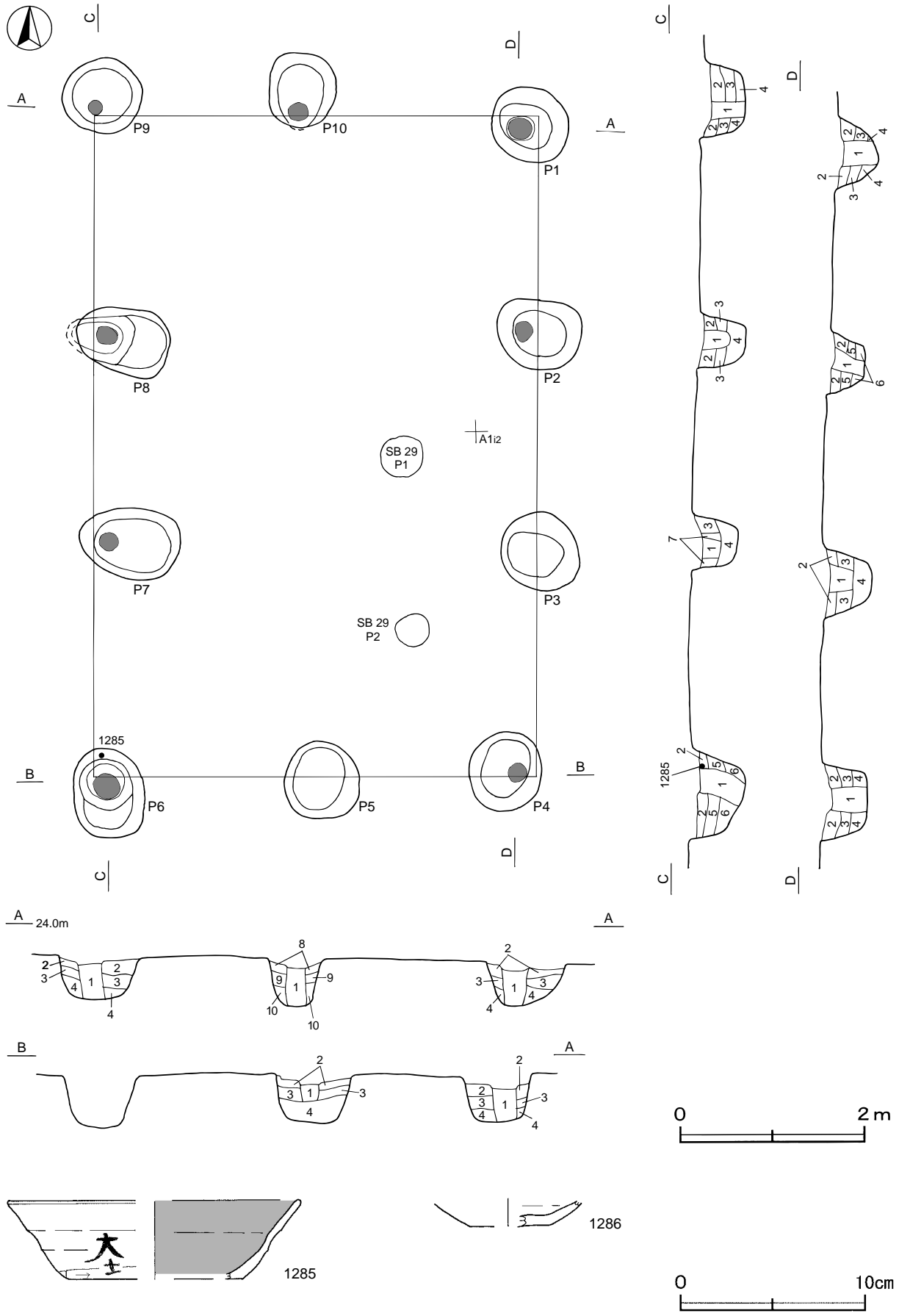
**柱穴** 10か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径80～112cm、短径72～76cmである。深さは40～53cmで、断面形はU字状または逆台形である。第1層は柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い黒褐色土である。P3・P5を除く各柱穴の底面からは、柱のあたりが確認されている。掘り方の埋土は、ローム土と炭化粒子を含む褐色土・暗褐色土主体で、互層をなしている。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	6 黒褐色	炭化粒子中量、ロームブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	7 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
3 褐色	ロームブロック中量	8 黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子少量
4 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量	9 極暗褐色	炭化粒子中量、ローム粒子少量
5 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量	10 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片19点（坏3，甕16）、須恵器片6点（坏2，甕2，瓶類2）が各柱穴から出土している。1285はP6の埋土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器及び、第116A号住居跡と主軸方向が一致することから9世紀中葉と考えられる。



第130图 第28号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第28号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第130図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1285	土師器	坏	[15.6]	4.2	[9.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端手持ちヘラ削り	P 6 埋土上層	10% 墨書 「大土」
1286	須恵器	瓶類	-	(1.4)	[4.0]	緻密 長石	黄灰	良好	体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土中	5 %

第31号掘立柱建物跡 (第131図)

**位置** 調査区中央部のA・2i0区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**確認状況** 調査区の南端で柱穴が3か所確認されており、南部は調査区域外に延びていると推測される。

**規模と構造** 東西軸はN - 74° - Wで、柱間寸法は2.1m (7尺)である。

**柱穴** 3か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径70~98cm,短径70~75cmである。深さは40~58cmで、断面形は逆台形である。第1・2層は柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い暗褐色土である。第3・4層は掘り方の埋土で、暗褐色土と褐色土が互層をなしている。

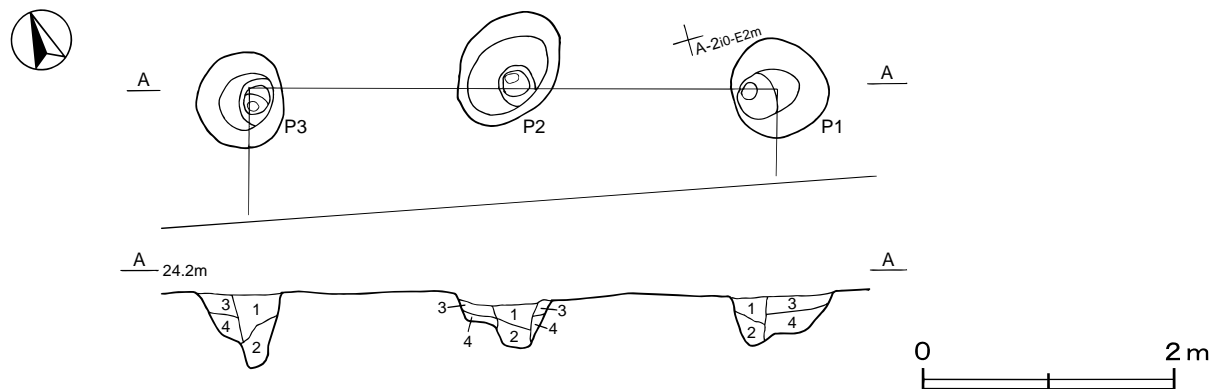
土層解説 (各柱穴共通)

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片11点 (坏4,皿1,甕6),須恵器片6点 (坏4,盤1,甕1)が各柱穴から出土しているが、いずれも細片で図示できない。

**所見** 本跡は、北東に位置している第23号掘立柱建物跡と軸方向がほぼ一致することから、桁行3間、梁行2間の、南北棟と想定される。時期は、第23号掘立柱建物跡と軸方向が一致していること及び出土土器から9世紀後葉と推定される。



第131図 第31号掘立柱建物跡実測図

第38号掘立柱建物跡 (第132・133図)

**位置** 調査区東部のA 2i7区、標高24mの台地の縁辺部に位置している。

**重複関係** 第132号住居跡,第430号土坑を掘り込み,第4号井戸に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行3間,梁行2間の側柱建物跡で,桁行方向N - 5° - Wの南北棟である。規模は,桁行6.3m,梁行4.8mで,面積は30.24㎡である。柱間寸法は桁行が2.1m (7尺),梁行が2.4m (8尺)で,均等に配置されている。

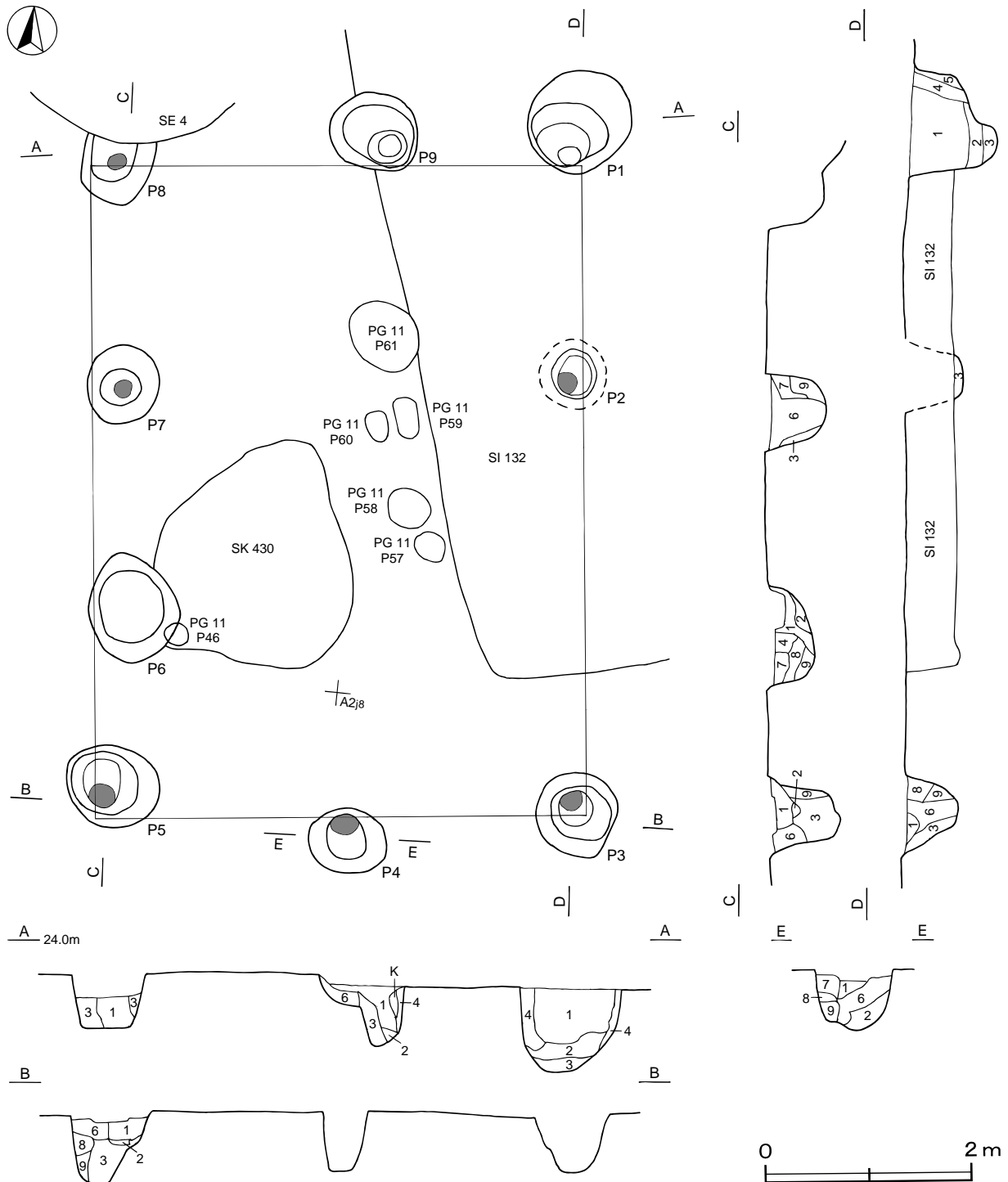
**柱穴** 9か所。東桁行の1か所を確認できなかった。平面形は円形または楕円形で,規模は長径77~105cm,



短径62～92cmである。深さは44～80cmで、断面形はU字状または逆台形である。第1～6層は柱の抜き取り痕に相当し、締まりの弱い暗褐色土・黒褐色土である。第7～9層は掘り方の埋土で、暗褐色土と黒褐色土が互層をなしている。P2～P5・P7・P8の底面からは、柱のあたりが確認されている。

土層解説 (各柱穴共通)

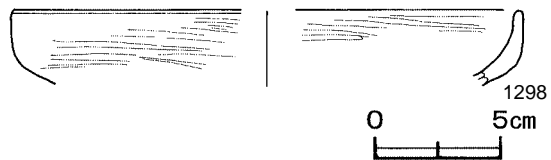
- |                             |                      |
|-----------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量               | 6 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量  |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 7 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量             | 8 黒褐色 ローム粒子少量        |
| 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 ロームブロック微量      |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量             |                      |



第132図 第38号掘立柱建物跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片40点（坏3，甕37），須恵器片11点（坏7，甕4）が各柱穴から出土している。

**所見** 時期は，第132号住居跡を掘り込んでおり，本跡の南西部に位置する第133号住居跡と主軸方向がほぼ一致することから，9世紀後葉と推定される。



第133図 第38号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第38号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第133図）

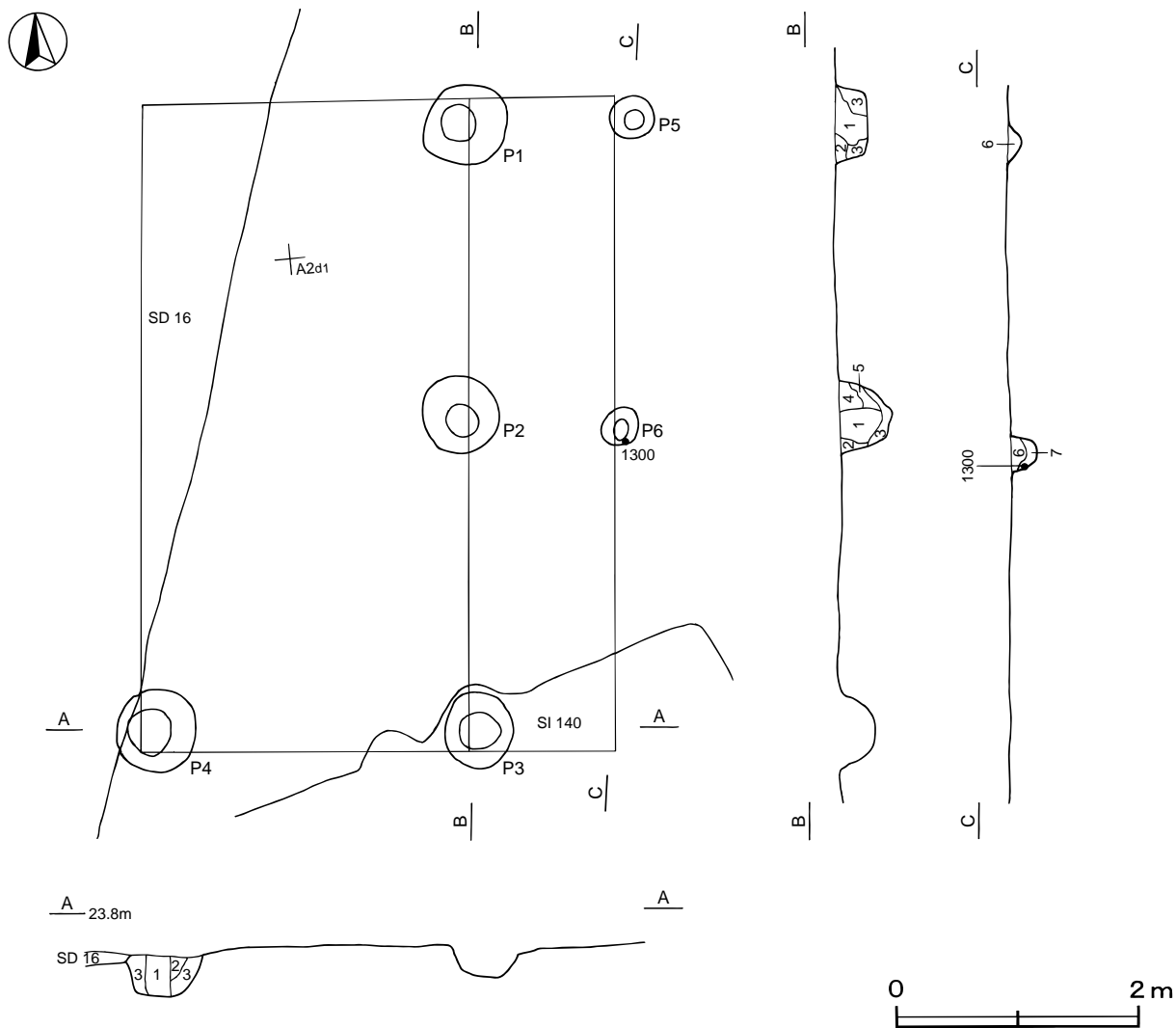
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1298	土師器	坏	[20.0]	(3.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラ磨き	P 6 覆土中	5%

**第39号掘立柱建物跡**（第134・135図）

**位置** 調査区東部のA 2 d1区，標高24mの台地の縁辺部に位置している。

**重複関係** 第140号住居跡を掘り込み，第16号溝に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行2間，梁行1間の身舎の東平に庇が付く側柱建物跡で，桁行方向はN - 6° - Eの南北棟で



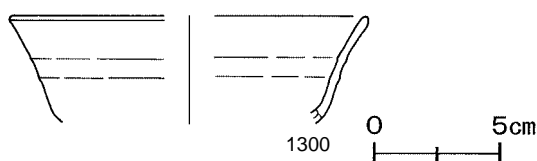
第134図 第39号掘立柱建物跡実測図

ある。身舎の規模は、桁行5.4m，梁行2.7m，面積は14.58㎡である。柱間寸法は2.7m（9尺）で、庇の出は1.6m（4尺）である。

**柱穴** 6か所。西平側北部の2か所は第16号溝に掘り込まれており確認できなかった。平面形は円形または楕円形で、規模は長径32～70cm，短径32～65cmである。深さは20～34cmで、断面形は逆台形である。第1～3・6・7層は柱抜き取り痕に相当し、ロームブロックを含む暗褐色土主体である。第4・5層は掘り方の埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

- |        |                       |       |                  |
|--------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量        |
| 2 暗褐色  | ローム粒子中量，炭化粒子微量        | 6 暗褐色 | ロームブロック多量，炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量      | 7 褐色  | ローム粒子中量，炭化粒子微量   |
| 4 暗褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量        |       |                  |



第135図 第39号掘立柱建物跡出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片11点（甕），須恵器片5点（坏3，甕2）が各柱穴から出土している。1300はP6の覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、重複関係及び西部の第117号住居跡と主軸方向がほぼ一致することから8世紀前葉と推定される。

#### 第39号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第135図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1300	須恵器	坏	[14.0]	(4.2)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面口クロナデ	P6 覆土中層	10%

#### 第43号掘立柱建物跡（第136図）

**位置** 調査区東部のA2h2区，標高24mの台地の縁辺部に位置している。

**重複関係** 第48号掘立柱建物，第394・398・402号土坑に掘り込まれており，第11号ピット群と重複しているが新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物で，桁行方向はN-2°-Wの南北棟である。規模は桁行6.9m，梁行4.2mで，面積は28.98㎡である。柱間寸法は桁行が2.4m（8尺），梁行が2.1m（7尺）で，均等に配置されている。柱筋はほぼ通っている。

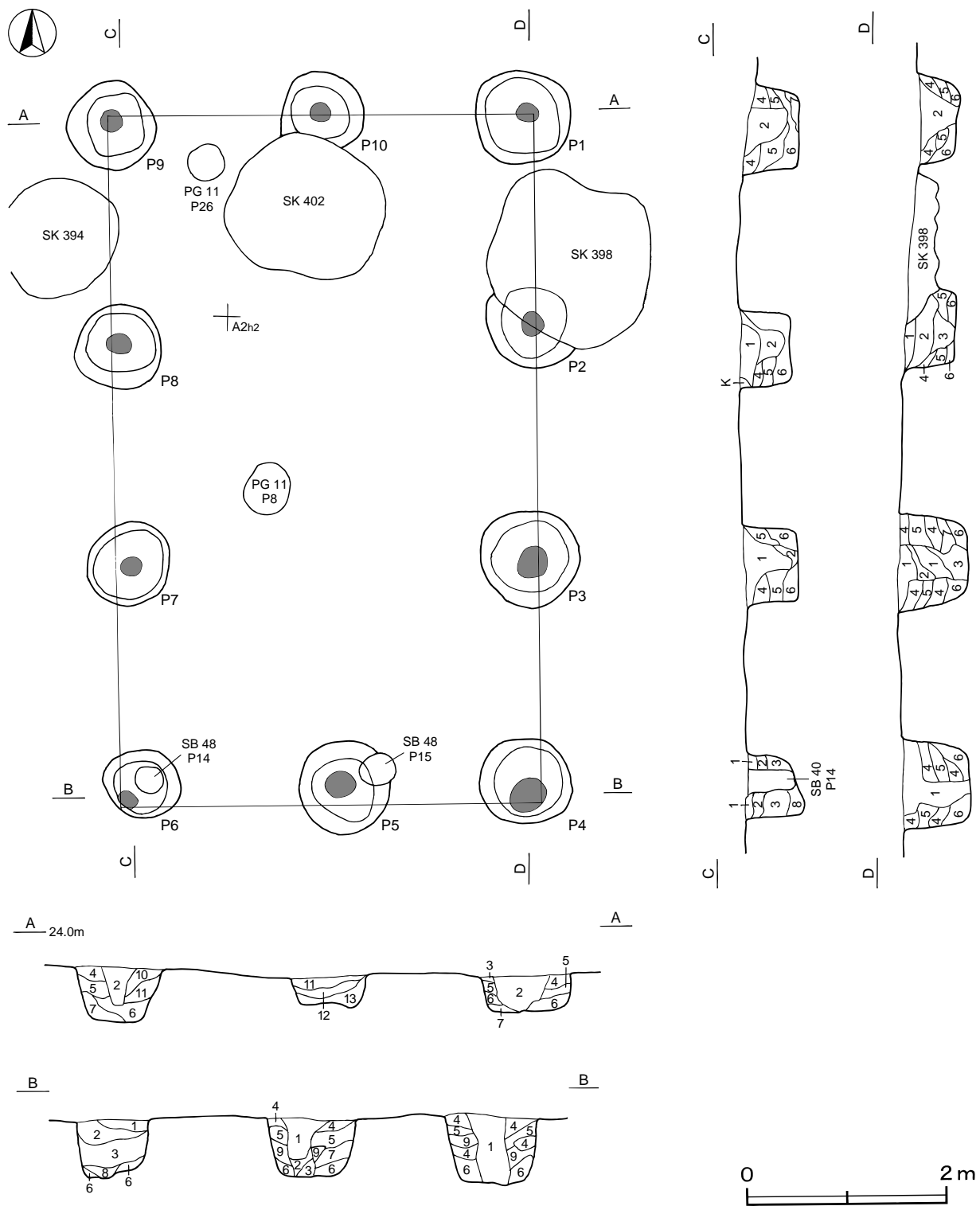
**柱穴** 10か所。平面形は円形で，規模は径75～92cmである。深さは40～72cmで，断面形は逆台形である。第1～3・8層は柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い暗褐色土である。第4～7・9層は掘り方の埋土で，褐色土と暗褐色土が互層をなしている。第10～13層は柱抜き取り後の埋土である。すべての柱穴の底面からは，柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

- |       |                       |        |                       |
|-------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色  | ロームブロック中量，炭化粒子少量      |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量             | 9 暗褐色  | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量        | 10 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量      |
| 4 褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 11 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量        |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量      | 12 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量        |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量      | 13 褐色  | ロームブロック中量，炭化粒子微量      |
| 7 褐色  | ロームブロック多量，炭化粒子微量      |        |                       |

**遺物出土状況** 土師器片40点（坏7，高坏1，甕32），須恵器片9点（坏7，蓋1，不明1）のほかに，流れ込んだ縄文土器片4点も各柱穴から出土しているが，いずれも細片で図示できない。

**所見** 時期は，出土土器及び第133号住居跡と主軸方向がほぼ一致することから9世紀後葉と推定される。



第136図 第43号掘立柱建物跡実測図

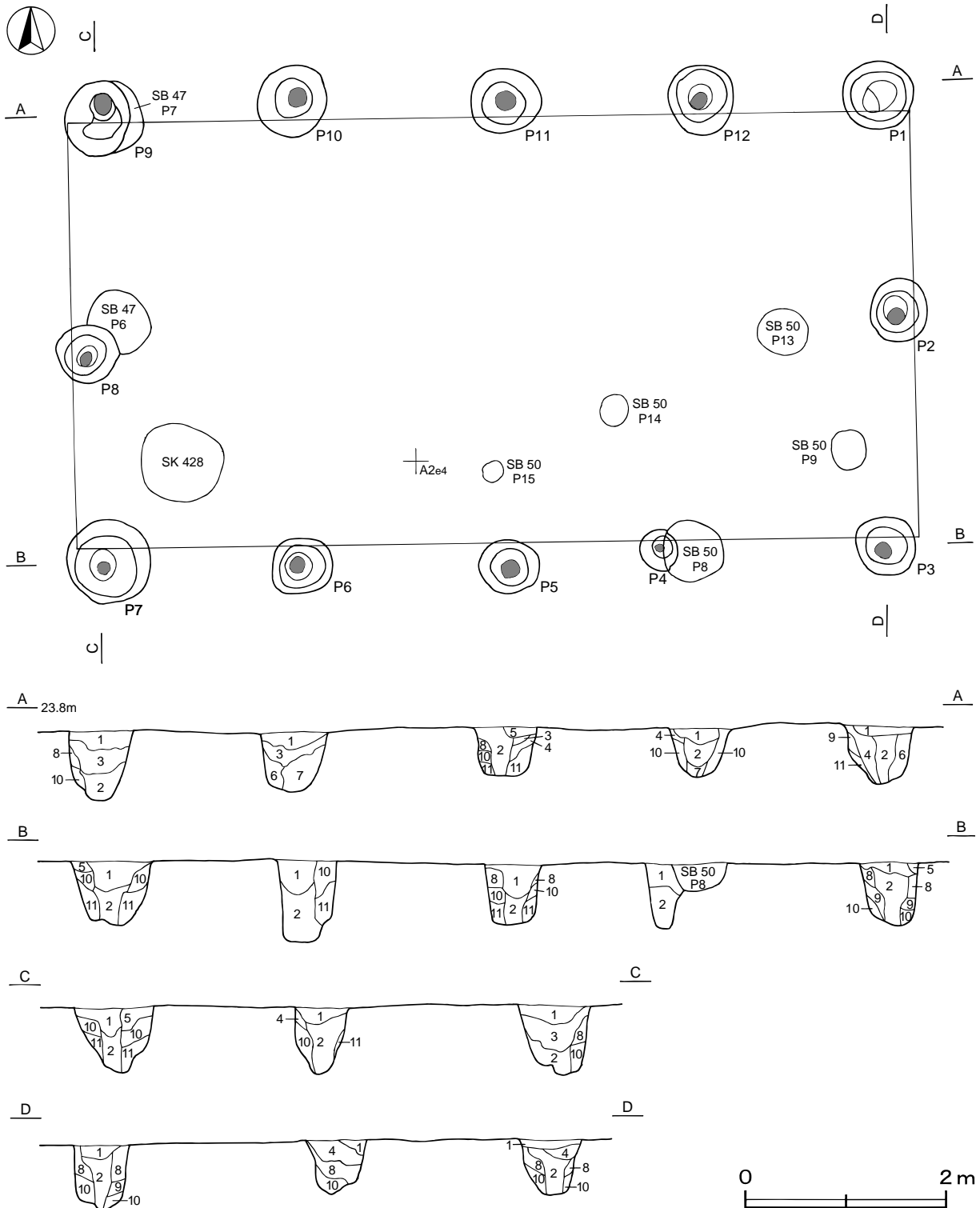
**第45号掘立柱建物跡 (第137図)**

**位置** 調査区東部の A 2 d3区, 標高24mの台地の縁辺部に位置している。

**重複関係** 第47号掘立柱建物跡を掘り込み, 第50号掘立柱建物に掘り込まれており, 第428号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行4間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向N - 89° - Eの東西棟である。規模は，桁行8.4m，梁行4.2mで，面積は35.28㎡である。柱間寸法は，2.1m（7尺）を基調としており，ほぼ均等に配置されている。

**柱穴** 12か所。平面形は円形で，規模は径45～62cmである。深さは47～80cmで，断面形は逆台形である。第1～7層は柱の抜き取り痕に相当し，締まりの弱い暗褐色土が主体である。第8～10層は掘り方の埋土で，褐色



第137図 第45号掘立柱建物跡実測図

土と暗褐色土が叩き締められて互層をなしている。P 2 ~ P 12の底面からは、柱のあたりが確認されている。

土層解説 (各柱穴共通)

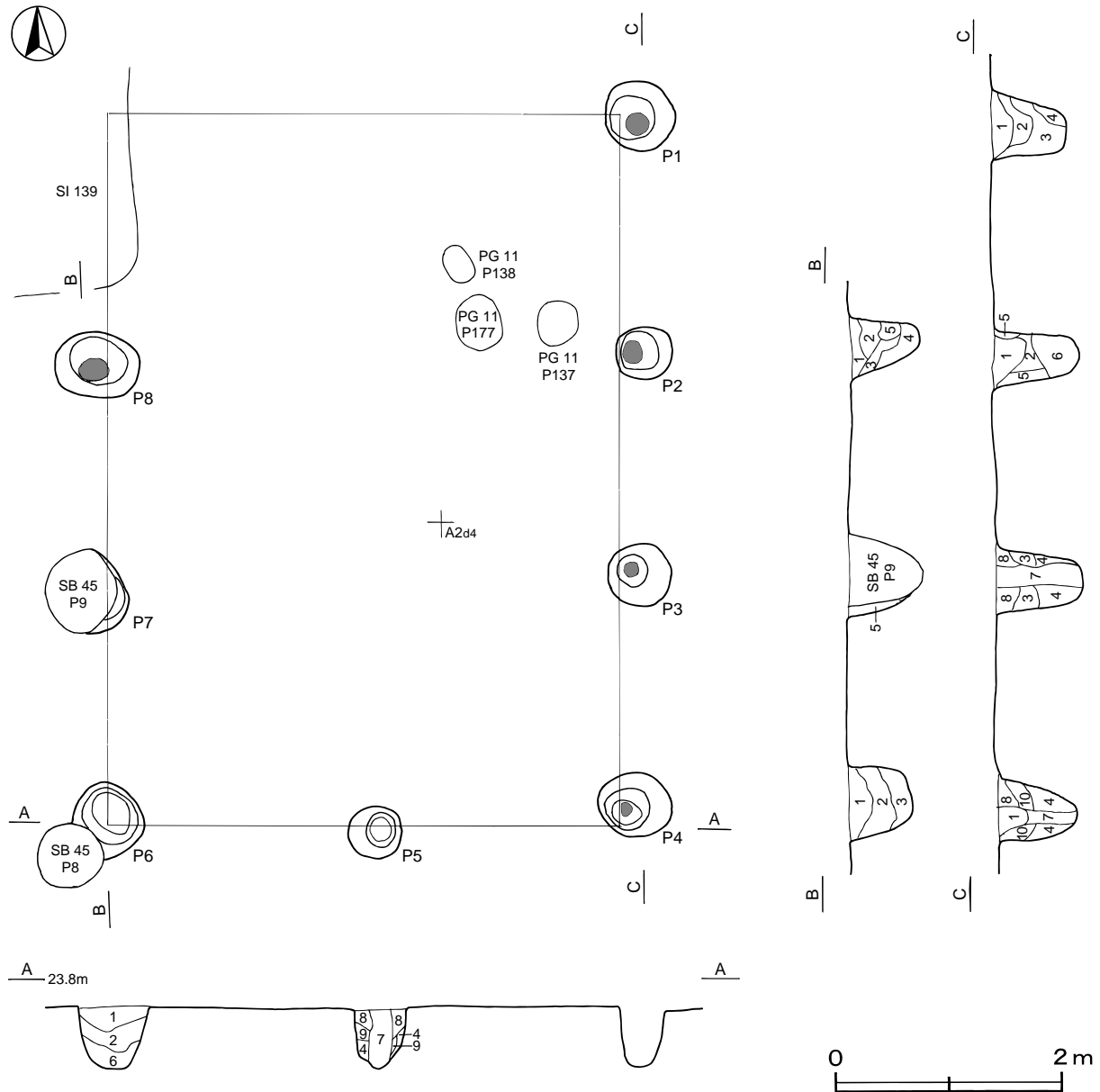
- |       |                   |       |                   |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量    | 7 褐色  | ロームブロック中量         |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量      | 8 暗褐色 | ロームブロック中量         |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック多量         |
| 5 褐色  | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子中量           |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量         |       |                   |

**遺物出土状況** 土師器片10点 (坏1, 甕9), 須恵器片3点 (坏, 蓋, 瓶類) が各柱穴から出土しているが, いずれも細片で図示できない。

**所見** 時期は, 出土土器及び第116A号住居跡と主軸方向が一致することから9世紀中葉と考えられる。

第47号掘立柱建物跡 (第138図)

**位置** 調査区東部のA 2 d3区, 標高24mの台地の縁辺部に位置している。



第138図 第47号掘立柱建物跡実測図

**重複関係** 第139号住居，第45号掘立柱建物に掘り込まれており，第11号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物で，桁行方向N - 1° - Eである。規模は，桁行が7.2m，梁行が4.5mで，面積は32.40㎡である。柱間寸法は2.4m（8尺）を基調としており，均等に配置されている。柱筋はほぼ通っている。

**柱穴** 8か所。北西の2か所を確認できなかった。平面形は円形または楕円形で，規模は長径50～75cm，短径45～60cmである。深さは50～76cmで，断面形はU字状または逆台形である。第1・2・5～7層は柱抜き取り痕に相当する。第3・4・8～10層は掘り方の埋土で，褐色土と暗褐色土が叩き締められた互層をなしている。

P1～P4・P8の底面からは，柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

1 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック中量	7 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子中量	8 暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック少量	9 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
5 褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	10 褐色	ロームブロック多量，炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片15点（甕），須恵器片1点（坏），土製品1点（支脚）が各柱穴から出土しているが，いずれも細片で図示できない。

**所見** 時期は，重複関係及び，第39号掘立柱建物跡と桁行方向が一致することから8世紀前葉と考えられる。

表5 奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 (桁×梁)	規模 (m) (長軸×短軸)	面積 (㎡)	構造	桁立柱間 (m)	梁立柱間 (m)	柱穴平面形	深さ (cm)	主な出土遺物	時期	備考 (旧新)
20	A-2g0	N・9°・E	3×2	6.3×4.2	26.46	側柱	2.1	2.1	円形・楕円形	25～44	土師器 須恵器	8世紀後葉	本跡 SI101
21	A-1h3	N・78°・W	(2)×2	4.8×4.8	23.04	側柱	2.4	2.4	楕円形・ 隅丸方形	29～61	土師器 須恵器	9世紀後葉	SI109,3号鍛冶SK259 本跡 SD9
22	A-1b3	N・7°・E	3×2	7.2×4.8	34.56	側柱	2.4	2.4	円形・隅丸方形・ 隅丸長方形	37～55	土師器 須恵器	8世紀後葉	SI104 本跡
23	A-1f3	N・14°・E	3×2	7.2×4.2	30.24	側柱	2.4	2.1	円形・ 隅丸方形	43～71	土師器 須恵器	9世紀後葉	
24	A-1e6	N・86°・E	3×2	6.3×4.2	26.46	側柱	2.1	2.1	円形・楕円形	26～57	土師器 須恵器	8世紀中葉	SI105・106A・106B 本跡
25	A-1d8	N・87°・W	3×2	6.3×4.2	26.46	側柱	2.1	2.1	円形・楕円形	16～35	土師器 須恵器	9世紀中葉	SI113 本跡
27	A-1h9	-	2×2	4.2×4.2	17.64	側柱	2.4	2.4	円形・楕円形	35～51	土師器 須恵器	8世紀中葉	本跡 SI118
28	A-1h1	N・2°・E	3×2	7.2×4.8	34.56	側柱	2.4	2.4	円形・楕円形	40～53	土師器・須恵器 灰釉陶器	9世紀中葉	
31	A-2i0	N・74°・W	[3×2]	-×4.2	-	-	2.1	-	円形・楕円形	40～58	土師器 須恵器	9世紀後葉	
38	A-2i7	N・5°・W	3×2	6.3×4.8	30.24	側柱	2.1	2.4	円形・楕円形	44～80	土師器 須恵器	9世紀後葉	SI132,SK430 本跡 SE4
39	A-2d1	N・6°・E	2×1	5.4×2.7	14.58	側柱	2.7	2.7	円形・楕円形	20～34	土師器 須恵器	8世紀前葉	SI140 本跡 SD16
43	A-2h2	N・2°・W	3×2	6.9×4.2	28.98	側柱	2.4	2.1	円形	40～72	土師器 須恵器	9世紀後葉	本跡 SB48,SK394・398・ 402
45	A-2d3	N・89°・E	4×2	8.4×4.2	35.28	側柱	2.1	2.1	円形	47～80	土師器 須恵器	9世紀中葉	SB47 本跡 SB50
47	A-2d3	N・1°・E	3×2	7.2×4.5	32.4	側柱	2.4	2.4	円形・楕円形	50～76	土師器・須恵器・ 土製品	8世紀前葉	本跡 SI139,SB45

### (3) 鍛冶工房跡

#### 第2号鍛冶工房跡（第139～142図）

**位置** 調査区中央部のA・2a8区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第279号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 北部が調査区域外に延びている。東西軸は3.76mで，南北軸は1.48mだけが確認されている。平

面形は方形もしくは長方形と推定され、主軸方向はN - 88° - Eである。壁高は22~25cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で、あまり締まりがない。全面が貼床で、ロームブロックを含む褐色土（第5層）で埋土している。

掘り方は、コーナー部付近を深く掘り込んでおり、南壁際の中央部をステップ状に掘り残している。

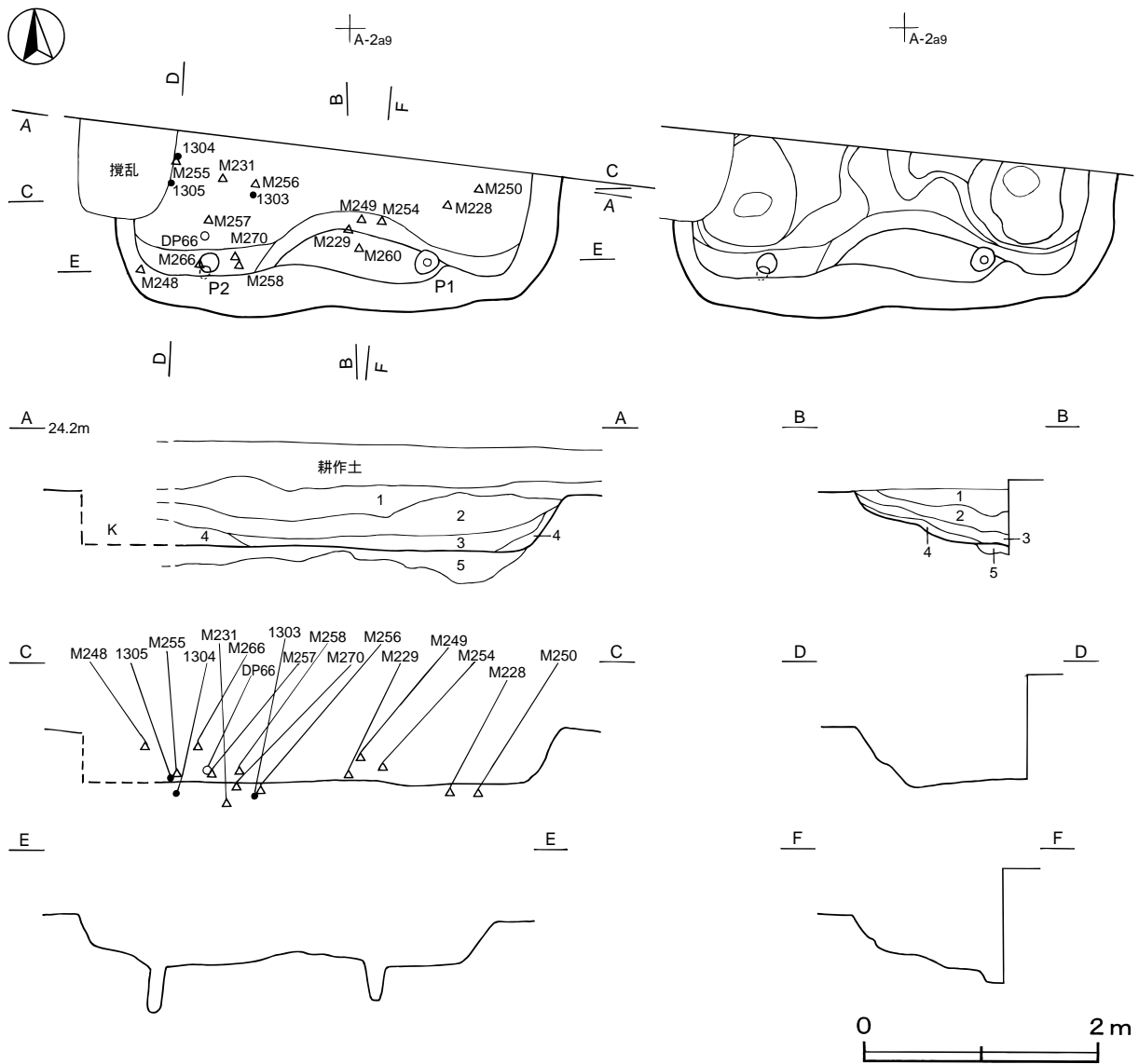
**ピット** 2か所。深さ23cmで、南壁際のステップの両脇に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 5層に分層される。第2~5層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                       |       |                        |
|-------|-----------------------|-------|------------------------|
| 1 黒色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量     | 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 褐色  | ロームブロック中量              |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量    |       |                        |

**遺物出土状況** 土師器片59点（坏2，甕57），須恵器片57点（坏38，瓶類3，甕16），土製品21点（羽口），鉄製品8点（鋸1，釘1，不明6），銅製品1点（丸鞆），椀状滓115点（7,174g），鉄滓1,266点（13,115g），粒



第139図 第2号鍛冶工房跡実測図

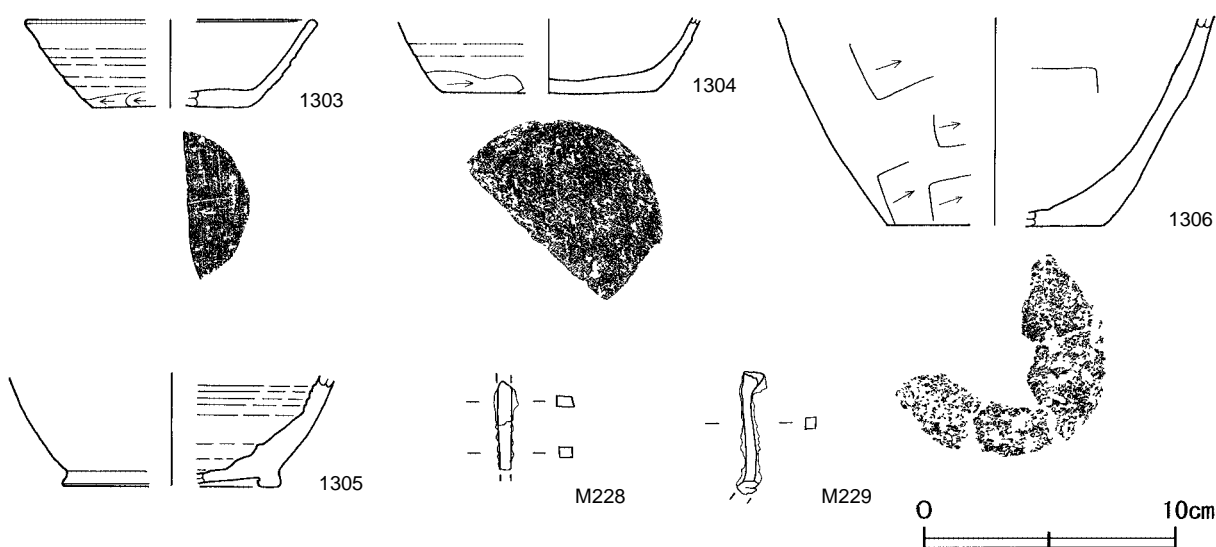


状滓60.7g, 鍛造剥片280.0gのほかに, 混入した陶器片4点(碗1, 皿1, 甕2), 瓦質土器片1点(鉢類), 銅製品1点(煙管)も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は, 土師器甕1点, 須恵器坏6点, 瓶類1点, 甕1点である。1303・1304は貼床の覆土中から出土している。覆土上層からは, 椀状滓32点(1,174g), 鉄滓111点(1,472g), 粒状滓0.6gが出土している。覆土中層からは, 椀状滓48点(2,231g), 鉄滓429点(3,001g), 粒状滓1.2gが出土している。覆土下層からは, 椀状滓29点(2,274g), 鉄滓341点(3,460g), 粒状滓0.8gが出土している。床面及び掘り方土層からは, 椀状滓3点(597g), 粒状滓0.8g, P1からは, 鉄滓12点(19g), 粒状滓7.2g, 鍛造剥片1.0g, P2からは, 鉄滓14点(100g), 粒状滓0.1gが出土している。覆土中層から床面にかけたの覆土を孔径2mmの篩で選別したところ, 径2~5mmの鉄滓2,050g, 粒状滓50g(M243), 鍛造剥片279g(M247)が確認されている。

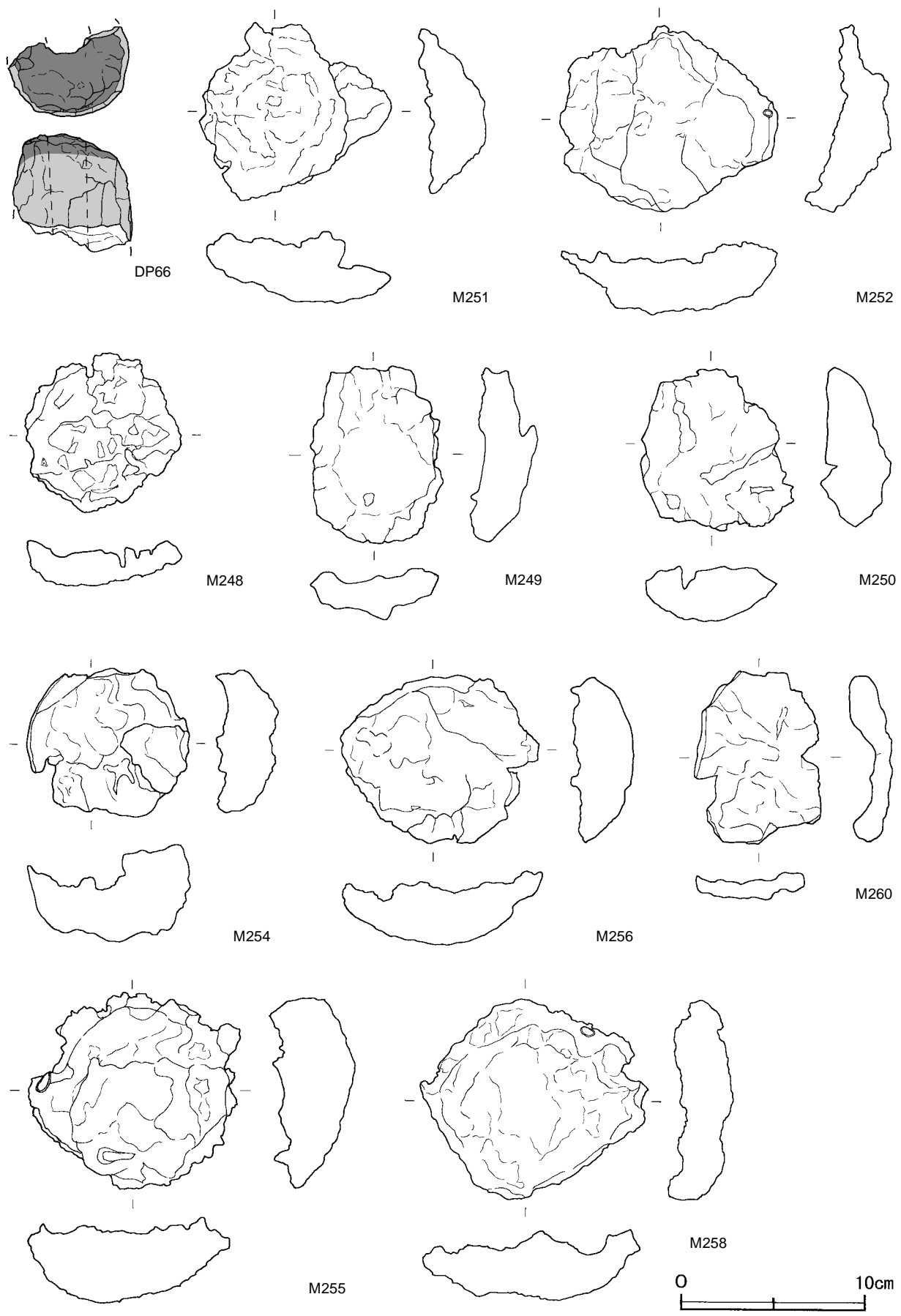
**所見** 覆土上層から床面にかけて多くの椀状滓, 鉄滓, 粒状滓, 鍛造剥片及び鞆の羽口が出土しており, 鍛冶工房として使用されていたと推定される。南壁際の地山をステップ状に掘り残す構造は, 第1号鍛冶工房跡に類似しており, 調査区域外に鍛冶炉を付設していたと想定される。時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。

## 第2号鍛冶工房跡鉄滓類出土状況

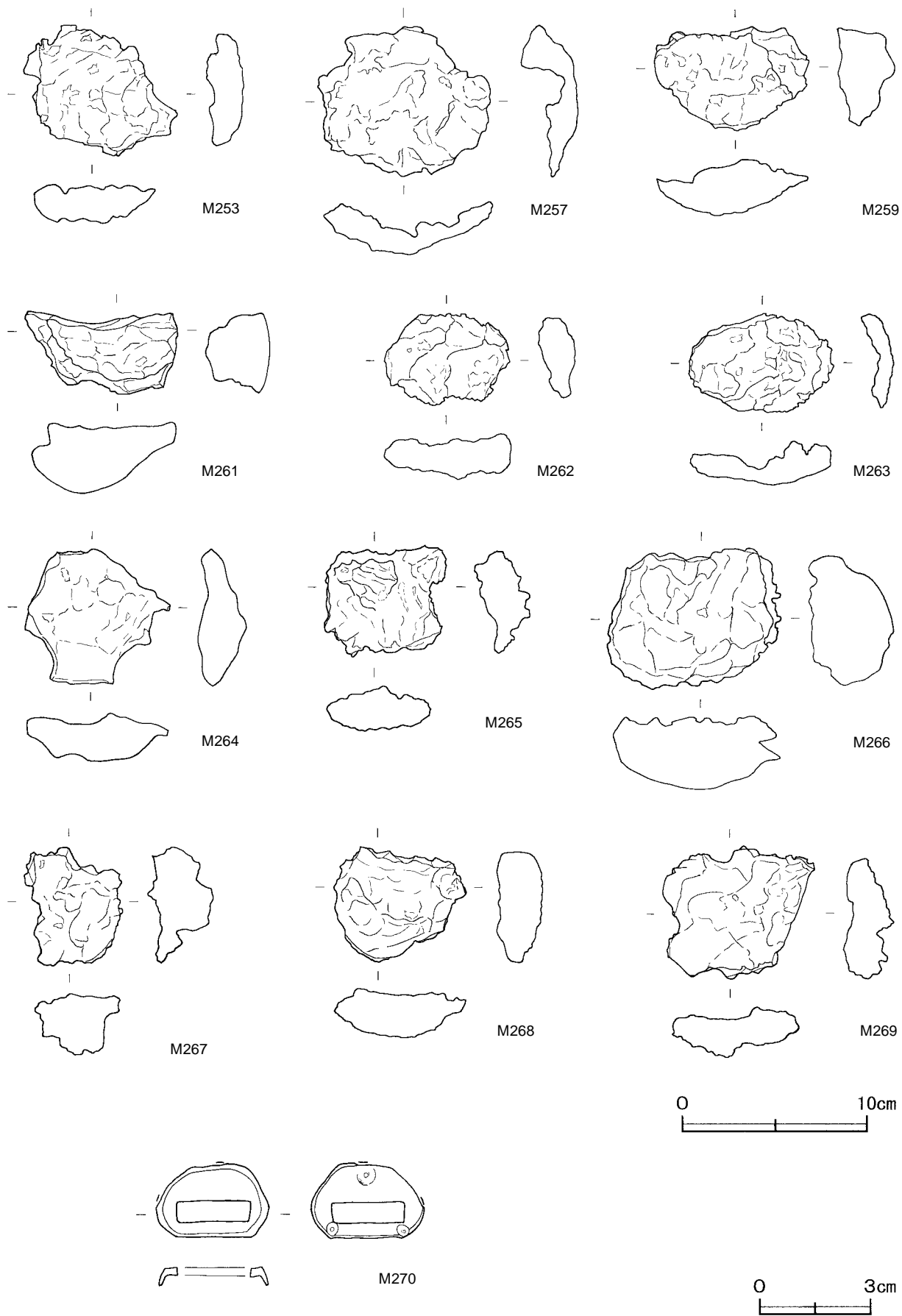
	層位	椀状滓		鉄滓						粒状滓	鍛造剥片	軽い滓	
				5 cm以上		3 ~ 5 cm		3 cm以下					
		点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	重量(g)	重量(g)	点数	重量(g)
東部	上層	21	640	1	90	4	245	55	394	0	0	1	9
	中層	37	1272	0	0	12	302	85	521	1.2	0	0	0
	下層	2	226	1	88	9	412	55	892	0.4	0	25	252
	床面~掘り方	1	223	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西部	上層	11	534	2	234	18	409	31	100	0.6	0	0	0
	中層	11	959	1	105	48	917	283	1156	0	0	6	159
	下層	27	2048	3	228	41	844	232	996	0.4	0	33	252
	床面~掘り方	2	374	0	0	0	0	0	0	0.8	0	0	0
P1	覆土中	0	0	0	0	0	0	12	19	7.2	1	0	0
P2	覆土中	0	0	0	0	0	0	14	100	0.1	0	0	0



第140図 第2号鍛冶工房跡出土遺物実測図(1)



第141图 第2号鍛冶工房跡出土遺物実測図(2)



第142図 第2号鍛冶工房跡出土遺物実測図(3)

## 第2号鍛冶工房跡出土遺物観察表 (第140～142図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1303	須恵器	坏	[11.4]	3.5	[6.1]	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ちヘラ削り	貼床覆土中	30%
1304	須恵器	坏	-	(3.0)	[8.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	貼床覆土中	30%
1305	須恵器	瓶類	-	(4.3)	[8.6]	長石・石英	黄灰	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ削り 後高台貼り付け	覆土下層	10%
1306	土師器	甕	-	(8.2)	[8.6]	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	覆土上層～下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP66	鞆羽口	(6.4)	(6.6)	-	(124.4)	土製品	外面ガラス状滓付着	覆土下層	
M228	鎌カ	(3.5)	0.6	0.5	(2.58)	鉄	鎌身・茎部欠損	貼床覆土中	
M229	釘	(5.9)	0.6	0.5	(3.34)	鉄	先端部欠損	床面	
M248	椀状滓	8.6	8.5	2.4	178	鉄	着磁 暗褐色	覆土上層	
M249	椀状滓	9.6	7.2	3.7	246	鉄	着磁 灰褐色	覆土中層	PL50
M250	椀状滓	8.8	8.4	3.8	223	鉄	着磁 赤褐色 炉壁付着	覆土下層	PL50
M251	椀状滓	9.6	10.4	3.9	319	鉄	着磁 褐色	覆土中	PL50
M252	椀状滓	11.9	10.1	4.7	460	鉄	着磁 にぶい赤褐色	覆土中	PL50
M253	椀状滓	7.1	8.2	2.1	119	鉄	着磁 にぶい赤褐色	覆土中	
M254	椀状滓	7.7	8.7	5.2	302	鉄	着磁 にぶい赤褐色 側面に炉壁付着	覆土下層	PL50
M255	椀状滓	10.2	11.5	4.6	490	鉄	着磁 にぶい赤褐色	覆土下層	PL50
M256	椀状滓	8.9	10.6	4.0	374	鉄	着磁 赤褐色 炉壁付着	床面	PL50
M257	椀状滓	8.2	9.2	3.1	159	鉄	着磁 褐灰色	覆土下層	
M258	椀状滓	10.8	12.4	3.8	406	鉄	着磁 赤褐色 炉壁付着	覆土下層	PL50
M259	椀状滓	5.6	8.5	3.2	173	鉄	着磁 にぶい赤褐色	覆土中	
M260	椀状滓	9.2	6.7	2.3	86	鉄	着磁 暗灰色 炉壁付着	覆土下層	PL50
M261	椀状滓	4.5	8.2	3.8	145	鉄	褐灰色 炉壁付着	覆土上層	
M262	椀状滓	6.3	5.0	2.5	85	鉄	着磁 にぶい赤褐色	覆土上層	
M263	椀状滓	7.9	5.3	2.4	100	鉄	暗赤褐色	覆土下層	
M264	椀状滓	7.4	7.8	2.7	126	鉄	着磁 極暗赤褐色	覆土下層	
M265	椀状滓	6.6	6.1	3.0	106	鉄	着磁 暗赤褐色	覆土中層	
M266	椀状滓	7.5	9.4	4.2	368	鉄	着磁 にぶい赤褐色	覆土上層	
M267	鉄滓	6.4	5.3	3.3	117	鉄	着磁 にぶい赤褐色	覆土下層	
M268	鉄滓	5.9	7.0	2.5	135	鉄	着磁 暗赤褐色	覆土下層	
M269	鉄滓	8.2	7.2	2.7	152	鉄	着磁 赤褐色	覆土下層	
M270	丸靱	2.0	3.0	0.5	(4.20)	銅	鋳3か所	覆土下層	PL49

## 第3号鍛冶工房跡 (第143～145図)

**位置** 調査区中央部のA・1h4区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第21・32号掘立柱建物、第9号溝、第259号土坑に掘り込まれている。

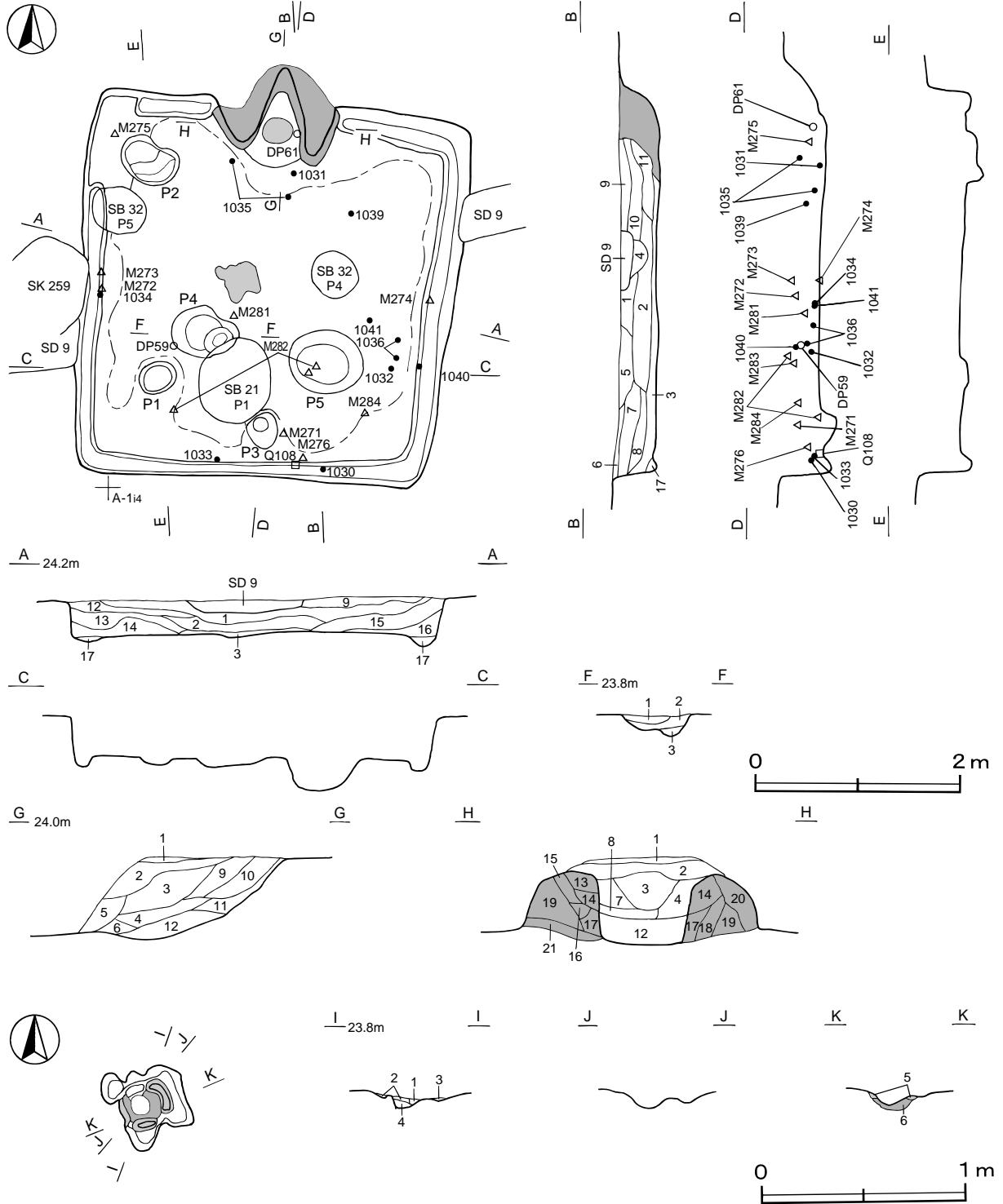
**規模と形状** 一辺3.65mの方形で、主軸方向はN - 5° - Eである。壁高は35～38cmで、直立している。

**床** 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が北西コーナー部を除いて周回している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで105cm、袖部幅126cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの平坦面に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめて使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれており、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- |          |                          |         |                                 |
|----------|--------------------------|---------|---------------------------------|
| 1 黒褐色    | 炭化物・ローム粒子少量              | 13 灰褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量    |
| 2 にぶい赤褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量     | 14 褐色   | ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量          |
| 3 暗赤褐色   | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量      | 15 褐色   | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量      |
| 4 極暗赤褐色  | 焼土粒子中量                   | 16 褐色   | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量           |
| 5 暗赤褐色   | 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量         | 17 灰赤色  | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量                 |
| 6 暗赤褐色   | 焼土ブロック中量                 | 18 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量         |
| 7 暗赤褐色   | ロームブロック中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 19 灰褐色  | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量          |
| 8 極暗赤褐色  | 焼土粒子多量                   | 20 灰褐色  | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 9 灰褐色    | 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子少量       | 21 灰褐色  | ロームブロック・砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量        |
| 10 暗赤褐色  | 焼土粒子多量, 炭化粒子少量           |         |                                 |
| 11 極暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量         |         |                                 |
| 12 暗赤褐色  | 焼土粒子多量, 炭化粒子少量           |         |                                 |



第143図 第3号鍛冶工房跡実測図

**鍛冶炉** 中央部のやや東寄りに位置している。長径26cm，短径23cmの楕円形である。炉床部は深さ10cmで，地山を皿状に掘りくぼめた上に粘土を貼り付けており，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。炉の周縁部は幅3～6cmの範囲で粘土が積み上げられ，高さは1～2cmで，北部・南東部・南西部に溝状のくぼみが確認されている。南東・南西部の溝は幅3cmほどで，規模から羽口の設置位置であったと推定される。北部の溝は幅12cmで，性格不明である。

**鍛冶炉土層解説**

- |        |                |        |                        |
|--------|----------------|--------|------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量   | 4 赤褐色  | 焼土粒子中量，ローム粒子少量         |
| 2 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子少量   | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子多量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量   |
| 3 褐色   | ローム粒子中量，炭化粒子少量 | 6 灰赤色  | 焼土粒子多量，砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量 |

**ピット** 5か所。P1・P2は深さ6cm・18cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は深さ17cmで，南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4は深さ19cmで，鍛冶炉の南西部に位置し，覆土中から粒状滓や鍛造剥片が出土していることから，鍛冶炉に伴うピットの可能性が考えられる。P5は深さ33cmで，性格不明である。

**P4土層解説**

- |       |                 |      |           |
|-------|-----------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色  | ロームブロック中量       |      |           |

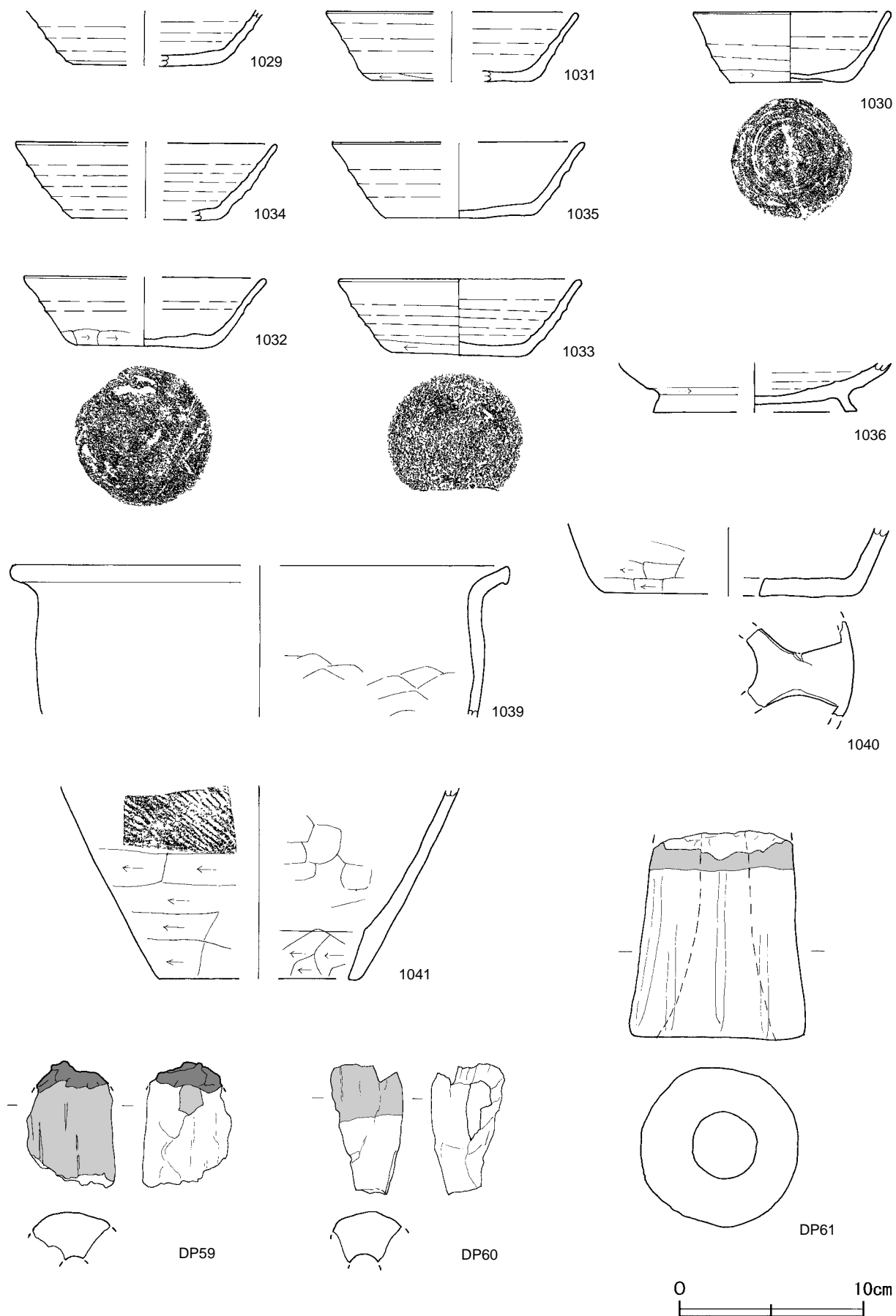
**覆土** 17層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

**土層解説**

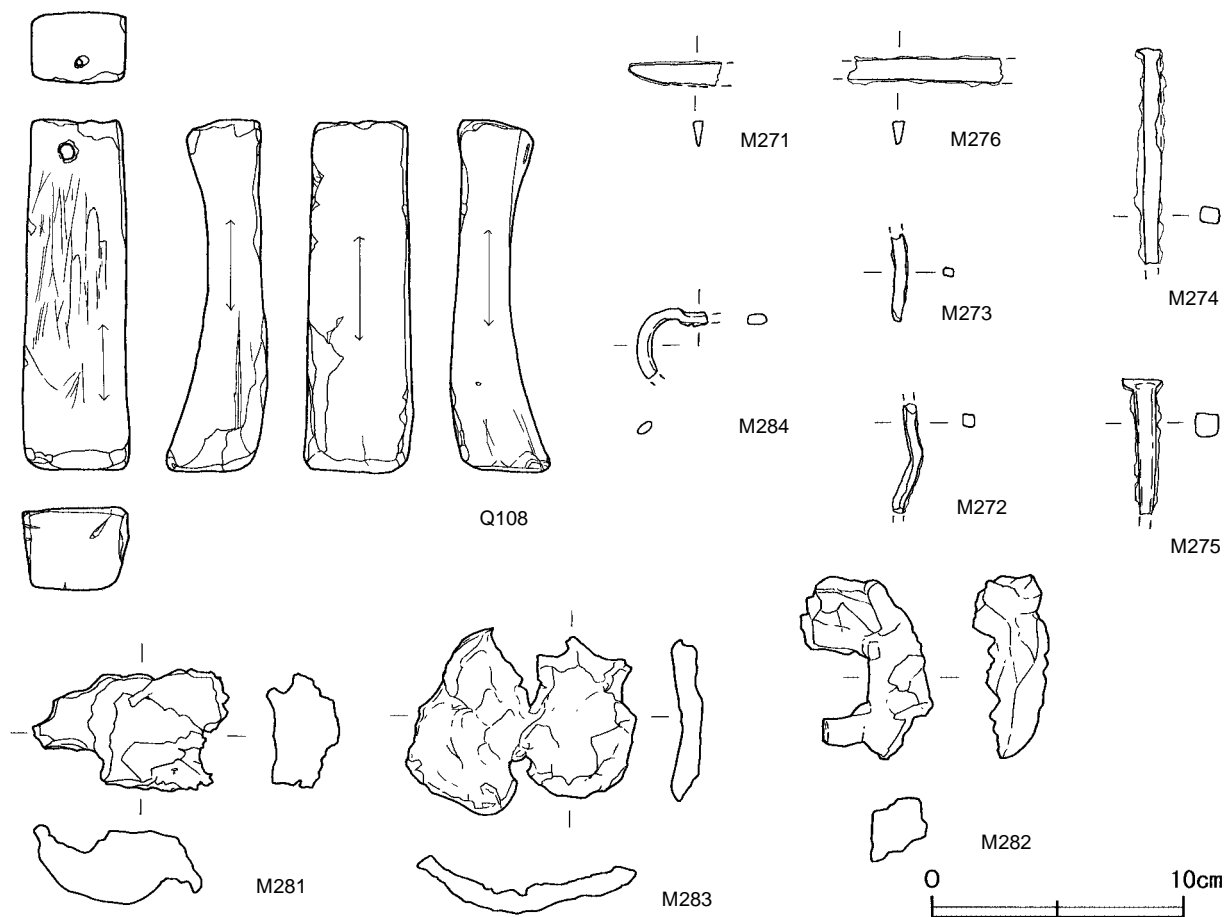
- |       |                    |        |                                |
|-------|--------------------|--------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量     | 10 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化材・焼土粒子少量           |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子少量   | 11 黒褐色 | ロームブロック中量，砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量     | 12 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量                 |
| 4 褐色  | ロームブロック中量          | 13 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量             |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量          | 14 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量            |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量          | 15 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量          |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子少量   | 16 褐色  | ローム粒子中量，焼土粒子少量                 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック少量          | 17 褐色  | ローム粒子中量                        |
| 9 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量 |        |                                |

**遺物出土状況** 土師器片140点（坏13，鉢3，甕124），須恵器片106点（坏49，高台付坏3，蓋1，甕3，鉢3，甕47），土製品3点（鞆羽口），石器1点（砥石），鉄製品6点（刀子2，釘4），銅製品1点（鉸具），椀状滓26点（688g），鉄滓13点（54g），粒状滓0.5g，鍛造剥片3.2gのほか，流入した石器1点（石核）も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は土師器鉢1点，須恵器坏13点，高台付坏1点，鉢1点，甕2点である。1033は南壁際の覆土下層から一括して出土している。鍛冶炉周辺の覆土からは粒状滓が0.2g出土している。P4の覆土中からは，径5mm以下の鉄滓6.2g，粒状滓0.3g，鍛造剥片3.2gが出土している。

**所見** 中央部に鍛冶炉とみられる炉が確認されており，炉周辺及びP4覆土中から粒状滓や鍛造剥片が出土していることから鍛冶工房として使用されていたと考えられる。鍛冶炉が床面より下層で確認されていることと，鞆の羽口が甕の支脚に転用されていたことから，鍛冶炉を廃絶した後も甕の使用は続いており，住居として使用されていたと推測される。時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第144図 第3号鍛冶工房跡出土遺物実測図(1)



第145図 第3号鍛冶工房跡出土遺物実測図(2)

第3号鍛冶工房跡出土遺物観察表(第144・145図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1029	須恵器	坏	-	(3.0)	[8.5]	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部手持ちへら削り	覆土上層～下層	30%
1030	須恵器	坏	10.5	3.8	6.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端回転へら削り 底部回転へら切り後回転へら削り	覆土下層	90% PL34
1031	須恵器	坏	[13.4]	3.8	[8.8]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちへら削り 底部回転へら切り後回転へら削り	床面	20%
1032	須恵器	坏	[13.0]	3.7	7.5	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部ロクロナデ 外面下端手持ちへら削り 底部回転へら切り後一方向の手持ちへら削り	覆土下層	40%
1033	須恵器	坏	13.1	4.2	7.2	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端～底部回転へら削り	覆土下層	60% PL34
1034	須恵器	坏	[14.0]	4.1	[8.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部手持ちへら削り	覆土下層	25%
1035	須恵器	坏	[13.6]	4.1	8.0	長石・石英・雲母・黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部二方向の手持ちへら削り	覆土中層～下層	50% PL34
1036	須恵器	高台付坏	-	(2.7)	[11.0]	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転へら削り 後高台貼り付け	覆土下層	20%
1039	土師器	鉢	[26.8]	(8.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面へらナデ	覆土下層	5%
1040	須恵器	甌	-	(3.8)	[14.0]	長石・雲母	灰白	普通	外面下端へら削り	覆土上層	5%
1041	須恵器	甌	-	(10.3)	[10.6]	長石・石英	褐灰	普通	体部外面斜位の平行叩き目 下端へら削り 内面当て具痕 下端へら削り	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP59	鞆羽口	(6.8)	(4.7)	-	(65.0)	土製品	先端部ガラス質の滓付着	覆土上層	PL46
DP60	鞆羽口	(7.1)	(4.0)	-	(48.3)	土製品	先端部ガラス質の滓付着	覆土中層	
DP61	鞆羽口	(11.1)	9.5	-	(695.0)	土製品	先端部ガラス質の滓付着	甕覆土中層	支脚転用 PL46
Q108	砥石	13.9	4.3	3.3	303.0	砂岩	砥面4面 2面からの穿孔(未通)	覆土下層	PL47
M271	刀子	(3.2)	0.9	0.3	(1.96)	鉄	基部欠損	覆土中層	



番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M272	釘カ	(4.3)	0.4	0.4	(2.30)	鉄	断面方形 頭部欠損	覆土上層	
M273	釘カ	(3.4)	0.7	0.3	(1.86)	鉄	断面長方形 頭部欠損	覆土上層	
M274	釘	(8.5)	0.6	0.6	(22.4)	鉄	断面方形 脚尻欠損	覆土下層	PL48
M275	釘	(5.5)	0.9	0.9	(18.0)	鉄	断面方形 脚尻欠損	覆土下層	PL48
M276	刀子	(5.85)	0.9	0.4	(5.85)	鉄	刃部・茎部欠損	覆土中層	PL48
M281	椀状滓	7.7	4.8	2.9	119	鉄		覆土中層	PL50
M282	鉄滓	7.2	5.4	3.1	98	鉄		覆土上層～下層	PL50
M283	椀状滓	7.4	9.0	2.1	57	鉄		覆土上層	PL50
M284	銚具	(2.8)	(2.8)	0.4	(7.95)	銅		覆土中層	PL49

表6 奈良・平安時代鍛冶工房跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	竈	鍛冶炉				
2	A-2a8	N-88°E	[方形・ 長方形]	3.76 x (1.48)	22~25	平坦	-	-	2	-	-	-	人為	土師器・須恵器 鉄滓類 銅製品	8世紀中葉	本跡 SK279
3	A-1h4	N-5°E	方形	3.65 x 3.65	35~38	平坦	ほぼ 全周	2	1	2	1	1	人為	土師器・須恵器 土製品・鉄滓類	8世紀後葉	本跡 SB21・ 32SD9SK259

#### (4) 大形竪穴状遺構

##### 第3号大形竪穴状遺構 (第146~148図)

**位置** 調査区中央部のA-2h4区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と構造** 南部が調査区域外に延びているため，東西径3.40m，南北径は1.55mだけが確認されている。平面形は円形もしくは楕円形と推測され，深さは2.17mである。底面はほぼ平坦で，規模は東西径1.75m，南北径は0.75mで，形状は円形もしくは楕円形と推測される。底面の中央部には，円形もしくは楕円形とみられる掘り込みが確認されており，東西径0.78m，南北径0.42m，深さ54cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

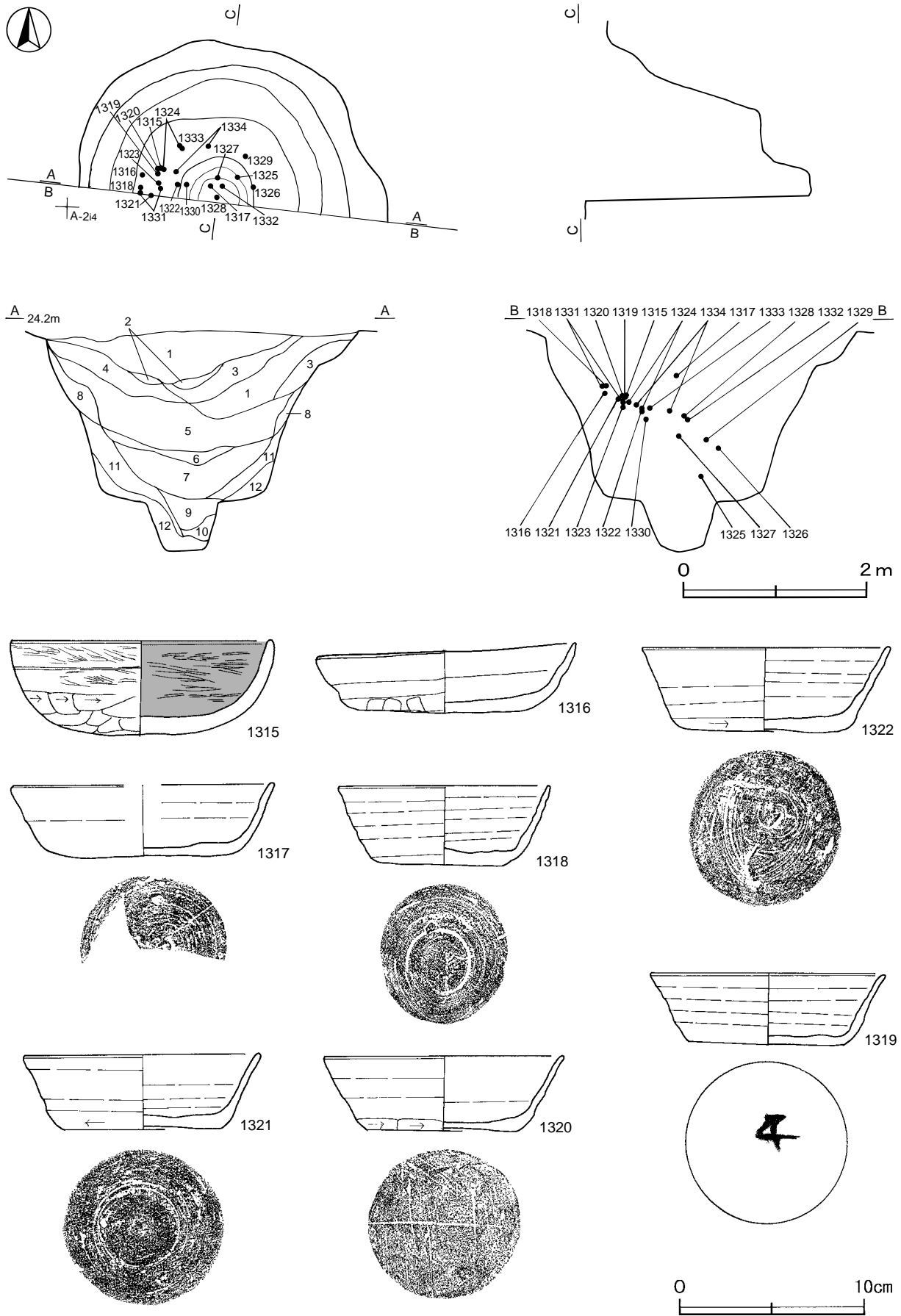
**覆土** 12層に分層される。第1~7層は締まりの弱いブロック状の堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。第8~12層はローム粒子を含むレンズ状の堆積状況を示しており，自然堆積と考えられる。

##### 土層解説

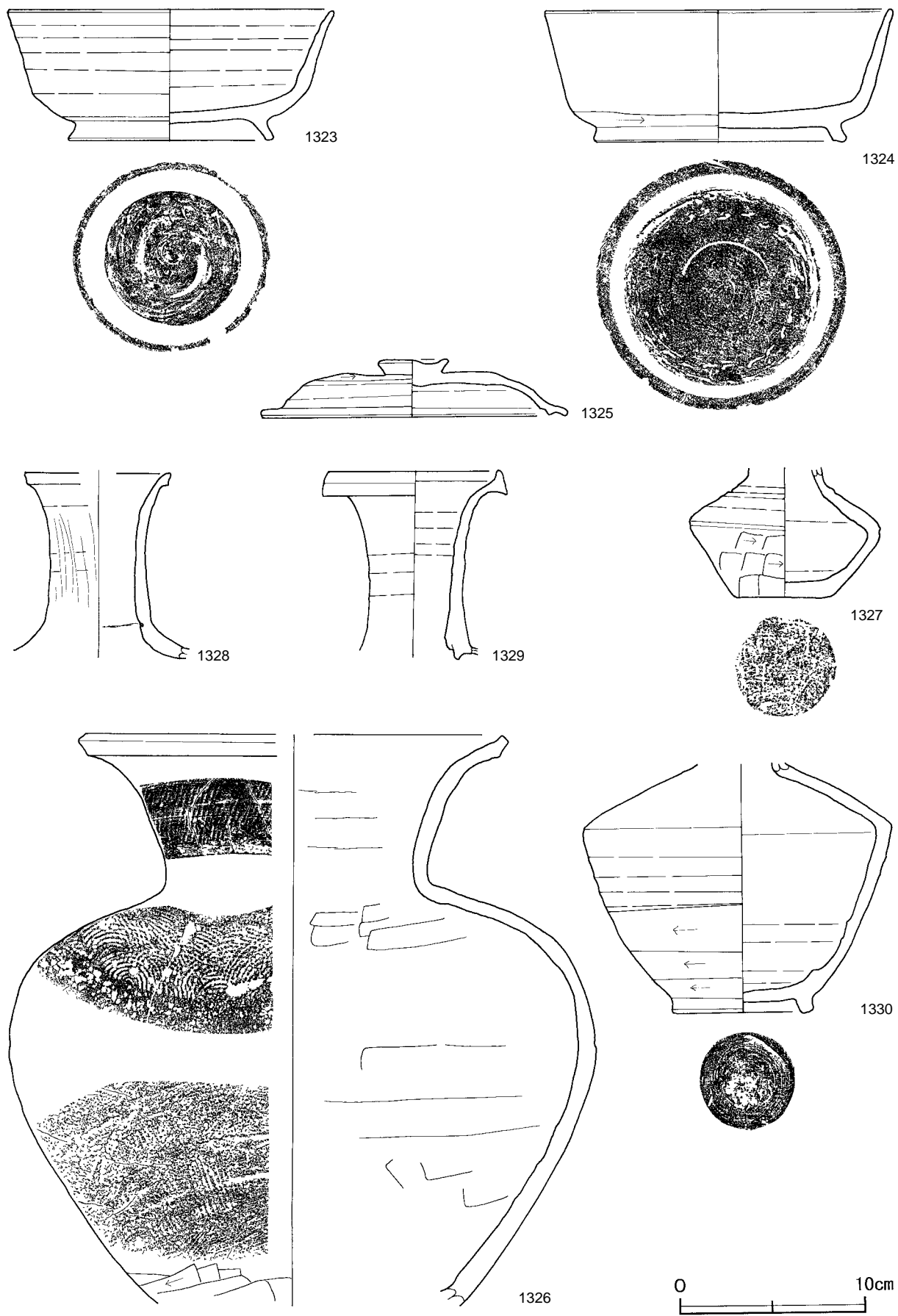
1	黒褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量	7	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量，締まり弱
2	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化物少量，締まり弱	8	褐色	ローム粒子少量
3	暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量	9	黒褐色	ローム粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量，締まり弱	10	暗褐色	ローム粒子少量
5	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量，締まり弱	11	褐色	ローム粒子多量
6	褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量，締まり弱	12	暗褐色	ローム粒子中量

**遺物出土状況** 土師器片142点 (坏13，甑3，甕126)，須恵器片42点 (坏16，高台付坏3，蓋8，長頸瓶4，壺類1，甑1，甕9)，土製品2点 (鞆羽口)，鉄滓1点が出土している。1315・1316・1318~1324・1326~1334は中央部から西寄りの第5層中からそれぞれ出土している。1315・1319・1320は西部から逆位で重なって出土している。1326は逆位，1330は斜位，1332は横位でそれぞれ中央部から出土している。1325は中央部の第7層中から出土している。

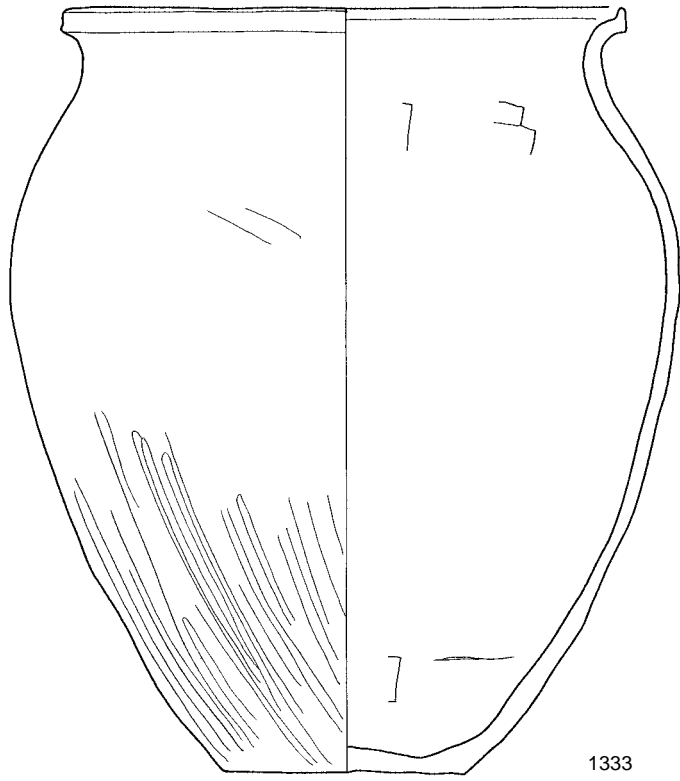
**所見** 第1・2号大形竪穴状遺構と異なり台地の平坦部に位置しているが，中央部に深い掘り込みのある形状から氷室状遺構と推測される。第5層中から集中して出土した土器は，いずれも完存率が高いことから一括して投棄されたものと考えられる。時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



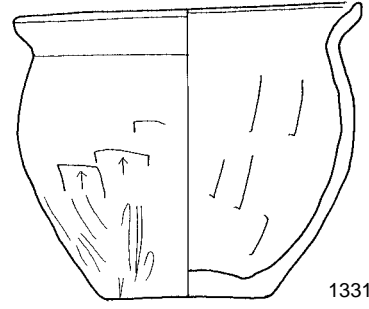
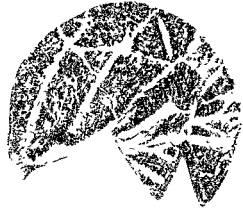
第146図 第3号大形竖穴状遺構・出土遺物実測図



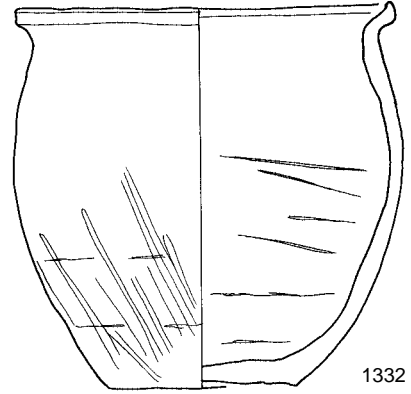
第147図 第3号大形竖穴状遺構出土遺物実測図(1)



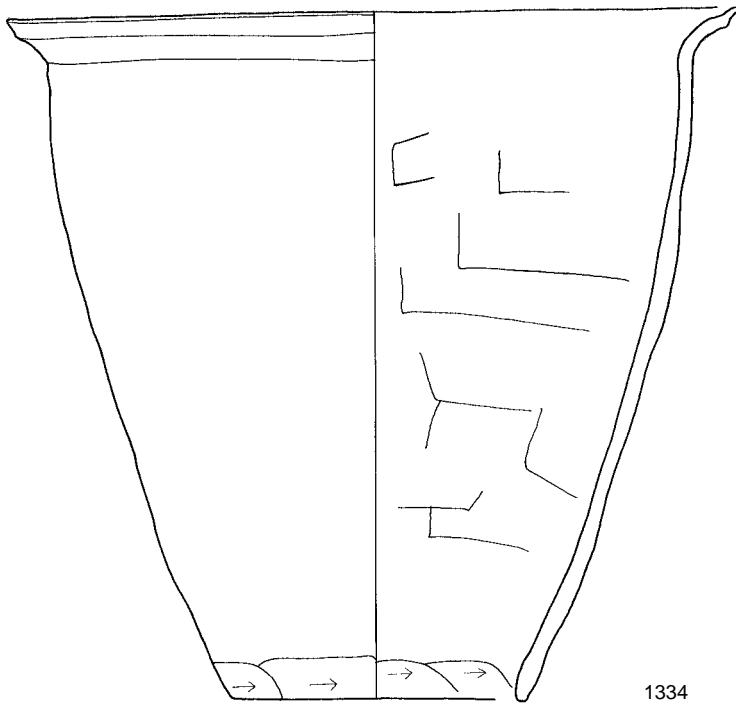
1333



1331



1332



1334



第148图 第3号大形竖穴状遺構出土遺物実測図(2)

### 第3号大形竪穴状遺構出土遺物観察表 (第146～148図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1315	土師器	坏	13.8	5.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り内面ヘラ磨き	覆土中層	95% PL31
1316	土師器	坏	14.0	3.6	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り内面ナデ	覆土中層	95% PL31
1317	須恵器	坏	[14.0]	3.9	8.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部内・外面口ロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土上層	35% PL34
1318	須恵器	坏	11.5	4.4	6.9	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	体部内・外面口ロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土中層	100% PL34
1319	須恵器	坏	12.6	3.9	8.6	長石・石英・赤色粒子	灰黄	普通	体部内・外面口ロナデ 底部多方向の手持ちヘラ削り	覆土中層	95% PL34 墨書「J」
1320	須恵器	坏	12.8	4.1	8.2	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口ロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ちヘラ削り	覆土中層	95% PL35 底部ヘラ書
1321	須恵器	坏	12.8	4.0	8.4	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	体部内・外面口ロナデ 外面下端～底部回転ヘラ削り	覆土中層	80% PL35
1322	須恵器	坏	13.4	4.6	8.2	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	体部内・外面口ロナデ 外面下端～底部回転ヘラ削り	覆土中層	80% PL35
1323	須恵器	高台付坏	17.4	7.0	11.0	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	体部内・外面口ロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中層	90% PL35
1324	須恵器	高台付坏	18.6	7.1	13.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口ロナデ 外面下端～底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中層	90% PL35
1325	須恵器	蓋	16.3	3.1	-	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	体部内・外面口ロナデ 天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	覆土中層	75% PL36
1326	須恵器	壺	[22.5]	(30.8)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄	普通	頸部外面縦位の平行叩き目 体部外面上位同心円上の叩き目中～下位縦位の平行叩き目 下端ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中層	80% PL38
1327	須恵器	長頸瓶	-	(7.1)	5.2	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	体部内・外面口ロナデ 外面下半～底部手持ちヘラ削り	覆土中層	70% PL38
1328	須恵器	長頸瓶	[7.8]	(10.0)	-	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	口ロナデ 頸部に縦方向のヘラ書き8条	覆土中層	25% PL38
1329	須恵器	長頸瓶	9.2	(10.2)	-	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	口ロナデ	覆土中層	25% PL38 自然剥付着
1330	須恵器	長頸瓶	-	(13.4)	7.6	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	体部内・外面口ロナデ 外面下端～底部回転ヘラ削り 高台貼り付け	覆土中層	70% PL38
1331	土師器	甕	13.6	11.6	6.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ下半ヘラ磨き 底部木葉痕	覆土中層	80% PL40
1332	土師器	甕	14.7	15.1	7.3	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土中層	95% PL40
1333	土師器	甕	22.1	30.3	9.4	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土中層	70% PL40
1334	土師器	甕	28.8	27.3	11.6	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 下端ヘラ削り	覆土中層	90% PL40

#### (5) 溝跡

##### 第16号溝跡 (第149図, 付図)

**位置** 調査区東部のA 2 b1～A 1 g9区, 標高24mの台地の縁辺部に位置している。

**重複関係** 第39号掘立柱建物跡を掘り込んでおり, 第11号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 北部, 西部, 南部が調査区域外に延びている。北東方向(N - 19° - E)に直線的に延びており, 長さ24.4m, 上幅0.70～1.80m, 下幅0.20～0.75mが確認されており, 深さは42～55cmである。断面形は緩やかな弧状で, 中央部が箱形に掘り込まれていると推測される。

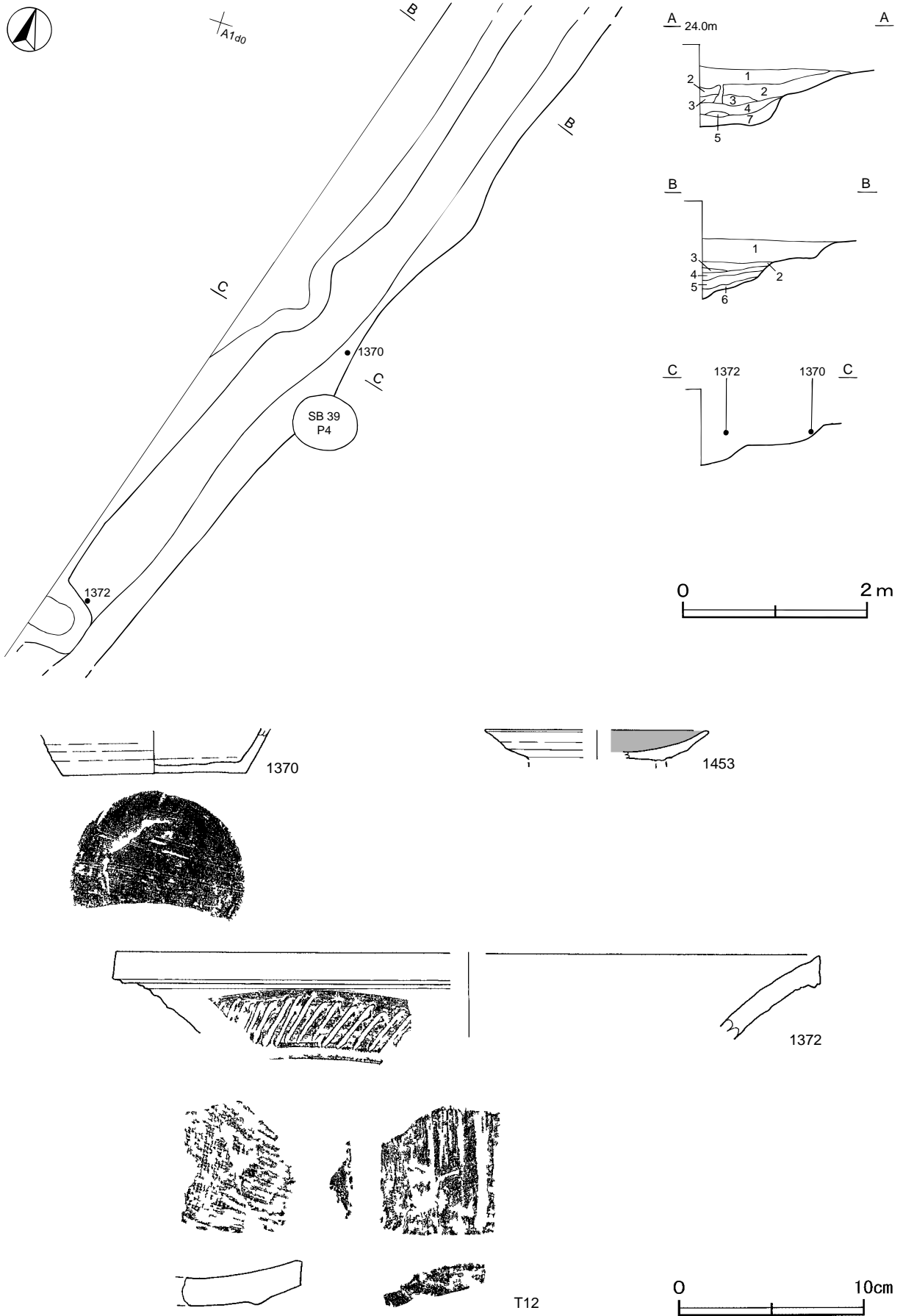
**覆土** 7層に分層される。第1～3層はレンズ状の堆積状況を示しており, 自然堆積と考えられる。第4～7層は各層の締めりが強いことから, 人為堆積の可能性が考えられる。

##### 土層解説

1 褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化物微量	5 明褐色	ロームブロック多量, 締めり強
2 褐色	ロームブロック多量	6 褐色	ローム粒子多量, 締めり強
3 褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子少量	7 明褐色	ロームブロック・褐色土粒多量, 締めり強
4 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 締めり強		

**遺物出土状況** 土師器片149点(坏30, 高台付皿1, 蓋1, 甕116, 甗1), 須恵器片73点(坏34, 蓋4, 瓶類3, 甕32), 土製品1点(支脚), 瓦片1点(平瓦), 鉄製品2点(不明), 鉄滓1点のほかに, 混入した陶磁器片3点(片口1, 不明2)も出土している。1370・1372は南部の覆土上層から出土している。

**所見** 中央部の掘り込みの上面に相当する第4層が暗褐色土で締めりが強いことから, 褐色土の第1～3層とは堆積した時期が異なると思われる。また, 南部の第6号溝跡のほぼ延長線上に位置していることから, 同一の溝であると推定される。埋没時期は, 出土土器から9世紀中葉から後葉と考えられる。



第149图 第16号溝跡・出土遺物実測図

第16号溝跡出土遺物観察表 (第149図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1370	須恵器	坏	-	(2.4)	10.0	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り 後一方向の手持ちヘラナデ	覆土上層	10%
1372	須恵器	甕	[38.0]	(4.3)	-	長石・石英・ 黒色粒子	灰	普通	頸部外面二重の平行沈線で区画後区画内に斜 位の沈線	覆土上層	5% TP148 と同一個体カ
1453	土師器	高台付皿	[11.8]	(1.5)	[7.0]	長石・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 底 部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土上層	5% 内面ヘラ磨き

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特 徴	出土位置	備考
T 12	平瓦	(7.6)	(6.6)	1.5	(122.1)	長石・石英・雲母	にぶい褐	凹面布目痕 凸面ヘラナデ 側面ヘラナデ	覆土上層	5% PL44

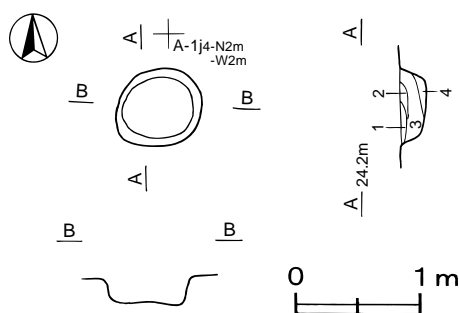
(6) 土坑

第257号土坑 (第150図)

**位置** 調査区中央部のA・1i3区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第109号住居に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径0.75m, 短径0.61mの楕円形で, 長径方向はN - 56° - Eである。深さは22cm, 底面は平坦で, 壁は直立している。



**覆土** 4層に分層される。各層にロームブロックを含む堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 炭化物中量, ローム粒子少量

**所見** 時期は, 重複関係から8世紀以前と考えられる。

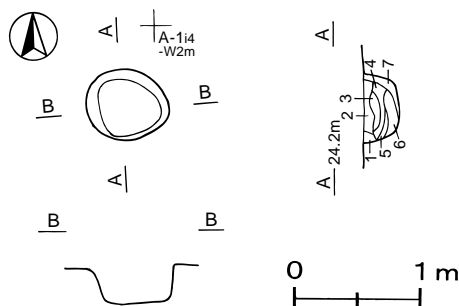
第150図 第257号土坑実測図

第258号土坑 (第151図)

**位置** 調査区中央部のA・1i3区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第109号住居に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径0.68m, 短径0.58mの楕円形で, 長径方向はN - 90°である。深さは29cm, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。



**覆土** 7層に分層される。各層にロームブロックや焼土を含む不均質な堆積状況を示しており, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
- 7 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量

**所見** 時期は, 重複関係から8世紀以前と考えられる。

第151図 第258号土坑実測図

### 第259号土坑 (第152図)

**位置** 調査区中央部の A・1h3区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

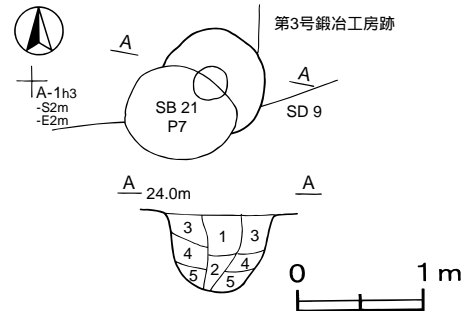
**重複関係** 第3号鍛冶工房跡, 第9号溝跡を掘り込み, 第21号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 東西径は0.84mで, 南北径は0.40mだけ確認されており, 円形と推測される。深さは60cm, 底面は皿状であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 5層に分層される。第1層は柱抜き取り痕に相当する。第2～4層は埋土で, ローム土を含む暗褐色土と褐色土が互層をなしており, 人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |   |      |                        |
|---|------|------------------------|
| 1 | 極暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子少量  |
| 2 | 黒褐色  | ロームブロック中量, 炭化粒子少量      |
| 3 | 暗褐色  | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 | 暗褐色  | ロームブロック中量              |
| 5 | 褐色   | ロームブロック多量              |



第152図 第259号土坑実測図

**所見** 覆土の堆積状況から, 掘立柱建物跡等の柱穴と推定される。時期は, 重複関係から9世紀以前と考えられる。

### 第401号土坑 (第153図)

**位置** 調査区東部の B 2a6区, 標高24mの台地の縁辺部に位置している。

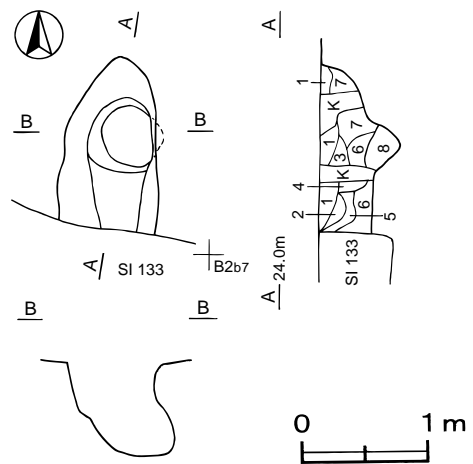
**重複関係** 第133号住居に掘り込まれている。

**規模と形状** 東西径は0.73mで, 南北径は1.36mだけが確認されている。南北径方向はN - 19° - Eで, 平面形は楕円形と推測される。深さは73cm, 底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 8層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており, 人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |   |     |                   |
|---|-----|-------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量    |
| 2 | 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子微量       |
| 3 | 暗褐色 | 炭化物少量, ロームブロック微量  |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子少量           |
| 5 | 暗褐色 | ロームブロック少量         |
| 6 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量    |
| 7 | 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 8 | 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量  |



第153図 第401号土坑実測図

**所見** 時期は, 重複関係から8世紀後葉以前と考えられる。

### 第427号土坑 (第154図)

**位置** 調査区東部の A 2 d8区, 標高24mの台地の縁辺部に位置している。

**規模と形状** 長径1.40m, 短径1.19mの不整楕円形で, 長径方向はN - 50° - Wである。深さは53cm, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 7層に分層される。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。



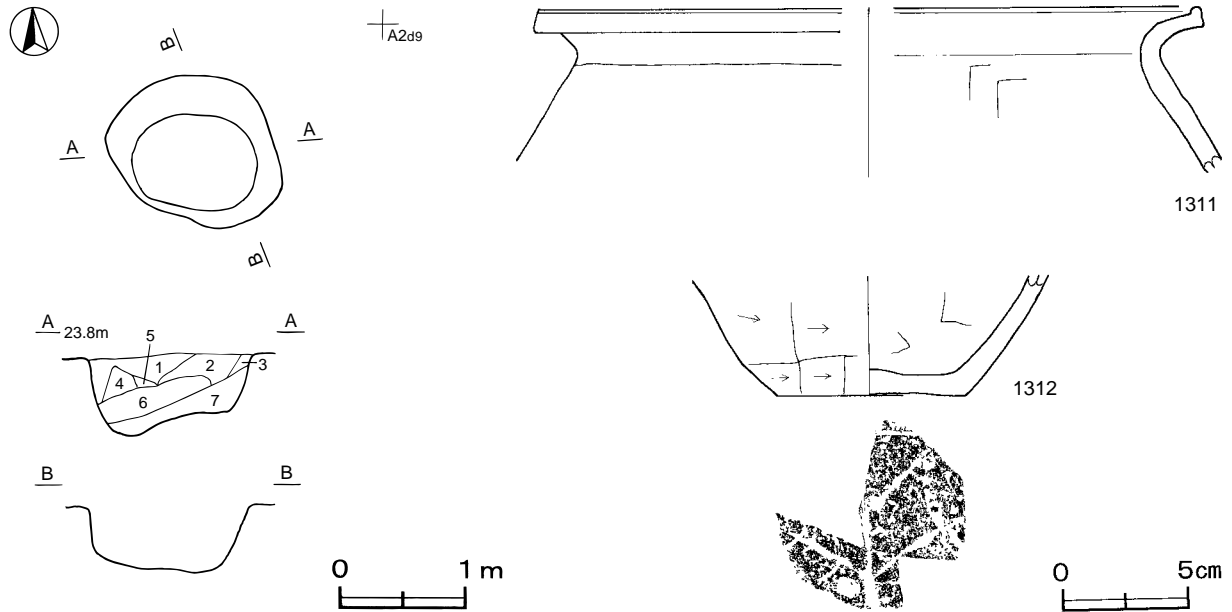
土層解説

- |       |                         |       |                       |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量   | 5 暗褐色 | ロームブロック微量             |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量                 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量             |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量       |       |                       |

**遺物出土状況** 土師器片28点 (坏1, 甕26, 甑1), 須恵器片5点 (坏1, 瓶類1, 甕3) が出土している。

1311・1312は南部の覆土中から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から8世紀中葉から9世紀前葉と考えられる。



第154図 第427号土坑・出土遺物実測図

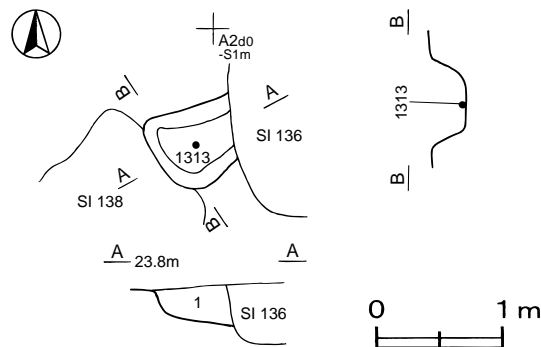
第427号土坑出土遺物観察表 (第154図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1311	土師器	甕	[26.0]	(6.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	覆土中	5%
1312	土師器	甕	-	(4.7)	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面下端手持ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土中	10%

第429号土坑 (第155・156図)

**位置** 調査区東部のA 2 d9区, 標高24mの台地の縁辺部に位置している。

**重複関係** 第138号住居跡を掘り込み, 第136号住居に掘り込まれている。



第155図 第429号土坑実測図

**規模と形状** 一辺0.65mの不整形で, 主軸方向はN - 33° - Wである。深さは26cm, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 単一層である。ロームブロックを含み, 締まりの弱い堆積状況を示しており, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片35点（坏2，甕33），須恵器片2点（坏）が出土している。1313は中央部の底面から出土した破片が接合したものである。

**所見** 時期は、重複関係及び出土土器から8世紀前葉から中葉と考えられる。



第156図 第429号土坑出土遺物実測図

第429号土坑出土遺物観察表（第156図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1313	土師器	甕	22.8	(30.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	底面	50%

表7 奈良・平安時代土坑一覧表

番号	位置	長軸（径）方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
				長軸（径）×短軸（径）(m)	深さ（cm）					
257	A・113	N・56°・E	楕円形	0.75 × 0.61	22	直立	平坦	人為		本跡 S1109 8世紀以前
258	A・113	N・90°	楕円形	0.68 × 0.58	29	外傾	平坦	人為		本跡 S1109 8世紀以前
259	A・1h3	N・0°	[円形]	0.84 × (0.40)	60	外傾	皿状	人為		3号鍛冶SD9 本跡 SB21 9世紀以前
401	B 2 a6	N・19°・E	[楕円形]	(1.36) × 0.79	73	外傾	皿状	人為		本跡 S1133 8世紀後葉以前
427	A 2 d8	N・50°・W	不整楕円形	1.40 × 1.19	53	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器	8世紀中葉～ 9世紀前葉
429	A 2 d9	N・33°・W	不整形	0.65 × 0.65	26	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器	S1138 本跡 S1136 8世紀前葉～中葉

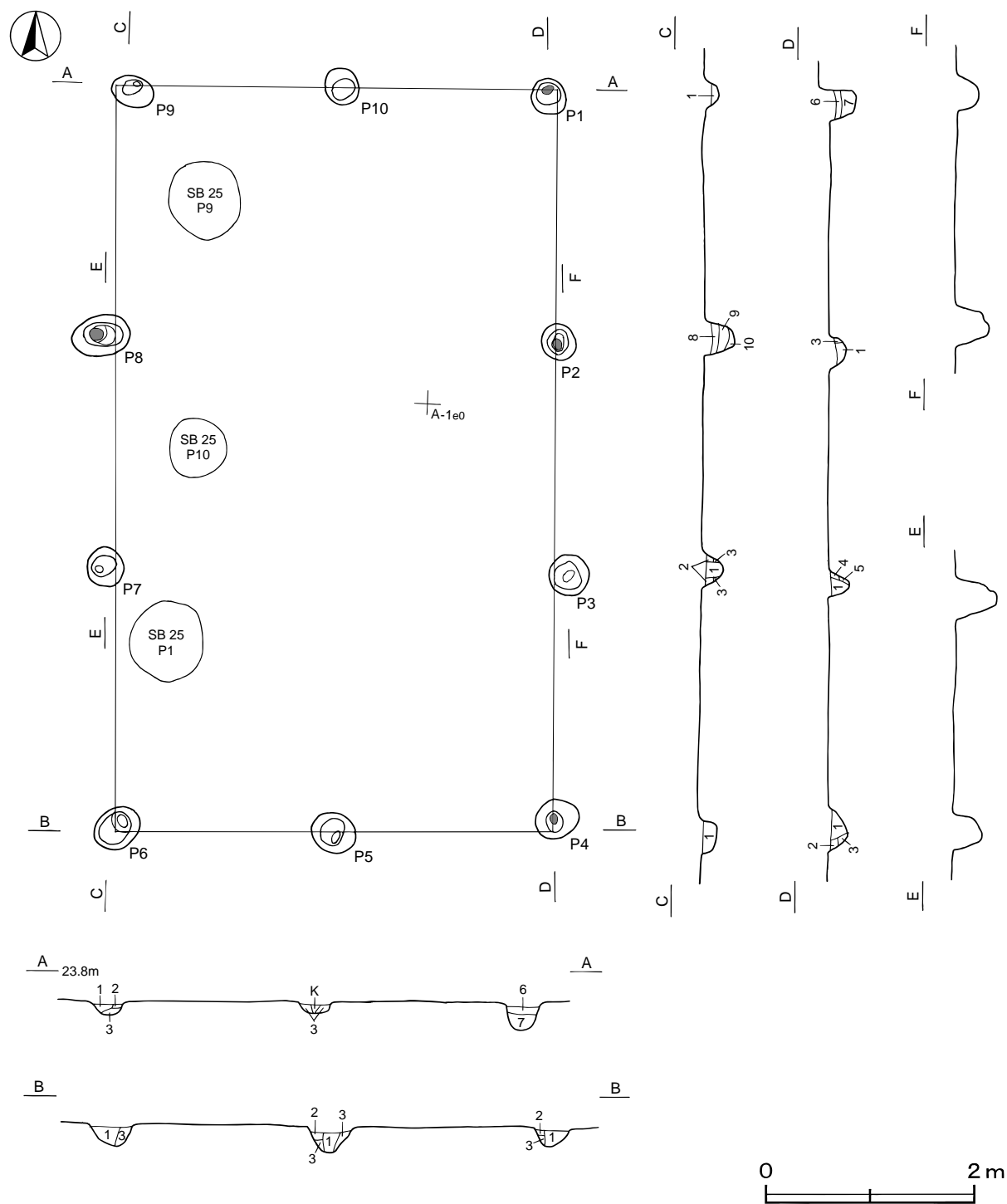
#### 4 中世・近世の遺構と遺物

中世・近世の遺構は、掘立柱建物跡13棟、溝跡5条、井戸跡2基、土坑2基、粘土貼土坑12基、ピット群1か所が確認された。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

##### (1) 掘立柱建物跡

##### 第26号掘立柱建物跡 (第157図)

**位置** 調査区中央部のA・1e9区、標高24mの平坦な台地上に位置している。



第157図 第26号掘立柱建物跡実測図

**重複関係** 第25号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N - 1° - Wの南北棟である。規模は、桁行72m、梁行4.2mで、面積は30.24㎡である。柱間寸法は、桁行方向が2.4m（8尺）、梁行方向が2.1m（7尺）を基調としており、均等に配置されている。

**柱穴** 10か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径33～56cm、短径33～40cmである。深さは11～40cmで、断面形はU字状または逆台形である。土層は第1層が柱の抜き取り痕に相当し、砂質粘土を含む締まりの弱い暗褐色土である。第2・3層は埋土で、第4～10層は柱抜き取り後の覆土である。P1・P2・P4・P8の底面からは、柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

1 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量	6 褐色	ローム粒子多量
2 褐色	ロームブロック中量	7 暗褐色	ロームブロック少量
3 褐色	ロームブロック多量	8 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子微量
4 黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量	9 暗褐色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量
5 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	10 褐色	ローム粒子中量

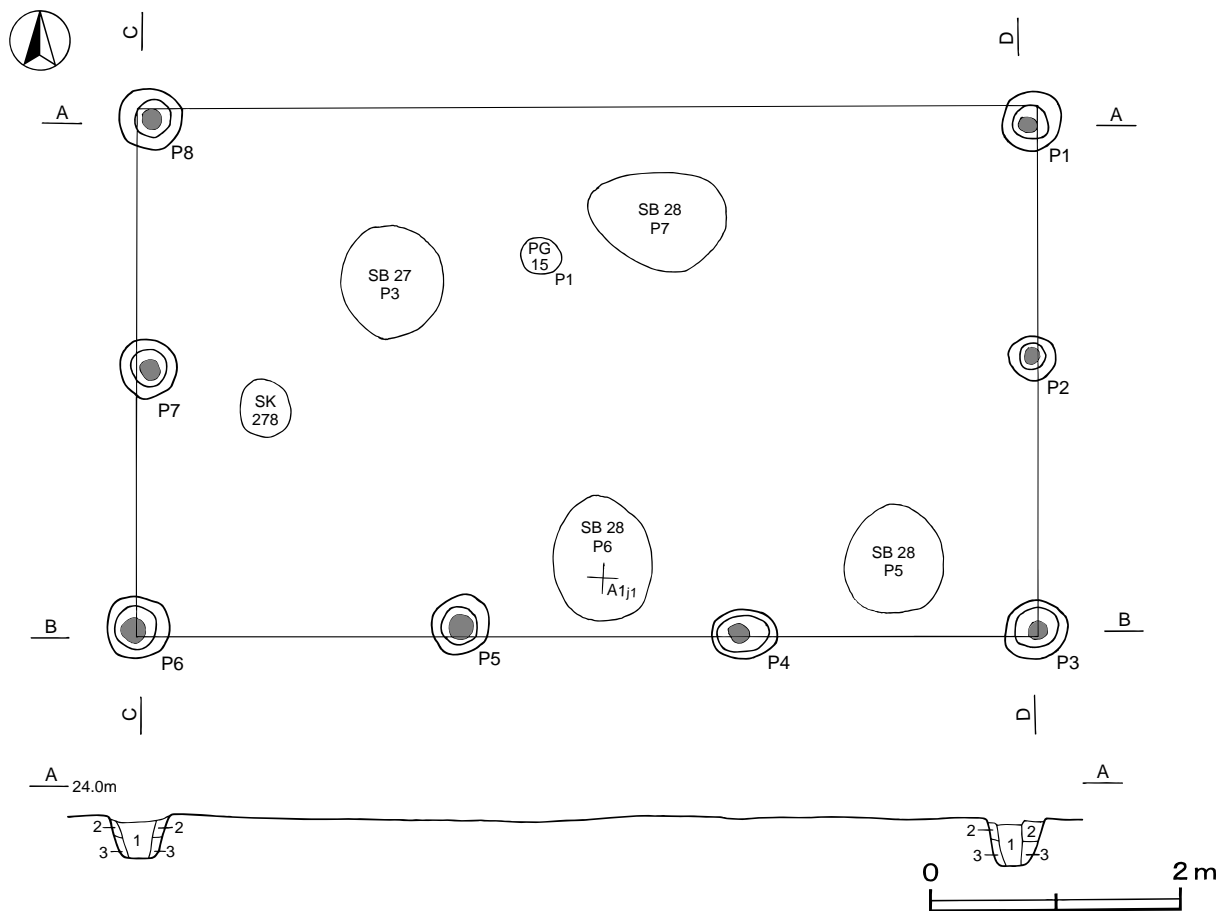
**遺物出土状況** 土師器片4点（甕）が出土しているが、いずれも細片で図示できない。

**所見** 時期は、重複関係及び柱穴が小規模であることから中世以降の可能性が推測される。

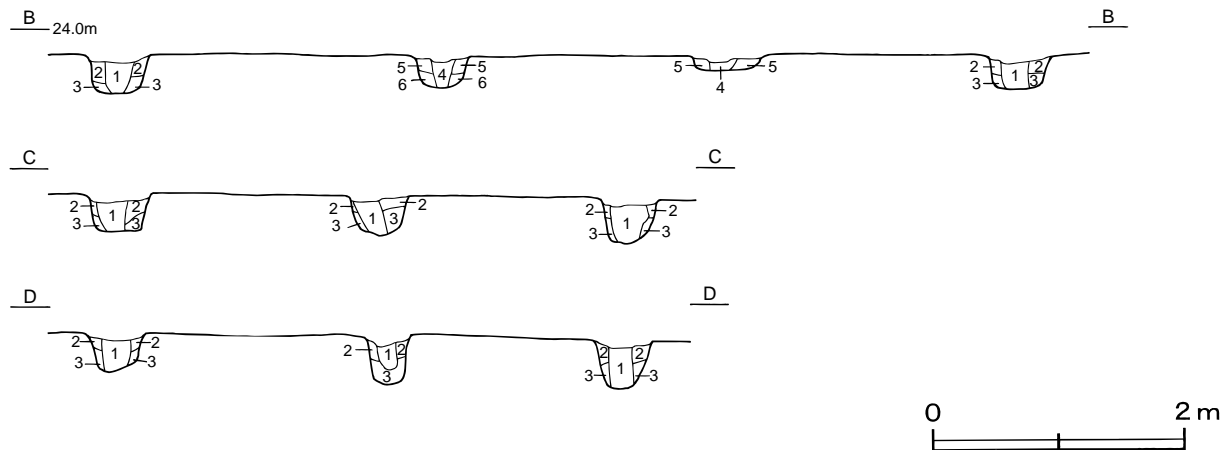
**第29号掘立柱建物跡（第158～160図）**

**位置** 調査区中央部のA・1i0区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第27・28号掘立柱建物跡、第278号土坑、第15号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。



第158図 第29号掘立柱建物跡実測図（1）



第159図 第29号掘立柱建物跡実測図(2)

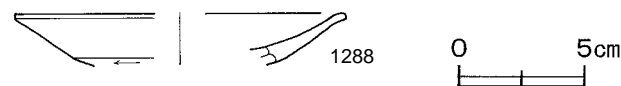
**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向N - 88° - Eの東西棟である。規模は桁行7.2m，梁行4.2mで，面積は30.24㎡である。柱間寸法は，桁行が2.4m（8尺），梁行が2.1m（7尺）を基調としているが，桁行が東から2.4m，2.2m，2.6mとやや不規則である。柱筋はおおむね通っている。

**柱穴** 8か所。北平側中央の2か所を確認できなかった。平面形は円形または楕円形で，規模は長径38～50cm，短径35～49cmである。深さは14～38cmで，断面形は逆台形である。第1層は柱抜き取り痕に相当し，炭化粒子を含む黒褐色土である。第2～6層は埋土で，褐色土と暗褐色土が互層をなしている。すべての柱穴の底面から柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

- |       |                  |       |                |
|-------|------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量   | 4 褐色  | ローム粒子多量，炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子少量 | 5 褐色  | ローム粒子中量        |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量   | 6 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量   |

**遺物出土状況** 土師器片5点（坏1，高坏1，皿1，甕2），須恵器片4点（坏2，甕1，瓶類1）が各柱穴から出土している。



**所見** 時期は，重複関係及び柱穴が小規模であることから中世以降と推測される。

第160図 第29号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第29号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第160図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1288	土師器	皿	[13.0]	(2.0)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ロケロナデ 削り 内面へら磨き	P1覆土中	5%

### 第30号掘立柱建物跡（第161図）

**位置** 調査区中央部のA1d5区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第116A・116B号住居跡を掘り込んでいる。第17号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向N - 7° - Wの南北棟である。規模は，桁行8.1m，梁行4.8mで，面積は38.88㎡である。柱間寸法は，桁行が2.7m（9尺），梁行が2.4m（8尺）を基調としており，均等に配置されている。

**柱穴** 10か所。平面形は円形または楕円形で，規模は長径32～65cm，短径32～58cmである。深さは9～60cmで，

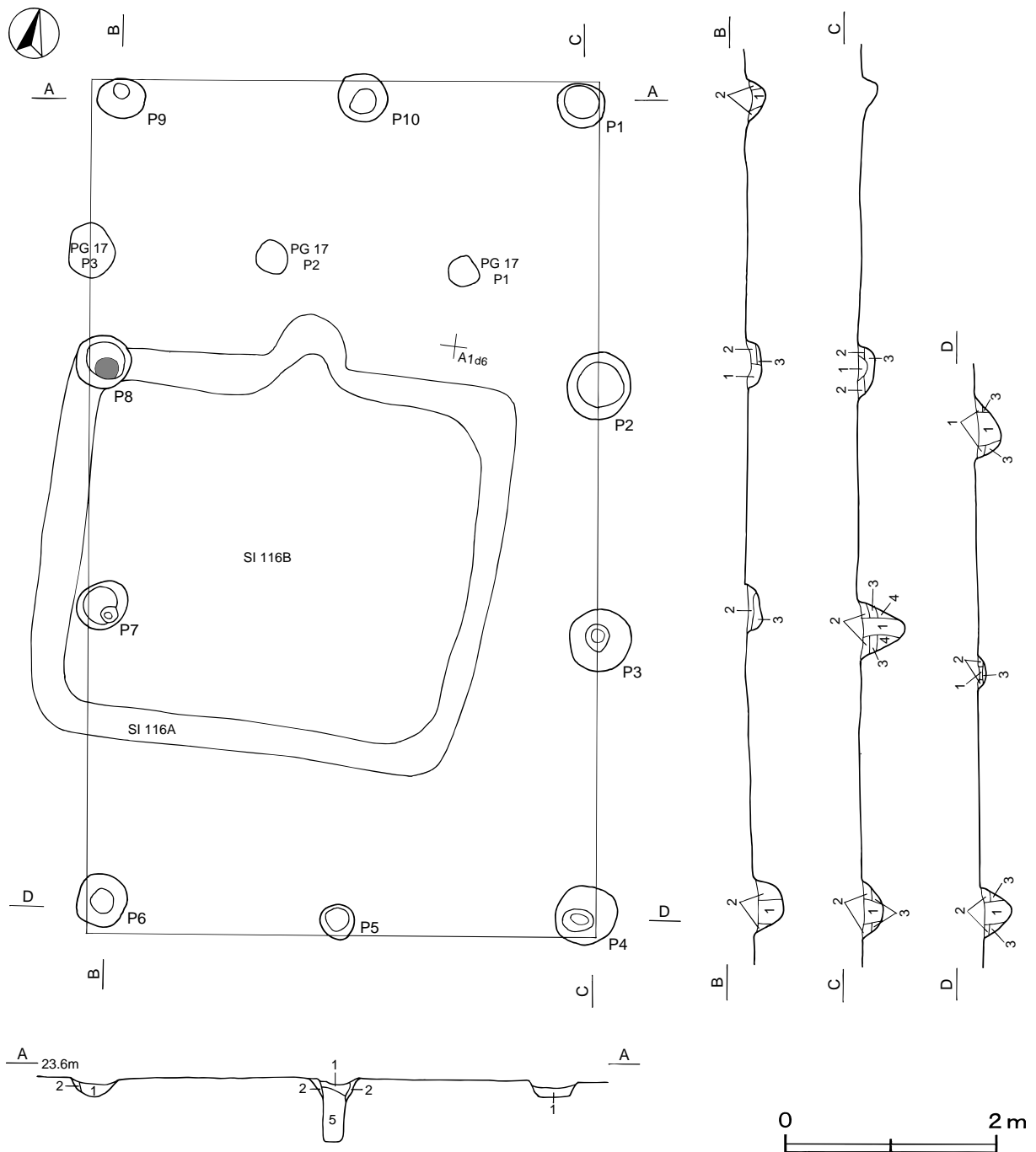
断面形はU字状または逆台形である。第1・5層は柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い暗褐色土・黒褐色土である。第2・3・4層は埋土で、炭化粒子を含む褐色土を主体として互層をなしている。P8の底面からは、柱のあたりが確認されている。

土層解説 (各柱穴共通)

- |       |                        |       |                   |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量         | 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 2 褐色  | ロームブロック少量              | 5 黒褐色 | ロームブロック少量         |
| 3 褐色  | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |       |                   |

**遺物出土状況** 土師器片2点(坏, 甕), 須恵器片3点(坏1, 甕2)が各柱穴から出土しているが、いずれも細片で図示できない。

**所見** 時期は、重複関係及び柱穴が小規模であることから中世以降と推測される。



第161図 第30号掘立柱建物跡実測図

**第32号掘立柱建物跡 (第162図)**

**位置** 調査区中央部のA・1g4区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第107A号住居跡，第3号鍛冶工房跡を掘り込み，第9号溝に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行2間，梁行2間の側柱建物跡である。規模は，桁行4.2m，梁行4.2mで，面積は17.64㎡である。柱間寸法は2.1m（7尺）で，ほぼ均等に配置されている。

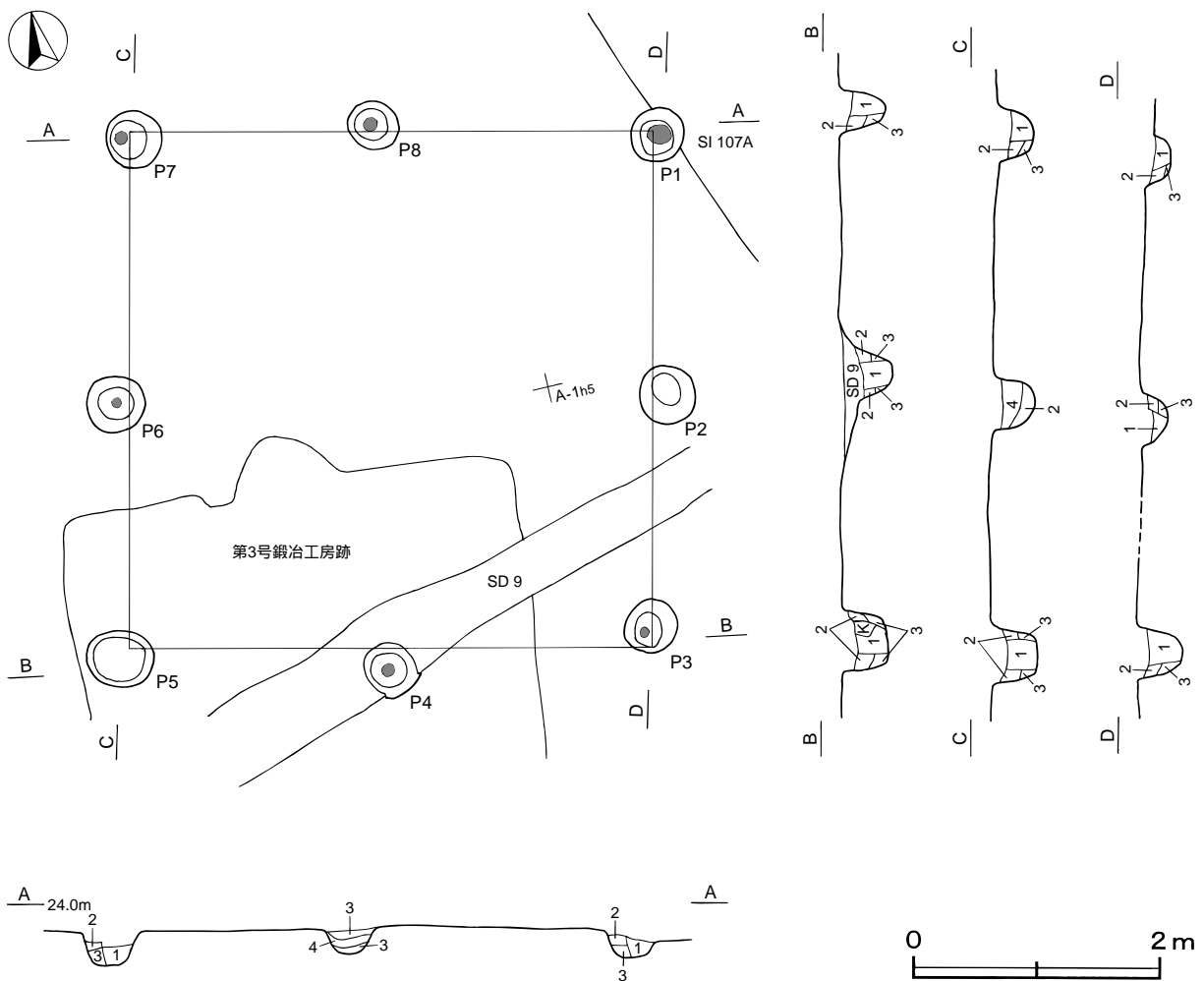
**柱穴** 8か所。平面形は円形または楕円形で，規模は長径40～54cm，短径40～44cmである。深さは20～40cmで，断面形はU字状または逆台形である。第1層は柱抜き取り痕に相当し，やや締まった黒褐色土である。第2～4層は埋土で，暗褐色土と褐色土が互層をなしている。P1・P3・P4・P6～P8の底面からは，柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

- |                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量      | 4 褐色 ロームブロック中量  |

**遺物出土状況** 土師器片8点（坏2，甕6），須恵器片7点（坏），鉄滓1点が各柱穴から出土しているが，いずれも細片で図示できない。

**所見** 時期は，重複関係及び柱穴が小規模であることから中世以降と推測される。



第162図 第32号掘立柱建物跡実測図

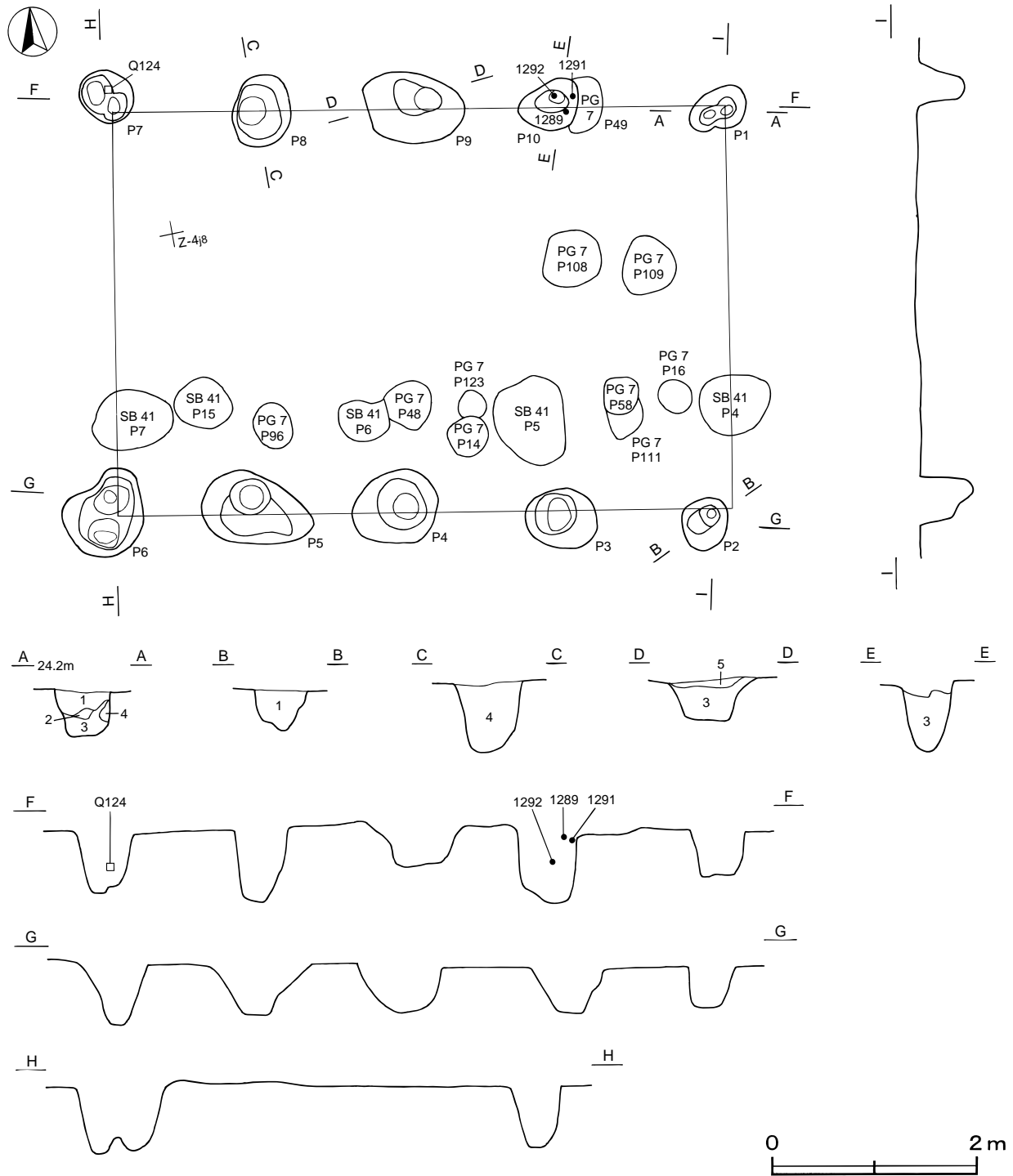
**第34号掘立柱建物跡 (第163・164図)**

**位置** 調査区西部のZ-4j8区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第41号掘立柱建物跡，第7号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行4間，梁行1間の側柱建物跡で，桁行方向N - 81° - Wの東西棟である。規模は，桁行6.0m，梁行3.9mで，面積は23.40㎡である。柱間寸法は桁行が1.5m（5尺），梁行が3.9m（13尺）を基調としているが，桁行はやや不規則である。

**柱穴** 10か所。平面形は楕円形または不整形で，長径50～110cm，短径45～68cmである。深さは39～70cmで，



第163図 第34号掘立柱建物跡実測図



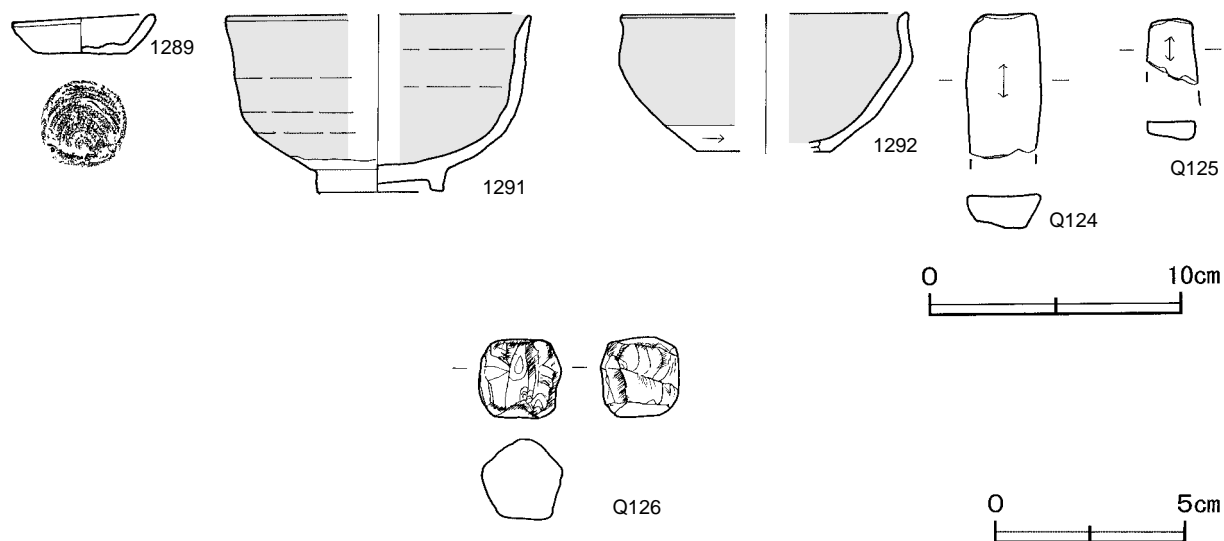
断面形はU字状または逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

- |       |                     |          |                     |
|-------|---------------------|----------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色     | ロームブロック中量，炭化物微量     |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量             | 5 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量    |          |                     |

**遺物出土状況** 土師質土器 1点（小皿），陶器片 8点（碗類），石器 3点（砥石 2，火打ち石 1），鉄製品 1点（不明）のほか、混入した土師器片 5点（坏 3，甕 2），須恵器片 2点（蓋，甕）も出土している。1289・1291・1292はP10の覆土上層から中層にかけて出土している。

**所見** 本跡は第36号掘立柱建物跡と桁行方向が一致しており、出土遺物からも本建物から第36号掘立柱建物へ建て替えたと推定される。時期は、出土土器から17世紀前葉と考えられる。



第164図 第34号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第34号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第164図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1289	土師質土器	小皿	5.5	1.5	3.6	雲母・赤色粒子・黒色粒子		明赤褐	良好	ロクロナデ 底部回転系切り	P10覆土上層	100% PL43
1291	陶器	丸碗	[11.9]	7.0	4.9	緻密	鉄釉	黒褐・浅黄橙	良好	ロクロ整形 高台貼り付け	P10覆土上層	45% PL44 瀬戸・美濃
1292	陶器	天目茶碗	[11.4]	5.4	[5.2]	緻密	鉄釉	極暗褐・灰白	良好	ロクロ整形 外面下端回転ヘラ削り	P10覆土上層	20% 瀬戸・美濃

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q124	砥石	(5.7)	2.9	1.3	(37.7)	凝灰岩	砥面一面	P7覆土中層	PL47
Q125	砥石	(2.6)	2.1	0.7	(6.1)	凝灰岩	砥面一面	覆土中	
Q126	火打ち石	2.1	2.1	2.1	13.9	瑪瑙	稜に使用痕有り	覆土中	

### 第35号掘立柱建物跡（第165図）

**位置** 調査区西部のZ - 3j1区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第36号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

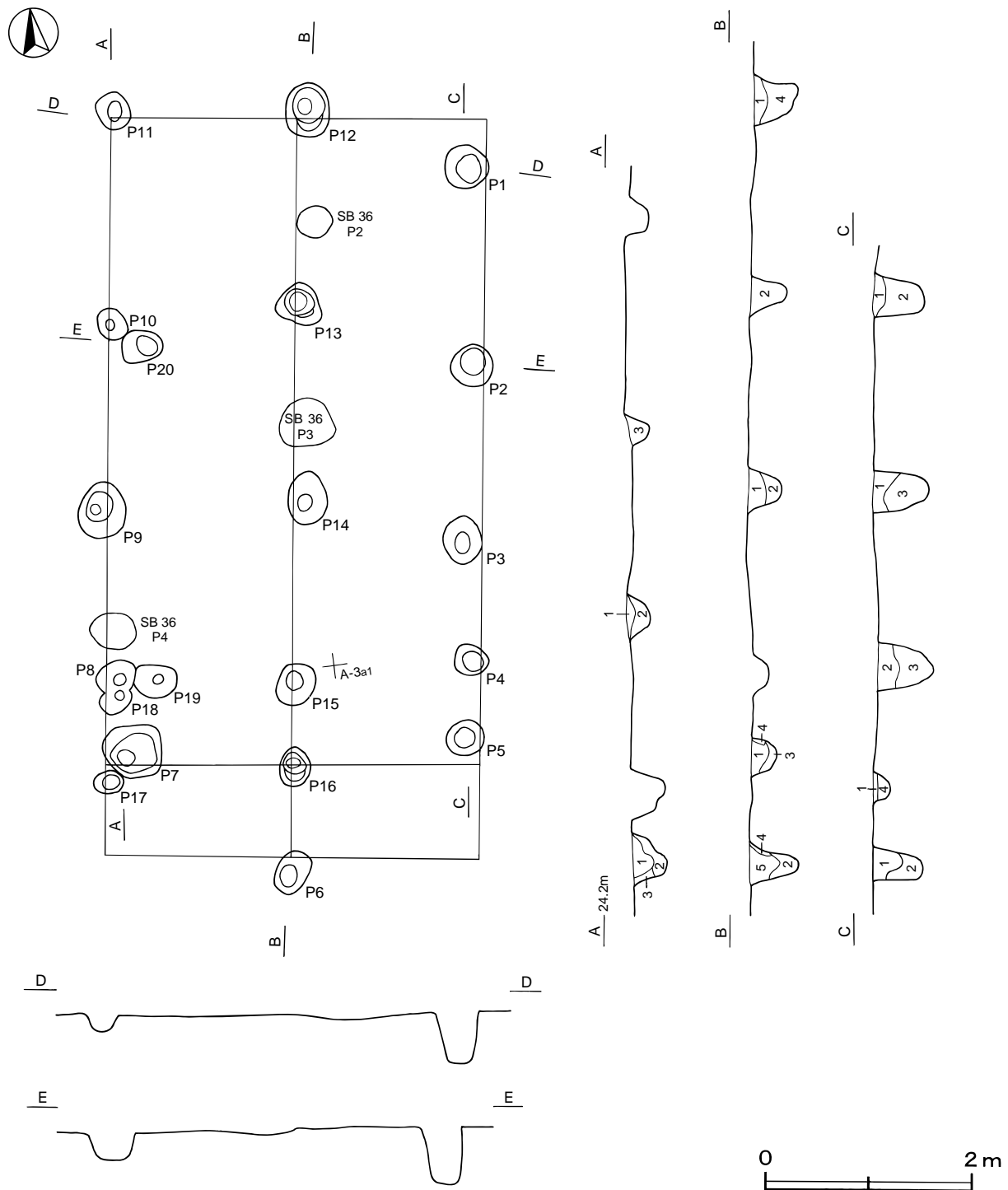
**規模と構造** 桁行5間，梁行2間の総柱建物跡で，桁行方向N - 9° - Eの南北棟である。規模は，桁行7.2m，梁行3.6mで，面積は25.92㎡である。柱間寸法は1.8m（6尺）を基調としており，桁行の南側2間は0.9m（3

尺) である。

**柱穴** 20か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径56～60cm、短径45～50cmである。深さは20～40cmで、断面形はU字状または逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- |       |                     |       |                          |
|-------|---------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色  | ロームブロック中量,炭化粒子微量         |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量,炭化粒子微量    |       |                          |



第165図 第35号掘立柱建物跡実測図

**遺物出土状況** 磁器片 1 点（碗類）のほか、混入した土師器片 1 点（甕）が各柱穴から出土しているが、いずれも細片で図示できない。

**所見** 時期は、隣接する第36号掘立柱建物跡の北側桁行と本建物跡の北側梁行がほぼ同一線上にあることから関連する建物跡と考えられるため、17世紀後葉から18世紀前葉と推定される。

### 第36号掘立柱建物跡（第166図）

**位置** 調査区西部のZ-4i0区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第35号掘立柱建物跡、第7号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N - 6° - Eの南北棟である。規模は桁行5.4m、梁行3.6mで、面積は19.44㎡である。柱間寸法は1.8m（6尺）を基調としているが、やや不規則である。

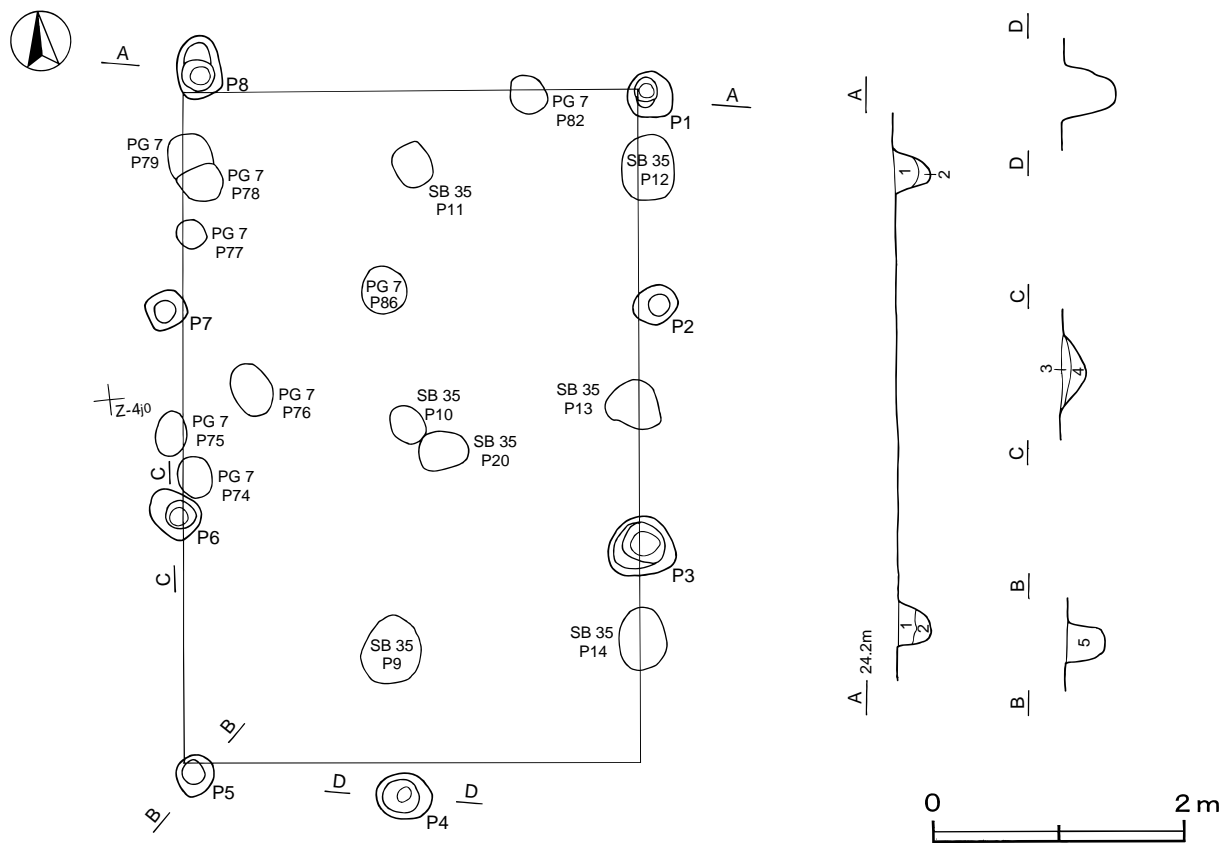
**柱穴** 8か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径30～55cm、短径30～48cmである。深さは20～40cmで、断面形は逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

- |                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量      | 5 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量  |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |                        |

**遺物出土状況** 土師器片 2 点（甕、高坏）、須恵器片 2 点（坏、甕）、縄文土器片 2 点（各柱穴から出土しているが、いずれも細片で図示できない）。

**所見** 時期は、隣接する第34号掘立柱建物跡と関連する建物と考え、17世紀前葉と推定される。



第166図 第36号掘立柱建物跡実測図

**第40号掘立柱建物跡 (第167図)**

**位置** 調査区東部のA 2 h6区, 標高24mの台地の縁辺部に位置している。

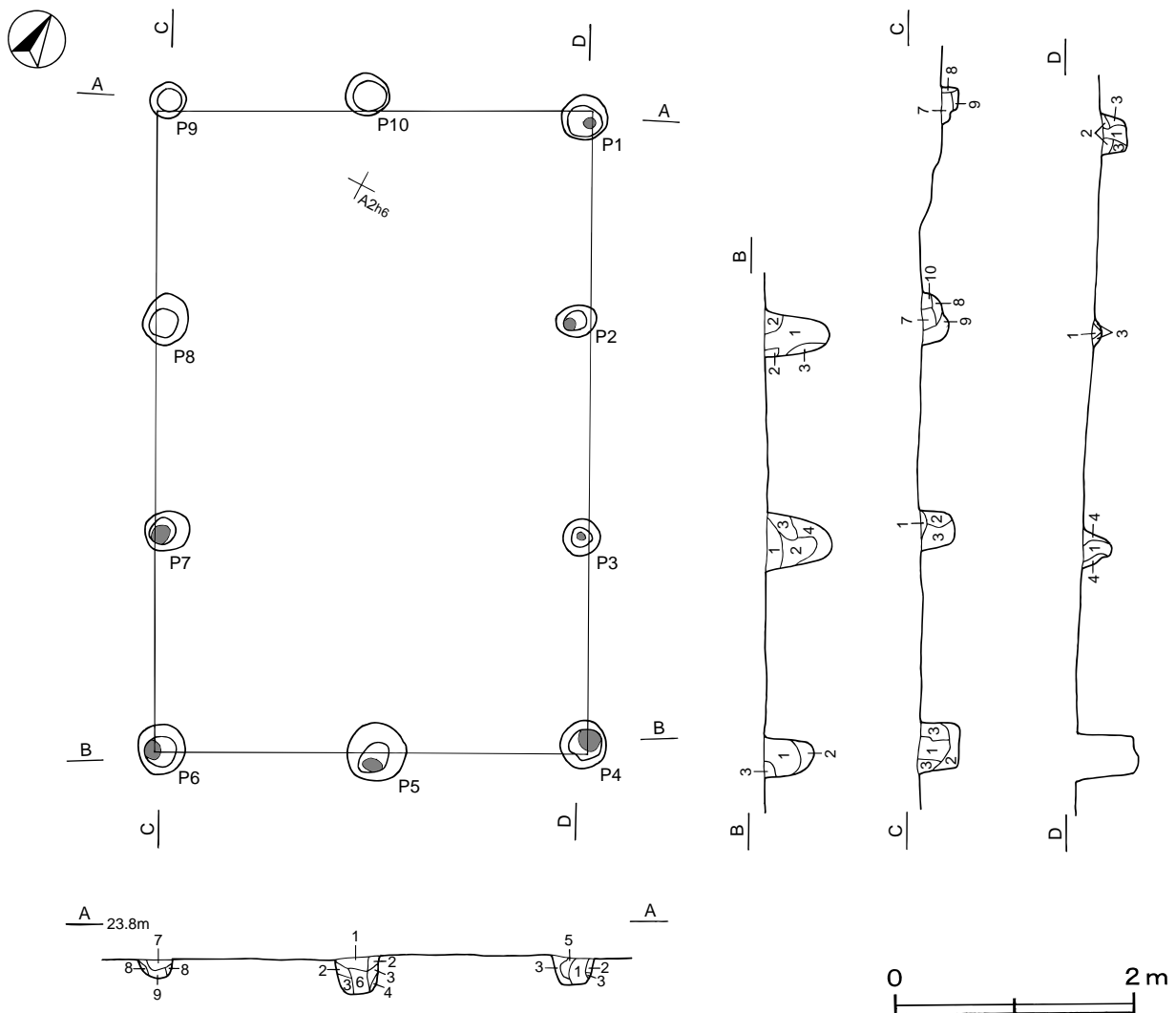
**規模と構造** 桁行3間, 梁行2間の側柱建物跡で, 桁行方向はN - 27° - Wの東西棟である。規模は桁行5.4m, 梁行3.6mで, 面積は19.44㎡である。柱間寸法は1.8m (6尺) で, 均等に配置されている。

**柱穴** 10か所。平面形は円形で, 規模は径30~50cmである。深さは15~32cmで, 断面形はU字または逆台形である。第1・6・7層は柱の抜き取り痕に相当し, 締まりの弱い暗褐色土・黒褐色土である。第2~5・8~10層は埋土である。P 1~P 7の底面からは, 柱のあたりが確認されている。

土層解説 (各柱穴共通)

- |       |                    |       |                     |
|-------|--------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量          | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, ローム粒子微量 | 7 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量   |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量  | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量     |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量          | 9 暗褐色 | ローム粒子中量             |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量     | 10 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量   |

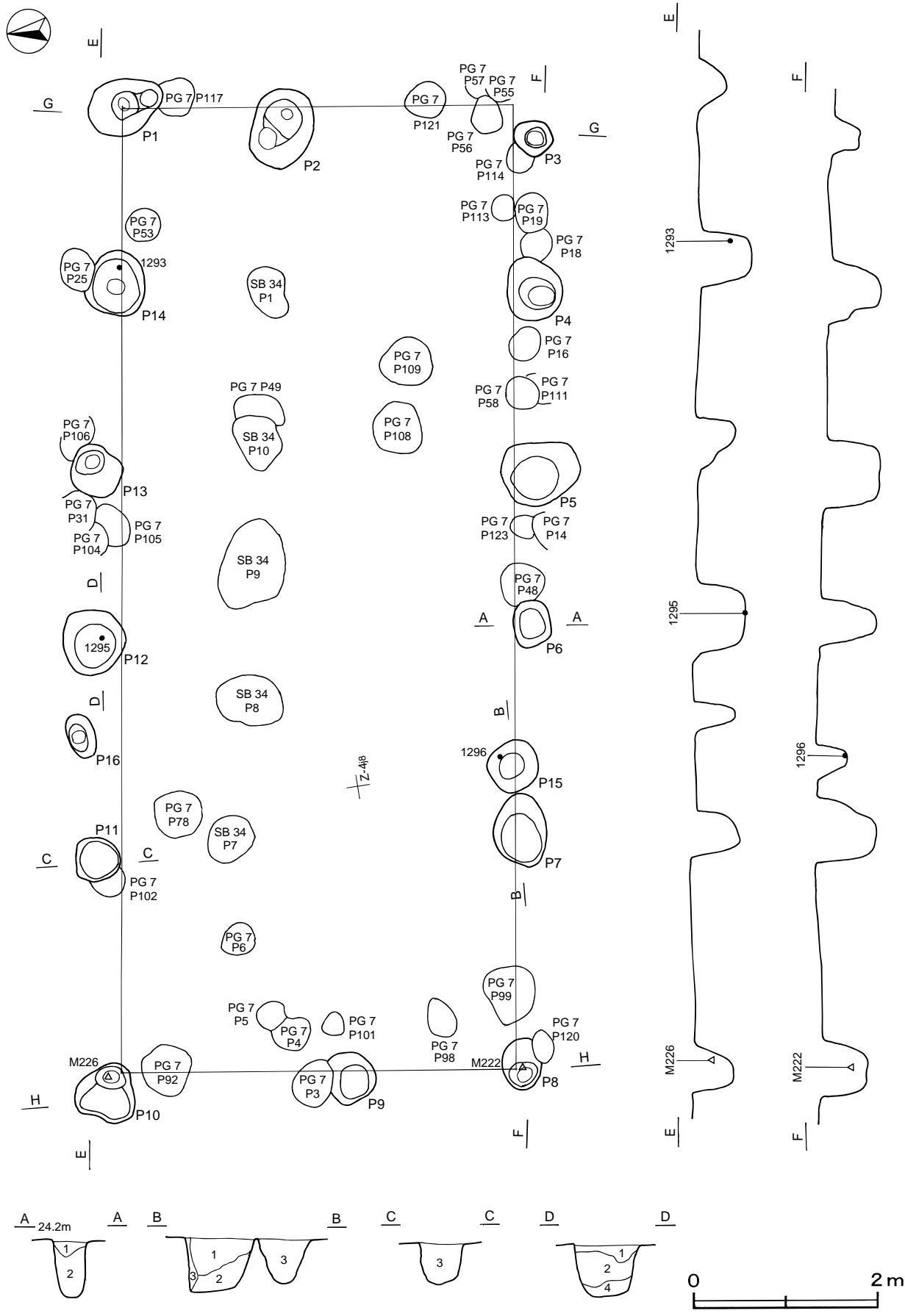
**所見** 時期は, 柱穴が極めて小規模であることから中世以降と推測される。



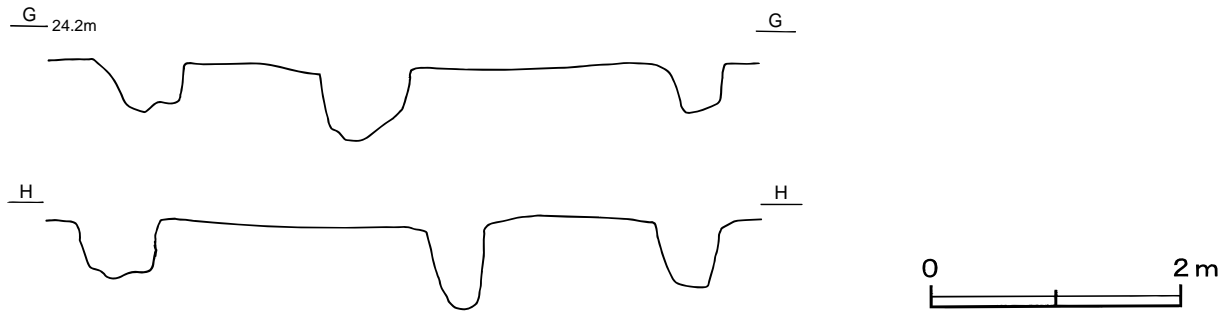
第167図 第40号掘立柱建物跡実測図

**第41号掘立柱建物跡 (第168~170図)**

**位置** 調査区西部のZ・4i7区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。



第168图 第41号掘立柱建物跡実測図(1)



第169図 第41号掘立柱建物跡実測図(2)

**重複関係** 第34号掘立柱建物跡，第7号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行5間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向N-85°-Wの東西棟である。規模は，桁行105m，梁行4.2mで，面積は44.10㎡である。柱間寸法は2.1m（7尺）を基調にしているが，やや不規則である。

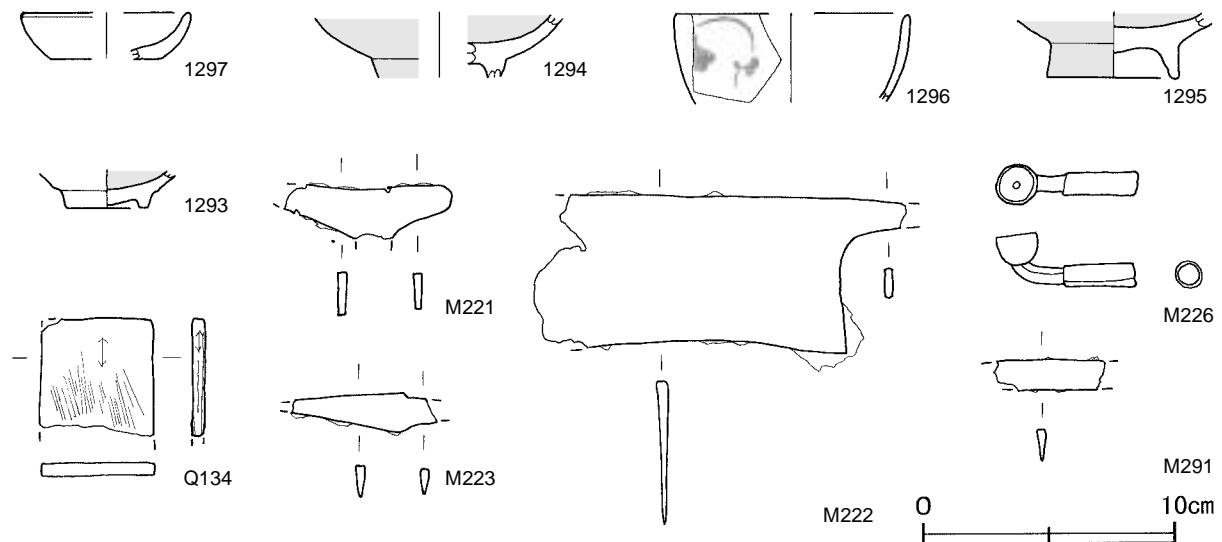
**柱穴** 16か所。平面形は円形または楕円形で，規模は長径60～92cm，短径40～42cmである。深さは35～70cmで，断面形はU字状または逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック多量，炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量       |

**遺物出土状況** 土師質土器片14点（皿類4，鍋類10），陶器片5点（碗類），磁器片5点（碗類），石器2点（砥石），鉄製品7点（包丁1，刀子2，不明3），銅製品1点（煙管）のほかに，混入とみられる土師器片10点（坏6，甕2，皿1，甑1），須恵器片4点（坏2，蓋1，甕1）も各柱穴から出土している。1295はP12の底面から，1296はP15の底面からそれぞれ出土している。

**所見** 本跡は重複している第34号掘立柱建物跡と桁行方向が一致しており，出土遺物からも第34号掘立柱建物跡からの建て替えと推定される。時期は，出土土器から17世紀後葉から18世紀前葉と考えられる。



第170図 第41号掘立柱建物跡出土遺物実測図

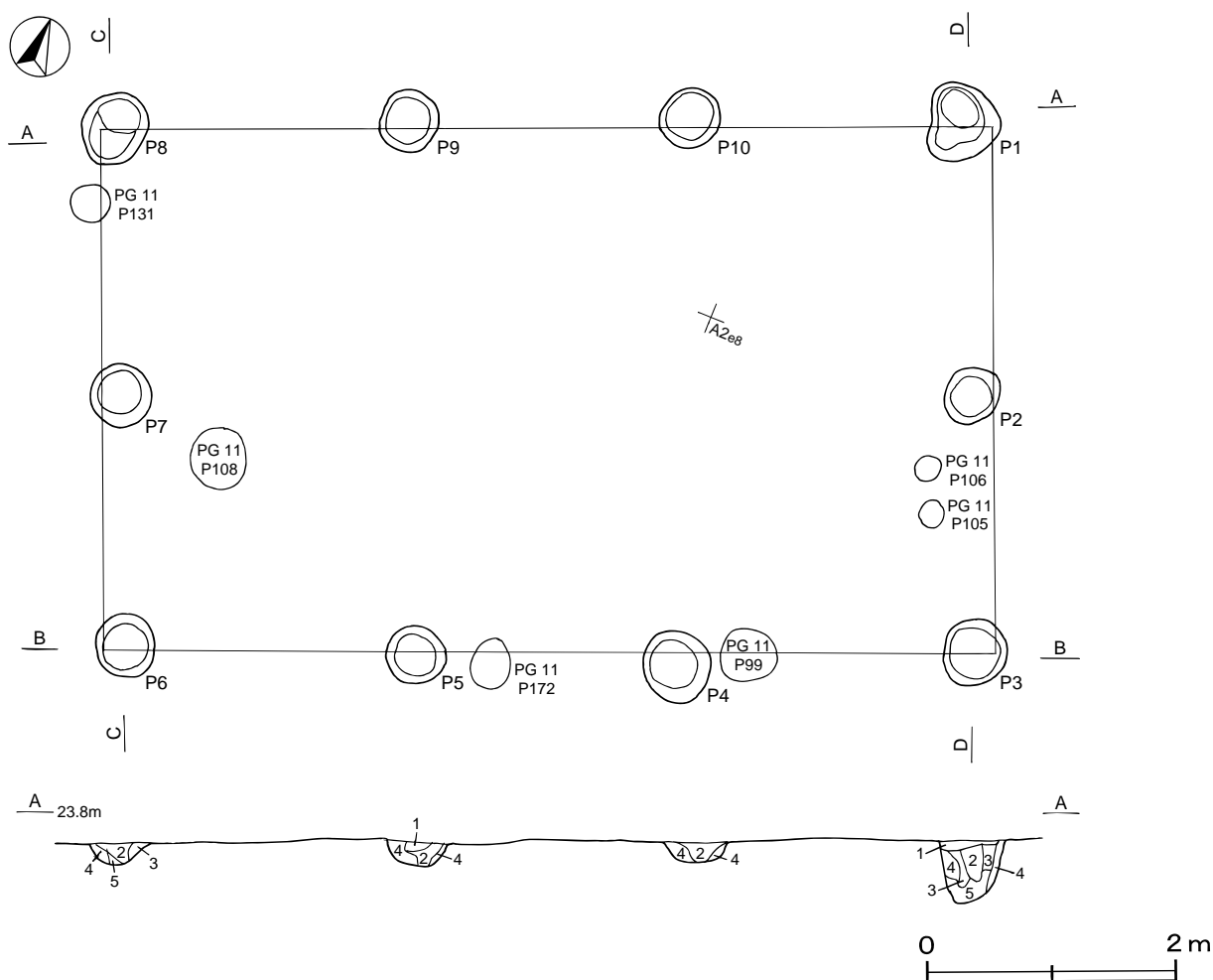
### 第41号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第170図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土 釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1293	陶器	碗	-	(1.5)	4.2	緻密 灰釉	暗黄褐・暗灰	良好	体部下端から底部回転ヘラ削り 高台貼り付け	P12覆土中層	5% 瀬戸・美濃
1294	陶器	碗	-	(2.6)	-	緻密 灰釉	淡黄・灰白	良好	口クロ整形 高台貼り付け	P 2覆土中	5% 肥前カ
1295	陶器	呉器手碗	-	(2.5)	5.2	緻密 灰釉	淡黄・灰白	良好	口クロ整形 高台貼り付け 頭巾高台	P 12底面	20% 肥前カ
1296	磁器	染付碗	「9.2」	(3.5)	-	緻密 透明釉	灰白・灰白	良好	口クロ整形 外面呉須絵付け	P 15底面	5% 瀬戸・美濃
1297	土師質土器	小皿	[6.6]	(1.8)	[4.4]	石英	暗褐	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転系切り	覆土中	10% 内・外面煤付着

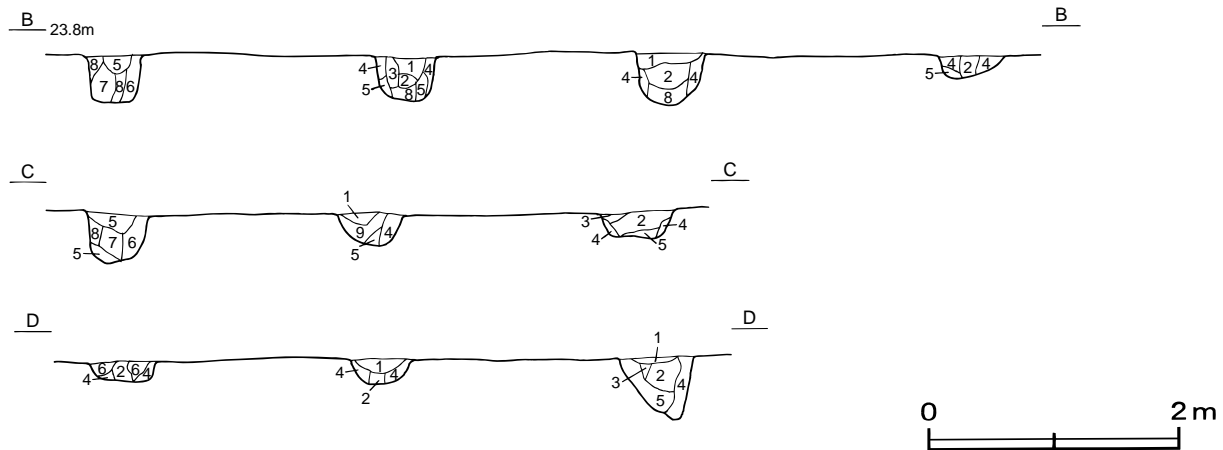
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q134	砥石	(4.7)	4.6	0.5	(21.5)	珪質頁岩	砥面 2面	覆土中	PL47
M221	不明	(2.2)	(6.7)	0.5	(13.7)	鉄		P 5覆土中	
M222	包丁	(14.8)	6.2	0.3	(66.4)	鉄	背開	P 8覆土中層	PL48
M223	刀子	(5.7)	4.4	1.3	(6.5)	鉄	両開カ	P 12覆土中	
M226	煙管	5.6	0.9	0.9	8.15	銅	火皿径2.1cm 銅板丸め後鐮付け	P 10覆土中層	PL49
M291	刀子	(4.4)	1.3	0.3	(6.0)	鉄	柄部欠損 開不明	覆土中	

### 第44号掘立柱建物跡 (第171・172図)

位置 調査区東部の A 2 e7区, 標高24mの台地の縁辺部に位置している。



第171図 第44号掘立柱建物跡実測図(1)



第172図 第44号掘立柱建物跡実測図(2)

**重複関係** 第11号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N - 68° - Eの東西棟である。規模は桁行7.2m、梁行4.2mで、面積は30.24㎡である。柱間寸法は、桁行が2.4m(8尺)、梁行が2.1m(7尺)を基調としており、均等に配置されている。

**柱穴** 10か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径45~62cm、短径25~50cmである。深さ15~51cmで、断面形は逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説(各柱穴共通)

1 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量	6 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	7 褐色 ロームブロック少量
3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量	9 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
5 褐色 ローム粒子中量	

**遺物出土状況** 土師器片3点(甕), 須恵器片3点(甕)が各柱穴から出土しているが、いずれも細片で図示できない。

**所見** 時期は、北東部に位置する第41号掘立柱建物跡と主軸方向が一致することから18世紀代と推測される。

### 第46号掘立柱建物跡(第173図)

**位置** 調査区東部のA2g4区、標高24mの台地の縁辺部に位置している。

**重複関係** 第48号掘立柱建物に掘り込まれており、第11号ピット群と重複しているが新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N - 15° - Wの南北棟である。規模は桁行4.8m、梁行3.6mで、面積は17.28㎡である。柱間寸法は、桁行が2.4m(8尺)、梁行が1.8m(6尺)を基調としている。

**柱穴** 8か所。平面形は円形で、規模は径30~45cmである。深さは12~34cmで、断面形はU字状または逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。

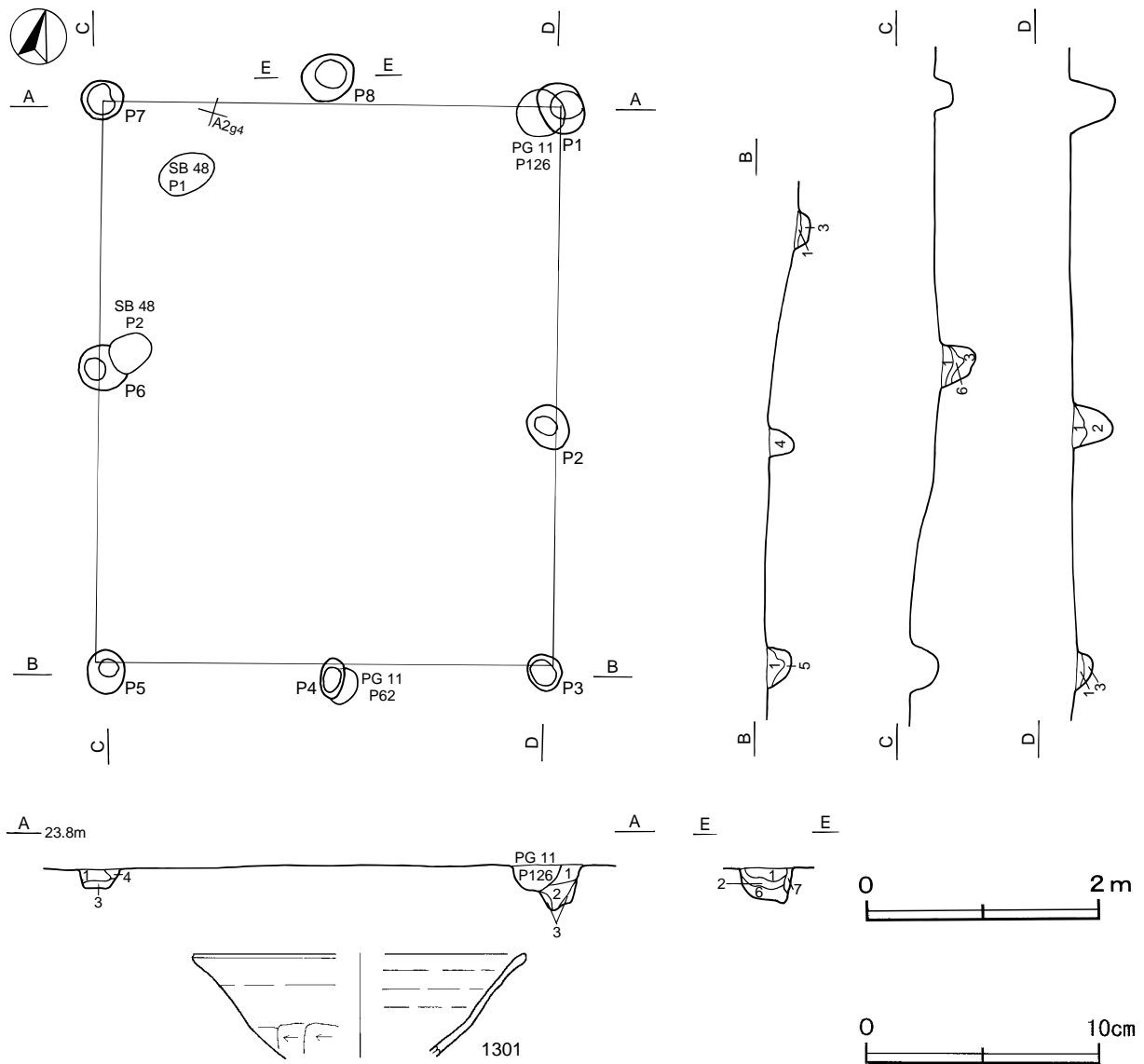
土層解説(各柱穴共通)

1 黒褐色 ロームブロック微量	5 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量	6 暗褐色 ローム粒子多量
3 暗褐色 ロームブロック中量	7 褐色 ロームブロック中量
4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量	

**遺物出土状況** 須恵器片1点(坏)がP1覆土中から出土している。

**所見** 時期は、重複関係から18世紀以前と考えられる。





第173図 第46号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第46号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第173図)

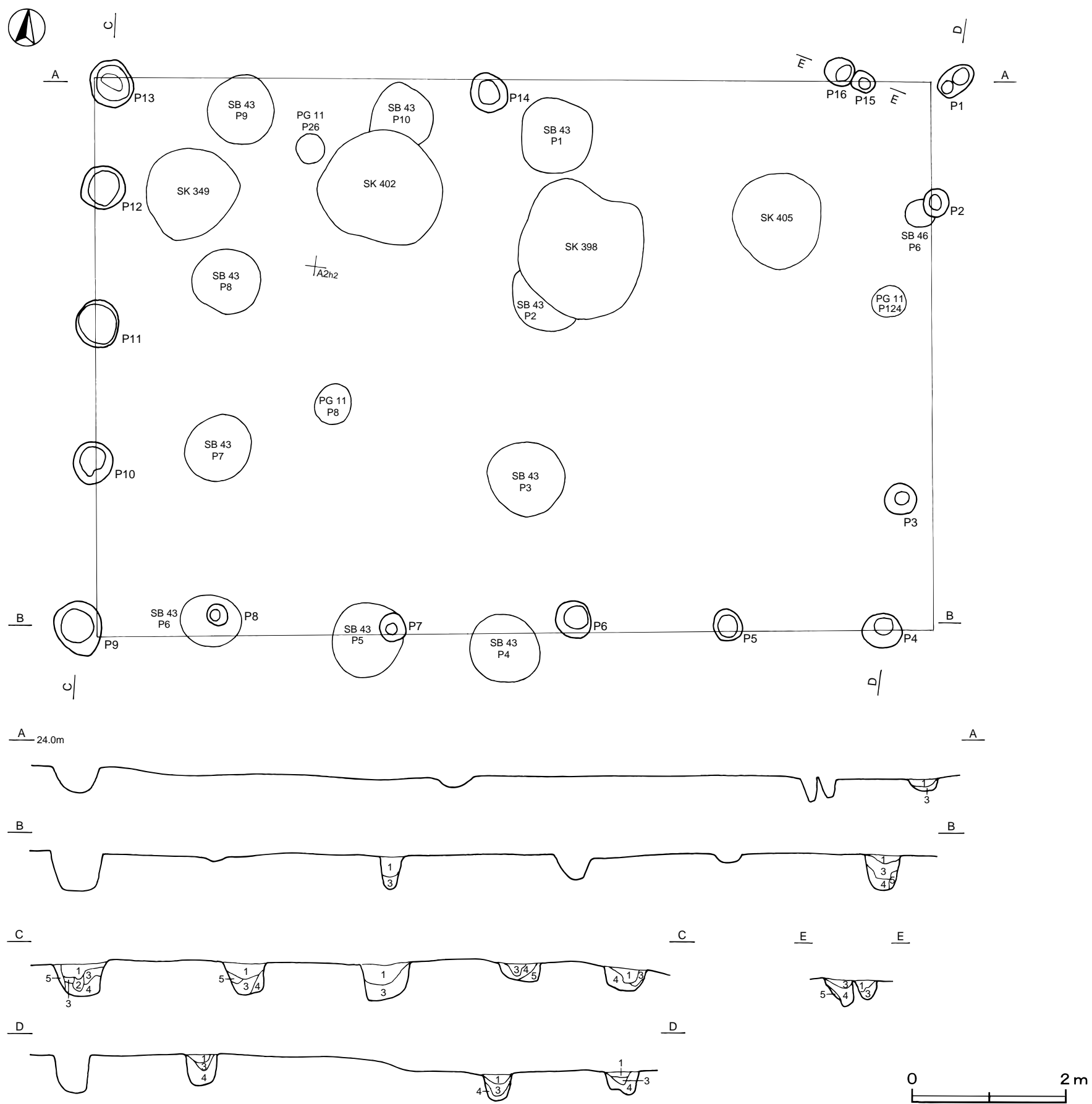
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1301	須恵器	坏	[14.2]	(4.4)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り	P 1 覆土中	5%

### 第48号掘立柱建物跡 (第174図)

**位置** 調査区東部の A 2 h2区, 標高24mの台地の縁辺部に位置している。

**重複関係** 第43・46号掘立柱建物跡を掘り込んでおり, 第349・398・402・405号土坑, 第11号ピット群と重複しているが新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行5間, 梁行4間の側柱建物跡で, 桁行方向N - 83° - Eの東西棟である。規模は桁行10.8m, 梁行6.9mで, 面積は74.52㎡である。柱間寸法は, 桁行が1.8~4.8m (6~16尺), 梁行が1.5~3.9m (5~13尺)で, 不規則である。



第174图 第48号掘立柱建物跡実測图

**柱穴** 16か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径20～45cm、短径15～28cmである。深さは10～38cmで、断面形は逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- |       |                 |       |                   |
|-------|-----------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量  | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 褐色  | ロームブロック中量         |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |       |                   |

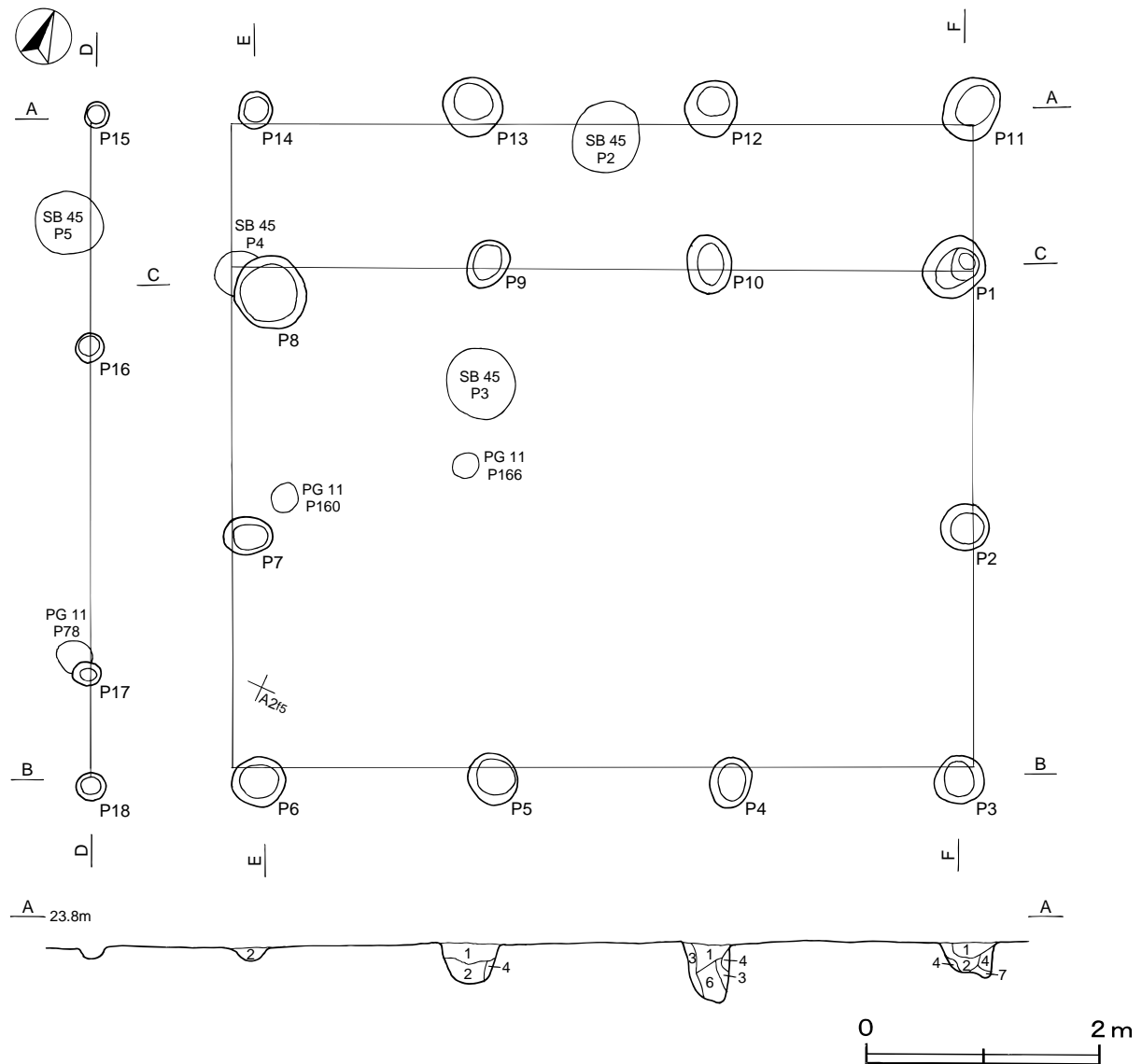
**遺物出土状況** 土師器片 8点 (甕), 須恵器片 3点 (坏1, 甕2) が出土している。いずれも細片で図示できない。

**所見** 時期は, 柱穴が極めて小規模であることから中世以降と推測される。

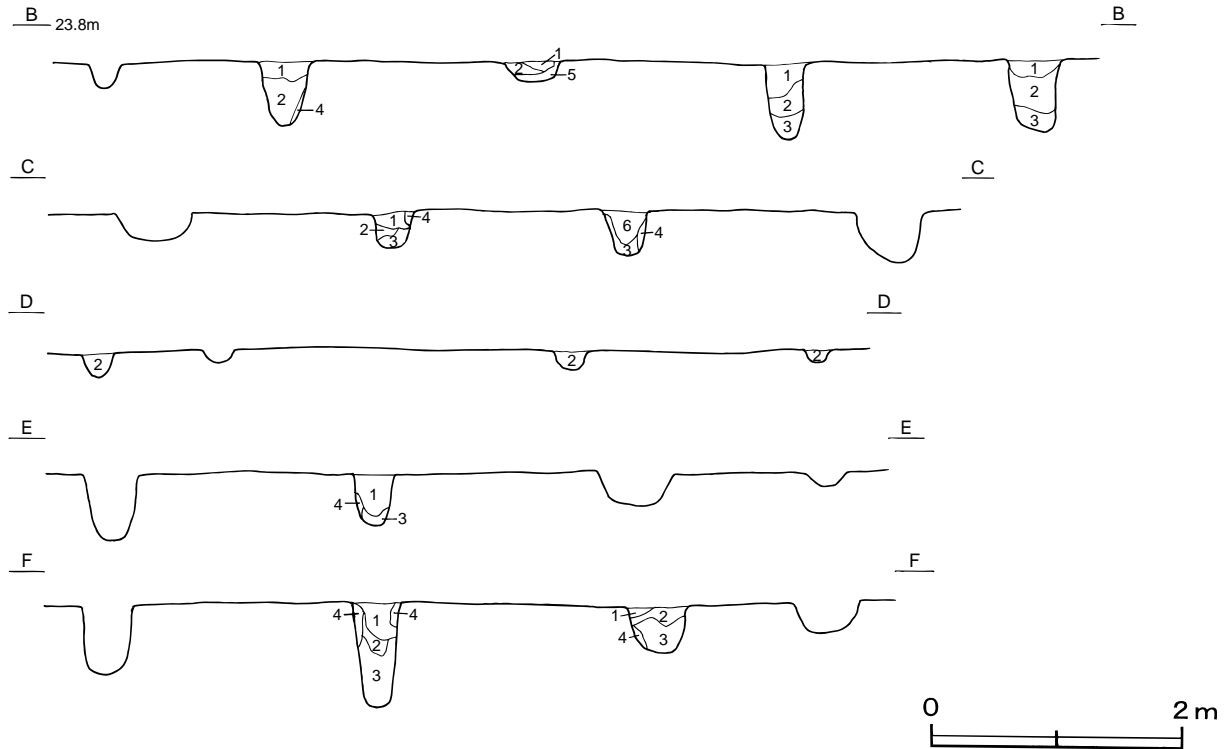
### 第50号掘立柱建物跡 (第175・176図)

**位置** 調査区東部の A 2 e4区, 標高24mの台地の縁辺部に位置している。

**重複関係** 第45号掘立柱建物跡, 第11号ピット群を掘り込んでいる。



第175図 第50号掘立柱建物跡実測図(1)



第176図 第50号掘立柱建物跡実測図(2)

**規模と構造** 桁行3間、梁行2間の身舎の北平面に庇が付く側柱建物跡で、桁行方向N-67°-Eの東西棟である。西部にも梁行に平行した柱穴列を伴っている。身舎の規模は、桁行6.3m、梁行4.2mで、面積は24.64㎡である。柱間寸法は、桁行が2.1m(7尺)、梁行が2.1m(7尺)を基調としており、均等に配置されている。

**柱穴** 18か所。平面形は円形または楕円形で、規模は、身舎・庇とも長径62~42cm、短径62~34cmで、西部柱穴列の径は24~20cmである。深さは、身舎・庇とも13~83cm、西部の柱穴列は11~20cmで、断面形はU字状または逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土で、締まりの弱い暗褐色土が主体である。

土層解説(各柱穴共通)

- |       |                  |       |                       |
|-------|------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量     | 5 暗褐色 | ローム粒子中量               |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量        | 7 暗褐色 | ロームブロック中量             |
| 4 褐色  | ロームブロック中量        |       |                       |

**遺物出土状況** 土師器片4点(坏2, 甕2)が各柱穴から出土しているが、いずれも細片で図示できない。

**所見** 西側の柱穴列は、身舎と柱間寸法が揃わないことから身舎に付随した柵跡の可能性が考えられる。時期は、東部に隣接する第44号掘立柱建物跡と主軸方向が一致することから18世紀代と推定される。

表8 中世・近世掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 (桁×梁)	規模(m) (長軸×短軸)	面積 (㎡)	構造	桁立柱間 (m)	梁立柱間 (m)	柱穴平面形	深さ (cm)	主な出土遺物	時期	備考 (旧新)
26	A-1e9	N-1°-W	3×2	7.2×4.2	30.24	側柱	2.4	2.1	円形・楕円形	11~40	土師器	中世以降	
29	A-1i0	N-88°-E	3×2	7.2×4.2	30.24	側柱	2.4	2.1	円形・楕円形	14~38	土師器・ 須恵器	中世以降	
30	A-1d5	N-7°-W	3×2	8.1×4.8	38.88	側柱	2.7	2.4	円形・楕円形	9~60	土師器・ 須恵器	中世以降	SI116A・B 本跡
32	A-1g4	-	2×2	4.2×4.2	17.64	側柱	2.1	2.1	円形・楕円形	20~40	土師器・ 須恵器	中世以降	SI107A_3号鍛冶工房 本跡 SD9
34	Z-4j8	N-81°-W	4×1	6.0×3.9	23.40	側柱	1.5	3.9	楕円形・ 不整形円形	39~70	陶器・石器・ 鉄製品	17世紀前葉	
35	Z-3j1	N-9°-E	5×2	7.2×3.6	25.92	総柱	1.8 南端0.9	1.8	円形・楕円形	20~40	磁器	17世紀後葉~ 18世紀前葉	

番号	位置	桁行方向	柱間数 (桁×梁)	規模 (m) (長軸×短軸)	面積 (m <sup>2</sup> )	構造	桁行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	柱穴平面形	深さ (cm)	主な出土遺物	時期	備考 (旧 新)
36	Z-4i0	N-6°-E	3×2	5.4×3.6	19.44	側柱	1.8	1.8	円形・楕円形	20-40	土師器・須恵器	17世紀前葉	
40	A-2h5	N-27°-W	3×2	5.4×3.6	19.44	側柱	1.8	1.8	円形	15-32		中世以降	
41	Z-4i7	N-85°-W	5×2	10.5×4.2	44.1	側柱	2.1	2.1	円形・楕円形	35-70	土師質土器・陶器・磁器	17世紀後葉~18世紀前葉	
44	A-2e7	N-68°-E	3×2	7.2×4.2	30.24	側柱	2.4	2.1	円形・楕円形	15-51	土師器・須恵器	18世紀代	
46	A-2g4	N-15°-W	2×2	4.8×3.6	17.28	側柱	2.4	1.8	円形	12-34	須恵器	18世紀以前	本跡 SB48
48	A-2h2	N-83°-E	5×4	10.8×6.9	74.52	側柱	1.8-4.8	1.5-3.9	円形・楕円形	10-38	土師器・須恵器	中世以降	SB43・46 本跡
50	A-2e4	N-67°-E	3×2	6.3×4.2	24.64	側柱	2.1	2.1	円形・楕円形	13-83	土師器	18世紀代	SB45 PG11 本跡

## (2) 溝跡

### 第11A号溝跡 (第177・178図, 付図)

**位置** 調査区西部のA-2b1~A-2h1区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

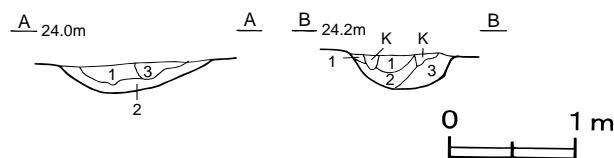
**重複関係** 第11B号溝跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 北部, 南部が調査区域外に延びている。南北方向 (N-4°-E) へ直線的に延びており, 確認された長さは22.20mで, 上幅1.12~1.30m, 下幅0.28~0.75m, 深さ44~62cmである。断面形はU字状である。

**覆土** 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

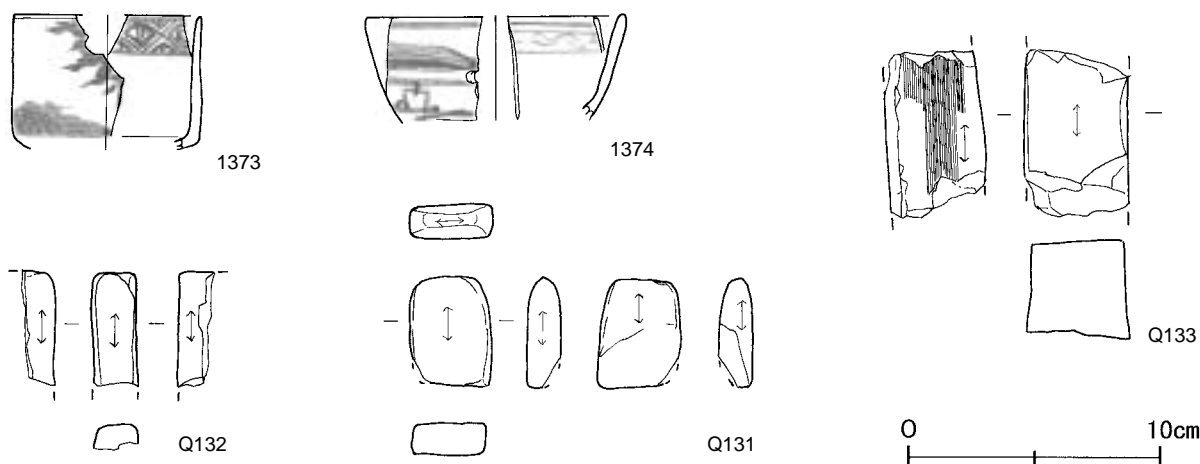


**遺物出土状況** 瓦質土器片 5 点 (鉢), 陶器片 3 点 (碗), 磁器片 3 点 (碗), 石器 3 点 (砥石),

第177図 第11A号溝跡実測図

鉄製品 3 点 (不明) が出土している。また, 流れ込んだ土師器片 19 点 (甕), 須恵器片 9 点 (坏 2, 盤 1, 甕 6) も出土している。

**所見** 時期は出土土器から18世紀後半から19世紀初頭と考えられる。



第178図 第11A号溝跡出土遺物実測図

### 第11A号溝跡出土遺物観察表 (第178図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1373	磁器	染付筒形碗	[7.6]	(5.3)	-	緻密	透明釉	明青灰・灰白	良好	ロク口整形	覆土中	10%瀬戸・美濃
1374	磁器	染付碗	[10.0]	(4.1)	-	緻密	透明釉	明青灰・灰白	良好	ロク口整形	覆土中	5%肥前

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q131	砥石	4.3	3.3	1.3	(24.0)	凝灰岩	砥面5面	覆土中	PL47
Q132	砥石	(4.5)	1.7	(1.4)	(16.4)	安山岩	砥面3面	覆土中	
Q133	砥石	(6.7)	4.5	4.0	(162.8)	安山岩	鋸による切削痕 砥面2面	覆土中	PL47

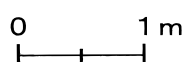
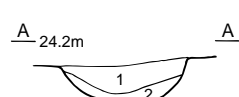
### 第11B号溝跡 (第179図, 付図)

**位置** 調査区西部のA・3e1～A・2h1区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第11A号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 南部が調査区域外に延びている。南北方向(N-2°-E)へ直線的に延びており, 確認された長さは10.50mで, 上幅0.88～1.00m, 下幅0.30～0.60m, 深さ23～37cmである。断面形はU字状である。

**覆土** 2層に分層される。ロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており人為堆積と考えられる。



土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

**所見** 時期は, 重複関係から18世紀以前と考えられる。

第179図 第11B号溝跡実測図

### 第13号溝跡 (第180・181図, 付図)

**位置** 調査区西部のA・3c8～A・3g8区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第129・130号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 両端部が調査区域外に延びている。南北方向(N-1°-E)へ直線的に延びており, 確認された長さは17.30mで, 上幅1.12～1.30m, 下幅0.28～0.75m, 深さ44～62cmである。断面形はU字状で, 東壁がやや緩やかに立ち上がっている。

**覆土** 4層に分層される。ロームブロックを含み, 第4層には焼土・炭化物も中量含まれていることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 焼土粒子・炭化物中量

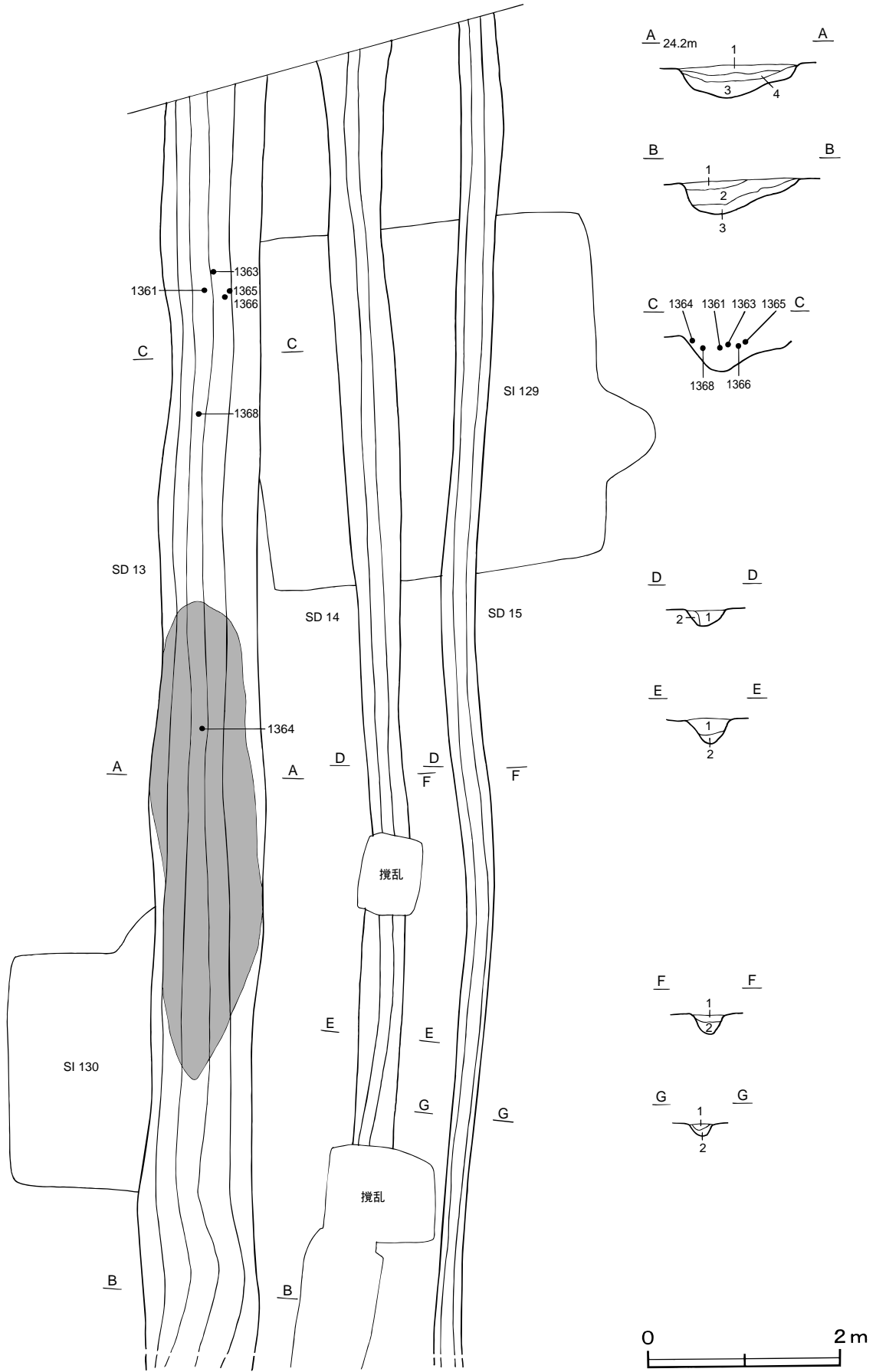
**遺物出土状況** 土師質土器片29点(小皿4, 鍋類25), 瓦質土器片4点(火鉢カ), 陶器片8点(碗3, 皿1, 鉢2, 壺類2), 磁器片7点(碗), 鉄滓2点が出土している。1361・1365・1366は, 北部の覆土上層から集中して出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から18世紀後半と考えられる。

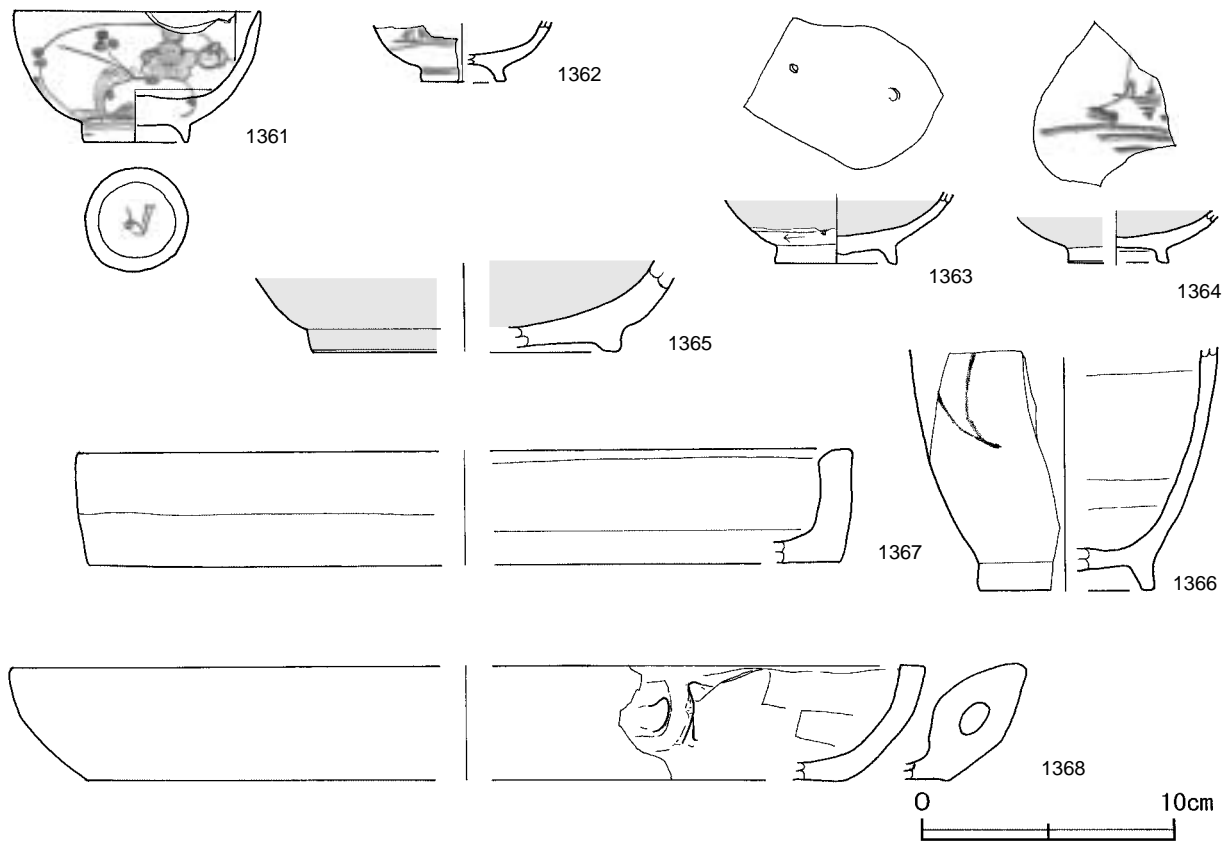


1A-3d8

1A-3f8



第180图 第13·14·15号沟迹实测图



第181図 第13号溝跡出土遺物実測図

第13号溝跡出土遺物観察表 (第181図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1361	磁器	染付碗	[9.6]	5.2	4.0	緻密	透明釉	明青灰・灰白	良好	ロクロ整形 高台貼り付け	覆土上層	55% PL44 瀬戸・美濃
1362	磁器	染付碗	-	(2.3)	[3.2]	緻密	透明釉	明青灰・灰白	良好	ロクロ整形 高台貼り付け	覆土中	5% 肥前
1363	陶器	碗	-	(2.8)	4.7	緻密	鉛釉	淡黄・褐	良好	ロクロ整形 内面見込みトチン痕 高台削り出し	覆土上層	20% 瀬戸・美濃
1364	陶器	皿	-	(2.0)	[3.8]	緻密	灰釉	淡黄・浅黄	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け 内面鉄釉による絵付け	覆土上層	20% 瀬戸・美濃
1365	陶器	鉢	-	(3.6)	[12.0]	緻密	灰釉	淡黄・浅黄	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け 内面楕円形の釉剥ぎ	覆土上層	10% 瀬戸・美濃
1366	磁器	染付カ徳利	-	(9.6)	[7.0]	緻密	長石釉	橙・灰白	不良	ロクロ整形 高台貼り付け	覆土上層	10% 不明
1367	瓦質土器	火鉢カ	[30.8]	4.8	[30.0]	長石・石英・雲母		灰オリーブ	普通	体部・底部ヘラ削り	覆土中	5%
1368	土師質土器	焙烙鍋	[36.0]	4.5	[30.0]	長石・石英・雲母		にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ削り 耳部貼り付け	覆土上層	5%

#### 第14号溝跡 (第180図, 付図)

**位置** 調査区西部のA・3c9～A・2g8区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第129号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 両端部が調査区域外に延びている。南北方向 (N - 2° - E) へ直線的に延びており, 確認された長さは16.60mで, 上幅0.32～0.54m, 下幅0.10～0.15m, 深さ18～25cmである。断面形はU字状である。

**覆土** 2層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

**遺物出土状況** 瓦質土器片3点 (鉢), 陶器片2点 (皿), 磁器片2点 (不明) が出土している。また, 流れ込



んだ土師器片10点 (坏1, 甕9), 須恵器片1点 (甕) も出土している。

所見 時期は, 重複関係及び出土土器から19世紀代と考えられる。

### 第15号溝跡 (第180・182図, 付図)

位置 調査区西部のA・3c9～A・2g9区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第129号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北部, 南部が調査区域外に延びている。南北方向 (N - 3° - E) に直線的に延びており, 確認された長さは18.20mで, 上幅0.24～0.44m, 下幅0.10～0.18m, 深さ14～20cmである。断面形はU字状である。

覆土 2層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており人為堆積と考えられる。

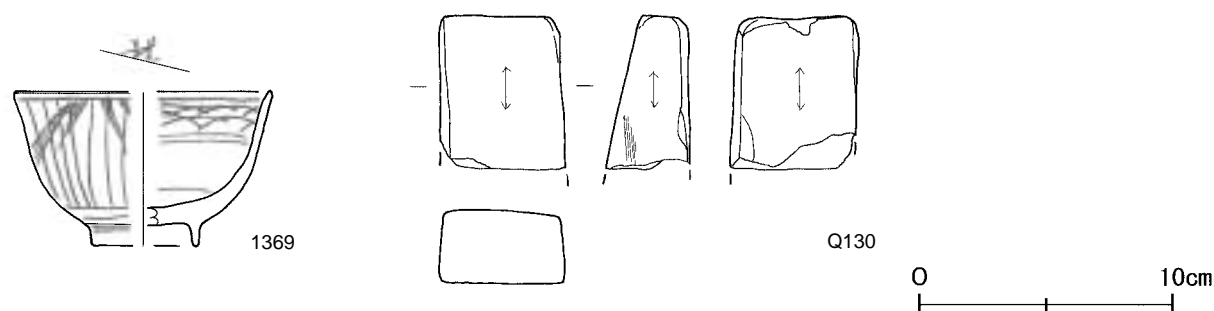
土層解説

1 極暗褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片5点 (鍋類), 陶器片2点 (碗1, 播鉢1), 磁器片2点 (碗1, 壺1), 石器1点 (砥石) が出土している。また, 流れ込んだ土師器片3点 (甕), 須恵器片1点 (甕) も出土している。

所見 時期は, 重複関係及び出土土器から19世紀代と考えられる。



第182図 第15号溝跡出土遺物実測図

### 第15号溝跡出土遺物観察表 (第182図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1369	磁器	端反碗	[10.0]	6.1	[4.1]	緻密	透明釉	明青灰・灰白	良好	口く口整形 高台貼り付け	覆土中	30% 肥前
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
Q130	砥石	(5.1)	6.1	3.4	(161.1)	凝灰岩	砥面3面			覆土中	PL47	

表9 中世・近世溝跡一覧表

番号	位置	方向	断面形	規模 (m)				壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
				長さ	上幅	下幅	深さ (cm)					
11A	A・2b1～A・2h1	N・4°・E	U字状	(22.20)	1.12～1.30	0.28～0.75	44～62	外傾	弧状	人為	瓦質土器・陶器・磁器・石器	SD11B 本跡 18～19世紀
11B	A・3e1～A・2h1	N・2°・E	U字状	(10.50)	0.88～1.00	0.30～0.60	23～37	外傾	弧状	人為		本跡 SD11A 18世紀以前
13	A・3c8～A・3g8	N・1°・E	U字状	(17.30)	1.12～1.30	0.28～0.75	44～62	外傾	弧状	人為	土師質土器・陶器・磁器	SI129・130 本跡 18世紀後半
14	A・3c9～A・2g8	N・2°・E	U字状	(16.60)	0.32～0.54	0.10～0.15	18～25	外傾	弧状	人為	瓦質土器・陶器・磁器	SI129 本跡 19世紀代
15	A・3c9～A・2g9	N・3°・E	U字状	(18.20)	0.24～0.44	0.10～0.18	14～20	外傾	弧状	人為	土師質土器・陶器・磁器	SI129 本跡 19世紀代

(3) 井戸跡

第4号井戸跡 (第183図)

**位置** 調査区東部のA 2h7区, 標高24mの台地の縁辺部に位置している。

**重複関係** 第38号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 径2.50mの円形である。確認面から漏斗状に深さ74~130cm掘り込んだ後, 下部は円筒状に掘り込んでいる。1.90mほど掘り下げたが, 以下は湧水のため確認できなかった。

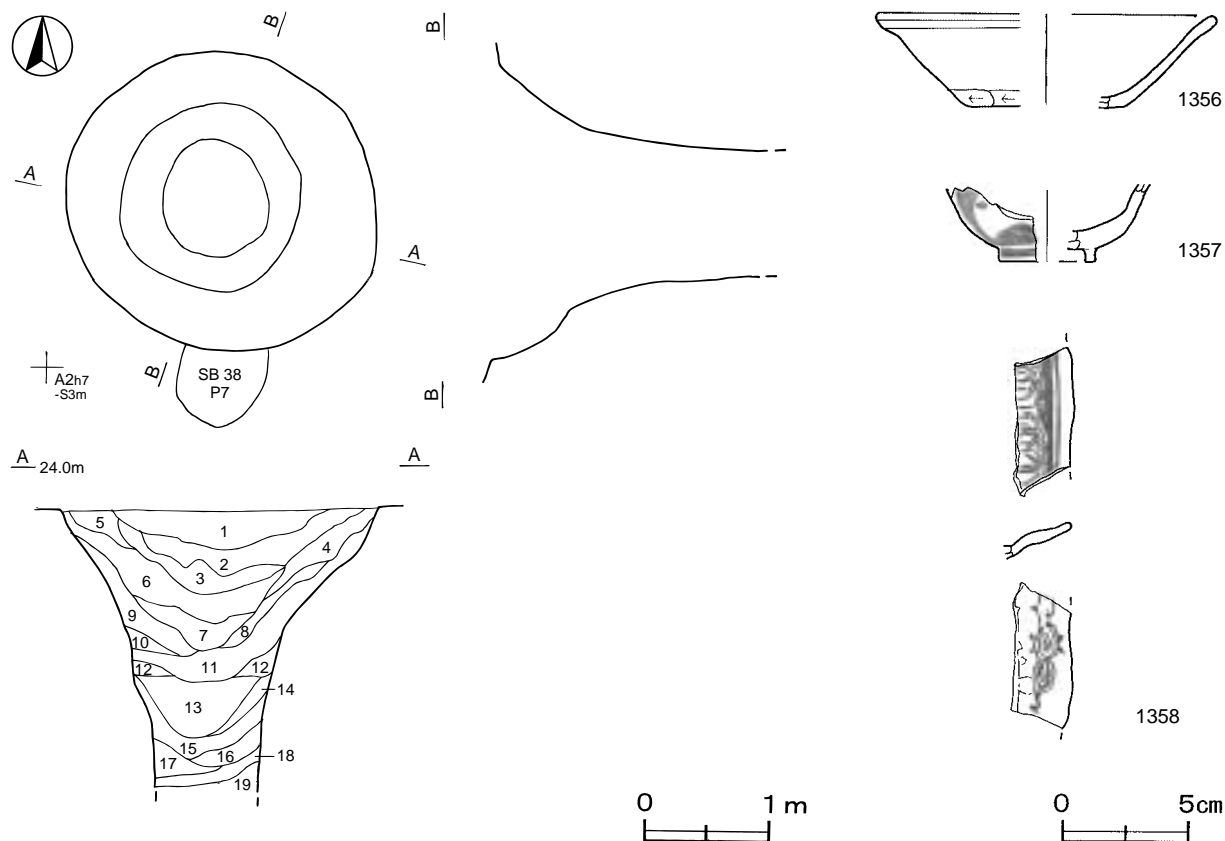
**覆土** 19層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており, 人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	10 褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量	12 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	13 黒褐色	ロームブロック微量
5 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	14 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
6 黒褐色	炭化物・ローム粒子微量	15 暗褐色	ロームブロック微量
7 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量	16 褐色	ロームブロック少量
8 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	17 褐色	ロームブロック中量
9 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	18 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
		19 暗褐色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 磁器片2点(碗, 皿)が出土している。また, 流れ込んだ土師器片19点(坏3, 甕16), 須恵器片20点(坏4, 蓋1, 甕14, 不明1)も出土している。

**所見** 素掘りの井戸跡である。廃絶時期は出土土器から19世紀代と考えられる。



第183図 第4号井戸跡・出土遺物実測図

第4号井戸跡出土遺物観察表 (第183図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土 釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1356	須恵器	坏	[13.1]	3.7	[6.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端～底部手持ちへら削り	覆土中	10%
1357	磁器	染付碗	-	(2.9)	[3.8]	緻密 透明釉	明青灰・灰白	良好	ロクロナデ	覆土中	5% 瀬戸・美濃
1358	磁器	染付皿	-	(1.4)	-	緻密 透明釉	明青灰・灰白	良好	ロクロナデ	覆土中	5% 瀬戸・美濃

第5号井戸跡 (第184図)

**位置** 調査区東部のA 2f1区，標高24mの台地の縁辺部に位置している。

**規模と形状** 径2.30mの円形である。確認面から漏斗状に深さ54～78cm掘り込んだ後，下部は円筒状に掘り込んでいる。1.95mほど掘り下げたが，以下は漏水のため確認できなかった。

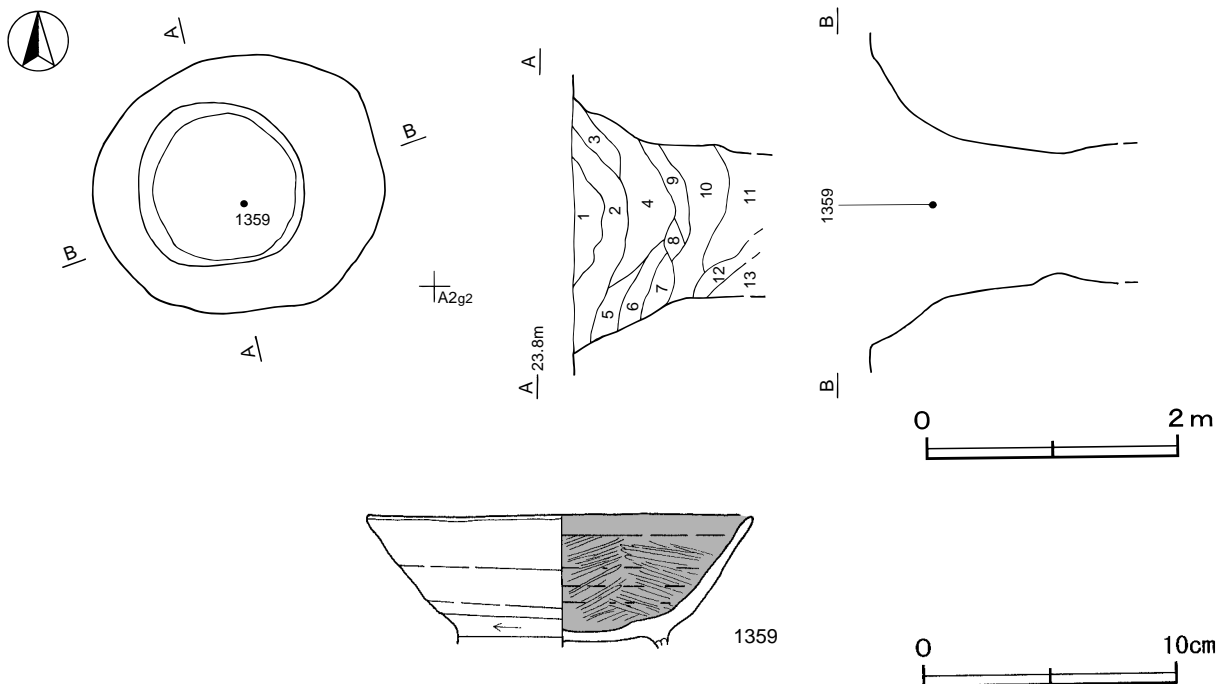
**覆土** 13層に分層される。各層にロームブロック，砂質粘土ブロックを含む不均質な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                                |        |                                |
|-------|--------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量          | 8 暗褐色  | ロームブロック少量，炭化粒子微量               |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量            | 9 暗褐色  | 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量      | 10 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量      |
| 4 暗褐色 | 炭化粒子少量，ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量，砂質粘土ブロック・炭化粒子微量      |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量          | 12 褐色  | ロームブロック多量                      |
| 6 褐色  | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量          | 13 褐色  | ロームブロック中量                      |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量                      |        |                                |

**遺物出土状況** 土師質土器片2点（鍋類）が出土している。また，流れ込んだ土師器片35点（坏6，甕27，高台付坏2），須恵器片13点（坏7，甕5，瓶類1）も出土している。1359は覆土上層から出土しており，埋め戻す際に流れ込んだものと考えられる。

**所見** 素掘りの井戸跡である。時期は，出土土器から近世と考えられる。



第184図 第5号井戸跡・出土遺物実測図

第5号井戸跡出土遺物観察表 (第184図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1359	土師器	高台付坏	15.0	(52)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面上端～底部回転へら削り 高台貼り付け 内面へら磨き	覆土上層	95% PL35

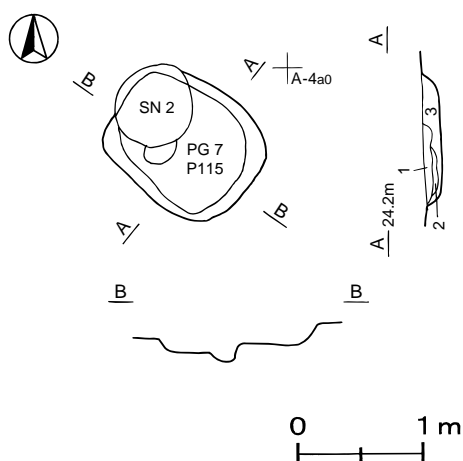
表10 中世・近世井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
				長径×短径 (m)	深さ (m)					
4	A 2 h7	N・0°	円形	2.50×2.50	(1.90)	漏斗・垂直	-	人為	磁器	SB38 本跡 19世紀代
5	A 2 f1	N・0°	円形	2.30×2.30	(1.95)	漏斗・垂直	-	人為	土師器・土師質土器	近世

(4) 土坑

第370号土坑 (第185図)

位置 調査区西部のA・4a9区，標高24mの平坦な台地上に位置している。



**重複関係** 第7号ピット群・第2号粘土貼土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸1.00m，短軸0.75mの隅丸長方形で，長軸方向はN - 51° - Wである。深さ20cm，底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

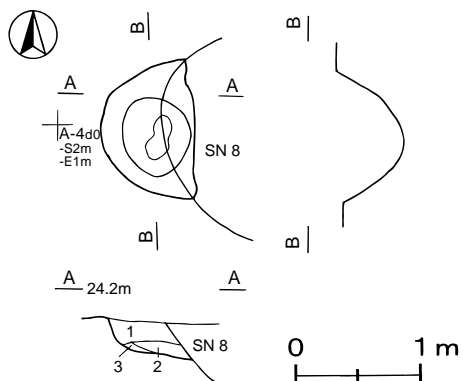
- 1 暗褐色 炭化粒子中量，ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第185図 第370号土坑実測図

**所見** 北西部に隣接する第34・41号掘立柱建物跡に付随した土坑と推定される。時期は，重複関係から18世紀以前と考えられる。

第375号土坑 (第186図)

位置 調査区西部のA・4d0区，標高24mの平坦な台地上に位置している。



**重複関係** 第8号粘土貼土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 南北径は1.00m，東西径は0.75mだけが確認されており，円形と推測される。深さ37cm，底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 3層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量

第186図 第375号土坑実測図

**所見** 隣接する第7・10号粘土貼土坑及び重複する第8号粘土貼土坑と規模が近いことから、関連していると考えられる。時期は、重複関係から18世紀以前と考えられる。

表11 中世・近世土坑一覧表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考(時期)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(cm)					
370	A・4a9	N・51°・W	隅丸長方形	1.00 × 0.75	20	外傾	皿状	人為		18世紀以前 本跡 PG7,SN2
375	A・4d0	N・0°	円形	1.00 × (0.75)	37	外傾	皿状	人為		18世紀以前 本跡 SN8

(5) 粘土貼土坑

**第1号粘土貼土坑** (第187図)

**位置** 調査区西部のZ・4i9区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長径1.13m，短径0.75mの楕円形で，長径方向はN - 4° - Eである。深さ14cm，底面は皿状で，壁は緩やかに立ち上がっている。南部の壁面から底面にかけて厚さ4～6cmの粘土が貼られている。

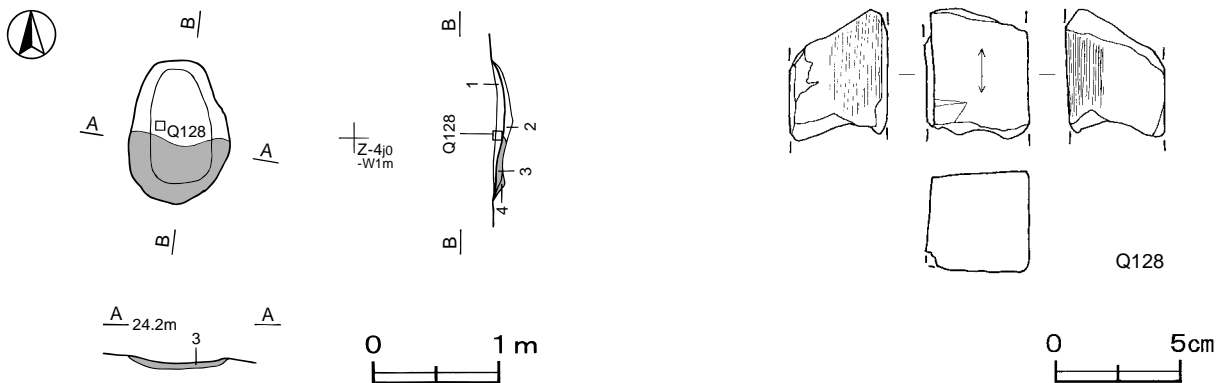
**覆土** 4層に分層される。第3・4層が粘土層である。

土層解説

- |       |                            |          |                      |
|-------|----------------------------|----------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量 | 3 灰色     | 粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量             | 4 オリーブ黒色 | 粘土ブロック中量，ローム粒子微量     |

**遺物出土状況** 土師質土器片3点(鍋類)，磁器片1点(碗)，石器1点(砥石)，鉄製品1点(不明)が出土している。また，流れ込んだ土師器片1点(甕)も出土している。

**所見** 形状から墓坑と推測される。時期は出土土器から19世紀代と考えられる。



第187図 第1号粘土貼土坑・出土遺物実測図

**第1号粘土貼土坑出土遺物観察表** (第187図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q128	砥石	(5.1)	4.1	3.9	(110.6)	珪化変質岩	鋸による切削痕 砥面1面	覆土上層	

**第2号粘土貼土坑** (第188図)

**位置** 調査区西部のA・4a9区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第370号土坑，第7号ピット群を掘り込んでいる。

**規模と形状** 径0.64mの円形で，深さ18cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに立ち上がっている。壁面に厚さ3～5cmの粘土が貼られている。

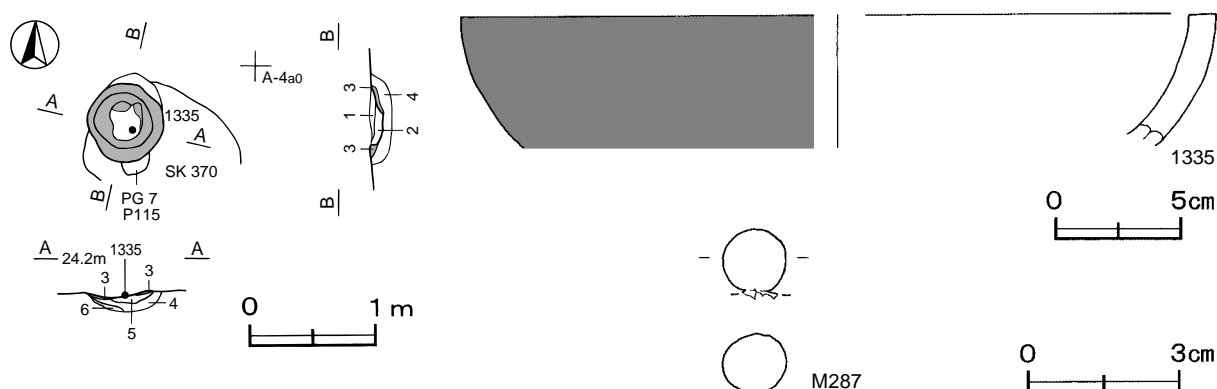
**覆土** 6層に分層される。第3層が粘土層で，第4～6層は埋土である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量	3	灰色	粘土ブロック多量
2	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	4	褐色	ロームブロック中量
			5	褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
			6	褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片7点（小皿1，鍋6），陶器片3点（碗），銅製品1点（鉄砲玉）が出土している。また，流れ込んだ土師器片1点も出土している。1335は中央部の底面から出土している。

**所見** 形状から墓坑と推測される。時期は出土土器から19世紀代と考えられる。



第188図 第2号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第2号粘土貼土坑出土遺物観察表（第188図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1335	土師質土器	鍋類	[30.0]	(5.2)	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	内・外面ヘラ削り	覆土上層	5%外面煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M287	鉄砲玉	-	1.3	-	6.65	銅	3 刃玉	覆土中	

**第3号粘土貼土坑**（第189図）

**位置** 調査区西部のA・3b1区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第5号粘土貼土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 径1.10mの円形で，深さは23cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに立ち上がっている。北東壁・南西壁から底面にかけて厚さ2～6cmの粘土が貼られている。

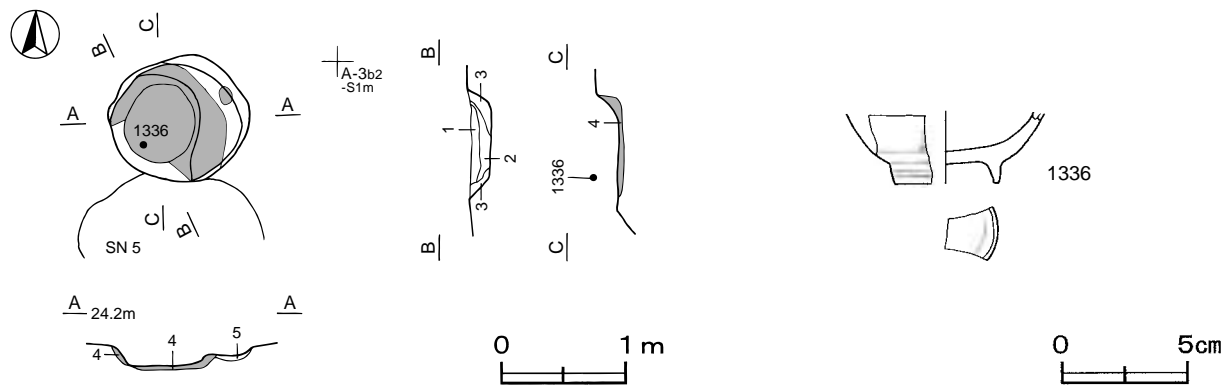
**覆土** 5層に分層される。第4層が粘土層である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量	4	暗オリーブ色	粘土ブロック多量
2	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
3	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量			

**遺物出土状況** 土師質土器片1点（鍋類），磁器片1点（碗）が出土している。また，流れ込んだ土師器片3点（甕）も出土している。1336は南西部の覆土上層から出土している。

**所見** 形状から墓坑と推測される。時期は，重複関係及び出土土器から19世紀代と考えられる。



第189図 第3号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第3号粘土貼土坑出土遺物観察表 (第189図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1336	磁器	碗	-	(2.9)	[4.0]	緻密	透明釉	明青灰・灰白	良好	口ク口整形	覆土上層	5%肥前

#### 第4号粘土貼土坑 (第190図)

**位置** 調査区西部のA・3b2区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長径1.12m，短径0.92mの楕円形で，長径方向はN - 90°である。深さ33cm，底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。壁の下端から底面にかけて厚さ1～5cmの粘土が貼られている。

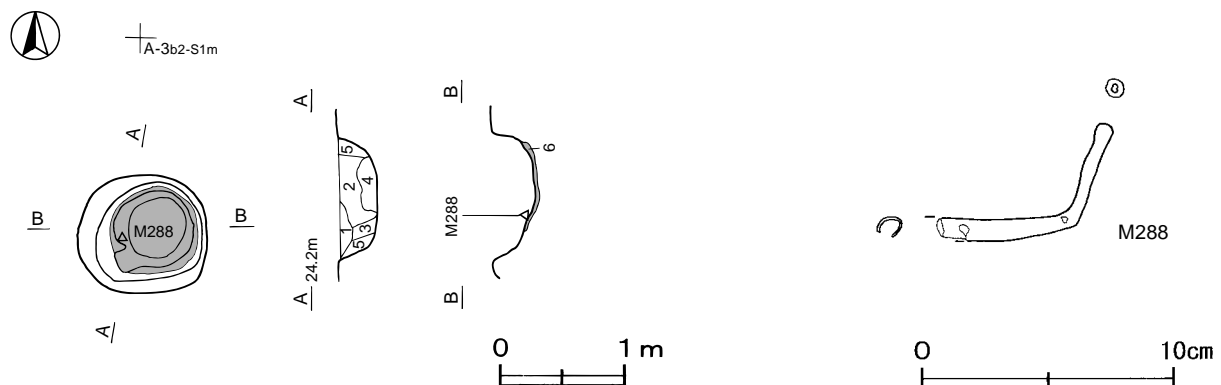
**覆土** 6層に分層される。第6層が粘土層である。

##### 土層解説

- |        |                     |       |                       |
|--------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量        | 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色  | ローム粒子中量，炭化粒子微量      | 5 褐色  | ロームブロック中量             |
| 3 暗褐色  | ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 6 灰色  | 粘土ブロック多量              |

**遺物出土状況** 土師質土器片3点（鍋類2，不明1），銅製品1点（煙管）のほかに，流入した縄文土器片1点，土師器片1点（甕），須恵器片3点（坏）も出土している。

**所見** 形状から墓坑と推測される。時期は出土土器及び重複関係から18世紀以降と考えられる。



第190図 第4号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第4号粘土貼土坑出土遺物観察表 (第190図)

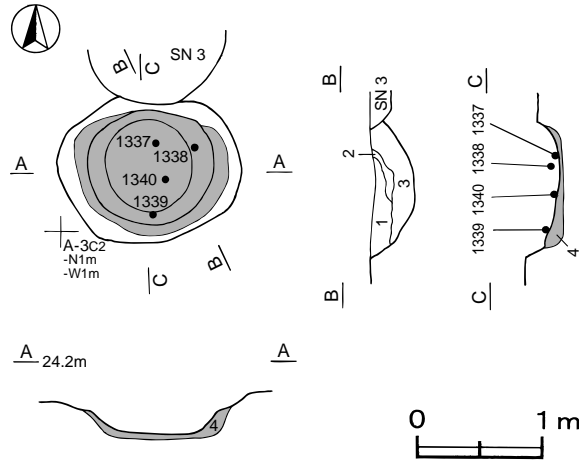
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M288	煙管	(6.9)	(0.7)	0.7	(5.4)	銅	吸口 銅板丸め後蝋付け	底面	PL49

**第5号粘土貼土坑 (第191・192図)**

**位置** 調査区西部のA・3b1区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第3号粘土貼土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径1.46mで，短径は1.15mだけ確認されており，楕円形と推測される。長径方向はN - 90°である。深さ34cm，底面は皿状で，壁は緩やかに立ち上がっている。東壁・西壁から底面にかけて厚さ3～11cmの粘土が貼られている。



第191図 第5号粘土貼土坑実測図

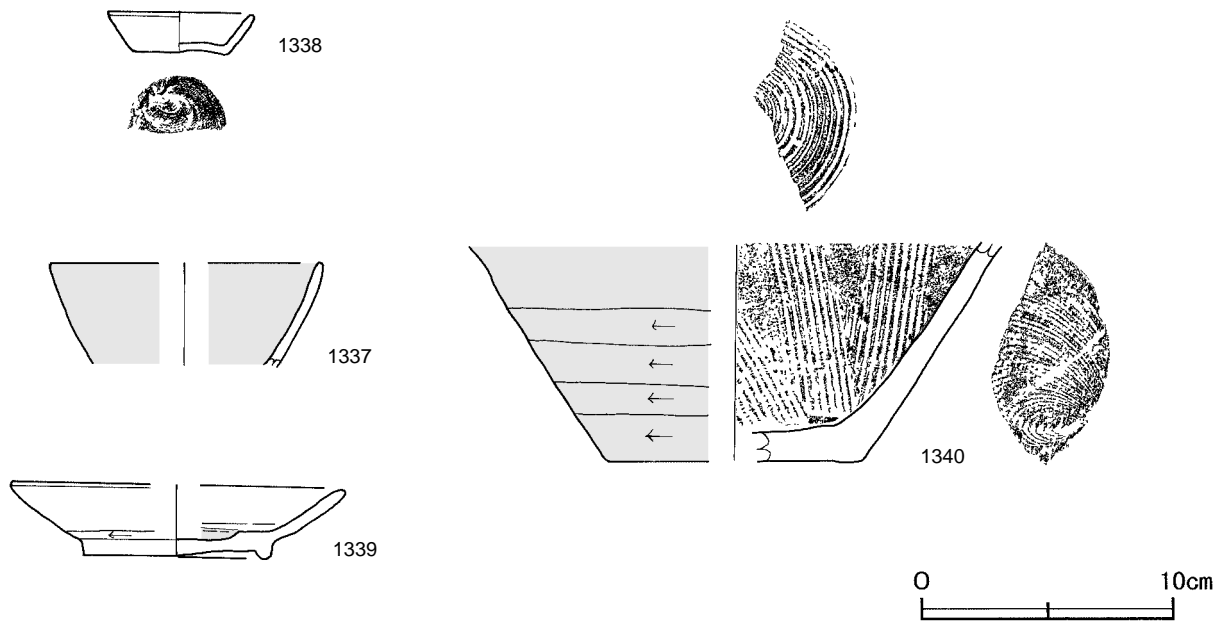
**覆土** 4層に分層される。第4層が粘土層である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量，炭化物・粘土粒子微量
- 4 灰オリーブ色 粘土ブロック多量

**遺物出土状況** 土師質土器片4点（小皿1，鍋類3），陶器片5点（碗2，皿1，播鉢1，不明1），土製品1点（不明）が出土している。また，流入した縄文土器片1点，石器1点（石核）も出土している。1339・340は南部・中央部の底面からそれぞれ出土している。

**所見** 形状から墓坑と考えられる。時期は，重複関係及び出土土器から18世紀前半と考えられる。



第192図 第5号粘土貼土坑出土遺物実測図

**第5号粘土貼土坑出土遺物観察表 (第192図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1337	陶器	碗	[10.6]	(4.0)	-	緻密	灰釉	淡黄・浅黄	良好	口クロ整形	底面	5% 瀬戸・美濃
1338	土師質土器	小皿	5.8	1.5	3.6	雲母		橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転系切り	覆土下層	55%
1339	陶器	輪沓皿	[13.0]	2.8	6.8	緻密	灰釉	灰白・淡黄	良好	口クロ整形 削り出し高台 内面輪状に釉剥ぎ	覆土下層	50% PL43 瀬戸・美濃
1340	陶器	播鉢	-	(8.7)	[10.2]	長石・石英	銹釉	極暗赤褐 明黄褐	良好	体部外面下端回転ヘラ削り 内・外面施釉 底部回転系切り	底面	10% 瀬戸・美濃



### 第6号粘土貼土坑 (第193図)

**位置** 調査区西部のA・4d0区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第11号粘土貼土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径1.45m，短径1.35mの円形である。深さ23cm，底面は皿状で，壁は緩やかに立ち上がっている。底面の外周に厚さ2cmの粘土が貼られている。

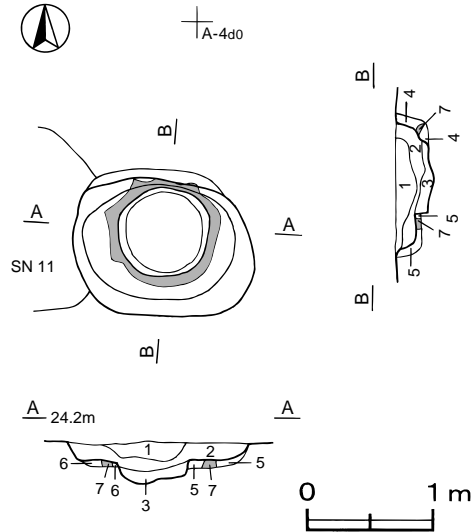
**覆土** 7層に分層される。第7層が粘土層である。

**土層解説**

- |   |      |   |                               |
|---|------|---|-------------------------------|
| 1 | 褐    | 色 | 粘土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量   |
| 2 | 暗褐   | 色 | ロームブロック・粘土ブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量 |
| 3 | 褐    | 色 | ロームブロック中量，炭化粒子少量，粘土粒子微量       |
| 4 | 褐    | 色 | 炭化物多量，ロームブロック中量               |
| 5 | 褐    | 色 | ロームブロック中量，粘土粒子微量              |
| 6 | 灰褐   | 色 | ロームブロック中量，粘土ブロック少量            |
| 7 | 灰オリブ | 色 | 粘土ブロック多量                      |

**遺物出土状況** 土師質土器片3点（鍋類），陶器片4点（碗3，不明1），磁器片1点（不明），が出土している。また，流れ込んだ土師器片7点（甕），石器1点（剥片）も出土している。

**所見** 形状から墓坑と推測される。時期は，重複関係及び出土土器から18世紀代と考えられる。



第193図 第6号粘土貼土坑実測図

### 第7号粘土貼土坑 (第194図)

**位置** 調査区西部のA・4d0区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第8・10号粘土貼土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 径1.37mの円形で，深さは34cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに立ち上がっている。壁の全面に厚さ4～5cmの粘土が貼られている。

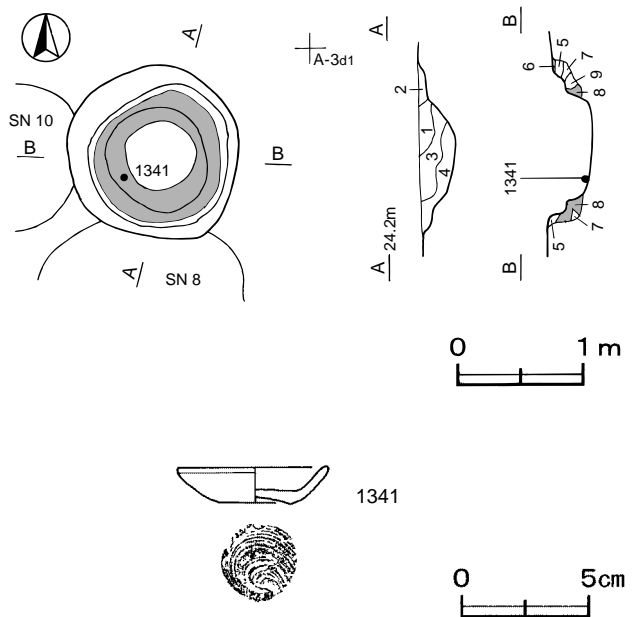
**覆土** 9層に分層される。第8層が粘土層である。

**土層解説**

- |   |      |   |                             |
|---|------|---|-----------------------------|
| 1 | 黒褐   | 色 | ロームブロック中量，焼土粒子・粘土粒子少量       |
| 2 | 褐    | 色 | ロームブロック・粘土ブロック中量，炭化物・焼土粒子少量 |
| 3 | 極暗褐  | 色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量  |
| 4 | 暗褐   | 色 | 粘土粒子中量，ロームブロック少量            |
| 5 | 暗褐   | 色 | 粘土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量          |
| 6 | 褐    | 色 | ロームブロック中量                   |
| 7 | 暗褐   | 色 | 炭化粒子中量，ロームブロック微量            |
| 8 | 灰オリブ | 色 | 粘土ブロック多量，炭化粒子微量             |
| 9 | 褐    | 色 | ローム粒子中量，粘土ブロック・炭化粒子微量       |

**遺物出土状況** 土師質土器1点（小皿）が出土している。また，流れ込んだ須恵器片1点（甕）も出土している。

**所見** 形状から墓坑と推測される。時期は出土土器から18世紀代と考えられる。



第194図 第7号粘土貼土坑・出土遺物実測図

### 第7号粘土貼土坑出土遺物観察表 (第194図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1341	土師質土器	小皿	5.8	1.4	3.0	雲母	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	底面	100% PL43

### 第8号粘土貼土坑 (第195図)

**位置** 調査区西部のA・4d0区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第375号土坑を掘り込み，第7号粘土貼土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 径1.70mの円形で，深さは50cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。壁の下端から底面にかけて厚さ3～5cmの粘土が貼られている。

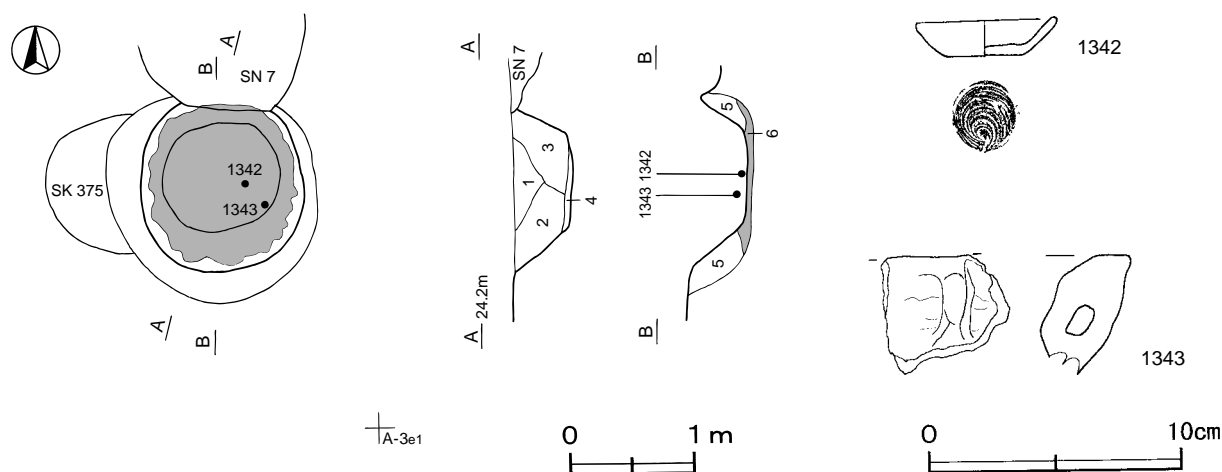
**覆土** 6層に分層される。第6層が粘土層である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量，粘土ブロック少量	4 褐色	ローム粒子多量，粘土ブロック中量，炭化粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック多量，粘土ブロック少量	5 黒褐色	焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック多量，粘土ブロック中量，焼土粒子微量	6 灰オリーブ色	粘土ブロック多量

**遺物出土状況** 土師質土器片3点（小皿1，鍋類2）が出土している。また，流入した縄文土器片3点（深鉢），土師器片3点（坏1，甕2），須恵器片2点（甕）も出土している。

**所見** 形状から墓坑と推測される。時期は，重複関係及び出土土器から17世紀中葉から18世紀中葉と考えられる。



第195図 第8号粘土貼土坑・出土遺物実測図

### 第8号粘土貼土坑出土遺物観察表 (第195図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1342	土師質土器	小皿	5.4	1.5	3.0	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	覆土下層	100% PL43
1343	土師質土器	焙烙鍋	-	(4.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	耳部貼り付け	覆土下層	5% 外面煤付着

### 第9号粘土貼土坑 (第196図)

**位置** 調査区西部のA・3a1区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

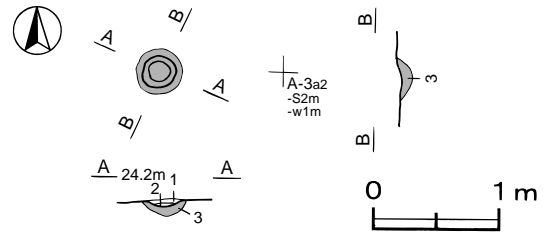
**規模と形状** 径0.35mの円形で，深さは5cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに立ち上がっている。全面に厚さ5～7cmの粘土が貼られている。

**覆土** 3層に分層される。第3層が粘土層である。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗オリーブ褐色 粘土ブロック中量，ローム粒子微量
- 3 暗オリーブ褐色 ロームブロック多量

**所見** 規模が極めて小さく，性格は不明である。時期は，南部の第3～5号粘土貼土坑と関連していると考えられることから，近世中葉から後葉と推測される。



第196図 第9号粘土貼土坑実測図

### 第10号粘土貼土坑 (第197・198図)

**位置** 調査区西部のA・4d0区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第7号粘土貼土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 南北径は1.15mで，東西径は1.05mだけ確認されており，円形と推測される。深さ38cm，底面は皿状であり，壁は直立している。壁の下端から底面にかけて厚さ3～5cmの粘土が貼られている。

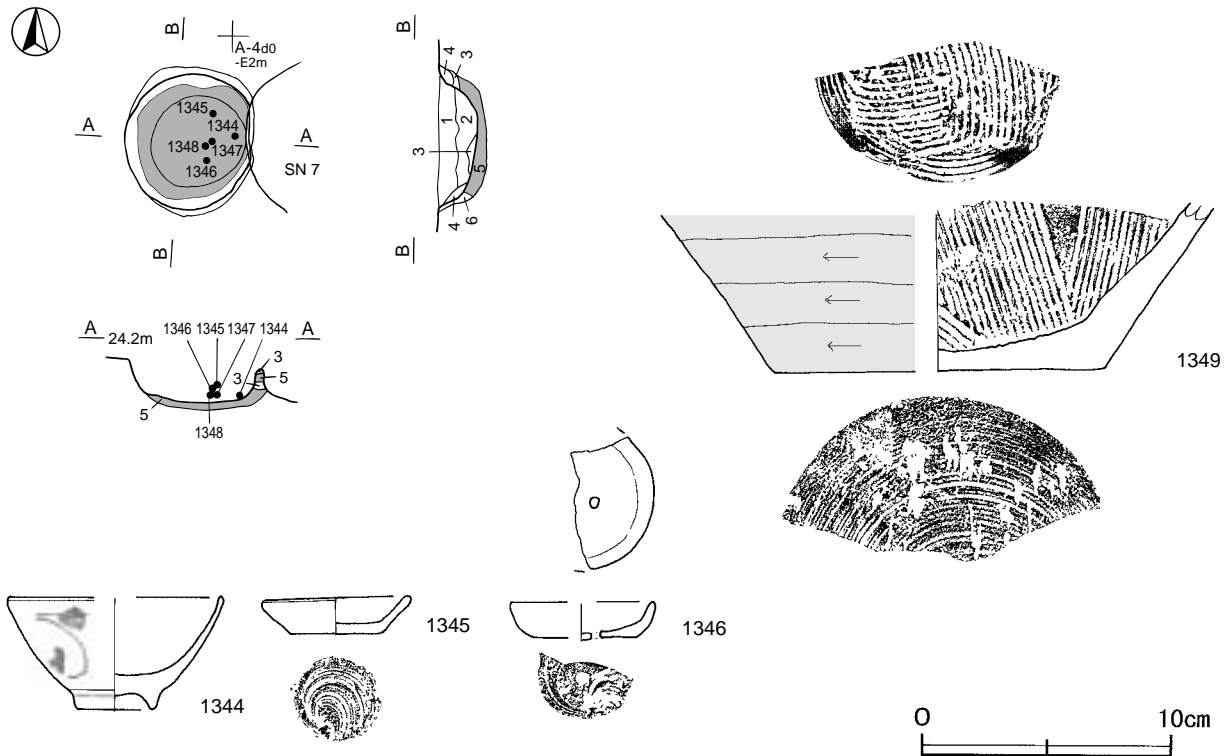
**覆土** 6層に分層される。第5層が粘土層である。

土層解説

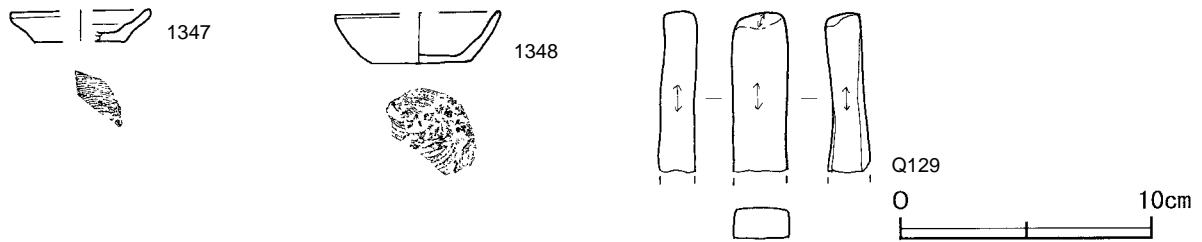
- |         |                              |          |                         |
|---------|------------------------------|----------|-------------------------|
| 1 暗褐色   | ロームブロック少量，粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色    | ロームブロック中量               |
| 2 暗褐色   | ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子微量      | 5 灰オリーブ色 | 粘土ブロック多量                |
| 3 オリーブ色 | ロームブロック・粘土ブロック中量             | 6 褐色     | ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師質土器片7点（小皿4，鍋類3），陶器片2点（碗，播鉢），磁器1点（染付小碗），石器1点（砥石）が出土している。また，流れ込んだ土師器片1点（坏）も出土している。1344～1348は西部の覆土中層から底面にかけてそれぞれ出土している。

**所見** 形状から墓坑と推測される。時期は，出土土器から19世紀代と考えられる。



第197図 第10号粘土貼土坑・出土遺物実測図



第198図 第10号粘土貼土坑出土遺物実測図

第10号粘土貼土坑出土遺物観察表 (第197・198図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土 釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1344	磁器	染付小碗	[8.5]	4.5	2.9	緻密 透明釉	明青灰・灰白	良好	口口整形 高台貼り付け	底面	40% PL44 肥前
1345	土師質土器	小皿	5.8	1.5	3.6	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転系切り	覆土下層	95% PL43
1346	土師質土器	小皿	[5.8]	1.5	[3.8]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 見込み部に焼成前の穿孔 底部回転系切り	覆土下層	55% PL43
1347	土師質土器	小皿	[5.4]	1.2	[3.6]	長石	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転系切り	覆土下層	20%
1348	土師質土器	小皿	[6.4]	2.0	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転系切り	覆土下層	25%
1349	陶器	播鉢	-	(6.5)	[13.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子 錆釉	にぶい赤褐 にぶい黄橙	良好	体部外面下端回転ヘラ削り 内外面施釉 底部回転系切り	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q129	砥石	(6.3)	2.2	1.6	(34.5)	珪化変質岩	砥面3面	覆土中	PL47

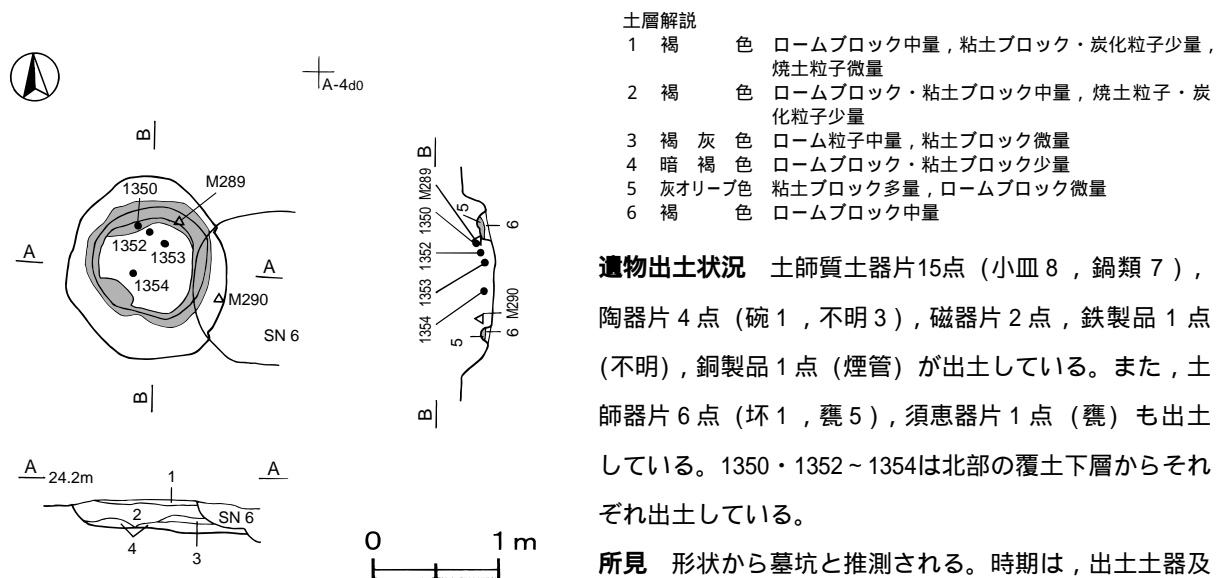
第11号粘土貼土坑 (第199・200図)

位置 調査区西部のA・4d9区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第6号粘土貼土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北径は1.45mで、東西径は1.25mだけ確認されており、円形もしくは楕円形と推測される。長径方向は、N - 8° - Wである。深さ25cm、底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。底面の外周に厚さ1~4cmの粘土が貼られている。

覆土 6層に分層される。第5層が粘土層である。

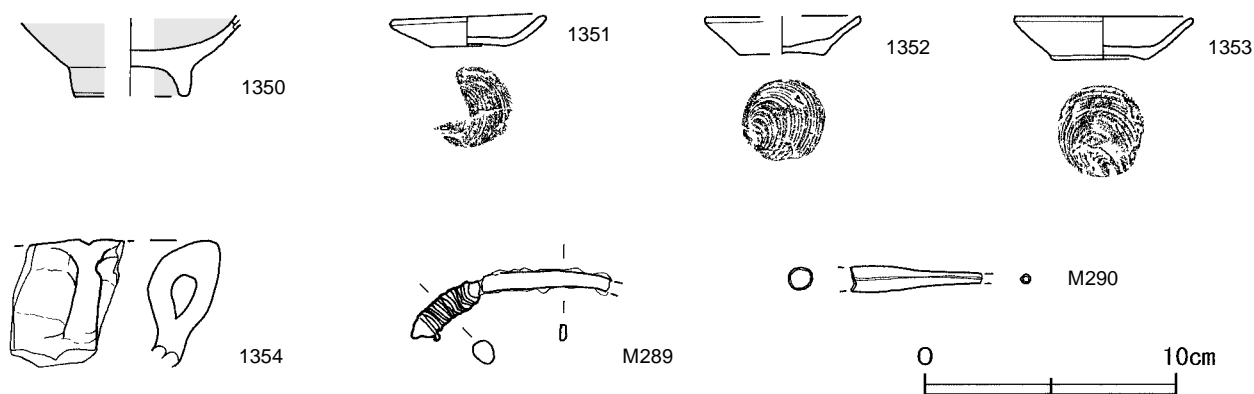


- 土層解説
- 1 褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
  - 2 褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
  - 3 褐灰色 ローム粒子中量, 粘土ブロック微量
  - 4 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
  - 5 灰オリーブ色 粘土ブロック多量, ロームブロック微量
  - 6 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片15点 (小皿8, 鍋類7), 陶器片4点 (碗1, 不明3), 磁器片2点, 鉄製品1点 (不明), 銅製品1点 (煙管) が出土している。また, 土師器片6点 (坏1, 甕5), 須恵器片1点 (甕) も出土している。1350・1352~1354は北部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 形状から墓坑と推測される。時期は, 出土土器及び重複関係から17世紀後半と考えられる。

第199図 第11号粘土貼土坑実測図



第200図 第11号粘土貼土坑出土遺物実測図

第11号粘土貼土坑出土遺物観察表 (第200図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土 釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1350	陶器	呉器手碗	-	(3.2)	[4.3]	緻密 灰釉	浅黄・浅黄橙	良好	口口整形 高台貼り付け	覆土下層	20% 肥前カ
1351	土師質土器	小皿	6.1	1.3	3.1	長石・雲母	橙	普通	体部内・外面口口ロナデ 底部回転糸切り	覆土中	60% PL43
1352	土師質土器	小皿	[6.1]	1.5	[3.4]	雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面口口ロナデ 底部回転糸切り	覆土下層	40% PL43
1353	土師質土器	小皿	7.1	1.8	3.7	長石・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面口口ロナデ 底部回転糸切り	覆土下層	80% PL43
1354	土師質土器	内耳鍋	-	(4.9)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい褐	普通	耳部貼り付け	覆土下層	5%

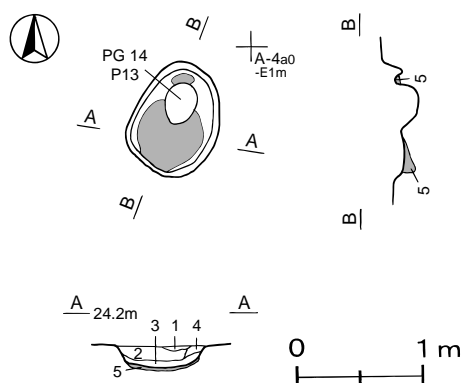
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M289	不明	(8.0)	0.7	0.7	(6.45)	鉄・銅	鉄の心材に径0.8mmの銅線巻き付け	覆土下層	PL49
M290	煙管	(5.2)	0.9 - 0.4		(3.3)	銅	吸口 銅板丸め後蝋付け	覆土下層	PL49

### 第12号粘土貼土坑 (第201図)

**位置** 調査区西部のA・4a0区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第14号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径0.93m，短径0.68mの楕円形で，長径方向はN - 18° - Eである。深さ13cm，底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。底面に厚さ3～6cmの粘土が貼られている。



**覆土** 5層に分層される。第5層が粘土層である。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 灰色 粘土ブロック多量

**所見** 小規模で，性格は不明である。時期は，重複関係から18世紀以前と考えられる。

第201図 第12号粘土貼土坑実測図

表12 中世・近世粘土貼土坑一覧表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
				長軸(径) × 短軸(径) (m)	深さ (cm)					
1	Z・4 i9	N・4°・E	楕円形	1.13 × 0.75	14	緩斜	皿状	人為	土師質土器・磁器・石器	19世紀代
2	A・4 a9	N・0°	円形	0.64 × 0.64	18	緩斜	皿状	人為	土師質土器・陶器・銅製品	SK370.PG7 本跡 19世紀代
3	A・3 b1	N・0°	円形	1.10 × 1.10	23	緩斜	皿状	人為	土師質土器・磁器	SN5 本跡 19世紀代
4	A・3 b2	N・90°	楕円形	1.12 × 0.92	33	外傾	皿状	人為	土師質土器・銅製品	18世紀以降
5	A・3 b1	N・90°	[楕円形]	1.46 × (1.15)	34	緩斜	皿状	人為	土師質土器・陶器・土製品	本跡 SN3 18世紀前半
6	A・4 d0	N・0°	円形	1.45 × 1.35	23	緩斜	皿状	人為	土師質土器・陶器・磁器	SN11 本跡 18世紀代
7	A・4 d0	N・0°	円形	1.37 × 1.37	34	緩斜	皿状	人為	土師質土器	SN8・10 本跡 18世紀代
8	A・4 d0	N・0°	円形	1.70 × 1.70	50	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK375 本跡 SN7 17中葉～18世紀中葉
9	A・3 a1	N・0°	円形	0.35 × 0.35	5	緩斜	皿状	人為		近世中葉～後葉
10	A・4 d0	N・0°	[円形]	1.15 × (1.05)	38	直立	皿状	人為	土師質土器・陶器・石器	本跡 SN7 19世紀代
11	A・4 d9	N・8°・W	[円形・楕円形]	1.45 × (1.25)	25	外傾	皿状	人為	土師質土器・陶器・磁器・銅製品	本跡 SN6 17世紀後半
12	A・4 a0	N・18°・E	楕円形	0.93 × 0.68	13	外傾	皿状	人為		本跡 PG14 18世紀以前

## (6) ピット群

### 第7号ピット群 (第202・203図)

**位置** 調査区西部のZ・4h7区～A・4a9区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

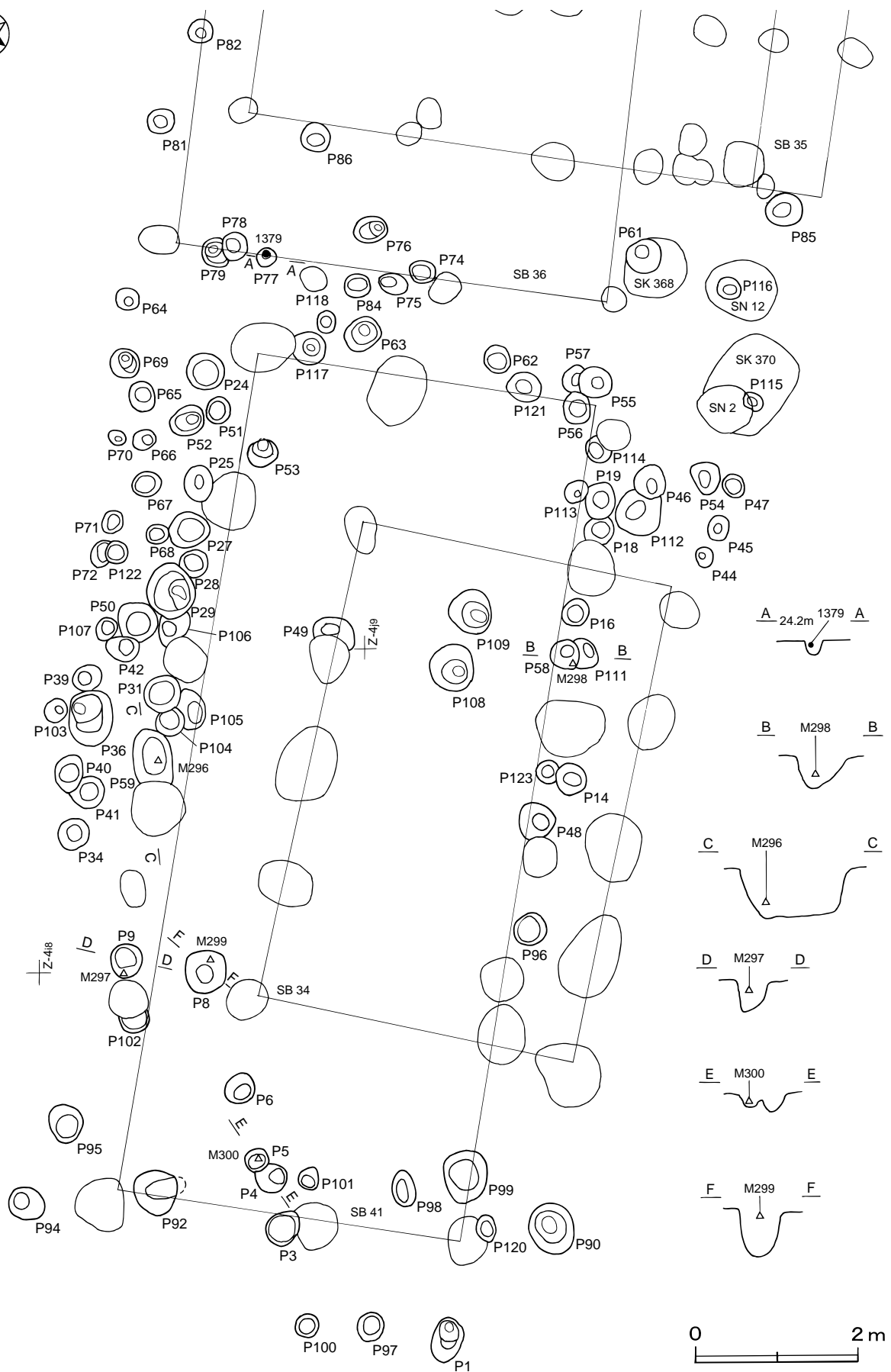
**重複関係** 第2号粘土貼土坑を掘り込み，第34～36・41号掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明である。

**規模と形状** 南北10m，東西16mの長方形の範囲にピット92か所が確認された。形状は長径20～70cm，短径17～60cmの円形または楕円形である。断面形はU字状で，深さは10～73cmである。

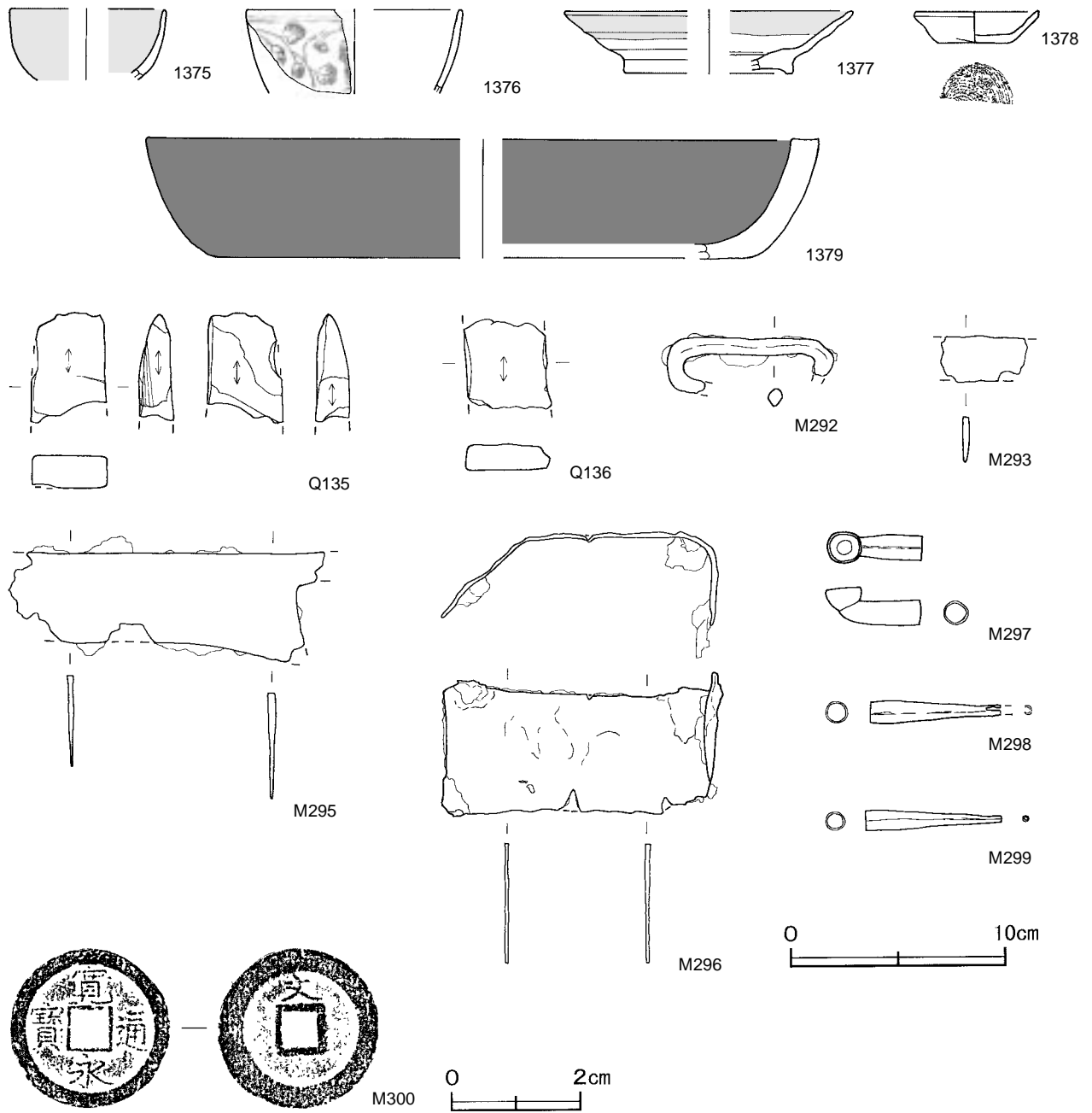
**覆土** 柱の抜き取り痕は確認できず，暗褐色土または黒褐色土で締まりが弱い。

**遺物出土状況** 土師質土器片25点（小皿5，鍋類20），陶器片16点（碗12，皿1，鉢2，擂鉢1），磁器片3点（碗），石器2点（砥石），鉄製品12点（包丁3，不明9），銅製品4点（古銭1，煙管3）が出土している。また，流入した縄文土器片1点（深鉢），土師器片10点（坏），須恵器片3点（坏2，甕1）も各ピットから出土している。

**所見** 第34・41号掘立柱建物跡と重複して確認されていることから，付随した庇や柵跡の可能性が考えられる。時期は，出土土器から17世紀後葉から18世紀中葉と考えられる。



第202図 第7号ピット群実測図



第203図 第7号ピット群出土遺物実測図

第7号ピット群出土遺物観察表 (第203図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1375	陶器	碗	[7.2]	(3.3)	-	緻密	灰釉	にぶい黄・淡黄	良好	ロクロ整形	P27覆土中	10% 瀬戸・美濃
1376	磁器	染付碗	[10.0]	(3.9)	-	緻密	透明釉	明青灰・灰白	良好	ロクロ整形	P50覆土中	5% 肥前
1377	陶器	輪壳皿	[13.4]	(2.8)	[7.8]	緻密	灰釉	灰白・淡黄	良好	ロクロ整形 削り出し高台 内面輪状に釉剥ぎ	P50覆土中	15% 瀬戸・美濃
1378	土師質土器	小皿	5.7	1.5	3.4	長石・石英・雲母・赤色粒子		にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転系切り	P89覆土中	50%
1379	土師質土器	焙烙鍋	[31.2]	5.5	[24.4]	長石・石英・雲母		にぶい赤褐	普通	体部・内外面ヘラナデ	P77覆土中層	10% 内・外面煤付着

番号	器種	長さ	幅(径)	厚さ(径)	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q135	砥石	(5.0)	3.7	1.5	(35.4)	凝灰岩	砥面4面	P4覆土中	PL47
Q136	砥石	(4.1)	4.0	1.3	(31.1)	凝灰岩	砥面1面	P31覆土中	



番号	器種	長さ	幅(径)	厚さ(径)	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M292	不明	7.8	(2.7)	0.7	(17.3)	鉄	断面方形	P14覆土中	PL49
M293	刀子カ	(4.1)	2.1	0.4	(7.5)	鉄	背開	P27覆土中	
M295	包丁	(14.6)	5.1	0.3	(59.5)	鉄	背開	P96覆土中	
M296	包丁カ	12.9	5.9	0.2	(55.7)	鉄	両端欠損 下端刃部カ	P59覆土下層	
M297	煙管	5.6	1.1	1.1	5.45	銅	雁首 火皿径1.6cm 銅板丸め後蟻付け 火皿部蟻付け	P9覆土中層	PL49
M298	煙管	(6.1)	1.0~0.4		(3.9)	銅	吸口 銅板丸め後蟻付け	P58覆土下層	PL49
M299	煙管	6.4	0.9~0.3		3.2	銅	吸口 銅板丸め後蟻付け	P8覆土上層	PL49
M300	古銭	2.4	2.5	0.1	4.18	銅	孔径0.55 寛永通寶 背文 初鑄年1668年	P5覆土下層	PL49

## 第7号ピット群ピット一覧表

ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	槽円形	58	36	48	52	円形	46	32	32	90	円形	63	55	64
3	円形	50	43	54	53	円形	47	35	50	92	円形	58	55	64
4	円形	40	33	43	54	円形	38	36	41	94	円形	46	37	32
5	円形	33	27	19	55	円形	42	40	56	95	円形	47	42	43
6	円形	40	35	50	56	円形	42	33	32	96	円形	41	38	39
8	円形	56	54	62	57	円形	34	(23)	44	97	円形	36	35	35
9	円形	45	40	46	58	円形	40	38	47	98	槽円形	45	30	35
14	円形	40	39	43	59	[槽円形]	(62)	45	68	99	円形	60	56	31
16	円形	35	31	42	61	円形	20	(16)	35	100	円形	28	28	16
18	円形	38	34	40	62	円形	33	33	49	101	円形	26	25	23
19	円形	45	35	36	63	円形	48	35	41	102	円形	36	(18)	-
24	円形	46	45	36	64	円形	29	27	22	103	円形	30	27	30
25	円形	48	36	36	65	円形	38	35	18	104	円形	38	35	55
27	円形	52	43	37	66	円形	30	25	27	105	円形	52	(27)	15
28	円形	35	35	25	67	円形	34	30	10	106	円形	50	(25)	53
29	円形	70	60	50	68	円形	28	24	13	107	円形	31	28	32
31	円形	48	45	46	69	円形	39	37	41	108	円形	54	54	47
34	円形	39	37	37	70	円形	23	18	37	109	円形	58	52	54
36	槽円形	66	53	41	71	円形	31	25	19	111	円形	35	(22)	42
39	円形	39	29	37	72	円形	28	(17)	10	112	円形	65	55	30
40	円形	47	37	20	74	円形	33	27	40	113	円形	28	28	30
41	円形	45	40	25	75	槽円形	36	24	39	114	円形	33	(23)	35
42	円形	42	33	28	76	槽円形	42	32	32	115	円形	31	23	31
44	円形	26	22	31	77	円形	25	22	19	116	円形	32	27	30
45	円形	33	25	35	78	円形	37	31	38	117	円形	45	42	29
46	円形	42	40	20	79	円形	35	(28)	50	118	円形	28	20	24
47	円形	28	28	15	81	円形	35	30	45	120	円形	30	23	48
48	円形	45	45	73	82	円形	33	28	21	121	円形	42	39	27
49	円形	56	(24)	58	84	円形	32	29	45	122	円形	28	28	26
50	円形	55	52	40	85	円形	46	38	46	123	円形	28	(25)	36
51	円形	35	30	22	86	円形	37	36	62					

## 5 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期や性格の明確でない掘立柱建物跡2棟、溝跡7条、井戸跡4基、土坑142基、ピット群14か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第33号掘立柱建物跡 (第204図)

**位置** 調査区中央部のA・1c8区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第272号土坑, 第16号ピット群と重複しているが, 新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行1間, 梁行1間の側柱建物跡である。規模は, 桁行3.0m (10尺), 梁行3.0m (10尺) で, 面積は9.00㎡である。

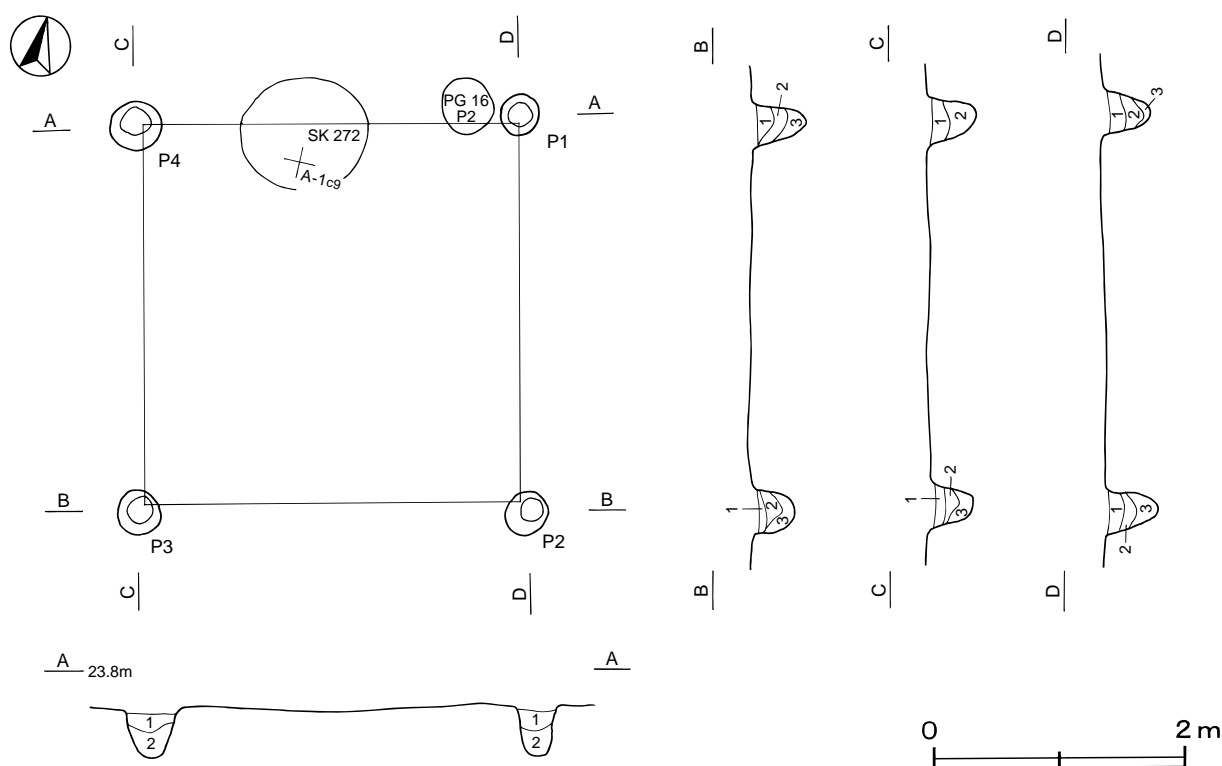
**柱穴** 4か所。平面形は円形または楕円形で, 長径34~41cm, 短径32~37cmである。深さは33~43cmで, 断面形はU字状である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土で, 締めりの弱い黒褐色土が主体である。

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

- 3 褐色 ローム粒子多量

**所見** 時期は, 出土土器がなく重複関係からも不明である。



第204図 第33号掘立柱建物跡実測図

第37号掘立柱建物跡 (第205図)

**位置** 調査区西部のA・3e9区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第10号ピット群と重複しているが, 新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行1間, 梁行1間の側柱建物跡で, 桁行方向がN-80°-Eの東西棟である。規模は, 桁行2.70m (9尺), 梁行2.25m (7.5尺) で, 面積は6.08㎡である。

**柱穴** 4か所。平面形は円形または楕円形で, 規模は長径30~33cm, 短径24~30cmである。深さは21~34cmで, 断面形は逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。すべての柱穴の底面から柱のあたりが確認されている。

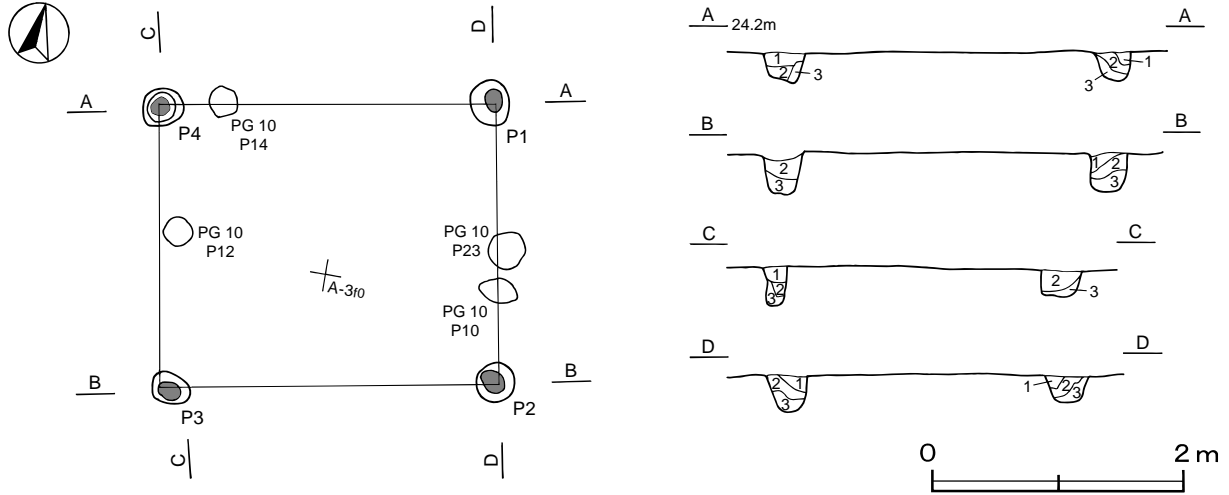
土層解説 (各柱穴共通)

1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・粘土粒子微量  
 2 黒褐色 粘土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子中量, 粘土粒子微量

遺物出土状況 鉄製品 4 点 (不明) が出土しているが, いずれも細片で図示できい。

所見 時期は, 出土土器がなく不明である。



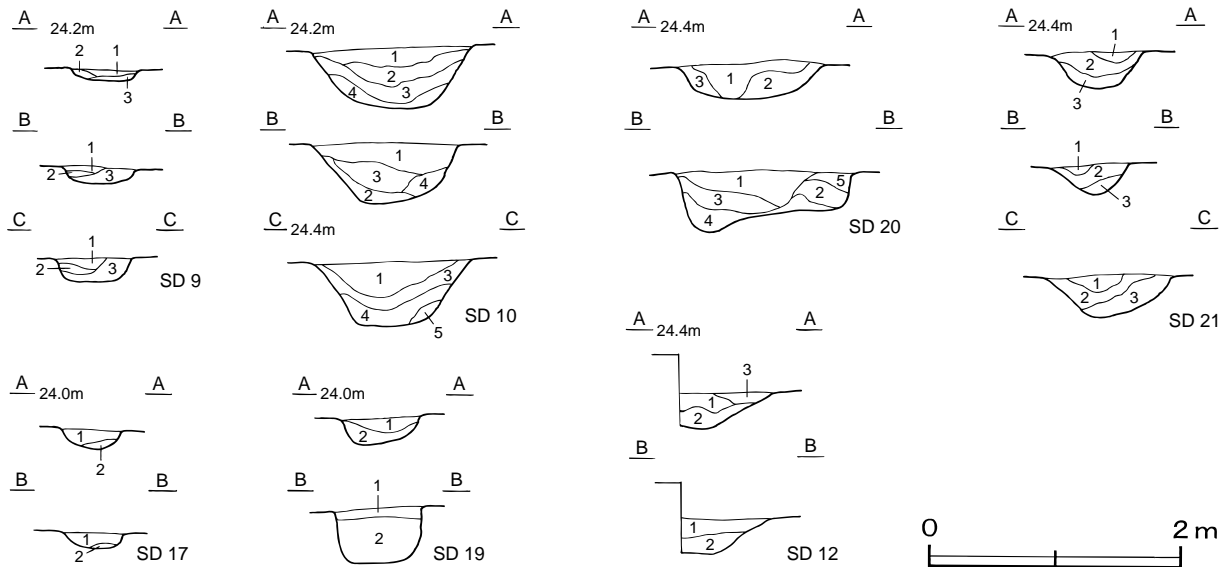
第205図 第37号掘立柱建物跡実測図

表13 その他の掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 (桁×梁)	規模 (m) (長軸×短軸)	面積 (m <sup>2</sup> )	構造	桁行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	柱穴平面形	深さ (cm)	主な出土遺物	時期	備考 (旧 新)
33	A-1c9	-	1×1	3.0×3.0	9.00	側柱	3.0	3.0	円形	33-43		不明	
37	A-3e9	N-80°-E	1×1	2.7×2.25	6.08	側柱	2.7	2.25	円形・楕円形	21-34	鉄製品	不明	

(2) 溝跡

時期不明の溝跡 7 条を検出した。以下, 断面図, 土層解説, 一覧表を記載する。なお, 平面図は全体図に示した。(第206・207図, 付図)



第206図 第9・10・12・17・19・20・21号溝跡実測図

第9号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ロームブロック多量

第10号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子微量

第12号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第17号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子中量

第19号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ローム粒子少量

第20号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子微量
- 5 暗 赤 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量

第21号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量
- 3 褐 色 ロームブロック少量



第207図 第10号溝跡出土遺物実測図

第10号溝跡出土遺物観察表 (第207図)

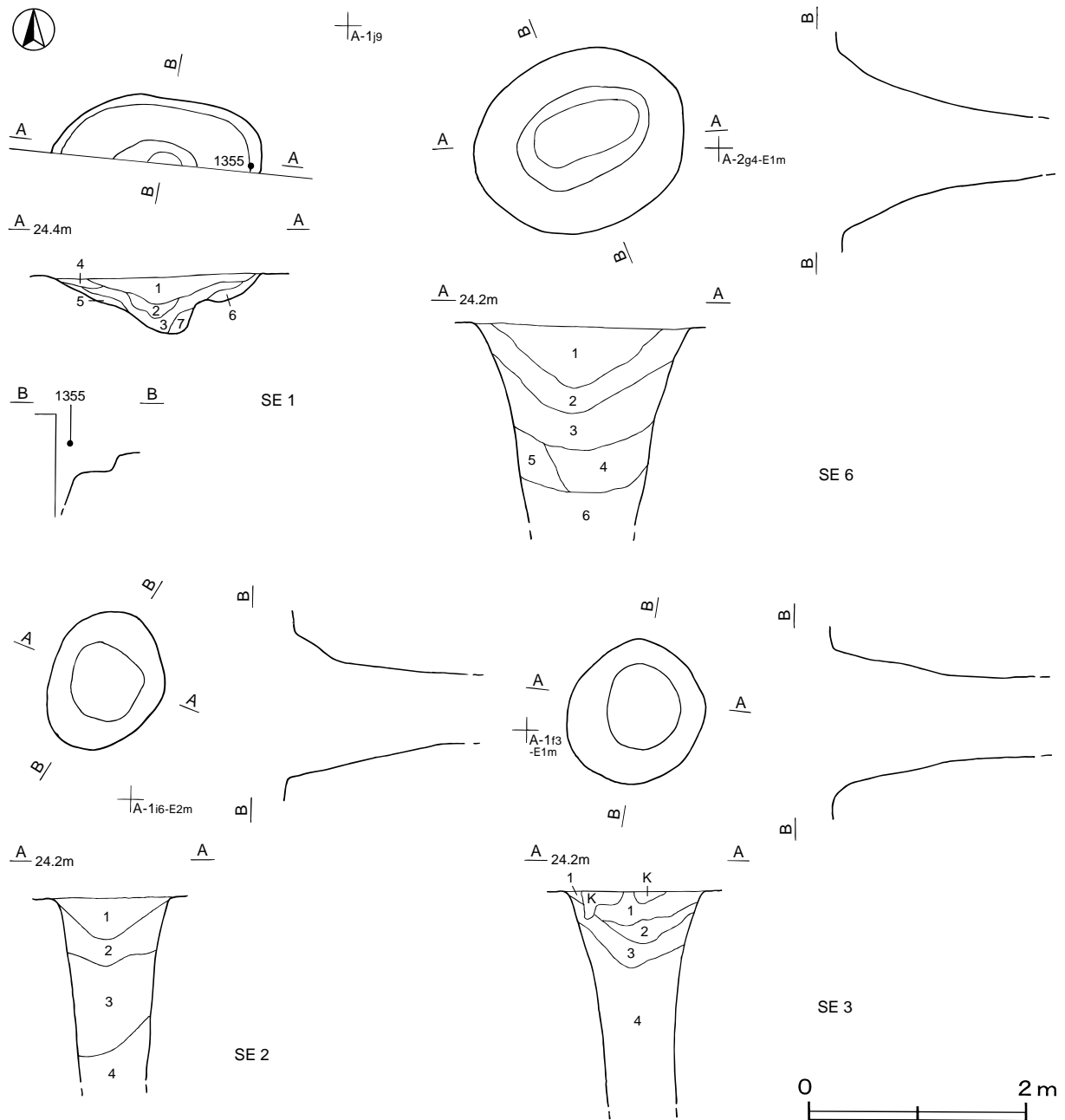
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1360	須恵器	高台付坏	[13.8]	(3.8)	-	長石・石英	灰	普通	体部内・外面口クロナデ	覆土中	5%
TP155	須恵器	甕	-	(6.6)	-	長石・石英	灰	普通	外面同心円状の叩き目 内面ヘラナデ	覆土中	5%

表14 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	断面形	規模 (m)				壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
				長さ	上幅	下幅	深さ (cm)					
9	A・1 i1 ~ A・1 h5	N・73°・E	逆台形	(19.00)	0.80~0.40	0.50~0.18	8~18	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器 土師質土器	SB21,32,SK259
10	A・4 d2 ~ A・4 d7	N・85°・E	逆台形	(16.30)	1.38~1.05	0.68~0.50	46~55	外傾	平坦	自然	須恵器	SK352 本跡 SK349
12	A・3 c9 ~ A・2 b1	N・74°・E	[逆台形]	(7.88)	(0.70)	(0.26)	(26~28)	外傾	平坦	人為	土師器・陶器 土師質土器	
17	Z・3 j0 ~ A・3 a0	N・12°・W	U字状	(7.12)	0.52~0.32	0.37~0.17	20~28	外傾	弧状	人為	土師器	
19	Z・2 j1 ~ A・2 a2	N・20°・W	箱形	(4.06)	0.80~0.44	0.50~0.25	30~46	直立	平坦	人為	土師器・須恵器 陶器・磁器	
20	Z・5 f3 ~ A・5 c4	N・11°・W	U字状	(27.90)	1.30~0.72	0.88~0.52	27~45	外傾	弧状	人為	土師器・陶器 土師質土器	本跡 SK500・501
21	Z・6 e7 ~ Z・6 i9	Z・15°・W	U字状	(16.15)	0.80~0.52	0.32~0.20	25~35	外傾	弧状	自然	瓦	

(3) 井戸跡

時期不明の井戸跡4基を確認した。以下,実測図,土層解説,一覧表を記載する。(第208・209図)



第208図 第1・2・3・6号井戸跡実測図

第1号井戸跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
- 2 灰褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子中量,炭化粒子少量
- 3 灰褐色 砂質粘土粒子中量,ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 灰褐色 砂質粘土ブロック中量,ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量,砂質粘土粒子少量
- 6 灰褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子中量
- 7 灰褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子中量

第2号井戸跡土層解説

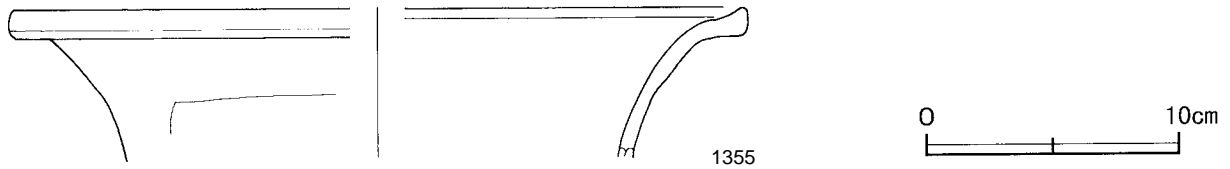
- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量,炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック多量

第3号井戸跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量,炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量,炭化粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第6号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量
- 6 褐色 ロームブロック多量



第209図 第1号井戸跡出土遺物実測図

第1号井戸跡出土遺物観察表 (第209図)

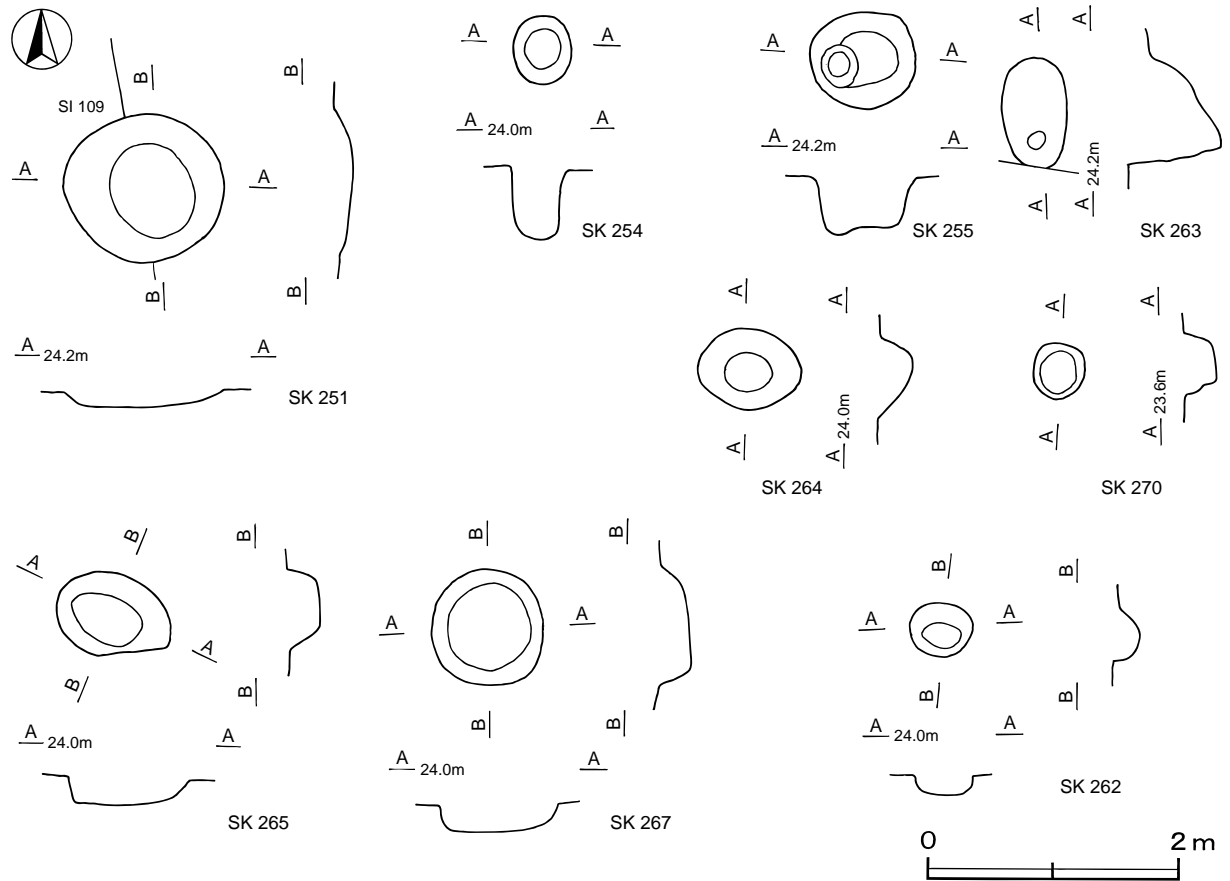
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1355	須恵器	甌	[29.0]	(6.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	口縁部横ナデ 頸部外面ヘラナデ	覆土中	5%

表15 その他の井戸跡一覧表

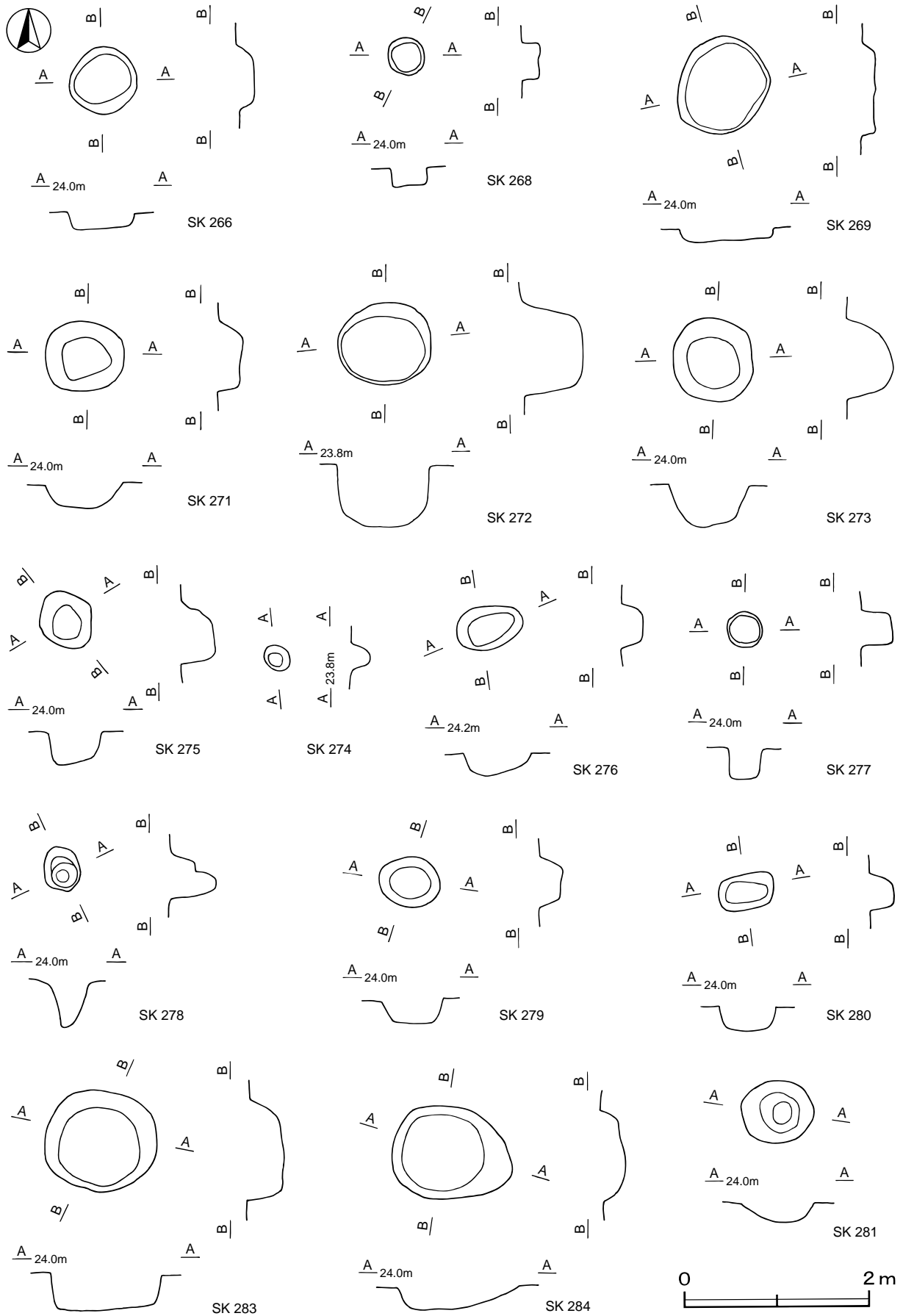
番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧 新)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(m)					
1	A-1j8	N・84°・W	[楕円形]	1.94 × (0.59)	(0.47)	漏斗状カ	-	人為	土師器・須恵器	
2	A-1h6	N・27°・E	楕円形	1.33 × 1.02	(1.63)	垂直	-	人為		
3	A-1f3	N・0°	円形	1.35 × 1.26	(1.85)	垂直	-	人為	土師器	
6	A-2f3	N・65°・E	楕円形	2.00 × 1.62	(1.82)	外傾	-	人為		

(4) その他の土坑

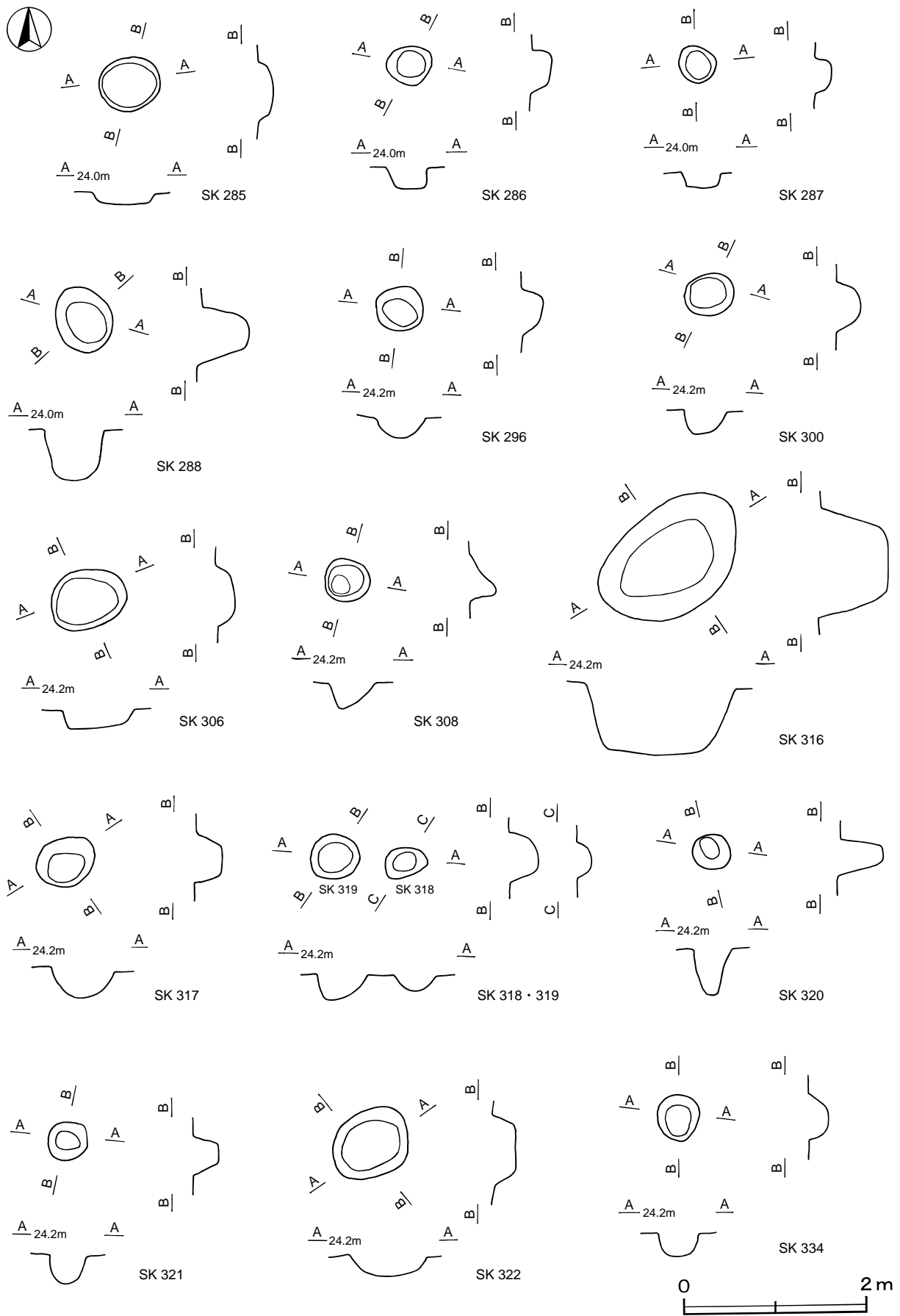
時期及び性格不明の土坑については、以下、実測図一覧表を記載する。(第210～219図)



第210図 その他の土坑実測図(1)

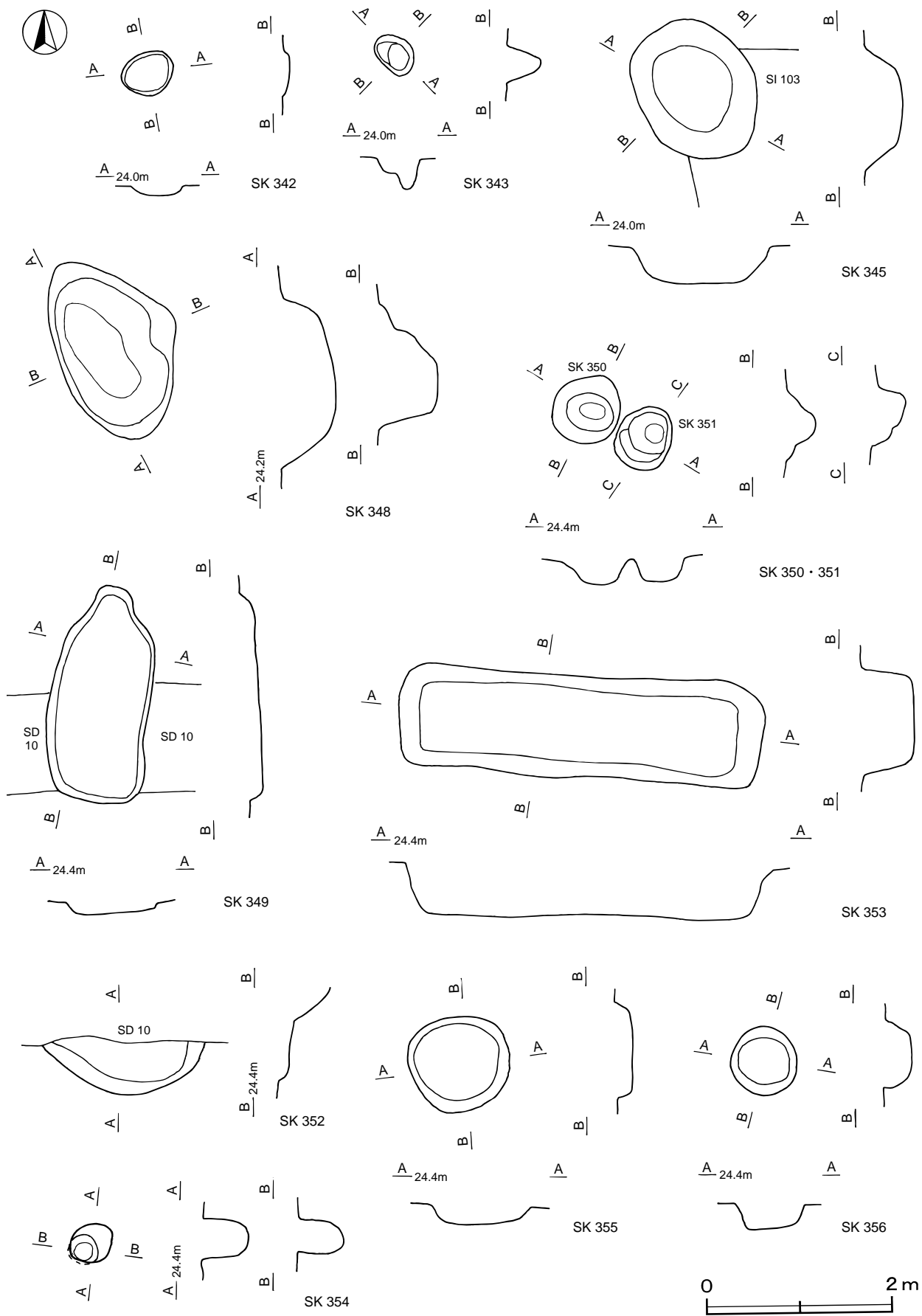


第211図 その他の土坑実測図(2)

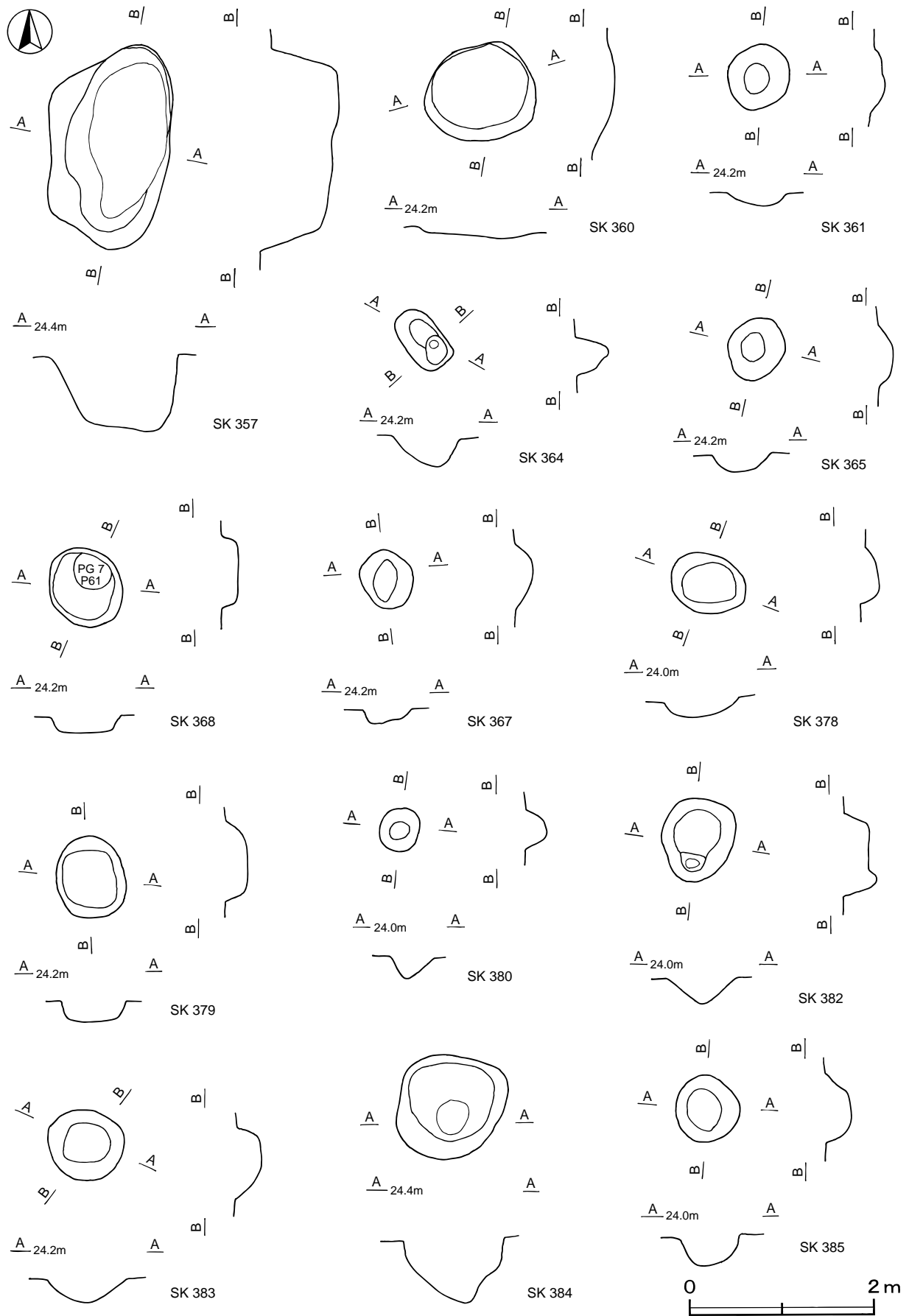


第212図 その他の土坑実測図(3)

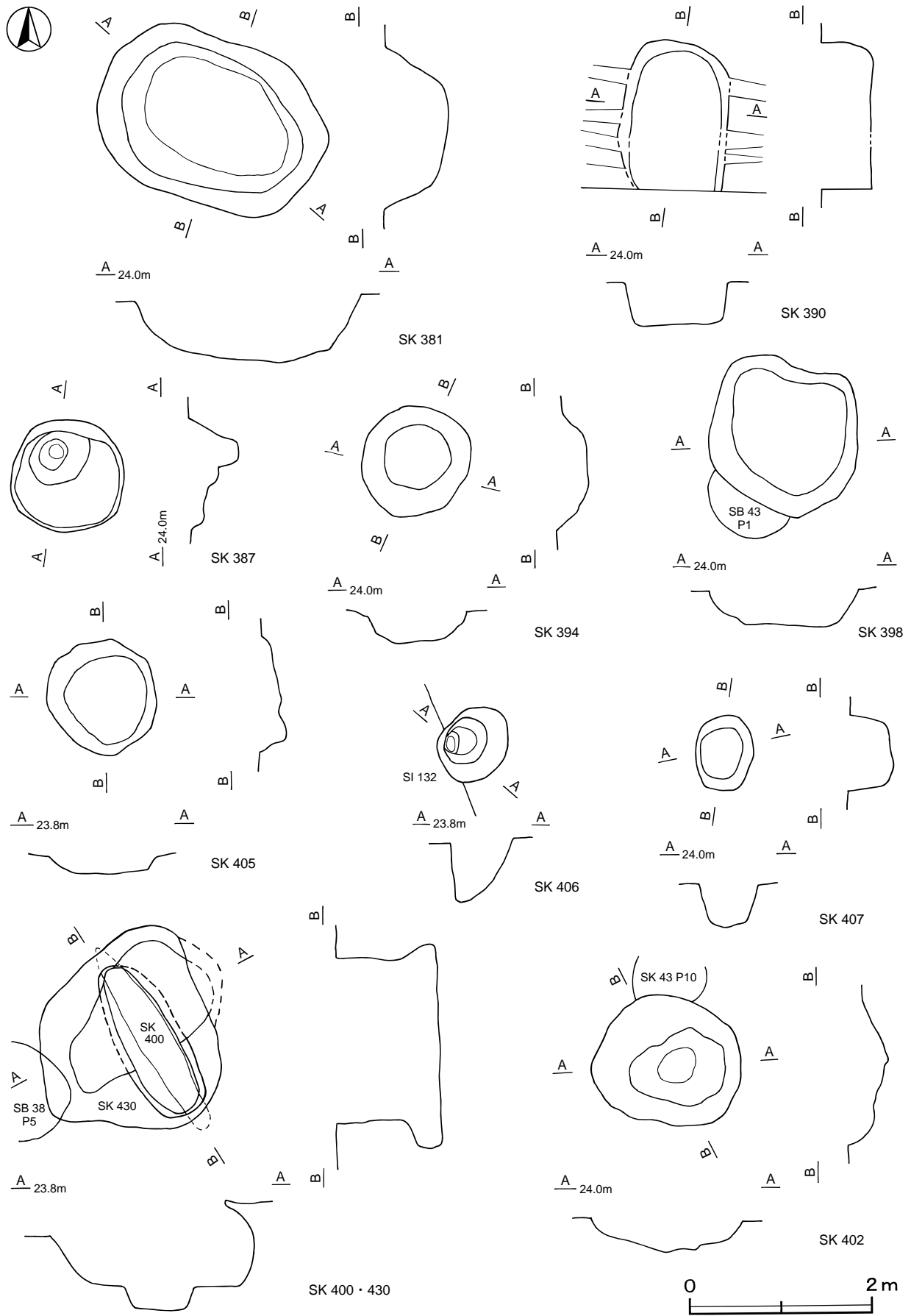




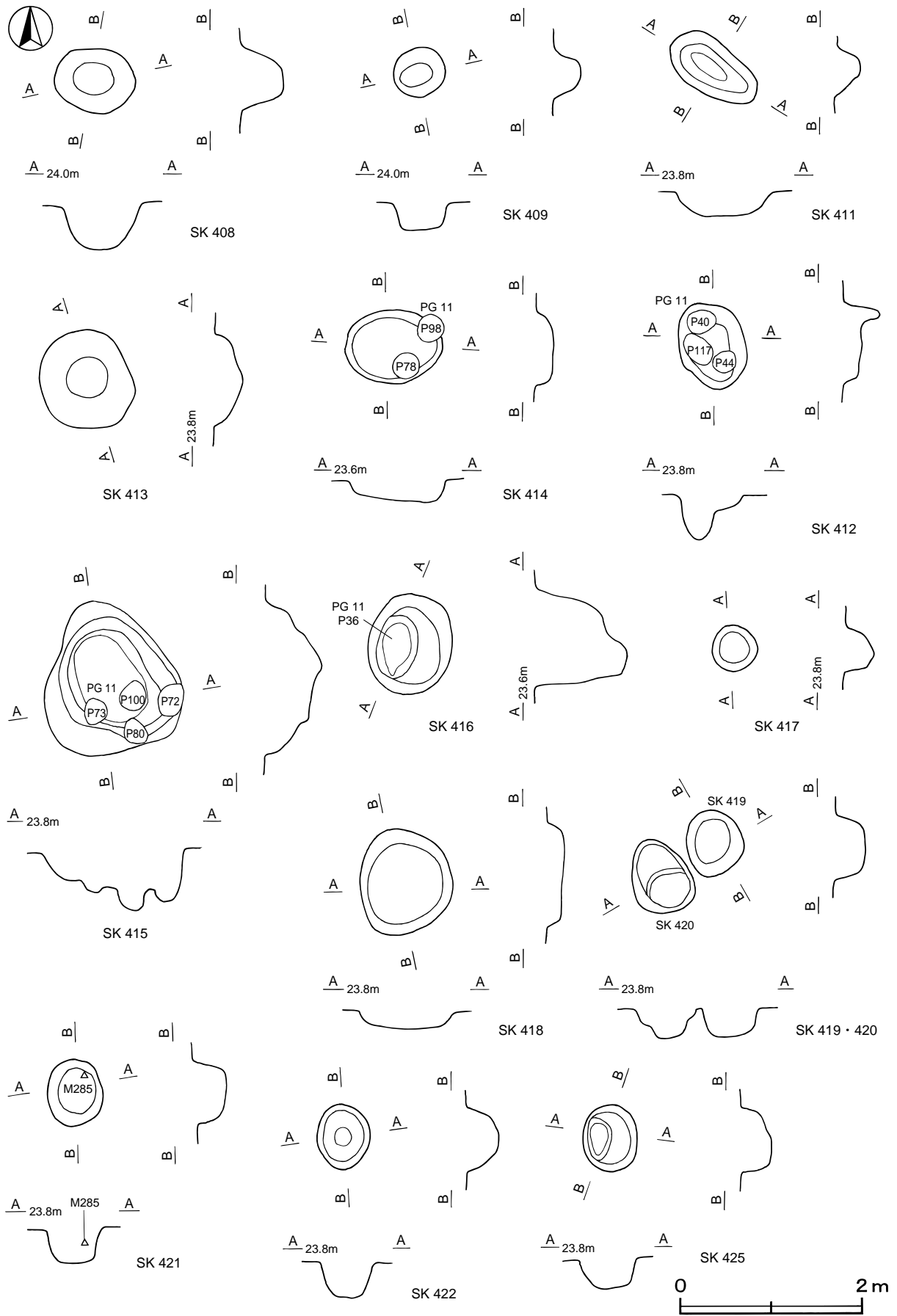
第213図 その他の土坑実測図(4)



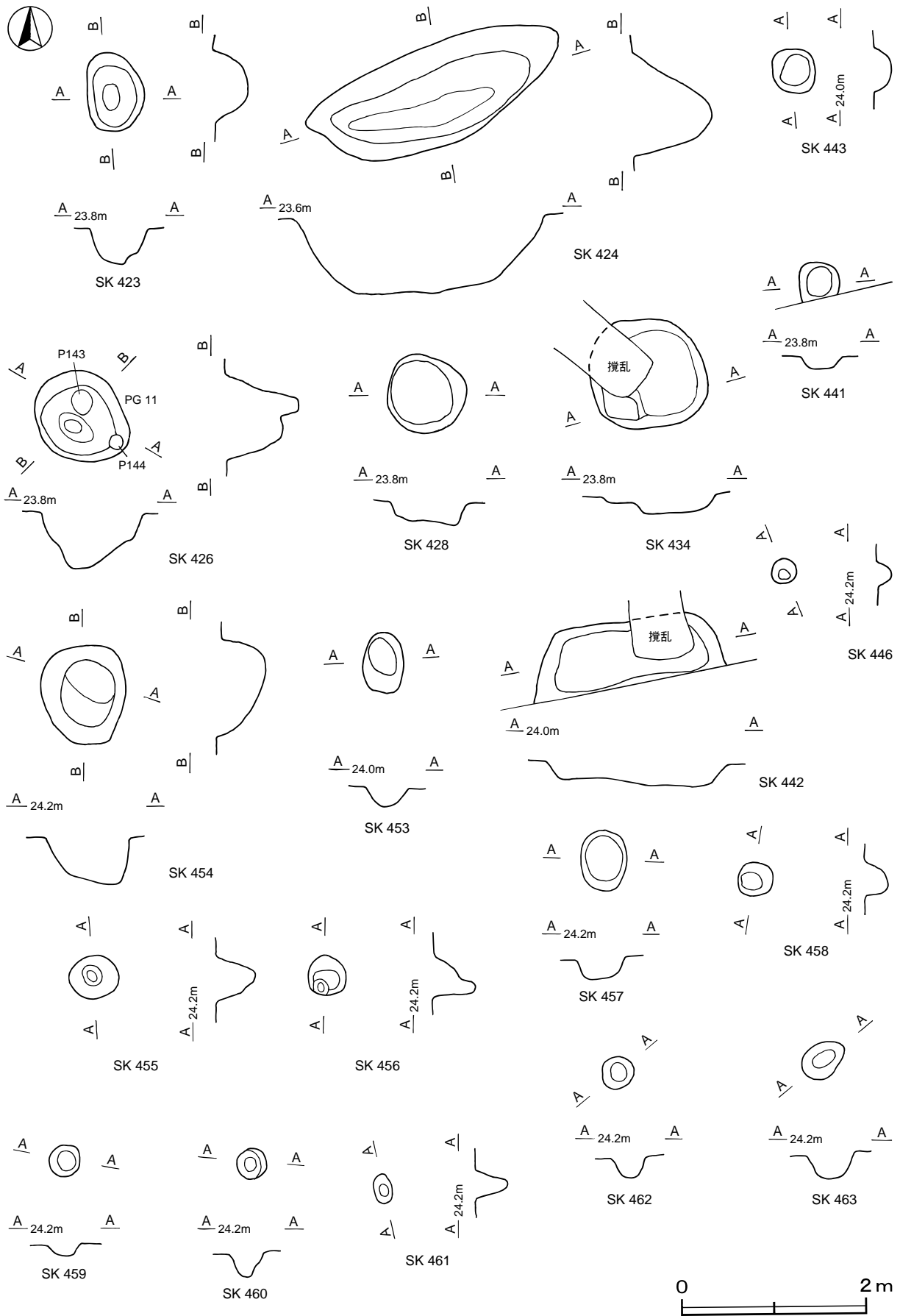
第214図 その他の土坑実測図(5)



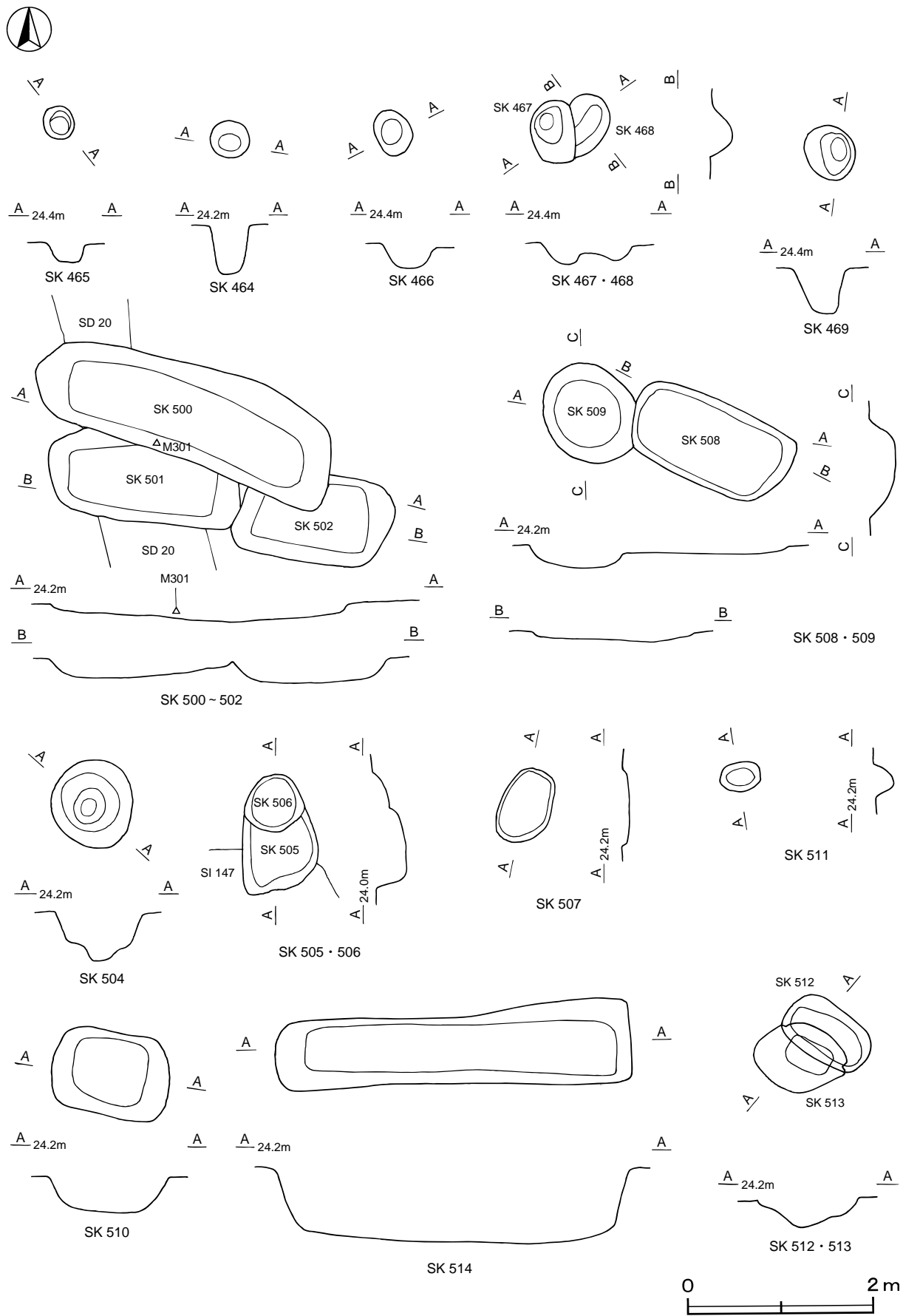
第215図 その他の土坑実測図(6)



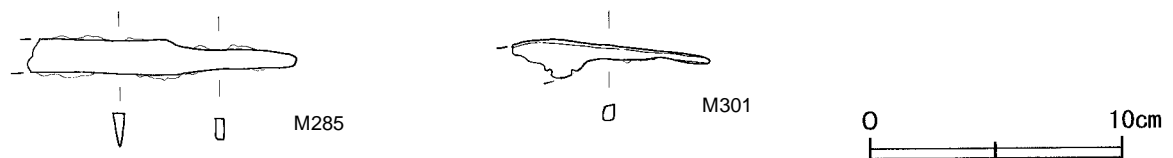
第216図 その他の土坑実測図(7)



第217図 その他の土坑実測図(8)



第218図 その他の土坑実測図(9)



第219図 その他の土坑出土遺物実測図

第421号土坑出土遺物観察表 (第219図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M285	刀子	(10.6)	1.6	0.4	(16.8)	鉄	刃開カ	覆土中	PL48

第500号土坑出土遺物観察表 (第219図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M301	刀子	(7.9)	1.6	0.5	(5.7)	鉄	背開カ	覆土中	

表16 その他の土坑一覧表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧 新)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(cm)					
251	A-1 i3	N・0°	円形	1.25 × 1.15	14	緩斜	皿状	人為		S1109 本跡
254	A-2 b9	N・0°	円形	0.51 × 0.46	57	外傾	皿状	人為		
255	A-1 i4	N・0°	円形	0.83 × 0.76	47	外傾	凹凸	人為	土師器	
262	A-2 b9	N-90°	楕円形	0.48 × 0.42	18	外傾	皿状	人為		
263	A-1 i4	N・0°	楕円形	(0.85) × 0.50	58	外傾	皿状	自然		
264	A-2 c9	N-90°	楕円形	0.80 × 0.65	25	緩斜	皿状	自然		
265	A-2 b9	N-65°W	楕円形	0.95 × 0.65	25	外傾	皿状	人為		
266	A-2 b9	N・0°	円形	0.75 × 0.74	20	外傾	皿状	人為		
267	A-2 c9	N・0°	円形	0.92 × 0.92	25	外傾	皿状	人為		
268	A-2 c0	N・0°	円形	0.40 × 0.39	16	直立	凹凸	人為		
269	A-2 b0	N・0°	円形	1.05 × 1.01	15	直立	平坦	人為		
270	A 1 e4	N・0°	楕円形	0.35 × 0.30	23	直立	平坦	人為		
271	A-1 e1	N・0°	円形	0.85 × 0.78	27	外傾	平坦	自然		
272	A-1 c9	N-90°	楕円形	1.03 × 0.90	65	直立	皿状	人為		
273	A-2 c0	N・0°	円形	0.90 × 0.85	50	外傾	皿状	人為		
274	A-1 e7	N-30°W	楕円形	0.30 × 0.25	18	外傾	皿状	-	土師器	
275	A-2 c0	N-40°W	楕円形	0.67 × 0.58	34	外傾	皿状	人為		
276	A-2 e9	N-70°E	楕円形	0.75 × 0.50	23	外傾	平坦	人為		
277	A-2 c0	N・0°	円形	0.40 × 0.40	34	直立	平坦	人為		
278	A-1 i0	N-21°W	楕円形	0.48 × 0.40	50	外傾	皿状	-		
279	A-2 a9	N-63°W	楕円形	0.68 × 0.55	25	緩斜	平坦	人為		第2号鍛冶工房跡 本跡
280	A-2 c8	N-80°E	隅丸長方形	0.60 × 0.38	26	外傾	皿状	人為		
281	A-1 h9	N-90°E	楕円形	0.80 × 0.70	20	緩斜	皿状	自然		
283	A-2 b8	N-78°W	楕円形	1.21 × 1.08	37	外傾	平坦	人為		
284	A-2 e0	N-73°W	楕円形	1.33 × 1.00	25	外傾 緩斜	皿状	自然	土師器・須恵器	
285	A-2 d9	N-80°E	楕円形	0.65 × 0.57	15	緩斜	平坦	自然		
286	A-2 d0	N-59°W	楕円形	0.46 × 0.39	20	外傾	皿状	人為		
287	A-2 c0	N・0°	円形	0.38 × 0.38	15	外傾	平坦	人為		
288	A-2 b0	N・0°	円形	0.68 × 0.63	45	外傾	皿状	人為		
296	A-2 f8	N・0°	円形	0.50 × 0.50	24	外傾	皿状	自然		
300	A-2 f8	N-44°E	楕円形	0.53 × 0.45	25	外傾	皿状	人為		
306	A-2 f9	N-62°E	楕円形	0.83 × 0.63	18	外傾	平坦	自然		
308	A-2 e9	N・0°	円形	0.48 × 0.46	28	外傾	皿状	人為		
316	A-2 f9	N-49°E	楕円形	1.68 × 1.10	71	外傾	平坦	人為		
317	A-2 g9	N-60°E	楕円形	0.65 × 0.52	28	外傾	平坦	人為		
318	A-2 g9	N-86°E	楕円形	0.45 × 0.34	15	外傾	平坦	人為		

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧 新)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(cm)					
319	A-2g8	N-70°E	楕円形	0.55 × 0.48	30	外傾	平坦	人為		
320	A-2g8	N-43°W	楕円形	0.40 × 0.35	45	外傾	平坦	人為		
321	A-2g9	N-0°	円形	0.42 × 0.40	30	外傾	平坦	人為		
322	A-2h9	N-55°E	楕円形	0.90 × 0.75	20	外傾	平坦	自然		
334	A-1i1	N-0°	円形	0.47 × 0.45	22	外傾	皿状	自然		
342	A-1f2	N-70°E	楕円形	0.58 × 0.44	8	外傾	平坦	自然		
343	A-1e2	N-51°W	楕円形	0.49 × 0.38	35	外傾	皿状	自然		
345	A-1d2	N-49°W	隅丸長方形	1.55 × 1.35	37	緩斜	平坦	自然	土師器・須恵器	SI103 本跡
348	Z-5i8	N-28°W	不整楕円形	2.05 × 1.32	65	外傾	平坦	人為		
349	A-4d4	N-8°E	不整長方形	2.30 × 1.05	15	外傾	平坦	人為	土師器	SD-10 本跡
350	A-4c5	N-42°E	楕円形	0.80 × 0.71	33	緩斜	皿状	人為		
351	A-4c5	N-27°E	楕円形	0.69 × 0.59	35	外傾	皿状	人為		
352	A-4d6	N-0°	[円形]	1.65 × (0.59)	16	外傾	平坦	自然		本跡 SD10
353	A-4c6	N-85°W	長方形	3.93 × 1.10	58	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器・陶器	
354	A-4b6	N-39°E	楕円形	0.46 × 0.38	44	直立	皿状	人為	土師器	
355	Z-4i6	N-0°	円形	1.10 × 1.09	20	外傾	平坦	自然	土師器	
356	A-4b7	N-0°	円形	0.74 × 0.71	27	外傾	平坦	自然		
357	A-4d7	N-9°E	不整楕円形	1.11 × 0.67	40	外傾	平坦	人為		
360	A-3c2	N-75°E	楕円形	1.20 × 1.03	15	緩斜	皿状	-		
361	A-3b2	N-16°E	楕円形	0.72 × 0.65	10	緩斜	皿状	人為		
364	A-3b2	N-42°W	不整楕円形	0.70 × 0.40	34	外傾	皿状	人為		
365	A-3a2	N-0°	円形	0.70 × 0.63	18	緩斜	皿状	自然		
367	A-3c2	N-10°W	楕円形	0.66 × 0.56	20	緩斜	皿状	人為		
368	Z-4j0	N-39°W	楕円形	0.88 × 0.77	15	外傾	平坦	自然	土師質土器	PG7 (新旧不明)
378	A-2b6	N-64°W	楕円形	0.82 × 0.63	19	緩斜	皿状	人為		
379	A-2b7	N-18°W	楕円形	0.86 × 0.72	24	外傾	平坦	人為	土師器	
380	A-2b8	N-45°E	楕円形	0.48 × 0.43	23	緩斜	皿状	人為		
381	A-2c6	N-61°W	楕円形	2.50 × 1.78	70	緩斜	平坦	人為		
382	A-2c7	N-19°E	楕円形	0.93 × 0.79	35	外傾	平坦	人為	土師器	
383	A-2d3	N-55°W	楕円形	0.82 × 0.70	26	外傾	平坦	人為		
384	A-2d5	N-90°E	隅丸方形	1.13 × 1.12	70	外傾	皿状	人為		
385	A-2i0	N-3°W	楕円形	0.74 × 0.68	30	外傾	皿状	人為		
387	A-2j8	N-0°	円形	1.29 × 1.25	52	外傾	皿状	人為		
390	B-2a5	N-7°E	[隅丸長方形]	(1.60) × 1.13	45	直立	平坦	人為	土師器・須恵器	
394	A-2g1	N-0°	円形	1.22 × 1.13	30	緩斜	平坦	自然	土師器・須恵器	SB43 本跡
398	A-2g2	N-35°W	不定形	1.82 × 1.70	30	外傾	凹凸	人為	土師器・須恵器	SB43 本跡
400	A-2i7	N-32°W	楕円形	1.79 × 0.73	67	直立	平坦	自然		本跡 SK430
402	A-2g2	N-90°E	楕円形	1.63 × 1.40	34	外傾	皿状	人為	土師器・須恵器	SB43 本跡
405	A-2g3	N-0°	円形	1.24 × 1.19	16	緩斜	平坦	人為	土師器	
406	A-2h9	N-7°E	楕円形	0.86 × 0.68	65	直立	皿状	人為		SI132 本跡
407	A-2h0	N-12°E	楕円形	0.80 × 0.62	49	直立	平坦	人為		
408	A-2h0	N-90°E	楕円形	0.86 × 0.72	46	外傾	皿状	人為	土師器	
409	A-2h9	N-39°E	楕円形	0.60 × 0.51	28	外傾	皿状	人為		
411	A-2g9	N-57°W	楕円形	1.04 × 0.58	25	外傾	平坦	人為		
412	A-2g8	N-2°W	不整楕円形	0.86 × 0.67	48	外傾	凹凸	人為		本跡 PG11
413	A-2g7	N-0°	円形	1.10 × 1.00	27	外傾	凹凸	自然	土師器・須恵器	
414	A-2f8	N-87°W	楕円形	1.05 × 0.80	18	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器	PG11
415	A-2g7	N-20°W	不定形	1.67 × 1.50	42	外傾	平坦	自然	土師器・須恵器	PG11
416	A-2g6	N-20°E	楕円形	1.07 × 0.90	98	外傾	凹凸	人為	土師器・須恵器	PG11
417	A-2f7	N-0°	円形	0.50 × 0.50	31	外傾	皿状	人為	土師器	
418	A-2e8	N-22°W	楕円形	1.13 × 1.02	18	外傾	平坦	自然	縄文土器・土師器・須恵器	
419	A-2d7	N-14°E	楕円形	0.75 × 0.64	35	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器	
420	A-2d7	N-18°W	楕円形	0.83 × 0.65	25	外傾	平坦	人為		
421	A-2d6	N-12°W	楕円形	0.71 × 0.60	37	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器・鉄製品	
422	A-2c6	N-4°W	楕円形	0.70 × 0.60	39	外傾	皿状	人為	土師器	
423	A-2c6	N-6°W	楕円形	0.85 × 0.60	40	外傾	皿状	人為	土師器	
424	A-2f5	N-69°E	長楕円形	2.87 × 1.09	80	外傾 緩斜	皿状	自然		
425	A-2c7	N-10°W	楕円形	0.70 × 0.60	43	外傾	皿状	人為	縄文土器・土師器・須恵器	
426	A-2d8	N-52°W	楕円形	1.12 × 0.92	63	外傾	皿状	自然	土師器・須恵器	本跡 PG11



番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧 新)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(cm)					
428	A 2 e3	N・0°	円形	0.86 × 0.82	20	外傾	平坦	人為		
430	A 2 i7	N・11°E	不定形	2.20 × 1.98	92	外傾 内傾	平坦	人為		SK400 本跡 SB38
434	A 2 a1	N・0°	円形	1.25 × 1.25	19	外傾	平坦	自然		
441	A 2 a3	N・0°	円形	0.50 × 0.47	15	外傾	平坦	人為		
442	A 2 a3	N・77°E	[隅丸長方形]	2.04 × (0.77)	22	外傾	平坦	人為		
443	Z 2 j3	N・0°	円形	0.49 × 0.45	17	外傾	皿状	人為		
446	A 2 e5	N・0°	円形	0.30 × 0.27	15	外傾	皿状	-		
453	A 3 a9	N・19°W	楕円形	0.65 × 0.45	21	外傾	皿状	人為		
454	A 2 e1	N・19°W	楕円形	1.06 × 0.88	48	外傾	皿状	自然		
455	A 2 f4	N・73°E	楕円形	0.53 × 0.46	41	外傾	皿状	人為		
456	A 2 f3	N・0°	円形	0.44 × 0.42	46	外傾	皿状	人為		
457	A 2 e2	N・6°W	楕円形	0.65 × 0.52	24	外傾	皿状	人為		
458	A 2 h6	N・60°W	円形	0.39 × 0.37	28	外傾	皿状	人為		
459	A 2 f2	N・0°	円形	0.36 × 0.36	12	外傾	皿状	人為		
460	A 4 c2	N・0°	円形	0.34 × 0.34	30	外傾	凹凸	人為		
461	A 4 c2	N・12°W	楕円形	0.30 × 0.20	37	外傾	皿状	人為		
462	A 4 b2	N・0°	円形	0.37 × 0.34	25	外傾	皿状	人為		
463	A 4 b2	N・52°E	楕円形	0.48 × 0.35	27	外傾	皿状	人為		
464	A 4 c2	N・0°	円形	0.43 × 0.43	57	外傾	皿状	人為		
465	Z 5 h9	N・0°	円形	0.35 × 0.34	19	外傾	皿状	人為	土師器	
466	Z 5 i9	N・25°W	楕円形	0.50 × 0.35	23	外傾	皿状	人為		
467	Z 5 i9	N・5°W	楕円形	0.69 × 0.45	34	外傾	皿状	人為	須恵器	SK468 本跡
468	Z 5 i9	N・40°E	[楕円形]	(0.47) × 0.46	22	外傾	皿状	人為		本跡 SK467
469	Z 5 h0	N・0°	円形	0.58 × 0.56	47	外傾	皿状	人為		
500	Z 5 g3	N・68°W	長方形	3.36 × 1.10	18	緩斜	平坦	人為	鉄製品	SD20 SK501 SK502 本跡
501	Z 5 g3	N・89°W	[長方形]	2.10 × (0.86)	21	緩斜	平坦	人為	土師器	SD20 本跡 SK500
502	Z 5 g3	N・80°W	長方形	1.60 × 0.96	26	緩斜	平坦	人為	土師器	本跡 SK500
504	Z 5 g6	N・0°	円形	0.94 × 0.87	51	外傾	凹凸	人為	陶器	
505	Z 5 j1	N・38°W	不定形	0.96 × 0.84	31	外傾	平坦	人為		SI147 本跡 SK506
506	Z 5 i1	N・0°	円形	0.63 × 0.60	17	緩斜	皿状	人為		SI147 SK505 本跡
507	Z 5 i2	N・29°E	隅丸長方形	0.83 × 0.57	8	直立 緩斜	平坦	人為	土師器・陶器	
508	Z 5 g4	N・63°W	[長方形]	(1.29) × 0.92	8	緩斜	平坦	人為	土師器・磁器	SK509 本跡
509	Z 5 g4	N・48°W	[楕円形]	1.14 × 0.95	26	外傾	皿状	人為	陶器	本跡 SK508
510	A 5 b2	N・78°E	隅丸長方形	1.27 × 0.88	35	外傾	平坦	人為	土師器	
511	A 5 a7	N・71°E	楕円形	0.46 × 0.32	23	外傾	皿状	人為	土師器・須恵器・灰輪陶器・瓦質土器	
512	Z 5 f2	N・68°W	隅丸長方形	1.00 × 0.57	16	緩斜	皿状	人為		SK513 本跡
513	Z 5 g2	N・61°W	[楕円形]	0.82 × 0.50	30	緩斜	平坦	人為	土師器・陶器・磁器	本跡 SK512
514	Z 5 h6	N・88°E	長方形	3.85 × 0.75	80	外傾	平坦	人為	陶器	

## (5) ピット群

### 第1号ピット群 (第220図)

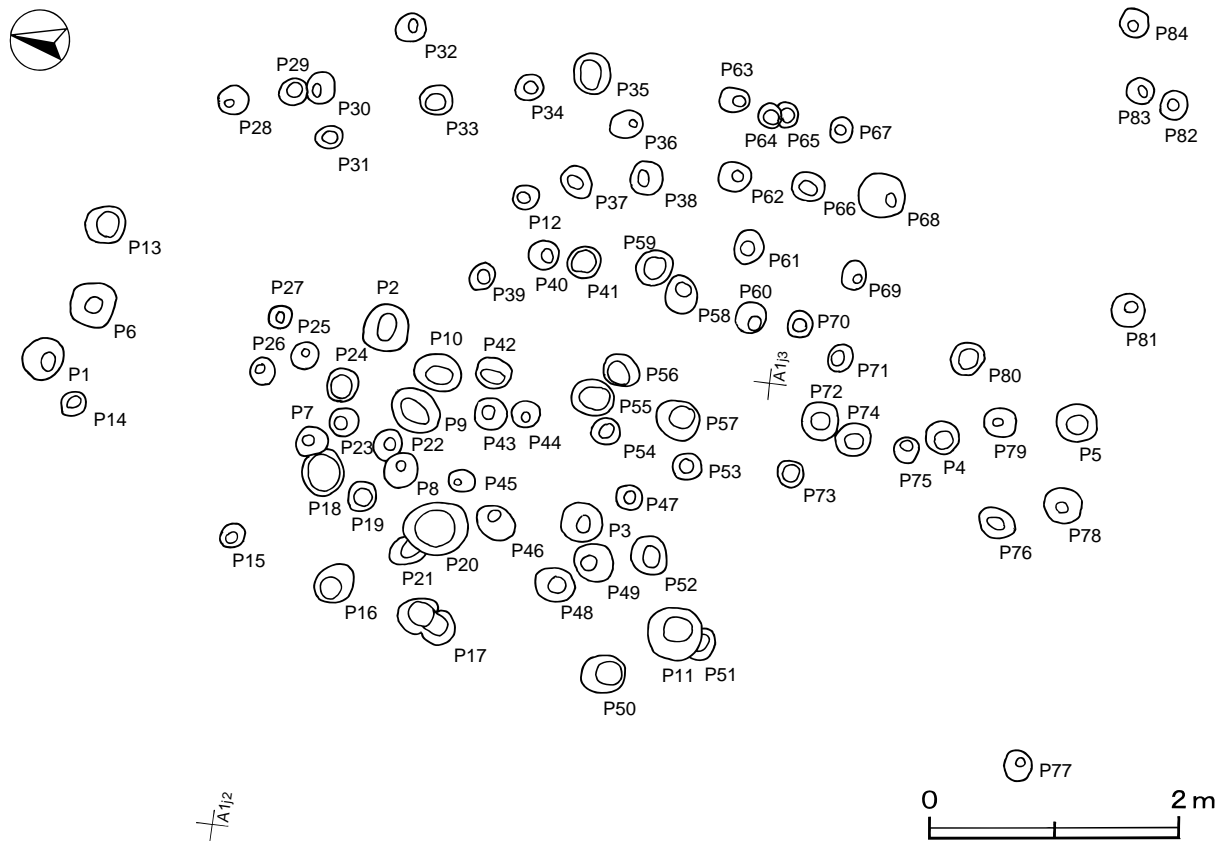
**位置** 調査区東部のA 1 h2～A 1 j3区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 南北9.00m，東西5.50mの長方形の範囲にピット84か所が確認された。形状は径13～50cmの円形または楕円形である。深さは3～46cmで，断面形はU字状である。

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認できず，暗褐色土または黒褐色土で締めりが弱い。

**遺物出土状況** 土師器片17点（坏4，高台付坏1，甕12），須恵器片4点（坏2，甕2），陶器片2点（碗）が出土しているが，いずれも細片で図示できない。

**所見** 配置に規則性がなく，性格は不明である。時期は，出土土器が流れ込みのため不明である。



第220図 第1号ピット群実測図

第1号ピット群ピット一覧表

ピット番号	形状	規模 (cm)		
		長軸 (径)	短軸 (径)	深さ
1	円形	34	29	28
2	円形	38	33	33
3	円形	33	31	34
4	円形	26	25	18
5	円形	32	28	25
6	円形	38	35	22
7	円形	25	25	28
8	円形	30	28	14
9	円形	43	33	39
10	円形	38	28	8
11	円形	41	38	45
12	円形	20	18	20
13	円形	33	30	10
14	円形	20	19	6
15	円形	20	20	13
16	円形	35	30	7
17	楕円形	50	30	4
18	円形	40	33	38
19	円形	28	23	18
20	円形	45	45	28
21	[円形]	34	(30)	15
22	円形	27	23	18
23	円形	25	23	40
24	円形	26	23	15
25	円形	24	21	37

ピット番号	形状	規模 (cm)		
		長軸 (径)	短軸 (径)	深さ
26	円形	20	20	19
27	円形	20	17	8
28	円形	22	20	46
29	円形	23	20	28
30	円形	28	24	23
31	円形	20	18	22
32	円形	26	21	32
33	円形	24	23	18
34	円形	22	20	21
35	円形	33	27	10
36	円形	25	23	45
37	円形	27	22	19
38	円形	28	23	38
39	円形	23	18	20
40	円形	27	23	25
41	円形	28	25	32
42	円形	26	22	15
43	円形	26	22	17
44	円形	23	23	12
45	円形	20	20	13
46	円形	33	27	14
47	円形	23	18	6
48	円形	30	25	17
49	円形	31	28	20
50	円形	37	30	9

ピット番号	形状	規模 (cm)		
		長軸 (径)	短軸 (径)	深さ
51	[円形]	28	(13)	15
52	円形	30	25	14
53	円形	23	20	15
54	円形	22	18	19
55	円形	32	27	10
56	円形	28	25	3
57	円形	36	33	14
58	円形	31	26	34
59	円形	30	28	31
60	円形	25	25	13
61	円形	25	21	45
62	円形	25	25	40
63	円形	23	20	34
64	円形	18	18	15
65	[円形]	20	(13)	6
66	円形	26	25	22
67	円形	23	20	28
68	円形	35	35	30
69	円形	23	20	27
70	円形	22	22	22
71	円形	22	20	23
72	円形	30	29	43
73	円形	22	20	27
74	円形	32	26	19
75	円形	22	20	12

ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
76	円形	30	26	17
77	円形	24	19	20
78	円形	30	29	17

ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
79	円形	34	22	7
80	円形	26	26	3
81	円形	27	25	8

ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
82	円形	24	19	35
83	円形	23	20	13
84	円形	23	18	40

### 第2号ピット群 (第221図)

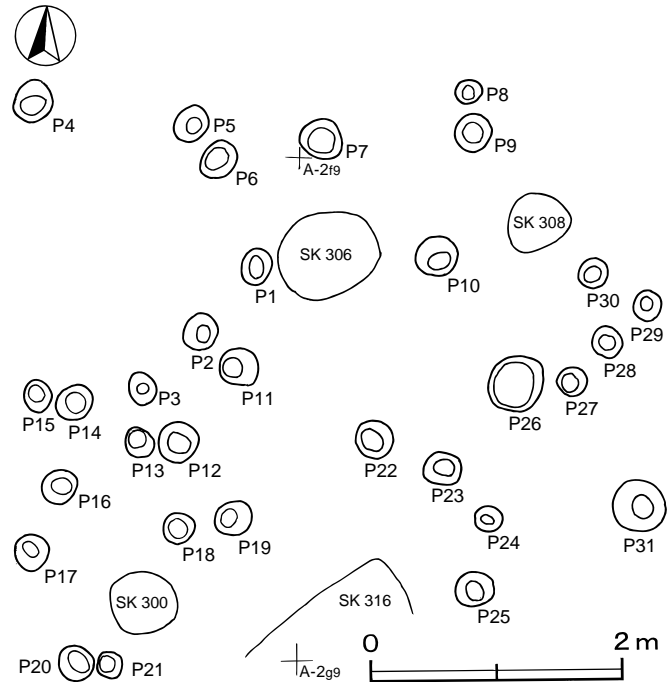
**位置** 調査区中央部のA・2f8～A・2g9区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第300・306・308・316号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 東西6m、南北4.5mの長方形の範囲にピット31か所が確認された。形状は径18～48cmの円形である。深さは11～36cmで、断面形はU字状である。

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認できず、褐色土または暗褐色土で締まりが弱い。

**所見** 配置に規則性がなく、性格は不明である。時期は出土土器がないため不明である。



第221図 第2号ピット群実測図

### 第2号ピット群ピット一覧表

ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	円形	29	24	21
2	円形	30	28	18
3	円形	25	20	20
4	円形	33	28	17
5	円形	30	26	24
6	円形	30	27	19
7	円形	34	30	17
8	円形	21	18	21
9	円形	32	28	19
10	円形	33	28	29
11	円形	33	28	20

ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
12	円形	32	30	21
13	円形	24	21	20
14	円形	28	24	20
15	円形	28	24	21
16	円形	28	26	22
17	円形	29	26	21
18	円形	25	23	14
19	円形	27	26	14
20	円形	28	27	22
21	円形	23	22	19
22	円形	30	27	16

ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
23	円形	33	29	16
24	円形	23	20	19
25	円形	32	27	36
26	円形	48	43	11
27	円形	23	22	13
28	円形	25	23	14
29	円形	23	23	14
30	円形	25	24	22
31	円形	41	38	22

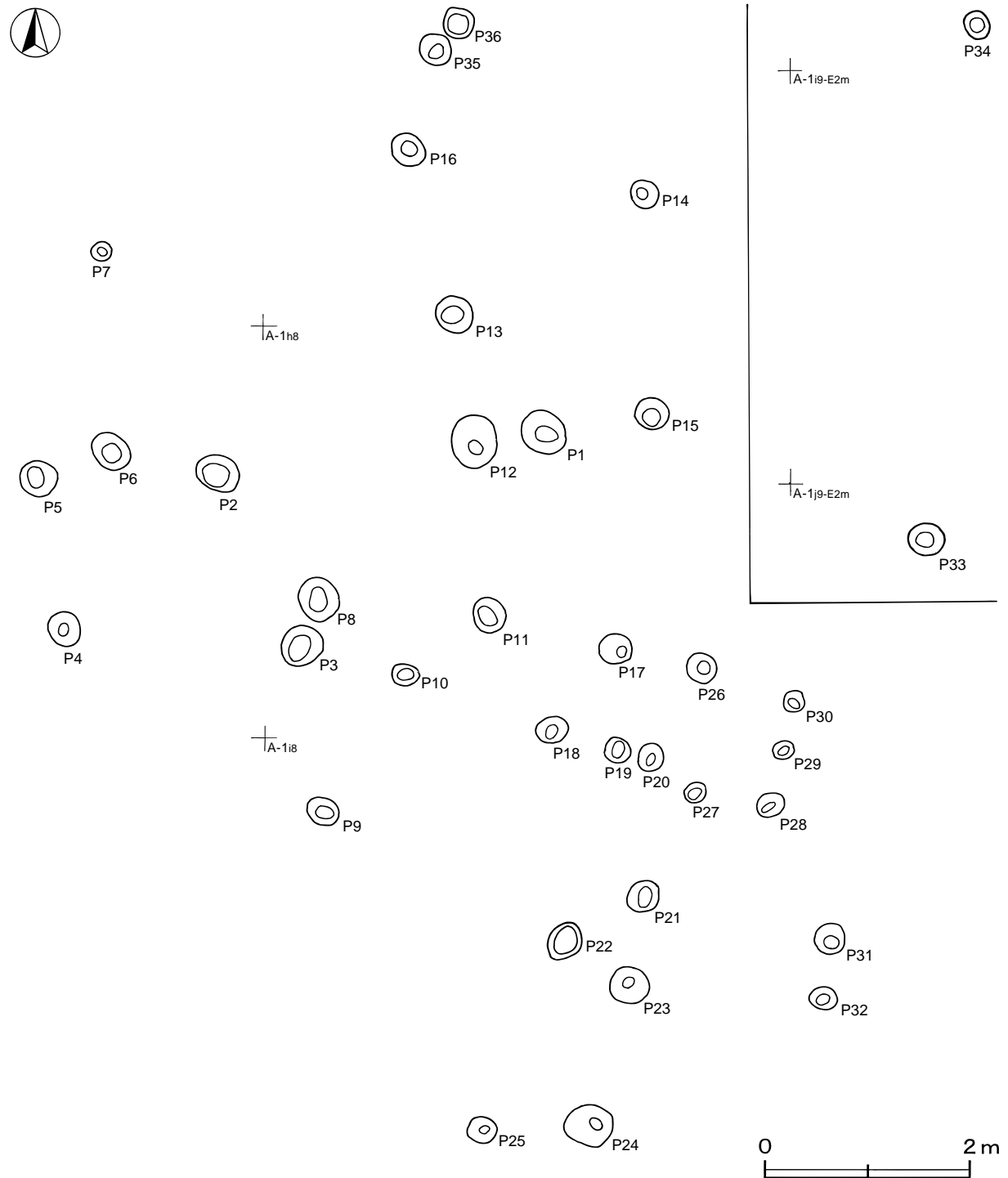
### 第3号ピット群 (第222図)

**位置** 調査区中部のA・1g7～A・1j9区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 南北11m、東西10mの長方形の範囲にピット36か所が確認された。形状は径18～51cmの円形である。深さは8～64cmで、断面形はU字状である。

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認できず、暗褐色土または黒褐色土で締まりが弱い。

**所見** 配置に規則性がなく、性格は不明である。時期は、出土土器がないため不明である。



第222図 第3号ピット群実測図

第3号ピット群ピット一覧表

ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	円形	45	38	32	4	円形	33	30	24	7	円形	20	18	9
2	円形	42	35	25	5	円形	36	36	31	8	円形	45	38	28
3	円形	45	38	27	6	円形	36	36	30	9	円形	31	28	11

ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
10	円形	25	24	14
11	円形	37	32	23
12	円形	51	48	22
13	円形	37	34	18
14	円形	30	23	14
15	円形	33	32	20
16	円形	35	30	31
17	円形	33	32	37
18	円形	30	25	18

ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
19	円形	26	23	10
20	円形	28	25	23
21	円形	35	30	42
22	円形	40	34	24
23	円形	36	36	28
24	円形	48	44	64
25	円形	28	28	25
26	円形	28	28	26
27	円形	22	18	23

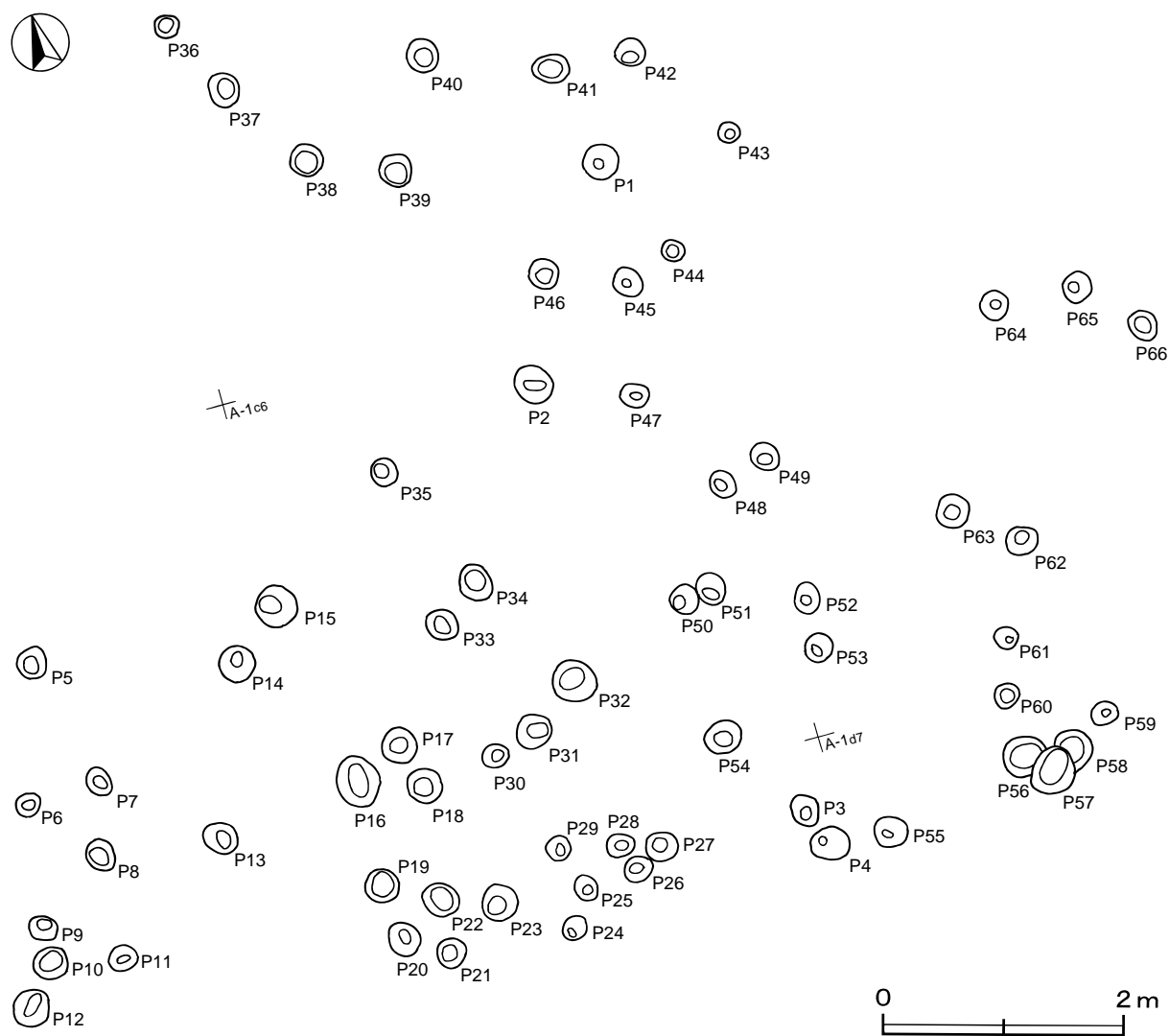
ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
28	円形	31	22	15
29	円形	23	18	16
30	円形	20	20	13
31	円形	30	28	18
32	円形	26	22	8
33	円形	35	34	46
34	円形	26	22	21
35	円形	31	26	-
36	円形	30	30	-

#### 第4号ピット群 (第223図)

**位置** 調査区中部のA・1b5～A・1d7区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 東西11m，南北8.5mの長方形の範囲にピット66か所が確認された。形状は径17～43cmの円形である。深さは9～63cmで，断面形はU字状である。

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認できず，暗褐色土または黒褐色土で締まりが弱い。



第223図 第4号ピット群実測図

**遺物出土状況** 土師器片 2 点 (坏, 甕), 須恵器片 1 点 (甕), 瓦質土器片 1 点 (不明) が各ピットから出土している。

**所見** 配置に規則性がなく, 性格は不明である。時期は, 出土土器が流れ込みのため不明である。

#### 第 4 号ピット群ピット一覧表

ピット 番号	形状	規模 (cm)			ピット 番号	形状	規模 (cm)			ピット 番号	形状	規模 (cm)		
		長軸 (径)	短軸 (径)	深さ			長軸 (径)	短軸 (径)	深さ			長軸 (径)	短軸 (径)	深さ
1	円形	31	28	28	23	円形	30	30	24	45	円形	25	25	24
2	円形	31	31	29	24	円形	20	18	20	46	円形	27	25	20
3	円形	28	24	46	25	円形	23	18	18	47	円形	25	21	27
4	円形	30	25	24	26	円形	25	20	32	48	円形	24	21	16
5	円形	26	23	21	27	円形	26	24	30	49	円形	24	24	10
6	円形	22	18	28	28	円形	23	18	20	50	円形	26	22	22
7	円形	26	23	24	29	円形	20	17	24	51	円形	25	25	17
8	円形	28	25	37	30	円形	23	18	25	52	円形	26	22	33
9	円形	24	20	19	31	円形	31	26	16	53	円形	25	21	20
10	円形	28	28	17	32	円形	35	33	21	54	円形	30	26	19
11	円形	25	22	27	33	円形	25	25	10	55	円形	26	25	25
12	円形	32	30	16	34	円形	30	27	30	56	円形	34	32	16
13	円形	28	27	16	35	円形	23	23	14	57	円形	37	30	25
14	円形	32	32	14	36	円形	21	18	12	58	[円形]	(36)	33	22
15	円形	36	33	25	37	円形	28	24	13	59	円形	22	18	28
16	円形	43	35	37	38	円形	30	25	16	60	円形	20	18	9
17	円形	29	29	22	39	円形	30	27	14	61	円形	20	17	36
18	円形	27	26	18	40	円形	26	25	16	62	円形	26	22	12
19	円形	29	25	21	41	円形	30	25	10	63	円形	27	25	63
20	円形	28	25	20	42	円形	26	25	15	64	円形	25	23	11
21	円形	25	23	13	43	円形	19	27	12	65	円形	25	21	25
22	円形	30	28	18	44	円形	18	18	18	66	円形	25	23	14

#### 第 5 号ピット群 (第224図)

**位置** 調査区西部の A・3d1 ~ A・3f4区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 東西12.6m, 南北7.6mの長方形の範囲にピット21か所が確認された。形状は径15 ~ 55cmの円形または, 楕円形である。深さは14 ~ 102cmで, 断面形はU字状である。

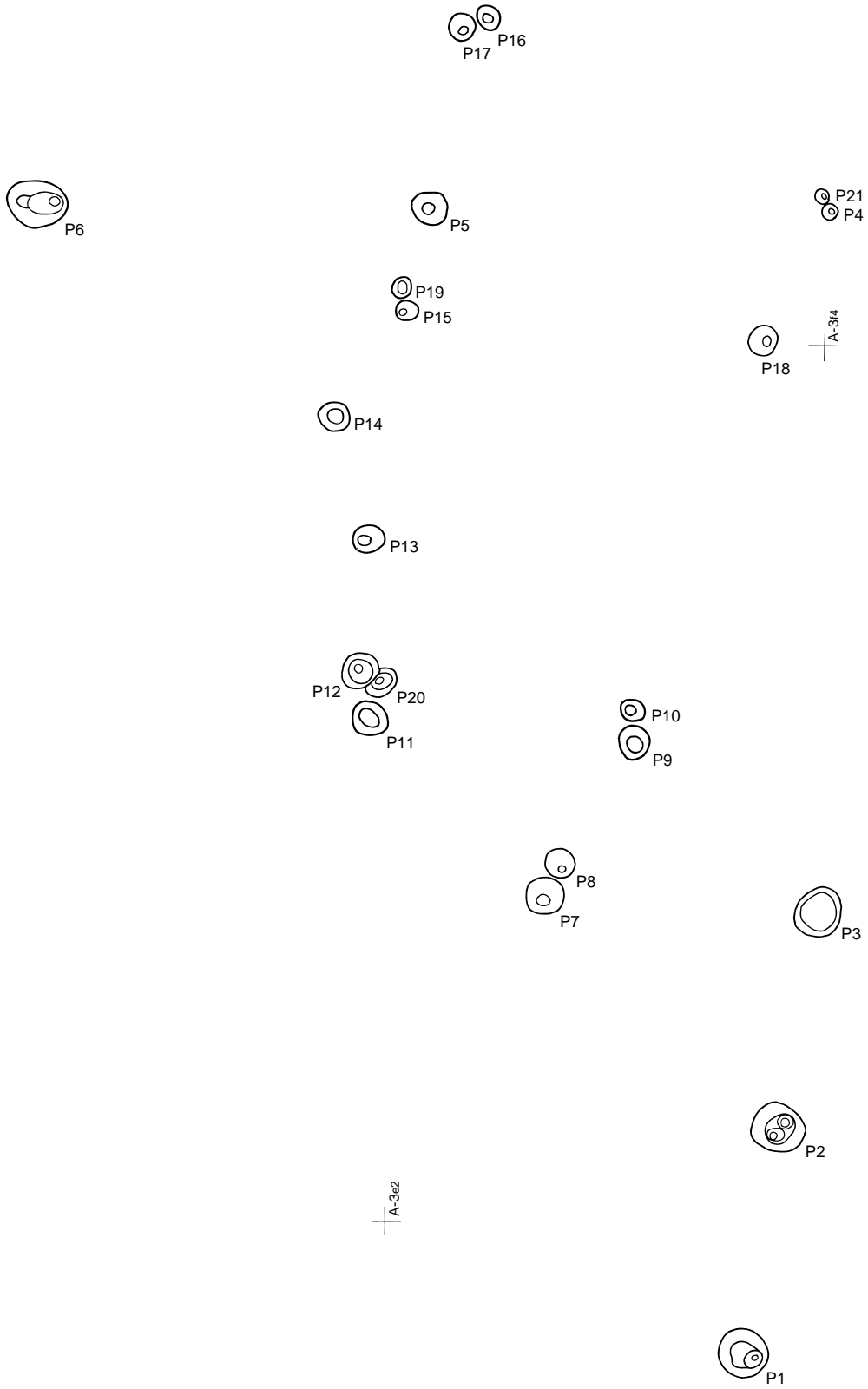
**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認できず, 暗褐色土または黒褐色土で締まりが弱い。

**遺物出土状況** 土師器片 1 点 (坏), 須恵器片 1 点 (坏) が出土しているが, いずれも細片で図示できない。

**所見** 配置に規則性がなく, 性格は不明である。時期は, 出土土器が流れ込みのため不明である。

#### 第 5 号ピット群ピット一覧表

ピット 番号	形状	規模 (cm)			ピット 番号	形状	規模 (cm)			ピット 番号	形状	規模 (cm)		
		長軸 (径)	短軸 (径)	深さ			長軸 (径)	短軸 (径)	深さ			長軸 (径)	短軸 (径)	深さ
1	円形	45	45	50	8	円形	28	23	22	15	円形	20	18	58
2	円形	48	45	35	9	円形	30	30	31	16	円形	32	25	48
3	円形	45	40	43	10	円形	20	20	31	17	円形	32	27	34
4	円形	15	15	80	11	円形	35	29	16	18	円形	32	30	44
5	円形	34	28	64	12	円形	35	33	66	19	円形	20	20	22
6	楕円形	55	43	102	13	円形	28	25	38	20	[円形]	32	(20)	33
7	円形	38	36	32	14	円形	27	27	14	21	円形	15	15	73



第224図 第5号ピット群実測図

**第9号ピット群 (第225図)**

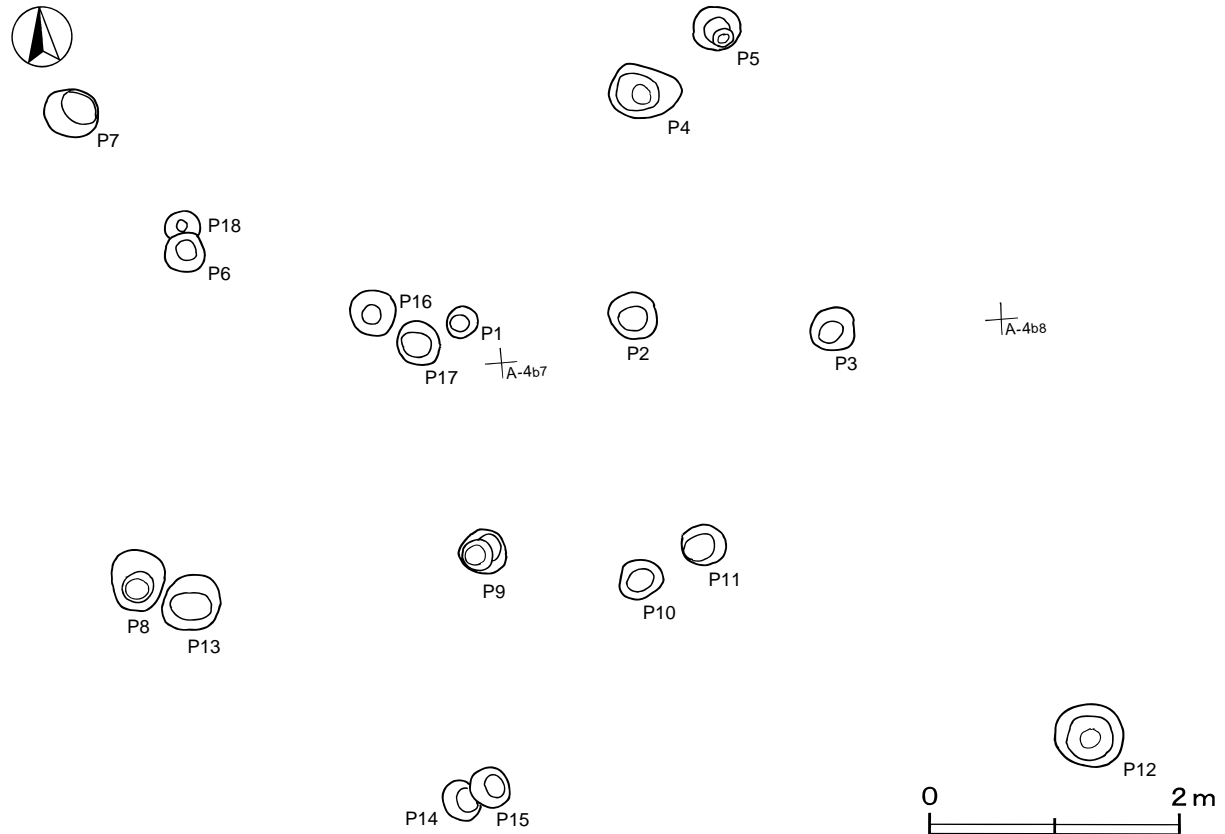
**位置** 調査区西部のA・4a6～A・4b8区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 東西8.5m，南北6mの長方形の範囲にピット18か所が確認された。形状は径15～57cmの円形である。深さは30～58cmで，断面形はU字状である。

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認できず，暗褐色土または黒褐色土で締まりが弱い。

**遺物出土状況** 土師器片4点（坏1，甕3），須恵器片1点（甕），陶器片1点（不明）が出土しているが，いずれも細片で図示できない。

**所見** 配置に規則性がなく，性格は不明である。時期は，出土土器が流れ込みのため不明である。



第225図 第9号ピット群実測図

**第9号ピット群ピット一覧表**

ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	円形	25	25	48	7	円形	42	40	58	13	円形	50	43	45
2	円形	40	38	46	8	円形	47	43	58	14	[円形]	30	(26)	40
3	円形	36	36	32	9	円形	38	35	55	15	円形	33	32	45
4	円形	57	52	50	10	円形	35	29	48	16	円形	35	35	34
5	円形	40	37	-	11	円形	37	33	40	17	円形	37	34	50
6	円形	33	30	30	12	円形	53	48	34	18	[円形]	25	(15)	30

**第10号ピット群 (第226図)**

**位置** 調査区西部のA・3e9～A・3g0区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

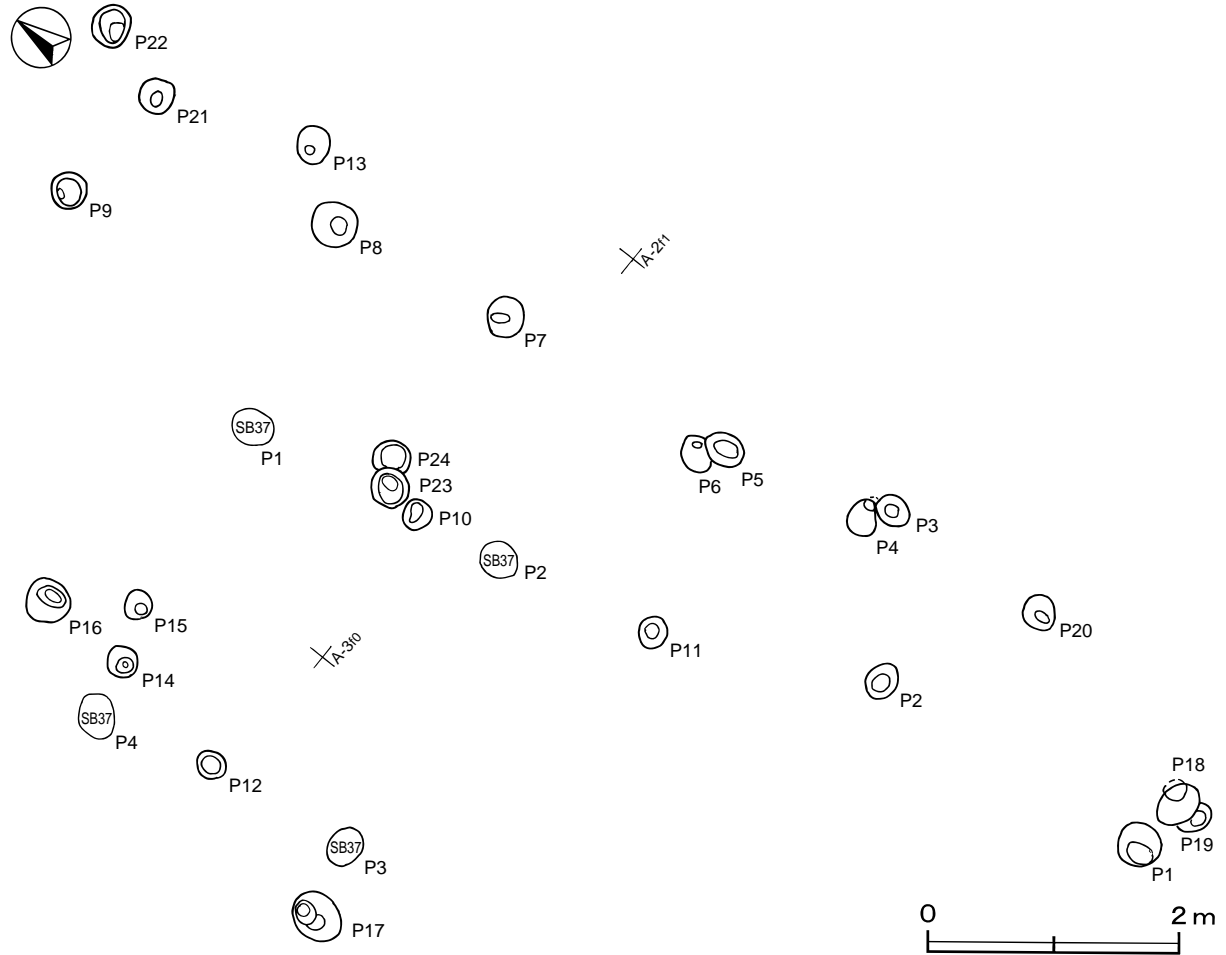
**重複関係** 第37号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。



**規模と形状** 南北11m，東西6mの長方形の範囲にピット24か所が確認された。形状は径15～42cmの円形である。深さは7～63cmで，断面形はU字状である。

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認できず，暗褐色土または黒褐色土で締まりが弱い。

**所見** 配置に規則性がなく，性格は不明である。時期は，出土土器がないため不明である。



第226図 第10号ピット群実測図

第10号ピット群ピット一覧表

ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	円形	38	33	53	9	円形	31	25	47	17	円形	42	39	38
2	円形	30	25	41	10	円形	23	20	37	18	円形	36	29	63
3	円形	24	22	27	11	円形	26	22	22	19	[円形]	26	(15)	44
4	円形	31	25	53	12	円形	23	20	7	20	円形	28	24	25
5	円形	30	25	26	13	円形	31	26	57	21	円形	29	26	29
6	[円形]	28	(20)	49	14	円形	27	25	47	22	円形	36	30	27
7	円形	33	30	43	15	円形	15	25	53	23	円形	23	29	24
8	円形	36	35	62	16	円形	37	33	37	24	[円形]	29	(22)	19

### 第11号ピット群 (第227図)

**位置** 調査区東部の A 1 b0～B 2 a0区，標高24mの平坦な台地の縁辺部に位置している。

**重複関係** 第132号住居跡，第16号溝跡，第412・426号土坑を掘り込み，第134～140号住居跡，第38～40・43～48・50号掘立柱建物跡，第4・5号井戸跡，第385・387・390・394・398・400～402・405～409・411・413

～425・427～430号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。

**規模と形状** 東西48m，南北38mの長方形の範囲にピット156か所が確認された。形状は径13～94cmの円形または、楕円形である。深さは8～99cmで，断面形はU字状または逆台形状である。

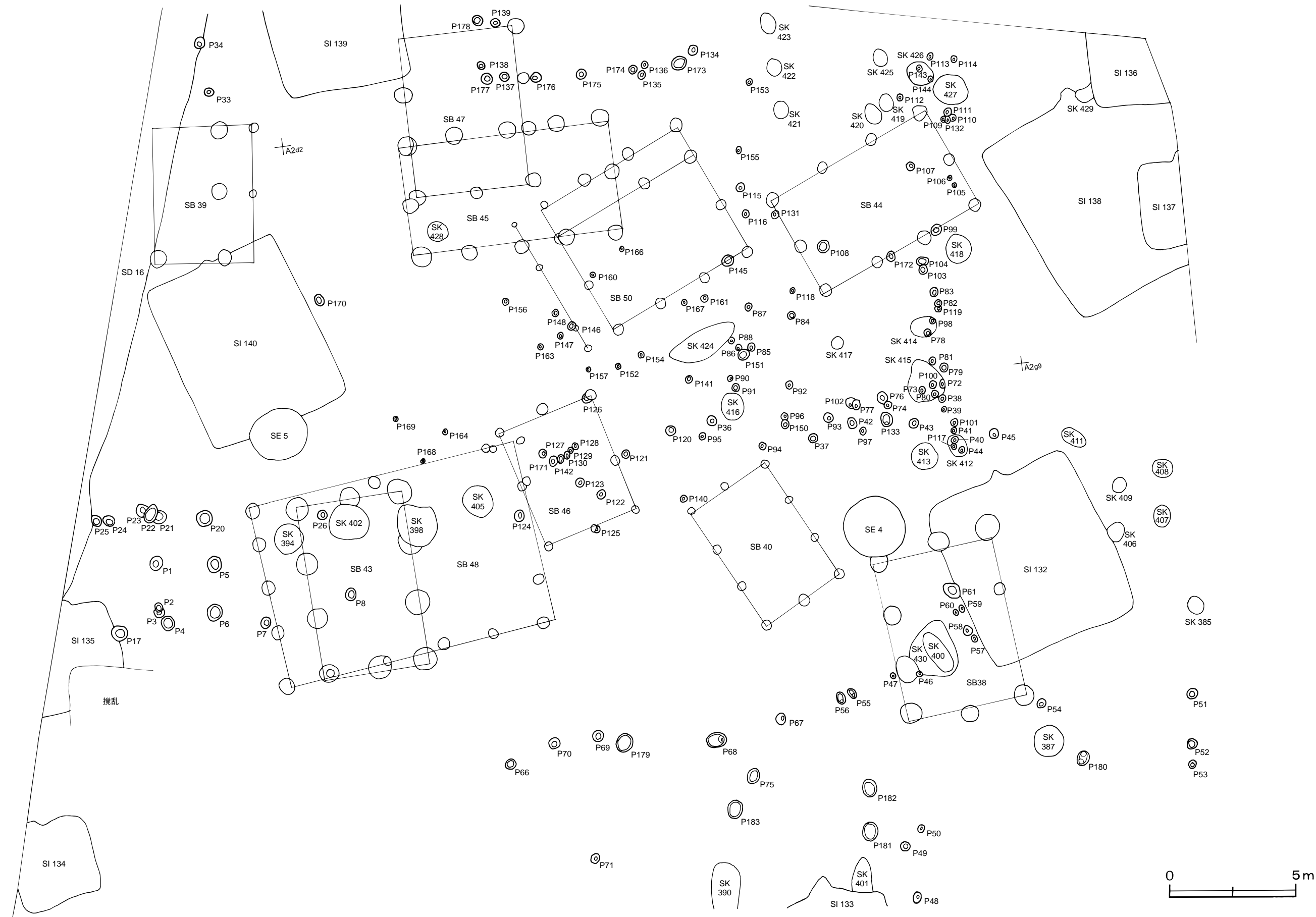
**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認できず，暗褐色土または黒褐色土で締まりが弱い。

**遺物出土状況** 土師器片53点（坏6，甕47），須恵器片13点（坏10，甕3），土製品1点（不明）が出土しているが，いずれも細片で図示できない。

**所見** 配置に規則性がなく，性格は不明である。時期は，出土土器が流れ込みのため不明である。

第11号ピット群ピット一覧表

ピット 番号	形状	規模(cm)			ピット 番号	形状	規模(cm)			ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	円形	55	46	40	67	楕円形	50	41	53	113	円形	30	25	55
2	円形	34	31	39	68	楕円形	86	58	59	114	円形	30	25	43
3	[楕円形]	38	(23)	85	69	円形	50	45	50	115	円形	38	35	42
4	円形	60	56	82	70	円形	45	40	46	116	楕円形	37	22	50
5	円形	65	61	44	71	円形	37	35	51	117	楕円形	(40)	(26)	40
6	円形	61	61	73	72	楕円形	40	29	77	118	楕円形	23	18	20
7	円形	40	40	35	73	円形	27	27	27	119	楕円形	30	20	56
8	円形	53	45	38	74	円形	37	32	85	120	円形	43	38	41
17	円形	63	62	71	75	円形	94	80	51	121	円形	33	30	39
20	円形	62	60	53	76	楕円形	56	44	76	122	円形	38	34	58
21	[楕円形]	55	(39)	49	77	円形	39	33	60	123	円形	37	35	27
22	楕円形	76	55	30	78	円形	29	29	40	124	円形	45	40	65
23	円形	56	53	63	79	楕円形	41	31	70	125	[楕円形]	28	(13)	68
24	楕円形	54	44	26	80	楕円形	33	25	39	126	[楕円形]	40	(19)	21
25	円形	45	43	64	81	円形	33	29	84	127	円形	38	34	48
26	円形	37	34	34	82	円形	33	28	56	128	楕円形	27	22	37
33	円形	34	30	22	83	楕円形	45	33	52	129	円形	24	22	59
34	円形	40	40	38	84	円形	31	30	16	130	楕円形	28	18	46
36	円形	44	42	99	85	円形	36	33	68	131	円形	32	30	75
37	円形	37	33	29	86	円形	32	30	42	132	円形	28	26	29
38	楕円形	40	23	40	87	円形	32	28	38	133	円形	13	50	57
39	楕円形	25	20	61	88	楕円形	35	24	28	134	楕円形	44	34	26
40	楕円形	33	24	53	90	円形	25	23	31	135	楕円形	37	30	32
41	楕円形	37	28	78	91	円形	33	30	24	136	円形	26	25	34
42	楕円形	60	42	38	92	円形	30	28	29	137	円形	40	35	54
43	楕円形	43	35	38	93	楕円形	42	34	37	138	楕円形	35	25	24
44	楕円形	30	23	58	94	円形	32	30	34	139	円形	40	34	19
45	円形	45	39	74	95	円形	27	26	37	140	円形	28	28	41
46	円形	23	23	83	96	円形	30	28	54	141	円形	31	27	65
47	円形	22	20	56	97	円形	31	29	54	142	楕円形	45	33	24
48	円形	33	31	51	98	円形	33	28	40	143	円形	27	24	80
49	円形	36	35	24	99	円形	48	47	69	144	円形	17	17	45
50	楕円形	35	27	47	100	円形	32	30	47	145	円形	49	44	44
51	円形	45	39	44	101	円形	33	30	25	146	楕円形	31	25	14
52	円形	40	35	49	102	[楕円形]	43	(35)	58	147	楕円形	40	25	21
53	円形	32	32	42	103	楕円形	42	33	41	148	円形	28	25	21
54	円形	37	33	23	104	[楕円形]	45	(29)	69	150	円形	34	30	31
55	楕円形	44	32	45	105	円形	22	20	44	151	楕円形	54	43	27
56	楕円形	45	35	42	106	円形	20	20	49	152	円形	24	22	14
57	円形	32	30	74	107	円形	33	28	59	153	円形	24	23	47
58	円形	42	40	97	108	円形	50	45	41	154	楕円形	28	23	40
59	楕円形	39	22	35	109	円形	24	23	45	155	円形	25	22	16
60	楕円形	30	21	32	110	円形	27	24	25	156	円形	29	25	20
61	楕円形	75	60	90	111	円形	38	34	55	157	円形	21	19	16
66	円形	43	43	27	112	円形	28	25	30	160	円形	25	23	28



第227図 第11号ピット群実測図

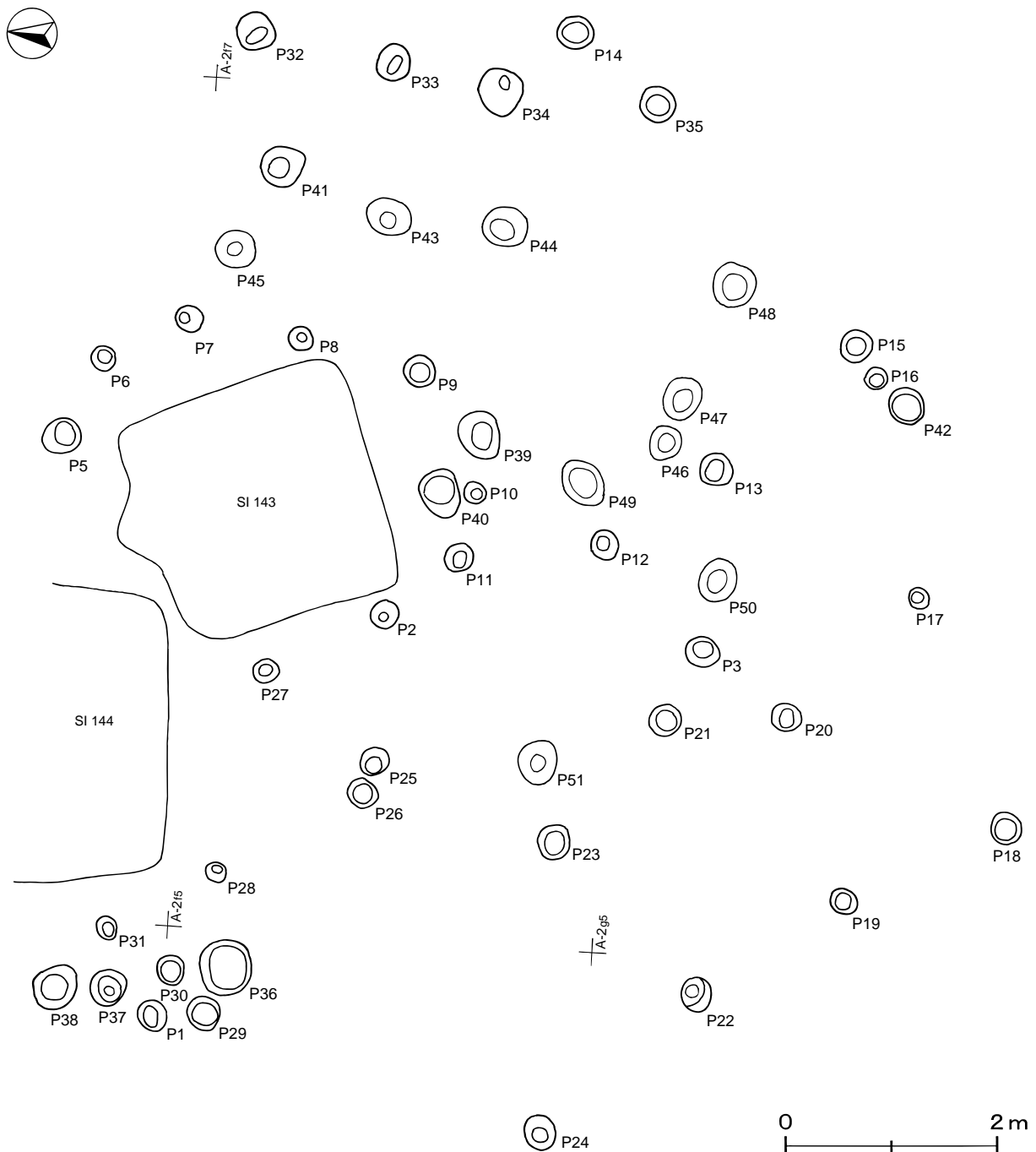
ビット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
161	円形	30	30	27
163	円形	25	24	18
164	円形	23	22	24
166	円形	24	22	20
167	円形	21	21	13
168	円形	20	19	19
169	円形	22	19	16

ビット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
170	楕円形	55	30	17
171	円形	42	37	47
172	楕円形	41	32	22
173	楕円形	64	53	81
174	円形	38	32	39
175	円形	41	36	36
176	円形	40	40	61

ビット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
177	円形	48	40	71
178	円形	39	38	41
179	楕円形	75	61	8
180	楕円形	65	45	49
181	楕円形	78	64	14
182	楕円形	69	59	24
183	楕円形	70	60	15

### 第13号ビット群 (第228図)

位置 調査区中部のA・2e4～A・2g7区，標高24mの平坦な台地上に位置している。



第228図 第13号ビット群実測図

**重複関係** 第143・144号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 東西11m、南北9.5mの長方形の範囲にピット50か所が確認された。形状は径18～53cmの円形または、楕円形である。深さは4～30cmで、断面形はU字状である。

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認できず、暗褐色土または黒褐色土で締まりが弱い。

**所見** 配置に規則性がなく、性格は不明である。時期は、出土土器がないため不明である。

第13号ピット群ピット一覧表

ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	円形	30	25	21	19	円形	27	23	10	36	円形	53	45	13
2	円形	28	23	30	20	円形	29	25	19	37	円形	39	35	19
3	円形	30	28	17	21	円形	30	30	5	38	円形	45	40	18
5	円形	38	33	14	22	円形	32	27	19	39	円形	48	40	17
6	円形	25	23	5	23	円形	34	29	14	40	円形	43	35	8
7	円形	25	23	16	24	円形	34	30	24	41	円形	38	36	21
8	円形	24	23	7	25	円形	28	26	12	42	円形	37	36	8
9	円形	33	28	13	26	円形	30	26	7	43	楕円形	45	34	24
10	円形	20	20	7	27	円形	23	22	22	44	円形	43	41	20
11	円形	29	25	8	28	円形	20	18	13	45	円形	39	37	23
12	円形	31	26	8	29	円形	32	32	14	46	円形	33	30	14
13	円形	32	30	16	30	円形	28	27	9	47	楕円形	41	33	15
14	円形	34	33	13	31	円形	22	18	12	48	円形	44	42	18
15	円形	32	29	17	32	円形	40	35	15	49	楕円形	49	38	13
16	円形	26	22	10	33	円形	37	33	14	50	楕円形	42	34	13
17	円形	22	20	14	34	円形	49	40	23	51	円形	37	37	22
18	円形	30	28	4	35	円形	36	36	16					

第14号ピット群 (第229図)

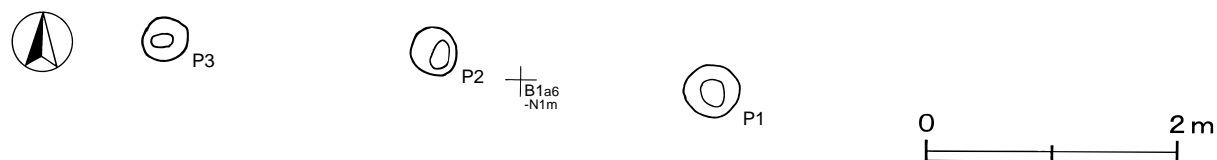
**位置** 調査区中央部のA 1 j5～B 1 a6区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** ピット3か所が確認された。形状は径33～45cmの円形である。深さは28～35cmで、断面形はU字状である。

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認できず、暗褐色土または黒褐色土で締まりが弱い。

**遺物出土状況** 土師質土器片5点(鍋類)、鉄製品1点(不明)が出土しているが、いずれも細片で図示できない。

**所見** 直線的に並んでいるが、性格は不明である。時期は、出土土器が流れ込みのため不明である。



第229図 第14号ピット群実測図

第14号ピット群ピット一覧表

ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	円形	45	41	33	2	円形	40	39	28	3	円形	37	33	35

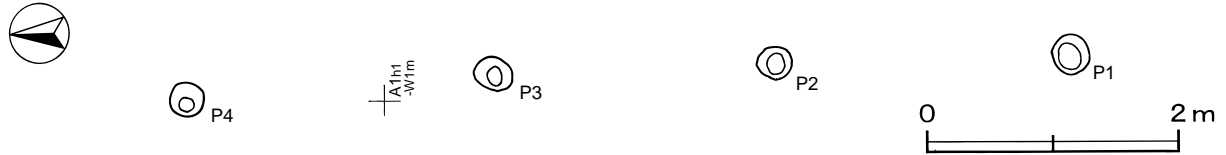
### 第15号ピット群 (第230図)

**位置** 調査区中央部のA・1g0～A・1i0区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** ピット4か所が確認された。形状は径24～32cmの円形である。深さは16～32cmで，断面形はU字状である。

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認できず，暗褐色土または黒褐色土で締まりが弱い。

**所見** 直線的に並んでいるが，性格は不明である。時期は，出土土器がないため不明である。



第230図 第15号ピット群実測図

#### 第15号ピット群ピット一覧表

ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	円形	32	31	23	3	円形	30	26	20
2	円形	28	27	16	4	円形	27	24	32

### 第16号ピット群 (第231図)

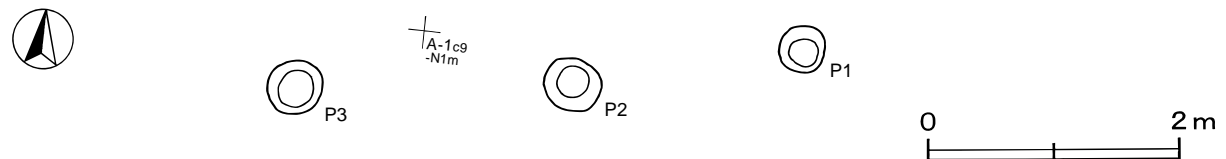
**位置** 調査区中央部のA・1b8～A・1b9区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** ピット3か所が確認された。形状は径38～46cmの円形である。深さは27～49cmで，断面形はU字状である。

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認できず，暗褐色土または黒褐色土で締まりが弱い。

**遺物出土状況** 土師器片8点(坏1，甕7)，須恵器片3点(甕)が出土しているが，いずれも細片で図示できない。

**所見** 直線的に並んでいるが，性格は不明である。時期は，出土土器が流れ込みのため不明である。



第231図 第16号ピット群実測図

#### 第16号ピット群ピット一覧表

ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	円形	40	38	27	2	円形	46	43	49	3	円形	45	42	42

**第17号ピット群 (第232図)**

**位置** 調査区中央部の A 1 c5 ~ A 1 c6区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** ピット3か所が確認された。形状は径30~48cmの円形である。深さは8~37cmで, 断面形はU字状である。

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認できず, 暗褐色土または黒褐色土で締まりが弱い。

**遺物出土状況** 須恵器片1点(坏)が出土しているが, 細片で図示できない。

**所見** 直線的に並んでいるが, 性格は不明である。時期は, 出土土器が流れ込みのため不明である。



第232図 第17号ピット群実測図

**第17号ピット群ピット一覧表**

ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	円形	30	30	8	2	円形	33	30	37	3	円形	48	42	10

**第18号ピット群 (第233図)**

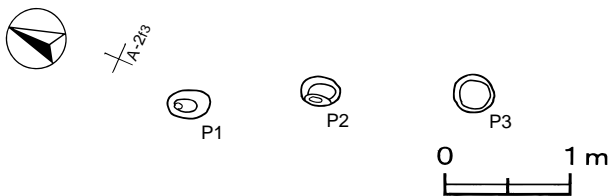
**位置** 調査区中央部の A・2f2 ~ A・2f3区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** ピット3か所が確認された。形状は径23~32cmの円形または, 楕円形である。深さは15~32cmで, 断面形はU字状である。

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認できず, 暗褐色土または黒褐色土で締まりが弱い。

**遺物出土状況** 土師器片11点(坏5, 甕6), 須恵器片1点(甕)が出土しているが, いずれも細片で図示できない。

**所見** 直線的に並んでいるが, 性格は不明である。時期は, 出土土器が流れ込みのため不明である。



第233図 第18号ピット群実測図

**第18号ピット群ピット一覧表**

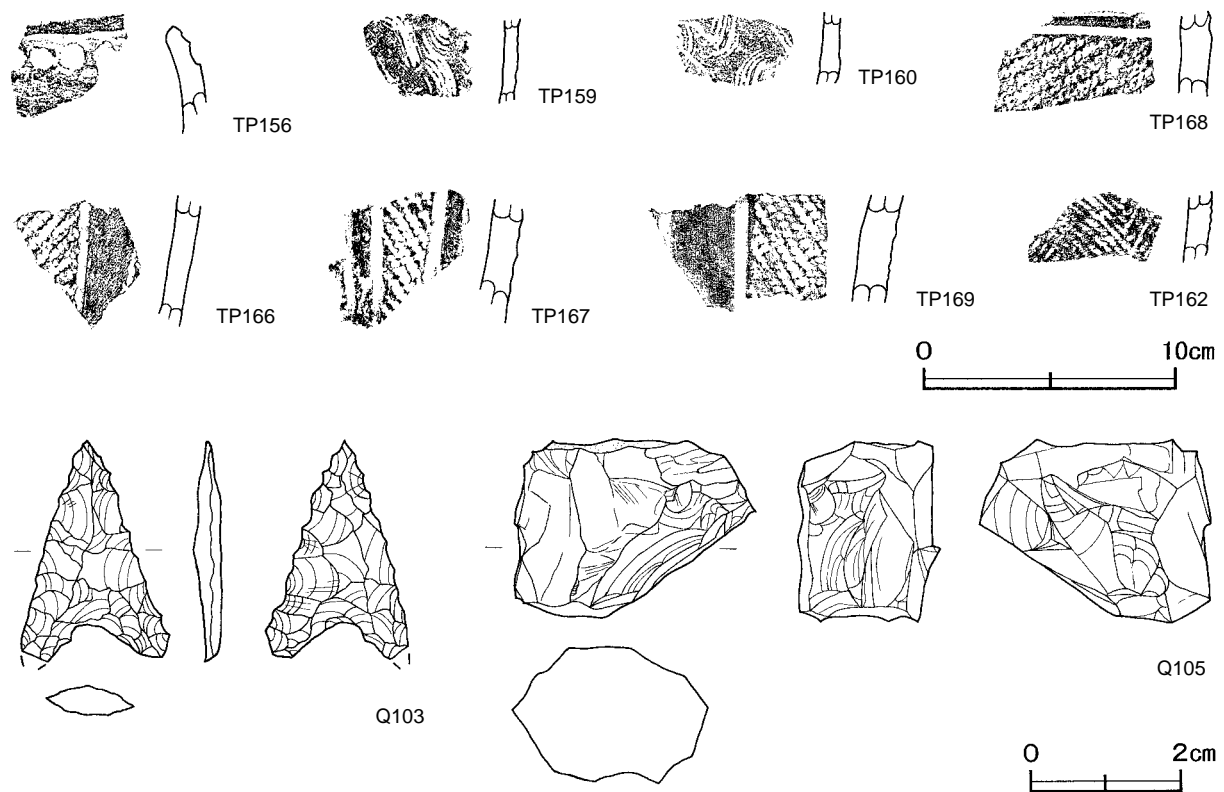
ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	楕円形	32	23	32	2	楕円形	31	25	18	3	円形	32	32	15

表17 その他のピット群一覧表

番号	位置	範囲 (m)		ピット数	ピット 平面形	ピット規模 (m)			ピット 断面形	覆土	主な出土遺物	備考 (旧 新)
		南北	東西			長径	短径	深さ (cm)				
1	A 1 h2 ~ A 1 j3	9.0	5.5	84	円形 槽円形	18~50	17~45	3~46	U字状	人為	土師器・須恵器・陶器	
2	A 2 f8 ~ A 2 g9	6.0	4.5	31	円形	21~48	18~43	11~36	U字状	人為	-	
3	A 1 g7 ~ A 1 j9	11.0	10.0	36	円形	20~51	18~48	8~64	U字状	人為	-	
4	A 1 b5 ~ A 1 d7	8.5	11.0	66	円形	18~43	17~35	9~63	U字状	人為	土師器・須恵器 瓦質土器	
5	A 3 d1 ~ A 3 f4	7.6	12.6	21	円形	15~55	15~43	14~102	U字状	人為	土師器・須恵器	
9	A 4 a6 ~ A 4 b8	6.0	8.5	18	円形	25~57	25~52	30~58	U字状	人為	土師器・須恵器・陶器	
10	A 3 e9 ~ A 3 g0	11.0	6.0	24	円形	15~42	20~39	7~63	U字状	人為	-	
11	A 1 b0 ~ B 2 a0	38.0	48.0	156	円形 槽円形	13~94	17~80	8~99	U字状	人為	土師器・須恵器・土製品	
13	A 2 e4 ~ A 2 g7	9.5	11.0	50	円形 槽円形	20~53	18~45	4~30	U字状	人為	-	
14	A 1 j5 ~ B 1 a6	0.7	4.9	3	円形	37~45	33~41	28~35	U字状	人為	土師質土器・鉄製品	
15	A 1 g0 ~ A 1 i0	7.3	0.7	4	円形	27~32	24~31	16~32	U字状	人為	-	
16	A 1 b8 ~ A 1 b9	0.8	4.4	3	円形	40~46	38~43	27~49	U字状	人為	土師器・須恵器	
17	A 1 c5 ~ A 1 c6	0.6	3.9	3	円形	30~48	30~42	8~37	U字状	人為	須恵器	
18	A 2 f2 ~ A 2 f3	2.4	1.2	3	円形 槽円形	31~32	23~32	15~32	U字状	人為	土師器・須恵器	

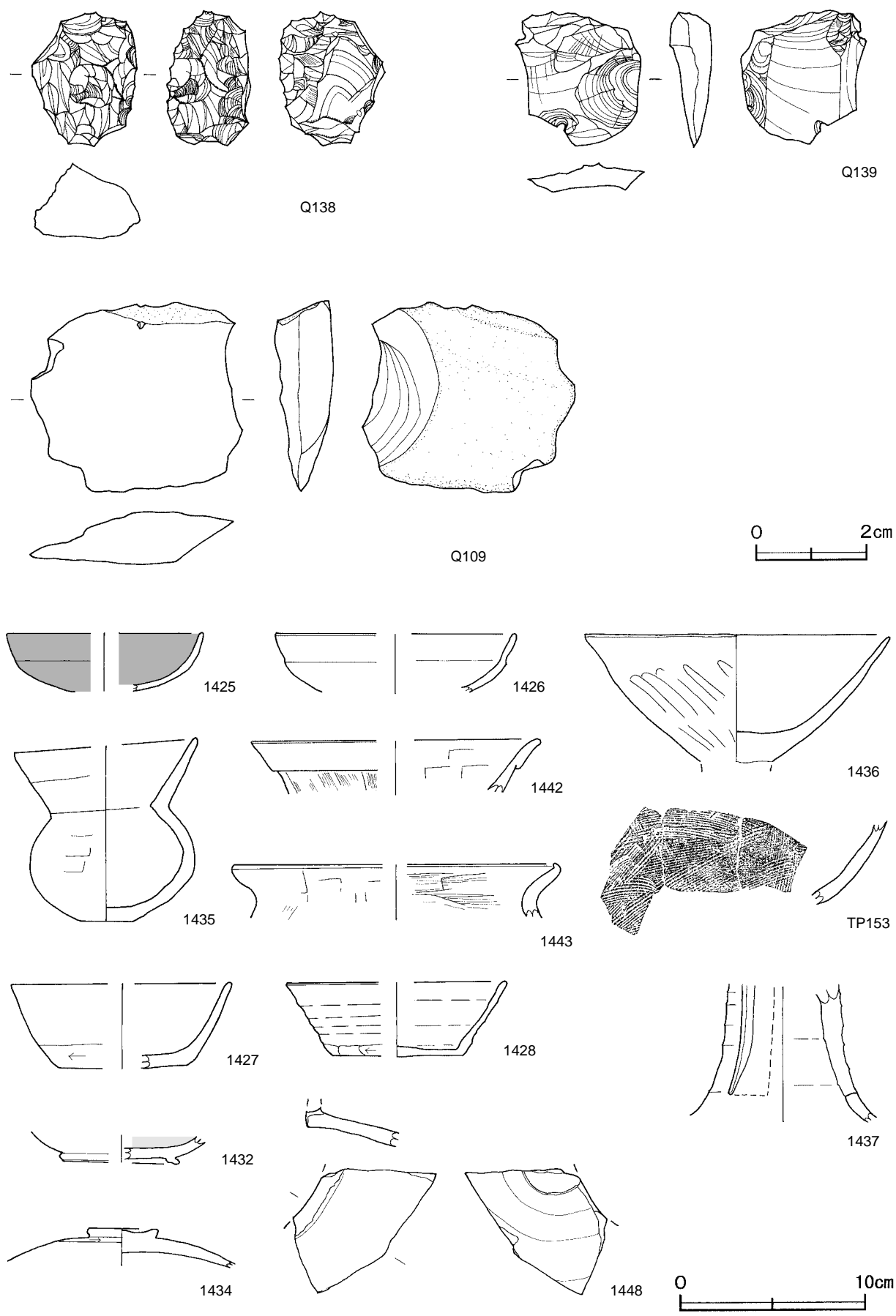
(6) 遺構外出土遺物

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物のうち、特徴的なものを実測図と観察表で記載する。(第234~236図)

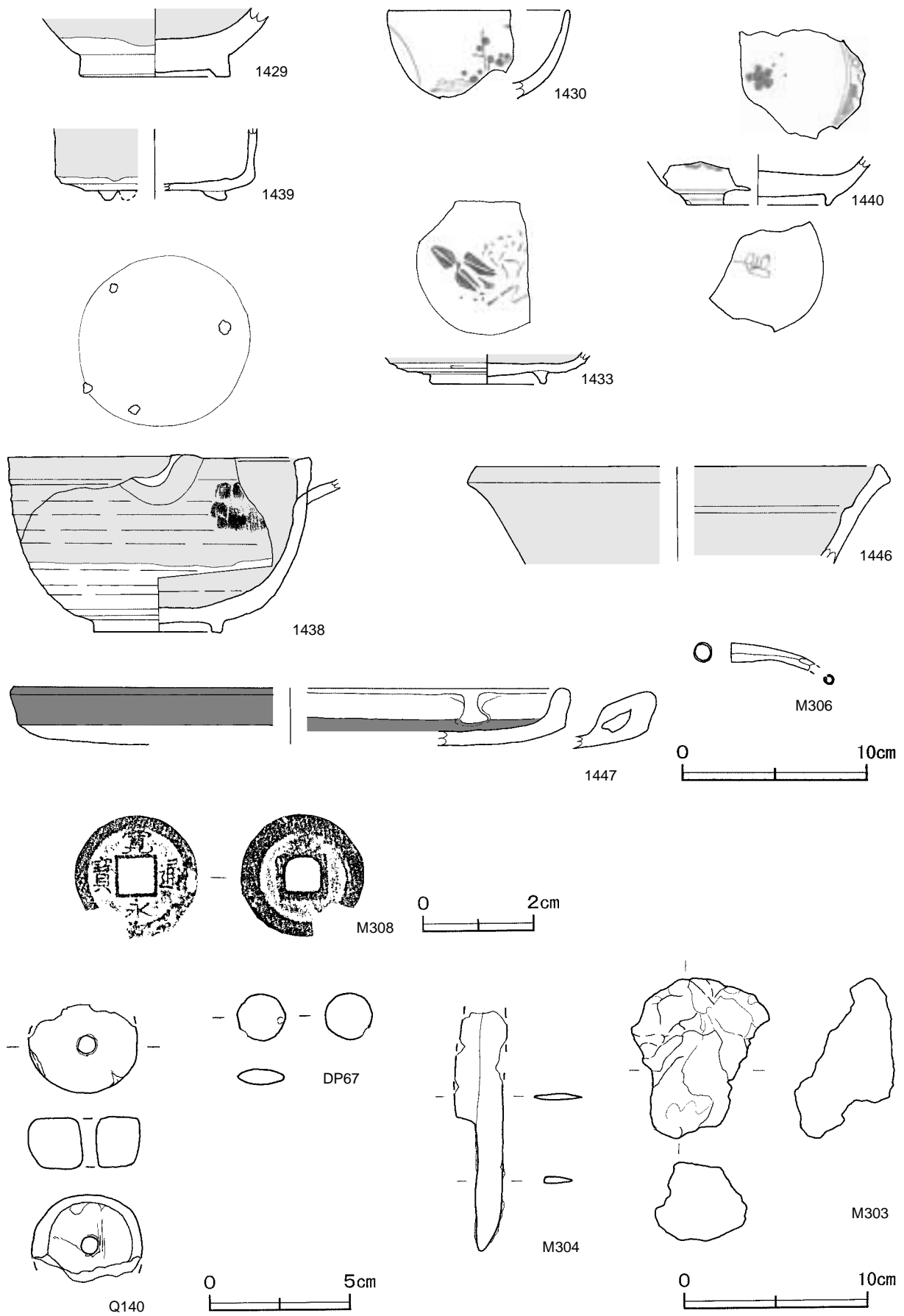


第234図 遺構外出土遺物実測図(1)





第235図 遺構外出土遺物実測図(2)



第236図 遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表 (第234～236図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土 釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1425	土師器	坏	[10.4]	(3.7)	-	長石	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へら削り内面ナデ	H15調査区表土中	20%
1426	土師器	坏	[12.8]	(3.2)	-	雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へら削り	PG10覆土中	10%
1427	須恵器	坏	[12.0]	4.7	[7.0]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端～底部回転へら削り	H17調査区表土中	20%
1428	須恵器	坏	[12.0]	4.0	[7.2]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面口クロナデ 外面下端手持ちへら削り 底部回転へら切り後回転へら削り	SI140覆土中	20%
1429	陶器	鉢類	-	(3.7)	8.0	緻密 灰釉	にぶい黄橙 浅黄	良好	高台削り出し		10%
1430	磁器	碗	[9.6]	(4.8)	-	緻密 透明釉	灰白	良好	ロクロ成形		30% 肥前
1432	灰釉陶器	皿	-	(1.5)	[6.5]	長石・石英・小礫	浅黄 黄灰	良好	底部回転系切り後回転へら削り 高台貼り付け	H16表土中	5%
1433	陶器	皿	-	(1.7)	6.1	緻密 御深井釉	明赤黄 にぶい黄橙	良好	底部回転へら削り後高台貼り付け	H18表土中	20% 瀬戸・美濃
1434	須恵器	蓋	-	(2.0)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面口クロナデ 天井部回転へら削りのちつまみ貼り付け		10%
1435	土師器	埴	[10.0]	9.9	2.6	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面～底部へら削り	表土中	55% PL37
1436	土師器	高坏	16.6	(6.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 坏部外面へら磨き	表土中	30%
1437	須恵器	高盤	-	(7.4)	-	長石・雲母	褐灰	普通	脚部口クロナデ後へら状工具によるスリット三単位カ	表土中	5%
1438	陶器	片口	[16.4]	9.8	7.0	緻密	灰白 オリーブ黄	良好	体部内・外面口クロナデ 外面下端～底部回転へら削り 高台貼り付け 片口貼り付け	表土中	55% PL44
1439	陶器	香炉	-	(3.9)	[7.7]	緻密 灰釉	浅黄橙 明黄褐	良好	ロクロ成形 底部回転へら削り 脚貼り付け(三単位)	H16表土中	10%
1440	磁器	皿	-	(2.1)	[7.8]	緻密 透明釉	灰白	良好	ロクロ成形 高台貼り付け	SI130覆土中	10%
1442	土師器	壺	[15.5]	(2.9)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 頸部ハケ目調整	表土中	5%
1443	土師器	甕	[17.4]	(2.9)	-	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	頸部内・外面ハケ目調整	H17調査区表土中	5%
1446	陶器	播鉢	[21.8]	(5.2)	-	緻密 錆釉	にぶい橙 褐	良好	ロクロ成形	H18表土中	5%
1447	土師質土器	焙烙鍋	[30.0]	(3.0)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部内・外面へら削り 内耳貼り付け 丸底	H18表土中	5%
1448	須恵器	平瓶	-	-	-	長石・黒色粒子	灰白	普通	体部内・外面口クロナデ 頸部穿孔後貼り付け 外面自然釉付着	SI138覆土中	5% PL41
TP153	土師器	壺カ	-	(4.6)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	外面ハケ目調整 内面へら削り	3号大形竪穴覆土中	5% PL45
TP156	縄文	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英	淡黄	普通	口縁部直下に刺突文を施文	SI132覆土中	5% PL45 後期
TP159	縄文	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	櫛歯状工具による多条沈線文を施文	SI138覆土中	5% PL45 後期
TP160	縄文	深鉢	-	(2.9)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	櫛歯状工具による多条沈線文を施文	SI132覆土中	5% 後期
TP162	縄文	深鉢カ	-	(2.8)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	無節縄文による羽状構成	SB39覆土中	5% PL45 中期
TP166	縄文	深鉢	-	(4.3)	-	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	R Lの単節状文を施文後沈線による懸垂文間を磨り消す	SI138覆土中	5% PL45 中期
TP167	縄文	深鉢	-	(5.2)	-	長石・雲母・黒色粒子・赤色粒子	明赤褐	普通	L Rの単節状文を施文後沈線による懸垂文間を磨り消す	表土中	5% PL45 中期
TP168	縄文	深鉢	-	(3.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	沈線内L Rの単節状文を充填	SI135覆土中	5% PL45 後期
TP169	縄文	深鉢	-	(4.3)	-	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	R Lの単節状文を施文後沈線による懸垂文間を磨り消す	SI138覆土中	5% PL45 中期

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP67	おはじき	1.2	1.2	0.6	(1.5)	粘土	指ナデ	表土中	
Q103	石鏃	(2.9)	2.0	0.4	(1.46)	チャート	凹基無茎鏃 両面剥離調製により三稜を有する	SI104覆土中	PL47
Q105	石核	2.3	3.0	1.8	15.3	チャート	打面は転移して剥離	SI101覆土中	PL47
Q109	剥片	3.4	3.8	1.1	13.0	黒色安山岩	上面からの打撃による横長剥片 上面・背面は自然面 全面風化	SI111覆土中	
Q138	石核	2.4	1.4	1.4	6.0	黒曜石	打面は転移して剥離	H18調査区表土中	
Q139	剥片	2.4	2.2	0.7	3.6	黒曜石	縦長剥片 主剥離面と上面に二次加工面を有する	H16調査区表土中	
Q140	紡錘車	4.0	-	1.7	(35.2)	蛇紋岩	円錐台形 孔径0.7cm	H16調査区表土中	PL47
M303	椀状滓	8.5	7.5	5.4	216	鉄	着磁 暗赤色 炉壁付着	表土	
M304	不明	(12.9)	2.8	0.3	(29.5)	鉄	両面中央部に稜を有する	表土	PL49
M306	煙管	(4.6)	1.0	0.5	(4.8)	銅	吸口 銅板丸め後錐付け		PL49
M308	古銭	2.3	2.3	0.1	(2.12)	銅	孔径0.65 寛永通寶 背元カ 初鑄年1741年	表土中	PL49

## 第4節 ま と め

### 1 はじめに

当遺跡は、古墳時代後期にはじまり奈良・平安時代まで継続した集落跡を中心にした複合遺跡であることが前回の平成13年度の調査によって確認されている。この調査では、東谷田川に沿った台地の縁辺部を中心に発掘が行われ、6世紀後半の開拓に端を発し、7世紀代には鍛冶関連集団の移住によって島名熊の山遺跡と深く結びつきながら9世紀後葉まで継続して営まれた集落の姿が明らかにされている。今回の平成15年度から平成18年度にわたった調査は台地の平坦部が中心であり、調査区の西端は西谷田川支流の小谷津に臨んだ台地の縁辺部付近に至っている。また、前回の調査区域とは調査区の東端で接しており、両調査の成果を併せて検討することによって、東谷田川と西谷田川に挟まれた台地上に営まれた当遺跡の様相をより明らかなものにしていきたい。

### 2 集落の変遷

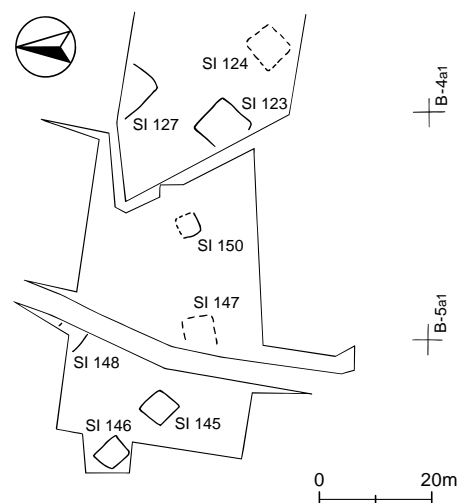
島名八幡前遺跡は、これまでの調査で6世紀後半に集落の初現を持つとされてきたが、今回の調査では5世紀前半の住居跡が複数確認されている。また、7世紀以降の集落は東谷田川に沿った台地上の広い範囲で確認されており、集落の様相を明らかにするには台地の縁辺部と平坦部で営まれた集落との比較が欠かせない。このため本論では、今回の調査成果を中心に、平成13年度の調査成果を逐次検討しながら集落の変遷を概観する。

時期区分に際しては、当遺跡が北部に隣接する島名熊の山遺跡と土器の様相や、集落の変遷について深い関わりが指摘されていることから、第190集で示された土器形式区分に基づいて分類を行った<sup>1)</sup>。年代については4世紀中頃が第1期、5世紀前半が第2期、6世紀前葉から後葉がそれぞれ第3～5期、7世紀前葉から後葉がそれぞれ第6～8期、8世紀前葉から後葉がそれぞれ第9～11期、9世紀前葉から後葉がそれぞれ第12～14期に該当する。また、土器については各遺構に伴う土器を定量的に比較することを目的に、出土土器の破片数から推測される個体数を記載した。個体数は、接合作業によって口縁部もしくは底部が全周のおよそ30%以上復元でき、口径もしくは底径が十分推定可能であることを基準としており、他の破片の出土量を加味しながら算出した。

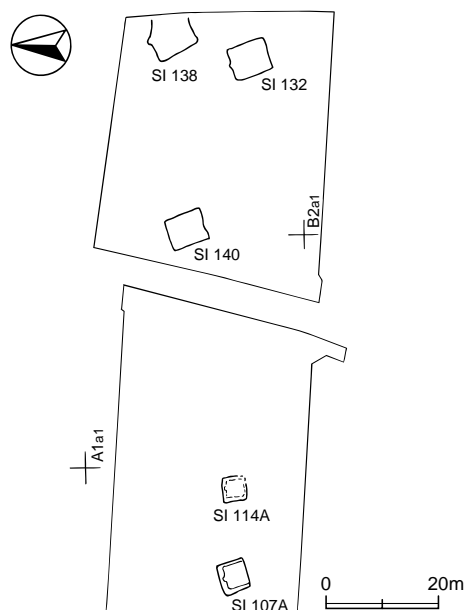
#### (1) 古墳時代

当遺跡における集落の初現は、島名熊の山遺跡と同様に4世紀中頃とみられ、調査区の中央部付近の遺構覆土中や表土中から本期に該当する土師器の壺の破片が出土していることから、周辺に遺構の存在が推定される。

調査によって遺構が確認されているのは5世紀前半からであり、調査区西部の住居跡8軒が該当する。主軸方向の違いから、少なくとも異なる2～3時期の集落の存在が想定され、特に第145・146・148号住居跡はいずれも廃絶時に焼失している点からも遺構の同時性がうかがわれる。土器は、坏・高坏・埴・壺・甕・甑から構成さ



第237図 島名八幡前遺跡集落変遷図  
(5世紀前半)



第238図 島名八幡前遺跡集落変遷図  
(7世紀前葉)

れている。個体数では、第146号住居跡で確認された高坏12点が突出しているが、このうち5点は坏部のみ出土で、脚部の破片を確認できなかった。住居が廃絶時に焼失していることと併せて、儀礼的な目的で坏部を選別して投棄した可能性も考えられる。

住居跡が確認された調査区西部は、西谷田川支流の小谷津に面した台地の縁辺部にあたる。当遺跡では5世紀後半から6世紀前半の遺構が確認されておらず、本期に該当する住居群は、南西部の島名ツバタ遺跡<sup>2)</sup>などと同様に比較的短期間で廃絶した集落の一部であったと考えられる。

6世紀後半の遺構は、南東部の平成13年度の調査区域で住居跡8軒が確認されている。今回の調査で再び遺構が確認されるのは、7世紀前葉であり、5軒の住居跡が該当する。住居跡は調査区の中央部から東部に位置しており、東部の第132・138・140号住居跡は、主軸方向が一致することから一つの単位群を

形成していたと考えられる。この単位群の住居からは、土師器甕の転用砥、土製品の紡錘車、鉄製品の鏝等が出土している。平成13年度の調査では住居跡4軒が確認され、同様に土師器甕の転用砥や鉄製品(刀子、鏝)等が出土しており、同時期の島名熊の山遺跡での手工業的な集団の増加との繋がりを示すものであろう。

本期の遺構は、東谷田川に面した台地の縁辺部で確認されており、2～3軒程の住居を単位群とした集落が営まれていたと考えられる。

7世紀中葉の遺構は、遺跡の全域で確認されておらず、集落に一時的な断絶があったと考えられる。7世紀末に該当する遺構は、平成13年度の調査区域で3軒の住居跡が確認されている。

## (2) 奈良・平安時代

8世紀前葉の遺構は、調査区中央部に集中して確認されており、住居跡10軒、掘立柱建物跡2棟、大形竪穴遺構1基が該当する。住居の主軸方向は、ほぼ北に統一されており、特に第102・103・111・113号住居跡は、規模が一辺4m前後の方形で、東西21m、南北10mの長方形に配置されており、画一的な印象を受ける。遺物では須恵器の供膳具の個体数に同様の画一性がみられ、第117号住居跡の坏9点、蓋15点を除けば、大部分の住居から坏3～6点、蓋2～3点の範囲で確認されている。出土した土器片はおおむね住居の廃絶後に投棄されたもので、算出した土器の個体数は住居で所有されていた土器の数量を正確に表す値ではないが、一定の範囲に収束した点は興味深い。律令期の東国において須恵器は商品として『流通』していたとされており<sup>3)</sup>、入手できる数量は各世帯の経済状況を反映していたと考えられる。各住居跡から出土した須恵器の量に大きな差がみられないことは、住居の規模が画一的であると同様に、集落内の各世帯に経済的には大きな格差がなかったことを示すと考えられる。その他の遺物としては、第113号住居跡から出土した須恵器の高台付皿(1072)の底部には朱墨で「大吉」と記されている。また、土製品の鞆羽口、砥石、鉄製品の鎌、鏝等が出土しており、平成13年度の調査で確認された第1号鍛冶工房跡と併せて、集落全体が鉄製品の生産を中心とした手工業と深く結びつきを

示すといえる。

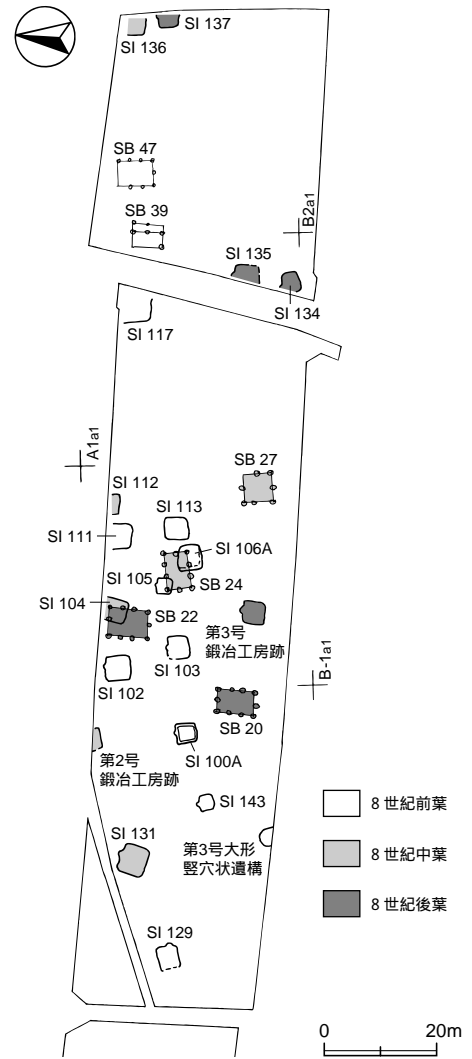
平成13年度の調査では同時期の住居跡30軒が確認されており、集落は7世紀後半の断絶を経て、短かい期間に大きく展開している。住居は、台地の縁辺部の標高21mの等高線に沿うように営まれた14軒の大きな集団と、その周辺の2～5軒ほどの小さな集団に分けることができ、台地の平坦部においても小規模な集落が営まれていたと考えられる。

8世紀中葉の遺構は調査区の中央部と東部で確認されており、住居跡4軒、掘立柱建物跡2棟、鍛冶工房跡1基が該当する。第2号鍛冶工房跡は北部が調査区域外に延びており、鍛冶炉等の内部施設は確認できなかったが、南壁際に入出口施設に伴うステップ上の高まりを持ち、各壁が緩やかに立ち上がる構造は第1号鍛冶工房跡と共通している。第104・112・131号住居跡、第24・27号掘立柱建物跡、第2号鍛冶工房跡は、主軸方向にややばらつきがあるが、配置から一つの単位群を形成していたと考えられる。約30m幅の未調査地区を挟んだ南東部には同時期の住居跡4軒、掘立柱建物跡4棟が確認されており、住居と掘立柱建物が並立する状況から、両群が一連の集落であった可能性が考えられる。

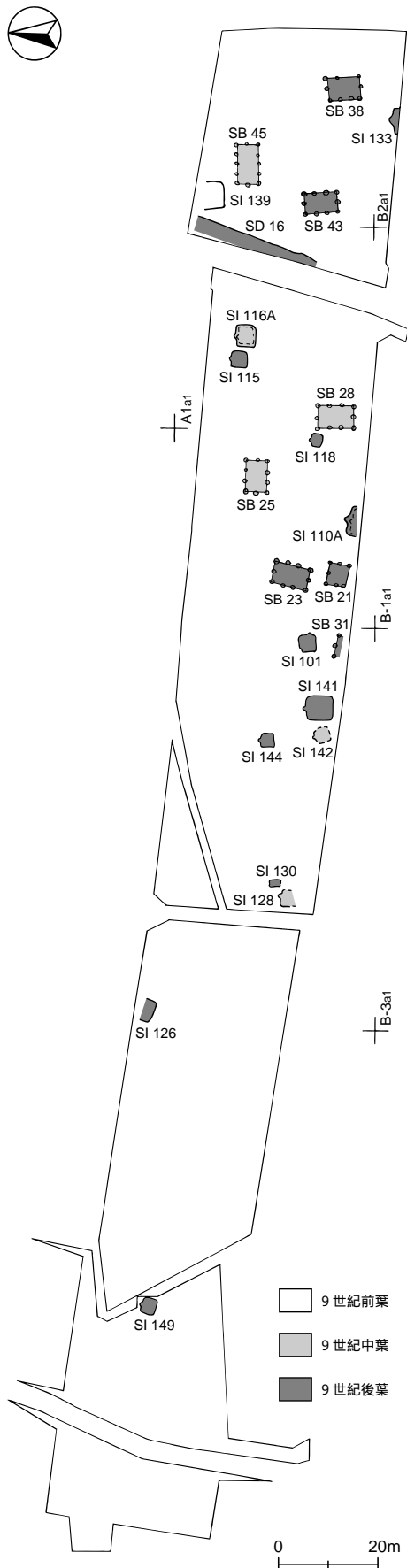
8世紀前葉に大規模な集落の営まれた台地の縁辺部は、本期には遺構数が減少し、台地の平坦部で住居と掘立柱建物が増加している。第2号鍛冶工房跡が調査区の中央部で確認されていることから、この時期の集落の中心は台地の平坦部であったと考えられる。

8世紀後葉の遺構も調査区の中央部と東部で確認されており、住居跡3軒、掘立柱建物跡2棟、鍛冶工房跡1基が該当する。遺構は散在的で、住居2～3軒もしくは、住居に掘立柱建物を伴った小規模の単位群が、台地の平坦部から縁辺部かけて確認されている。第3号鍛冶工房跡は、小形の鍛冶炉とともに竈が確認されるなど住居としても機能していたと考えられる。須恵器の坏の個体数は、第135号住居跡の27点と第3号鍛冶工房跡の13点が、他の住居の6～7点と比べて突出している。また、第135号住居跡は、長辺14cmの大形の砥石や鉄製品（刀子、鎌）が出土しており、鍛冶炉は確認できなかったが、鉄製品の生産と関わりが強かったと考えられる。一方で、平成13年度に調査された第80号住居跡は一辺6mを超す集落の中心的な住居とされ、須恵器片833点のほかに金床石、砥石、鉄製品（刀子、鎌、釘）等が出土している。須恵器の出土量からはこれらの住居が比較的裕福であったことが推測され、この時期の集落では、集落の中心的な住居が直接的に鉄製品の生産と結びついていたことを示すと考えられる。

9世紀前葉の遺構は、調査区の東部で住居跡1軒が該当するのみであり、平成13年度の調査でも確認された住居跡は3軒にとどまっている。第139号住居跡は、土師器の鉢・甕・甑、須恵器の坏・高台付坏・盤・蓋・長頸瓶・フラスコ瓶・鉢・甑、砥石、瑪瑙製の勾玉、鉄製品（刀子、鎌、小札、釘）、銅



第239図 島名八幡前遺跡集落変遷図（8世紀）



第240図 島名八幡前遺跡集落変遷図 (9世紀)

製品(鏡)等、多種・多量の遺物が出土している。これらの遺物は住居の廃絶後に投棄されたと考えられ、特殊な遺物も出土していることから、住居の廃絶後に何らかの儀礼的な行為があったとも考えられる。

8世紀後葉から9世紀前葉は、集落が2度目の衰退を迎えた時期である。第139号住居跡からの遺物の出土状況は溝の廃絶時にみられる状況とも類似しており、1軒の住居から出土する遺物量としては不自然であることから、集落がこの時期に断絶していたとも考えられる。

9世紀中葉の遺構は、調査区中央部で確認されており、住居跡3軒、掘立柱建物跡3棟が該当する。第128号住居跡の竈は袖部の補強材に平瓦が使用されている。つくば市東部の東岡中原遺跡の例では、竈の補強材としての瓦の使用は8世紀中葉からみられ、9世紀後葉から10世紀前葉に多くなるとされている<sup>4)</sup>。また、島名熊の山遺跡の第1674号住居跡でも同様に瓦が使用されており、瓦の入手先として9世紀中葉以降に衰退した九重東岡廃寺跡の可能性が指摘されている<sup>5)</sup>。本跡から出土した瓦は、これらの例と胎土の特徴などが一致しており、同寺で使用されていた瓦が持ち込まれたものと考えられる。第116A号住居跡と第25・28・45号掘立柱建物跡は、主軸方向が一致することから一つの単位群を形成していたと考えられる。第25・45号掘立柱建物跡は、約40mの空地を介して東西に配置されており、その中間に第116A号住居跡が位置している。このような遺構の配置は、島名熊の山遺跡の南東部で確認された同時期の掘立柱建物群と類似している。遺物は、土師器・須恵器のほかには、砥石、刀子各1点と鉄製品の生産との結びつきを示すような遺物の出土が減少している。また、第28号掘立柱建物跡から出土した土師器の坏(1285)の体部外面には墨書で「大土」と記されている。

続く9世紀後葉の遺構は調査区の東部から西部にかけて広く確認されており、住居跡10軒、掘立柱建物跡5棟、溝1条が該当する。遺構は主軸方向から、東部の一群(第133号住居、第38・43号掘立柱建物跡)、中央部の一団(第110A号住居跡、第21・23・31号掘立柱建物跡)、中央部西寄りの一団(第101・141・144号住居跡)及び、西部の単独で確認された住居跡に分けることができる。東部と中央部の一団は、ともに住居と掘立柱建物が並立しており、住居跡の周辺に掘立柱建物を配した遺構群の一部であったと推定され、両群の中間に位置する第16号溝跡

は地境的な機能を果たしていたと考えられる。また、土器の個体数では、第110A号住居跡から土師器坏9点、甕11点、須恵器坏9点、第133号住居跡から土師器坏3点、甕10点と、須恵器坏11点と多量に確認されたほか、多種の供膳具、貯蔵具が確認されている。こうした様相は他の住居と異なることから、これらの住居はそれぞれの遺構群の中で厨的な機能を果たしていた可能性が考えられる。一方で、中央部西寄りの一群は、いずれの住居跡からも墨書土器が出土し、供膳具に占める土師器の高台付皿の比率が高いなど、他の2群とは様相が異なっている。中央部一群とは明確な境界を持たずに隣接していることから、両群には時期差があると考えられ、土師器の高台付皿の比率から中央部西寄りの一群がより新しい段階にあたることが推定される。

9世紀中葉から後葉の遺物は、土師器・須恵器・灰釉陶器など土器の供膳具・貯蔵具・煮炊具が中心となる。また、墨書土器の出土例が圧倒的に多く、土師器坏5点、高台付皿4点、須恵器坏2点が出土している。墨書の内容は「五万」や「大吉」など吉祥句的な文字が多い。一方で、砥石や鉄滓など鉄製品の生産と結びつく遺物の出土は減少しており、南東部の平成13年度の調査区で、鉄製の紡錘車や、鉄滓・土製の鞆羽口等が出土したほか、第15号住居跡が鍛冶工房跡の可能性を持つなど、引き続いて手工業的な要素が確認されたのとは対照的である。

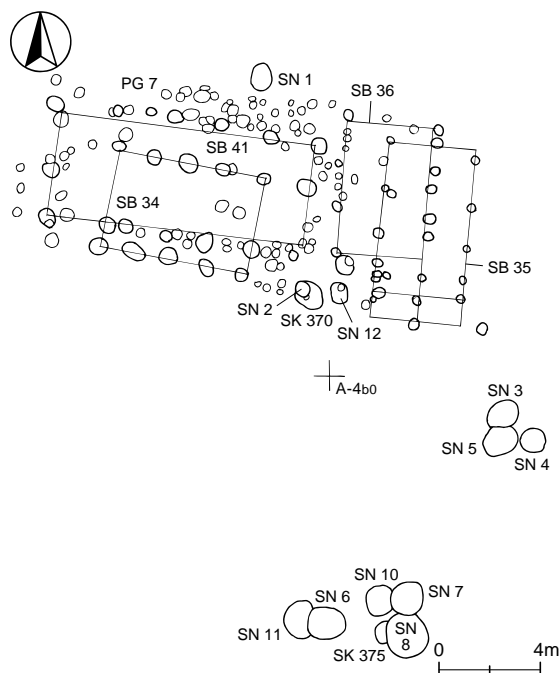
集落は、9世紀前葉の断絶の可能性も含んだ衰退期を経て、9世紀中葉から後葉には大きく様相が変化していたといえる。台地の縁辺部で鉄製品の生産を中心にした手工業的な集落が営まれていたのに対し、平坦部では掘立柱建物を配した遺構群の存在の可能性が推定され、小規模ではあるが支配者層の邸宅を思わせる様相を呈している。8世紀代には集落の中心的な住居跡から鉄製品の生産と直接結びつく遺物が多く出土していることと比較すると、この時期には支配者層的な集団と、工人的な集団の間に土地利用を含めて明確な分離が行われていたことが推測される。

10世紀以降の遺構・遺物は確認されていない。7世紀代から鉄製品の生産を中心に手工業と深く結びついて営まれてきた当遺跡の古代の集落は9世紀後葉をもって断絶したと考えられる。9世紀後葉の遺構からは、集落が衰退する状況はうかがわれず、やや唐突な印象を受けるが、島名地区における他の集落が8世紀代までの断絶したのと同様に、当集落も10世紀以降も継続して営まれていた島名熊の山の集落に統合されていったものと考えられる。

表18 島名八幡前遺跡出土文字資料一覧表

番号	種別	器種	墨・朱墨	釈文	墨書箇所	方向	出土遺構	出土層位	時代	備考
967	土師器	坏	墨	大吉	体部 - 外面	正位	第101号住居跡	覆土上層～下層	9世紀後葉	
969	土師器	坏	墨	八	体部 - 外面	正位	第101号住居跡	覆土中層	9世紀後葉	
1072	須恵器	高台付皿	朱墨	大吉	底部 - 外面	正位	第113号住居跡	覆土上層	8世紀前葉	
1121	土師器	坏	墨		体部 - 外面		第126号住居跡	床面	9世紀後葉	
1122	須恵器	坏	墨	五万	体部 - 外面	横位	第126号住居跡	覆土下層	9世紀後葉	
1249	土師器	坏	墨	古カ	体部 - 外面	正位	第141号住居跡	床面・竈覆土中	9世紀後葉	
1253	土師器	高台付皿	墨	少堤	底部 - 外面	正位	第141号住居跡	覆土下層	9世紀後葉	
1254	土師器	高台付皿	墨	五万	体部 - 外面	横位	第141号住居跡	床面	9世紀後葉	
1255	土師器	高台付皿	墨	大吉	底部 - 外面	正位	第141号住居跡	覆土下層	9世紀後葉	
1270	須恵器	坏	墨	方	底部 - 外面	正位	第144号住居跡	床面	9世紀後葉	
1273	土師器	高台付皿	墨		体部 - 外面		第144号住居跡	覆土中	9世紀後葉	
1285	土師器	坏	墨	大土	体部 - 外面	正位	第28号掘立柱建物跡	P 6埋土上層	9世紀中葉	
1319	須恵器	坏	墨		底部 - 外面	正位	第3号大形竈穴状遺構	覆土中層	8世紀前葉	





第241図 島名八幡前遺跡集落変遷図（近世）

### (3) 中世・近世

次に当遺跡で遺構が確認されるのは、中世の鎌倉時代後期である。平成13年度の調査では、調査区南東端の台地の斜面部で地下式墳、方形竪穴状遺構などが確認され、南部に位置する島名前野東遺跡との関わりが指摘されている。今回の調査では明確に中世と判断できる遺構・遺物は確認されておらず、台地の平坦部では積極的な土地利用がなかったと推定される。

台地の平坦部で再び遺構が確認されるのは、江戸時代中期（17世紀後半）以降であり、L字状に配置された掘立柱建物跡と墓坑とみられる粘土貼土坑などが確認されている。掘立柱建物跡は同位置に重複して確認されていることから少なくとも一度は建て替えが行われており、出土した陶磁器に17世紀後半から19世紀代まで年代の幅が見られることから長期間にわたって建物が

存在していたと考えられる。これら建物は規模や配置から住居や付随した倉庫等であったと推測される。粘土貼土坑は掘立柱建物跡の南部に位置しており、出土した陶磁器の年代は建物跡から出土したものとほぼ一致している。当遺跡周辺では、近代以降においても屋敷の敷地内や周辺に墓地を設けることが一般的であることから、これらの粘土貼土坑は掘立柱建物と結びつきの強いものであったと考えられる。

江戸時代中期以降の当遺跡では、近代以降にまで継続する農村が営まれていたものと考えられる。

### 3 まとめ

今回の調査では、これまで未調査だった遺跡西部の様相が明らかにされ、東部とは異なる5世紀前半の集落の存在が確認された。台地の平坦部では、7世紀以降に台地の縁辺部と一体となって集落が営まれていたことが確認されるとともに、9世紀代には平坦部と縁辺部で集落の様相が分化していった可能性が示された。しかし、今回の調査区は南北に狭い限られた範囲での調査であったために、特に9世紀中葉以降の掘立柱建物群の存在については推定の範疇に留まっている。これまでの調査で解明できなかった諸問題については、今後の調査の進展によって明らかにされることに期待をしたい。

#### 註

- 1) 稲田義弘「熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集 2002年3月
- 2) 皆川修「島名ツバタ遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第203集 2003年3月
- 3) 荒井秀規「文献からみた土器の流通 商品としての須恵器」『埼玉考古別冊9 古代武蔵国の須恵器流通と地域社会』2006年2月
- 4) 成島一也、宮田和男「中根・金田特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 中原遺跡2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第159集2000年3月
- 5) 註1に同じ

#### 参考文献

吹野富美夫 青木仁昌「島名八幡前遺跡 島名福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告IX」『茨城県教育財団文化財調査報告』第201集 2003年3月

# 写真図版



第3号大形竖穴状遺構出土土器

平成 15 年度調査区  
完 掘 状 況



平成 16 年度調査区  
完 掘 状 況 ( 西 部 )



平成 16 年度調査区  
完 掘 状 況 ( 東 部 )



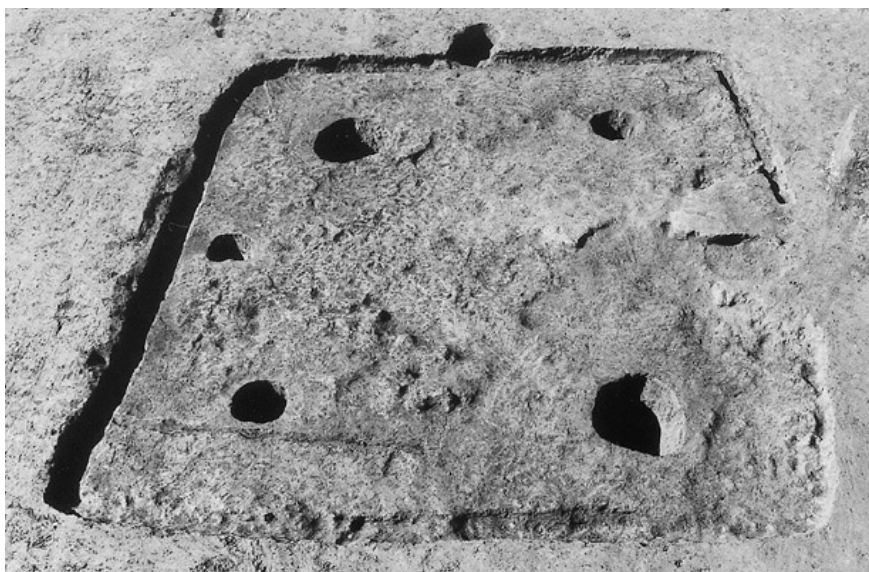
PL 2



平成 17 年度調査区  
完 掘 状 況

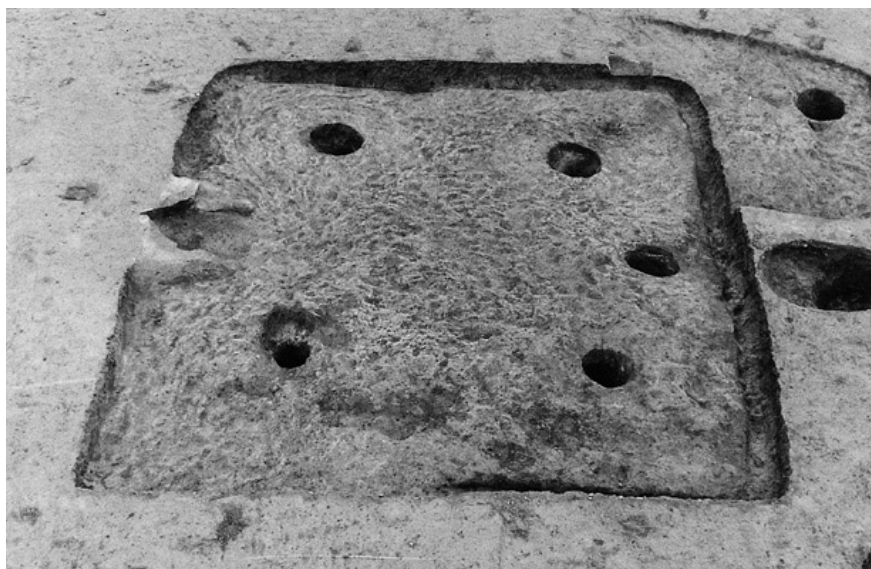


平成 18 年度調査区  
完 掘 状 況



第 107A・B 号住居跡  
完 掘 状 況

第114A号住居跡  
完掘状況

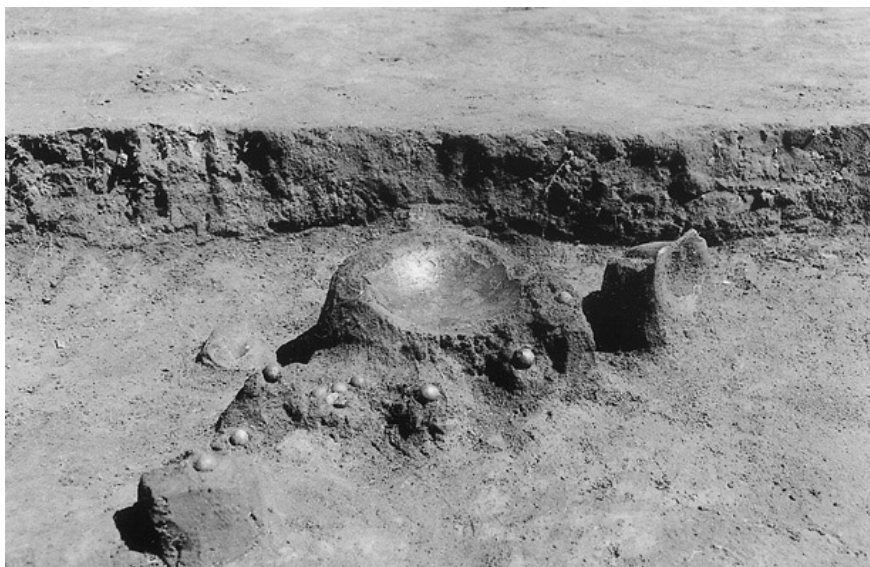


第114B号住居跡  
完掘状況



第123号住居跡  
完掘状況





第 123 号住居跡  
遺物出土狀況



第 132 号住居跡  
完掘狀況



第 138 号住居跡  
完掘狀況

第140号住居跡  
完掘状況



第140号住居跡  
竈1完掘状況



第145号住居跡  
完掘状況



PL 6



第146号住居跡  
完掘状況



第146号住居跡  
遺物出土状況



第146号住居跡  
遺物出土状況



第148号住居跡  
遺物出土状況

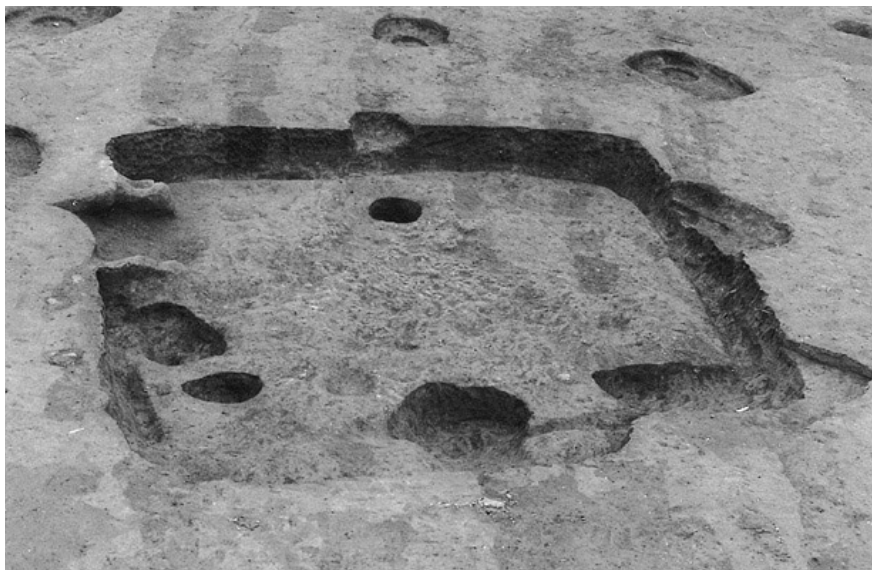


第100A号住居跡  
遺物出土状況



第100A・B号住居跡  
完掘状況





第 101 号住居跡  
完 掘 状 況

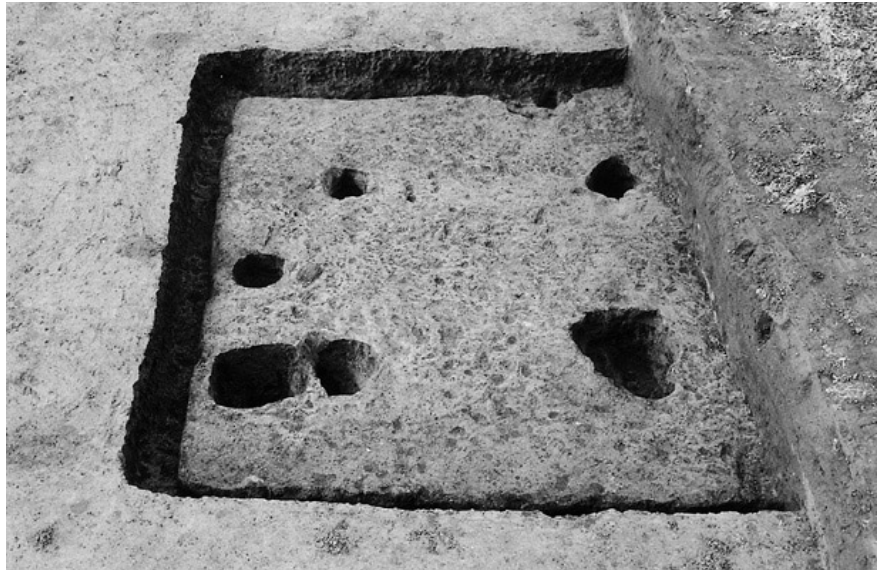


第 102 号住居跡  
完 掘 状 況



第 103 号住居跡  
完 掘 状 況

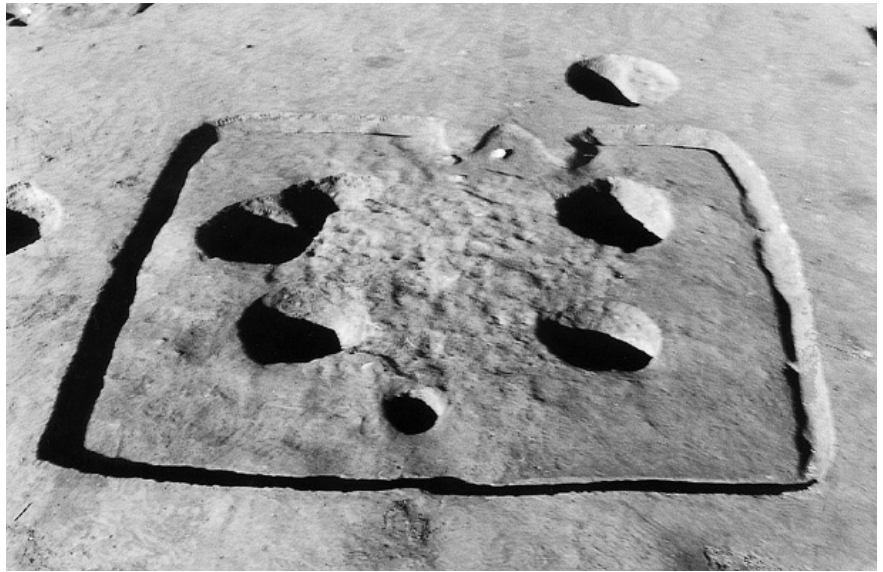
第104号住居跡  
完掘状況

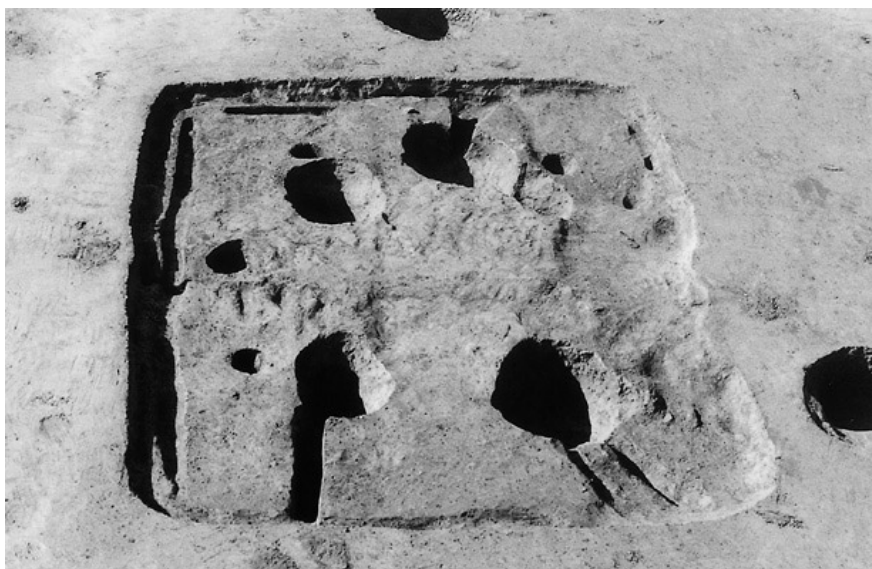


第105号住居跡  
完掘状況



第106A号住居跡  
完掘状況





第106B号住居跡  
完掘状況



第109号住居跡  
完掘状況



第110A号住居跡  
遺物出土状況



第110A・B号住居跡  
完掘状況



第111号住居跡  
完掘状況



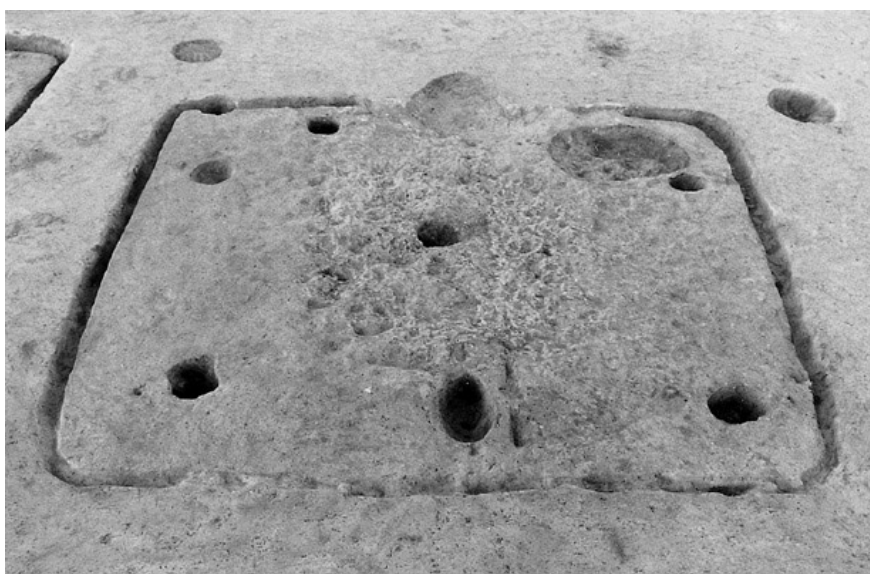
第112号住居跡  
遺物出土状況



第 113 号住居跡  
完 掘 状 況



第 115 号住居跡  
完 掘 状 況



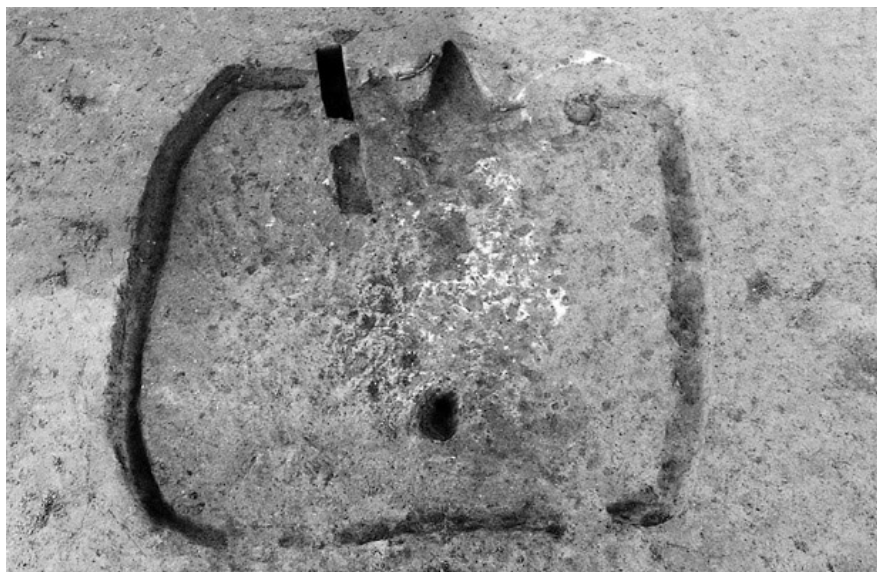
第 116A 号住居跡  
完 掘 状 況



第117号住居跡  
遺物出土状況



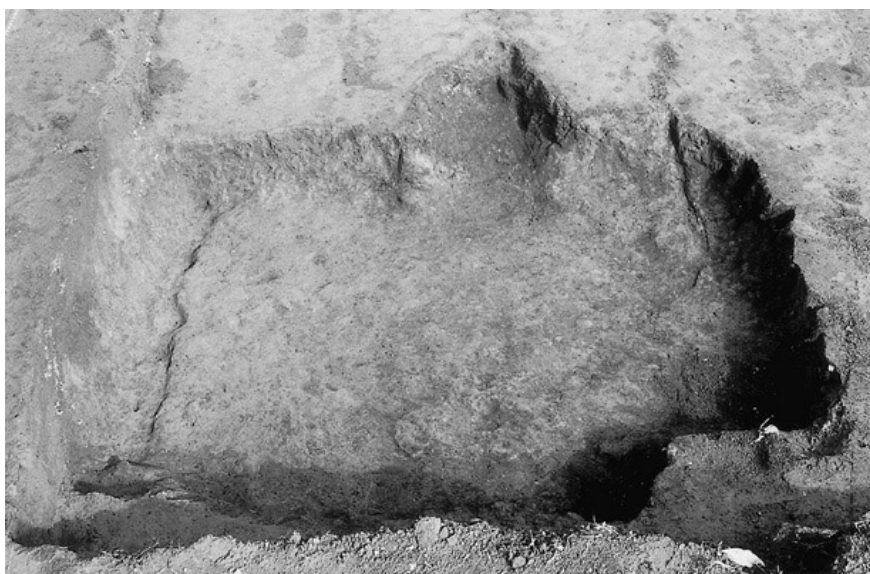
第117号住居跡  
遺物出土状況



第118号住居跡  
完掘状況



第126号住居跡  
完掘状況



第128号住居跡  
完掘状況



第128号住居跡  
竈遺物出土状況



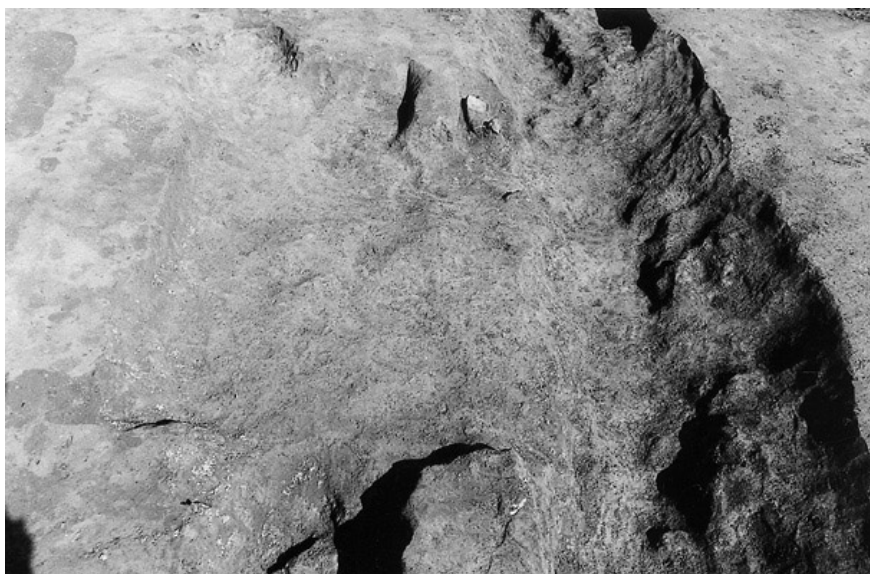
第129号住居跡  
完掘状況



第129号住居跡  
掘り方完掘状況



第130号住居跡  
遺物出土状況





第131号住居跡  
完掘状況

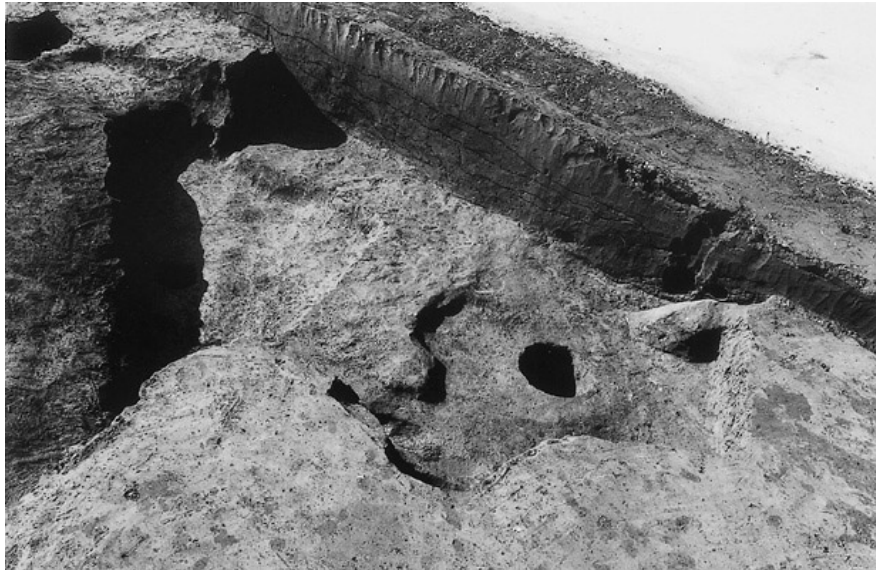


第131号住居跡  
竈完掘状況



第134号住居跡  
完掘状況

第135号住居跡  
完掘狀況



第136号住居跡  
完掘狀況



第137号住居跡  
遺物出土狀況





第139号住居跡  
完掘状況



第139号住居跡  
遺物出土状況



第141号住居跡  
完掘状況

第 142 号住居跡  
完 掘 状 況



第 143 号住居跡  
完 掘 状 況



第 143 号住居跡  
遺 物 出 土 状 況





第144号住居跡  
完掘状況



第144号住居跡  
竈遺物出土状況



第149号住居跡  
完掘状況

第149号住居跡  
竈遺物出土狀況



第23号掘立柱建物跡  
完掘狀況



第24号掘立柱建物跡  
完掘狀況





第25号掘立柱建物跡  
完掘状況



第28号掘立柱建物跡  
完掘状況



第34・41号  
掘立柱建物跡  
完掘状況





第43号掘立柱建物跡  
完掘状況



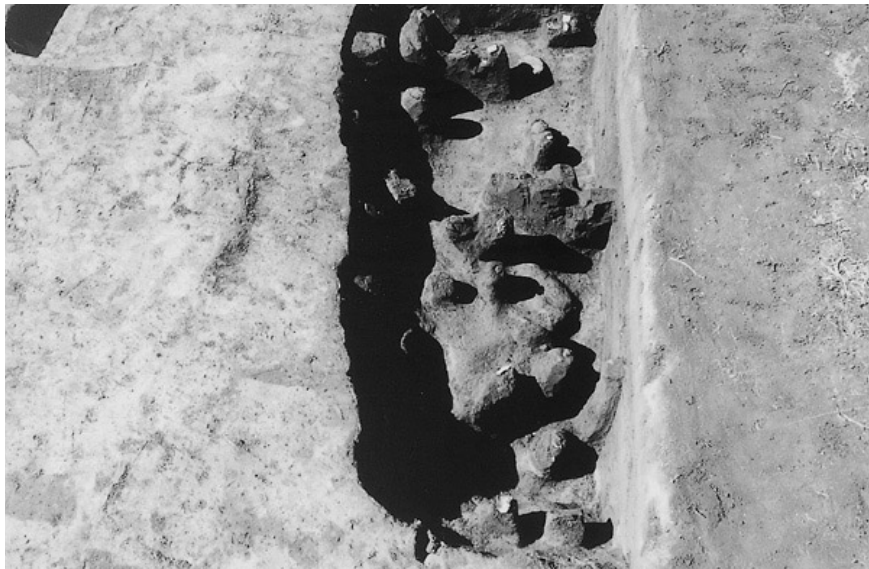
第44号掘立柱建物跡  
完掘状況



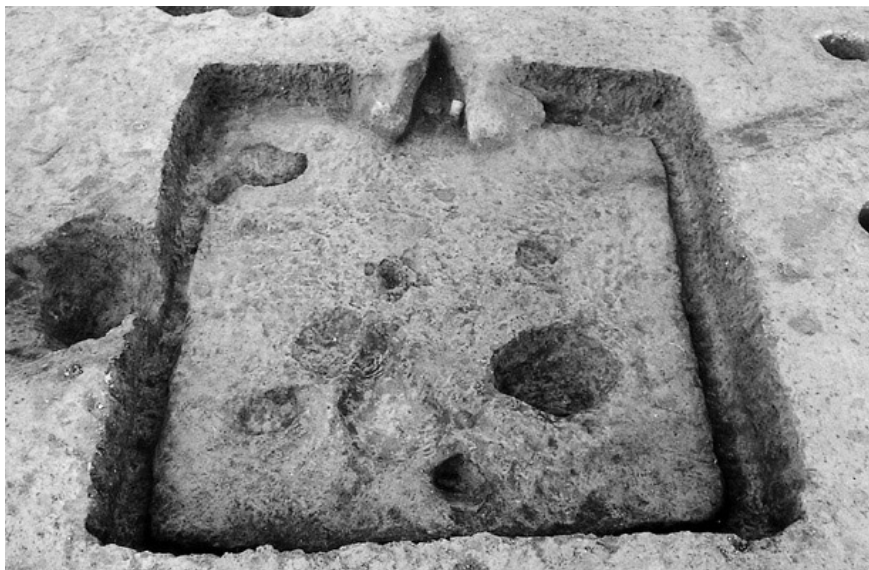
第45号掘立柱建物跡  
完掘状況



第 2 号鍛冶工房跡  
完 掘 状 況



第 2 号鍛冶工房跡  
遺 物 出 土 状 況



第 3 号鍛冶工房跡  
完 掘 状 況

第3号鍛冶工房跡  
炉完掘状況



第3号大形竪穴状遺構  
遺物出土状況



第3号大形竪穴状遺構  
遺物出土状況





第429号土坑  
遺物出土狀況



第3~5号粘土貼土坑  
遺物出土狀況



第7・8号粘土貼土坑  
遺物出土狀況



第114A・132・138・140号住居跡出土土器





第114A・124・145・146・150号住居跡出土土器







第100A・101・103～105・116A号住居跡，第3号大形竖穴状遺構出土土器







第143・144・149号住居跡，第3号大形竪穴状遺構出土土器



第3号大形豎穴状遺構-1320



第3号大形豎穴状遺構-1321



第3号大形豎穴状遺構-1322



SI 128-1126



SE 5-1359



SI 112-1064



SI 131-1137



SI 135-1180



第3号大形豎穴状遺構-1323



第3号大形豎穴状遺構-1324

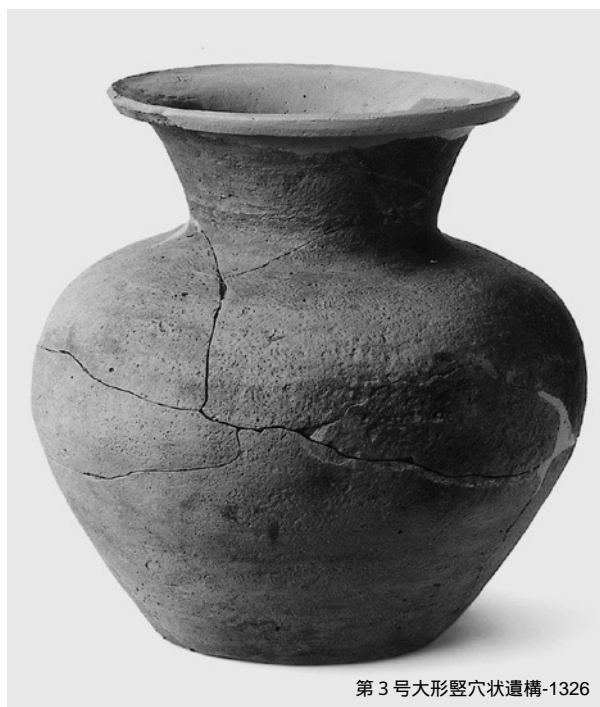
第112・128・131・135号住居跡，第3号大形豎穴状遺構，第5号井戸跡出土土器



第102・103・110A・133・139・141・143号住居跡，第3号大形竖穴状遺構出土土器



第100A・133・139・141号住居跡，遺構外出土土器



第117号住居跡，第3号大形竖穴状遺構出土土器

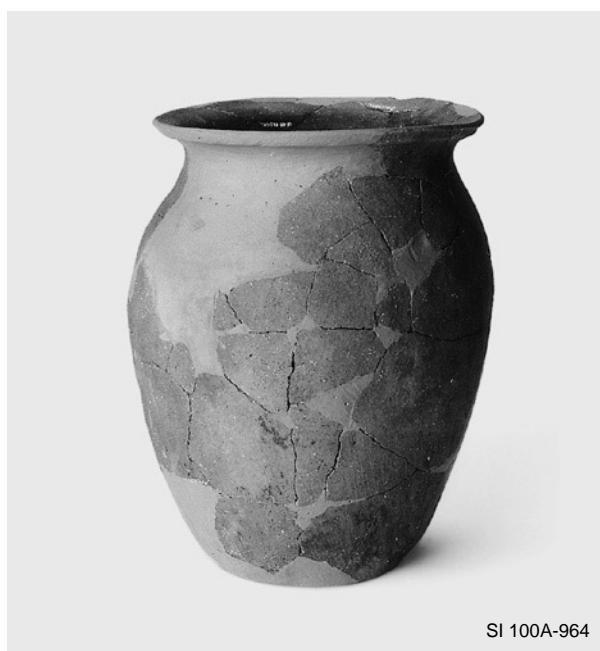




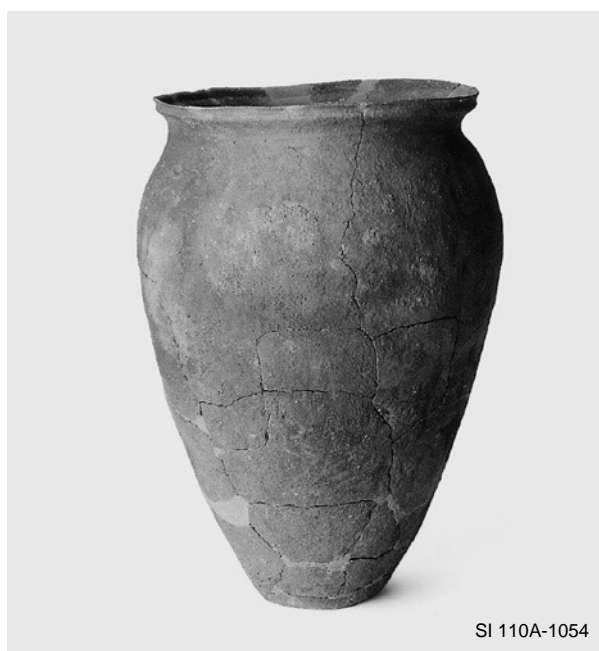
SI 139-1237



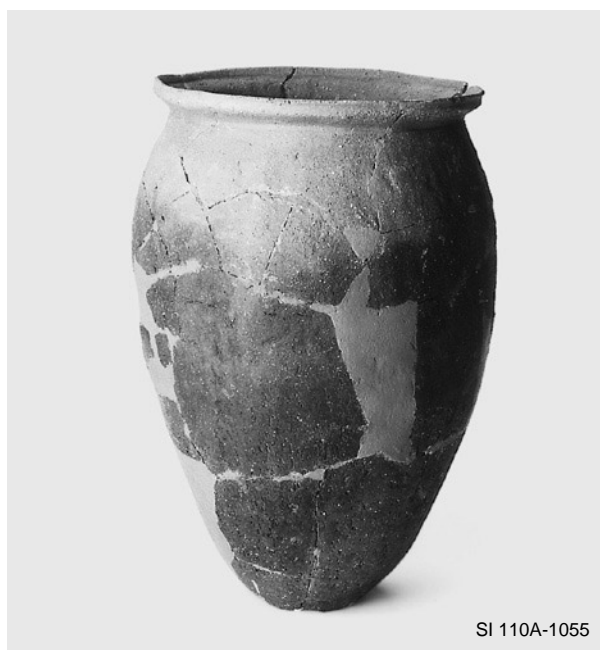
SI 141-1262



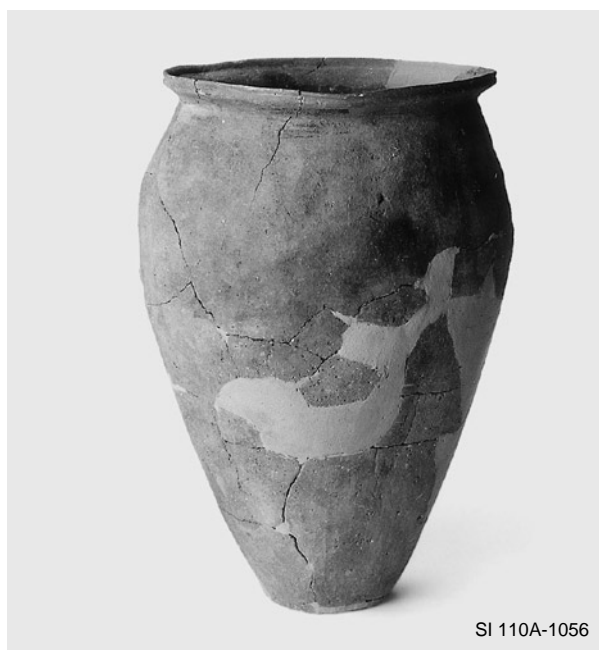
SI 100A-964



SI 110A-1054



SI 110A-1055



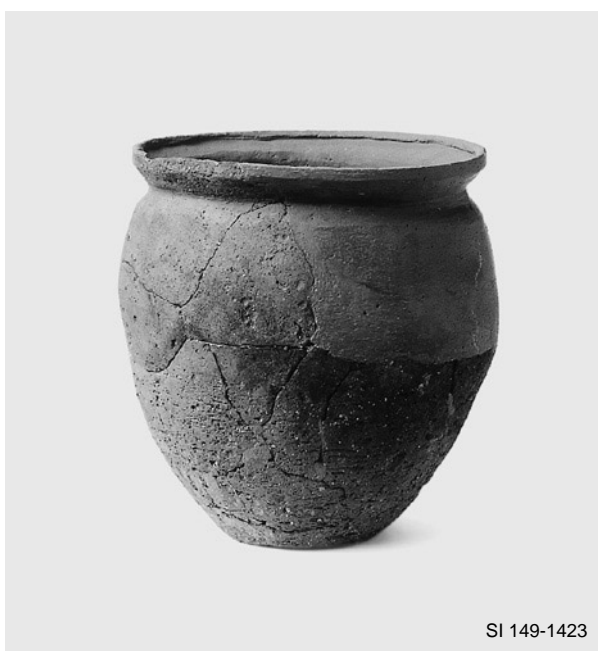
SI 110A-1056



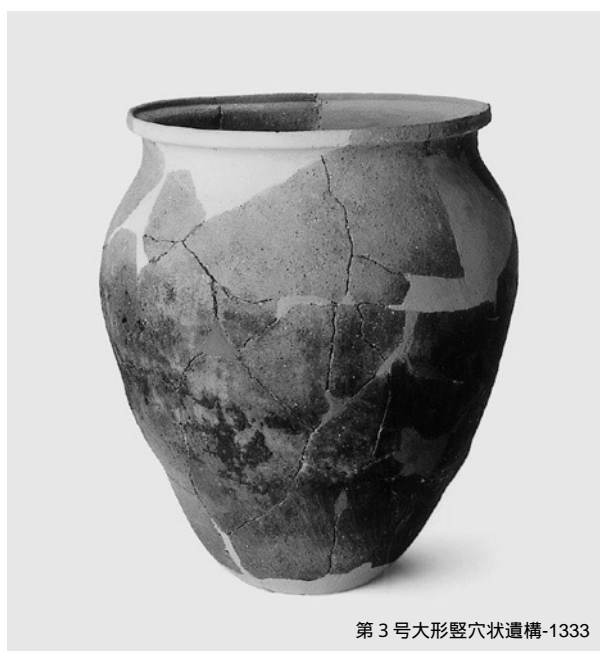
第3号大形竖穴状遺構-1331



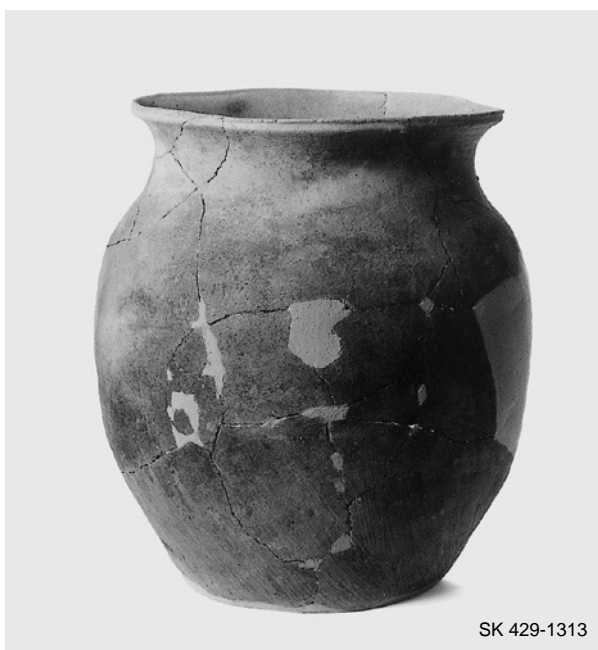
第3号大形竖穴状遺構-1332



SI 149-1423



第3号大形竖穴状遺構-1333



SK 429-1313



第3号大形竖穴状遺構-1334

第149号住居跡，第429号土坑，第3号大形竖穴状遺構出土土器



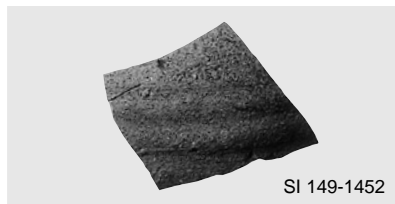
SI 132-933



遺構外-1448



SI 139-1451



SI 149-1452



SI 101-969



SI 141-1255



SI 141-1249



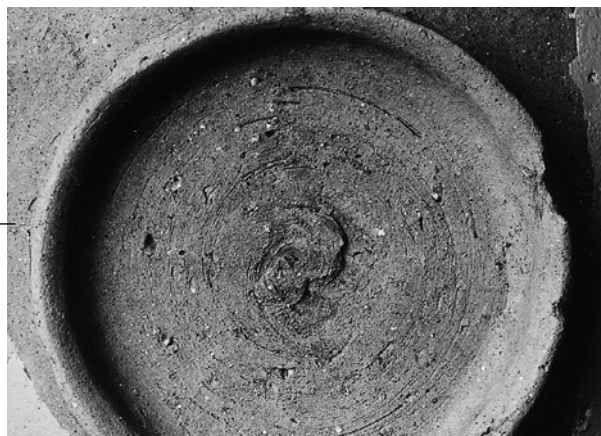
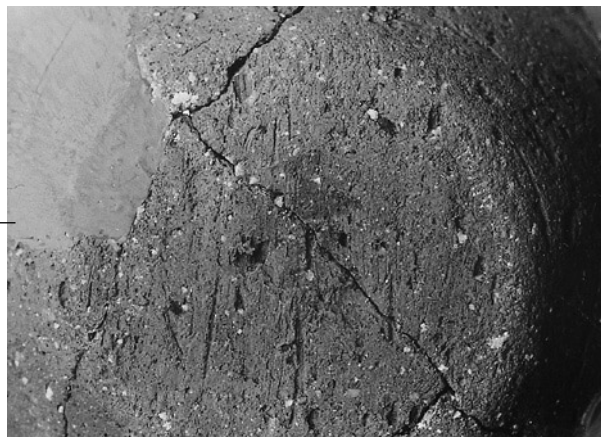
SI 101-967



SI 126-1122



第101・126・132・139・141・149号住居跡，遺構外出土土器

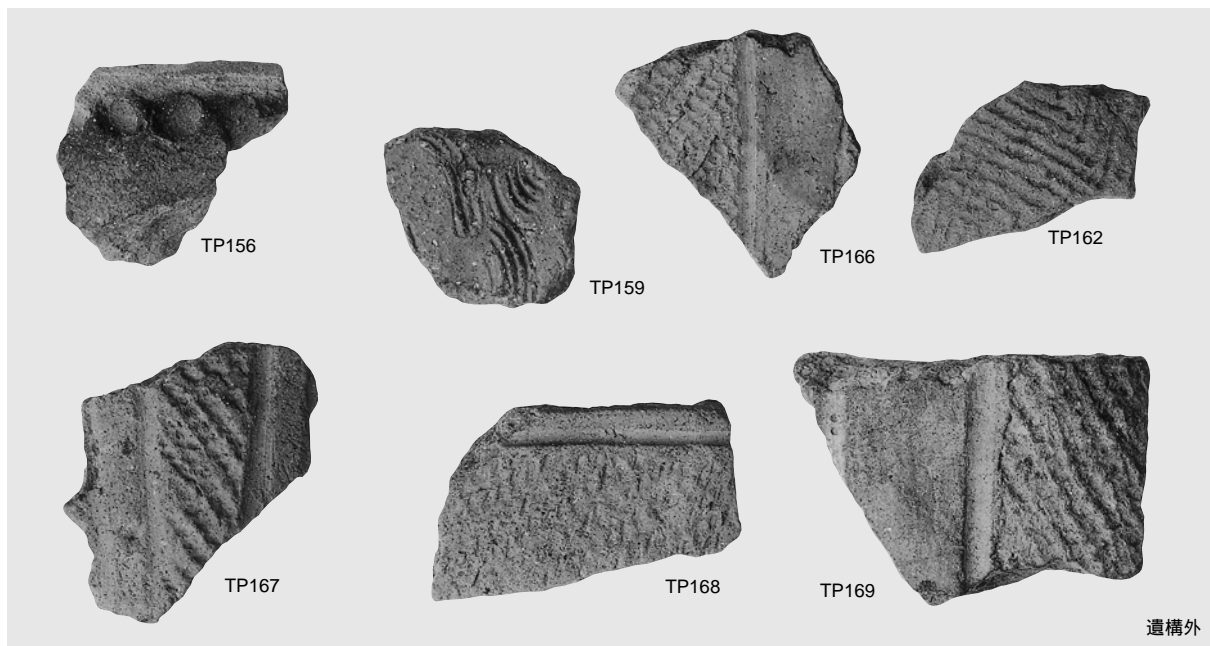




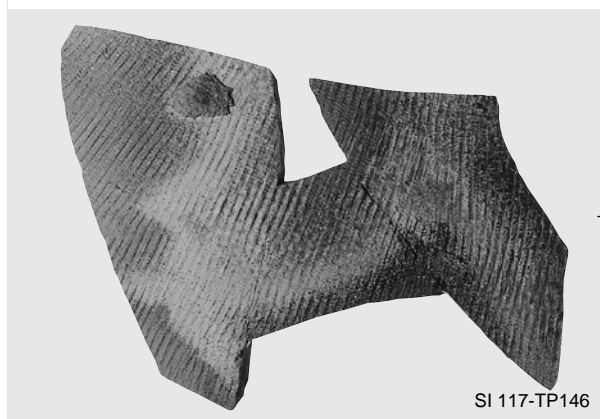
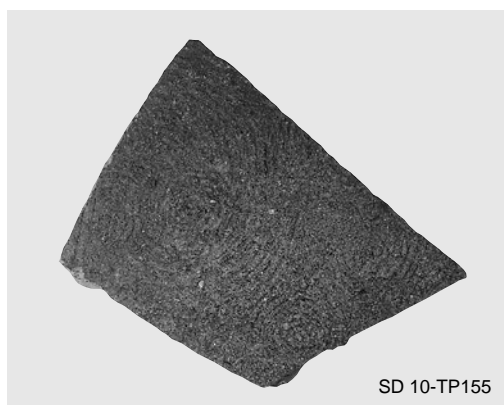
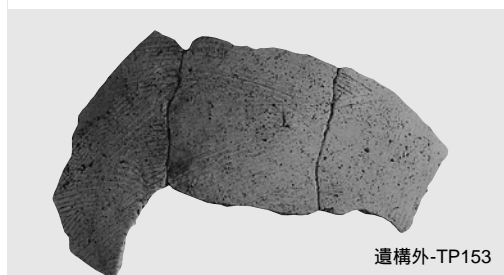
第101号住居跡，第34号掘立柱建物跡，第5・7・8・10・11号粘土貼土坑出土土器・陶器

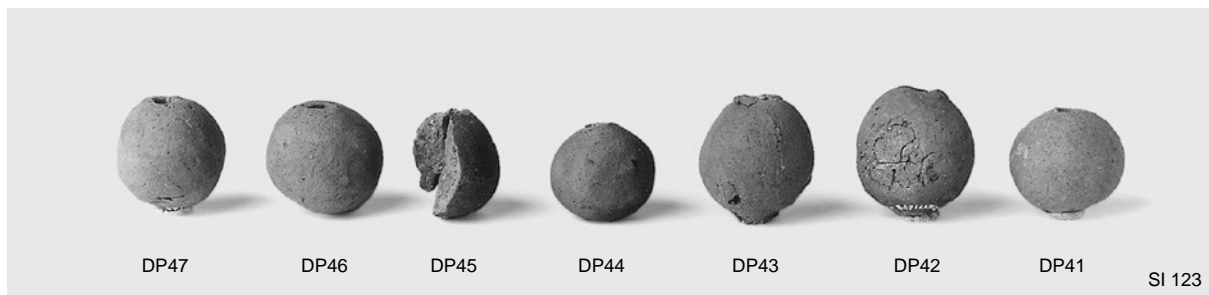


第34号掘立柱建物跡，第13号溝跡，第10号粘土貼土坑，遺構外出土陶磁器  
第128号住居跡，第16号溝跡出土瓦



遺構外

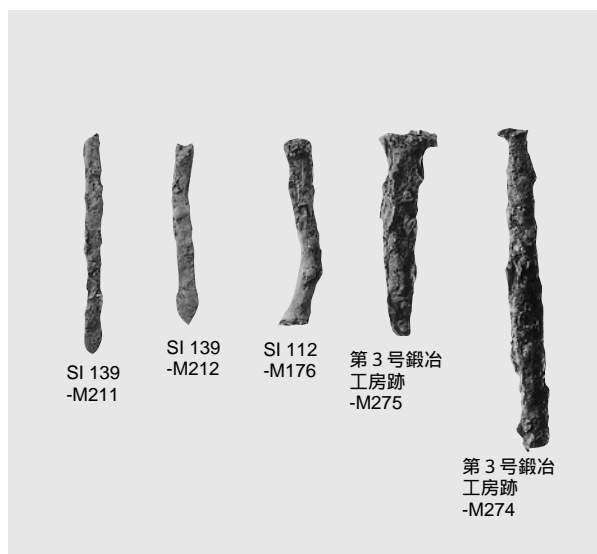
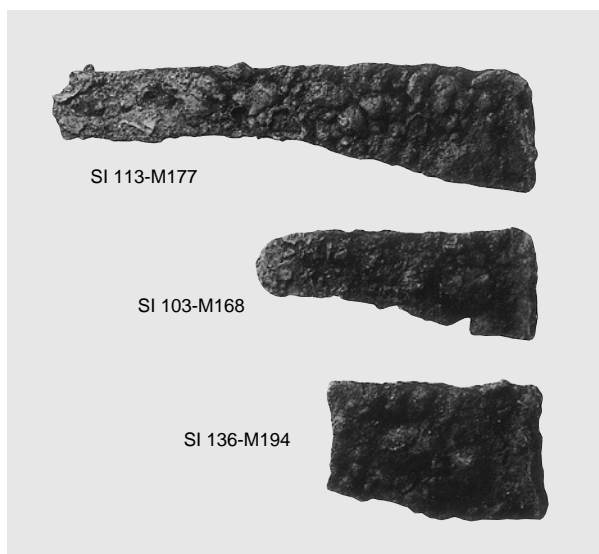
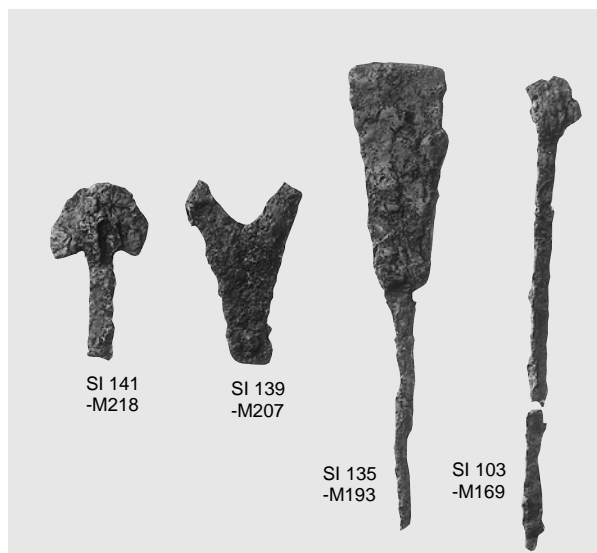
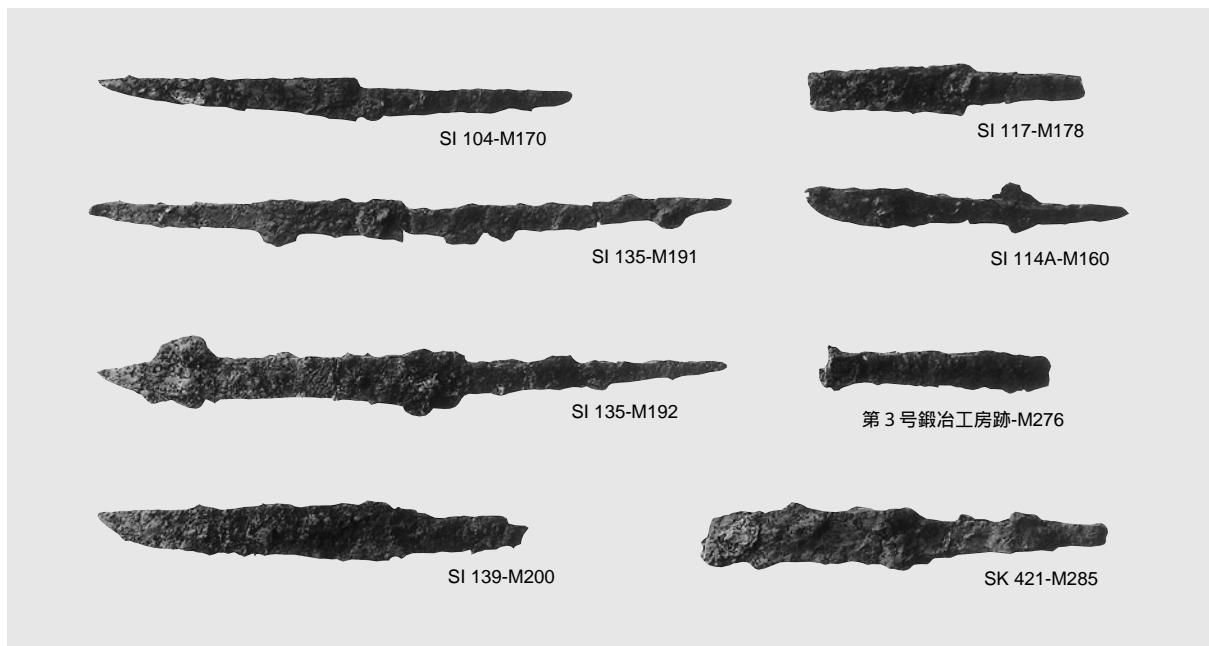


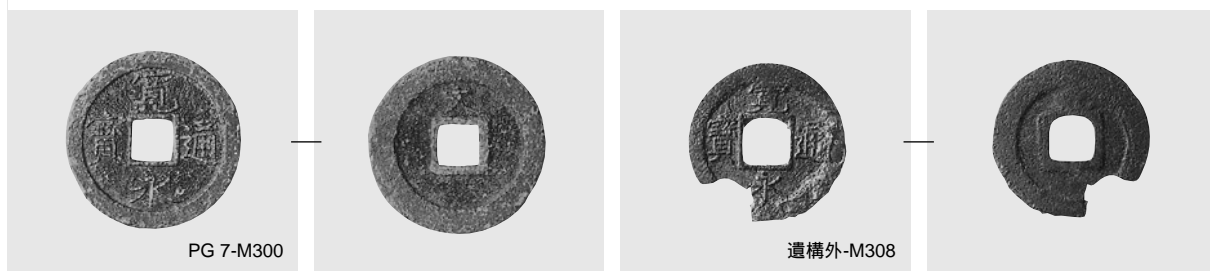




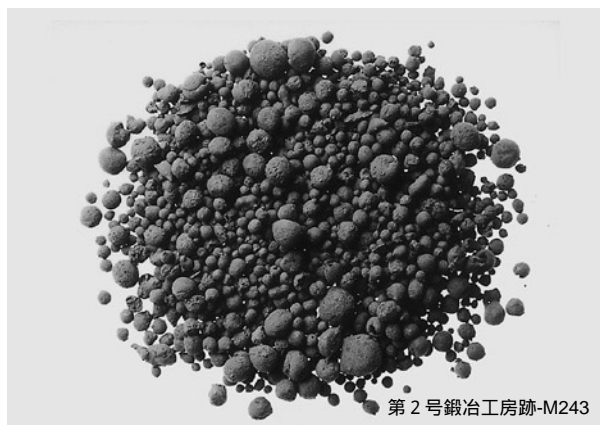


出土石器・石製品





出土金属製品 ( 2 )



出土鉄滓類

茨城県教育財団文化財調査報告第283集

## 島名八幡前遺跡

都市計画道路島名上河原崎線道路整備  
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成19(2007)年3月19日 印刷  
平成19(2007)年3月23日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587

印刷 (有)平電子印刷所  
〒970-8024 いわき市平北白土字西ノ内13  
TEL 0246-23-9051